

馳上遺跡

第2～4・6次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第225集



第一分冊 本文編

2017

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター



は せ が み

馳上遺跡

第2～4・6次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第225集

第一分冊 本文編

平成29年

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター





馳上遺跡第2次調査 6・7区全景（北から）



馳上遺跡第3次調査 14区全景（中央奥 西谷地b遺跡）（南から）



8世紀初頭の竪穴建物 ST4000 出土土器 (一部)



馳上遺跡出土の文房具と墨書土器 (一部)



- | | | | | | |
|------|-----------|-------------|------|----------|-----------|
| 910 | 朱墨痕の残る転用硯 | 河川 SG3681 | 912 | 馬字硯 | 河川 SG3681 |
| 909 | 沈線を施す転用硯 | 河川 SG3681 | 667 | 墨定内流硯 | 河川 SG3320 |
| 911 | 転用硯 (有台皿) | 河川 SG3681 | 1287 | 墨定内流硯 | 遺構内 |
| 109 | 転用硯 (有台皿) | 竪穴建物 ST5665 | 990 | 碓石転用印 | 河川 SG3681 |
| 418 | 転用硯 (有台皿) | 土坑 SK3589 | 907 | 墨道 | 河川 SG3681 |
| 908 | 転用硯 (坪蓋) | 河川 SG3681 | 757 | 「卒」墨書土器 | 河川 SG3681 |
| 1036 | 転用硯 (坪蓋) | 河川 SG3801 | 733 | 「王」墨書土器 | 河川 SG3681 |
| 88 | 転用硯 (坪蓋) | 竪穴建物 ST5638 | 512 | 「大門」墨書土器 | 河川 SG3231 |

序

本書は、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成24年4月1日財団法人から移行）が発掘調査を実施した、馳上遺跡の調査成果をまとめたものです。

馳上遺跡は、山形県南部、置賜地方に位置する米沢市にあります。市内には670か所を超える埋蔵文化財包蔵地が登録され、縄文時代から江戸時代にわたる各時代に地域の中心となるような遺跡が存在します。中世には長井氏・伊達氏の本拠として、江戸時代は上杉氏の城下町として栄え、現在も伝統を受け継ぎ、文化財を活用した整備が進められています。また、山形新幹線や高速道路の整備に伴い、県南の中核都市として重要な役割を果たしています。

この度、東北中央自動車道（米沢～米沢北間）改築事業に伴い、事前に工事予定地内に包蔵される、馳上遺跡の発掘調査を実施しました。調査では、蛇行する河川跡沿いに奈良・平安時代の竪穴建物53棟・掘立柱建物12棟をはじめとする様々な遺構が確認されました。出土遺物には、「奉」字を省略した「本」など多様な文字を記した墨書土器や仏鉢・水瓶・小型壺といった仏具類も多く含まれ、当時の人々の信仰を窺うことができます。また古代の文書行政を象徴する円面硯・風字硯や、有力者が権威の象徴として所持したと考えられる私印なども見つかり、多大な成果を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先のつくり上げた歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の普及啓発や、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、当遺跡を調査するに際し御支援、御協力いただいた関係者の皆様へ心から感謝申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 廣瀬 渉

凡 例

- 1 本書は、東北中央自動車道(米沢～米沢北間)改築事業に係る「馳上遺跡」の第2～4・6次発掘調査報告書である。本書の構成は、第一分冊「本文編」と第二分冊「遺物観察表・写真図版編」からなる。
- 2 既刊の年報、速報会資料、調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の委託により、公益財団法人山形県埋蔵文化財センター(平成24年4月1日に財団法人から移行)が実施した。
- 4 本書の執筆は、草野潤平が担当し、三浦秋夫、黒坂雅人、伊藤邦弘、須賀井新人が監修した。
- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系(世界測地系)により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

SB…掘立柱建物	SD…溝・畝	SG…河川・小水路・窪地	SK…土坑	SL…焼土遺構
SP…柱穴・ピット	ST…竪穴建物	SX…性格不明遺構	EL…カマド・炉	
- 7 遺構・遺物実測図の縮尺・網点の用法は各図に示した。
- 8 遺物実測図の断面黒塗りは須恵器を表す。また断面実測図の場合の拓影は、断面図の左側に内面、右側に外面を配置した。
- 9 基本層序および遺構覆土の色調記載については、1998年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

調査要項

遺跡名	馳上遺跡
遺跡番号	202 - 560
所在地	山形県米沢市大字川井字元立・道下
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成21～23年度） 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成24～28年度）
受託期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日（第2次調査） 平成22年4月1日～平成23年3月31日（第3次調査） 平成24年4月6日～平成25年3月29日（第4次調査） 平成25年4月1日～平成26年3月31日（第6次調査） 平成26年4月1日～平成27年3月31日 平成27年4月9日～平成28年3月31日 平成28年4月1日～平成29年3月31日
現地調査	平成21年5月12日～11月20日（第2次調査） 平成22年5月14日～11月30日（第3次調査） 平成24年5月30日～11月16日（第4次調査） 平成25年10月10日～11月29日（第6次調査）
調査担当者	平成21年度 調査課長 阿部明彦 課長補佐 伊藤邦弘 専門調査研究員 須賀井新人（調査主任） 調査研究員 三浦勝美 調査員 濱田純 調査員 吉田満 平成22年度 調査課長 阿部明彦 課長補佐 伊藤邦弘 専門調査研究員 須賀井新人（調査主任） 調査研究員 菊池玄輝 調査員 五十嵐萌 調査員 岩崎恒平 調査員 山木巧 平成24年度 調査課長 齊藤敏行 考古主幹 伊藤邦弘 調査研究員 草野潤平（調査主任） 調査員 山木巧 調査員 佐藤智幸 平成25年度 調査課長 齊藤敏行

		考古主幹	伊藤邦弘			
		調査研究員	草野潤平 (調査主任)			
		調査研究員	高橋英路			
平成 26 年度		整理課長	伊藤邦弘			
		調査研究員	草野潤平 (整理主任)			
		調査員	五十嵐萌			
平成 27 年度		整理課長	伊藤邦弘			
		主任調査研究員	草野潤平 (整理主任)			
		調査員	五十嵐萌			
平成 28 年度		業務課長	伊藤邦弘			
		主任調査研究員	草野潤平 (整理主任)			
		調査員	五十嵐萌			
調査指導	山形県教育庁文化財保護推進課 (平成 21 ~ 24 年度)					
	山形県教育庁文化財・生涯学習課 (平成 25 ~ 28 年度)					
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所					
	米沢市教育委員会					
	山形県置賜教育事務所					
業務委託	基準点測量業務	新和設計株式会社 (平成 21・22 年度)				
		株式会社ジェックス (平成 24 年度)				
		株式会社大洋測量設計社 (平成 25 年度)				
	空中写真測量及び図化業務	株式会社ケンコン (平成 21 年度)				
	空中写真測量業務	株式会社ケンコン (平成 22 年度)				
	遺構測量業務	株式会社ケンコン (平成 24 年度)				
	遺構測量業務	株式会社シン技術コンサル (平成 25 年度)				
	遺構測量 (図化) 業務	株式会社ケンコン (平成 27 年度)				
	金属製品保存処理業務	株式会社吉田生物研究所 (平成 24 年度)				
	理化学分析業務	バリノ・サーヴェイ株式会社 (平成 24 年度)				
		株式会社バレオ・ラボ (平成 25・27 年度)				
発掘作業員	青木雅一	安達和広	嵐田久雄	石川正一	石黒明	伊藤利信
	岩崎道雄	江袋吉男	大泉作二	大平晶一	大橋勝男	岡野浩康
	尾形貞一	小形昇	加藤和明	加藤由美	川井富助	君島七郎
	小久出三	小関隆信	齋藤功	齋藤ち系こ	齋藤富男	寒河江美代子
	坂野健二	佐藤邦三	佐藤孝一	佐藤幸吉	佐藤幸吉	佐藤秀造
	佐藤忠明	佐藤常子	佐藤利作	島津光孝	須貝純一	鈴木茂
	鈴木誠吉	鈴木清三	鈴木藤一郎	鈴木智之	鈴木ひろ美	須藤英治
	高橋康之	高橋洋三	千田昭雄	土屋美智男	中野光夫	中山正秋
	芳賀尚美	長谷川力	長谷川洋	長谷部建	樋口豊	平吹孝二
	古田敬一郎	松浦薫	松沢敬一	丸山福彦	三浦弘	谷中拓也
	山岸扶三雄	山口美代子	横山廣行	我妻清治	渡部昭男	渡部惇
	渡部重信	渡部昭二	渡部信子			(五十音順)

整理事業員	青木昭一	安達久恵	安孫子道子	池野仁	伊藤さくら	稲毛愛
	稲村美子	井上眞理	岩瀬順子	岩見茜	江口好弘	遠藤和彦
	遠藤寛	大野英子	小川莉緒	鏡幸枝	粕川令人	加藤朱律
	加藤道雄	加藤慶剛	関東美由樹	車塚千賀子	小林美喜	齋藤佳奈
	佐竹敬次	佐藤加奈子	佐藤美恵子	柴田敏夫	庄司佳子	白田光芳
	菅井ひろみ	住岡奈緒美	清野徳子	高木孝純	武田美和	田中くみ子
	田村明美	富樫愛	鳥羽絵美	中嶋美恵子	長谷川公一	林真世
	半田清	深瀬美智子	松田雨明	三浦豊	三原朋子	向田香織
	山口敦子	吉田一東				(五十音順)

目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経緯	1
2 発掘調査の方法と経過	2
3 整理作業の方法と経過	5
II 遺跡の位置と環境	
1 地理的環境	6
2 歴史的環境	6
III 調査の成果	
1 遺跡の概要	14
2 遺構	16
3 遺物	38
IV 理化学分析	
1 第4次調査の出土骨同定	53
2 銭貨出土地点の膜状物質	54
3 土坑内に認められた白色物質	56
4 土坑出土の漆膜片分析	59
5 塗膜片の放射性炭素年代測定	61
6 放射性炭素年代測定	63
7 木材の樹種同定	77
8 大型植物遺体同定	82
9 第3次調査の出土骨同定	86
10 石製模造品の石材同定	87
V 総括	89
1 遺構の変遷	89
2 出土遺物の特色	94
3 古代集落としての遺跡の評価	100
引用・参考文献	100
遺構実測図	101
遺物実測図	272
報告書抄録	巻末
遺構全体図(4枚)	付図

表

表1 遺跡地名表	10	表3 生漆の赤外吸収位置とその強度	60
表2 漆同定・赤外分光分析を行った試料	59	表4 測定試料および処理	62

表5 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	62	表11 馳上遺跡第2次調査で出土した大型植物遺体(1)	82
表6 コラーゲンの収率と炭素窒素比	64	表12 馳上遺跡第2次調査で出土した大型植物遺体(2)	82
表7 測定試料および処理(1)・(2)	64	表13 オニグルミ核の大きさ	84
表8 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果(1)～(3)	68	表14 モモ核の大きさ	84
表9 馳上遺跡第2・3次調査出土木材の樹種同定結果	77	表15 馳上遺跡第3次調査で出土した哺乳類遺体	86
表10 馳上遺跡第2・3次調査出土木材の樹種同定結果一覧	77	表16 石材同定を行った石製品	87

図 版

第1図 調査区概要図	3	第31図 9世紀前半の遺構分布と竪穴建物集成	92
第2図 馳上遺跡周辺の地形分類図	7	第32図 9世紀後半の遺構分布と竪穴建物集成	93
第3図 遺跡位置図	9	第33図 墨書・刻書土器出土分布と「奉」系の墨書・刻書および記号墨書	95
第4図 基本層序の主層断面図と模式柱状図	15	第34図 馳上遺跡出土の墨書土器文字集成	96
第5図 馳上遺跡第4次調査の出土骨	53	第35図 馳上遺跡出土の特異的な土器	98
第6図 SK7037 検出状況	54	第36図 馳上遺跡出土の文房具・灯明器・特殊容器	99
第7図 銭貨・膜状物質出土状況	54		
第8図 試料番号3(19区SK7037)膜状物質のFT-IRスペクトル	55	遺構実測図	
第9図 土壌中の白色物質の産状	56	第37図 遺構平面図の割付	101
第10図 白色物質の特徴	57	第38図 遺構平面図1	102
第11図 試料番号4(21区SK7720北側3層の白色物質)のX線回折チャート	57	第39図 遺構平面図2	103
第12図 塗膜片の写真	59	第40図 遺構平面図3	104
第13図 塗膜片の赤外線吸収スペクトル図	60	第41図 遺構平面図4	105
第14図 試料の暦年校正結果	62	第42図 遺構平面図5	106
第15図 暦年校正結果(1)	70	第43図 遺構平面図6	107
第16図 暦年校正結果(2)	71	第44図 遺構平面図7	108
第17図 暦年校正結果(3)	72	第45図 遺構平面図8	109
第18図 暦年校正結果(4)	73	第46図 遺構平面図9	110
第19図 暦年校正結果(5)	74	第47図 遺構平面図10	111
第20図 暦年校正結果(6)	75	第48図 遺構平面図11	112
第21図 マルチプロット図(1)	75	第49図 遺構平面図12	113
第22図 マルチプロット図(2)	76	第50図 遺構平面図13	114
第23図 マルチプロット図(3)	76	第51図 遺構平面図14	115
第24図 馳上遺跡第2・3次調査出土木材の光学・走査型電子顕微鏡写真(1)	80	第52図 遺構平面図15	116
第25図 馳上遺跡第2・3次調査出土木材の光学・走査型電子顕微鏡写真(2)	81	第53図 遺構平面図16	117
第26図 馳上遺跡第2次調査で出土した大型植物遺体	85	第54図 遺構平面図17	118
第27図 馳上遺跡第3次調査で出土した哺乳類骨	86	第55図 遺構平面図18	119
第28図 石製模造品と実体顕微鏡写真	88	第56図 遺構平面図19	120
第29図 8世紀前半以前の遺構分布と竪穴建物集成	90	第57図 遺構平面図20	121
第30図 8世紀後半の遺構分布と竪穴建物集成	91	第58図 遺構平面図21	122
		第59図 遺構平面図22	123
		第60図 遺構平面図23	124
		第61図 遺構平面図24	125

第 62 回	竪穴建物 ST3003	126	第 100 回	竪穴建物 ST6071	164
第 63 回	竪穴建物 ST3006	127	第 101 回	竪穴建物 ST6073	165
第 64 回	竪穴建物 ST3006 土層注記と付風道横断面図	128	第 102 回	竪穴建物 ST6074	166
第 65 回	竪穴建物 ST3211・3215	129	第 103 回	竪穴建物 ST6074 付風道横断面図	167
第 66 回	竪穴建物 ST3247、孤立柱建物 SB3294、焼土遺構 SL3262	130	第 104 回	竪穴建物 ST6084、孤立柱建物 SB6403、性格不明遺構 SX6188	168
第 67 回	竪穴建物 ST3247、孤立柱建物 SB3294、焼土遺構 SL3262 断面図	131	第 105 回	竪穴建物 ST6084、孤立柱建物 SB6403 断面図	169
第 68 回	竪穴建物 ST3305	132	第 106 回	竪穴建物 ST6096、溝 SD6093・6164、土坑 SK6190	170
第 69 回	竪穴建物 ST3315	133	第 107 回	竪穴建物 ST6096 断面図	171
第 70 回	竪穴建物 ST3482	134	第 108 回	溝 SD6093・6164、土坑 SK6190 断面図	172
第 71 回	竪穴建物 ST3482	135	第 109 回	竪穴建物 ST6222、土坑 SK6220・6221	173
第 72 回	竪穴建物 ST3727・3728	136	第 110 回	竪穴建物 ST6222 付風道横、土坑 SK6220・6221 断面図	174
第 73 回	竪穴建物 ST3727・3728 断面図	137	第 111 回	竪穴建物 ST6223・6224	175
第 74 回	竪穴建物 ST3774	138	第 112 回	竪穴建物 ST6223・6224 断面図	176
第 75 回	竪穴建物 ST3776	139	第 113 回	竪穴建物 ST6223・6224 付風道横断面図	177
第 76 回	竪穴建物 ST3805	140	第 114 回	竪穴建物 ST6225	178
第 77 回	竪穴建物 ST3987	141	第 115 回	竪穴建物 ST6226	179
第 78 回	竪穴建物 ST4000、性格不明遺構 SX4002	142	第 116 回	竪穴建物 ST6226 付風道横断面図	180
第 79 回	竪穴建物 ST4000、性格不明遺構 SX4002 土層注記と遺物出土状況	143	第 117 回	竪穴建物 ST6228、土坑 SK6375	181
第 80 回	竪穴建物 ST4003	144	第 118 回	竪穴建物 ST6228 付風道横断面図	182
第 81 回	竪穴建物 ST4010	145	第 119 回	竪穴建物 ST6229	183
第 82 回	竪穴建物 ST4143	146	第 120 回	竪穴建物 ST6230、区画溝 SD6240	184
第 83 回	竪穴建物 ST4143 の付風道横断面図	147	第 121 回	竪穴建物 ST6231	185
第 84 回	竪穴建物 ST4171	148	第 122 回	竪穴建物 ST6231 断面図	186
第 85 回	竪穴建物 ST5126、性格不明遺構 SX5125・5127・5128	149	第 123 回	竪穴建物 ST6233・6234	187
第 86 回	竪穴建物 ST5126、性格不明遺構 SX5125・5127・5128 断面図	150	第 124 回	竪穴建物 ST6233・6234 断面図	188
第 87 回	竪穴建物 ST5350	151	第 125 回	竪穴建物 ST6235	189
第 88 回	竪穴建物 ST5351	152	第 126 回	竪穴建物 ST6239	190
第 89 回	竪穴建物 ST5351 断面図	153	第 127 回	竪穴建物 ST6243～6245	191
第 90 回	竪穴建物 ST5487	154	第 128 回	竪穴建物 ST6243～6245 断面図	192
第 91 回	竪穴建物 ST5492	155	第 129 回	竪穴建物 ST6243～6245 土層注記	193
第 92 回	竪穴建物 ST5631	156	第 130 回	竪穴建物 ST7000	194
第 93 回	竪穴建物 ST5638	157	第 131 回	竪穴建物 ST7000 土層注記	195
第 94 回	竪穴建物 ST5665	158	第 132 回	竪穴建物 ST7000 付風道横断面図	196
第 95 回	竪穴建物 ST5665 遺物出土状況	159	第 133 回	竪穴建物 ST8007・8014	197
第 96 回	竪穴建物 ST5665 断面図	160	第 134 回	竪穴建物 ST8007・8014 断面図	198
第 97 回	竪穴建物 ST5665 付風道横断面図 (1)	161	第 135 回	孤立柱建物 SB3647・4334、土坑 SK3169・3183、性格不明遺構 SX3185	199
第 98 回	竪穴建物 ST5665 付風道横断面図 (2)	162	第 136 回	孤立柱建物 SB3647・4334 断面図	200
第 99 回	竪穴建物 ST6065	163	第 137 回	孤立柱建物 SB4334 土層注記	201
			第 138 回	孤立柱建物 SB4332	202

第139回	掘立柱建物 SB4332 断面図	203	第174回	土坑 SK7039・7058・7121・7133・7207、溝 SD7001	238
第140回	掘立柱建物 SB4333	204	第175回	土坑 SK7271・7317・7336・7717・7720、溝 SD7318、柱穴 SP7716・7725・7726・7730	239
第141回	掘立柱建物 SB4333 断面図	205	第176回	土坑 SK7515・7857・7858、河川 SG7859	240
第142回	掘立柱建物 SB4335	206	第177回	土坑 SK8003～8005、河川 SG8002	241
第143回	掘立柱建物 SB4335 断面図	207	第178回	土坑 SK8006・8008・8009・8012・8017、柱穴 SP8010	242
第144回	掘立柱建物 SB4335 土層注記	208	第179回	溝・河川のセクションポイント配置図1	243
第145回	掘立柱建物 SB6401	209	第180回	溝・河川のセクションポイント配置図2	244
第146回	掘立柱建物 SB6401 断面図	210	第181回	溝・河川のセクションポイント配置図3	245
第147回	掘立柱建物 SB6402	211	第182回	溝 SD3241・3244・3346・5644、土坑 SK5645、柱穴 SP3245	246
第148回	掘立柱建物 SB6402 断面図	212	第183回	区画溝 SD6240	247
第149回	掘立柱建物 SB7870	213	第184回	円形溝 SD4138・6350	248
第150回	掘立柱建物 SB7870 土層注記	214	第185回	方形溝 SD7001	249
第151回	掘立柱建物 SB7871	215	第186回	方形溝 SD7001、土坑 SK7032	250
第152回	掘立柱建物 SB7871 断面図(1)	216	第187回	溝 SD7002～7004、土坑 SK7048・7147、小水路 SG7041	251
第153回	掘立柱建物 SB7871 断面図(2)	217	第188回	溝 SD7005・7200・7331・7373・7374・7394	252
第154回	掘立柱建物 SB7887 と関連遺構	218	第189回	溝 SD7394・7455・7457・7458・7475、土坑 SK7392・7393、柱穴 SP7505・7507	253
第155回	掘立柱建物 SB7887 断面図、焼土遺構 SL3167・3642	219	第190回	溝 SD7655・7660・7767・7820・8002、河川 SG7657、土坑 SK7768、柱穴 SP7769	254
第156回	土坑 SK3011・3012・3025・3035・3064・3065	220	第191回	河川 SG3231・3278	255
第157回	土坑 SK3069・3070・3075・3076・3138・3140	221	第192回	河川 SG3278	256
第158回	土坑 SK3141～3146	222	第193回	河川 SG3320	257
第159回	土坑 SK3147・3164・3165・3182・3237	223	第194回	河川 SG3681	258
第160回	土坑 SK3242・3243・3258・3259・3267・3268	224	第195回	河川 SG3773・3801、区画溝 SD6240	259
第161回	土坑 SK3269・3303・3324・3357・3391、柱穴 SP3304	225	第196回	河川 SG3801	260
第162回	土坑 SK3493・3498・3499	226	第197回	窪地 SG7006、小水路 SG7041・7116、溝 SD7331、性格不明遺構 SX7105・7107	261
第163回	土坑 SK3501・3502・3514・3587	227	第198回	小水路 SG7116・7117・7652～7654、土坑 SK7312	262
第164回	土坑 SK3568・3569・3589	228	第199回	河川 SG8001、竪穴建物 ST8007	263
第165回	土坑 SK3617・3648・3649、ビット SP3778	229	第200回	性格不明遺構 SX3080・3335	264
第166回	土坑 SK3656・3777・5021・5027・5028・5094、柱穴 SP5029	230	第201回	性格不明遺構 SX3170・3181、土坑 SK3166	265
第167回	土坑 SK5099・5114・5141・5144・5145、柱穴 SP5110・5115	231	第202回	性格不明遺構 SX3756	266
第168回	土坑 SK5280・5312・5314・5637、ビット SP5313	232	第203回	性格不明遺構 SX4008・4009	267
第169回	土坑 SK5663・5664・5744・6052	233	第204回	性格不明遺構 SX6335、土坑 SK6333・6334	268
第170回	土坑 SK6232・6246・6273	234	第205回	性格不明遺構 SX7487・7674、柱穴 SP7866	269
第171回	土坑 SK6279・6336・6337・6348	235	第206回	性格不明遺構 SX7502	270
第172回	土坑 SK7008・7015・7017・7019・7021	236			
第173回	土坑 SK7034～7038	237			

第 207 図	性格不明遺構 SK7710・7869、柱穴 SP7865 ……271	第 234 図	竪穴建物 ST6231 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……298
	遺物実測図		
第 208 図	竪穴建物 ST3006・3215・3247 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石製品 ……272	第 235 図	竪穴建物 ST6233・6234 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……299
第 209 図	竪穴建物 ST3482・3727 出土の須恵器・土師器 ……273	第 236 図	竪穴建物 ST6234 出土の土師器・石製品・石器・鉄製品 ……300
第 210 図	竪穴建物 ST3774・3776・3805・3987 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石器 ……274	第 237 図	竪穴建物 ST6235・6239 出土の須恵器・土師器 ……301
第 211 図	竪穴建物 ST4000 出土の黒色土器・土師器 ……275	第 238 図	竪穴建物 ST6243 出土の須恵器 ……302
第 212 図	竪穴建物 ST4000 出土の土師器 ……276	第 239 図	竪穴建物 ST6243～6245 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……303
第 213 図	竪穴建物 ST4003・4010・4143・5126 出土の須恵器・黒色土器・土師器・土製品 ……277	第 240 図	竪穴建物 ST7000 出土の黒色土器・土師器 ……304
第 214 図	竪穴建物 ST5350・5351 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……278	第 241 図	竪穴建物 ST8014 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……305
第 215 図	竪穴建物 ST5487・5492 出土の須恵器・黒色土器・土師器・土製品 ……279	第 242 図	掘立柱建物 SB4332・4333・4335・6401・6403 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……306
第 216 図	竪穴建物 ST5631・5638 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……280	第 243 図	ピット出土の須恵器・黒色土器・土師器・土製品 ……307
第 217 図	竪穴建物 ST5665 出土の須恵器 (1) ……281	第 244 図	埴土遺構 SL3167 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……308
第 218 図	竪穴建物 ST5665 出土の須恵器 (2) ……282	第 245 図	埴土遺構 SL3167・3262・3642 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……309
第 219 図	竪穴建物 ST5665 出土の黒色土器・土師器 ……283	第 246 図	土坑 SK3065・3142・3145・3183 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石製模造品 ……310
第 220 図	竪穴建物 ST5665 出土の土師器 ……284	第 247 図	土坑 SK3212・3357・3528・3531・3555・3568・3579・3587 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……311
第 221 図	竪穴建物 ST5665 出土の土師器・石製品・石器・鉄製品 ……285	第 248 図	土坑 SK3580・3631 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……312
第 222 図	竪穴建物 ST6065 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……286	第 249 図	土坑 SK3656・3777・5280 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石製品 ……313
第 223 図	竪穴建物 ST6071・6073・6074 出土の須恵器・土師器・石製品 ……287	第 250 図	土坑 SK5363・5637・5667 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……314
第 224 図	竪穴建物 ST6074・6084 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石製品 ……288	第 251 図	土坑 SK5744・5805・6221・6232 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……315
第 225 図	竪穴建物 ST6084 出土の土師器・土製品 ……289	第 252 図	土坑 SK6241・6279・6333・6367・6375 出土の黒色土器・土師器 ……316
第 226 図	竪穴建物 ST6096・6222 出土の須恵器・土師器・石器 ……290	第 253 図	土坑 SK6367・7037・7039・7857・8005・8016 出土の須恵器・土師器・鉄貨・鉄製品 ……317
第 227 図	竪穴建物 ST6222 出土の土師器 ……291	第 254 図	溝出土の土器・土製品・鉄製品 ……318
第 228 図	竪穴建物 ST6223・6224 出土の須恵器・黒色土器・土師器・鉄製品 ……292	第 255 図	河川 SG3231 出土の須恵器 ……319
第 229 図	竪穴建物 ST6224 出土の黒色土器・土師器 ……293	第 256 図	河川 SG3231 出土の須恵器・黒色土器 ……320
第 230 図	竪穴建物 ST6224～6226 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……294	第 257 図	河川 SG3231 出土の黒色土器・土師器 ……321
第 231 図	竪穴建物 ST6228 出土の須恵器・土師器 ……295	第 258 図	河川 SG3278 出土の須恵器 ……322
第 232 図	竪穴建物 ST6228 出土の土師器・土製品・鉄製品 ……296	第 259 図	河川 SG3278 出土の黒色土器・土師器・土製品 ……323
第 233 図	竪穴建物 ST6229・6230 出土の須恵器・黒色土器・土師器 ……297		

	木製品……………	323	第296回	河川SG3801出土の墨書土器(須恵器)……………	360
第260回	河川SG3320出土の墨書土器(須恵器)……………	324	第297回	河川SG3801出土の墨書土器(須恵器・黒色土器)……………	361
第261回	河川SG3320出土の剣着・墨書土器(黒色土器・土師器)……………	325	第298回	河川SG3801出土の墨書土器(黒色土器・土師器)……………	362
第262回	河川SG3320出土の須恵器(1)……………	326	第299回	河川SG3801出土の須恵器(1)……………	363
第263回	河川SG3320出土の須恵器(2)……………	327	第300回	河川SG3801出土の須恵器(2)……………	364
第264回	河川SG3320出土の須恵器(3)……………	328	第301回	河川SG3801出土の須恵器(3)……………	365
第265回	河川SG3320出土の須恵器(4)……………	329	第302回	河川SG3801出土の須恵器(4)……………	366
第266回	河川SG3320出土の須恵器(5)……………	330	第303回	河川SG3801出土の須恵器(5)……………	367
第267回	河川SG3320出土の須恵器(6)……………	331	第304回	河川SG3801出土の須恵器(6)……………	368
第268回	河川SG3320出土の須恵器(7)……………	332	第305回	河川SG3801出土の須恵器(7)……………	369
第269回	河川SG3320出土の須恵器(8)……………	333	第306回	河川SG3801出土の須恵器(8)……………	370
第270回	河川SG3320出土の黒色土器……………	334	第307回	河川SG3801出土の須恵器(9)……………	371
第271回	河川SG3320出土の黒色土器・土師器……………	335	第308回	河川SG3801出土の須恵器(10)……………	372
第272回	河川SG3320出土の土師器……………	336	第309回	河川SG3801出土の黒色土器(1)……………	373
第273回	河川SG3681出土の墨書土器(須恵器)(1)……………	337	第310回	河川SG3801出土の黒色土器(2)……………	374
第274回	河川SG3681出土の墨書土器(須恵器)(2)……………	338	第311回	河川SG3801出土の黒色土器(3)……………	375
第275回	河川SG3681出土の墨書土器(須恵器)(3)……………	339	第312回	河川SG3801出土の土師器(1)……………	376
第276回	河川SG3681出土の墨書土器(須恵器・黒色土器)……………	340	第313回	河川SG3801出土の土師器(2)……………	377
第277回	河川SG3681出土の墨書土器(黒色土器・土師器)……………	341	第314回	河川SG3801出土の土師器・土製品・石製品……………	378
第278回	河川SG3681出土の須恵器(1)……………	342	第315回	窪地SG5816出土の須恵器・陶磁器・木製品・石製品・青銅製品……………	379
第279回	河川SG3681出土の須恵器(2)……………	343	第316回	窪地SG7006、河川SG8001、小流路SG8018出土の須恵器・土師器・陶器・石器・鉄滓……………	380
第280回	河川SG3681出土の須恵器(3)……………	344	第317回	性格不明遺構SX3056・3080・3170出土の須恵器・黒色土器・土師器……………	381
第281回	河川SG3681出土の須恵器(4)……………	345	第318回	性格不明遺構SX3181出土の須恵器・黒色土器・土師器・土製品……………	382
第282回	河川SG3681出土の須恵器(5)……………	346	第319回	性格不明遺構SX3756・4002出土の黒色土器・土師器……………	383
第283回	河川SG3681出土の須恵器(6)……………	347	第320回	性格不明遺構SX4008出土の土師器……………	384
第284回	河川SG3681出土の須恵器(7)……………	348	第321回	性格不明遺構SX4008・5125・5127・6188出土の須恵器・黒色土器・土師器……………	385
第285回	河川SG3681出土の須恵器(8)……………	349	第322回	遺構外出土の墨書土器・須恵器……………	386
第286回	河川SG3681出土の須恵器(9)……………	350	第323回	遺構外出土の須恵器……………	387
第287回	河川SG3681出土の須恵器(10)……………	351	第324回	遺構外出土の須恵器・黒色土器・土師器……………	388
第288回	河川SG3681出土の須恵器(11)……………	352	第325回	遺構外出土の土師器……………	389
第289回	河川SG3681出土の須恵器(12)……………	353	第326回	遺構外出土の土師器・土師質土器・陶磁器・石器・石製模造品・銭貨……………	390
第290回	河川SG3681出土の須恵器(13)……………	354			
第291回	河川SG3681出土の黒色土器(1)……………	355			
第292回	河川SG3681出土の黒色土器(2)……………	356			
第293回	河川SG3681出土の黒色土器(3)……………	357			
第294回	河川SG3681出土の土師器……………	358			
第295回	河川SG3681出土の土師器・土製品・石製品……………	359			

写真図版

巻頭写真1 第2次調査6・7区全景、第3次調査14区全景 巻頭写真2 壱穴建物ST4000出土土器、文具と墨書土器

I 調査の経緯

1 調査に至る経緯

東北中央自動車道は、福島県相馬市を起点とし、山形県内陸部を經由して秋田県横手市に至る総延長268kmの高規格幹線道路（高速道路）である。福島・山形・秋田の3県の主要都市を結ぶとともに、常磐自動車道、東北自動車道、山形自動車道、秋田自動車道と接続することから、山形県内陸部と北東北・南東北の地域相互の高速道路網を形成し、災害や事故発生時といった緊急時における代替・迂回等のネットワーク機能の強化を担う目的から整備が進められている。

昭和62年、国土開発幹線自動車道の一路線として構想された後、区間ごとに基本計画から整備計画の決定を受けて着工されてきた。この間、馳上遺跡に係る福島～米沢間は、平成3年に基本計画の告示、平成8年に整備計画への格上げを経て事業着手されている。山形県内では現在のところ、同路線の山形上山IC～東根ICまでが高速自動車国道として平成14年に開通している他、米沢南陽道路（米沢北IC～南陽高島IC）、尾花沢新庄道路（尾花沢IC～新庄北IC）、主寝坂道路（金山IC～真室川IC）は、国道13号に並行する一般国道自動車専用道路として供用されている。

平成18年には遺跡に係る福島～米沢北間と、東根～尾花沢の区間は従来の有料道路方式から、高速道路株式会社による整備の補完措置として、国と都道府県が建設・管理費用を分担して行う新直轄方式に改められた。この区間は一般国道と同様に国土交通省東北地方整備局が建設・管理し、完成後は無料となるため、整備効果を上げやすいメリットがある。一定の採算性が見込まれる米沢北IC～東根IC間は、有料道路となることから東日本高速道路株式会社が、その他の区間は国土交通省が道路管理者である。

今回の事業区間である米沢IC～米沢北IC間には、北から西谷地a・西谷地b・馳上の3遺跡の存在が知られている。山形県教育委員会では国土交通省山形河川国道事務所の依頼を受けて、計画路線に係るこれら遺跡の規

模や遺存状況等を把握するための試掘調査を、平成21年3月に実施した。この結果、馳上遺跡では南北方向に計画された路線内のほぼ全域に亘って遺構・遺物が確認され（山形県教委2009）、土木工事等を実施する際は保存のための協議及び文化財保護法に基づく手続きが必要と判断された。これを受けた事業主体の国土交通省山形河川国道事務所では、遺跡の取り扱いについての協議を行い、着工前に記録保存のための発掘調査を実施することで調整が図られた。

馳上遺跡は従来、米沢遺跡地図（米沢市教委1998）に「馳上a遺跡」（遺跡番号353）・「馳上b遺跡」（同354）として2遺跡が登録されていた。この地に現在の主要地方道米沢高島線が計画されたのを契機とした平成10年度の試掘調査により、その範囲を補正し統合した上で「馳上遺跡」とする修正が行われた（山形県教委2000）。

平成12年度には、財団法人山形県埋蔵文化財センター（平成24年4月1日より公益財団法人に移行、以下「埋蔵文化財センター」と略す）が所属米沢高島線の予定地に係る12,000㎡を対象とした発掘調査（第1次調査）を実施しており、奈良・平安時代を主体とする大規模な集落跡や河川跡を確認し、堅穴建物や河川跡内を中心として160箱に及ぶ遺物が出土した（山形埋文2002）。

遺跡に係る今回の事業面積が23,200㎡に及び、事業工程との調整を図った結果、発掘調査は当初3ヵ年計画で遂行することとなった。平成21年度（第2次調査）は、道路建設において最も先行する県道及び市道を跨ぐボックスカルバート敷設範囲を対象とした11,750㎡について、翌平成22年度（第3次調査）はその両側に当たる範囲8,800㎡について実施した。最終の平成23年度に残り区域2,650㎡の調査を実施予定であったが、山形県では高速道路の有効活用を図る目的から、より市街地に近い主要地方道米沢高島線（県道1号線）との交差点に追加ICを計画し、県事業としてその建設に係る申請を国に提出した。追加ICの計画によっては事業範囲の変更も生じるため、中央道の本体工事及び発掘調

査とも一時凍結されることとなった。

平成24年4月に追加ICの連結許可が認められたのを受け、その事業範囲に係る発掘調査の依頼が新たに山形県から出された。したがって当年度は、高速道路本線に係る第4次調査と同時に追加ICに係る範囲の調査を実施し、後者の事業主体が山形県であることから、これを第5次調査として区別した。第5次調査成果については、隣接する西谷地も遺跡第3次調査成果と併せて発掘調査報告書を刊行している（山形県文2014）。

平成24年度の第4次調査において、2,650㎡のうち500㎡が未買収用地であったことから、この区域は翌平成25年度に第6次調査として着手した。

この間、埋蔵文化財センターでは事業主体である国土交通省山形河川国道事務所と調整を図り、年度ごとに調査に係る経費積算書を作成・提出して、「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約」を締結した。また、文化財保護法第92条に基づく「埋蔵文化財発掘調査の届出」の県教育委員会への提出等を経て、各次の発掘調査に当たっては、東日本高速道路株式会社山形工事事務所など関係機関と、調査期間や方法等の実施計画と現状での問題点等について協議している。

2 発掘調査の方法と経過

発掘調査の方法は、事業用地の確認、調査区の設定、バックホウによる表土除去、遺構検出のための面整理・精査と進め、遺構プランの検出後に平面図作製・遺構登録などの過程を踏んだ。座標値と番号を登録した遺構は、順次半截等の掘り下げを実施して断面精査を行い、実測図作製の諸記録を経た後に完掘した。完掘後の遺構平面図は業務委託により作製しており、ラジオコントロールヘリコプターを用いた空中写真撮影による遺構測量を実施している。平面図は1/40縮尺で図化した。遺構・建物等に関しては遺物出土地点を記録したため、手取りにより1/20縮尺で個別に図化した。調査の各段階で写真撮影を実施し、一連の調査工程を辿れるよう配慮した。

なお、第2次・第3次調査では調査区全域を3区画に分割して調査に当たり、第2次調査では残土置き場の関係から、1区画ごとに調査を終了させた後に埋め戻しを行い、次の区画へと進んだ。以下には発掘調査の経過について、年次ごとにその概要を記述する。

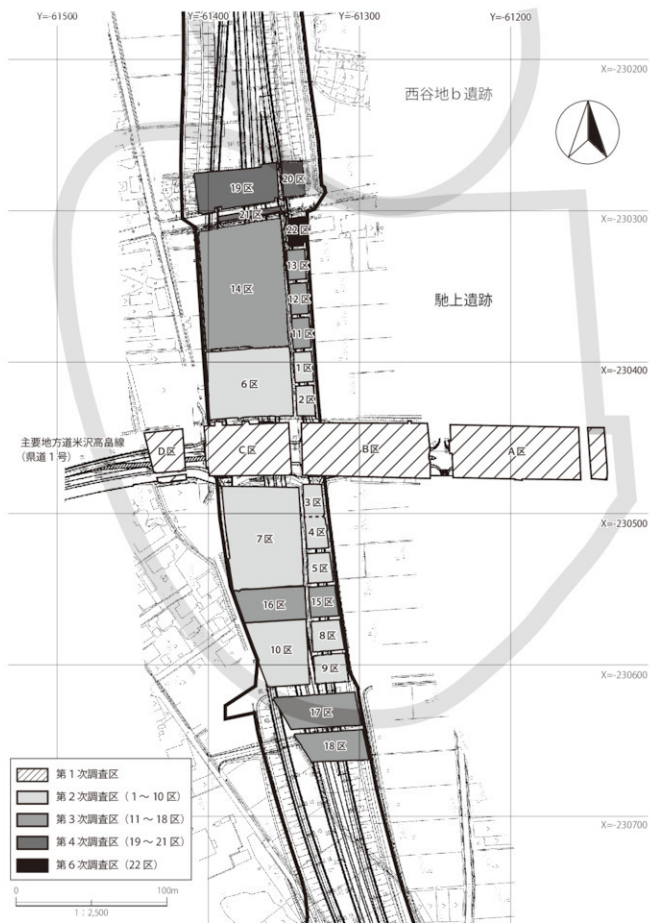
A 第2次調査

年度当初は面積9,000㎡を対象に、作業員1日平均30人体制で、平成21年5月12日から11月6日までの調査期間を計画していた。しかし、調査開始後に委託者より出された範囲の追加要請を受け、これに対応するため7月1日より調査員・作業員を増員した上で、現地調査を11月20日まで延長して対処した。変更後の面積が11,750㎡の調査区は、県道や農業用水路により10か所に分断されることから1～10区を設定し、これらを大きく3区画に分割して調査を行った（第1図）。

第1期では、事業区を南北に通る農業用水路の東側に位置する1～5区を扱った。県道を挟んで南北に分かれるため、表土除去はバックホウ2台を用いて、県道北側（1・2区）と南側（3～5区）を同時に進めた。基準点測量の一環でグリッド杭設置を委託して実施し、遺構検出作業を経て5月下旬より検出遺構の精査を1区から手がけた。6月下旬にこの区域の精査を終え、26日に空中写真撮影による遺構測量を実施した。各調査区間の仮設水路部分については、遺構密度や遺物出土状況等から判断して、3・4区間を水路付け替え工事後に調査することとした。第1期調査区域の埋め戻しを経て、7月1日より7区の表土除去を開始し、順に10区までを掘削した後、県道北側の6区へ移動した。

第2期は8～10区を対象に、表土除去と並行して面整理を行い、7月下旬から遺構の掘り下げを開始した。河川跡の占める面積がかなりの割合を占めたが、盆休みを挟んで8月末に完掘し得た。9月2日に空中写真撮影による遺構測量を実施、7～14日にかけてバックホウによる埋め戻しを行って終了した。

第3期は残る6・7区が対象である。広範な上に遺構・遺物の分布密度が高く、遺跡の中心域に当たる部分である。遺構検出後、9月8日に7区北西部より精査を開始し、10月からは6区の精査を並行させた。6区南西部は堅穴建物群をはじめとして遺存状態が良く、カマドや床面を慎重に精査した。10月中旬より、断面図等の諸記録を終えたり7区の遺構から完掘していった。終盤の10月31日に調査説明会を開催し、11月には主に河川跡の全面的な掘り下げに時間を割いた。3回目の空中写真撮影による遺構測量を17・18日に行い、20日に調査器材



第1図 調査区概要図

を撤収して現地調査を終了した。

B 第3次調査

現地調査は、平成22年5月14日から11月30日までの日程で実施した。対象面積は遺跡範囲の南・北両端域に係る8,800㎡である。調査区は昨年と同様、農業用水路により8箇所に区分けされるため、第2次調査から継続した区割りを行い、これを11～18区とした。このうち遺跡範囲北側の14区は、工事用道路との関連から東西二分して調査を行った。

調査区設定後、工事用道路として使用された14区西半を除く地区の表土除去を実施し、道路付け替えが必要なことから、11～13区と14区東半部の調査を先行した。8月下旬にこの区間の精査を終え、26・27日に空中写真撮影による遺構測量を実施した。

次いで遺跡南端部の17・18区、第2次調査時に残土置き場とした15・16区の順で精査を進めた。これと並行して11～13区を埋め戻した上で、14区西半に搬出した残土を移動させた。また、9月下旬に委託者側で工事用道路の付け替えを行い、10月初旬に供用された。これを受けて、同月5日から14区西半部の表土除去を行い、15・16区の精査と併せ、遺構検出に努めた。15～18区は10月中旬に空中写真撮影による遺構測量を経て終了した。

最後に着手した14区西半部は、これまでになく遺構の分布密度が高く、約1ヶ月半を残す調査期間内での終了が危ぶまれた。そのため、10月下旬より調査員・作業員とも増員して精査にあたった。この区域は、遺跡内でも高所で安定した地盤であることが判明し、堅穴建物群の多くはその遺存状態が良かったため、慎重に精査した。11月13日に調査説明会を開催し、最終盤の26日には3回目の空中写真撮影による遺構測量を実施した。深掘りした箇所の埋め戻しを行った上で、30日に委託者への現地引渡しを経て器材を撤収した。

C 第4次調査

現地調査は、平成24年5月30日から11月16日までの日程で行った。前述したとおり追加ICが認可されたことから、山形県からの委託により、その計画路線(3,068㎡)を馳上遺跡第5次・西谷地も遺跡第3次と

して並行して調査に当たった。本線部分の第4次調査の対象面積は14区の北側に係る2,150㎡であり、当該次調査の区割りを19～21区とした。

追加ICに係る範囲(第5次調査区)を先行させた関係で、第4次調査は6月27日からの実働65日となった。20区→19区の順で東側から精査を進め、この区域が最も面的な広がりを持つうえ遺構密度も濃い状況から、8月11日に調査説明会を開催した。同月下旬には空中写真撮影による遺構測量を経て現地を引き渡し、委託者においてこの区間に市道の付け替え道路を設置した。付け替え道路が供用されるに至り、10月15日から市道を撤去してこれに係る21区の調査を開始し、1ヵ月後の11月16日に第4・5次の調査を終了した。

D 第6次調査

現地調査は、用地内現物の解体撤去を待って、平成25年10月10日から11月29日までの日程で実施した。対象面積は13区の北側に位置する500㎡の小区画である。表土除去後の遺構検出段階では、調査区の大部分が河川跡で占められていた。10月下旬より柱穴等の遺構や河川跡の掘り下げを開始し、河川跡の堆積土を水平に掘り下げる過程で、堅穴建物や土坑の存在が明らかとなったことから、より慎重に精査を行った。

諸記録を繰り返しながら、終盤の11月27日に空中写真撮影による遺構測量を実施した。委託者への現地引渡しを経て最終日に器材を撤収し、4年に亘った今回の事業に係る発掘調査を完了した。

E グリッドの設定

設定したグリッドの方向は、平面直角座標系第X系(世界測地系)に沿う10m四方を1単位としている。

第2・3次調査では、X: -230560・Y: -61420を起点に、東西軸をX軸として東へ、南北軸をY軸として北へ、それぞれ「1」から昇順の座標番号として設定した。起点以南のY座標は、「0=100」と見なして南へ「99」から降順の座標番号を設定した(例えば、上記の起点より1単位南東に位置するX: -230570・Y: -61410の交点は、「X1-Y99」)。

ただし、公共座標では東西軸がY軸、南北軸がX軸と逆であり、また座標値と座標番号との対応関係が判断

しがたいため、第4・6次調査では公共座標値を省略した数値、すなわち南北に増減するX軸座標の下3桁と、東西に増減するY軸座標の下3桁をハイフンで繋げた数値でグリッドの位置を表した。なお、本来はX軸、Y軸とも負の値であるが、自然数に置き換えて使用した(例えば、X:-230560・Y:-61420の交点は、「560・420」)。

本書では、第2・3次調査成果も含め第4・6次調査で採用したグリッド設定方法で表している。なお、グリッド名が示す範囲は、X軸とY軸の交点の第2象限(南東)となる10m四方の100m²である。隣接する地上遺跡第5次・西谷地b遺跡第3次調査(山形理文2014)、および西谷地b遺跡第1・2次調査(山形理文2015)では、交点の第1象限(北東)となる5m四方の25m²を示しており、表示方法が異なるので留意されたい。

3 整理作業の方法と経緯

東北中央道に係る発掘調査を4カ年で行ったことから、報告書作成のための整理作業は、平成21・22年度、および平成24～28年度の都合7カ年に亘って実施した。なお、出土遺物の注記は、遺跡名と調査次数を略して「ハセ上2」・「ハセ上3」・「ハセ上4」・「ハセ上6」と記したうえで、出土地点情報を併記した。また報告書に掲載した遺物については、報告書図番号を注記に追加している。以下、整理年度ごとの概要を記述する。

平成21年度は第2次調査出土遺物について12月1日より洗浄を開始し、乾燥後の注記を経て2月上旬より接合・復元に着手した。写真・図面等記録類の整理を並行して実施し、図面は番号を付加した上で図面台帳を作成し、遺構ごとに平面図と土層断面図の補整を行った。

平成22年度は4月当初から継続して遺物の接合・復元に当たり、報告書掲載遺物を抽出した上で、その一部について実測を行った。第3次調査が終了したのを受けて12月初旬より、当該次調査出土遺物の洗浄・注記を実施した。併せて当該次調査の記録類を整理し、遺構ごとに平面図と断面図の補整を行った。また出土した木製品について、糖アルコール含浸法による保存処理を施した。翌平成23年度は前述した理由から発掘調査・整理作業とも行わなかったため、これまでの進捗状況を整理した上で、出土品と記録類を一時的に保管した。

平成24年度は、第4・5次調査の終了を待って11

月19日より作業を開始した。記録類の整理と並行して、12月初旬から出土遺物の洗浄・注記を実施し、1月下旬からは遺構図のデジタルトレースを順次進めた。また出土した金属製品について、付着土・錆の除去およびPVB樹脂含浸による保存処理を業務委託で施した。

平成25年度は4月当初から作業を行った。中断していた第2次調査出土土器の接合と復元を継続し、併せて第4次調査の出土土器についても実施した。7月中旬には第3次調査資料について、竪穴建物出土土器を主体として復元に着手した。第6次発掘調査の開始を10月に控え、整理作業は9月で一旦中断して12月より再開した。第3次調査出土土器の接合・復元と並行し、第6次調査出土遺物の洗浄と注記を行った。2月から第6次調査の、3月には第3次調査の遺構図のデジタルトレースに取り掛かった。また第3次調査で出土した金属製品について、付着土・錆の除去後、鉄製品には樹脂含浸(パラロイドNAD-10)、青銅製品にはBTA法による化成処理と樹脂含浸(パラロイドB-72)を施した。

現地調査の完了に伴い、平成26年度からは、報告書作成に向けた整理作業を通年で実施した。平成26年度は、前年度からの継続で第3・6次調査出土土器の接合・復元を7月まで行った。8月からは第3次調査出土遺物の実測・拓本作製を行い、1～2月中旬にはその補正・修正とともに第4・6次調査出土遺物の実測・拓本作製を実施、2月下旬以降は第2次調査出土遺物の実測にも着手した。また、これらの作業と並行して出土遺物実測図のデジタルトレース、および第2・3次調査遺構図面デジタルトレースの確認・修正作業を進めた。

平成27年度は、第2次調査出土遺物の実測・拓本作製・デジタルトレースを継続して行いながら、これまで作製してきた実測図を全体的に点検・修正した。また第2・3次調査遺構図面のデジタル編集も行った。

最終年度に当たる平成28年度は、トレース図の確認・修正、報告書掲載遺物の写真撮影を実施し、遺構図・遺物図の編集・版組作業や遺物観察表の作成を順次行いながら、本文の執筆を進めて報告書の刊行を行った。

なお業務委託による理化学分析は、放射性炭素年代測定、漆膜の赤外分光分析、樹種・植物遺体・哺乳類遺体の同定分析、石製模造品の石材同定を行った。詳細な分析結果については第IV章に掲載している。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

馳上遺跡が所在する米沢市は山形県の東南端に位置し、豪土山・駒ヶ岳・栗子山といった奥羽山系の嶺々に東を限られ、磐梯朝日国立公園の一角をなす吾妻の山塊が南を画しており、東南に聳え立つ山々が福島県との境界ともなっている。米沢市はこれらの山々と、西部に広がる低平な玉庭丘陵に囲まれた典型的な盆地である。したがって、気候は春暖の差が大きい盆地性内陸型であり、年間降水量はやや少ないが冬期には降雪量が多い。市街地でも積雪量が1mを超える豪雪地帯であるものの、日照時間は比較的長い。また、内陸盆地の中では平均風速が最も強い地域である。

山地が70%に及ぶ置賜地方には、渓谷や河川が多いため植物の生育には好適で、緑豊かな自然環境が形成されている。気候との関係で冷温帯性植物が植生の多くを占め、広葉樹ではブナやミズナラが代表的である。その他、ユキツバキ等の常緑低木、ヒメサユリ等の草木類が生態系を形成している。また置賜地方は、数種の植物において分布の限界地域となっており、ヤマグルマやヤマメ科のオヤマノエンドウは日本の北限、ヒナザクラやイソツツジは日本海側の南限地域となっている。一方、鳥類ではフクロウやハヤブサといった猛禽類が、哺乳類ではコウモリが他地方より比較的多く生息している。

奥羽山系や吾妻山系に源を発する幾筋もの水流は、鬼面川・松川（最上川）・羽黒川・天王川（梓川）などの河川となって氾濫原を形成しつつ北流している。これら諸河川は、やがて合流し最上川となって県内を貫き、県上を潤しながら日本海へと注ぐ。米沢盆地の南端から中央部にかけては、各々の河川により形成された緩やかな扇状地となっており、低地の占める割合が高くなっている。比較的平坦地が多いため農地が多く、森林の割合が少ないのが特徴である。また、扇状地であることから、排水状況が良好な地盤に恵まれている。

馳上遺跡が所在する川井地区の南東に当たる万世町周辺には、縄文時代の遺跡群や牛森古墳など数多くの遺

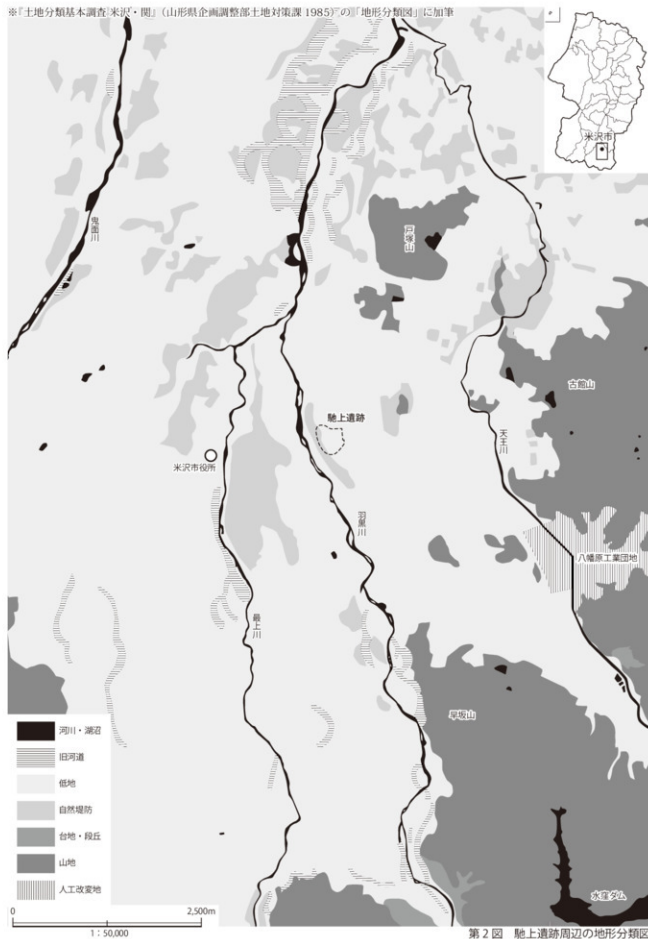
跡が確認されている。周囲は八幡原^{（ひつちばら）}や牛森原と呼ばれる原野であったが、江戸時代後期に藩政改革の一環として開拓が行われた。低地や緩傾斜の扇状地のほとんどは農地化が進められ、自然堤防や傾斜の急な丘陵地においても、桑畑や畑地として土地利用がなされた。現在では八幡原中核工業団地への企業進出や、それに伴う宅地の造成などで都市化が進み、一部では切土や盛土による人工的な土地の改変が行われている。

馳上遺跡は米沢市役所より東へ約1.5km、羽黒川右岸の自然堤防上に立地し、標高は240m前後を測る（第2図）。遺跡西側を北流する羽黒川は、北方約2km先で最上川と合流する。遺跡周辺の地形は、羽黒川によって形成された緩やかな自然堤防の後背湿地に当たり、排水が良好とは言えない。土地利用状況は水田が主体であり、一部では畑地としても利用されている。表層の地質は第四紀に形成された未固結の洪積・扇状地堆積物であり、細粒で軟質の砂や泥からなる。耕作土は細粒強グライ土壌が大部分を占め、畑地として利用されている部分のみに中粗粒褐色低地土壌が分布している。グライ土壌は非固結堆積岩を母岩とし、地下水位が50cm前後と高い。土質は粘性で還元状態が強く、各種養分は多いが排水能力に乏しいため、生産力が高いとは言えない。

2 歴史的環境

米沢市では670箇所を超える遺跡の存在が知られている。なかでも前述した万世町地内は密集地帯となっており、縄文時代早期から中世まで各時代の遺跡が分布している。狩猟・採集を主としていた時代から、稲作を根幹とする生産基盤を持つ社会を通じて、当地域が一貫して利用され続けてきたことを示している。八幡原周辺の遺跡群は、昭和50年代の道路建設や大規模な工業団地の造成に伴い発掘調査された遺跡群である。広域に及ぶ調査によって、遺跡相互の立地関係や時間的変遷を窺えたことは評価できよう。以下、時代順に周辺遺跡の概略や歴史事象について記述するが、各遺跡名（アルファベット表記等）は黒ホームページの山形県遺跡地図「市町村

※「土地分類基本調査米沢・関」（山形県企画調整部土地対策課 1985）の「地形分類図」に加筆



第2図 陸上遺跡周辺の地形分類図

一覧表」の記載に準拠する。なお本文中の遺跡名に続く括弧内数字は、第3図・表1の遺跡番号に対応している。

周知遺跡の約半数は縄文時代に関するものであり、市南部及び西部の台地上を中心に分布している。代表的なものとして、前期初頭の石器工房跡と推定される国内最長の大型堅穴建物が発見され、その希少性から国指定史跡に登録された一反遺跡(米沢市矢来)と、土偶をはじめ中期中葉の遺物が大量に出土し、大規模かつ核的な集落跡と判明した台ノ上遺跡(293)の2例が挙げられる。万世町に所在する二ツ俣a(264)・柿の木(269)・水神前(270)・大清水(272)の各遺跡は、早期前半から後半までの5期の変遷が辿れる集落跡である。東北中央自動車道建設を原因として発掘調査が行われた遺跡では、早期末葉の堅穴建物や前期前葉の落とし穴などが検出された山ノ下遺跡(307)などがある。

弥生時代の遺跡は、李代・笹原(71)・清水北c・d(237・239)の4箇所と極めて少なく、縄文時代などとの複合遺跡として登録されるものに限られる。清水北c遺跡では、10基の土坑から中期中葉の土器・碧玉などが出土し、再葬墓ないし土坑墓と考えられている。なお第1号土坑出土の壺形土器に髹痕が認められるとの指摘があるが、レプリカ法による確認は行われていない。

古墳時代に入ると、丘陵や山麓に大小の古墳が築造されるようになる。万世町の比尺尼平遺跡(230)では、県内で初めて前期の方形周溝墓が3基検出された。近接する八幡堂遺跡(261)においても、方形周溝墓が5基確認されているが、ここでは南小泉式併行の土器を伴い、大西遺跡(62)や北小屋屋敷遺跡(米沢市窪田町)とともに、前期の方形周溝墓が在地化して中期まで存続したものとする意見がある。北部の窪田地区には、東北地方最大級の前方後方墳である賀領塚古墳(14)をはじめ、中期に属する窪田古墳(22)・八幡塚古墳(26)などが点在している。西部丘陵に位置する成島1号墳(米沢市広幡町)は、墓坑に割竹形木棺を埋置した4世紀後葉の前方後円墳である。市街地北東部の独立丘に総数201基の古墳が営まれた戸塚山古墳群(77・97～105)は、大半が横穴式石室を埋葬施設とする終末期の円墳で構成されるが、山頂付近を中心に前方後円墳1基・帆立貝形古墳2基・方墳4基も含まれる。とくに中期

後葉に位置づけられる帆立貝形古墳の137号墳は、埋葬施設の箱形石棺から堅櫛・鹿角装刀子とともに壮年の女性人骨が発見され、女性首長の存在が明らかとなった。集落遺跡としては、鬼面川右岸の後背湿地に営まれた鎌倉上遺跡(63)や、最上川の自然堤防から河間低地にかけて立地する南原遺跡(18)、上新田a遺跡(155)などが挙げられる。米沢市窪田地区の鎌倉上遺跡は、前期後半と中期後半の2時期があり、とくに中期後半の焼失堅穴建物から土師器を中心とした一括資料が出土している。高畠町畦野目地区の南原遺跡では、中期後半を中心とする堅穴建物33軒と、鍛冶がたい製錬の可能性がある焼冶施設5基が検出された。上新田a遺跡は奈良・平安時代の遺構が主体を占めるものの、一部の堅穴建物や河川跡から後期前半の土器がまとまって出土し、馳上遺跡(193)第1次調査成果の様相と似ている。

奈良・平安時代の遺跡は、平野部の主要な河川に沿って広範囲に分布する様相が窺える。置賜地方は『日本書紀』持統天皇3年(689)年に「陸奥国優略置賜」との記述が史料的に初見である。その後の『続日本紀』によると、和銅5年(712)年に越後国出羽郡を改めて出羽国が建国され、さらに陸奥国から最上郡・置賜郡が編入されて、現在の山形県域とおよそ同じ地域が出羽国としてまとまったことになる。一方、この8世紀前半の置賜盆地では終末期古墳の造墓・追葬が継続しており、凝灰岩割石と円礫で構築したT字形石室を埋葬施設とする牛森古墳(278)には、青銅製帯金具などが副葬されていた。また先述した戸塚山古墳群などの終末期群集墳は、一つの地縁的な村落集団の共同墓地であり、その支群の中の1基の古墳は有力家族の墳墓である。その中には律令制の官位・官職を与えられる者もいたと考えられ、当該期の在地状況をよく示していると思われる。須恵器の在地生産も開始され、木和山窯跡(221)や大神窯跡(米沢市下小菅)からは8世紀代の登窯が検出されている。また集落遺跡では、幅6mの道路状遺構と10個体の円面視の出土から官衙性格が想定されている西町田下遺跡(140)や、「延暦廿三年(804年)の具注曆漆紙文書や布目瓦が出土し、8世紀後半から9世紀前半まで機能した置賜郡衙跡と推定される大浦b遺跡(146)、木筒や黒書土器・円面視の出土から古代置賜郡七郷の一つ「広瀬郷」との見解もある笹原遺跡



II 遺跡の位置と環境

表1 遺跡地名表

※ “時代”の列の“旧・縄・弥・古・奈・平・中・近”は、それぞれ“旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世”の略。
括弧内の“早・前・中・後・晩・終”は、“早期・前期・中期・後期・晩期・終末期”の略。遺跡名に【高島町】と記した遺跡以外は全て米沢市。

番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
1	観音作前跡	中	城跡跡	62	大西遺跡	古・平・中	古墳・集落跡
2	馬場山前跡	中	城跡跡	63	鎌倉上遺跡	古(前・中)	城跡跡
3	屋敷山前跡 B	中	城跡跡	64	唐屋敷跡		城跡跡
4	東江段遺跡	縄(晩)	集落跡	65	窪田元屋敷跡		城跡跡
5	石之南前跡	中	城跡跡	66	窪田新野前跡	中	城跡跡
6	四郎石ノ門前跡	中	城跡跡	67	舟入田屋敷跡	中	城跡跡
7	北ノ屋敷跡	中	城跡跡	68	谷地在家前跡	中	城跡跡
8	東江段堀の内前跡	中	城跡跡	69	下ノ在家前跡	中	城跡跡
9	大塚塚古墳	中	城跡跡	70	川崎屋敷跡	中	城跡跡
10	井ノ内前跡	中	城跡跡	71	新野遺跡	奈・奈・平	官衙・散布地
11	早稲田堀合前跡	中	城跡跡	72	保呂宮堂遺跡	奈・平	集落跡
12	新井屋敷跡	中	城跡跡	73	金ヶ崎 a 遺跡	奈・平	集落跡
13	大野1号山前跡	中	城跡跡	74	三ツ井前跡	中	城跡跡
14	寶塚塚古墳	古(前)	古墳	75	小山塚跡	中	塚
15	入生屋敷跡	中	城跡跡	76	沼田学園東遺跡	中	集落跡
16	平在家前跡	中	城跡跡	77	山崎古墳群	古(後)	古墳集積
17	【高島町】新屋敷跡	中	城跡跡	78	下新田前跡	中	城跡跡
18	【高島町】高野遺跡	奈・奈・平	集落跡	79	【高島町】香藤遺跡	縄(中)	遺物包蔵地
19	【高島町】堂ノ下遺跡	奈・平	集落跡	80	【高島町】海道下遺跡	中	散布地
20	中平屋敷跡	中	城跡跡	81	【高島町】上光田 C 遺跡	縄(中)	遺物包蔵地
21	中平遺跡	中	集落跡	82	【高島町】上光田 C 遺跡	奈・平	散布地
22	窪田古墳	古(後)	古墳	83	【高島町】石ヶ森山遺跡	縄(中・後)	城跡跡
23	外ノ内塚跡	中	土壇	84	窪田前跡	中	城跡跡
24	外ノ内遺跡	縄(中・後)	集落跡	85	小作部ノ在家前跡 a	中	城跡跡
25	窪田下前田前跡	中	城跡跡	86	小作部ノ在家前跡 b	中	城跡跡
26	八幡塚古墳	古(中)	古墳	87	地野中屋敷跡	中	城跡跡
27	窪田荒前跡	中	城跡跡	88	中塚屋敷跡	中	城跡跡
28	【高島町】高野下前跡	中	城跡跡	89	海道西下遺跡	中・近	集落跡
29	【高島町】高野西屋敷遺跡	中・近	城跡跡	90	外ノ内前跡	中	城跡跡
30	【高島町】古輪窪 B 遺跡	縄(後・晩)	散布地	91	中田原前跡	中	城跡跡
31	【高島町】高野上輪窪 B 遺跡	中	城跡跡	92	上新田 B 遺跡	奈・平・中	集落跡
32	【高島町】関山遺跡	平	散布地	93	中田原前跡	奈・平	集落跡
33	【高島町】二ノ橋 A 遺跡	縄(中)	遺物包蔵地	94	戸塚山坊屋敷 a 遺跡	縄(前)	集落跡
34	【高島町】二ノ橋 B 遺跡	平	散布地	95	戸塚山坊屋敷 b 遺跡	縄(前)・奈・平・中	集落跡
35	【高島町】新野遺跡	縄	散布地	96	新野前跡	中	城跡跡
36	【高島町】新野前跡	奈・平	塚跡	97	金ヶ崎古墳群	古(群)	群集墳
37	一休前跡	中	城跡跡	98	新塚北古墳群	古(群)	群集墳
38	六蔵元前跡	中	城跡跡	99	新塚南古墳群	古(群)	群集墳
39	一ノノ内前跡	中	城跡跡	100	森合西古墳群	古(群)	群集墳
40	小川田下在家前跡	中	城跡跡	101	森合西古墳群	古(群)	群集墳
41	観音前跡	中	城跡跡	102	山頭古墳群	古(中・後)	群集墳
42	田中屋敷跡	中	城跡跡	103	戸塚山北古墳	古(前)	古墳
43	立屋敷跡	中	城跡跡	104	上茂中屋敷 a 古墳群	古(群)	群集墳
44	窪田前跡	中	城跡跡	105	上茂中屋敷 b 古墳群	古(群)	群集墳
45	窪田屋敷前跡	中	城跡跡	106	堀ノ内塚跡	中	塚
46	窪田新前跡	中	城跡跡	107	戸塚山遺跡	中	城跡跡
47	小倉屋敷跡	中	城跡跡	108	堀ノ内塚跡	中	塚跡
48	川原屋敷跡	中	城跡跡	109	堀ノ内塚跡 a 遺跡	古(中)	群集墳
49	新井屋敷跡	中	城跡跡	110	堀ノ内塚跡 b 遺跡	古(中)	群集墳
50	【高島町】古輪窪 A 遺跡	縄(中)	散布地	111	堀ノ内塚跡	中	塚
51	下新田 c 遺跡	奈・平	集落跡	112	新の森塚跡	中	塚
52	下新田 b 遺跡	奈・奈・平	集落跡	113	戸塚山古切塚跡	古(群)	古切塚
53	下新田 a 遺跡	奈・平	集落跡	114	森合前跡	中	城跡跡
54	大南遺跡	縄・古・奈・平・中	集落跡	115	上新田 c 遺跡	奈・平・中	集落跡
55	【高島町】倉原屋敷跡	近	屋敷跡	116	森合前跡	縄・奈	集落跡
56	【高島町】中島前跡	中	城跡跡	117	上茂川 a 遺跡	縄(中・後)・古(中)・奈	集落跡・官衙・見跡
57	同心屋敷跡	中	城跡跡	118	上茂川 b 遺跡	縄(中)・奈・平・中	集落跡
58	瓦屋敷跡	中	城跡跡	119	上茂川前跡	中	城跡跡
59	天神前中前跡	中	城跡跡	120	萩の森遺跡	奈・平・中	群集墳
60	親北前跡	中	城跡跡	121	薬師山古墳群	古(群)	群集墳
61	杉之崎前跡	中	城跡跡	122	森合上塚跡	中	土壇

番号	遺跡名	時代	種別	番号	遺跡名	時代	種別
123	長手遺跡	平・中	集落跡	187	花沢 a 遺跡	縄(前・中)・後)・近	集落跡・塚跡
124	天神安古墳	古(終)	古墳	188	花沢 b 遺跡	縄	集落跡
125	天神安塚群	中	塚	189	佐氏泉館跡	中	城館跡
126	【高島町】花沢鬼ヶ森遺跡	縄	散布地	190	台坂遺跡	中	集落跡
127	【高島町】花沢遺跡	中	城館跡	191	下花沢 a 遺跡	縄	集落跡
128	【高島町】清水川遺跡	縄	散布地	192	西谷地 b 遺跡	古・奈・平・中	集落跡
129	鬼野西上屋敷跡		城館跡	193	馳上遺跡	古・奈・平	集落跡
130	縄之館跡		城館跡	194	元立遺跡	縄・奈・平	集落跡
131	馬館跡		城館跡	195	元立遺跡	奈・平	集落跡
132	鬼野上屋敷跡	中	城館跡	196	引栗神社跡	中	城館跡
133	鬼野新館前跡	中	城館跡	197	上谷地 c 遺跡	奈・平・中	集落跡
134	鬼野西中屋敷跡	中	城館跡	198	東屋敷跡	中	城館跡
135	鬼野館跡	中	城館跡	199	東屋敷遺跡	奈・平・中	集落跡
136	川辺館跡	中	城館跡	200	野郎遺跡	縄	集落跡
137	鬼野上屋敷遺跡跡	中	城館跡	201	上谷地館跡	中	城館跡
138	笠巻寺遺跡	古(中)・中・近	集落跡	202	上谷地 b 遺跡	縄(前・中)・後)・奈	集落跡
139	鬼野中屋敷跡	中	城館跡	203	野郎塚跡	中	塚
140	西阿田下遺跡	奈・平	集落跡	204	上谷地 d 遺跡	縄(前)・後	集落跡
141	上阿遺跡	縄(晩)	集落跡	205	上谷地 a 遺跡	縄	集落跡
142	荒川 2 遺跡	縄・奈・平・中	城館跡・集落跡	206	沼田土壇跡	中	土壇
143	荒川遺跡	縄・平	集落跡	207	玉ノ木 a 遺跡	奈・平	集落跡
144	柳町遺跡	縄	集落跡	208	竹井遺跡	縄(晩)・奈・平	集落跡
145	春日町遺跡	縄	集落跡	209	玉ノ木 b 遺跡	奈・平	集落跡
146	大湯 b 遺跡	奈・中	官倉・集落跡	210	竹井境 b 遺跡	縄(前・中)・後)・奈・平	集落跡
147	大湯 a 遺跡	縄(中)・奈・平	官倉・集落跡	211	竹井境 a 遺跡	縄(前・中)・後)・奈・平	集落跡
148	大湯 c 遺跡	奈・平・中	集落跡・官倉・城館跡	212	木和田塚群 a	中	塚
149	大湯 d 遺跡	中	集落跡・城館跡	213	木和田塚群 b	中	塚
150	大湯館跡	中	城館跡	214	木和田前跡	中	城館跡
151	大湯館ノ内館跡		城館跡	215	鶴山 a 遺跡	縄(早・前・中)・後)・奈	集落跡
152	八木橋 a 遺跡	縄・中	集落跡	216	鶴山 b 遺跡	奈・平	集落跡
153	八木橋 b 遺跡	縄・中	集落跡	217	鶴山 c 遺跡	縄(晩)・奈・平	集落跡
154	八木橋館跡	中	城館跡	218	木和田塚群 c	中	塚
155	上新田 a 遺跡	縄(前・中)・後)・古(後)	集落跡・塚跡	219	木和田中屋敷館跡	中	城館跡
156	西の館跡	奈・平・中	集落跡	220	木和田古墳	古(終)	古墳
157	西谷地 a 遺跡	奈・平	集落跡	221	木和田泉跡	奈	泉跡
158	西光寺古墳群	古(終)	郡集墳	222	木和田月ノ原館跡	中	城館跡
159	野野山館跡	中	城館跡	223	木和田遺跡	縄	集落跡
160	皇太神社古墳群	古(終)	郡集墳	224	馬ノ橋道館跡	中	城館跡
161	野野橋遺跡	奈・平・中	集落跡	225	上海上遺跡	奈・平	集落跡
162	瀬崎遺跡	奈・平・中	集落跡	226	城西一丁目遺跡	縄(前)	集落跡
163	堂田古墳群	古	古墳	227	米沢城跡	中・近	城館跡・集落跡
164	堂田遺跡	奈・中	集落跡	228	米沢城東二の丸跡	中・近	城館跡・集落跡
165	原屋遺跡	奈・平・中	集落跡	229	下花沢 b 遺跡	縄	集落跡
166	中谷地 a 遺跡	平・中	集落跡	230	比呂尼平遺跡	縄(前・中)・晩)・古(前)	集落跡
167	川井平館北遺跡	中・近	城館跡	231	堂森山塚 a	中	塚
168	川井平館南遺跡	中・近	城館跡	232	比呂尼平南寺	中	寺館跡
169	川井館跡	中	城館跡	233	金谷 b 遺跡	縄	集落跡
170	土野遺跡	奈	集落跡	234	金谷館跡	中	城館跡
171	中ノ口遺跡	奈・平・中	集落跡	235	八幡屋 b 遺跡	縄(早・前)・中	集落跡
172	大筒神社跡	中	社跡	236	八幡屋 c 遺跡	縄(早・前)・中)・近	集落跡・塚跡
173	長手館跡	中	城館跡	237	清水北 c 遺跡	縄(早・前)・中)・後)・奈	集落跡・塚跡
174	長手古墳群	古(終)	郡集墳	238	八幡屋 c 遺跡	縄(前)	散布地
175	長手屋敷跡	縄・中	集落跡・城館跡	239	清水北 d 遺跡	縄(前)・奈	集落跡
176	中谷地北塚群	中	塚	240	清水北 b 遺跡	縄(早・中)・後	集落跡
177	中谷地南塚群	中	塚	241	慶治清水 a 遺跡	縄(早・前)・後	集落跡
178	中谷地 b 遺跡	奈・平・中	集落跡	242	山部遺跡	縄	集落跡
179	古峰神社前跡	中	城館跡	243	耳取 b 遺跡	縄(早・前)・平	集落跡
180	古館山 1 号墳	古	古墳	244	堂森山塚 b	中	塚
181	古館山 2 号墳	古	古墳	245	堂森山前跡	中	城館跡
182	古郷原館跡	中	城館跡	246	慶治清水 b 遺跡	縄(早・中)・後	集落跡
183	釜ヶ原館跡	中	城館跡	247	鶴山下遺跡	縄	集落跡
184	古郷原遺跡	縄	集落跡	248	清水北 a 遺跡	縄	散布地
185	谷ノ入遺跡	中	城館跡	249	慶治清水 c 遺跡	縄	散布地
186	谷ノ入山城跡	中	城館跡	250	耳取 a 遺跡	縄(前)	集落跡

II 遺跡の位置と環境

番号	遺跡名	時代	種別
251	堂森東遺跡	縄	集落跡
252	中嶋山下遺跡	古(縄)	散布地
253	牛森山塚跡	塚	塚
254	竹井境c遺跡	土壇	土壇
255	長埜遺跡	縄(後)	散布地
256	辻の堂a遺跡	近	散布地
257	辻の堂b遺跡	近	散布地
258	牛森山古墳	古(縄)	古墳
259	牛森山南下遺跡	平・中	集落跡
260	金谷a遺跡	縄	集落跡
261	八幡堂遺跡	縄(前・後・晩)・古(前)	集落跡・埋葬跡
262	新野遺跡	縄	散布地
263	我妻館跡	中・近	城跡跡
264	二ツ尻a遺跡	縄	集落跡
265	下畑田遺跡	縄	集落跡
266	畑田遺跡	中	城跡跡
267	東原塚	縄	塚
268	二ツ尻b遺跡	縄(後)	集落跡
269	柿の木遺跡	縄	集落跡
270	水神前遺跡	縄(前)	集落跡
271	小谷地遺跡	縄	散布地
272	大清水遺跡	縄	集落跡
273	十文字西遺跡	中	集落跡
274	牛森遺跡	縄	集落跡
275	山道遺跡	集落跡	集落跡
276	継原b遺跡	縄	集落跡
277	継原前川原遺跡	縄	散布地
278	牛森古墳	古(縄)	古墳
279	井ノ森遺跡	縄・中	集落跡
280	原ノ上遺跡	縄	集落跡
281	古志田東遺跡	平	豪華屋敷
282	世野町水辺館跡	中	城跡跡
283	八方屋北館跡	城跡跡	城跡跡
284	世野町遺跡	縄	集落跡
285	古志田南遺跡	中	城跡跡
286	一本橋c遺跡	縄(中・後)	集落跡
287	一本橋a遺跡	縄(中・後)	集落跡
288	大塚山遺跡	縄(前・中)	集落跡
289	大橋a遺跡	縄(前・中・後)	集落跡
290	大橋b遺跡	縄	散布地
291	大橋c遺跡	縄(前・中)	集落跡
292	太田遺跡	縄(中)	集落跡
293	台ノ上遺跡	縄(前・中)	集落跡
294	芳泉塚	塚	塚
295	下畑b遺跡	縄	集落跡
296	通町遺跡	縄(中)	集落跡
297	東大通一丁目遺跡	縄・平	集落跡
298	第五中学校裏遺跡	縄	集落跡
299	早坂山a遺跡	縄・中	集落跡
300	早坂山d遺跡	縄	集落跡
301	早坂山b遺跡	縄・中	集落跡・城跡跡
302	寶城跡	中	城跡跡
303	早坂山南遺跡	中	城跡跡
304	早坂山c遺跡	縄	集落跡
305	下屋敷遺跡	縄・平・中	集落跡
306	現屋敷遺跡	縄・平・中・近	集落跡
307	山ノ下遺跡	縄	集落跡
308	井門寺遺跡	縄	集落跡
309	船岡山遺跡	中	城跡跡
310	八幡原土壇	縄(後)・中	集落跡・土壇
311	神山館跡	中	城跡跡
312	万世館山城跡	中	城跡跡
313	松林寺館跡	中	城跡跡
314	松林寺遺跡	縄(前)	集落跡

番号	遺跡名	時代	種別
315	松林寺c遺跡	縄(前)	集落跡
316	町在家館跡	中	城跡跡
317	町在家遺跡	中	散布地
318	上窪遺跡	縄(中・後)	集落跡
319	上小窪遺跡/神山a遺跡	中/縄	散布地/集落跡
320	法祥寺遺跡	縄(早・前・中)	集落跡
321	神山b遺跡	縄	集落跡
322	神山c遺跡	縄(中)	集落跡
323	神山d遺跡	縄(前)	集落跡
324	世野山館跡	中	城跡跡
325	世野ヤーン跡	古・平・中	城跡跡
326	世野御音堂西遺跡	縄	集落跡
327	葛上在家館跡	中	城跡跡
328	世野館ノ内館跡B	中	城跡跡
329	尾在家館跡	中	城跡跡
330	館ノ内c遺跡	縄・平	集落跡
331	世野館ノ内館跡A	中	城跡跡
332	館ノ内a遺跡	縄(中・後)	集落跡
333	館ノ内b遺跡	縄(前・中・後)	集落跡
334	継原館跡	中	城跡跡
335	一本橋b遺跡	縄(中・後)	集落跡
336	高山宮遺跡	縄	集落跡
337	長次郎屋敷跡	中	城跡跡
338	長泉寺遺跡	縄	集落跡
339	南原中学校遺跡	縄	集落跡
340	堀原代新屋敷跡	中	城跡跡
341	光遠在家館跡	中	城跡跡
342	世野屋敷山館跡	中	城跡跡
343	夏屋敷跡	中	城跡跡
344	十部在家館跡	中	城跡跡
345	大巧東館跡	中	城跡跡
346	上道門館跡	中	城跡跡
347	東表町遺跡	平	集落跡
348	横塚遺跡	縄・中	集落跡
349	石河町遺跡	中	散布地
350	横塚庚寺跡	中	寺跡跡
351	下原a遺跡	縄(前)	集落跡
352	松原遺跡	縄(前・中)	集落跡
353	小峠遺跡	縄	集落跡
354	三沢a遺跡	縄(前)	集落跡
355	丸山日影館跡	中	城跡跡
356	中島遺跡	縄	集落跡
357	三沢b遺跡	縄	集落跡
358	白旗遺跡	縄(早・前・中)	集落跡
359	山崎c遺跡	縄	集落跡
360	山崎a遺跡	縄	集落跡
361	山崎b遺跡	縄	集落跡
362	三沢山田下館跡	中	城跡跡
363	三沢館跡	中	城跡跡
364	三沢古塚	中	塚
365	大海老ヶ沢b遺跡	縄	集落跡
366	大海老ヶ沢a遺跡	縄(後)	集落跡
367	坊中c遺跡	縄	集落跡
368	関原中屋敷(西館)跡	中	城跡跡
369	普門院西遺跡	縄(中)	集落跡
370	坊中b遺跡	縄・中	集落跡
371	坊中a遺跡	縄	集落跡
372	喜多(北)館跡	中	城跡跡
373	普門院北遺跡	縄(中)	集落跡
374	坊中前館跡	中	城跡跡
375	普門院館跡	中	城跡跡
376	普門院南遺跡	縄	集落跡
377	普門院東遺跡	縄(中・後・晩)	集落跡
378	新方西遺跡	縄	集落跡

(71)などが、当該期の代表例として挙げられる。そのほか、平成12年(2000年)9月に国史跡の指定を受けた古志田東遺跡(281)では、蛇行する河川跡沿いに配置された7棟の孤立柱建物や船着場・木橋が検出され、出土木簡などの検討から多くの労働力を集約した大規模な農業経営や船による交易、文書作成などを盛んに行っていた9世紀代の有力豪族館として注目を集めた。

摂関政治が最盛期を迎える11世紀以降は、最上川・羽黒川より西が成島荘(米沢市)、東が屋代荘(高島町)として摂関家藤原氏の荘園となっており、また米沢盆地北辺部(南陽市域)には北条氏(北条氏)が成立して、米沢盆地西辺部と長井盆地のみが置賜郡の管轄下に残った。

中世に至ると、成島荘・屋代荘・北条荘・置賜郡は、すべて鎌倉幕府創設の功臣である大江広元の所領となった。広元の後は、その次男である時広が「長井庄」地頭として所領を受け継ぎ、暦仁元年(1238年)、米沢に居城を構えたと伝えられる。大江氏は時広以後、長井氏を称して八代約200年におよぶ支配を続けたが、天授6年(1380年)に伊達宗遠の侵攻によって滅ぼされ、置賜は伊達領となった。置賜支庁の中心は高島であったが、天文17年(1548年)に15代晴宗が米沢に入部後、米沢を本拠地とした伊達の治世は輝宗・政宗と続き、天正19年(1591年)豊臣秀吉によって政宗が岩出山(宮城県大崎市)へ移封となるまでの210年間にわたった。秀吉の奥州仕置において、米沢は会津に移封された蒲生氏郷の支配下に置かれ、農村は文禄3年(1594年)検地によって年貢の村請制のもとに共同体として編成された。このとき画定した村名・村域が、現在の大字として存続している。蒲生氏郷の病没後、慶長3年(1598年)に越後の上杉景勝が会津へ120万石の加増移封となり、伊達政宗や最上義光を牽制するうえで要となる米沢城(227・228)には、家老・直江兼続が配置された。

当該期の遺跡は城館跡が多数を占め、米沢市の中世城館跡は県内で最も多い200箇所以上とされる。とくに木和台館跡(214)は、12世紀代に位置づけられる県内最古の館跡との見方も示されている。付近には、鎌倉期と考えられる堂森山館跡(245)や、出土した内耳土鍋から15世紀前後に位置づけられる我妻館跡(263)などの平城が営まれている。さらに南には、南北朝期の築城とされる早坂山館跡(303)や万世館山城跡(312)、

東西700m×南北850mと置賜地方最大規模を誇り、戦国期に築城されたと考えられる鷲城跡(302)といった山城が旧街道沿いに分布する。当該期が交通の要衝であったとともに、地域支配の要であったことが推察されよう。このほか注目すべき遺跡として、永禄7年(1564年)に伊達輝宗に家督を譲って隠退した晴宗の隠居先・「新川邑」に関わる可能性の高い寛川2遺跡(142)が挙げられ、内耳土鍋や瓦質播鉢、伊達家の家紋である三引両文が施された漆器検体など、伊達氏領内にて特徴的な遺物が大量に出土している。馳上遺跡の北側に隣接する西谷地b遺跡(192)でも、内耳土鍋・瓦質播鉢・三引両文漆器が出土しており、あわせて区画溝で囲まれた中世の屋敷地が面的に検出されたことから、伊達氏にゆかりのある人物が生活を営んだ遺跡であろうと結論づけられている。また万世地区の早坂山麓に立地する堤屋敷遺跡(306)では、室町時代後半に属する内耳土鍋の焼成遺構が確認され、城館に付随した根小屋で土師質土器・瓦質土器の生産を担った集落跡と推測されている。

慶長6年(1601年)関ヶ原の戦いで上杉景勝は会津から減封されて米沢城主となる。当初30万石であった石高は、寛永15・16年(1638・39年)の総検地で実高約51万石を記録したとある。これは、直江兼続による積極的な新田開発が実を結んだもので、米沢藩政の基礎を確立するのに大きく貢献している。しかし4代綱憲の治世である寛文4年(1664年)には、表高15万石に減封となり、それでも景勝の意向から家臣の召し放ちは知行取で約1割、全体でも約2割にとどまり、領知高の割に多数の家臣団を擁し続けたため、藩財政や家臣の生活の窮乏化に拍車がかかった。恒常的な財政難に苦しむ米沢藩を再建したのは、明和4年(1767年)に9代藩主となった上杉治憲(鷹山)で、普門院(375)は鷹山が師の細井平洲を迎え入れた場所として知られる。

慶応4年/明治元年(1868年)の戊辰戦争では、12代齊憲が仙台藩とともに奥羽越前藩同盟の盟主として新政府軍と対立したが、敗北を重ねた末に恭順・降伏し、戦後処分で嗣子の茂憲が家督を継いだ翌年(1869年)、版籍奉還がなされた。明治4年(1871年)の廃藩置県に伴い米沢県となり、置賜県を経て明治9年(1876年)に山形県に編入された。明治22年(1889年)に市制が施行されて現在に至っている。

III 調査の成果

1 遺跡の概要

A 遺跡の範囲

馳上遺跡の範囲は第1次調査の結果と合わせ、東西約300m・南北約400mに及び、その面積は約11万㎡と推定されている。現在の地目は、第1次調査の原因となった主要地方道米沢高畠線（県道1号）のほか、西端の一部が宅地や畑地として利用されている以外は大部分が水田である。羽黒川沿いの地形は自然堤防が狭い範囲で発達しているが、遺跡が立地する元立地区以北には広く後青湿地が形成されている。遺跡の地形はかつての耕地整理等によって平坦化され、標高240m内外の水田地帯となっている。遺跡範囲西端には、河岸段丘が形成されたことを示す高さ1m程の段差が生じ、遺跡は高位の段丘面に立地していることが解る。現在の田面は西から東へ、また北から南へ向かって標高が上がる。以下には、第1次調査の成果も踏まえて、遺跡の概要を記す。

B 第1次調査との関係

平成12年度の第1次調査は、遺跡範囲の中央部を東西方向に係る12,000㎡を対象に実施した。調査区は農道や水路により分断されるため、大きく4区画に区分し、アルファベット表記（A～D区）で呼称した。調査の結果、遺跡は5世紀後半の古墳時代中期から中世に亘り、断続的に営まれた集落跡であることが明らかとなった。検出された遺構は、奈良・平安時代の居住施設を中心に1,800基余を数えた他、南北方向に流路をとる5条の河川跡が認められた。堅穴建物は西平域を主体として45棟検出され、出土遺物相により概ね6期の変遷過程を捉えることができた。12棟検出された掘立柱建物のうちの1棟は、各柱穴内に根固め石を配し、南面・西面に庇を有した中世に属するものであった。出土した遺物は160箱に及び、奈良・平安時代の土器を主体として、木製品や砥石などの石製品も含まれる。

今回の事業に係る調査範囲は、遺跡西平を南北に縦断

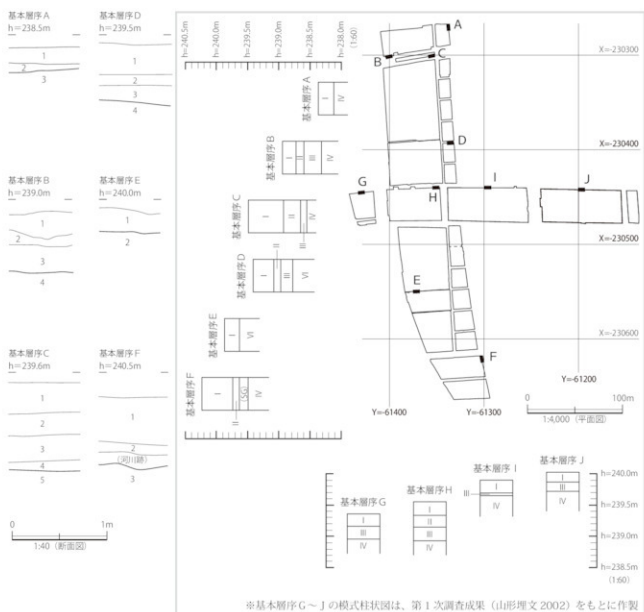
しており、第1次調査区と合わせれば十文字に交差する形状となる。調査面積の合計は35,200㎡で、遺跡全体の3分の1程度にあると想定される。羽黒川の旧支流と考えられる河川跡は、蛇行を繰り返しながら遺跡内を南から北へ流路をとるが、分岐や合流が至るところで見受けられる状況から、氾濫により幾度か河道を変えた様相を窺い知れる。遺跡南西端に位置する17・18区は、現況でその西側の水田に比して1m程高い地形を呈しており、高位の河岸段丘縁辺に当たると理解される。ただしこの縁辺は調査の結果、幅約4～18mにわたり、近世の圃場整備等の土地改変を原因とした、埋め立てによる造成地であることが判明した（本章第2節Eの「窪地SG5816」参照）。微高地等を平坦化する際に発生した掘削土によって、本来の段丘縁辺道を拡張したものと推察できる。

C 基本層序

馳上遺跡の基本層序については、既刊の馳上遺跡第1次および馳上遺跡第5次・西谷地b遺跡第3次の発掘調査報告書で詳しく言及されており（山形文2002・2014）、また西谷地b遺跡第1・2次発掘調査報告書（山形文2015）で示された南北170mに及ぶ調査区東壁の上層断面図によって、当該遺跡範囲の北側に続く層序についても把握することができる。

馳上遺跡第2～4・6次調査区の基本層序は、上記報告書で示された内容と大きく変わらないが、調査範囲が南北方向に拡大であるため、第1次調査区の北側4地点（A～D）と南側2地点（E・F）で記録した土層断面図を基本層序として示した（第4図）。

I層（表土）はおおむね20～40cm前後の厚みで、灰黄褐色シルトを基調とする。II層はしまりの強い褐灰色シルトで、耕地整理などに伴って現表土が盛土される以前の旧耕作土と考えられる。地山直上のIII層は遺物包含層で、炭化物等を含む黒褐色系シルトを基本とするが、場所によって厚薄の別があり、とくに遺構検出面の標高が高い南側調査区では表土直下が地山面という区域も認められた（基本層序E）。IV層（地山）は、にぶい黄褐色な



基本層序A (20 区北東端)

- 1 10YR6/1 期灰色シルト、表土 (I)
- 2 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト、表土 (I)
- 3 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト、地山 (IV)

基本層序B (19 区南西端)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、炭化物と礫を少し含む、表土 (I)
- 2 10YR4/1 期灰色シルト、粘性弱、しまり強、10YR6/1 期灰色シルトを少し含む、酸化鉄をわずかに含む、旧耕作土 (II)
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/1 期褐色シルトと炭化物を少し含む、遺物包含層 (III)
- 4 2.5Y7/3 浅黄色砂質シルト、しまり普通、2.5Y6/2 黄灰色砂質シルトを少し含む、地山 (IV)

基本層序C (21 区南東端)

- 1 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト、5～10cm 大の礫を多く含む、最上層（厚さ 10cm 程度）は碎石、路盤 (I)
- 2 2.5Y5/2 暗灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質シルトを含む、表土 (I)
- 3 10YR3/4 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色粘質シルトを少し含む、旧耕作土 (II)
- 4 10YR4/1 期灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の 10YR5/1 期灰色粘土を少し含む、酸化鉄を帯状に少し含む、遺物包含層 (III)
- 5 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 にぶい黄褐色シルトを少し含む、地山 (IV)

基本層序D (1 区北東端)

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、表土 (I)
- 2 10YR4/1 期灰色シルト、粘性普通、しまり強、旧耕作土 (II)
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の炭化物を含む、遺物包含層 (III)
- 4 10YR3/1 黒褐色粘土、地山 (IV)

基本層序E (16 区北西側)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、表土 (I)
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、地山漸移層 (IV)

基本層序F (17 区北東端)

- 1 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、表土 (I)
- 2 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり強、10YR3/1 黒褐色シルトを含む、旧耕作土 (II)
- 3 2.5Y5/2 暗灰色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5Y3/2 オリーブ黒色シルトを含む、地山 (IV)

第4図 基本層序の土層断面図と様式柱状図

いし灰黄色系のシルトを主体とするが、なかには砂礫層や粘土層の場所もあり、遺跡の立地する場所が沖積平野であることを示している。なお遺構検出の標高は、現地表面が示す地形と同様、北側から南側へ向かってなだらかに高くなっている。

D 遺構と遺物の分布

遺構平面図を第 38～61 図に掲載し、各図の割付図を第 37 図に示した。また、各図を統合した全体図は、付図として巻末に収録している。遺構の配置・番号などはこれらの図を、遺構記号の種類については凡例を参照されたい。なお遺構番号については、第 1 次調査で 2,000 番台まで登録された点を踏まえ、第 2 次調査で 3,000～4,000 番台、第 3 次調査で 5,000～6,000 番台、第 4 次調査で 7,000 番台、第 6 次調査で 8,000 番台の番号を使用した。調査の進行の都合によって、ある一続きの番号を不適用とした場合や、調査・整理の過程で登録の抹消、番号の付け替えをした場合もあり、使用された数字が遺構数を表しているわけではない。

第 2～4・6 次調査で検出された主な遺構として、竪穴建物 53 棟と掘立柱建物 12 棟、他に土坑や溝など約 3,470 基を登録した。これらは第 1 次調査の C 区を中心にして、北側の 6 区南半と南側の 7 区北半及び 14 区において特に密集している（第 1 図参照）。遺跡範囲南半域では、16 区を境に遺構が希薄になるのに対し、北半域では 6 区北側に空白域があるものの、14 区に至ってもう一つの集中区域が形成されている。遺構別の分布状況を概観すると、竪穴建物は 10 区から 19 区にかけて広範囲に検出され、C 区から続く 6 区南西部と 14 区では、二重三重に重複したあり方を示す。これら密集域は、遺跡内でも検出面積が高く、水捌けが良い安定した地盤を呈していた。掘立柱建物は、居住用とも認識される副柱のものと、高床式の倉庫などの機能が想定される総柱のものとの二者があり、後者は第 1 次調査の B・C 区、及び 7 区において、2 条の河川 SG3320・3801 に挟まれる区域にのみ構築されている。その他 14 区において、中世の所産と目される L 字形に走る区画溝 SD6240 が確認されたが、これと同時に比定される遺構は明確でない。また、並行する畝状の遺構群が 19 区西側や 14 区北西側などで検出され、竪穴建物など一部重複するものの、居住域とは画した土

地利用が図られていたことが窺える。

出土した遺物は第 2～4・6 次調査合わせて 171 箱を数え、その大半は奈良・平安時代に帰属する土師器・須恵器等の土器が占める。遺物は竪穴建物などの各遺構と河川内からの出土が多く、包含層扱いで取り上げたものは僅少である。包含層の遺物出土量は、遺構の分布に比例すると思われるが、前述したように遺構密集域は微高地であるが故に、包含層の削平が顕著なことが起因している。量的に主体となったのは河川であり、その検出面積にも比例しようが、6・7・14 区での出土量が多い。竪穴建物では、遺存状況がよい 6・14 区でまとまりのある出土状況が認められ、一括性のある遺物が床面やカマド付近から出土した。また、4・7 区などで確認された大形の土坑からも一定量の出土がみられた。8 区以南では遺構・建物数とも少なく、集落域の南限と認識できる。一方、馳上遺跡の北側には西谷地も認められ隣接しており、とくに古代の遺構・遺物は連続的に認められ、両遺跡の明確な境界はない。

2 遺 構

A 古代の竪穴建物

竪穴建物は 53 棟を検出し、すべて個別遺構図で掲載している。同一の竪穴建物に複数の火処が設けられている場合と火処の位置が分かりにくい場合に限り、遺構記号 EL と組み合わせた遺構番号を付して明示した。また、カマドの袖や両脇を指し示すにあたり、カマドに向かって左側を「左袖」「左脇」、右側を「右袖」「右脇」と表記する。

なお、本文中の遺構出土遺物に続く括弧内数字は、第 V 章の総括図面（第 33～36 図）と遺物実測図（第 208～326 図）、および遺物観察表・写真図版の遺物番号に対応している。出土遺物の特徴については、本章第 3 節で詳述する。

竪穴建物 ST3003（第 62 図）

2 区南側、430-340 グリッドに位置し、西側に河川 SG3801 をのぞむ。平面形は東辺に歪みが見られる不整形方形で、規模は南北 3.9 m、東西 3.4～3.8 m、検出面積からの深さは 24 cm である。柱穴・カマドなどは確認されなかった。

他の遺構との重複関係はなく、遺物も土器小片がわずかに出土するばかりで、帰属時期は不明である。

竪穴建物 ST3006 (第 63・64 図)

1区西側および6区東側にまたがる、400-350グリッドに位置し、西側に河川SG3801をのぞむ。平面形はおおよそ方形を呈し、規模は南北7.3m、東西7mと、馳土遺跡のなかでST5665に次ぐ大きさを誇る。検出面から底面までの深さは36～60cmで、底面に起伏が目立つ。炭を編状に多く含む層(断面a-a':6層)などは建物使用時の堆積層と捉えられるので、おおむね標高238.4m付近が床面、それより下位が掘方土と理解される。したがって、東側(1区側)の検出面から床面までの深さは30～48cmを測るが、西側(6区側)では検出面が床面の高さとなる。底面上では南東側を中心に小ピットが多数検出されているが、いずれも浅く単層で形状・配置が不規則であり、竪穴部掘方の窪みとも考えられる。また調査範囲では火処の存在が確認されなかったが、溝SD3156覆土などに炭・焼土が含まれており、ST3006中央部を占める1・6区間の未調査部分にカマドないしが設けている可能性がある。

時期は、出土遺物から9世紀前半に位置づけられる。

竪穴建物 ST3211 (第 65 図)

5区北側、530-330グリッドに位置し、西側に河川SG3681をのぞむ。平面形は方形を呈し、規模は南北2.6m、東西2.4m、検出面からの深さは南側で8cm程度で、北側の層厚はごく薄い。柱穴は確認されなかった。カマドは南壁の西隅に造り付けられており、地山削り出しの右袖、および左袖の構築材と見られる石を検出した。

出土遺物に乏しく、帰属時期は不明である。

竪穴建物 ST3215 (第 65 図)

5区南東側、540-320グリッドに位置する。平面形は不整形形で、北辺・南辺に対して西辺がやや斜行する。規模は南北3.6m、検出面からの深さは8cmで、北辺は東側でさらに浅くなる。南側を中心として地山に含まれる礫が多く検出され、底面も平坦でないことから、床面より下位の掘方のみ遺存していたものと考えられる。柱穴・カマドなどは確認されなかった。

出土遺物に乏しく、図示した土師器甕(7)のみで時期を特定することは難しい。

竪穴建物 ST3247、掘立柱建物 SB3294、焼土遺構 SL3262 (第 66・67 図)

ST3247は、馳土遺跡の竪穴建物のなかで最南端にあ

たる10区南側、600-360グリッドに位置し、西側に河川SG3278、東側に河川SG3231をのぞむ。平面形は南辺が大きく歪む不整形方形を呈し、規模は南北2～2.5m、東西3.2mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは8～12cmである。柱穴はない。カマドは南壁のやや東寄りに造り付けられており、わずかに張り出す地山削り出しの袖と長さ0.8mの煙道を検出した。燃焼部と煙道との境に段差はなく、竪穴底面からそのまま屋外に延びていて、炭・焼土はカマド前に堆積していた。また煙道手前の燃焼部奥にあたる位置からは、被熱した黒色土器無台(8)が伏せられた状態でつぶれて出土した。出土位置が共通するST3774の場合と同様、支脚と組み合わせて裏の高さ調整に用いられたものと考えられるが、火床との間に薄い間層を挟んでおり、カマド廃棄に伴う祭祀的行為を示す可能性もある。出土土器は9世紀中葉頃に位置づけられ、南壁を掘り込むピットSP3284からは9世紀第3-4半期の須恵器無台(10)が出土していることから、ST3247自体の帰属時期は9世紀前半～中葉頃と推定される。

ST3247に一部重なるSB3294は、桁行3間・梁行2間の側柱建物(主軸方位N5°-W)で、確認された限りでは西面の桁行が2間の変則的な柱配置となっている。柱間寸法は桁行・梁行ともに不規則で、またすべての柱掘方が小さく不整形であることから、施工精度の低い簡易な建物構造であったと考えられる。柱穴からの出土遺物はないが、建物の南西側を構成する柱穴SP3285・3286・3292がST3247の覆土を掘り込んでおり、ST3247廃絶後に建てられたことがわかる。

ST3247の東側に隣接するSL3262は、底面の平坦な竪穴遺構で、南北3.4m・東西1.2mの長方形を呈する。中心付近に炭・焼土が広がり、火を焚いた形跡がみられる。上述したSB3294の南東隅に主軸を描いておさめることから、SB3294に伴う付属竪穴と判断できる。竪穴部がやや小さいものの、SP3290を灰溜め穴、炭・焼土を害虫駆除目的の煙蒸痕跡と見てよければ(篠崎2010)、SB3294は馬小屋として機能した竪穴付掘立柱建物の可能性が考えられる。SL3262からは、ST3247とおおむね同時期に位置づけられる土器が出土しており、SB3294はST3247廃絶直後の9世紀中葉頃に建てられたと結論づけられる。

竪穴建物 ST3305 (第 68 図)

7 区北西隅、480-390 グリッドに位置し、東側に河川 SG3320 をのぞむ。調査区の制限から掘り込みの一部を確認するにとどまり、また検出面以下の覆土層厚も 5cm に満たないが、検出部分の形状から一辺 3m 以上の方形ないし長方形を呈すると考えられる。底面全体が平坦である点と南東壁沿いに焼土溜り (EL3311) が存在する点を勘案して、竪穴建物と判断した。

出土遺物は乏しく、帰属時期は不明である。

竪穴建物 ST3315 (第 69 図)

7 区北西側、500-380 グリッドに位置し、西側に河川 SG3320 をのぞむ。平面形は四辺が大きく歪む不整形方形を呈し、規模は南北 2.4 ~ 3.2 m、東西 2.9 ~ 3.4 m を測る。検出面から底面までの深さは 8 ~ 20cm と起伏があり、覆土の大半は掘方埋土であろうと考えられる。柱穴・カマドなどは確認されなかった。

出土遺物は時期比定の困難な土器片がほとんどだが、底部回転系切りの須恵器無台片 (未掲載) が出土しており、9 世紀代の可能性が高い。

竪穴建物 ST3317 (第 70 図)

7 区北西側、500-380 グリッドに位置し、北北東方向に 2.5m 離れて ST3315 が所在する。平面形は西辺以外の三辺がやや歪む方形を呈し、規模は南北 3.3 ~ 3.5 m、東西 3.8 ~ 3.9 m を測る。調査時の所見は記録にないが、底面に ST3315 と同様の起伏が認められ、少なくとも下層 (10 ~ 14 層) は掘方埋土であろうと考えられる。柱穴・カマドなどは確認されなかった。

出土遺物は時期比定の困難な土器片がほとんどだが、底部回転系切りの須恵器無台片 (未掲載) が出土しており、9 世紀代の可能性が高い。

竪穴建物 ST3482 (第 71 図)

7 区北端、480-370 グリッド付近に位置し、西側に河川 SG3320 をのぞむ。調査区の制限により建物北半は未検出だが、方形ないし長方形を呈することがわかる。規模は南北 3.4m 以上、東西 5.5m で、検出面から床面までの深さは 30cm である。床面上では柱穴 SP3831・3832 が確認された。カマドは南壁のやや西寄りに造り付けられ、屋外に張り出す燃焼部と長さ 1m の煙道を検出した。燃焼部と煙道との境に段差はなく、火床から煙道底面に向かって緩やかに上昇している。またカマド前で出土し

た石は架橋材の可能性がある。

時期は、出土物の形態的特徴から 8 世紀後半を中心とする時期に位置づけられる。

竪穴建物 ST3727・3728 (第 72・73 図)

7 区北側、490-370 グリッド付近に位置し、北方向に 6m 離れて ST3482 が所在する。ST3727 と ST3728 は一部重複しており、検出状況から、北側に位置する前者の方が新しいと判断できた。

ST3727 の平面形は方形を呈し、規模は南北 3.4m、東西 3.6m を測る。検出面から床面までの深さは 12 ~ 18cm である。柱穴・カマドなどは確認されなかった。

ST3728 の平面形は、南辺が大きく歪む方形を呈し、規模は南北 6.9m、東西 5.7m を測る。検出面からの深さは、北側の ST3727 近くで 9cm を測るが、大部分は削平され 5cm 以下のところがほとんどである。床面上では柱穴の可能性のある SP3729・3730・3732・3733・3734 が確認された。また、南壁の西寄りに地山削り出しのカマド袖と考えられる箇所を検出した。遺存状態が悪く、燃焼部に当たる範囲の覆土に炭・焼土は含まれないが (断面 c-c・d-d)、ここから出土した土師器裏底片 (未掲載) に被熱痕が認められるので、カマドと捉えてよいだろう。

ST3727 の時期は、出土遺物から 8 世紀前半に位置づけられる。ST3728 は出土遺物に乏しく、帰属時期は不明と言わざるを得ないが、重複関係から 8 世紀初頭以前に遡る可能性がある。

竪穴建物 ST3774 (第 74 図)

7 区南西側、530-370 グリッドに位置し、北側において河川 SG3320・3681 と合流する SG3773 の堆積土上で検出された。平面形は、北西側にやや歪みが見られるもの、比較的整った方形を呈し、規模は南北 3.6m、東西 3.4m を測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは 12 ~ 20cm である。柱穴はなく、中央部床面に 96×60cm の炭の炭がりが確認された。カマドは南壁のやや東寄りに造り付けられ、燃焼部が少し屋外に張り出す。燃焼部の焼土と地山削り出しの袖、長さ 1.1m の煙道を検出し、燃焼部奥の火床直上には黒色土器無台片 (19) が伏せ置かれていた。無台片は被熱しており、支脚と組み合わせて裏の高さ調整に用いられた可能性が高い。またカマド内から出土したサクラ属の炭化材は薪炭材としての利用が想定される (第四章 7 参照)。

時期は、出土遺物から9世紀前半に位置づけられ、カマド内出土炭化材のAMS年代測定結果とも矛盾しない。

竪穴建物 ST3776 (第75図)

7区南西側、530-390グリッドに位置し、北側に河川SG3320・3681合流点をのぞむ。調査区の制限から掘り込みの一部を確認するにとどまるが、検出部分の形状から方形ないし長方形を呈すると考えられる。規模は南北4m以上、東西3.2m以上となる。掘り下げた地山をそのまま床面としており、検出面から床面までの深さは16～28cmである。柱穴は、検出範囲の床面上でSP3833が確認されたが、カマドないしかまの存在を示す痕跡は認められなかった。なお、東壁際に位置する柱穴SP3834は竪穴覆土を掘り込んでおり、ST3776には伴わない。

時期は、出土した須臾器有台环(21)の年代観から8世紀後半に位置づけられる。

竪穴建物 ST3805 (第76図)

7区南西側、530-380グリッドに位置し、北西側に河川SG3320・3681合流点をのぞむ。平面形は長方形を呈し、規模は南北2.5m、東西2.8mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは8～20cmである。柱穴はない。カマドは南壁の西側に造り付けられており、燃焼部が少し屋外に張り出している。燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖を検出し、燃焼部奥には支脚に転用した土師器小型甕(23)が伏せ置かれていた。燃焼部の南側には幅を大きく変えずに0.2mほど屋外へ延びる部分があり、燃焼部との境に浅い段差が認められる。燃焼部の奥側に煙道としての機能を持たせたものが、あるいは本来南側へ延びていた煙道の名残であろう。時期は、出土遺物から8世紀後半に位置づけられる。

竪穴建物 ST3987 (第77図)

6区南西側、420-380グリッドに位置し、東側に河川SG3801をのぞむ。平面形は長方形を呈し、規模は南北3m、東西3.5mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは28cmである。柱穴はない。カマドは南壁の西側に造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖、長さ0.8mの煙道を検出した。燃焼部と煙道との境には高さ20cmほどの段差があり、立面的な区分が明瞭である。燃焼部奥は屋外に0.2mほど張り出しており、この張り出し部分が煙道と同じ幅であるため、見かけ上の煙道の長さは約1mである。

時期は、出土遺物から8世紀後半に位置づけられる。

竪穴建物 ST4000・4003、性格不明遺構 SX4002 (第78～80図)

6区南西側、430-380グリッドに位置し、ST3987の南側に隣接する。ST4000の南西辺とST4003の北東隅が一部重複しており、北側に位置する前者の方が古い。また、ST4003の北西隅は掘立柱建物SB4332の南東隅柱穴SP4045に掘り込まれている。ST4000・4003の下に広がる浅く不整形な落ち込みをSX4002とした。

ST4000の平面形は長方形を呈し、規模は北西～南東方向で4.4m、北東～南西方向で3.6mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは24～30cmである。柱穴はない。カマドEL4046は南東壁の北東寄りに造り付けられ、燃焼部と地山削り出しの袖、長さ0.8mの煙道を検出した。燃焼部と煙道との境には、浅く緩やかな段差が認められる。燃焼部中央からは、土師器小型甕(37)が倒立状態でつぶれて出土した。炭・焼土を含まない燃焼部埋土(2層)内にあることから、カマド廃棄に伴う祭祀的行為を示す可能性が高いと判断する。また左袖先端には、土師器甕(38)が燃焼部壁に密着して正位で据え置かれており、焚口補強材(壁材)に用いられたものと考えられる。高さ調整のために底部を打ち欠いており、上位(口縁部)10cmほどが欠損した状態で検出された。欠損した口縁部には被熱痕・煤付着が認められず天井部構築土内に入り込んでいたと想定されるので、焚口内面の高さは20cmほどとなる。なお、右袖の燃焼部壁際でも土師器甕片が出土しており、遺存状態は良好でないものの、両袖部とも壁材が据えられていたと判断したい。さらにEL4046から離れた竪穴中央より南寄りの位置にも焼土の広がり(EL4047)が見られ、EL4046と併用した地床の可能性もある。

ST4003の平面形は方形を呈し、規模は南北4m、東西4.4mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは14～24cmである。柱穴はない。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖を検出したが、調査区の制限により燃焼部奥・煙道は未検出である。燃焼部中央には支脚石が据えられている。

出土遺物から、ST4000の時期は本報告の竪穴建物のなかで最も古い8世紀初頭頃、ST4003の時期は9世紀

前半にそれぞれ位置づけられる。

竪穴建物 ST4010 (第 81 図)

6 区南西側、420・390 グリッドに位置し、ST3987 の西側に隣接する。平面形は方形を呈し、規模は南北 2.9m、東西 3m を測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは 14 ~ 20cm である。柱穴はない。カマドは南壁の西隅に造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの左袖を検出した。竪穴部西壁の南側が性格不明遺構 SX4029 との重複によって失われており、カマド右袖の有無については判然としない。また、カマドを付設した竪穴部南壁の西隅は、わずかながら南側へ張り出しており、煙道の名残の可能性がある。

時期は、出土遺物から 9 世紀前半に位置づけられる。

竪穴建物 ST4143 (第 82・83 図)

6 区南西隅、430・400 グリッドに位置し、東側に河川 SG3320 の派生流路を挟み 15m ほど離れて ST3987・4000・4003・4010 などが群在する。平面形は方形を呈し、規模は南北 4m、東西 3.8m を測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは 24 ~ 30cm である。柱穴は床面上で SP4146 ~ 4150 を検出した。大ききから主柱穴とみなせる SP4148・4149 は中央付近に並んでいる。カマドは 2 基検出した。南壁の西寄りに付設された EL4144 は、燃焼部の焼土面と石・灰黄褐色シルトで構築された袖、長さ 1.5m の煙道からなり、燃焼部と煙道との境には浅い段差が認められる。左袖は袖石を残すのみで遺存状態は良好でない。また袖の上面や右脇から比較的大きな土師器甕片が出土しており、とくに右袖では一部重なるような状況も認められる。袖部芯材か、あるいはカマド廃棄に伴い敷設された可能性が考えられる。南壁中央に造り付けられた EL4145 は、燃焼部の焼土面と長さ 1m の浅く幅広い煙道を検出した。袖の痕跡は全く見られず、煙道前を含めた覆土に炭・焼土が含まれない点などを勘案すると、EL4144 に付け替える前の古いカマド跡と判断される。EL4145 煙道前の焼土面上に残る粘土塊は、撤去された EL4144 の袖構築材だろう。

時期は、出土遺物から 8 世紀後半に位置づけられる。

竪穴建物 ST4171 (第 84 図)

6 区西側、410・390 グリッドに位置し、北側および東側に河川 SG3320 の派生流路をのぞむ。平面形は方形を呈し、規模は南北 3.2m、東西 3.4m を測る。北側底面

を一部整地しているようだが、基本的には掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは 24 ~ 26cm である。柱穴はない。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と石・灰黄褐色砂質シルトで構築された袖、長さ約 1m の煙道を検出した。煙道底面は火床面近くまで掘り下げられており、燃焼部との境の段は緩やかである。

出土遺物は時期比定の困難な土器小片がほとんどだが、口縁部・体部が浅く直線的に開く須恵器片やロクロ成形の土師器甕口縁部片(ともに未掲載)が出土しており、9 世紀前半を中心とする時期に帰属するものと考えられる。

竪穴建物 ST5126、性格不明遺構 SX5125・5127・5128 (第 85・86 図)

12 区南側、360・340 グリッドに位置し、北側に河川 SG3801 をのぞむ。ST5126 は SX5125・5128 と、SX5127 は SX5125 と一部重複しており、唯一すべての遺構と重複関係をもつ SX5125 が最も新しい。

ST5126 の平面形は方形を呈し、規模は南北 3.2m、東西 3.1m を測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは 7 ~ 13cm である。柱穴はない。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部と地山削り出しの袖を検出した。カマドは 0.4m ほど屋外に張り出しているが、底面は平坦で、張り出し部分が燃焼部奥か煙道の残存部か判断できない。また南東側床面上で付属土坑 SK5360・5361 を確認した。

SX5125 は、一辺 2.6m の不整形方形を呈する竪穴状遺構である。四辺の立ち上がりは緩やかで、底面付近では一辺 2m に満たない狭さとなる点や、柱穴・カマド・炉などの痕跡が見られない点を考慮し、ほかの竪穴建物とは性格が異なる遺構と判断した。

SX5127 は、東側が SX5125 と重複し、西側が調査区外となるものの、東西方向に長い不整形平面プランを呈する。底面は全体的に平坦で、何らかの人為的な掘り込みであろうと判断される。なお、SX5125 の東側で重複する SX5128 は、SX5127 の東端となる可能性がある。また SX5128 と ST5126 の先後関係は不明である。

ST5126 の出土遺物は第 213 図 55・56 をはじめとする土師器甕片に限られ、これのみで時期比定することは難しい。後続する SX5125 出土遺物の年代観から、ST5126 の下限年代を 9 世紀中葉頃と捉えておきたい。

竪穴建物 ST5350・5351 (第87～89図)

14区南東側、360・360・370・360グリッドに位置し、ST5351の西側にST5665が隣接する。ST5350の南西辺とST5351の北東隅がわずかながら重複しており、北側に位置する前者の方が新しい。

ST5350の平面形は、南西辺が歪む不整形を呈する。規模は、北西～南東方向で3.6m、北東～南西方向で3～3.8mを測る。床面は、南西壁際・北西隅・北東隅の掘方を整地し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは8～18cmである。柱穴は、竪穴壁際のSP5802・5803・5807・5808のほか、SP5804など南西側で検出された。カマドは南東壁の北東寄りに造り付けられているが、袖部はまったく遺存しておらず、煙道もわずかな痕跡を残すのみである。燃焼部にあたる位置には、被熱した土師器小型甕(64)が伏せ置かれており、口縁部および体部上半を除く大部分は壊されていたものの転用支脚と考えよう。浅く掘りくぼめられたカマド掘方の範囲は比較的広く、火床下のみならず両袖部下まで及んでいたものと推察される。

ST5351の平面形は整った方形を呈し、規模は南北3.7m、東西3.8mを測る。床面は、壁面際の大部分が整地されているのに対して、内側は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは6～14cmである。柱穴は、竪穴中央よりやや南にずれて位置する主柱穴SP5810・6404のほか、SP5809を確認した。カマドは南壁中央に造り付けられ、灰黄褐色シルトで構築された袖と、煙出しピットを伴う長さ0.5mの煙道を検出した。煙道と同程度の幅しかない狭い燃焼部には焼土面が認められず、底面よりやや上位に須恵器無台環(65)が正位状態で置かれていた。この無台環には被熱痕や煤の付着が一切見られず、カマド廃棄に伴う祭祀的行為を示す可能性がある。このほか、カマド左脇に灰溜め穴と考えられるSP6405、付属土坑SK5845がある。

ST5350の時期は、多数を占める覆土出土土器が9世紀後半まで下らない点や、転用支脚(64)の年代観を勘案すると、9世紀前半～中葉とみて大過ないだろう。ST5350に先行するST5351の時期は、9世紀前半に位置づけられる須恵器無台環(65)がカマド廃棄時のものであり、これとおおむね同時期に比定される黒色土器無台環(67)はカマド左脇の覆土上層から出土したもので、

やや遅る8世紀末頃が妥当であろう。床面から出土した須恵器有台環(66)の年代観とも矛盾しないと考える。

竪穴建物 ST5487 (第90図)

14区北東側、320・360グリッドに位置し、南側に河川SG3801をのぞむ。平面形は整った方形を呈し、規模は南北4.1m、東西4.3mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは14～20cmである。床面上で複数のピットや落ち込みが検出されているが、配置は不規則で確実に柱穴と判断できるものはない。カマドは南壁の東寄りに造り付けられ、燃焼部と地山削り出しの袖を検出した。煙道は確認されず、燃焼部の火床が屋外に向かって段階的に緩やかに上昇しており、燃焼部奥に煙道としての機能を持たせたものと考えられる。

時期は、出土遺物から8世紀前半に位置づけられる。土師器環(71)などは8世紀後半に比定されるが、カマド左脇の覆土上層から出土しており、竪穴の埋没時期を示すものだろう。

竪穴建物 ST5492 (第91図)

14区北端、300・380グリッドに位置し、付近に河川や他の竪穴建物は存在しない。調査区の制限により建物北半は未検出だが、平面形は方形ないし長方形を呈することがわかる。規模は南北2m以上、東西3.5mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは20～30cmである。明確な柱穴は確認されていない。また南壁に2箇所、屋外へ0.3mほど張り出す部分が認められる。このうち東寄りの方は、張り出し部の左右がわずかに内側へ突出しており、前面からは接合関係の良好な土師器甕(81)が出土した。突出部は袖の名残と捉えられ、カマドの可能性が高い。かたや西寄りの方には袖状の突出がなく、出入口施設の可能性を考えたい。

時期は、出土遺物から8世紀前半に位置づけられる。

竪穴建物 ST5631 (第92図)

14区北東側、320・370グリッドに位置し、南東側に河川SG3801をのぞむ。平面形は方形を呈し、規模は北西～南東方向で3.4m、北東～南西方向で3.2mを測る。検出面からの深さは、深いところ(カマド前)で4cmほどしかなく、ごく薄い覆土の範囲で建物の輪郭を確認した。掘方はなく、掘り下げた地山をそのまま床面としている。柱穴もない。カマドは南東壁の北東寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と長さ0.6mの煙道を検出した。火床が一

段掘りくぼめられ、煙道底面はさらに一段深くなる。

遺存状態の悪さを反映して出土遺物に乏しいが、図示した土器の年代観から、ST5631の時期は9世紀中葉頃に位置づけおきたい。

竪穴建物 ST5638 (第93図)

14区南東側、380・360グリッドに位置し、西側に河川SG3801をのぞむ。平面形は方形を呈するが、他の3辺より短い南東辺全体が屋外へ0.6mほど突出しており、規模は北西～南東方向で5.4m、北東～南西方向で4.9m(南東辺3.8m)を測る。床面は、竪穴部四周の掘方を整地し、中央付近は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは12～24cmである。

南東辺の突出は、一見すると翻状施設が存在、ないし異なる竪穴建物の重複を示しているようだが、床面に段差がなく覆土の切り合い関係も認められないことから、竪穴建物の拡張改築を示すものと判断する。その場合、南東辺の突出部分が拡張されたのか、あるいは北東・南西方向に広げられたのかが問題となるが、ここで南東壁中央に認められる0.4mほどの張り出し部に注目したい。張り出し部には径30cmほどのビットSP5843が掘り込まれており、ビット覆土の上に掘方土が施されている点を踏まえると、ビットを伴う張り出し部は竪穴拡張前の出入口施設の可能性が考えられる。すなわち、もともと南東辺の大きさを構築した竪穴部を北東・南西方向に広げるかたちで拡張したものと理解しておきたい。

柱穴は床面上でSP5797が確認されたほか、多数の浅い小ビットが検出されているが、大きさや配置が不規則であり、いずれも竪穴建物の柱穴として機能したか疑問が残る。カマドEL6406は南東壁の北東寄りに造り付けられており、煙出しビットを伴う長さ1.7mの煙道を検出した。燃焼部は明瞭でないが、煙道前0.8mほどの範囲に炭・焼土の広がりが見られ(断面c-c':5層)、燃焼部相当範囲の南西側に瘤状の盛り上がり(断面d-d')が表現されていることから、地山削り出し、ないしシルトで構築された袖が存在したものと想定される。燃焼部と煙道との境には高さ10cmほどの段差が認められ、煙道底面は水平に延びている。また中央部や南寄りに、径40cm前後の地床がEL6407が検出された。EL6406との併用も考えられるが、出入口施設と思われる張り出し部がEL6406と近接している点を考慮すると、EL6407がST5638構築

当初の火処で、EL6406は竪穴拡張後に付設されたものと捉える方が自然だろう。

時期は、出土遺物から8世紀末～9世紀初頭に位置づけられる。

竪穴建物 ST5665 (第94～98図)

14区南東側、370・370グリッドに位置し、西側に河川SG3801をのぞむ。平面形は南北8.8m、東西7.3mの長方形を呈し、馳上遺跡のみならず隣接する西谷地b遺跡を含めた竪穴建物のなかで最大規模を誇る。床面は、竪穴部南半の壁際掘方を整地し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは18～30cmである。

竪穴部北半の床面上には、幅18～30cm、深さ9cmの溝がコの字状に巡る。また南壁際には、浅い段差をなす奥行27～42cmのスペースが東西方向に広がり、この東端屈曲部(奥行66cm)の西辺が上述した溝の東辺とおおむね対応する位置にある。溝と段差で区画された南北6.3m、東西5.4mの長方形範囲が竪穴部内に入れ子状に存在する検出状況から、コの字状に巡る溝はST5665構築当初の壁溝で、竪穴建物の拡張改築を示すものと判断される。

柱穴は竪穴部南半を中心に多数検出され、とくに四隅のSP5817・5820・5834・5840と長辺中央のSP5822・5827、南辺沿いに一列に並ぶSP5835・5837・5839や、拡張部分に位置するSP5842およびこれと対になるSP5829などは、拡張に伴って設けられたものと考えられる。

カマドは南壁に2基造り付けられている。中央よりやや西寄りに設けられたEL5841の方が新しく、燃焼部と石・暗灰黄色シルトで構築された袖、緩やかに上昇しながら屋外へ延びる煙道を検出した。袖の遺存状態は良好でないが、左袖芯材の石列が竪穴南辺から1.4mほど北まで延びており、ここから南に浅く掘りくぼめられた奥行0.7m前後の範囲が燃焼部であろう。燃焼部東側には支脚に転用したと思われる土器器費の下半部(136)が伏せ置かれていた。また火床下には掘方がある。燃焼部に接続する煙道は、北側0.8mほどが屋内におさまるかたちとなる。調査時の所見では、屋外に延びる煙道南端の延長上で検出された南北1.5m、東西0.7mの掘り込み(SK5647)も煙道の続きである可能性が考えられた。この想定にもと

づけば煙道の長さは約5m(堅穴南辺から4.1m)となるが、途切れる手前の煙道底面にピット状の窪みがあり、むしろこれを煙出しピットとみなして、煙道の長さはここまでの1.8m程度と理解した方が妥当だろう。もう1基のカマドEL5668は、南壁西隅に位置する0.4mほどの張り出し部分で、覆土に焼土・炭が含まれることからEL5841に付け替える前のカマド(煙道)跡と判断した。

このほか付属施設として、先に指摘した南壁際の棚状施設や、土坑SK5821・5832・5836・5838が挙げられる。粉々に破砕された土師器片が多数出土したSK5821や、須恵器無台坏(101)・土師器長胴甕(140)などが出土したEL5841左脇のSK5838は、廃棄土坑として機能したのだろう。なおSK5838の覆土上(堅穴床面近く)からは須恵器甕(117)が出土しており、廃棄土坑を埋め戻した後の窪みを裏掘り穴とした可能性が高い。

ST5665の時期は、覆土出土の須恵器坏蓋(96)や須恵器無台坏(98・99)など、8世紀末前後まで遡る土器もみられるが、全体的な遺物の年代観から判断して9世紀中葉前後に位置づけられる。拡張改築前を9世紀第2四半期、改築後を中葉～第3四半期と捉えておく。

堅穴建物 ST6065 (第99図)

16区南西側、560-380グリッドに位置し、南東側に河川SC3278をのぞむ。平面形は方形を呈し、規模は北西～南東方向で3m、北東～南西方向で3.3mを測る。床面は、南西壁際の掘方を整地し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは8～16cmである。南西隅でピットSP6213が検出されたが、明確な柱穴は確認されていない。カマドはなく、南東壁沿いで径30cmほどの地床が検出された。また南東壁沿いの北東寄りに浅く掘りくぼめられた土坑SK6211がある。

時期は、床面出土の須恵器無台坏(146)などの年代観から9世紀前半に位置づけられる。

堅穴建物 ST6071 (第100図)

16区西側、560-380グリッドに位置し、南西方向に2.5m離れてST6065が所在する。堅穴部は確認できず、検出されたのは床掘り土と土坑のみであった。掘方は中央付近と北東隅を残して掘り込まれ、検出した状況での規模は南北3m、東西3.4m程度である。掘り南東隅では径30cmほどの焼土面が検出され、ここにカマドが造り付けられた

と考えられる。カマド右脇に当たる南側の土坑SK6218からはロクロ成形の土師器甕(158)が出土している。また東側の土坑SK6215は、他の箇所を確認された掘方埋土と同質の土層下から掘り込まれており(断面b-b)、他の地点より掘方が一段深いか、あるいは床下土坑の可能性が考えられる。

遺存状態の悪さを反映して出土遺物に乏しく、帰属時期は判然としない。ロクロ成形の土師器甕を評価すれば9世紀代に位置づけられようが、小片であり断定はできない。

堅穴建物 ST6073 (第101図)

16区西端、550-390グリッドに位置し、北東方向に2m離れてST6074が所在する。調査区の制限により建物北東部の検出にとどまるが、平面形は方形ないし長方形を呈することがわかる。規模は北西～南東方向で1.2m以上、北東～南西方向で4.4mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは32～40cmである。検出範囲で柱穴は確認されていない。カマドは北東壁の北寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖、長さ0.6mの煙道を検出した。火床下には掘方が存在する。カマド左右に浅い土坑があり、右脇のSK6217は東西に細長い楕円形を呈する。調査時点では、このSK6217の範囲だけ堅穴が東側へ張り出す形状で捉えられたようだが、張り出し部分全体がSK6217で、ST6073を掘り込む土坑であった可能性も考えられる。

出土遺物に乏しく、帰属時期は不明である。

堅穴建物 ST6074 (第102・103図)

16区北西側、550-380グリッドに位置し、東方向に6mほど離れてST6084・6096が所在する。堅穴部の西壁・北西隅は残っておらず、覆土の範囲で輪郭を検出した。平面形は方形を呈し、規模は南北4.5m、東西4.2m以上を測る。床面は、西壁際と北東隅の掘方を整地し、それ以外は掘り下げた地山を床面とする。検出面から床面までの深さは8～18cmである。柱穴は、堅穴部北半でSP6195・6214を検出したが、南半ではカマド前的小ピットが可能性を残すものの、対応する位置に明確な柱穴は見出したい。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と石・暗灰黄色シルトで構築された袖、長さ0.6mの煙道が検出された。左袖には袖石抜取穴と見られる小ピットがある。また燃焼部中央には支脚石が据えられ、火床下には掘方がある。

時期は、出土遺物から9世紀前半に位置づけられる。

竪穴建物 ST6084、掘立柱建物 SB6403、性格不明遺構 SX6188 (第104・105図)

16区北端、550-370グリッド付近に位置し、東側に河川 SG3773 をのぞむ。ST6084 西側と SX6188 東側は重複しており、前者の方が新しい。また SB6403 は、建物の北東側を構成する柱穴 SP6082・6083 が ST6084 覆土を掘り込んでおり、さらに新しい。

ST6084 は、第3次調査で竪穴部南半を検出したが、北側に接続する7区を調査した第2次調査において、竪穴部北半が確認されていなかった。これは遺存していた竪穴部が浅く、その存在に気づかないまま表土とともに掘り下げてしまったことによる。平面形は方形ないし長方形を呈し、規模は南北3m以上、東西5.2mを測る。床面は、東側および西側の掘方を整地し、中央部分は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは9～12cmである。柱穴は南西側で SP6207 が確認された。カマドは南壁の東寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と黄灰色シルトで構築された袖を検出した。燃焼部内にはカマド天井の崩落土が堆積していた。またカマド右脇の南壁際には、浅い段差をなす奥行12～18cmのスペースが東西方向に広がり、棚状施設と判断される。

SB6403 は、桁行3間・梁行2間の側柱建物（主軸方位 N-5°-E）で、柱間寸法は、桁行が北から1.8m（6尺）・1.8m（6尺）・2.25m（7.5尺）、梁行が2.25m（7.5尺）等間である。側柱10本のうち、北西隅の SP3826 は7区南壁際、東隣の SP6160 は16区北壁際にあつて柱掘方の一部が未検出で、柱痕跡も確認されていない。柱掘方の平面形は、SP6077 がやや不整形だが、長方形（SP6079・6083）ないし方形を基調とし、断面形は方形ないし逆台形（SP6080・6081）である。柱掘方の平面規模は、長軸72～102cm・短軸60～80cmを測るが、南西隅の SP6078 のみ小さく50cm程度である。検出面からの深さは30～50cmのものも多く、西面の SP6076・6077 と北面の SP6083・6160 は60～70cmとやや深い。柱痕跡は直径18～30cmの円形で、SP6077・6079 の上面には柱取穴がみられる。また SP6076・6082 の底面には地下式礎石が据えられていた。

ST6084 の時期は、出土遺物から9世紀初頭に位置づけられる。覆土出土の坏（180～182）は床面出土土器

より古く8世紀後半に比定でき、SX6188に含まれていた土器が混入したものと考えられる。

SB6403 の時期は、重複関係から9世紀初頭の ST6084 に後続することが明らかである。また西側に近接する9世紀前半の ST6074 と同時併存も考えたいので、9世紀後半に位置づけるのが妥当であろう。

竪穴建物 ST6096、土坑 SK6190、溝 SD6093・6164 (第106～108図)

16区北西側、550-370グリッドに位置し、北西方向に2.5m離れて ST6084 が隣接する。平面形は方形を呈し、規模は南北5m、東西4.6mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは4～12cmである。柱穴は、SP6186 が確認されたほか、多数の浅い小ピットが検出されているが、大きさや配置が不規則であり、いずれも竪穴建物に伴わない可能性が高い。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖を検出した。カマド左脇から出土した石材は袖構築材であろう。竪穴部中央を南北方向に走る近世の溝 SD6093 によって燃焼部東半が壊されており、煙道の有無は定かでない。このほか、SK6187・6189・6191 などは付属土坑と考えられるが、南西隅の SK6190 は ST6096 より後に掘り込まれた土坑で、土坑内からカマド袖の構築材と考えられる石材が出土している。

遺存状態の悪さを反映して出土遺物に乏しいが、図示した土器の年代観から、ST6096 の時期は9世紀中葉頃に位置づけておきたい。

竪穴建物 ST6222、土坑 SK6220・6221 (第109・110図)

14区北西側、340-390グリッドに位置し、南東側に河川 SG3801 をのぞむ。平面形は方形を呈し、規模は南北5.1m、東西5.2mを測る。床面はカマド前など部分的に貼床が施されるが、基本的に掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは24～30cmである。柱穴は、床面上で SP6247～6249 が検出された。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖、長さ0.2mの煙道を検出した。

ST6222 の北東隅に SK6220、南東隅に SK6221 が重複して掘り込まれており、どちらも ST6222 より新しい。SK6220 は断面が漏斗状になる底面の小さな円形土坑で、SK6221 は長軸3mを測る長方形の大型土坑である。

ST6222 の時期は、須惠器蓋（197）の出土により

ST6226とおおむね同時期の廃絶・埋没が想定される点、および9世紀後半の土師器無台皿(458)を包含するSK6221に掘り込まれている点から、おおむね9世紀初頭頃と想定される。カマド前から一括出土した土師器長胴甕(199~203)の形態も当該期の特徴と総合的である。

竪穴建物 ST6223・6224 (第111~113図)

14区北西側、320-400・320-410グリッドに位置し、南方向に7.5m離れてST6243~6245が所在する。ST6223北西隅とST6224南東隅が重複しており、南東側に位置する前者の方が新しい。また南北方向に走る竪状遺構SD6408~6410がST6223・6224と重複しており、前者の方が後者より古い。

ST6223の平面形は方形を呈し、規模は南北3.9m、東西3.6mを測る。床面は、掘方全体を灰黄色シルトで薄く整地しているほか、西側や中央付近に白色粘土の貼床を施している。検出面から床面までの深さは6~9cmで、覆土全体に炭・焼土が含まれることから焼失建物と考えられる。とくに北側の床面上では、長軸を建物の中心に向けた炭化材が多数出土した。炭化材の層厚はすべてシオジ節で(第IV章7参照)、出土状況から垂木などの屋根組材と考えられる。柱穴はSP6252~6256が検出されているが、配置が不規則ですべてが竪穴建物に伴うか疑問が残る。中央付近に並ぶSP6253・6254は棟持柱と推定される。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖、長さ0.3mの煙道を検出した。燃焼部西寄りに倒れていた石材はカマド架構材だろう。このほか、南壁側のカマド左脇にSK6250、南東隅にSK6251といった浅い土坑が認められた。

ST6224の平面形は方形を呈し、規模は南北5.2m、東西5mを測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは13~30cmである。柱穴・ピットは、SP6384~6390の7基を検出し、大きさ・配置からSP6387・6388が主柱穴だろう。中央のSP6386・6389は底面が広く平坦で、覆土に焼土を含む点などを勘案すると、建物の柱穴として機能したか疑わしい。なお南東隅のSP6384覆土にも焼土が含まれるが、これは焼失したST6223の覆土が混入したものだろう。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と石・灰褐色シルトで構築された袖、長さ1.1mの煙道を検出した。

出土遺物の年代観を踏まえ、ST6223の時期は8世紀

末、ST6224の時期は8世紀後半に位置づけられる。

竪穴建物 ST6225 (第114図)

14区西端、360-410グリッドに位置する。調査区の制限により建物西半は未検出だが、南北3.9mの方形ないし長方形を呈することがわかる。検出範囲では床掘方の大部分を整地しており、検出面から床面までの深さは4~8cmである。柱穴はSP6237・6238を検出し、カマドないしは確認されていない。また建物中央にあたる調査区西壁際で土坑状の落ち込みSK6236が確認されているが、掘方の一部である可能性も否定できない。

出土遺物に乏しく、帰属時期は不明である。

竪穴建物 ST6226 (第115・116図)

14区北西側、330-380・330-390グリッドに位置し、南東側に河川SG3801をのぞむ。平面形は方形を呈し、規模は南北3.9m、東西4.4mを測る。床面は、中央南寄りに白色粘土の貼床を施し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは20~28cmである。南壁際の床面上でSP6339を確認したが、大きさや配置から竪穴建物の柱穴とは見なしがた。柱穴はないと考えられる。カマドは南壁の西隅に造り付けられ、燃焼部の焼土面と袖石抜取穴SP6340・6341を検出した。燃焼部のやや西寄りに被熱した黒色土器無台環(229)が伏せ置かれ、出土状況から支脚と組み合わせて奥の高さ調整に用いられた可能性が高い。

時期は、黒色土器無台環(229)の年代観から8世紀末に位置づけられる。

竪穴建物 ST6228、土坑 SK6375 (第117・118図)

14区南西側、350-400グリッド付近に位置し、南西側にST6225、東側にST6229が隣接する。ST6228の北側に、ごく浅い掘り込みSK6375が重複しており、検出状況からST6228の方が新しいことが確認されている。

ST6228の平面形は西辺がやや長い台形を呈し、規模は南北3.2~4m、東西3.6mを測る。床面は、北壁際の掘方を整地し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは26~30cmである。柱穴はない。カマドは南壁の東寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖、煙出しピットを伴う長さ1.1mの煙道を検出した。左袖には芯材として据えられた石が2つ遺存しており、両袖部に見られるピット状の窪みも袖石抜取穴であろう。また右袖の上面から比

較的大きな土師器残片が出土しており、袖部芯材か、あるいはカマド廃棄に伴い敷設された可能性が考えられる。このほか、カマドより西側の南壁から屋外へ張り出すかたちで東西幅 1.3m、奥行 0.4m の棚状施設があり、また付属土坑と考えられる SK6280・6281・6283・6284・6286・6295・6308 などが確認された。

時期は、出土遺物から 9 世紀前半に位置づけられる。土師器環 (233) は一段階古く、回転系切り未調整の須恵器無台杯 (232) は逆に新しい時期に比定されるが、どちらも覆土出土の破片資料で混入したものであろう。

竪穴建物 ST6229 (第 119 図)

14 区南西側、350-400 グリッド付近に位置し、西側に ST6228 が隣接する。竪穴壁が東壁および北壁・南壁の東側しか遺存していないが、壁際をめぐる床掘方が南西隅で屈曲し、平面形は方形を呈すると考えられる。検出状況での規模は、南北 3.8m、東西 4.2m 以上を測り、検出面から床面までの深さは 4～8cm である。床面相当範囲に小ピットが 7 つ確認されたが、竪穴建物に伴う柱穴か定かでない。カマドは東壁の北側に造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの右袖、長さ 1.2m の煙道を検出した。火床は一段掘りこぼられている(断面 f-f)。

時期は、出土遺物から 9 世紀後半に位置づけられる。

竪穴建物 ST6230、区画溝 SD6240 (第 120 図)

14 区南西側、350-390 グリッドに位置し、東側に河川 SG3801 をのぞむ。北東側が中世の区画溝 SD6240 によって壊されている。平面形は方形を呈し、規模は南北 4.3m、東西 3.8m を測る。床面は南西隅の掘方を整地し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは 8～16cm である。柱穴はない。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖、長さ 0.5m の煙道を検出した。右袖は遺存しておらず、壁際のピットは袖石抜取穴の可能性がある。また火床下には掘方が見られる。このほか、南西隅に付属土坑 SK6352 がある。

時期は、出土遺物から 9 世紀中葉に位置づけられる。

なお ST6230 覆土から焼骨片 1 点が出土し、ヒトの長骨(四肢骨)骨幹と同定された(第 4 章 9 参照)。同試料を用いて AMS 年代測定をおこなったところ、出土人骨の死亡時期が紀元前 4 世紀前半～2 世紀初頭という結果が得られた(第 4 章 6 参照)。すなわち弥生時代中期の境

人骨であり、ST6230 の屈曲時期より大きく遡る。焼人骨が ST6230 埋没時に混入したことは明らかだが、馳土遺跡で弥生時代に関わる遺物は 1 区南東側の遺構外で出土した弥生末～古墳初期の土器小片 3 点(1306～1308)のみであり、近隣の遺跡にも該当するものは見当たらない。関連遺構が未検出である可能性を考えておきたい。

竪穴建物 ST6231 (第 121・122 図)

14 区北西側、330-390 グリッドに位置し、南側に ST6222、東側に ST6226 が隣接する。平面形は方形を呈し、規模は南北 4.9m、東西 4.7m を測る。床面は南西側に貼床を施し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは 18～34cm である。柱穴は 5 基確認し、SP6274・6276・6278・6365 が主柱穴であろう。カマド EL6411 は南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と石・黄褐色シルトで構築された袖、煙出しピットを伴う長さ 0.6m の煙道を検出した。また EL6411 に加え、竪穴中央に 1×0.7m の地床が EL6412 を併設し、近くには付属土坑 SK6275 がある。

時期は、出土遺物から 9 世紀前半に位置づけられる。

竪穴建物 ST6233・6234 (第 123・124 図)

14 区南西端、370-410 グリッド付近に位置し、東方向に 5m 離れて ST6235 が所在する。ST6233 の煙道南端と ST6234 の北西隅が重複しており、北側に位置する前者の方が古い。

ST6233 の平面形は長方形を呈し、規模は南北 4.2m、東西 3.4m を測る。床面は北壁際の掘方を整地し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは 12～18cm である。柱穴は、竪穴中央に位置する SP6270 のほか、小ピットが 3 基ほど確認されたが、配置上不規則で竪穴建物に伴うか定かでない。カマドは南壁の東寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖、長さ 0.6m 以上の煙道を検出した。火床下には掘方があり、また燃焼部中央に支脚石が据えられている。このほか付属土坑として、南東隅に SK6272、中央よりやや西寄りに SK6271 がある。

ST6234 は、東西方向に走る 13 条の畝状遺構によって南東側を大きく壊されており、竪穴南壁の状況がやや不明であるが、平面形は正方形を呈すると判断でき、一辺 4.8m を測る。床面は、北西隅を中心とする北壁際の掘方を整地し、南東側に貼床が

施されるほかは掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは10～20cmである。床面上では多数の小ピットが検出されたが、竪穴建物に伴う明確な柱穴は定かでない。カマドは南壁中央のやや東寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と長さ1.5m以上(1.8m未満)の煙道を検出した。火床は一段掘りくぼめられ、火床下には掘方がある。このほか付属土坑として、カマド脇にSK6294・6307、東壁沿いにSK6292・6293がある。

出土遺物から、ST6233の時期は9世紀前半、ST6234の時期は9世紀後半に位置づけられる。

竪穴建物 ST6235 (第125図)

14区南西側、370-400グリッドに位置し、東側に河川SG3801をのぞむ。平面形は方形を呈し、規模は南北3.4m、東西3.5mを測る。床面は、中央付近に白色粘土の貼床を施し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは8～16cmである。床面上に多数の小ピットが検出されたが、配置が不規則で竪穴建物に伴う定かでない。カマドは南壁の西隅に造り付けられ、燃焼部の焼土面と地山削り出しの袖、長さ0.8m以上(1.2m未満)の煙道を検出した。火床は一段掘りくぼめられている。

時期は、床面出土の須恵器土台環(300)の年代観から9世紀前半に位置づけられる。

竪穴建物 ST6239 (第126・183図)

14区西端、340-410グリッドに位置し、南側を中世の区画溝SD6240によって大きく壊されている。また調査区の制限により西側は未検出で、竪穴の一角を検出するにとどまる。竪穴の底面は平坦で、検出部分の形状から方形ないし長方形を呈すると考えられることから、竪穴建物と判断した。規模は、北西～南東方向で4.7m以上、北東～南西方向で2.6m以上を測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面から床面までの深さは16cmである。調査範囲で柱穴・カマドなどは確認されなかった。

時期は、出土遺物から8世紀前半に位置づけられる。土師器環(305)はやや新しい時期に下ると考えられるが、破片資料であり、混入の可能性がある。

竪穴建物 ST6243 ～ 6245 (第127 ～ 129図)

14区北西側、340-400・330-400グリッドに位置し、東側にST6222が隣接する。ST6243の東側にST6244、北西側にST6245が重複しており、古い方からST6244、

ST6245、ST6243の順となる。

3棟で最も新しいST6243の平面形は方形を呈し、規模は南北4.8m、東西4.6mを測る。床面は、南半を中心貼床を施し、それ以外は掘り下げた地山をそのまま床面としている。北半の床面上には礫が比較的に広がるが、人為的に敷設した形跡は見られず、地山に含まれる礫が露出したものであろう。検出面から床面までの深さは18～30cmである。北側の床面上でSP6296・6297、東壁際でSP6298、南壁際でSP6338を検出したが、いずれも竪穴建物の柱穴として機能したか疑わしい。カマドは南壁の東寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と石・褐灰色粘質シルトで構築された袖、長さ0.7mの煙道を検出した。火床は緩やかに上昇しており、中央付近に3つの支脚石が据えられている。カマド内から出土したコナラ節の炭化材は薪炭材として用いられたものと考えられる(第IV章6参照)。またカマド右脇を屋外に1mほど張り出して、東西幅0.7m、奥行0.5mの浅い段差をなす棚状施設が設けられており、ここに須恵器甕(312)が据え置かれていた。なお床面上で検出したカマド右脇の土坑SK6299があると棚状施設が機能しないため、SK6299は床下土坑であろうと推定される。

3棟で最も古いST6244の平面形は方形を呈し、規模は南北4.9m、東西2.4m以上を測る。掘り下げた地山をそのまま床面とし、検出面からの深さは12～15cmである。床面上には全体的に炭層(断面b-b'・c-c':8層)が広がり、建物使用時の状況を示している。柱穴・カマドなどは確認されていない。

ST6245の平面形は方形を呈し、規模は南北5.5m、東西5.4mを測る。床面は、東側の掘方を少し整地したうえで全体的に貼床を施している。検出面から床面までの深さは20～33cmである。主柱穴4本(SP6393～6396)は竪穴中央よりやや北寄りに位置し、柱掘方の断面形は方形ないし楕円状を呈する。カマドは南壁の西寄りに造り付けられ、燃焼部の焼土面と長さ1.2mの煙道を検出した。なお、ST6245の北東側には、主軸方位や北辺の位置を描いた竪穴状の土坑SK6232があり、両者の間隔が深いと考えられる。SK6232の詳細については、後述する土坑の項を参照されたい。

出土遺物の年代観を踏まえ、ST6243の時期は9世紀前半、ST6244の時期は8世紀後半、ST6245の時期は

8世紀末に位置づけられる。

竪穴建物 ST7000 (第130～132図)

甌上遺跡の竪穴建物のなかで最北端にあたる19区中央、280-380グリッドに位置し、竪穴建物のまとまりとしては西谷地b遺跡南端の一群に含めるべきだろう。平面形は方形を呈し、規模は北西～南東方向で5.6m、北東～南西方向で5.5mを測る。床面は大部分の掘方を整地し、南東側は掘り下げた地山をそのまま床面としている。検出面から床面までの深さは6～12cmである。柱穴は床面上で多数検出されており、とくにSP7877・7882・7883・7886の位置は主柱穴配置にふさわしいが、いずれも浅く小規模である。カマドは南東壁で2基検出した。南東壁の北東寄りに造り付けられたEL7874は、燃焼部の焼土面と長さ2.2mの煙道を検出した。火床は浅く掘りくぼめられている。南側に散乱していた粘土は、後世の削平・掘乱によって壊されたEL7874の構築材と考えられる。南東壁の南西寄りに造り付けられたEL7875は、燃焼部の焼土面と長さ0.5mの煙道を検出した。なお2基のカマドについては、ともに遺存状態が悪く、先後関係を確認できなかった。

時期は、出土遺物から8世紀後半に位置づけられる。

ST7000の覆土からは焼骨6点が出土しており、緻密質の厚さから哺乳類四肢骨と判断されたが、小片のため具体的な動物種・部位の同定には至っていない(第IV章1参照)。食糧資源等に利用された後、焼かれたものと推定される。

竪穴建物 ST8007・8014 (第133・134図)

22区南東端、310-340グリッドに位置し、河川SG8001の堆積土下で検出された。調査区の制限によりST8007は西端、ST8014は北西端を検出するにとどまった。ST8007とST8014は南北に重複しており、北側に位置する前者の方が新しい。

ST8007の平面形は方形ないし長方形を呈すると考えられ、規模は南北3.5m、東西1.2m以上を測る。床面は北側の掘方を整地したうえで貼床を施しており、検出面から床面までの深さは16～20cmである。調査範囲に柱穴・カマドなどは確認されなかった。なお北壁外にスロープ状の掘り込み(断面a-a':10層)が確認された。竪穴覆土とは異なり、掘方埋土(8・9層)と同質の土が充填されていることから、壁構築土と判断した。

ST8014の平面形は、検出範囲が狭いため詳細不明だが、おそらく方形ないし長方形を呈すると考えてよいだろう。規模は南北2m以上、東西1.7m以上を測る。床面は掘方を整地したうえで貼床を施しており、検出面から床面までの深さは20～24cmである。柱穴は確認されていない。カマドは北壁の西寄りに造り付けられ、屋外に張り出す燃焼部の焼土面と長さ0.6mの煙道を検出した。カマド袖などの上部構造はST8007の構築によって失われているが、火床がST8014の床掘方よりも深く掘りくぼめられていたため、調査で確認することができた。なお甌上遺跡で確実な北カマドの事例はST8014が唯一で、隣接する西谷地b遺跡南端のST2776(山形理文2015)とあわせ、希少な存在と言える。

ST8014の時期は、出土遺物から9世紀前半に位置づけられる。ST8007は出土遺物に乏しいが、重複関係からST8014に後続することが明らかなので、9世紀後半に帰属するものと考えられる。

B 古代の掘立柱建物

掘立柱建物は12棟を確認し、このうちSB3294・6403については重複する竪穴建物とともに既述している。以下では残り10棟について取り上げる。
掘立柱建物 SB3647・4334、土坑 SK3169・3183、性格不明遺構 SX3185 (第135～137図)

4区および7区東端、500-340・510-340グリッド付近に位置し、南側に河川SG3681の屈曲点をぞむ。SB3647は7区東壁端で確認され、SB4334、SK3169・3183、SX3185は4区西側で重複して検出された。SB3647は南北方向に並ぶ柱穴4本(SP3643～3646)を検出するにとどまるが、SB4334と主軸方位・柱間寸法が一致することから、単なる掘立柱列(柵)ではなく掘立柱建物を構成する柱穴と判断した。SB3647とSB4334が同一の掘立柱建物である可能性も考えたが、SP3187から4区西壁までの間(約3m)に柱穴がなく、間隔が空きすぎている。浅い柱穴があった可能性もなくはないが、同じ北面でSP3196なども検出されており、痕跡すら認められないSP3187の西側にはやはり柱穴が存在しないと判断した方がよいだろう。またSB4334を構成する柱穴の底面は、標高238.5m付近にまとまる傾向がみられるが、SB3647の柱穴底面はこれより0.2mほど高い位置

にある。SB3647はSB4334の西側に隣接して建てられた、関連性の高い別の掘立柱建物と捉えておく。SK3169はSB4334南東側のSP3168に、SK3183は北西側のSP3187に、SX3185は南面梁行のSP3203に、それぞれ掘り込まれており、SB4334の方が新しい。

SB3647は桁行3間の掘立柱建物(主軸方位N-1°-E)で、梁行は4・7区間の未調査部分におさまると捉えられるので、1間ないし2間と考えられる。柱間寸法は、桁行が北から2.4m(8尺)・1.65m(5.5尺)・2.4m(8尺)で、梁行は1間なら2.4m(8尺)、2間なら1.65m(5.5尺)等間であろう。柱掘方の平面形は南西側のSP3646が円形、残りの3本が不整L字形を呈し、断面形は方形である。平面規模は、長軸120～160cm、短軸72～104cmと比較的大型であり、検出面からの深さは48～60cmである。4本の柱穴にはすべて柱根が遺存しており、直径16～32cmの円形である。なお、SP3644・3645柱根について樹種同定・AMS年代測定を実施したところ、どちらもコナラ節で、最終形成年輪を含むSP3644の年代は680-770 cal AD(95.4%)という結果が得られた(第IV章6・7参照)。

SB4334は桁行3間・梁行2間の側柱建物(主軸方位N-1°-E)で、柱間寸法は、桁行が北から2.4m(8尺)・1.65m(5.5尺)・2.4m(8尺)、梁行は2.4m(8尺)等間である。柱掘方の平面形は円形ないし楕円形のものが多いが、SP3168・3201は方形、SP3178は長方形を呈する。掘方断面形は方形ないし逆台形を基調とし、SP3184は一辺をスロープ状に、SP3178は階段状に掘り下げている。平面規模は、直径48cmのSP3203が例外的に小さく、ほかは長軸88～136cm、短軸72～112cmを測る。検出面からの深さは40cm(SP3203)から76cm(SP3178)までばらつきがある。SP3178・3184・3201の3本で直径16～20cm程度の柱根が遺存していたが、他の柱穴では柱痕跡を含め認められない。なお、SP3178・3184柱根について樹種同定・AMS年代測定を実施したところ、前者はコナラ節で695-700 cal AD(0.8%)・710-745 cal AD(23.3%)・764-881 cal AD(71.2%)、後者はムクノキで729-736 cal AD(2.4%)および768-884 cal AD(93.0%)という暦年代結果が得られた(第IV章6・7参照)。どちらも最終形成年輪が現っていないので古木効果の影響を考慮する必要がある。

なお、SB4334の北西側に位置するSK3183は、南側がSB4334の桁行に平行する溝状に伸びており、長さ6m、幅40～80cmを測る。またSB4334の東側に広がる性格不明遺構SX3181も、西縁がSB4334の桁行に平行する直線状を呈しており、東西両側に配した雨落溝の痕跡である可能性が考えられる。

SB3647とSB4334は、関連性の高さから同時期の所産と考えられ、最終形成年輪を含むSP3644柱根のAMS年代測定結果である7世紀後半～8世紀後半が第一の指標となる。SB4334を構成するSP3178・3184柱根の測定結果を踏まえると、両掘立柱建物の始末時期は8世紀後半と捉えることが妥当だろう。SB4334に掘り込まれるSK3183からは8世紀中葉頃に位置づけられる土師器(395～399)が出土しており、矛盾しない。なお、SK3183覆土中から出土したオニグルミ核・クリ果実片のAMS年代測定結果は、前者が774-895 cal AD(90.5%)および928-941 cal AD(4.9%)、後者が773-889 cal AD(95.4%)で(第IV章6参照)、出土土器の年代観と齟齬をきたす。出土土器の一括性を評価し、オニグルミ核・クリ果実片は生物擾乱や土中のクラックに沿って落ち込むなどと混入したものと判断する。

掘立柱建物 SB4332 (第138・139図)

6区南西側、430-390グリッド付近に位置し、東方向へ17m離れた位置に河川SG3320・3801合流点がある。桁行3間・梁行3間の側柱建物(主軸方位N-8°-E)だが、北面の梁行が2間の変則的な柱配置となっている。柱間寸法は、桁行が北から2.1m(7尺)・2.1m(7尺)・1.65m(5.5尺)、北面梁行が2.25m(7.5尺)等間、南面梁行が1.5m(5尺)等間である。柱掘方の平面形は、長方形(SP4037・4044)ないし方形・隅丸方形を基調とするが、桁行のSP4049・4058と南面梁行のSP4061・4078は円形に近い。掘方断面形はSP4044・4058・4064が方形、SP4034・4037・4045・4049・4075が逆台形ないし楕円状を呈する。柱掘方の平面規模は、梁行の3本(SP4033・4061・4078)が長軸36～52cmと小さいのに対して、桁行の柱穴は長軸66cmのSP4058を除き、長軸80～120cm、短軸60～100cmを測る。検出面からの深さは、30cm前後から60cm程度までばらつきがあり、一様でない。柱穴6本で確認した柱根の形状は、直径16～28cmの円形である。

また、西面梁行の西側に近接して溝 SD4050 が検出されている。長さ 5.4m、幅 40 ～ 60cm を測り、位置関係から SB4332 に伴う雨落溝の可能性が考えられる。

南東隅の柱穴 SP4045 が竪穴建物 ST4003 覆土を掘り込んでおり、ST4000・4003 廃絶後の 9 世紀後半に位置づけられる。

掘立柱建物 SB4333 (第 140・141 図)

7 区北西側、480・380・490・380 グリッドに位置し、河川 SG3320 堆積土上で検出された。桁行 4 間・梁行 2 間の竪柱建物 (主軸方位 N-14°E) で、柱間寸法は、桁行・梁行とも 1.95m (6.5 尺) 等間である。柱穴の遺存状態はいずれも良好でなく、柱掘方の下部 (深さ 15 ～ 45cm) を検出するにとどまり、柱痕跡を残すものもない。柱掘方の平面形は不整楕円形のものも多く、一部隅丸方形のもの (SP3434・3436・3439) もある。掘方断面形は方形ないし楕円状を呈する。柱掘方の平面規模は、南側の柱穴 SP3432・3433・3442・3443 がやや大きく長軸 114 ～ 150cm、短軸 90 ～ 108cm を測り、最も小さい SP3430 が 48×60cm である。

また、北面梁行の柱穴 SP3438・3439 の北側に近接して溝 SD3448、西面桁行の柱穴 SP3431 の西側に近接して SD3427、南西隅の柱穴 SP3433 の西側に近接して SD3428 が検出されている。長さ 2.2 ～ 2.8m、幅 25 ～ 45cm を測り、位置関係から SB4333 に伴う雨落溝の可能性が考えられる。

SB4333 の時期は、河川 SG3320 埋没後の 9 世紀後半に位置づけられる。

掘立柱建物 SB4335 (第 142 ～ 144 図)

7 区中央、500・370・510・370 グリッド付近に位置し、西方向に 10m 離れて河川 SG3320、南側に SG3681 をのぞむ。桁行 7 間・梁行 3 間の大規模柱建物 (主軸方位 N-1°E) で、南面梁行は 1 間となっているが、間に浅い柱穴などが存在した可能性がある。柱間寸法は、桁行が北から 2.4m (8 尺)・2.4m (8 尺)・2.1m (7 尺)・2.1m (7 尺)・2.1m (7 尺)・2.1m (7 尺)・2.1m (7 尺)、梁行が 2.4m (8 尺) 等間である。柱掘方の平面形は、他の遺構との重複関係から判然としにくいものが多いが、不整長方形 (SP3358・3370・3376・3425・3504・3638) ないし方形 (SP3356・3372・3386・3524) を基調とするようである。掘方断面形は方形ないし楕円状を呈する。

柱掘方の平面規模は、不整長方形のもので長軸 200 ～ 250cm、短軸 100 ～ 120cm 前後、方形基調のもので長軸 160cm 前後、短軸 120cm 前後のものが多いが、梁行の SP3372・3503 はやや小振りで 100cm 前後である。検出面からの深さは、40 ～ 88cm を測る。柱痕跡は柱穴 2 本で確認し、直径 50cm 前後の円形である。

柱穴 SP3425 から出土した須恵器無台杯 (354) は、9 世紀初頭に位置づけられる。

掘立柱建物 SB6401 (第 145・146 図)

14 区南東側、360・360 グリッド付近に位置し、西側に河川 SG3801 をのぞむ。桁行 3 間・梁行 3 間の柱建物 (主軸方位 N-10°E) で、柱間寸法は桁行が 2.1m (7 尺) 等間、梁行が西から 1.8m (6 尺)・1.5m (5 尺)・1.8m (6 尺) である。柱掘方の平面形は方形ないし不整方形を基調とするが、SP5719 は円形、SP5725 は楕円形を呈する。また掘方断面形は方形を基調とするが、南東側の SP5717 と北西隅の SP5724 は楕円状を呈する。柱掘方の平面規模は 90cm 前後を基本とし、大きいものでは 117×93cm の SP5724 や 105×96cm の SP5718、小さいものでは 60cm 前後の SP5721 や 72cm 前後の SP5719・5722 が挙げられる。検出面からの深さは、42 ～ 72cm である。12 本すべての柱穴で確認した柱痕跡の形状は、直径 15 ～ 27cm の円形である。

柱穴から出土した須恵器坏片 (356 ～ 359) は 9 世紀前半～中葉に位置づけられる。南側に隣接する 9 世紀前半の竪穴建物 ST5350 とは時期を異にする可能性が高いと考えられ、9 世紀後半に位置づけるのが妥当であろう。

掘立柱建物 SB6402 (第 147・148 図)

14 区南東端および 12 区南西端、360・350 グリッドに位置し、東側に隣接して主軸方位を揃えた SB6401 が並ぶ。調査区の制限により北西側および南東側の一部が未確認だが、検出部分から桁行 5 間・梁行 3 間の柱建物 (主軸方位 N-13°E) と判断できる。柱間寸法は、桁行が北から 1.8m (6 尺)・1.8m (6 尺)・2.25m (7.5 尺)・2.25m (7.5 尺)・1.8m (6 尺)、梁行が 1.5m (5 尺) 等間である。柱掘方の平面形は、方形ないし長方形を基調とするが、SP5368 は円形を呈する。また掘方断面形は方形を基調とするが、SP5364・5716 は楕円状を呈する。柱掘方の平面規模は、長軸 84 ～ 108cm、短軸 57 ～ 87cm を測り、検出面からの深さは、30 ～ 45cm である。検出した柱穴

のうちSP5253を除く9本で柱痕跡を確認した。柱痕跡の形状は、直径15～42cmの円形ないし楕円形である。

軸を描えるSB6401と同時期の可能性が高く、9世紀後半に位置づけられる。

掘立柱建物 SB7870 (第149・150図)

19区中央北寄り、270-380グリッドに位置し、南東側に隣接して竪穴建物ST7000が所在する。桁行2間・梁行1間の側柱建物(主軸方位N-4°-W)で、柱間寸法は桁行が1.8m(6尺)等間、梁行が2.1m(7尺)である。柱掘方の平面形は円形ないし楕円形で、断面形は方形を基調とする。柱掘方の平面規模は50cm前後を測り、検出面からの深さは30～38cmである。3本の柱穴で確認した柱痕跡の形状は、長軸24cm前後の楕円形である。

掘立柱建物 SB7871 (第151～153図)

19区北西側、270-410グリッドに位置し、東方向に5m離れてSB7887が所在する。桁行3間・梁行1間の側柱建物(主軸方位N-4°-W)だが、梁行の距離が広すぎるので、間に浅い柱穴などが存在した可能性が高いだろう。柱間寸法は、東面桁行が1.8m(6尺)等間、西面桁行が北から1.5m(5尺)・1.8m(6尺)・2.1m(7尺)で、梁行は4.6m前後なので1.5m(5尺)等間などが想定される。柱掘方の平面形は、SP7567・7572・7573が不整楕円形を呈し、そのほかは方形ないし長方形を基調とする。また掘方断面形は方形ないし逆台形を基調とし、SP7568・7574は一辺を階段状に掘り下げている。柱掘方の平面規模は、南西隅のSP7571が最も大きく120×94cm、北東隅のSP7570と南東隅のSP7641が小振りで長軸75cm前後を測り、その他は長軸88～104cm、短軸68～80cmである。検出面からの深さは、36～66cmである。柱痕跡は8本すべてで確認し、直径14～28cmの楕円形を呈する。

隣接する西谷地b遺跡の調査報告で、軸がほぼ真北を向く掘立柱建物の時期を9世紀後半と想定しており(山形理文2015)、SB7871も当該期に属すると捉えられる。

掘立柱建物 SB7887 (第154・155図)

19区北端、270-400グリッドに位置し、西方向に5m離れてSB7871が所在する。調査区北壁際で確認され、建物北半は西谷地b遺跡第1・2次調査でSB3286として検出されている(山形理文2015)。西谷地b遺跡の調査では南北方向が桁行と想定されたが、調査の結果、南

へは1間のびるにとどまり、桁行・梁行とも2間の東西棟側柱建物(棟方向に対する直交軸方位N-15°-W)と判明した。北面桁行は1間となっているが、対応する南側のSP7329が小型の柱穴であることを考慮すると、本来存在した柱穴が浅く小型で、削平された可能性がある。柱間寸法は、桁行が2.55m(8.5尺)等間、梁行が1.95m(6.5尺)等間である。柱掘方の平・断面形は方形を基調とするが、SP7009の断面形は楕円状を呈する。平面規模は長軸78～93cm、短軸66～70cmを測るが、SP7321は60×48cm、SP7329は36cm前後小さい。検出面からの深さは、28cm(SP7658)から66cm(SP7009)までばらつきがあり、一律でない。柱痕跡は小型のSP7329で直径12cmの円形を呈し、ほかの柱穴では西谷地b遺跡で検出された柱穴と同様、直径25cm前後の円柱が用いられたと考えられる。

SB7887の北側には、カマドを南壁に設けた竪穴建物ST2827が軸線を描えて連接しており、両者が一体となって機能する「竪穴・掘立柱併用建物」(文化庁文化財部記念物課2010)と考えられる。この種の遺構は、北東北を中心に480棟が確認されているが(高橋2015)、山形では村山市西原C遺跡(村山市教委1996)に続く2遺跡目となる。本事例の場合、津軽域に分布が限定される外周溝を伴うタイプで(高橋前掲)、津軽域での出現時期が9世紀後半であるのに対して、ST2827の時期は出土土器の年代観から9世紀前半を下らないと推察される。系譜や成立過程をめぐって注目されることである。

C 焼土遺構・土坑

底面が比較的平らな浅い土坑で、火を焚いた形跡がみられる3基の遺構を焼土遺構(SL)とした。なおSL3262は、掘立柱建物SB3294に伴うものとして、隣接する竪穴建物ST3247とともに既述したとおりである。

土坑(SK)は、柱穴・ピット(SP)とともに数多く検出され、約380基を登録した。このうち128基の土層断面図を示したが、ここでは主なものを取り上げて報告する。なお土坑は出土遺物が少なく、帰属時期の特定が困難な場合が多いため、古代・中世をまとめて登録番号順に記述する。

焼土遺構 SL3167 (第155図)

4区東壁際の性格不明遺構SX3170内で検出された。西方向に5m離れて掘立柱建物SB4334が所在する。他

の2基の焼土遺構が土坑状の掘り込みの一部に焼土範囲が見られるのに対し、SL3167では南北2.2m、東西1.5m以上を測る遺構範囲全体に炭・焼土・灰がまばらに広がる。とくに北東側が顕著で、ここから複数個体の土師器長胴甕(377～381)などがまとまって出土した。遺構の特徴や遺物出土状況から、屋外炉の可能性が高い。

焼土遺構 SL3642 (第155図)

7区中央に位置する大型側柱建物SB4335の東側に隣接して検出された。2×1.5m前後の楕円形状を呈する浅い土坑で、中央南側に焼土が堆積していた。焼土の広がりを東西方向に狭くするように土師器費の上半部2点(384・385)が倒立状態で出土した。

土坑 SK3064 (第156図)

2区北西端で検出され、南北1.9m、深さ36cmを測る。調査区の制限により東側を検出するにとどまるが、西隣の6区で対応する掘り込みが確認されていないので、直径2m前後の円形土坑と捉えてよいだろう。覆土中層に炭・灰を帯状に含み、中央に直径30cm程度の焼土面が認められる。遺構の大きさに比して焼土の広がりが小さいことから、燃焼行為自体が目的の遺構とは考えにくく、また断面形状の違いを考慮して焼土遺構(SL)には含まない。

土坑 SK3141～3146 (第158図)

4区南側で検出された東西方向に並ぶ土坑群で、東端のSK3141と西端のSK3146は近接し、それ以外の4基が重複する位置関係にあって、連続的に掘り込まれた状況を示している。SK3141・3142・3144・3145の覆土中に含まれていた木片・モモ核・オニグルミ核(計8点)についてAMS年代測定をおこなったところ、すべて8世紀後半～9世紀後半の暦年代を示し(第IV章6参照)、これらの土坑がおおむね同時期に存在した可能性は高いと判断できる。いずれも不整形円形を呈する浅い皿状で、とくにSK3142～3144がいがびつである。SK3142・3143は覆土すべて、SK3141・3144・3145は覆土下層が炭や砂などを含む黒褐色粘土で、土坑の形状や重複関係を加味すると、これらの土坑群は粘土採掘坑の可能性が考えられる。

最も大きいSK3145(2.9×3.3m、深さ45cm)からは、5世紀後半～6世紀前半頃に位置づけられる石製模造品2点(393・394)が出土しており、上述した遺構の帰属時期を大きく遡る。同様の石製模造品が同じ4区の遺構

外で2点(1330・1331)出土している点を踏まえ、土坑が埋まる過程で混入したものと理解したい。

またSK3142からは墨書土器3点を含む須恵器・黒色土器が出土しており、粘土採掘に伴って何らかの祭祀的行為をおこなった可能性がある。

土坑 SK3498 (第162図)

7区北側で検出された大型土坑で、南北3.2m、東西3.5mを測る。断面形は浅い皿状を呈し、深さは26cmである。上層全体に炭を多く含む特徴がみられる。

土坑 SK3501 (第163図)

7区中央で検出された大型側柱建物SB4335の北西側に隣接する土坑で、東西・南北2.2m前後、深さ42～56cmを測る。方形を基調とし、北西隅をのぞく3つの隅角、とくに北東隅が突出する特徴的な形状を呈する。

土坑 SK3568・3569 (第164図)

7区北東側、堅穴建物ST3728の東側に隣接し、南北方向に並んで検出された。ともに直径1.7～2.2m前後の不整形円形を呈し、北側のSK3569の方がやや浅い皿状である。南側のSK3568からは墨書ないし墨痕を残す無台環(405・406)が出土しており、墨書土器が多数出土した河川SG3320に比較的近い点を考慮すると、河川への墨書土器廃棄に関する遺構の可能性が考えられる。

土坑 SK3587 (第163図)

7区東側で検出された浅い皿状の土坑で、長軸3.7m、短軸2.2m、深さ12cmを測る。出土土器のなかに墨書ないし墨痕を残す無台環(408・412)が含まれ、墨書土器が多数出土した河川SG3681に比較的近い点を考慮すると、SK3568と同様、河川への墨書土器廃棄に関する遺構の可能性が考えられる。

土坑 SK3589 (第164図)

7区東側で検出された土坑で、南北3.7m、東西2.3m、深さ24cmを測る。北側に隣接するSK3587と同様の規模・平面形だが、深さがあり、出土遺物の多い点が特徴として挙げられる。破片資料が多く、廃棄土坑の可能性が高いが、墨書ないし墨痕を残す無台環(413・422)の出土や河川SG3681との近さという共通点から、SK3568・3587と同様、河川への墨書土器廃棄とのかかわりも念頭に置く必要がある。これら3つの土坑の機能として、祭祀前の破損品や墨書の書き損じ品を含む不要土器の廃棄が想定できるのかもしれない。

土坑 SK3777 (第 166 図)

7 区南東側で検出された長方形を呈する土坑で、南北 1.1m、東西 0.8m、深さ 16cm を測る。河川 SG3681 の西岸に位置し、河岸堆積土上で検出された。SG3681 から出土した新相の土器は 9 世紀後半に下がるが、SK3777 出土の土師器環 (428) は 8 世紀代に位置づけられ、河川が埋まりきる前に掘り込まれた土坑と考えられる。

なお、河川堆積土を掘り込む他の土坑として、SG3278 内の SK3269 (第 161 図) や、SG3681 内の SK3391 (第 161 図)、SG3320 の河岸に位置する SK3324 (第 161 図)・3449 が挙げられるが、いずれの土坑からも河川の埋没時期を示すような新しい遺物は出土していない。

土坑 SK5144・5145 (第 167 図)

14 区北東側で検出された長方形を呈する土坑で、北側の SK5144 は南北 0.8m × 東西 1.3m、南側の SK5145 は南北 1.1m × 東西 0.9m を測る。2 基とも深さ 30cm ほど垂直に掘り込まれ、底面が平坦な点が特徴的である。また、覆土に地山由来の黄褐色シルトが多く含まれ、人為的に埋め戻されたことがわかる。これと似た形態で同様の埋め戻し状況を示す土坑が北側の西谷地 b 遺跡で多数確認されており (山形理文 2015)、出土遺物はないが中世の土坑であろうと考えられる。

なお、SK5144・5145 を中心とする 14 区北東側、および東隣の 22 区では小型の柱穴が比較的多く検出されており、これらの柱穴群も中世に帰属するものと推察される。

土坑 SK5280・5637 (第 168 図)

14 区南東側で検出された深さ 25cm 前後の円形土坑で、掘立柱建物 SB6401・6402 間に位置する SK5280 は直径 2.3m、竪穴建物 ST5638 の南側に位置する SK5637 は直径 2.5 ~ 2.9m を測る。9 世紀前半の須恵器・黒色土器などが比較的多く出土し、廃棄土坑と考えられる。

土坑 SK5744 (第 169 図)

14 区南東側、SK5637 の西側で検出された土坑で、長軸 3.6m、短軸 2.4m を測る。深さ 8 ~ 12cm の浅い皿状を呈し、中心付近にピット状の窪みが認められる。8 世紀末頃の須恵器・黒色土器が出土しており、隣接する竪穴建物 ST5638 や SK5637 よりも古い時期に属する。

土坑 SK6232 (第 170 図)

14 区北西側、竪穴建物 ST6222・6231・6243 ~ 6245 に隣接する位置で検出され、南北 3.5m、東西 2.4m

の整った長方形を呈する。底面が比較的平坦で、最も近接する ST6245 の主軸に長軸方向に沿っているうえ、北辺の位置まで揃っており (第 41 図参照)、ST6245 と同様の深い竪穴状遺構の可能性が考えられる。

SK6232 からは 9 世紀前半の須恵器・黒色土器無台環がまとまって出土しており、8 世紀末の ST6245 より明らかに新しいが、これらは覆土下層 (3 層) より上位で出土しており (写真図版 61 参照)、土坑機能時よりも後出する遺物と判断できる。ただし、黒色土器無台環は 3 点ともほぼ完形で、土坑の東辺沿いに伏せた状態で並んで出土し、そのうえ北側に伏せられた無台環 (462) の内側に無台環 (461) が入れ子状になっていた点を踏まえると、これらの土器は土坑の埋没過程で流入したのではなく、意識的に埋置されたものと考えられる。土坑東側の覆土土層 (1 層) に炭・焼土が含まれ、南側に伏せられた無台環 (463) に被熱痕が認められる点を考慮すると、土坑廃絶後の 9 世紀前半の段階で何らかの目的で焚火を伴う祭祀的行為が行われた可能性が高い。

土坑 SK6273 (第 170 図)

14 区中央北寄りで検出された土坑で、検出面では直径 1.8m 前後の不整円形を呈するが、下部では一辺 1.2m の不整形となる。深さは 1.1m で、覆土上半は地山由来の黄褐色シルトを非常に多く含み、人為的に埋め戻されていることがわかる。

土坑 SK7015・7019・7034・7036 (第 172・173 図)

19 区東側の溝 SD7001 付近で検出された小型土坑で、周辺には同様の土坑が比較的多く見られる。平面形は 1.2 × 0.8m 前後の楕円形を呈し、断面形は緩やかな挿針状で、検出面からの深さは 24 ~ 58cm までばらつきがある。出土遺物に乏しいが、隣接する SK7037・7039 と形態的に類似し、同じく中世に帰属するものと考えられる。

土坑 SK7037 (第 173 図)

19 区東壁際で検出された土坑で、浅い皿状を呈する。覆土上層から永楽通寶など銭貨 6 枚が出土し、銭貨周辺で膜状物質が採取された。膜状物質は、赤外分光分析の結果、漆膜であることが判明し (第 IV 章 2 参照)、漆を塗布した何らかの容器等に銭貨を納めていた可能性が考えられる。また、この漆膜について AMS 年代測定をおこなったところ、15 世紀後半 ~ 17 世紀前半の暦年代を示した (第 IV 章 6 参照)。

なお、南西方向に 6.5m 離れて位置する SK7039 からも永楽通寶など銭貨 4 点が出土している。

土坑 SK720 (第 175 図)

21 区中央で検出された。南北 2.1m、東西 0.6m の隅丸長方形を呈する。深さは 30 ～ 40cm で、底面が平らな形状をしている。北側の覆土下層 (3 層) において土壌に混在する白色物質が認められた。サンプルを採取し、実体顕微鏡観察および X 線回折分析をおこなった結果、ニホンジカの臼歯列との所見が得られた (第 IV 章 3 参照)。出土遺物はなく具体的な帰属時期は不明だが、SK5144・5145 等と共通する土坑の形状から、中世に属するものと考えられる。

土坑 SK8005 (第 177 図)

22 区の西側に位置し、南北方向に流れる河川 SG8001 の河岸堆積層 (1 層) 下で検出された。南北 2.1m、東西 0.9m の楕円形を呈し、深さは 24cm である。覆土最下層 (5 層) で黒い膜状物質を採取し、赤外分光分析の結果、漆膜と判明した (第 IV 章 4 参照)。あわせて電子顕微鏡による表面観察をおこなったところ、漆膜片の裏面に木屑 (針葉樹) の材組織が圧痕として残されていることが明らかとなり、箆などの指物に塗布された漆膜と考えられる。同一試料を用いた AMS 年代測定結果は、775-898 cal AD (86.6%) および 925-945 cal AD (8.8%) で、8 世紀後半～10 世紀中頃の暦年代範囲となった (第 IV 章 5 参照)。覆土上層 (2 層) から 9 世紀後半の須恵器有台環 (488) が出土している点とも整合的で、遺構の帰属時期は 8 世紀後半～9 世紀前半に位置づけられる。

D 溝

遺跡南半ではほとんど確認されず、中世の区画溝 SD6240 が検出された 14 区より北側で多く確認された。第 179 ～ 181 図に、断面図の作成位置をあらわすセクションポイントの配置を示した。また溝のめぐり方が特徴的な SD4138・6350・7001 については、個別平面図 (第 184・185 図) を示した。

溝 SD3241 (第 182 図)

10 区南側を南北方向に走る溝で、長さ約 20m を検出した。検出面では竪穴建物 ST3247 の南側で一旦途切れるが、ST3247 の覆土を掘り込んで北側へ 4m ほど伸びている。溝の幅は 1.4 ～ 1.8m、深さは 18cm である。

溝 SD3346 (第 142・182 図)

7 区中央に位置する孤立柱建物 SB4335 の西側に近接して検出された。南北 7.7m、東西幅 0.8 ～ 1.2m の溝である。深さ 30cm を測り、覆土上層 (S3-3・1・2 層) に炭・焼土・灰がまだら状に含まれる。付近に焼土面は確認されておらず、遺存していない何らかの燃焼施設に伴う溝状遺構の可能性が考えられる。帰属時期を示す遺物は出土していないが、SB4335 と同時併存は考えがたいので、SB4335 構築以前ないし廃絶後の遺構だろう。

溝 SD6093 (第 106・108 図)

16 区西側を南北方向に走る溝で、調査区北壁から約 18m 分を検出した。溝の幅は 26 ～ 46cm、検出面からの深さは 12 ～ 16cm ほどで、竪穴建物 ST6096 の中央付近を縦断する。覆土からは周囲から流入したと考えられる古代の土器片のほか土人形 (499) などが出土しており、近世に帰属する可能性が高い。

区画溝 SD6240 (第 183・195 図)

14 区西壁から東へ約 30m 延びた後、直角に屈折して南へ延びる溝である。検出面での幅はおおむね 3 ～ 4m を測るが、南へ行くほど狭くなって南端では 1.2m ほどになる。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さ 60cm、底面幅 0.6 ～ 1.8m を測る。覆土からは古代の土器のほかに内耳土鍋片 (504・505) やかわらけ (506 ～ 509) も出土しており、中世の屋敷敷を囲む区画溝と考えられる。

円形溝 SD6350 (第 184 図)

14 区北西側で検出された円形にめぐる溝で、円の直径は 2.2m である。溝の幅は 14 ～ 36cm、検出面からの深さは 5 ～ 8cm ほどしかなく、4 分割で溝が途切れる。

6 区南西隅に位置する SD4138 は、調査区の制限により東側を検出するにとどまるが、コンパスで描いたようにカーブする溝で、おそらく SD6350 と同じく円形を呈するものだろう。円の直径は 4.6m、溝の幅は 36 ～ 58cm を測り、SD6350 より一回り大きい。隣接する西谷地 b 遺跡で、直径 4.2m、幅 25 ～ 50cm の円形溝 SD2824 が検出されており (山形理文 2015)、酷似している。

これらの円形溝からは遺物が出土しておらず、また遺構の重複関係も見られないので、帰属時期は不明である。

方形溝 SD7001 (第 185・186 図)

19 区東側で検出されたコの字状にめぐる溝で、幅 1 ～ 1.4m、深さ 16 ～ 28cm を測る。南北の屈折点間の距離

は約9mで、区画溝としては規模が小さすぎる。東隣の20区でも溝の続きは確認されなかったため、東側は19・20区間の未調査部分に取まることになる。おそらく一辺9mの正方形にめぐる溝であろう。縄文時期を示す遺物は出土していないが、永楽通寶が出土した土坑SK7039に掘り込まれているので、中世以前であることは確かだろう。

溝SD7002～7005・7200 (第187・188図)

19区南側を東西方向に走る直線的な溝で、SD7002～7005の4条が相互に約1mの間隔をあけて平行に並ぶ。南西側に位置するSD7200は、SD7005の続きであろう。検出した長さは、最も北側のSD7002が約22m、SD7003が約24m、SD7004が約30m、SD7005・7200が約26mである。溝の幅は0.8～1.3m、検出面からの深さは6～20cmを測り、黄褐色ないし褐灰色シルトを基質とする覆土には炭がほとんど含まれない。

小片のため図示していないが、SD7003覆土からは16世紀の景徳鎮産青花片、SD7004覆土からは18世紀後半～19世紀の陶器片が出土しており、これらの溝は近世に属する可能性が高い。

溝SD7331 (第188図)

19区西側を南北に走る溝で、長さ約19m分を検出した。溝の平・断面形に所々歪みが認められ、粗く掘り込まれた状況を示している。溝の幅は0.5～1m、深さは12～20cmである。西側では東西方向、東側から南西側にかけては南北方向に走る細い畝状遺構がまばらに広がる。南側で東西方向に走る畝状遺構の一部を掘り込んでいることから、これらの畝状遺構より新しいと捉えられる。また重複関係から、南西側を東西方向に走るSD7455を掘り込むSD7458より新しいこともわかるが、南端の上にSD7004の西端が重なることから、SD7002～7005よりは古いと考えられる。

溝SD7394 (第188・189図)

19区西側を南北方向に走る溝で、長さ約11m分を検出した。溝の幅は0.6～1.2mで、深さは5～14cmと浅い。比較的新しく位置づけられるSD7331の西側を平行して走るが、中ほどで東西方向に走る畝状遺構に掘り込まれ、南端はSD7455に切られているので、重複関係によれば19区西側の溝のなかで最も古いようである。

区画溝SD7655、河川SG7657 (第190図)

20区東側を南北方向に走る溝で、調査区北壁から南壁

までの長さ約23m分を検出した。溝の平面形に所々歪みが認められ、粗く掘り込まれた状況を示している。溝の幅は0.4～1.3m、深さは6～28cmである。

SD7655は河川SG7657の西岸に沿って掘り込まれており、ここを境に東側で多数の小柱穴が検出されている。SG7657は他の河川と比べて土器などの遺物出土量が極端に少なく、馳上遺跡の盛期である9世紀を過ぎてから形成された流路であろう。河川の堆積土上に掘り込まれた小柱穴は、北側の西谷地も遺跡で確認されているような中世の屋敷地を構成するものと考えられ、SD7655はこれを取り囲む区画溝と捉えられる。

溝SD7820 (第190図)

21区西側を東西方向に走る溝で、長さ約10m分を検出した。溝の幅は1m前後で、深さは26～28cmである。調査区北壁際の土坑SK7857・7858のほか、多くの小柱穴・ピットに掘り込まれている。19区南側のSD7002～7005・7200とは平行しておらず、遺構の重複状況を考慮すると、これら近世の溝より古い可能性が高い。

区画溝SD8002 (第190図)

22区西壁際を南北方向に走る溝で、南隣の13区北西端で検出されたSD5039はこの延長であろう。検出された長さは、22区北壁からSD5039南端までで約24mを測り、溝の幅は1.2～1.8m以上、深さは36cmである。22区でも20区東側と同様に小柱穴が多数検出されており、SD8002はSD7655と同様、中世の屋敷地を囲む区画溝と考えられる。

E 河川・小流路・窪地

羽黒川の旧支流と考えられる河川が、蛇行を繰り返しながら遺跡内を南から北へ流れている。分岐や合流が至る場所で見受けられ、氾濫により河道を変えた様相を示す。

本報告では、河川を分岐・合流点で区切って遺構番号を付した。基本的には古墳時代から古代にかけての自然流路を“SG”としているが、流水の作用で削られたような小規模な溝状の落ち込みを「小流路」、周囲より低く落ち込み遺物を包含していた旧地形を「窪地」として、これらも便宜的に“SG”に含めている。なお後述するとおり、性格不明遺構SX3170・3181も河川の可能性がある。

窪地SG3001

1区東側から2区北東側にかけて広がる東西幅約5m

の落ち込みで、2区では深いところで深さ0.8mを測るが、1区では浅く0.3mほどしかない。基本的に黒褐色シルトが堆積しており、堆積状況等から自然流路とも考えがたいため旧地形の落ち込みと判断した。

河川 SG3231 (第191図)

9区から17区北端にかけての東壁から始まり、30mほど西側で方向を北へ変えて15・16区の河川SG3278に合流する。南側では幅18～24mを測るが、北側へ行くにつれて細くなり、SG3278合流点付近では幅8mほどになる。検出からの深さは、中心付近で0.8～1.2mである。出土遺物の時期は古代を主体とするが、古墳時代のものも含まれる。

河川 SG3278 (第191・192図)

10区西壁から始まり、北隣の16区南東側を通過して15区東壁へ抜けていく。川幅は12m前後で、中心付近の深さはおおむね1.2m前後を測るが、南側は浅く0.6mほどである。出土遺物の時期は古代を主体とするが、古墳時代のものも含まれる。

河川 SG3320 (第193図)

第1次調査C区で検出されたSG2131と同一の河川で、7区北側の西壁から始まり、泉道部分のC区を通過して6区南壁際でSG3801に合流する。また7区中央付近の西壁際でSG3681とも合流する。川幅は10～18mで、中心付近の深さは0.6～0.8mである。検出範囲は長さ30mほどだが、出土遺物量は多く、集落中心域の様相を呈する。出土遺物の時期は古代を主体とするが、古墳時代のものも含まれる。

河川 SG3681 (第194図)

15・16区北端のSG3278合流点に始まり、20mほど北流したところで方向を西へ変えて7区西壁際でSG3320と合流しながら抜けていく。川幅は北流部分で15m、西流部分で9mを測り、深さは0.6～1.2mである。遺物の時期は古代が中心で、古墳時代に遡るものはあまりない。

河川 SG3773 (第195図)

16区北東側のSG3278と7区西壁際のSG3320・3681合流点を結ぶように流れる。長さ36m、川幅3.5～7m、深さ0.3m前後の小河川で、出土遺物はない。9世紀前半の竪穴建物ST3774がSG3773堆積土を掘り込んで構築されており、SG3320で古墳時代以降の遺物が出土している点を考慮すると、奈良時代以前にSG3320

から派生した流路と考えられる。

河川 SG3801 (第195・196図)

第1次調査B区で検出されたSG1155と同一の河川で、6区南東端から北流した後、14区中央付近で緩やかに東へ曲がって12・13区東壁を抜けていく。川幅はおおむね10mを測るが、14区南側の大形竪穴建物ST5665付近では6mほどに狭まり、東側の12・13区では21mの広さになる。中心付近の深さは0.9～1.5mで、北側ほど深くなる。遺物の時期は古代が中心で、古墳時代に遡るものはあまりない。

窪地 SG5816

17・18区西側に広がる比高差1m以上の落ち込みで、人為的に埋め立てられていた。埋め立て上からは古代の土器片や中近世の遺物が多数出土しているが、近現代の磁器(1210)も含まれ、またここから出土したウマ肩甲骨のAMS年代測定を実施したところ、1958～60年あるいは1984～86年という結果が得られた(第IV章6参照)。このことから、SG5816は昭和時代の造成と判断できる。遺跡の西側を羽黒川が流れている点を踏まえると、落ち込みのへりは段丘上で、圃場整備に伴い埋め立て、整地されたものと考えられる。

窪地 SG7006 (第197図)

19区西側の溝SD7331付近は、南北方向全体にわたって東西幅5～8mの範囲が浅い窪地状を呈しており、ここに9世紀前半の土器を包含する黒色粘土・黒褐色シルトが堆積していた。自然地形の落ち込みではあるが、この堆積土下で検出された遺構(SB7887のSP7009等)と、堆積土を掘り込む遺構(SD7331等)の帰属時期を考えると指標となるため、この落ち込みをSG7006とした。

小流路 SG7041 (第197図)

19区南東隅から始まり、北西方向に抜けていく流れと南壁沿いを西に進んで窪地SG7006付近まで達する流れの2方向に分流する。出土遺物から帰属時期を把握することは困難だが、溝SD7002～7004や竪穴遺構に掘り込まれており、中近世以前に属すると考えられる。東側を流れる河川SG7657・8001から派生した小流路であろう。小流路SG7116・7117(第197・198図)

19区北壁沿いを東西方向に流れる。検出面では途切れているが、位置関係や覆土の特徴から、東側のSG7041につながる小流路と考えられる。

小水路 SG7652～7654 (第198図)

20区西側を南北方向に流れる。SG7041と同様、河川SG7657・8001から派生した小水路と考えられる。

河川 SG8001 (第199図)

22区の西壁に沿って南北方向に走るSG8001西岸が検出され、調査区の大部分を河川が占めている。中心付近の深さは0.4～0.6mである。

川岸の土坑SK8005や調査区南東隅に位置する竪穴建物ST8007・8014が河川堆積土下にあることから、9世紀後半以降の河川であることは確実視できる。河川堆積土中から13～14世紀の須恵器系陶器片(1223)が出土していることから、堆積時期は中世前期までのスパンで把握される。河川からの出土遺物は少なく、同様の傾向が認められる20区のSG7657と同一の河川である可能性が高い(区画溝SD7655の記載を参照)。

F 性格不明遺構

不整形な掘り込みが比較的広範囲に広がるものや、遺構の重複関係・調査区の制限によって一部の検出にとどまり遺構の形状把握が困難なものを性格不明遺構(SX)とした。また、遺構の形状や遺物出土状況が同種の他の遺構とくらべて異なるものも一部含まれる(平面形は竪穴建物に似るが断面形状が異なるSX5125等)。

性格不明遺構 SX3170・3181 (第201図)

4区東壁際で検出された不整形な落ち込みで、南北約11m、東西6.4mの範囲に広がる。東側のSX3170中央付近には焼土遺構SL3167が存在する。遺構の平・断面形状から判断して、人為的な掘り込みとは考えにくい。覆土の基質が砂ないし砂質シルトや粘土であることや、出土遺物が5世紀後半の土師器環(1238)から9世紀後半の須恵器有台皿(1232)まで年代幅をもつことから、河川の一部である可能性が高い。おそらく東側の未調査範囲に流路が存在し、そこから溢れ出した痕跡ではなかろうか。

性格不明遺構 SX3335 (第200図)

7区中央の河川SG3681近くで検出された。平面形は不整形な土坑状を呈するが、覆土が浅く人為的な掘り込みでない可能性を残す。

性格不明遺構 SX3756 (第202図)

7区東壁際で検出された底面の平坦な掘り込みで、北西端の形状に歪みが認められる。検出部分が長軸5.6m、

幅2.4m、深さ30cmを測る。東隣の3区で対応する掘り込みが確認されていないことから、長軸方向へこれ以上長くはならないだろうと考えられるが、遺構の全形が不鮮明であるため性格不明遺構とした。

底面よりやや上位で完形に近い土師器4点が出土しており、とくに転用瓶と考えられる焼成後穿孔の土師器鉢(1253)は塊形体部の平底鉢(1252)に重ねられ横倒しの状態で出土した。

黒色土器高環(1210・1251)等の年代観から、遺構の編年時期は8世紀前半に位置づけられる。

性格不明遺構 SX4008・4009 (第203図)

6区南壁際で隣接して検出された。

西側のSX4008は南北方向に長い土坑状を呈し、土師器がまとまって出土した。覆土に炭・焼土が含まれないことからがとは考えられず、また4個体分の裏(1255・1259・1260・1261)が東西方向に並ぶ人為的な埋置状況を考慮すると、一般的な廃棄土坑とも様相が異なる。

東側のSX4009は、東西3.4m、深さ40cmを測る底面が平坦な掘り込みで、大型土坑ないし竪穴状遺構の可能性が高いが、検出部分が一部に限られ全体の規模・形状が不明であるため性格不明遺構とした。

性格不明遺構 SX6335 (第204図)

14区北西側、竪穴建物ST6245の北側で検出され、平面形は不整形L字形を呈する。東西4.8m、南北2.8mを測り、西側が一部階段状に掘り込まれてやや深くなるが、大部分は深さ4～8cm程度である。底面は平坦で人為的な掘り込みと考えられるが、遺構の性格は不明である。

性格不明遺構 SX7487・7502 (第205・206図)

19区南西隅で隣接して検出された。

南壁際のSX7487は、東西3.2m、深さ50cm前後を測り、西側に東西幅1.4mの浅い張り出しが接続する。

西壁際のSX7502は、南北2.8m以上、東西2m以上、深さ60cmを測り、検出部分から方形ないし長方形を基調とする竪穴状遺構と考えられる。東壁の立ち上がりは急だが南・北壁の立ち上がりは緩やかで、底面では南北1.6mほどしかない。竪穴建物ST5126と重なるSX5125に似た断面形状と言え、竪穴建物とは性格が異なる遺構と判断した。西隣の第5次調査区(A区)南東端で部分的に検出されたST3(山形理文2014)と南北軸の長さが近似し、位置関係から同一遺構の可能性も考えられるが、中

間の未調査部分が広すぎるので判断しがたい。

性格不明遺構 SX7869 (第207図)

19区東壁際で検出され、南北3.2m、東西1.5m以上を測る。中心付近にビット状の窪みをもち、全体が浅い皿状を呈するという形態的特徴は、14区南東側に位置する土坑SK5744と類似する。

3 遺物

A 概要

第208図1から第241図350までは竪穴建物、第242図351から363までは掘立柱建物から出土した古代の遺物で、第243図364から第254図510まではビット・焼土遺構・土坑・溝といった各種遺構から出土した古墳時代～近世の遺物である。第255図511から第316図1227までは河川・小水路・窪地から出土した遺物、第317図1228から第321図1270までは性格不明遺構の出土遺物で、第322図1271から第326図1332までは表土や包含層の掘削等で出土した遺物である。

遺物は同種遺構の番号順に掲載し、同一遺構のなかでは土器(須恵器・黒色土器・土師器)、陶磁器、土製品、木製品、石製品・石器、金属製品の順を原則としている。

なお、本報告では焼し焼きによって土器表面に炭素を吸着させ漆黒色に仕上げた土器を「黒色土器」と表現する。本文中で単に黒色土器としている場合は内面のみ黒色処理されているものを指し、外面にも黒色処理を施す場合は文中で指摘する。また、ロクロを使用していない黒色土器は「非ロクロ」等と明記し、とくに断り書きがない場合はロクロ成形品をあらわす。黒色処理を施さない「土師器」の場合は、逆に断り書きがないものが非ロクロを意味する。

B 遺構出土の遺物

竪穴建物 ST3006 出土遺物 (第208図1～6)

1・2は須恵器無台環、3・4は黒色土器無台環である。底部切り離しは1・2が回転系切りで、3・4は切り離し痕跡がナデ消されている。5は床面のビットSP3221から出土した土師器甕の胴部で、内外面にハケメを施す。6は砥石である。

竪穴建物 ST3215 出土遺物 (第208図7)

7は内外面にハケメを施す土師器甕で、底面に木葉痕

が認められる。

竪穴建物 ST3247 出土遺物 (第208図8・9)

8は黒色土器無台環だが、カマド燃焼部で出土したもので、被熱により内面の黒色処理が色抜けしている。底部切り離しは回転系切りで、体部下端にロクロケズリを加える。9は底部回転系切りのロクロ土師器小型甕である。

10はST3247の南壁を掘り込むビットSP3284から出土した須恵器無台環である。底部切り離しは回転系切りで、9世紀第3四半期に位置づけられる。8はこれよりやや古く位置づけられ、ST3247の下限年代を示すものである。

竪穴建物 ST3482 出土遺物 (第209図11～16)

11は須恵器甕で、口頸部の沈線下および肩部の外面に平行タタキが観察される。12～16は土師器甕である。12は内外面にハケメを施すが、13・14の内面と16の外面はナデである。15は頸部から直立する短い口縁部形態が特徴的である。

竪穴建物 ST3727 出土遺物 (第209図17・18)

17は扁平な土師器環で、体部が直線的に外傾して立ち上がり、口縁部が短く屈曲する。内外面にナデを施し、底部はケズリが加えられて平底状を呈する。器形や器面調整の特徴に加え、にぶい橙色に発色する焼成状況から、関東系土師器の可能性が高い。18は内外面にハケメを施す土師器鉢で、底面に木葉痕が認められる。

竪穴建物 ST3774 出土遺物 (第210図19・20)

19は底部回転系切りの黒色土器無台環だが、カマド燃焼部の火床直上で出土したもので、被熱により内面の黒色処理が色抜けしている。20は台部の欠損した黒色土器有台環である。カマド出土ではないが、こちらも内面の黒色処理が半分ほど色抜けしている。底部外面に強い被熱によるハジケが認められ、底部切り離しの痕跡や底部調整は観察できない。

竪穴建物 ST3776 出土遺物 (第210図21・22)

21は須恵器有台環で、底部下端と底面にロクロケズリを加える。22は安山岩の自然石で、凹凸の少ない方の広い面に刃物痕のような線刻が認められる。加工等の作業に用いられた台石であろう。

竪穴建物 ST3805 出土遺物 (第210図23)

23は、カマド支脚に転用された内外面にハケメを施す土師器小型甕で、底面に木葉痕が認められる。口縁直下の頸部に沈線状のナデをめぐる点が特徴的で、8世

紀前半の山形市川前2遺跡 ST135 および 8 世紀後半の ST72 (山形埋文 2011)、9 世紀初頭の山形市双葉町遺跡 ST10003 (山形市教委 2005) などで類別が出土している。沈線が深いものから浅く不明瞭なものへ変化しており、23 の特徴は 8 世紀代におさまるものと考えられる。ST3805 からは底面にロクロケズリを加えた須恵器無台坏片 (未掲載) も出土しており、8 世紀後半に位置づけるのが妥当であろう。なお、北西側を流れる河川 SG3320 からも同様の土師器残片 (726) が出土している。

竪穴建物 ST3987 出土遺物 (第 210 図 24 ~ 28)

24 は無段平底の非ロクロ黒色土器環である。浅い体部下端に沈線状の窪みがめぐり、底面には手持ちケズリを施す。25 はカマド出土の土師器環で、底面を含む内外面全体にミガキを施す。残存範囲に黒色処理の痕跡はまったく認められないが、被熱により色抜けした可能性も考えられる。26 ~ 28 は土師器甕で、外面の一部にハケメが確認できたが、基本的にはナデを施す。カマド出土の 26 は口縁部が屈折・外反せずに体部からそのまま立ち上がる特徴的な器形で、口縁部に施される強いナデによって体部との境に稜が生じている。類例は見出しがいが、ST7000 出土例 (337) のような頸部の段が弱いものと関連があるのかも知れない。

竪穴建物 ST4000 出土遺物 (第 211 図 29 ~ 第 212 図 42)

29 は非ロクロ黒色土器環である。弱い段を形成する口縁部・体部と底部との境に浅い沈線状の窪みをめぐらせ、内面にミガキ、丸底の底面全体にハケメを施す。30 は有段丸底風の土師器環である。段を形成する口縁部と体部との境に明瞭な沈線をめぐらせ、底面には手持ちケズリが加えられて平底気味となる。31 は無段丸底の土師器環で、体部から底部にかけて手持ちケズリを施す。32・33 は体部下端に弱い稜を持つ土師器環で、底部は丸底風の平底を呈するものである。34 は他の環よりも小型で、直立気味に立ち上がる口縁部と体部との境に弱い稜をもつ。

35 は土師器鉢で、体部下半および底面に手持ちケズリを加える。36 は土師器大型鉢で、底部から直線的に大きく開く器形が特徴的である。内外面ともナデを施し、底面には木葉痕が認められる。37 はカマド廃棄に伴い燃焼部中央に倒立状態で埋置された土師器小型甕で、内外面ともナデを施す。38 ~ 42 は土師器甕で、38 はカマド左

袖壁材、39 は竪穴の床面近く (覆土下層) において横倒しの状態でつぶれて出土したものである。内外面調整は 38・41・42 がハケメ、39・40 がナデである。

30 ~ 34 の環は内面ミガキ・黒色処理を施さず、35・37・39 の鉢・甕を含め非在地的な特徴が認められる。関東系など異系統の影響を受けて作られた可能性がある。

竪穴建物 ST4003 出土遺物 (第 213 図 43 ~ 47)

43 は底部回転系切りの須恵器無台坏、44 は頸部に波状文を施す須恵器甕である。45 は底部回転系切りの黒色土器無台坏で、体部下端にロクロケズリを加える。46 はカマドから出土したロクロ成形の土師器環片で、内面に丁寧なミガキを施す。残存範囲は完全に赤化し黒色処理の痕跡が認められないが、被熱により色抜けした可能性がある。47 は土師器甕で、底面にムシロ痕が認められる。

竪穴建物 ST4010 出土遺物 (第 213 図 48 ~ 49)

48 は須恵器無台坏で、底部切り離しは回転系切りである。49 は底部を欠く須恵器環片である。

竪穴建物 ST4143 出土遺物 (第 213 図 50 ~ 54)

50 はカマド EL4144 の煙道から出土した須恵器甕で、全体が浅黄褐色を呈する。51 は無段平底の非ロクロ黒色土器環である。浅い体部下端に沈線状の窪みがめぐり、底面には手持ちケズリを施す。52 は口縁部がやや内湾する土師器鉢で、内外面にナデを施し、底部に手持ちケズリを加える。53 は内外面にハケメを施す土師器甕で、底面に木葉痕が認められる。54 は土製鈴鐺車である。

竪穴建物 ST5126 出土遺物 (第 213 図 55 ~ 56)

55・56 は土師器甕で、55 が ST5126 南西隅の床面上、56 がカマド左脇の土坑 SK5361 から出土している。

竪穴建物 ST5350 出土遺物 (第 214 図 57 ~ 64)

57・58 は須恵器無台坏、59・60 は須恵器有台坏、61 は須恵器甕の口縁部片である。57 ~ 59 の底部切り離しは回転系切りで、57 は切り離し後にナデを施す。62 は内外面ともに黒色処理を施した両黒の黒色土器で、底部付近の形状から有台坏と判断した。器壁が薄く、内外面に入念なミガキを施した丁寧な作りである。63 の黒色土器環片には、外側面に「海」と思われる横位の墨書が認められる。ST5665 のロクロ土師器無台坏 (126) とともに、本遺跡では数少ない竪穴建物出土の墨書土器である。64 はロクロ成形の土師器小型甕で、出土位置・状態からカマド支脚に転用されたものと考えられる。

竪穴建物 ST5351 出土遺物 (第214図65～68)

65はカマド出土の須恵器無台环、66は床面出土の須恵器有台环である。底部切り離しは65が回転系切りで、66が回転ヘラ切り後にナデを施す。67はカマド左脇の覆土上層から出土した深身の黒色土器無台环である。回転系切りで切り離し後、体部下端にロクロケズリを加えている。68は床面出土の土師器甕で、内外面にハケメを施す。

竪穴建物 ST5487 出土遺物 (第215図69～76)

69・70は非ロクロ黒色土器で、69が底面に手持ちケズリを施す环、70が高环の坏部片である。71は体部中ほどに浅い沈線状の窪みがめぐる土師器坏で、丸底風の底部には手持ちケズリが加えられる。72の土師器坏は、体部中ほどに浅い段をもつ。73は土師器高环の脚部で、外面にはナデを施すが上半の一部にケズリを加える。74～76は体部が膨らみ底部が窄まる器形の土師器甕で、74は頸部に段をもつ。74・76は外面にハケメ、内面にナデを施し、75は内外面ともナデである。

竪穴建物 ST5492 出土遺物 (第215図77～83)

77は須恵器無台环である。体部下端から底部にかけて手持ちケズリを施し、底面はやや丸みを帯びる。78は非ロクロの黒色土器高环で、脚部内外面にケズリを加える。79は底面に手持ちケズリを施す土師器坏の底部片である。80は口縁部が内湾する厚手の土師器鉢で、ST4143出土の土師器鉢(52)よりも大振りである。81・82は外面にハケメ、内面にナデを施す土師器甕で、81は頸部に段をもつ。83は土製紡錘車である。

竪穴建物 ST5631 出土遺物 (第216図84～87)

84は底部回転系切りの須恵器無台环片である。85は黒色土器無台环で、ST5631南辺の一部を掘り込む土坑SK5634出土片と接合関係をもつ。86・87はロクロ成形の土師器甕で、口縁部直下の破片資料である。86内面にはハケメ、87外面には平行タキとケズリが施される。

竪穴建物 ST5638 出土遺物 (第216図88～95)

88・89は扁平な須恵器环蓋片で、88の口縁部内面には墨が付着し、中心部内面に摩耗痕がみられることから転用硯と判断できる。90は底部回転系切りの須恵器無台环である。91は口縁部を欠く須恵器小型甕で、体部下端にロクロケズリを加える。92は床面出土の黒色土器环蓋、93はカマド燃焼部奥で出土した黒色土器無台环、94は覆土下層出土の黒色土器双耳环である。92は外面の大

部分、93は体部下端から底面外周にかけて、94は底面全体にロクロケズリを加えている。95は土師器甕で、底面に木葉痕が認められる。

竪穴建物 ST5665 出土遺物 (第217図96～第221図143)

96～117は須恵器である。96・97は环蓋で、96は宝珠形つまみ、97は回転系切り痕を残す天井部に凹みのボタン状つまみが付く。98～103は無台环、104・107は有台环、108・109は有台皿で、底部切り離しは98・99が回転ヘラ切り、101～104・108・109が回転系切りである。105・106は底部を欠くが、器形の特徴から有台环と考えられる。109の内底面には墨の付着と摩耗痕がみられ、転用硯とわかる。110・111は長頸壺の口縁部片、112は壺の底部片で底面に「一」の焼成前線刻がある。113は横瓶の円閉閉塞部分、114～116は甕の口頸部・肩部、117は甕の体部である。

118～125は黒色土器である。118は頂部の平らな环蓋つまみ、119は环蓋の口縁部で内面の口端近くに細い沈線がめぐる。120～124は無台环、125は台部が欠損した有台环で、121の底面には「×」の刻書がある。

126～140は土師器である。126はロクロ成形の無台环で、回転系切りの底面に「奉」の墨書が見られる。127～132はロクロ成形の甕で、130の内外面にはハケメ、131の外面にはケズリを加える。133～140は非ロクロの甕で、135・136は内外面ナデ、他はハケメを施す。

141は砥石、142は摩滅痕のある石材である。142の表面には少なからず凹凸があり砥石とは言いがたいが、何らかの研磨に用いられたものと推察される。143は端部がタガネ状を呈する不明鉄製品である。

竪穴建物 ST6065 出土遺物 (第222図144～157)

144ははやや扁平な宝珠形つまみの須恵器环蓋で、口縁部が短く直立する。145・146は須恵器無台环で、覆土出土の145底面にはナデが施されるが、床面出土の146は回転系切り痕を残す。147は底部を欠く黒色土器坏である。148の土師器は直線的に大きく開く器形から甕と判断した。内外面にハケメを施すが、内面の輪積み痕は比較的明瞭に残る。149は掘方出土の土師器小型甕で、外面にハケメ、内面にナデを施す。外面が被熱し、口縁部内面にバンド状のコゲが認められる。150～157は土師器甕で、151の口縁部片はあまり反反しない点が特徴

的である。土師器製の器面調整は、149と同様、外面にハケメ、内面にナデを施すものが多い。

竪穴建物 ST6071 出土遺物 (第223図 158・159)

158はロクロ成形の土師器甕口縁部、159は非ロクロの土師器甕底部である。

竪穴建物 ST6073 出土遺物 (第223図 160～162)

160は底部回転ヘラ切りの須恵器無台杯、161は土師器甕底部である。162は厚さ7mm、長軸5.4cm以上を測る扁平な板状石製品である。一方の端部が丸みを帯びる独特な平面形を呈し、寸法や基本的な形状は石製鉈尾に似る。ただし、162のような先細りの形状は類例を見出しがたく、また潜り孔も穿たれていないため、用途不明としておきたい。

竪穴建物 ST6074 出土遺物 (第223図 163～第224図 176)

163は覆土出土の須恵器無台杯で、底部切り離しは回転ヘラ切りである。164・165は床面出土の須恵器無台杯で、底部切り離しは回転系切りである。166は南東壁際の覆土上層から出土した須恵器有台杯である。体部下端と底面にカキメを施しており、河川SG3320から類似品(660・661)が出土している。167は赤褐色を呈する須恵器甕である。体部外面全体に平行タタキが認められ、上半はカキメを施して仕上げている。168は須恵器甕の体部で、器形の特徴から短頸甕と考えられる。169の須恵器底部片は平底で、外面に平行タタキが見られる。甕、ないし小型甕であろう。170は須恵器甕の肩部片で、外面に平行タタキ、内面に大型の格子目当て具痕が明瞭に残る。171は底部回転系切りの黒色土器無台皿である。172・173はロクロ成形の土師器無台杯、174はロクロ成形の土師器甕、175は内面にハケメを施す土師器甕である。176は南東隅の立ち上がりで出土した砥石である。

177は、ST6074の南壁を掘り込む土坑SK6208から出土した黒色土器杯である。底部を欠くものの、器形の特徴から他のST6074出土土器とおおむね同時期に比定される。本来ST6074に帰属したものが混入したのであろう。

竪穴建物 ST6084 出土遺物 (第224図 178～第225図 192)

178・179は床面出土の須恵器無台杯で、底部切り離しは回転ヘラ切りである。180は棚状施設上の覆土から出土した黒色土器無台杯で、底面にロクロケズリを加える。

181・182は覆土出土の土師器杯である。181は内外面にハケメを施したうえで底部に手持ちケズリを加え、有段丸底風の182も底部に手持ちケズリを加えるが、底面中央には木葉痕が残る。183はカマド前の床面で出土したロクロ成形の土師器小型甕である。底部切り離しは回転系切りで、体部下端にロクロケズリを加える。184は覆土下層出土の土師器小型甕で、底面に木葉痕が認められる。内面に漆膜が付着しており、漆容と推察される。185～191は内外面にハケメを施す土師器甕で、188～191の底面には木葉痕が認められる。192は不明土製品である。各面が比較的平らに整えられており、人為的に成形・焼成されたものと判断した。

竪穴建物 ST6096 出土遺物 (第226図 193～195)

193・194は底部回転系切りの須恵器無台杯で、193が柱穴SP6186から、194が付属土坑SK6189から出土した。195もSK6189から出土した厚膜質のある石材で、何らかの研磨に用いられたものと考えられる。

196は、ST6096南西隅を掘り込む土坑SK6190から出土した土師器甕底部である。

竪穴建物 ST6222 出土遺物 (第226図 197～第227図 203)

197は須恵器蓋の天井部で、内面全体に灰オリーブ色の自然釉が付着する。北東方向4mに位置する重複関係のないST6226出土片1点と接合したもののだが、4cm大の小片2点の接合にとどまり、本来はどちらの建物にも帰属せず建物外に廃棄・散乱していたものが覆土に流入した可能性が高い。198は須恵器有台杯の台部で、底面にロクロナデを施す。199～203はカマド前の床面でまとまって出土した土師器長胴甕で、内外面にナデを施す203を除き、内外面にハケメを施す。

竪穴建物 ST6223 出土遺物 (第228図 204～207)

204は須恵器環蓋の口縁部で、口端がわずかに下方へ掘み出されている。205は深身の黒色土器無台杯で体部下半と底面にロクロケズリを加える。206は土師器長胴甕で、内外面にハケメを施す。206の体部は西壁沿いの床面上、口縁部は南壁沿いの土坑SK6250から出土した。207は棒状鉄製品である。

竪穴建物 ST6224 出土遺物 (第228図 208～第230図 225)

208・209は須恵器甕である。どちらも外面に平行タ

タキが見られ、208の内面には同心円状の当て具痕が残る。210～213は非ロクロの黒色土器環で、丸底ないし平底風の丸底を呈する。カマド出土の211・212は被熱による内面黒色処理の色抜け・器面のハジケが認められ、とくに211では外面調整の観察も困難なほど顕著である。210・212・213では体部から底部にかけて広範囲に手持ちケズリを加えており、213の底面中央には木葉痕が残る。214は床面から出土した鉢形の土器で、外面に顕著な被熱痕が認められる。分厚い底部と内外面に輪積み痕を残す点が特徴的で、全形は不明であるものの製黒土器の可能性が考えられる。215は内外面にハケメを施す土器小型甕で、底面に木葉痕が認められる。216～225の土器器裏も内外面にハケメを施し、底面に木葉痕のあるものがほとんどである。216の頸部には、やや強めにヨコナデが施されるが、段ないし沈線状の窪みは見られず、ST5492出土例(81)のような栗園式に特有の甕が形骸化したか、あるいはその影響を受けたものだろう。220の甕底部はカマド燃焼部にあつたようで、内面にまで顕著な被熱痕が認められる。

竪穴建物 ST6225 出土遺物 (第230図226)

226は内外面にナデを施す土器器甕である。

竪穴建物 ST6226 出土遺物 (第230図227～229)

227は須恵器環の口縁部片、228は須恵器甕の胴部片である。229はカマド燃焼部から出土した黒色土器無台環で体部下半にロクロケズリ、底面に手持ちケズリが加えられる。外面に被熱痕が認められ、内面の黒色処理が広範囲に色抜けしている。

竪穴建物 ST6228 出土遺物 (第231図230～第232図250)

230～232は須恵器無台環である。230は底部回転ヘラ切り後にロクロナデを施し、やや丸みを帯びた独特な器形の231底面にもナデを施しているようだが、232は回転系切り未調整である。233は丸底を呈する土器器環で、底面に手持ちケズリを加える。234～238は付属土坑から出土したロクロ成形の土器器甕で、235・237・238の外面下半にはケズリを加えている。239は外面にハケメを施す土器小型甕、240～244は内外面にハケメを施す土器器甕で、243・244の底面には木葉痕が認められる。245は直径1cmの棒状を呈する不明土製品で、小型土器の一部(把手・つまみ等)の可能性も考えられる。

246～249は不定形の焼成粘土塊である。非常に硬質に焼き締まっており、表面観察による限りササの混入は認められない。250は刀子の柄部と考えられる棒状鉄製品で、一部木質が認められる。

竪穴建物 ST6229 出土遺物 (第233図251～260)

251～253は黒色土器無台環である。いずれも体部下端にロクロケズリを加える点で共通し、底部調整は251が回転系切り後にナデ、252がナデ、253がケズリを施す。254・255はロクロ成形の土器器無台環で、底部回転系切りの255は口縁部内面に煤が付着することから灯明器に用いられたと考えられる。256もロクロ成形の土器器無台環だが、251～253と同じく内面にミガキを施しており、内面の黒色処理が被熱により色抜けした可能性を残す。257は251・252とともに南東側床面から出土したロクロ成形の土器器鉢で、体部下端に手持ちケズリを加える。258は土器器甕の下半部で、厚手の器壁には外面全体にケズリを施す。259は土器器甕で、底面にムシロ痕が認められる。260は半円形状を呈する土器器の把手で、甕類の胴部に取り付けられたものと考えられる。貼付面には接着強化のための刻みを施す。

竪穴建物 ST6230 出土遺物 (第233図261～265)

261は底部回転系切りの須恵器無台環である。262・263は黒色土器無台環で、263は底部回転系切り後にナデを施す。264は南西隅の付属土坑SK6352から出土した非ロクロの黒色土器高環で、脚部に円形透孔を穿つ。261～263より古く位置づけられ、流入したものだろう。265は土器器甕で、内外面にナデを施す。

竪穴建物 ST6231 出土遺物 (第234図266～272)

266・267は底部回転系切りの須恵器無台環である。268は黒色土器有台環で、底面に放射状ナデを施す。269～272は土器器甕で、内外面にハケメを施す。

竪穴建物 ST6233 出土遺物 (第235図273～275)

273は底面にケズリを施す黒色土器無台環である。274はロクロ成形の土器器小型甕で、底部切り離しは回転系切りである。内面にカキメを施す。275は内面にハケメを施す土器器甕で、底面にムシロ痕が認められる。

竪穴建物 ST6234 出土遺物 (第235図276～第236図299)

276～279は須恵器無台環で、底部が欠損する278以外すべて回転系切りである。280は高台付きの須恵器

壺底部である。281は外面にも黒色処理を施す両黒の黒色土器有台環で、内外面にミガキ、底面にカキメ状のロクロナデを施す。282～285は内面のみ黒色処理を施す黒色土器である。282・283の無台環は体部下端にロクロケズリ、底面に手持ちケズリを加える。284・285の鉢は内外面の上半にカキメ、内面下半にミガキを施し、外面下半にケズリを加える。286はロクロ成形の土師器無台環底部で、底部切り離しは回転系切りである。287・288はロクロ成形の土師器鉢で、内面にミガキを施し、外面下半にケズリを加える。289は内外面にハケメを施す土師器甕である。290～294はロクロ成形の土師器甕で、いずれも堅く焼き締まっている。付属土坑SK6307出土の290は、外面全体を平行タタキで整形した後、体部上半の内外面にカキメを施し、外面下半にケズリを加えている。295は土師器甕の底部片で、外面に平行タタキが認められる。また294は内外面にカキメが施されている。296は砥石、297は摩滅痕のある石材である。298・299は刀子の柄部と考えられる板状鉄製品である。

竪穴建物 ST6235 出土遺物 (第237図 300～302)

300は床面出土の須恵器無台環で、底部切り離しは回転ヘラ切りである。301・302はカマド燃焼部出土の土師器甕で、内外面にハケメを施す。

竪穴建物 ST6239 出土遺物 (第237図 303～307)

303は須恵器模倣のロクロ土師器環蓋である。器形は須恵器環蓋と共通性が高いが、酸化焙焼による軟質の焼き上がりである。つまみは直径4.4cmの扁平紐で、頂部が平らで外側に張り出す。天井部にはロクロを利用した板ナデが施されており、回転力が弱いためカキメというよりはハケメに近い。304～306は丸底の土師器環で、いずれも底部に手持ちケズリを加える。307は大振りな土師器鉢で、底部から口縁部にかけてわずかに内湾しながら直線的に外傾する。器面調整は内外面ともナデを施す。

竪穴建物 ST6243 出土遺物 (第238図 308～第239図 322)

308は底部回転ヘラ切りの須恵器無台環である。内面に煤が付着しており、灯明器として用いられたものと考えられる。309は床面出土の須恵器短頸壺である。310・311は須恵器甕の口縁部で、310の外面には波状沈線がめぐり、312・313は平底の須恵器甕で、外面に平行タタキ、内面にハケメ状のナデと縦方向のヘラナデを施す。

胎土や器面調整は似るが、立ち上がりの開き具合と復元底径が異なるので別個体の可能性を考慮した。314はカマド右脇の棚状施設上でつぶれて出土した須恵器甕である。外面に平行タタキ、内面に同心円状の当て具痕が見られる。315～317は黒色土器無台環である。316は底部回転ヘラ切り後にナデ、317は底部回転系切り後にナデを施す。318～322は土師器甕である。320・321は底面にムシロ痕、322は底部外面に平行タタキが認められる。

竪穴建物 ST6244 出土遺物 (第239図 323～326)

323は口縁部を欠く須恵器甕の頸部片で、外面に櫛目3本の粗い波状文が3段以上施され、各段の間には3～4条1単位の区画沈線がめぐり、324・325は黒色土器把手で、双耳環の体部上半に付くものと考えられる。326は内外面にハケメを施す土師器甕で、底面にムシロ痕が認められる。

竪穴建物 ST6245 出土遺物 (第239図 327～330)

327は底部回転ヘラ切りの須恵器無台環で、支柱穴SP6395出土片と接合関係をもつ。328は扁平なソコバン玉形に復元される厚手の須恵器体部片で、器形等の特徴から小型壺と判断した。329は須恵器甕の胴部片で、外面に平行タタキ、内面に同心円状の当て具痕が見られる。330は黒色土器環の口縁部片で、復元口径から比較的大振りのものと考えられる。

竪穴建物 ST7000 出土遺物 (第240図 331～340)

331・332は非ロクロ黒色土器で、331が環口縁部、332が短脚高環の脚部である。331の底部残存状況から332とは接合しない別個体と判断したが、331もおそらく高環であろう。333は平底の土師器環で、底面には木葉痕が認められる。334は外面にハケメを施す土師器鉢で、この底面にも木葉痕が認められる。335・336は土師器壺の底部片で、底面にはケズリを加える。337～340は外面にハケメ、内面にヘラナデを施す土師器甕で、337～339ではヨコナデをめぐらす口縁部直下の頸部に削いだ段をもつ。

竪穴建物 ST8014 出土遺物 (第241図 341～350)

341～343は須恵器無台環で、底部切り離しは341が回転ヘラ切り、342・343が回転系切りである。344は須恵器有台環の底部で、体部下端と底面にロクロケズリを加える。345・346は黒色土器無台環である。カマド付

近で出土した底部回転系切りの346には、被熱による内面黒色処理の色抜け、器面のハジケが認められる。347は底部回転系切りの黒色土器有台環である。348～350は土師器甕で、349・350の底面には木葉痕が認められる。

掘立柱建物 SB4332 出土遺物 (第242図351・352)

351は内外面に黒色処理を施す両黒の有台環、352は内面のみ黒色処理を施す内黒の無台環で、どちらも底面にケズリを加える。2点とも掘立柱建物 SB4332の北東隅柱穴 SP4044から出土した。

掘立柱建物 SB4333 出土遺物 (第242図353)

353は掘立柱建物 SB4333を構成する柱穴 SP3432から出土したロクロ成形の土師器鉢である。

掘立柱建物 SB4335 出土遺物 (第242図354・355)

354は掘立柱建物 SB4335を構成する柱穴 SP3425から出土した須恵器無台環である。底部切り離しは回転ヘラ切りである。355は掘立柱建物を構成する柱穴 SP3356に掘り込まれる柱穴 SP3836から出土した土師器甕の底部で、底面にムシロ痕が認められる。

掘立柱建物 SB6401 出土遺物 (第242図356～359)

356～359は、掘立柱建物 SB6401を構成する柱穴から出土した須恵器無台環片である。底部切り離しは SP5718 出土の356が回転ヘラ切り、SP5719 出土の357と SP5728 出土の359が回転系切りで、SP5725 出土の358は底部を欠く。

掘立柱建物 SB6403 出土遺物 (第242図360～363)

360・361は掘立柱建物 SB6403を構成する柱穴 SP6082から出土した底部回転系切りの須恵器無台環と土師器甕の底部である。362・363は同じ掘立柱建物の北東隅柱穴 SP6083から出土した黒色土器環片と土師器甕片である。

ビット出土遺物 (第243図364～373)

単独で検出された柱穴・ビットについては、比較的器形のわかる土器や特徴的な遺物が出土したものに絞って取り上げている。なお、竪穴建物 ST3247を掘り込むビット SP3284 出土の須恵器無台環(10)については、例外的に竪穴建物出土遺物とともに既述している。

364は底部回転ヘラ切りの黒色土器無台環、365は内外面ハケメ調整の土師器甕で、7区 SP3347から出土した。

366は7区 SP3349 出土の黒色土器環蓋で、頂部がへこむボタン状のつまみがつく。

367は7区 SP3350 出土の須恵器無台環で、底部切り離しは回転系切りである。

368・369は7区 SP3366 出土の黒色土器で、368は内外面ともミガキ・黒色処理を施す両黒の環である。369は内黒の鉢で、体部内外面にカキメ、口縁部内面にミガキを施し、下半外面にケズリを加える。

370は7区 SP3352 出土の土師器鉢で、外面に被熱痕、内面に明瞭な輪積み痕を残し、製塩土器の可能性がある。

371は非ロクロの黒色土器環で、竪穴建物 ST6084 下の性格不明遺構 SX6188を掘り込むビット SP6157から出土した。

372は14区 SP6325 出土の須恵器甕口縁部で、口端近くの外面に柳指波状文を施す。

373は19区 SP7050 出土の土製紡錘車である。

焼土遺構 SL3167 出土遺物 (第244図374～第245図381)

374は底部回転ヘラ切りの須恵器無台環、375は底面にロクロケズリを加える黒色土器無台環、376は底部回転系切りの黒色土器無台環である。377～381は土師器甕で、381のみ内外面にナデを施す。

焼土遺構 SL3262 出土遺物 (第245図382・383)

382は須恵器無台環、383は黒色土器無台環で、底部切り離しはどちらも回転系切りである。

焼土遺構 SL3642 出土遺物 (第245図384・385)

384・385は土師器甕の上半部である。どちらも内外面にハケメを施す。

土坑 SK3065・3142・3145・3183 出土遺物 (第246図)

386は2区 SK3065 出土の須恵器無台環で、底部切り離しは回転系切りである。

387～390は4区 SK3142から出土した底部回転系切りの須恵器無台環で、387底面には「内」、388底面には「奉」の墨書がある。同じくSK3142 出土の391・392は黒色土器有台皿で、391は底面に放射状ナデを施し、392底面には「奉」の墨書がある。

393・394はSK3142と重なるSK3145から出土した石製模造品の有孔円板である。2点とも不整形を呈し、両端に小孔を穿つ。石材は凝灰岩起源の緑色片岩である(第IV章10参照)。

395～399は4区 SK3183から出土した土師器で、395・396は底面にケズリを加える丸底の環、397は外

面にハケメを施す小型甕、398・399 は外面と内面下半にハケメ、内面上半にヘラデナを施す球形の甕である。

土坑 SK3212・3357・3528・3531・3555・3568・3579・3587 出土遺物 (第 247 図)

400 は 5 区 SK3212 出土の土師器半球形甕である。

401 は 7 区 SK3357 出土の須恵器無台甕で、底部切り離しは回転系切りである。

402 は 7 区 SK3528 出土の須恵器広口甕である。

403 は 7 区 SK3531 出土の黒色土器無台甕で、体部下端と底面にケズリを加える。

404 は 7 区 SK3555 出土の須恵器甕口頸部で、外面に櫛描波状文を施す。

405・406 は 7 区 SK3568 から出土した底部回転系切りの須恵器無台甕で、405 底面には「奉」の省略形と考えられる墨書、406 底面には墨痕がある。

407 は 7 区 SK3579 から出土した頸部に櫛描波状文を施す須恵器甕で、肩部に平行タタキが認められる。

408～411 は 7 区 SK3587 から出土した底部回転系切りの須恵器無台甕、同じく SK3587 出土の 412 は黒色土器無台甕で、408 底面には墨痕、412 底面には判読不能の墨書がある。

土坑 SK3589・3631 出土遺物 (第 248 図)

413～424 は 7 区 SK3589 から出土した土器である。

413～415 は底部回転系切りの須恵器無台甕で、413 底面には判読不能の墨書がある。416～418 は底部回転系切りの須恵器有台甕で、417 内面には薄く付着するタール状の油脂が認められ、灯明器として用いられたものと考えられる。419 内面には墨の付着と摩耗痕が認められ、転用甕と考えられる。419 は内外面にミガキ・黒色処理を施す両黒の黒色土器双耳甕である。420 が薄くシャープな作りで、方形把手の取り付け部下端が三角形に尖る。420～422 は内黒の黒色土器無台甕で、422 底面には判読不能の墨書がある。423・424 はハケメ調整の土師器甕底部で、424 底面にはスタレ状のムシロ痕が認められる。

425 は 7 区 SK3631 出土の土師器甕底部で、底面に木葉痕が認められる。

土坑 SK3656・3777・5280 出土遺物 (第 249 図)

426 は 7 区 SK3656 出土の黒色土器鉢で、底部切り離しは回転系切りである。同じく SK3656 出土の 427 は口

クロ成形の土師器無台甕である。

428 は 7 区 SK3777 出土の土師器甕で、体部外面に整形時の平行タタキが認められる。体部内外面に荒いミガキを施し、体部下端・底面にケズリを加える。

429～436 は 14 区 SK5280 から出土した土器・石製品である。429・430 は底部回転系切りの須恵器無台甕、431 は外面に平行タタキ、内面に同心円状の当て具痕を残す須恵器甕である。432 は黒色土器有台甕、433 は黒色土器鉢である。434 は底部回転系切りのロクロ土師器甕、435 は内外面にハケメを施す土師器甕で、435 の底面には木葉痕が認められる。436 は広い面に刃物痕のような無数の線状痕がみられる石材で、とくに顕著な面には線状痕に沿った擦り減りが認められ、不定形な荒砥の可能性が考えられる。

土坑 SK5363・5637・5667 出土遺物 (第 250 図)

437 は 12 区 SK5363 出土の須恵器長頸甕で、頸部に環状突起がめぐり外面全体にカキメを施す。

438～445 は 14 区 SK5637 から出土した土器である。438 は須恵器無台甕、439 は須恵器有台甕で、どちらの底部切り離しも回転系切りである。440～443 はロクロケズリを加える黒色土器無台甕で、443・444 は被熱による内面黒色処理の色抜けが認められる。445 は黒色土器鉢の破片である。

446 は 14 区 SK5667 出土の須恵器無台甕片で、底部切り離しは回転系切りである。同じく SK5667 出土の 447・448 は土師器甕で、447 底面には木葉痕、448 底面にはムシロ痕が認められる。

土坑 SK5744・5805・6221・6232 出土遺物 (第 251 図)

449～453 は 14 区 SK5744 から出土した土器である。449 は須恵器無台甕、450 は須恵器有台甕の底部で、底部切り離しはどちらも回転系切りである。451 は比較的大振りな黒色土器甕で、体部の外面下半にロクロケズリを加える。452 は黒色土器無台甕の底部、453 は黒色土器有台甕の底部で、どちらも底面にロクロケズリを加える。

454 は 14 区 SK5805 出土の須恵器無台甕片で、底部切り離しは回転系切りである。同じく SK5805 出土の 455 は須恵器甕、456 は土師器甕の口頸部である。

457 は 14 区 SK6221 出土の須恵器甕底部、同じく SK6221 出土の 458 は底部回転系切りのロクロ土師器無台甕である。

459～463は14区SK6232から出土した土器である。459・460は底部回転系切りの須恵器無台坏である。461～463は黒色土器無台坏で、土坑東辺沿いに伏せた状態で並んで出土した。461・462は入れ子状に重ねられ、内側の461が底部回転系切りで、外側の462は体部下端・底面にロクロケズリを加える。463は内面の黒色処理が一部被熱により色抜けしている。

土坑 SK6241・6279・6333・6367・6375 出土遺物 (第252図)

464は14区SK6241から出土した内外面ハケム調整の土師器甕で、底面に木葉痕が認められる。

465～470は14区SK6279から出土した土器である。465は非ロクロの黒色土器高坏で、坏部中ほどに段をもち、脚部には2方向に透孔を穿つ。466は外面に浅く細い線刻を施す土師器片で、傾き等から蓋と判断した。467は体部に段をもつ土師器片である。468は体部上半が強く内湾する厚手の土師器で、下半は遺存していないが器形の特徴から碗と判断した。469・470は内外面ナデ調整の土師器甕で、470底面には木葉痕が認められる。

471は14区SK6333出土の黒色土器高坏脚部、同じくSK6333出土の472は直線的に外傾する土師器甕の口縁部で、内外面にハケムを施す。

473は14区SK6367出土の土師器坏で、丸底の底部にハケム、内面にミガキを施す。同じくSK6367出土の474は土師器甕の底部で、底面に木葉痕が認められる。

475は14区SK6375出土の土師器坏で、丸底風の底部にケズリ、内面にミガキを施す。同じくSK6375出土の476は土師器甕の底部で、内面にハケムを施す。

土坑 SK7037・7039・7857・8005・8016 出土遺物 (第253図)

477～482は19区SK7037出土の銭貨である。477・478は付着した状態で出土したものを整理作業の段階で剥離した。477は開元通寶(唐銭、621年初鑄)である。478は「通寶」以外の銭文がやや不鮮明だが、辛うじて開元通寶と判読できる。479は真書体の嘉祐通寶(北宋銭、1056年初鑄)で、480は行書体の元豊通寶(北宋銭、1078年初鑄)である。481・482も477・478と同様の付着銭だが、482の銭厚が薄く腐食も進行していたため剥離を断念した。481は永樂通寶(明銭、1408年初鑄)である。482は銭文が不鮮明だが辛うじて

真書体の「天口元寶」と判読でき、字形のバランスから考えて天聖元寶(北宋銭、1023年初鑄)の可能性が高い。

483～485は19区SK7039出土の銭貨である。483・484は永樂通寶である。485の2片は接合関係をもたないが、銭径・銭厚が一致し色調等も共通することから同一個体と判断した。1字目にあたる左側破片の上端に“うかんむり”の第2画と判読できる点があり、「通寶」の書体を勘案すると、宣徳通寶(明銭、1433年初鑄)と判断される。

486は21区SK7857出土の土師器坏片で、同じくSK7857出土の487は外面ハケム調整の土師器甕である。

488は22区SK8005の覆土層から出土した須恵器有台坏、489は覆土層下層出土の棒状鉄製品である。

490は22区SK8016出土の須恵器有台坏である。

溝 SD3426・4329・5039・6093・6240・7003 出土遺物 (第254図)

491は7区SD3426から出土した底部回転系切りの須恵器無台坏、492は外面に平行タタキ、内面に同心円状の当て具痕を残す須恵器甕である。同じくSD3426出土の493は底面に放射状ナデを施す黒色土器有台坏である。SD3426は河川SG3320の中心部に位置する溝で、これらの遺物は河川堆積土に含まれていたものが流入した可能性が高い。

494は6区SD4329から出土した須恵器無台坏である。同じくSD4329出土の495は黒色土器無台坏、496は黒色土器有台坏、497はロクロ成形の土師器鉢で、496底面には「在」の墨書がある。SD4329は河川SG3801西岸を東西方向に掘り込む溝で、これらの遺物は河川堆積土に含まれていたものが流入した可能性が高い。

498は13区SD5039から出土した須恵器壺の肩部である。SD5039自体は22区で検出されたSD8002の延長上にある中世の区画溝と考えられるので、498は周囲から流入したものであろう。

499は16区SD6093から出土した土人形で、内外面に赤彩を施す。また内面の窪みには布目痕が残る。

500～503は14区SD6240から出土した古代の土器、504～509は中世の土師質土器である。500は底部回転系切りの須恵器無台坏、501は底面にロクロケズリを加える須恵器有台坏である。502は底部回転系切りの黒色土器有台坏である。503は大きく外傾する土師器口縁部

片で、口端外面に2条の沈線をめぐる。薄手の作りを考慮すると、小型の壺類であろうか。504・505は土鍋で、504の口縁部内面には内耳の剝離痕が認められる。506～508は底部回転系切りのロクロかわらけ、509は端反りの手捏ねかわらけで、506の底部中央には外側から打撃を加えた打ち欠き痕が認められる。

510は19区SD7003から出土した棒状鉄製品である。
河川SG3231 出土遺物 (第255図511～第257図549)

511～514は墨書土器である。いずれも須恵器無台環で、底部切り離しは511が回転ヘラ切り、512～514が回転系切りである。墨書はすべて底面に書かれており、511が「□山」、512が「大門」、513が「□王」で、514は判読不能である。

515～521は須恵器無台環、522～525は須恵器有台環である。526は須恵器こね鉢、527は須恵器小型壺、528は台部が欠損した須恵器壺底部で、527は仏教関係遺物として注目される。

529は内外面にミガキを施す両黒の無台環である。530～533は内面のみ黒色処理を施す非ロクロの黒色土器環、534～539はロクロ成形の黒色土器無台環で、530が外面にもミガキを施し、531～533が体部外面から底部にかけて手持ちケズリを加える。

540～542は黒色土器有台環で、540底面には放射状ナデ、541底面にはロクロナデを施し、542は回転系切り痕をとどめる。

543～549は土師器である。543は半球形環、544は平底気味の有段丸底環で、545はロクロ成形の無台環である。545の外面には煤、内面にはコゲとタール状の油脂が認められ、灯明器に用いられたものと考えられる。546～549は土師器甕で、547の胴部片は内面全体が光沢を帯びた茶褐色を呈する。内面に塗布したのではなく器壁に浸透・沈着した状態で、樹液等の有機質液体を長期間貯蔵した痕跡と推察される。

河川SG3278 出土遺物 (第258図550～第259図576)

550～553は須恵器無台環、554～557は須恵器有台環で、とくに556は体部下半に稜をもつ金属器模倣の稜塊である。558は球形の体部が特徴的な須恵器プラスチック瓶、559・560は須恵器短頸壺で、561・562は須

恵器壺の底部である。559は口縁部がわずかに内湾し、肩が張らない独特な器形を呈する。また560は小型の短頸壺で、556とともに仏教関係遺物として注目される。

563・564は黒色土器無台環、565は黒色土器有台環で、566の非ロクロ黒色土器高環脚部には2方向に透孔を穿つ。567の黒色土器環片は上端の破断面から内面にかけて漆が付着しており、破損した環を漆パレットに利用したものと考えられる。

568は土師器の内斜口縁環で、体部内外面にハケメを施し、丸底の底部に手持ちケズリを加える。569～573は土師器甕で、571のロクロ成形甕を除き、ハケメ調整を基本とする。574の土師器片は、底部から直線的に大きく開いて立ち上がる器形に図上復元でき、外面にケズリ、内面にナデを施す。器形としては竪穴建物ST4000出土の大型鉢(36)とも似るが、寸法・外面調整などの共通性も考慮して山形市双葉町遺跡ST1011出土壺(山形市教委2005)との類似を指摘しておきたい。

575は襦羽口、576は仕口もつ棒状の木製部材である。
河川SG3320 出土遺物 (第260図577～第272図728)

577～602は墨書・刻書土器で、須恵器11点、黒色土器13点、ロクロ土師器2点である。577～585は底部回転系切りの須恵器無台環で、577は体部外面と底面に、578～582は底面に、583は体部外面に「奉」の墨書がある。584は体部外面に墨書があるが、上半が消えていて判読不能であり、585は底面に「耳」の墨書がある。586は底部回転系切りの須恵器有台環で、底面に「◎」のような記号状の墨書がある。587は台部の欠損した須恵器壺で、底面に2字の墨書があるようだが、判読不能である。

黒色土器・土師器の墨書・刻書土器は、有台環の599と有台皿の600を除き無台環である。また体部外面に判読不能の墨書がある590・596以外は、底面に墨書が書かれている。判読できる文字では、591・592刻書と593・594・599・600墨書が「奉」、597墨書が「徳福」、598墨書が「徳」で、一部欠ける588墨書は「丈」、589墨書は「力」、595は「大」と考えられる。

603は須恵器環蓋、604～608は底部回転ヘラ切りの須恵器無台環、609～653は底部回転系切りの無台環である。604は口径が12.4cmと小さく、口縁部がや

や内湾する特徴的な器形である。また643の底面には回転系切り痕が2つあり、底部を切り直したものと見られる。

654～658は底部回転系切りの須恵器有台环、659は須恵器双耳环、660～662は底面にカキメを施す須恵器有台环、663～665は須恵器有台皿、666は須恵器仏鉢である。660・661は体部下半にもカキメを施しており、竪穴建物ST6074の覆土上層からも同様の有台环(166)が出土している。内湾する口縁直下に5条の沈線がめぐる666の仏鉢とともに、金属器模倣の一形態と考えられる。

667は内堤・外堤を有する圓足面視で、脚部に円形透孔が穿たれた痕跡を残すが、単位は不明である。

668は口頸部を欠く須恵器器で、体部形態や頸部の細さ等から判断してTK209型式に位置づけられよう。自然釉の付着状況から、向かって左側面を上にするように横倒しで焼成されたこととみられ、体部正面(胴部小孔まわり)には何かに接着した状態で焼成されたことを示す融着・剝離痕が認められる。

669～671は須恵器長頸壺で、670頸部にはやや形骸化した環状突起がめぐる。672～674は須恵器短頸壺で、672の肩部には蓋口縁の小片が融着し、これより外側に自然釉がかかることから、蓋をかぶせた状態で焼成されたこととわかる。また674の小型短頸壺は、仏教関係遺物として注目される。675・676は須恵器壺である。

677～682は須恵器甕で、口縁部から底部まで遺存する677の平底甕は平行タタキで整形した後、肩部にカキメを施す。679は口端と口縁部突線の間に櫛目3本の波状文1段、突線下から頸部上半にかけて櫛目5本の波状文3段を施し、頸部波状文の各段間と3段目の下に1条の区画沈線をめぐる。680は頸部外面に櫛目4～5本の波状文を2段施すが、区画沈線はない。

683・684は非ロクロの黒色土器環で、683は体部下半に段をもつ。685～700はロクロ成形の黒色土器無台环、701～703は黒色土器有台环で、685の口縁部外面には灯明器としての使用を窺わせるタール状の油痕が認められる。704～707は非ロクロの黒色土器高环で、705・706は脚部内外面にハケメを施し、707の脚部には3方向にスリット状の透孔がつけられる。

708～714は非ロクロの土師器環、715～718はロクロ成形の土師器無台环で、708～710は体部下半から底面にかけて、711～714は底面に手持ちケズリを加え

ており、708～710の底面中央にはわずかに木葉痕が残る。719は土師器高环、720～728は土師器甕である。河川SG3681出土遺物(第273図729～第295図990)

729～802は墨書・刻書土器で、須恵器51点、黒色土器18点(うち両黒は780の1点)、ロクロ土師器5点である。729～731は須恵器環蓋で、729天井部に「玉井」、730つまみ頂部に「由」の墨書が書かれ、731天井部の墨書は「王」の可能性がある。732～767は須恵器無台环で、すべて底面に墨書が書かれているが、732は内底面にも墨書があり、内外面とも「桑(=桑)」の墨書である。733は「王」、734は「伴」、735は「在」、736は「上」、737は「井」、738は「太」、739は「生カ」で、733には内面にも墨痕が認められる。740は「几」の字形が変化したものと考えられ、則天文字や呪符の影響を受けた特殊文字(平川1991)の一種であろうか。741は記号の墨書で、類例が米沢市吉志田東遺跡(米沢市教委2001)で138点、山形市今塚遺跡SD377(山形埋文1994)で2点出土している。742の墨書はやや崩れた書体だが「奉」と考えられ、743・744は「奉」の横線が省略されたものと捉えられる。745～761・765～767は「奉」で、768の須恵器有台皿と769・770の須恵器有台环の底面にも「奉」の墨書があり、762～764・771の底面墨書もその可能性が高い。772の須恵器有台环には、ドーマンと呼ばれる魔除け記号「卍」の墨書がある。773～779の墨書は判読不能である。

780～797の黒色土器は、791・792・797が体部外面に墨書、780・781は底面に刻書、他はすべて底面に墨書が書かれる。780・781の有台环は「奉」、782の無台环は「奉」の省略形、783～788の無台环と790の有台环は「奉」で、789の無台环も「奉」の可能性が高い。791は一部消えている箇所があるものの、横位に書かれた「鬼」の可能性が高く、792は正位に書かれた「山人」である。793は「日」、794は「吉田」、795は「午」で、796・797は判読不能である。

798～802のロクロ土師器はすべて底面に墨書が書かれ、798の無台环と802の有台环は「奉」と読める。799は「奉」省略形の可能性が高いが、他は判読できない。

803～805は須恵器環蓋、806は器高6.1cmを測る深身の須恵器無台环、807は底面にロクロケズリを加え

須恵器無台環、808～822は底部回転ヘラ切りの須恵器無台環、823～887は底部回転系切りの須恵器無台環である。823底面には焼成後に施された細い線刻による「*」の刻書、824底面外周には乾燥時のものとみられる明瞭な棒状圧痕が認められ、827内底面には棒状工具によるラセンナデが施される。888～899は須恵器有台環、900～906は須恵器有台皿である。

907は底部回転系切りの須恵器無台環で、内面の広範囲に黒痕が認められることから墨溜（墨入）に用いられたものと考えられる。908の須恵器杯蓋、909・910の須恵器無台環、911の須恵器有台皿は、内面に摩耗痕・墨痕（910は朱墨痕）が認められることから転用碗と考えられる。とくに909は、口縁部から底部にかけての外面に9～10本の沈線めぐらされており、金属器模倣の可能性がある。912は須恵器の平頭風字碗で、鉢形に成形した器を焼成前に分割して碗体部の素材にするという特異な製作方法がとられている。縦方向と横方向の境で碗面を区分し、裏面の碗尻側に短脚を貼り付ける。縦堤を逆L字形に曲げて碗頭側の左手に小区画を作り出した「曲堤二面碗」（山中1983）の可能性もあるが、碗尻側の縦堤右側面にL字形の曲がり始めが確認できることから、長野県大室遺跡などの報告例がある三面風字碗と判断した。

913・914は須恵器長頸壺で、913の頸部には環状突起帯がめぐる。915の須恵器壺底部も長頸壺であろう。916は絞り閉塞の須恵器横瓶で、平行タタキで整形された体部外面に同心円状の沈線が施される。917～929は須恵器甕である。

930～932は内外面に黒色処理を施す両黒の黒色土器で、930は無台環、931は底部を欠く環、932は有台皿である。930は被熱による黒色処理の色抜けが認められ、口縁部外面に煤が付着することから、灯明器に用いられたものと考えられる。933・934の黒色土器有台皿は外面に赤彩を施す装飾性の高い土器で、祭祀や儀礼など特別な用途に用いられたものだろう。935～963は黒色土器無台環で、935～940底面にはロクロケズリ、941～953底面には不定方向のケズリないしナデが加えられ、950底面には「一」の焼成後線刻がある。954～963は底部回転系切りの黒色土器無台環で、956は体部下端に手持ちケズリ、957は体部下端と底面外周に手持ちケズリ、958は体部下端と底面外周にはロクロケズリが加え

られる。なお、漆紙が付着する953は漆容器、内面漆が付着する954は漆パレット、外面の広範囲にタール状の油脂痕がある955は灯明器と考えられる（953の漆紙は赤外線テレビカメラによる観察で墨書未記載であることを確認）。964～966は黒色土器有台環、967～969は黒色土器有台皿、970は黒色土器鉢で、964・967は底面に放射状ナデを施す。

971～975はロクロ成形の土師器無台環、976はロクロ成形の土師器有台皿で、底部切り離しはすべて回転系切りである。977は土師器甕である。978～980は土師器小型甕の底部で、979・980の底面にはムシロ痕が認められる。981は外面にハケメ、内面にナデを施す土師器中型甕で、底面にムシロ痕が認められる。982はロクロ成形の土師器中型甕で、体部下半に平行タタキとケズリを加えている。983～988は土師器甕で、ロクロ成形の986内面にはカキメ状の板ナデを施している。

989は土製紡錘車である。990は凝灰質砂岩の石印で、中心点をもつ約2.5cm四方の平らな面に線刻が施されている。石質や形状から元々は砥石として使用されたものと考えられ、研ぎ減った砥石の端部に直径6.5mmの小孔を穿ち、記号状の印文を刻んで私印としたものだろう。

河川SG3801出土遺物（第296図991～第314図1201）

991～1035は墨書土器で、須恵器23点、黒色土器21点、ロクロ土師器1点である。991～993・1010・1012は底部回転ヘラ切りの須恵器無台環、994～1009・1011は底部回転系切りの須恵器無台環で、体部外面に横位の「古」を書く998を除き、他はすべて底面に墨書ないし墨痕が認められる。991は「大王」、992は「置（＝罇）」で、993は「木□」あるいは「水□」と読めるが、一字の可能性もある。994・995は「山」、996は「集」、997は「中」、999～1002は「本」、1003～1005は「在」である。1006・1012の底面墨書は幸うじて「万」の可能性を指摘できるが、1007～1011の墨書ないし墨痕は判読不能である。1013は底部回転系切りの須恵器有台皿で、底面に「吉」の墨書がある。

1014～1034は黒色土器で、体部外面に倒位の「在」を書く1033の有台環を除き、他はすべて底面に墨書が書かれている。1014～1019は無台環と1020の有台環は「吉」、1021・1022は「本」、1023は「山」で、

1024は欠損部分が大いもの「車」の可能性が高い。1025は「溝」で、1026は「今」、1027はやや不鮮明ながら「刃」と読め、1028は比較的鮮明な黒書で「生」と思われるが、縦線が上に突き出ない。1029は判読困難だが「王」と読めそうである。1030は一見「卅」のように読めるが、3本の縦線は直線ではなく8の字を描くように複雑に線を折り返して、河川SG3681出土の741と類似する記号の可能性が考えられる。1031～1034は「正」で、1035のロクロ土師器無台杯の底面に書かれた黒書は不鮮明ながら「在舎」と読めそうである。

1036・1037は須恵器杯蓋で、内面に摩耗痕・墨痕が認められる1036は転用履と考えられる。1038～1044・1046～1067は底部回転ヘラ切りの須恵器無台杯、1045・1068～1091は底部回転系切りの須恵器無台杯で、1043～1045は漆バレットとして用いられたものである。1067底面には「×」の焼成前線刻が施される。1091は内面に煤が付着することから灯明器に用いられたものと考えられる。1092～1102は須恵器有台杯で、とくに1092の小振りな器形と、1093の稜角が目目される。

1103は仏教関係遺物の須恵器水瓶、1104・1105は須恵器長頸壺で、1106・1107の底部も須恵器長頸壺と判断される。1108・1109は須恵器壺の上半部、1110～1112は下半部で、1111は外面を平行タタキ、ナデ、カキメで整え、内面は底面を含む全体にカキメを施す。

1113～1115は須恵器横瓶で、1113・1115は円盤閉塞である。1116～1124は須恵器甕で、1116の頸部外面には3条の波状線紋、1119の頸部外面には櫛目5本の波状文を1段施す。体部外面に平行タタキ、内面に同心円状の当て貝痕を残すものが基本だが、1121の内面下半には平行当て貝痕が残る。なお、1123の体部は接合関係のない3つのパーツ（肩部・肩～体部・底部）に分かれるが、色調・胎土・調整技法や器壁厚・復元径が一致することから、同一個体と判断して図上復元した。

1125～1129は内外面ともに黒色処理を施す両黒の黒色土器有台杯で、1126～1128の底面には放射状ナデが施される。1130・1131は黒色土器杯蓋である。1132・1133は丸底を呈する非ロクロの黒色土器杯で、1132は体部から底面にかけて、1133は底面に手持ちケズリを施す。1134～1152は底面にケズリないナデを施す黒色土器無台杯、1153～1160は底部回転系切り

の黒色土器無台杯で、1145は内底面に漆が付着することから漆バレットに用いられたと考えられる。また1152の底面には十文字の線刻が施される。1161～1166は黒色土器有台杯、1167・1168は黒色土器無台皿で、1164はとくに高い高台が特徴的である。

1169～1171は底部に手持ちケズリを加える有段平底気味の土師器杯、1172・1173は底部にハケメを施す無段丸底の土師器杯で、1173は内底面にもハケメを施す。1174は無段平底の土師器杯で、体部外面にナデないケズリ、内面にミガキを施す。1175～1180はロクロ成形の土師器無台杯で、1180は口縁部外面に煤が付着することから灯明器に用いられたものと考えられる。1181～1183はロクロ成形の土師器有台杯で、1182・1183底面には放射状ナデが施される。1184は短脚の土師器高杯で、脚部には5方向にスリット状の透孔を穿つ。1185は大きく屈折する口縁部形態や器面調整から土師器壺と判断した。1186・1187は土師器球胴甕で、1188～1195は土師器甕の底部である。1189～1192底面には木葉痕、1193～1195底面にはムシロ痕が認められる。1196は甕に付けられた角状把手と考えられる。

1197・1198は土鍾、1199は砥石、1200は用途不明の円盤形石製品で、表裏両面の縁辺に打ち欠きを加えて円形に仕上げている。1201は鉄滓である。

窪地SG5816出土遺物（第315図1202～1215）

1202は須恵器甕の頸部で、波状文を2段施す。

1203～1210は陶磁器である。1203は須恵器系陶器甕の肩部片、1204は瓷器系陶器甕の口縁部片である。1205は古瀬戸香炉の口縁部片、1206は成島系の鉢口縁部片で、1206の内外面には海鼠釉がかかる。1207は内面に植物文鉄絵を描く瀬戸美濃の志野皿、1208は内外面に鉄軸を施す津本郷産の播鉢底部、1209は肥前産の染付磁器碗、1210は近代の磁器鉢である。

1211は漆器碗で、内面が赤色漆、外面が黒色漆塗りである。樹種はブナ属と同定され、漆膜のAMS年代測定結果は、江戸前期～昭和であった（第IV章6・7）。1212は木製横櫛、1213は木栓である。1214は砥石、1215は背面に5つの木瓜紋が配される青銅製の方形鏡である。1辺7cm弱の大きさで、懐中鏡と考えられる。

窪地SG7006出土遺物（第316図1216～1219）

1216・1217は須恵器無台杯、1218は須恵器有台杯

で、すべて底部回転系切りである。1219は須恵器長頸壺の頸部片である。

河川SG8001出土遺物（第316図1220～1224）

1220は須恵器有台坏、1221・1222は須恵器甕の胴部片で、1222は内面と破断面に自然軸・降灰が認められることから焼台に転用した可能性がある。

1223は中世陶器甕の胴部片で、胎土に海綿骨針を含まないことから須恵器系陶器と判断した。13～14世紀に位置づけられ、SG8001の堆積時期を示唆する。

1224は鉄滓である。

小流路SG8018出土遺物（第316図1225～1227）

SG8018は22区の河川SG8001西岸から派生する短い小流路で、1225～1227はここから出土した石器である。石材表面に擦痕および煤・被熱痕が認められ、研磨を含む鍛冶作業に用いられた台石片と推察される。

性格不明遺構SX3056出土遺物（第317図1228）

1228は、2区中央の東壁際で検出されたSX3056出土の黒色土器無台坏で、底面に「吉」の墨書がある。

性格不明遺構SX3080出土遺物（第317図1229）

1229は、3区北側のSX3080で出土した黒色土器有台坏で、底部切り離しは回転系切りである。

性格不明遺構SX3170出土遺物（第317図1230～1240）

1230は宝珠形つまみの須恵器杯蓋、1231は底部回転ヘラ切りの須恵器無台坏、1232は底部回転系切りの須恵器有台坏で、1232底面には「奉」の墨書がある。

1233・1234は黒色土器杯蓋、1235は底面にロクロケズリを加える黒色土器無台坏、1236・1237は底面に手持ちケズリを加える黒色土器無台坏で、1236底面には判読不能の墨書がある。また1237の口縁部外面にはわずかに煤が付着し、被熱による内黒の色抜けも認められることから灯明器に用いられたものと考えられる。

1238～1240は土師器坏で、丸底を呈する1238は外面全体に赤彩を施し、平底の1239は外面にナデ・ミガキ、内面にハケメを施す。

性格不明遺構SX3181出土遺物（第318図1241～1249）

1241・1242は底部回転系切りの須恵器無台坏で、1242底面には判読不能の墨書がある。1243は須恵器甕で、外面に平行タタキ、内面に無文の当て具痕が認め

られる。

1244は両面に黒色処理を施した深身の黒色土器有台坏で、倒立状態で灯明器として用いたのであろうか、底部にタール状の油痕が認められる。1245・1246は内黒の黒色土器無台坏で、底面にケズリを加える。

1247は内外面にハケメを施す土師器甕で、底面にスズレ状のムシロ痕が認められる。

1248・1249は鞆の羽口片である。

性格不明遺構SX3756出土遺物（第319図1250～1253）

1250・1251は非ロクロの黒色土器高坏で、扁平な^{カマ}模倣形態の坏部に「八」字形の短脚が取りつく。

1252・1253は、入れ子状に重なって横倒しの状態で出土した平底の土師器鉢である。1252は深身の塊形を呈する体部で、内外面ともナデを施す。1253は直線的に外傾して立ち上がる器形で、体部外面にハケメ、内面にナデを施す。焼成後に底部中心を内面から打ち欠いて直径4.2～4.5cmの円孔をあけており、転用瓶の可能性が高い。

性格不明遺構SX4002出土遺物（第319図1254）

1254は、堅穴建物ST4000・4003に掘り込まれる浅く不整形な落ち込みSX4002から出土した大型の土師器球胴甕である。体部外面にハケメを施し、内面も底部近くにはハケメを施すが大部分はナデである。

性格不明遺構SX4008出土遺物（第320図1255～第321図1261）

1255～1261は土師器甕である。1255は外面にハケメを施し、内面も底部近くにはハケメを施すが大部分はナデ調整の長胴甕で、1256は器壁が薄く底部が丸底、ないごく小さい平底の長胴甕である。1257・1258は内外面ナデ調整の口縁部～頸部、1259・1260は内外面ハケメ調整の胴部、1261は内外面ハケメ調整の底部で、1261底面には木葉痕が認められる。

性格不明遺構SX5125出土遺物（第321図1262～1265）

1262～1265は、堅穴建物ST5126を掘り込む不整形方形の堅穴状遺構SX5125から出土した土器である。1262は須恵器無台坏、1263は須恵器有台坏で、ともに底部切り離しは回転系切りである。1264は底部回転系切りの黒色土器無台坏で、底面にナデを施す。1265

は高台付きの黒色土器で、体部外面に赤彩、底面に放射状ナデを施す。類似の土器が河川 SC3681 から出土しており（933・944）、1265も有台皿と判断される。

性格不明遺構 SX5127 出土遺物（第 321 図 1266・1267）

1266・1267 は、堅穴建物 ST5126 とともに SX5125 に掘り込まれる SX5127 から出土した深身の須恵器無台円で、とくに 1266 は口縁部から底部にかけて棒状工具で窪ませたような溝状の沈線がめぐる。河川 SC3681 から類似する 909 が出土しており、関連が注目される。

性格不明遺構 SX6188 出土遺物（第 321 図 1268～1270）

1268～1270 は、堅穴建物 ST6084 に掘り込まれる SX6188 から出土した土器である。1268 は非ロクロの黒色土器環で、底部に手持ちケズリを加える。1269 は平底気味の土師器環で、外面にミガキを施す。1270 は土師器甕で、外面にハケメを施し、内面も上部にはハケメを施すが大部分はナデ調整である。

C 遺構外出土の遺物

墨書土器（第 322 図 1271～1277）

1271・1272 は底部回転系切りの須恵器無台円で、1271 底面には「守」、1272 底面には「徳」と考えられる墨書がある。1273・1274 も底部回転系切りの須恵器無台円で、底面に「奉」の墨書がある。1275 は須恵器坏片で、体部外面に正位の「奉」が書かれる。1276 は底部回転系切りの須恵器無台円底部で、底面に「奉」の省略形と思われる墨書がある。1277 は黒色土器無台円で、底面に「奉」の墨書がある。

須恵器（第 322 図 1278～第 324 図 1297）

1278・1279 は須恵器杯蓋である。1280 は底面にロクロケズリを加える須恵器無台円で、口端内面に浅い段をもつ点特徴的である。1281・1282 は底部回転ヘラ切りの須恵器無台円、1283～1286 は底部回転系切りの須恵器無台円である。

1287 は内堤・外堤を有する團足円面甕で、外堤の外側に突帯状の段を備える。脚部に方形ないし長方形透孔が穿たれた痕跡を残すが、単位は不明である。1288 は仏教関係遺物の一種である須恵器浄瓶で、1289 は須恵器壺の頸部～肩部、1290・1291 は須恵器壺の底部

である。1292～1297 は須恵器甕である。1294 は口頸部外面に櫛目 5～6 本の波状文を 5 段以上施し、内面にも櫛目 4 本と 2 本の波状文を 1 段ずつ施す。口頸部の内面にも波状文を施す須恵器甕は、高島町安窩跡群 B 地区でも 1 点出土しており（東北芸術工科大学 2003）、関連の有無が注目される。1295 は肩部に矢羽根タタキを明瞭に残す甕で、内面の当て具痕はナデ消されている。

黒色土器・土師器（第 324 図 1298～第 326 図 1325）

1298・1299 は非ロクロの黒色土器環、1300・1301 はロクロ成形の黒色土器無台円で、1299 は器壁が厚く大振りな器形である。1302～1304 は土師器環で、1305 はロクロ成形の土師器有台円である。

1306～1308 は壺の小片で、頸部付近に直径 3～4mm ほどの列点文を施す。とくに 2 列の列点文がめぐる 1308 は、天王山式で盛行する交互刺突文の退化した最終形態と見られ（佐藤 2015）、弥生時代終末期～古墳時代初期に位置づけられる。

1309 は中実の柱状脚高環、1310 は屈折脚高環で、1311～1313 は小型器台である。1314 は内面に赤彩を施す薄手の土器片で、傾き等から蓋の可能性が高いと考えられるが、小片のため定かではない。1315 はロクロ成形の小型鉢で、溝 SD4329 出土例（497）と似るが、より小振りで口縁部が窄まる。1316 は体部がソロバン玉形を呈する土師器鉢、1317 は厚手・丸底の土師器壺底部、1318 は内面全体に厚く漆が付着する土師器小型甕で、頸部破断面から外面にかけて漆が垂れかかる状況から、口縁部の欠損した小型甕をそのまま保管容器として使用したものと考えられる。1319～1324 は土師器甕で、とくに 1319 は古墳時代前期の北陸北東部系「コ」字口縁甕である。1325 は甕類の把手である。

その他の遺物（第 326 図 1326～1332）

1326 は瓷器系陶器壺の口縁部片で、1327 は直立する厚手の土師質土器鉢である。1328 は 14 区南西側の畝状遺構から出土した波佐見産の染付磁器碗である。

1329 は縄文時代後期の有茎石罍である。1330・1331 は石製模造品の有孔円板で、石材は 1330 が凝灰岩、1331 が凝灰岩起源の緑色片岩である（第 IV 章 10 参照）。1332 は寛永通寶で、万治 2 年（1659）までに鑄造された古寛永である。

IV 理化学分析

1 第4次調査の出土骨同定

パリオ・サーヴェイ株式会社
金井慎司・田中義文・齋藤紀行

A はじめに

本報告では、馳上遺跡第4次の竪穴建物および溝から出土した骨の種類を検討する。今回実施する分析は、実体顕微鏡による骨同定である。以下、その内容について報告する。

B 試料

試料は、19区の竪穴建物ST7000覆土から採取された骨（試料番号1）、19区の溝SD7005覆土から採取された骨（試料番号2）である。骨片として取り上げられた状態であり、試料番号1が6片、試料番号2が複数片みられる。

C 分析方法

骨片には、砂分・泥分が僅かに付着していた。そこで、

試料番号1については水洗を行い、試料番号2については試料が破損しない程度に可能な限り竹串・筆等で除去した。接合関係にある骨片については、一般工作用接着剤を用いて接合・復元する。自然乾燥後、試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、形態的特徴から種類・部位を特定する。

D 結果および考察

試料番号1は、白色～灰黒色を呈し、焼骨の特徴を示す。緻密質の厚さから哺乳類と判断されるが、破片であるため種類を断定できない。6点の内、2点接合関係にあり、復元することができた。復元できた肢骨等の破片、残り4片は部位不明破片である。竪穴建物から出土した焼骨であることから、食糧資源等として利用された後、骨となった状態で焼かれたものと推定される。

試料番号2は、焼けていない骨片である。部分的に修復することが可能であり、ウマの下顎臼歯と判断される。ウマは、家畜として存在していたと考えられ、農耕や輸送手段としての利用のほか、軍事的などにも利用されていた可能性もある。



1～5 哺乳類四肢骨（試料番号1：ST7000覆土）
6～11 ウマ下顎臼歯（試料番号2：SD7005覆土）

第5図 馳上遺跡第4次調査の出土骨

2 銭貨出土地点の膜状物質

パリオ・サーヴェイ株式会社
金井慎司・田中義文・齋藤紀行

A はじめに

本報告では、銭貨出土地点で認められた漆の可能性が考えられる膜状物質の素材推定を検討する。今回実施する分析は、赤外分光分析である。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行っている（本章 6 参照）。

B 試料

試料は、19区で永楽通寶などが出土した土坑 SK7037 から採取された膜状物質（試料番号 3）である。



第6図 SK7037 検出状況



第7図 銭貨・膜状物質出土状況

C 分析方法

有機物を構成している分子は、炭素や酸素、水素などの原子が様々な形で結合している。この結合した原子間

は絶えず振動しているが、電磁波のようなエネルギーを受けることにより、その振動の振幅は増大する。この振幅の増大は、その結合の種類によって、ある特定の波長の電磁波を受けたときに突然大きく変化する性質がある。この時に、電磁波のエネルギーは結合の振動に使われて（すなわち吸収されて）、その物質を透過した後の電磁波の強度は弱くなる。

有機物を構成している分子における結合の場合は、電磁波の中でも赤外線領域に入る波長を吸収する性質を有するものが多い。そこで、赤外線の波長領域において波長を連続的に変えながら物質を透過させた場合、さまざまな結合を有する分子では、様々な波長において、赤外線の吸収が発生し、いわゆる赤外線吸収スペクトルを得ることができる。通常、このスペクトルは、横軸に波数（波長の逆数 cm^{-1} で示す）、縦軸に吸光度（ABS）を取った曲線で表されることが多い。したがって、既知の物質において、どの波長でどの程度の吸収が起こるかを調べ、その赤外線吸収スペクトルのパターンを定性的に標準化し、これと未知物質の赤外線吸収スペクトルのパターンとを定性的に比較することにより、未知物質を同定することも可能である（山田 1986）。

測定は、微量採取した試料をダイヤモンドエクスペレスにより加圧成型した後、顕微 FT-IR 装置（サーモエレクトロン株式会社製 Nicolet Avatar 370, Nicolet Centaurus）を利用し、測定を実施した。なお、赤外線吸収スペクトルの測定は、作成した試料を鏡下で観察しながら測定位置を絞り込み、アパーチャでマスキングした後、透過法で測定した。得られたスペクトルはベースライン補正などのデータ処理を施した後、吸光度（ABS）で表示している。測定条件及び各種補正処理の詳細については、FT-IR スペクトルとともに図中に併記しているため、そちらを参照されたい。

D 結果および考察

FT-IR スペクトルを第 8 図に示す。なお、比較資料として実測した漆の FT-IR スペクトルを図中に併記している。

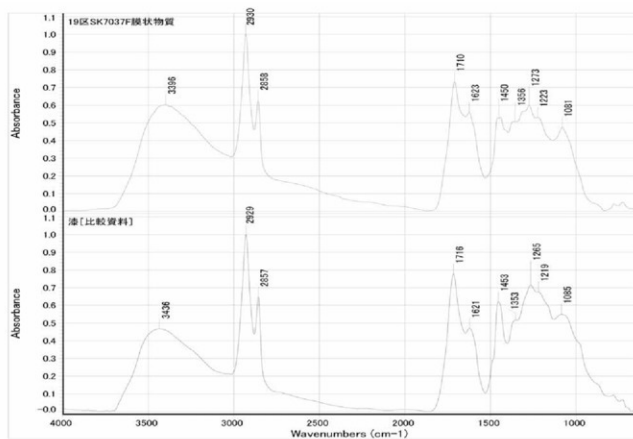
膜状物質の赤外線吸収特性は、 3400cm^{-1} 付近の幅広い吸収帯のほか、 2930cm^{-1} 、 2860cm^{-1} 、 1710cm^{-1} 、 1620cm^{-1} 、 1450cm^{-1} 、 1270cm^{-1} 付近の強い吸収帯

や 1360cm⁻¹、1220cm⁻¹、1080cm⁻¹ 付近の吸収帯によって特徴付けられる。なお、3400cm⁻¹ 付近の吸収帯は O-H 基の伸縮振動、2930cm⁻¹、2860cm⁻¹ 付近の吸収帯はメチル基およびメチレン基の C-H 伸縮振動、1710cm⁻¹ 付近の吸収帯は C=O 伸縮振動、1620cm⁻¹ 付近の吸収帯は C=C 伸縮振動、1450cm⁻¹ 付近の吸収帯は C-H 対称変角振動、1270cm⁻¹ 付近の吸収帯はメチル基の対称変角振動や C-O 伸縮振動あるいは O-H 変角振動と予想される。

試料の出所が既知の物質について、同一測定条件で赤外線吸収スペクトルを測定した例がいくつかあるが(パリオ・サーヴェイ株式会社、未公表)、遺跡で検出される有機質遺物の代表としては漆、天然アスファルト、松脂、動植物油、炭化物などの調査例がある。これらは、いずれも固有の吸収帯があり、漆では 3400、

2930、2860、1710、1620、1450、1270cm⁻¹、天然アスファルトでは 2960、2920、2860、1700、1600、1460、1380cm⁻¹ と脂肪族飽和炭化水素に帰属する吸収帯に特徴がある。また、松脂は 1700cm⁻¹、動植物油は 1740cm⁻¹、炭化物は 1140 ~ 1160cm⁻¹ に特徴ある吸収帯がある。

今回、調査を実施した 19 区 SK7037 から出土した膜状物質の赤外線吸収特性には、比較資料の漆において確認される 3400、2930、2860、1710、1620、1450、1270cm⁻¹ 付近の脂肪族飽和炭化水素に帰属する吸収帯が認められ、漆と類似したスペクトルパターンを示していることより、その材質が漆であることが支持される。銭貨周辺から出土しており、膜状となっていることを考慮すると、漆を塗布した何らかの容器等が存在していた可能性もある。



測定情報

サンプルスキャン回数 :64
バックグラウンドスキャン回数 :64 分
解能 :4.000
サンプルゲイン :8.0
ミラー速度 :1.8988

光学系の構成

検出器 :MCT/A
ビームスプリッター :KBr
光源 :IR

備考

ダイヤモンドエクスペレス成型
顕微鏡透過法
可変アパーチャ使用

オートベースライン補正
スムージング処理
Y軸正規化

第 8 図 試料番号 3 (19 区 SK7037) 膜状物質の FT-IR スペクトル

3 土坑内に認められた白色物質

パリオ・サーヴェイ株式会社
金井慎司・田中義文・齋藤紀行

A はじめに

本報告では、土坑内に認められた白色物質の素材推定を検討する。今回実施する分析は、実体顕微鏡による観察とX線回折である。以下、その内容について報告する。

B 試料

試料は、21区で検出された土坑SK7720北側の3層から出土した白色物質（試料番号4）である。なお、土壌中の白色物質の産状を第9図に示す。

C 分析方法

(1) 実体顕微鏡観察

OLYMPUS製実体顕微鏡SZHを使用し、6倍～54倍の倍率で白色物質の性状を観察した。表面部の代表的な部分については写真撮影を行い、写真図版に示した。また、X線回折分析の試料を採取した後、改めて表面の土壌を濡らした筆、竹串等で可能な限り除去し、再度観察する。

(2) X線回折分析

白色物質はピンセットを用いて採取した後、24時間、自然乾燥する。乾燥した試料はメノウ乳鉢を用いて微粉砕し、ガラス板上に塗布して測定用試料とする。作成し

たX線回折測定試料を以下の条件で測定する。

装置：理学電気製 MultiFlex Divergency Slit：1°
Target：Cu (K α) Scattering Slit：1°
Monochrometer：Graphite 湾曲 Receiving Slit：0.3mm
Voltage：40KV Scanning Speed：2° /min
Current：40mA Scanning Mode：連続法
Detector：SC Sampling Range：0.02°
Calculation Mode：cps Scanning Range：2～40°

D 結果

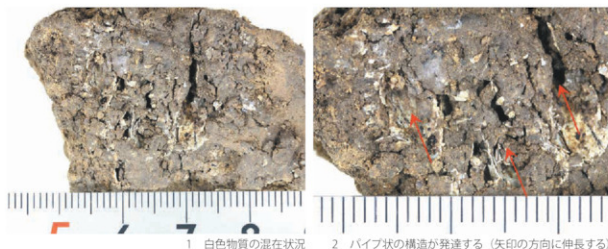
(1) 実体顕微鏡観察

土壌中の白色物質は、長さ15～20mm程度、径5mm程度のパイプ状を呈する空隙の壁に薄膜状に沈着している（第9図2）。孔隙の内部側の表面は微細な凹凸状の組織を示し、折り重なるような状態が観察され、幅が狭い箇所と幅の広い箇所がみられる（第10図1）。また、薄膜が小片に割れて薄板状となったものが周囲の土壌と多数混在している（第10図2・3）。色調は、白色～乳白色を呈し、空隙を被膜した外縁部はやや透明感を有し、種にガラス質な光沢を示す（第10図4）。

白色物質の板状の断面には、板面と並行な同心円状の縞や、板面と垂直な筋状の組織などが観察される。水分を含むものは、ピンセットでの試料採取時に潰れるものが多く、比較的軟質とみられる。

(2) X線回折分析

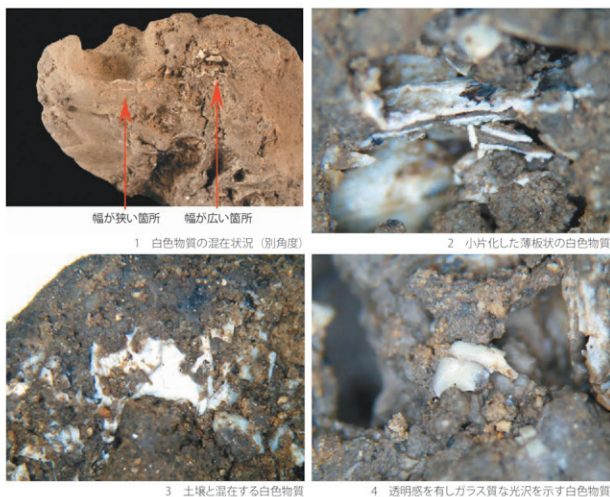
試験結果の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子間隔および相対強度を計算し、



1 白色物質の混在状況

2 パイプ状の構造が発達する（矢印の方向に伸長する）

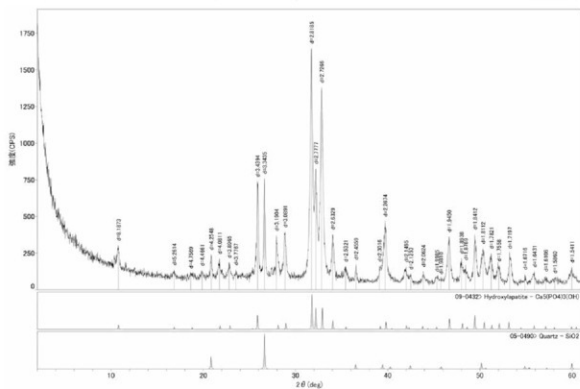
第9図 土壌中の白色物質の産状



2～4: 実体顕微鏡写真

10mm 1mm 2mm

第10図 白色物質の特徴



第11図 試料番号4 (21区SK7720北側3層の白色物質)のX線回折チャート

それに該当する化合物または鉱物を、JCPDS (Joint Committee on Powder Diffraction Standards) の PDF (Powder Data File) をデータベースとした X 線粉末回折線解析プログラム JADE により検索し、同定した。X 線回折チャートを第 11 図に示す。図中の最上段が試料の回折チャートであり、下段が同定された結晶性鉱物もしくは化合物の回折パターンである。以下の文中においては、回折チャートの同定に使用した PDF データの鉱物名 (英名) は括弧内に記している。

回折試験の結果、ハイドロキシアパタイト (hydroxylapatite) および石英 (quartz) が検出された。ハイドロキシアパタイトは、 2.82 \AA ($2\theta: 31.7^\circ$)、 2.73 \AA ($2\theta: 32.8^\circ$) および 2.78 \AA ($2\theta: 32.2^\circ$) の三強線が明瞭に回折しており、その他の回折線も半価幅が

小さく、明瞭である。

E 考察

白色物質について X 線回折分析を行った結果、脊椎動物の歯や骨を構成する主成分であるハイドロキシアパタイト ($\text{Ca}_5(\text{PO}_4)_3(\text{OH})$) が検出された。さらに、白色物質について実体顕微鏡にて観察すると、空隙の壁に薄膜状に沈着し、軟質である。これらのことから、本白色物質は、哺乳類の歯牙が溶解したものであると考えられる。また、膜状に折り重なるような状態であり、月状歯型に類似する構造を示し、幅狭な箇所と幅広の箇所が認められる。このことから、本白色物質はニホンジカの白歯列の可能性はある。なお、X 線回折分析で検出された石英は、白色物質の採取時に混入した土壌中の鉱物片である。

引用文献

山田 富貴子 1986 『赤外線吸収スペクトル法、機器分析のてびき第 1 集』化学同人 p.1-p.18

4 土坑出土の漆膜片分析

株式会社バレオ・ラボ
藤根 久・小林克也

A はじめに

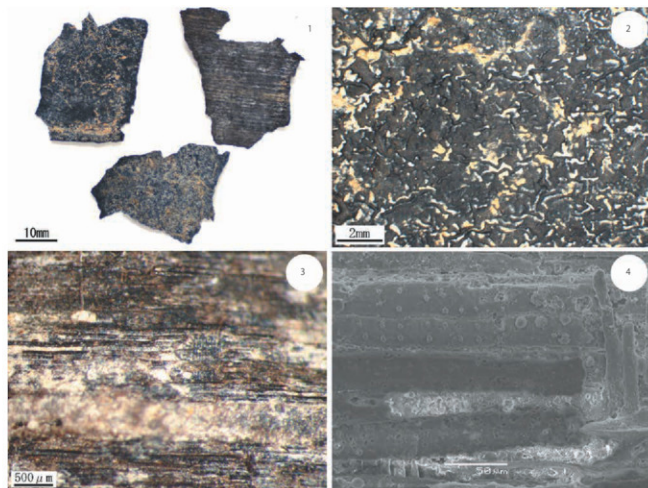
船上遺跡第6次調査において、河川SG8001の西岸で検出された土坑SK8005の最下層から、漆製品と思われる塗膜片が数多く出土した(第12図1)。ここでは、この塗膜片について赤外分光分析を行った。

B 試料と方法

塗膜片の表面部分から塗膜の一部を測定用に削り取った。採取した試料は、押しつぶして厚さ1mm程度に裁断

表2 漆同定・赤外分光分析を行った試料

分析No.	遺構	層位	時期	特徴
1	SK8005	最下層	9世紀後半	黒色塗膜片、皺有、木片片虫有



第12図 塗膜片の写真

した臭化カリウム (KBr) 結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計(日本分光(株)製FT/IR-410、IRT-30-16)を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

C 結果と考察

塗膜片は、表面において皺が見られ(第12図2)、また裏面には木胎の材組織の一部が付着していた(第12図3)。こうした状況から、表面の皺は意図的に施された文様の一部と推察される。

塗膜片の赤外分光分析を行った結果、生漆のウルシオールの吸収(第13図の生漆吸収No.6~8)が確認され、漆と同定された。なお、第13図の赤外吸収スペクトル図は、縦軸が透過率(%R)、横軸が波数

- 1 塗膜片 3 塗膜木胎側の実体顕微鏡写真
2 塗膜表面の実体顕微鏡写真 4 塗膜木胎側の電子顕微鏡写真

(Wavenumber (cm⁻¹); カイザー) である。吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置(表3)を示す。

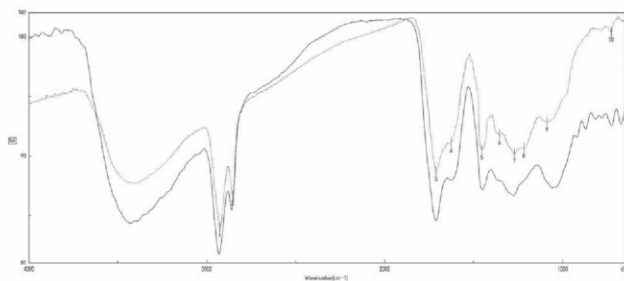
裏面に付着していた木胎の材組織は、針葉樹と同定された。以下に、走査型電子顕微鏡で観察した塗膜片の裏面の木材組織の特徴を示す。

針葉樹 Coniferous wood (第12図3・4)

放射組織の分野壁孔と仮道管の仮道管壁孔がみられた。分野壁孔は大型で1分野に2個みられるが、横断面および接線断面が確認できず、針葉樹までの同定に留めた。

表3 生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収No	生漆		
	位置	強度	ウルシ成分
1	2925.48	28.534	
2	2854.13	36.217	
3	1710.55	42.035	
4	1633.41	48.833	
5	1454.06	47.195	
6	1351.86	50.803	ウルシオール
7	1270.86	46.334	ウルシオール
8	1218.79	47.536	ウルシオール
9	1087.66	53.843	
10	727.03	75.389	



縦軸：透過率 横軸：波数 数字：生漆の赤外吸収位置

第13図 塗膜片の赤外吸収スペクトル図

5 塗膜片の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤 茂・安昭彦・佐藤正教
廣田正史・山形秀樹・小林祐一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・小林克也

A はじめに

馳上遺跡第 6 次調査で出土した塗膜片試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて赤外分光分析による材質同定も行っている (本章 4 参照)。

B 試料と方法

試料は、土坑 SK8005 の最下層で出土した有機物 (PLD-25824) で、赤外分光分析の結果、漆膜であることが確認された。なお、SK8005 の覆土上層にあたる 2 層からは、9 世紀後半の須恵器有台が出土している。測定試料の情報、調製データは表 4 のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS; NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

C 結果

表 5 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年代に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代を、第 14 図に暦年代正結果をそれぞれ示す。暦年代正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年代較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年代較

を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年代正の詳細は以下のとおりである。

暦年代正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年代正には OxCal4.1 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年代正曲線を示す。

D 考察

測定の結果、SK8005 最下層から出土した漆膜 (PLD-25824) の ^{14}C 年代は 1165 ± 20 yr BP、2 σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) は 775-898 cal AD (86.6%) および 925-945 cal AD (8.8%) となり、8 世紀後半～10 世紀中頃の暦年代範囲となった。これは、奈良～平安時代に相当する。

SK8005 の 2 層から 9 世紀後半の須恵器有台が出土している点とも整合的である。

参考文献

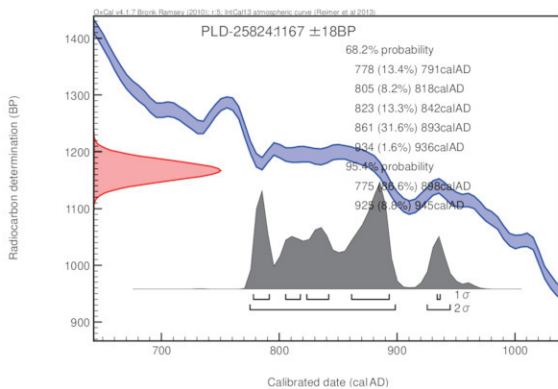
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編纂委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」: 3-20. 日本第四紀学会.
Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

表 4 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-25824	遺構: SK8005 層位: 5 層	種類: 漆喰 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N, 水酸化ナトリウム:1.0N, 塩酸:1.2N)

表 5 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-25824	-30.27 ± 0.17	1167 ± 18	1165 ± 20	778AD(13.4%)791AD 805AD(8.2%)818AD 823AD(13.3%)842AD 861AD(31.6%)893AD 934(1.6%)936AD	775AD(86.6%)898AD 925AD(8.8%)945AD



第 14 図 試料の暦年較正結果

6 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭煥・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹

小林紘一・Zaur Lomtatidze・小林克也

A はじめに

馳上遺跡第2～4次調査で出土した試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。なお、一部の試料については樹種同定と種実同定、骨同定も行っている (本章7～9参照)。

B 試料と方法

年代測定試料は、漆塗膜が2点、生材が6点、炭化材が9点、生の種実が18点、骨試料が2点で、計37点となった。

漆塗膜は、土坑 SK7037 から1点 (試料 No.1: PLD-30502)、窪地 SG5816 の漆器椀 (遺物 No.1210) 外面から1点 (試料 No.2: PLD-30503) である。

生材は、7区の柱穴 SP3644 から1点 (試料 No.3: PLD-30504)、7区の柱穴 SP3645 から1点 (試料 No.4: PLD-30505)、4区の柱穴 SP3178 から1点 (試料 No.5: PLD-30506)、4区の柱穴 SP3184 から1点 (試料 No.6: PLD-30507)、4区の土坑 SK3145 から2点 (試料 No.7: PLD-30508、試料 No.8: PLD-30509) である。樹種同定の結果、試料 No.3、4、5 はコナラ属コナラ節、試料 No.6 はムクノキ、試料 No.7、8 はマツ属複雑管束亜属であった。試料 No.3 と 7 は最終形成年輪が残っていたが、試料 No.4、5、6、8 は残っていなかった。

炭化材は、竪穴建物 ST3774 から1点 (試料 No.9: PLD-30510)、竪穴建物 ST6223 から5点 (試料 No.10: PLD-30511、試料 No.11: PLD-30512、試料 No.12: PLD-30513、試料 No.13: PLD-30514、試料 No.14: PLD-30515)、竪穴建物 ST6243 から3点 (試料 No.15: PLD-30516、試料 No.16: PLD-30517、試料 No.17: PLD-30518) である。樹種同定の結果、試料 No.9 はサクラ属、試料 No.10、11、12、13、14 はトネリコ属シオジ節、試料 No.15、16、17 はコナラ属コナラ節であった。試料 No.9、10、11、14 は最終形成年輪が残っていたが、試料 No.12、13、15、16、17

は最終形成年輪が残っていなかった。

生の種実は、4区の土坑 SK3141 から1点 (試料 No.18: PLD-30519)、4区の土坑 SK3142 から2点 (試料 No.19: PLD-30520、試料 No.20: PLD-30521)、4区の土坑 SK3144 から1点 (試料 No.21: PLD-30522)、4区の土坑 SK3145 から2点 (試料 No.22: PLD-30523、試料 No.23: PLD-30524)、4区の土坑 SK3183 から2点 (試料 No.24: PLD-30525、試料 No.25: PLD-30526)、8区の性格不明遺構 SX3234 から1点 (試料 No.26: PLD-30527)、1区の窪地 SG3001 から1点 (試料 No.27: PLD-30528)、5区の河川 SG3681 から2点 (試料 No.28: PLD-30529、試料 No.29: PLD-30530)、9区の河川 SG3231 から3点 (試料 No.30: PLD-30531、試料 No.31: PLD-30532、試料 No.32: PLD-30533)、10区の河川 SG3231 から3点 (試料 No.33: PLD-30534、試料 No.34: PLD-30535、試料 No.35: PLD-30536) である。種実同定の結果、試料 No.18、20、23、24、27、28、30、31、32、33 はオニグルミ核、試料 No.19、21、22、29、はモモ核、試料 No.25 はクリ果実、試料 No.26 はトチノキ未熟種子、試料 No.35 はスモモ核であった。

骨試料は、18区の窪地 SG5816 から出土したウマの右肩甲骨 (試料 No.36: PLD-30537)、14区の竪穴建物 ST6230 から出土したヒトの焼骨 (試料 No.38: PLD-30538) である。

18区 SG5816 のウマ右肩甲骨については、超音波洗浄を行い、その後カラーゲンを抽出した。抽出したカラーゲンは、炭素窒素比 (C/N 比) の測定も行った (表6)。14区 ST6230 のヒトの焼骨はカラーゲンの抽出が望めなかったため、骨を構成する無機質に含まれる炭酸塩を測定の対象とした。ヒトの焼骨を超音波洗浄した後、Lanting ほか (2001) の方法に従って、1.5%の次亜塩素酸ナトリウム溶液と1Mの酢酸で洗浄し、リン酸との反応でCO₂ガス化した。CO₂ガスを精製後、水素還元によりグラファイト化した。

測定試料の情報、調製データは表7のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた¹³C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

表6 コラーゲンの収率と炭素窒素比

測定番号	荷重量 (mg)	コラーゲン重量 (mg)	コラーゲン収率 (%)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N
PLD-30537 SC5816 試料No.36	1141.1	202.1	17.7	46.0	19.1	2.8

表7 測定試料および処理 (1)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-30502	遺構: SK7037 試料 No.1	種類: 漆塗膜 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30503	調査区: 18 区 遺構: SC5816 試料 No.2	種類: 漆塗膜 器種: 椀 (遺物 No.1210) 部位: 外面 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30504	調査区: 7 区 遺構: SP3644 試料 No.3	種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状: 最終形成年輪 器種: 柱根 採取位置: 外側 4 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30505	調査区: 7 区 遺構: SP3645 試料 No.4	種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状: 部位不明 器種: 柱根 採取位置: 外側 1 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30506	調査区: 4 区 遺構: SP3178 試料 No.5	種類: 生材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状: 部位不明 器種: 柱根 採取位置: 外側 1 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30507	調査区: 4 区 遺構: SP3184 試料 No.6	種類: 生材 (ムクゲ) 試料の性状: 部位不明 器種: 柱根 採取位置: 外側 1 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30508	調査区: 4 区 遺構: SK3145 試料 No.7	種類: 生材 (マツ属短葉松葉節) 試料の性状: 最終形成年輪 器種: 木片 採取位置: 外側 1 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30509	調査区: 4 区 遺構: SK3145 試料 No.8	種類: 生材 (マツ属短葉松葉節) 試料の性状: 部位不明 器種: 木片 採取位置: 外側 1 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30510	遺構: ST3774 試料 No.9	種類: 炭化材 (サクラ属) 試料の性状: 最終形成年輪 採取位置: 外側 2 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30511	遺構: ST6223 試料 No.10	種類: 炭化材 (トネリコ属シオン節) 試料の性状: 最終形成年輪 採取位置: 外側 2 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30512	遺構: ST6223 試料 No.11	種類: 炭化材 (トネリコ属シオン節) 試料の性状: 最終形成年輪 採取位置: 外側 2 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30513	遺構: ST6223 試料 No.12	種類: 炭化材 (トネリコ属シオン節) 試料の性状: 部位不明 採取位置: 外側 3 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30514	遺構: ST6223 試料 No.13	種類: 炭化材 (トネリコ属シオン節) 試料の性状: 部位不明 採取位置: 外側 3 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30515	遺構: ST6223 試料 No.14	種類: 炭化材 (トネリコ属シオン節) 試料の性状: 最終形成年輪 採取位置: 外側 3 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30516	遺構: ST6243 試料 No.15	種類: 炭化材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状: 部位不明 採取位置: 外側 3 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・鹼洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)

測定試料および処理 (2)

測定番号	道庁データ	試料データ	前処理
PLD-30517	道標: ST6243 試料 No.16	種類: 炭化材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状: 部位不明 採取位置: 外側 3 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30518	道標: ST6243 試料 No.17	種類: 炭化材 (コナラ属コナラ節) 試料の性状: 部位不明 採取位置: 外側 2 年輪分 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30519	調査区: 4 区 道標: SK3141 試料 No.18	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30520	調査区: 4 区 道標: SK3142 試料 No.19	種類: 生の種実 (モモ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30521	調査区: 4 区 道標: SK3142 試料 No.20	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30522	調査区: 4 区 道標: SK3144 試料 No.21	種類: 生の種実 (モモ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30523	調査区: 4 区 道標: SK3145 試料 No.22	種類: 生の種実 (モモ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30524	調査区: 4 区 道標: SK3145 試料 No.23	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30525	調査区: 4 区 道標: SK3183 試料 No.24	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30526	調査区: 4 区 道標: SK3183 試料 No.25	種類: 生の種実 (クリ果実) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30527	調査区: 8 区 道標: SC3234 試料 No.26	種類: 生の種実 (トチノキ未熟種子) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30528	調査区: 1 区 道標: SC3001 試料 No.27	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30529	調査区: 5 区 道標: SC3681 試料 No.28	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30530	調査区: 5 区 道標: SC3681 試料 No.29	種類: 生の種実 (モモ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30531	調査区: 9 区 道標: SC3231 試料 No.30	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30532	調査区: 9 区 道標: SC3231 試料 No.31	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30533	調査区: 9 区 道標: SC3231 試料 No.32	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30534	調査区: 10 区 道標: SC3231 試料 No.33	種類: 生の種実 (オニグルミ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30535	調査区: 10 区 道標: SC3231 試料 No.34	種類: 生の種実 (モモ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30536	調査区: 10 区 道標: SC3231 試料 No.35	種類: 生の種実 (スモモ核) 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-30537	調査区: 18 区 道標: SC5816 試料 No.36	種類: 生の骨 (ウマ) 部位: 右肩甲骨 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理・アセトン カラーゲン抽出
PLD-30538	調査区: 14 区 道標: ST6230 試料 No.38	種類: 焼骨 (ヒト) 部位: 不明 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 0.1N, 塩酸: 1.2N)

C 結果

表 8 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、1950 年の大気中の ^{14}C 濃度を 1 として計算した試料の ^{14}C 濃度を表す $F^{14}\text{C}$ 値を、第 15 ~ 20 図に各試料の暦年較正結果を、第 21 ~ 23 図にマルチプロット図をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.2 (較正曲線データ: IntCal13、暦年較正結果が 1950 年以降までのびる試料については Post-bomb atmospheric NH2) を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

D 考察

以下、2 σ 暦年代範囲 (確率 95.4%) に着目して、おおむね年代の古い順に、遺構ごとに結果を整理する。なお、弥生時代の暦年代については (小林 2009) を参

照した。

14 区 ST6230 の試料 No.38 (PLD-30538) は 386-346 cal BC (22.3%) および 321-206 cal BC (73.1%) であった。骨の炭酸塩は生前にゆっくりではあるが一定の速度で置換するため、炭酸塩は 10 ~ 20 年程度の期間に体内に取り込まれた炭素を含む。したがって、焼骨の ^{14}C 年代は死亡する 10 ~ 20 年程度前から死亡時までの期間の平均と考えられる。この分を考慮すると、出土人骨の死亡時期は、紀元前 4 世紀前半 ~ 2 世紀初頭と考えられる。これは、弥生時代中期に相当する。ただし、ST6230 から出土した土器は 9 世紀中葉頃であり、測定結果と時期が大きく離れていた。試料 No.38 の焼骨は、堅穴建物埋没時に混入した可能性が考えられる。

8 区 SX3234 の試料 No.26 (PLD-30527) は 237-347 cal AD (94.8%) および 373-376 cal AD (0.6%) で、3 世紀前半 ~ 4 世紀後半の暦年代を示した。これは、弥生時代後期 ~ 古墳時代中期に相当する。試料は生の確実であり、測定結果は結実年代を示す。

7 区 SP3645 の試料 No.4 (PLD-30505) は 640-675 cal AD (95.4%) で、7 世紀中頃 ~ 後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代に相当する。試料は生材であり、最終形成年輪は残っていない。木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる (古木効果)。最終形成年輪が残っていない木材試料については、古木効果の影響を考慮する必要がある。

7 区 SP3644 の試料 No.3 (PLD-30504) は 680-770 cal AD (95.4%) で、7 世紀後半 ~ 8 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代 ~ 奈良時代に相当する。試料は生材であり、最終形成年輪を含めて測定が行われており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示している。

1 区 SG3001 の試料 No.27 (PLD-30528) は 688-751 cal AD (53.7%)、760-779 cal AD (15.6%)、790-870 cal AD (26.1%) の暦年代を示した。また、5 区 SG3681 の試料 No.28 (PLD-30529) は 693-747 cal AD (34.1%)、763-781 cal AD (14.2%)、787-878 cal AD (47.0%)、試料 No.29 (PLD-30530) は 693-747 cal AD (34.5%)、763-780 cal AD (14.6%)、787-877 cal AD (46.3%) の暦年代を示した。4 区 SP3178 の試料 No.5

(PLD-30506) は 695-700 cal AD (0.8%)、710-745 cal AD (23.3%)、764-881 cal AD (71.2%) の暦年代を示した。これらはいずれも 7 世紀後半～9 世紀後半の暦年代で、飛鳥時代～平安時代前期に相当する。試料 No.5 は生材で、最終形成年輪が残っていないため、古木効果の影響を考慮する必要がある。また試料 No.27～29 は生の種実であり、測定結果は結実年代を示す。

4 区 SK3141 の試料 No.18 (PLD-30519) は 729-737 cal AD (2.9%) および 768-882 cal AD (92.5%)、4 区 SP3184 の試料 No.6 (PLD-30507) は 729-736 cal AD (2.4%) および 768-884 cal AD (93.0%)、ST3774 の試料 No.9 (PLD-30510) は 730-735 cal AD (1.4%) および 769-885 cal AD (94.0%) の暦年代を示した。また、4 区 SK3145 の試料 No.8 (PLD-30509) は 686-779 cal AD (80.3%)、791-830 cal AD (8.7%)、837-865 cal AD (6.4%)、試料 No.7 (PLD-30508) は 770-885 cal AD (95.4%)、試料 No.22 (PLD-30523) は 772-886 cal AD (95.4%)、試料 No.23 (PLD-30524) も 772-886 cal AD (95.4%) の暦年代を示した。4 区 SK3142 の試料 No.20 (PLD-30521) は 771-886 cal AD (95.4%)、試料 No.19 (PLD-30520) は 773-886 cal AD (95.4%) の暦年代を示した。いずれも 8 世紀前半～9 世紀後半に収まる暦年代で、奈良時代～平安時代前期に相当する。なお、試料 No.6～8 は生材、試料 No.9 は炭化材である。試料 No.7、9 は最終形成年輪を含めて測定が行われており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。試料 No.6、8 は最終形成年輪が残っていないため、古木効果の影響を考慮する必要がある。試料 No.18～20、22、23 は生の種実であり、測定結果は結実年代を示す。

9 区 SG3231 の試料 No.30 (PLD-30531) は 573-645 cal AD (95.4%) で、6 世紀後半～7 世紀中頃の暦年代を示した。これは、古墳時代後期～飛鳥時代に相当する。同じく 9 区 SG3231 の試料 No.32 (PLD-30533) は 682-771 cal AD (95.4%) で、7 世紀後半～8 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～奈良時代に相当する。試料 No.31 (PLD-30532) は 688-752 cal AD (46.9%)、760-780 cal AD (14.8%)、788-875 cal AD (33.7%) で、7 世紀後半～9 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～平安時代前期に相当する。試料 No.30～32 はいずれも生の種実であり、測定結果は結

実年代を示す。

10 区 SC3231 の試料 No.33 (PLD-30534) は 350-367 cal AD (2.7%)、380-433 cal AD (81.2%)、490-532 cal AD (11.5%) で、4 世紀中頃～6 世紀前半の暦年代を示した。これは、古墳時代中期～後期に相当する。試料 No.34 (PLD-30535) は 695-700 cal AD (0.9%)、710-745 cal AD (18.7%)、764-884 cal AD (75.8%) で、7 世紀末～9 世紀後半の暦年代を示した。これは、飛鳥時代～平安時代前期に相当する。試料 No.35 (PLD-30536) は 773-886 cal AD (95.4%) で、8 世紀後半～9 世紀後半の暦年代を示した。これは、奈良時代～平安時代前期に相当する。試料 No.33～35 はいずれも生の種実であり、測定結果は結実年代を示す。4 区 SK3144 の試料 No.21 (PLD-30522) は 773-888 cal AD (95.4%) で 8 世紀後半～9 世紀後半の暦年代を示した。また、4 区 SK3183 の試料 No.25 (PLD-30526) は 773-889 cal AD (95.4%)、試料 No.24 (PLD-30525) は 774-895 cal AD (90.5%) および 928-941 cal AD (4.9%) で、いずれも 8 世紀後半～10 世紀中頃に収まる暦年代を示した。これらは、奈良時代～平安時代前期の年代に相当する。試料 No.21、24、25 はいずれも生の種実であり、測定結果は結実年代を示す。

ST6223 の試料 No.11 (PLD-30512) は 695-700 cal AD (0.8%)、710-745 cal AD (21.5%)、764-882 cal AD (73.2%) の暦年代を示した。これは 7 世紀末～9 世紀後半で、飛鳥時代～平安時代前期に相当する。同じく ST6223 の試料 No.10 (PLD-30511) は 721-741 cal AD (10.0%) および 766-882 cal AD (85.4%)、試料 No.13 (PLD-30514) は 774-889 cal AD (95.4%)、試料 No.14 (PLD-30515) は 773-894 cal AD (95.4%)、試料 No.12 (PLD-30513) は 774-894 cal AD (94.7%) および 934-936 cal AD (0.7%) で、8 世紀前半～9 世紀後半に収まる暦年代を示した。これは、奈良時代～平安時代前期に相当する。試料 No.10～14 はいずれも炭化材である。試料 No.10、11、14 は最終形成年輪を含めて測定が行われており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。また試料 No.12、13 は最終形成年輪が残っていないため、古木効果の影響を考慮する必要がある。

ST6243 の試料 No.17 (PLD-30518) は 726-738 cal AD (4.1%) および 767-884 cal AD (91.3%) で、8 世紀

前半～9世紀後半の暦年代を示した。これは、奈良時代～平安時代前期に相当する。また、試料No.15 (PLD-30516) は775-898 cal AD (86.3%) および925-945 cal AD (9.1%)、試料No.16 (PLD-30517) は776-794 cal AD (10.5%)、800-904 cal AD (56.7%)、918-965 cal AD (28.3%)で、8世紀後半～10世紀後半に取まる暦年代を示した。これは、奈良時代～平安時代中期に相当する。試料No.15～17はいずれも炭化材で、最終形成年輪が残っていないため、古木効果の影響を考慮する必要がある。

SK7037の試料No.1 (PLD-30502) は1468-1529 cal AD (39.2%) および1545-1635 cal AD (56.2%)で、15世紀後半～17世紀前半の暦年代を示した。これは、室町時代～江戸時代前期に相当する。試料は漆塗膜であり、測定結果は材料の漆が採取された時期を示す。

18区SG5816の試料No.2 (PLD-30503) は1667-1686 cal AD (16.7%)、1730-1783 cal AD (49.0%)、

1796-1809 cal AD (9.4%)、1927-1954 cal AD (20.3%)で、17世紀後半～19世紀初頭および20世紀前半～中頃の暦年代を示した。これは、江戸時代前期～後期および昭和時代に相当する。試料は漆塗膜であり、測定結果は材料の漆が採取された時期に相当する。同じSG5816の試料No.36 (PLD-30537) は1958-1959 cal AD (11.2%)、1960-1961 cal AD (3.0%)、1984-1984 cal AD (1.0%)、1984-1986 cal AD (80.2%)で、20世紀中頃～後半の暦年代を示した。これは、昭和時代に相当する。試料は生の骨であり、コラーゲン抽出を行っている。コラーゲンのC/N比は、コラーゲンの保存状態を評価する指標として用いられ、一般的に骨コラーゲンのC/N比は2.9～3.6の間に取まる (DeNiro1985)。試料から抽出したコラーゲンのC/N比は2.8であり、一般的なC/N比の範囲よりも僅かに低いが、コラーゲンはほとんど劣化していないと考えられる。

引用・参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- Hua, Q., Barbetti, M., Rakowski, A.Z. (2013) Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2010. *Radiocarbon*, 55(4), 1-14.
- 小林謙一 (2009) 近畿地方以东の地域への拡散。西本豊弘編『新弥生時代の はじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代』:55-82, 雄山閣。
- Lanting, J. N., Aerts-Bijma, A. T. and van der Plicht (2001) Dating of Cremated Bones. *Radiocarbon*, 43(2A), 249-254.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編『日本先史時代の¹⁴C年代』:3-20, 日本第四紀学会。
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Halldason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

表8 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 (1)

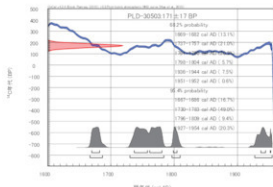
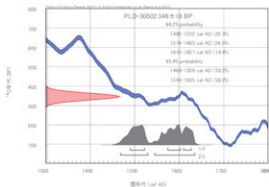
測定番号	δ13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	14C年代 (yrBP±1σ)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD 30502 SK7037 試料 No.1	-27.98±0.13	346±18	345±20	1490-1522 cal AD (29.3%) 1574-1603 cal AD (24.5%) 1610-1627 cal AD (14.4%)	1468-1529 cal AD (39.2%) 1545-1635 cal AD (56.2%)
PLD 30503 SG5816 試料 No.2	-28.02±0.14	171±17	170±15	Post-bomb NH2 2013: 1669-1682 cal AD (13.1%) 1737-1757 cal AD (21.0%) 1761-1780 cal AD (20.3%) 1798-1804 cal AD (5.7%) 1936-1944 cal AD (7.5%) 1951-1952 cal AD (0.6%)	Post-bomb NH2 2013: 1667-1686 cal AD (16.7%) 1730-1783 cal AD (49.0%) 1796-1809 cal AD (9.4%) 1927-1954 cal AD (20.3%)
PLD 30504 7区 SP3644 試料 No.3	-27.62±0.17	1270±19	1270±20	690-722 cal AD (44.4%) 740-751 cal AD (15.0%) 760-767 cal AD (8.8%)	680-770 cal AD (95.4%)
PLD 30505 7区 SP3645 試料 No.4	-35.49±0.17	1370±19	1370±20	649-664 cal AD (68.2%)	640-675 cal AD (95.4%)
PLD 30506 4区 SP3178 試料 No.5	-33.81±0.16	1226±18	1225±20	722-740 cal AD (17.8%) 767-778 cal AD (12.4%) 791-807 cal AD (12.3%) 812-827 cal AD (9.3%) 840-863 cal AD (16.4%)	695-700 cal AD (0.8%) 710-745 cal AD (23.3%) 764-881 cal AD (71.2%)

放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 (2)

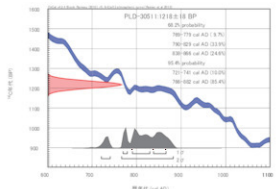
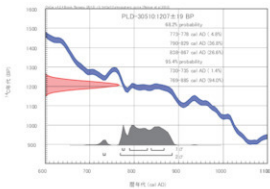
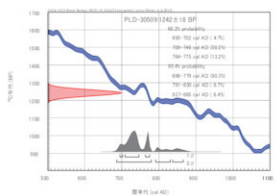
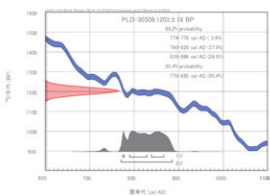
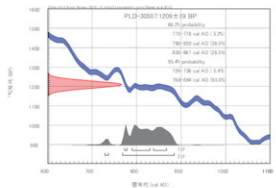
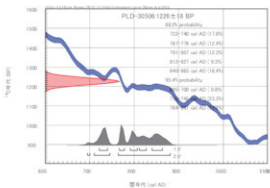
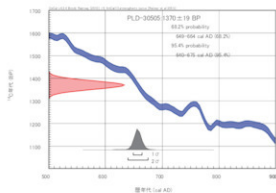
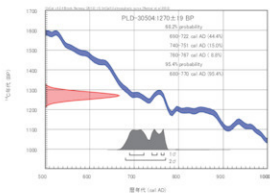
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-30507 4区 SK3184 試料 No.6	-36.79 \pm 0.15	1209 \pm 19	1210 \pm 20	773-778 cal AD (5.2%) 790-830 cal AD (36.5%) 838-867 cal AD (26.5%)	729-736 cal AD (2.4%) 768-884 cal AD (93.0%)
PLD-30508 4区 SK3145 試料 No.7	-34.34 \pm 0.15	1203 \pm 18	1205 \pm 20	774-778 cal AD (3.4%) 790-829 cal AD (37.9%) 839-866 cal AD (26.9%)	770-885 cal AD (95.4%)
PLD-30509 4区 SK3145 試料 No.8	-32.43 \pm 0.15	1242 \pm 18	1240 \pm 20	695-702 cal AD (4.7%) 709-746 cal AD (50.2%) 764-775 cal AD (13.2%)	686-779 cal AD (80.3%) 791-830 cal AD (8.7%) 837-865 cal AD (6.4%)
PLD-30510 ST3774 試料 No.9	-37.41 \pm 0.16	1207 \pm 19	1205 \pm 20	773-778 cal AD (4.8%) 790-829 cal AD (36.8%) 838-867 cal AD (26.6%)	730-735 cal AD (1.4%) 769-885 cal AD (94.0%)
PLD-30511 ST6223 試料 No.10	-34.54 \pm 0.18	1218 \pm 18	1220 \pm 20	769-779 cal AD (9.7%) 790-829 cal AD (33.9%) 838-866 cal AD (24.6%)	721-741 cal AD (10.0%) 766-882 cal AD (85.4%)
PLD-30512 ST6223 試料 No.11	-33.17 \pm 0.21	1225 \pm 18	1225 \pm 20	723-740 cal AD (15.0%) 767-778 cal AD (11.6%) 791-827 cal AD (24.8%) 840-864 cal AD (16.8%)	695-700 cal AD (0.8%) 710-745 cal AD (21.5%) 764-882 cal AD (73.2%)
PLD-30513 ST6223 試料 No.12	-31.30 \pm 0.26	1176 \pm 18	1175 \pm 20	778-792 cal AD (13.7%) 804-842 cal AD (28.9%) 860-888 cal AD (25.6%)	774-894 cal AD (94.7%) 934-936 cal AD (0.7%)
PLD-30514 ST6223 試料 No.13	-32.41 \pm 0.14	1184 \pm 19	1185 \pm 20	778-792 cal AD (13.0%) 803-843 cal AD (33.3%) 858-883 cal AD (21.9%)	774-889 cal AD (95.4%)
PLD-30515 ST6223 試料 No.14	-30.58 \pm 0.19	1178 \pm 19	1180 \pm 20	778-792 cal AD (13.6%) 804-842 cal AD (29.3%) 860-887 cal AD (25.3%)	773-894 cal AD (95.4%)
PLD-30516 ST6243 試料 No.15	-33.71 \pm 0.17	1167 \pm 19	1165 \pm 20	778-791 cal AD (13.2%) 805-842 cal AD (22.3%) 861-893 cal AD (31.1%) 934-936 cal AD (1.7%)	775-898 cal AD (86.3%) 925-945 cal AD (9.1%)
PLD-30517 ST6243 試料 No.16	-32.36 \pm 0.17	1156 \pm 19	1155 \pm 20	778-790 cal AD (8.7%) 827-841 cal AD (6.3%) 864-900 cal AD (31.4%) 922-949 cal AD (21.8%)	776-794 cal AD (10.5%) 800-904 cal AD (56.7%) 918-965 cal AD (28.3%)
PLD-30518 ST6243 試料 No.17	-35.02 \pm 0.20	1211 \pm 19	1210 \pm 20	772-778 cal AD (5.7%) 790-830 cal AD (35.9%) 837-867 cal AD (26.5%)	726-738 cal AD (4.1%) 767-884 cal AD (91.3%)
PLD-30519 4区 SK3141 試料 No.18	-35.01 \pm 0.14	1211 \pm 18	1210 \pm 20	772-778 cal AD (5.9%) 790-829 cal AD (36.3%) 838-866 cal AD (26.0%)	729-737 cal AD (2.9%) 768-882 cal AD (92.5%)
PLD-30520 4区 SK3142 試料 No.19	-35.52 \pm 0.15	1193 \pm 19	1195 \pm 20	788-793 cal AD (5.0%) 800-873 cal AD (63.2%)	773-886 cal AD (95.4%)
PLD-30521 4区 SK3142 試料 No.20	-33.49 \pm 0.14	1199 \pm 19	1200 \pm 20	789-830 cal AD (39.2%) 838-868 cal AD (29.0%)	771-886 cal AD (95.4%)
PLD-30522 4区 SK3144 試料 No.21	-33.97 \pm 0.22	1189 \pm 20	1190 \pm 20	779-793 cal AD (12.0%) 802-844 cal AD (35.4%) 854-879 cal AD (20.8%)	773-888 cal AD (95.4%)
PLD-30523 4区 SK3145 試料 No.22	-33.71 \pm 0.15	1197 \pm 19	1195 \pm 20	789-869 cal AD (68.2%)	772-886 cal AD (95.4%)
PLD-30524 4区 SK3145 試料 No.23	-34.36 \pm 0.15	1195 \pm 19	1195 \pm 20	788-870 cal AD (68.2%)	772-886 cal AD (95.4%)
PLD-30525 4区 SK3183 試料 No.24	-31.77 \pm 0.13	1171 \pm 19	1170 \pm 20	778-791 cal AD (13.5%) 805-842 cal AD (25.6%) 861-891 cal AD (29.0%)	774-895 cal AD (90.5%) 928-941 cal AD (4.9%)
PLD-30526 4区 SK3183 試料 No.25	-35.58 \pm 0.13	1187 \pm 20	1185 \pm 20	778-792 cal AD (12.6%) 803-843 cal AD (34.5%) 857-881 cal AD (21.0%)	773-889 cal AD (95.4%)

放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 (3)

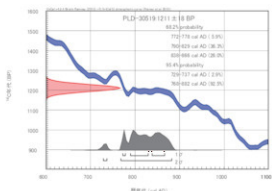
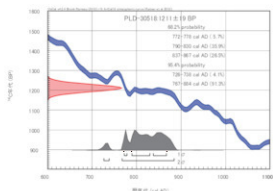
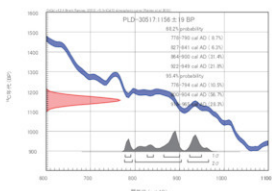
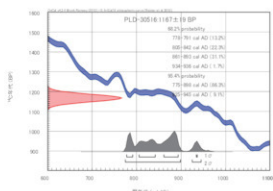
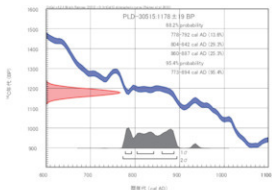
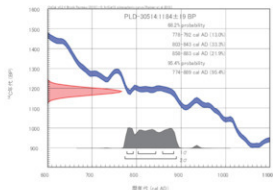
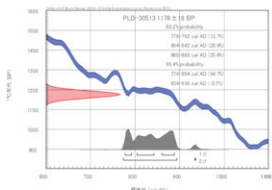
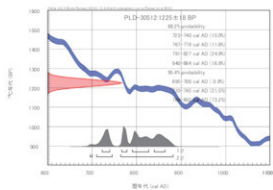
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C 年代を暦年대에較正した年代範囲	
				1 σ 暦年較正範囲	2 σ 暦年較正範囲
PLD-30527 8区 SC3234 試料 No.26	-26.50 \pm 0.28	1748 \pm 20	1750 \pm 20	251-263 cal AD (12.4%) 275-330 cal AD (55.8%)	237-347 cal AD (94.8%) 373-376 cal AD (10.6%)
PLD-30528 1区 SC3001 試料 No.27	-25.58 \pm 0.25	1238 \pm 19	1240 \pm 20	694-747 cal AD (51.0%) 763-777 cal AD (14.1%) 794-800 cal AD (3.1%)	688-751 cal AD (53.7%) 760-779 cal AD (15.6%) 790-870 cal AD (26.1%)
PLD-30529 5区 SC3681 試料 No.28	-24.23 \pm 0.24	1230 \pm 20	1230 \pm 20	716-743 cal AD (24.9%) 766-778 cal AD (12.0%) 791-827 cal AD (18.0%) 840-863 cal AD (13.3%)	693-747 cal AD (34.1%) 763-781 cal AD (14.2%) 787-878 cal AD (47.0%)
PLD-30530 5区 SC3681 試料 No.29	-24.99 \pm 0.23	1230 \pm 19	1230 \pm 20	716-743 cal AD (25.9%) 766-778 cal AD (12.5%) 791-805 cal AD (9.4%) 812-826 cal AD (7.3%) 840-863 cal AD (13.1%)	693-747 cal AD (34.5%) 763-780 cal AD (14.6%) 787-877 cal AD (46.3%)
PLD-30531 9区 SC3231 試料 No.30	-24.72 \pm 0.22	1452 \pm 19	1450 \pm 20	598-638 cal AD (68.2%)	573-645 cal AD (95.4%)
PLD-30532 9区 SC3231 試料 No.31	-25.25 \pm 0.31	1236 \pm 21	1235 \pm 20	695-703 cal AD (4.0%) 708-746 cal AD (38.9%) 764-778 cal AD (13.5%) 792-802 cal AD (5.8%) 844-856 cal AD (4.0%)	688-752 cal AD (46.9%) 760-780 cal AD (14.8%) 788-875 cal AD (33.7%)
PLD-30533 9区 SC3231 試料 No.32	-26.76 \pm 0.21	1267 \pm 19	1265 \pm 20	690-726 cal AD (45.5%) 739-750 cal AD (14.6%) 761-767 cal AD (8.1%)	682-771 cal AD (95.4%)
PLD-30534 10区 SC3231 試料 No.33	-24.68 \pm 0.26	1634 \pm 20	1635 \pm 20	393-425 cal AD (68.2%)	350-367 cal AD (2.7%) 380-433 cal AD (81.2%) 490-532 cal AD (11.5%)
PLD-30535 10区 SC3231 試料 No.34	-24.68 \pm 0.35	1223 \pm 22	1225 \pm 20	724-739 cal AD (11.2%) 768-779 cal AD (9.8%) 790-829 cal AD (27.4%) 838-866 cal AD (19.8%)	695-700 cal AD (0.9%) 710-745 cal AD (18.7%) 764-884 cal AD (75.8%)
PLD-30536 10区 SC3231 試料 No.35	-28.83 \pm 0.25	1193 \pm 19	1195 \pm 20	788-793 cal AD (5.0%) 800-873 cal AD (63.2%)	773-886 cal AD (95.4%)
PLD-30537 18区 SC5816 試料 No.36	-20.89 \pm 0.22	-1472 \pm 17 F14:1.2012 \pm 0.0026	-1470 \pm 15	Post-bomb NH2 2013: 1984-1985 cal AD (11.5%) 1985-1986 cal AD (56.7%)	Post-bomb NH2 2013: 1958-1959 cal AD (11.2%) 1960-1961 cal AD (3.0%) 1984-1984 cal AD (1.0%) 1984-1986 cal AD (80.2%)
PLD-30538 14区 ST0230 試料 No.38	-25.61 \pm 0.27	2237 \pm 25	2235 \pm 25	371-354 cal BC (13.5%) 293-231 cal BC (52.7%) 218-215 cal BC (2.0%)	386-346 cal BC (22.3%) 321-206 cal BC (73.1%)



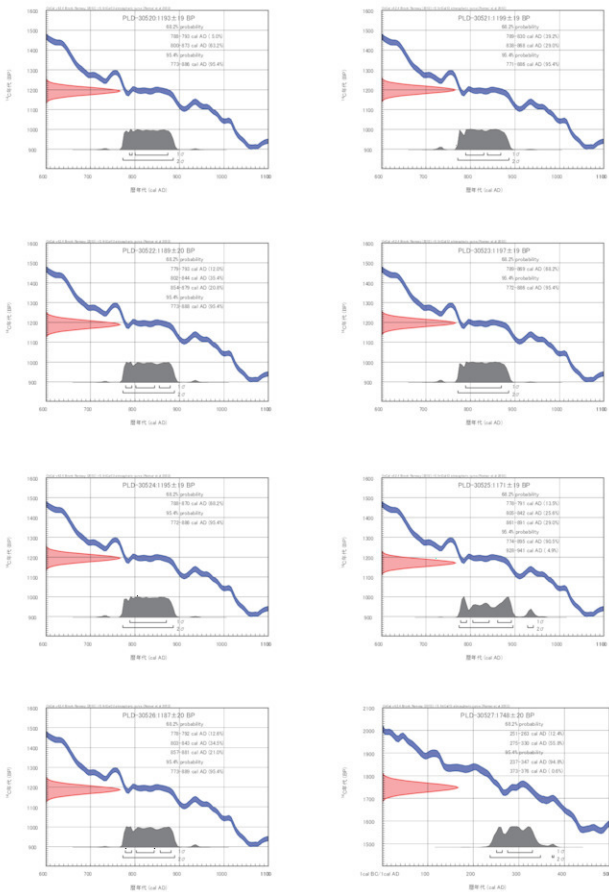
第 15 回 暦年較正結果 (1)



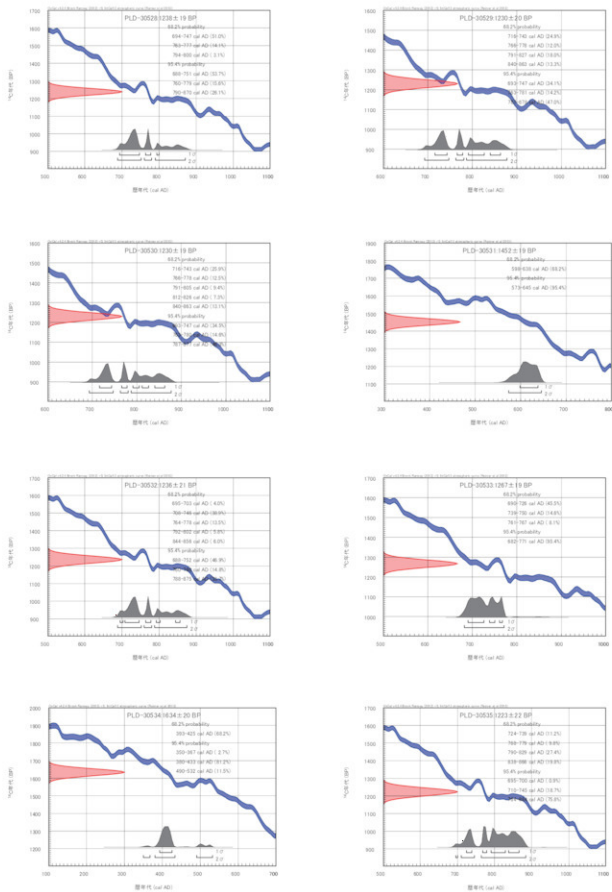
第16回 曆年較正結果(2)



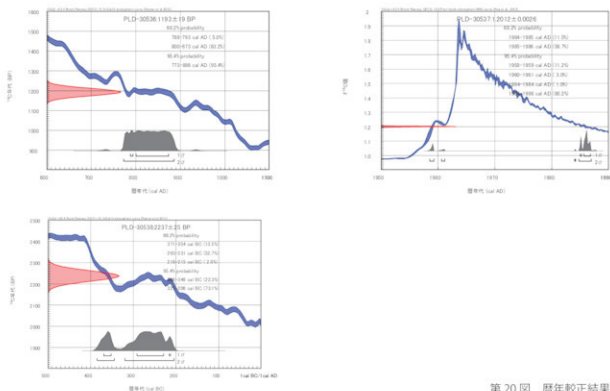
第 17 回 暦年較正結果 (3)



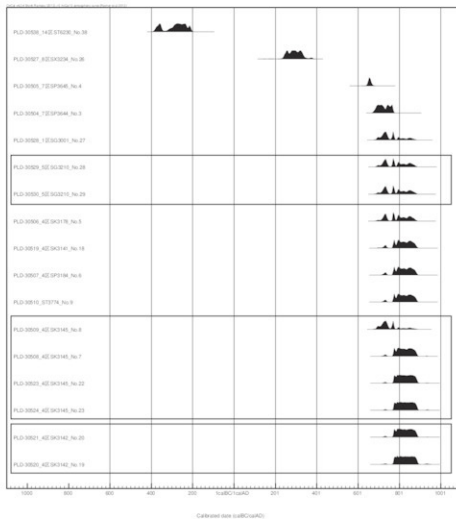
第18圖 曆年校正結果(4)



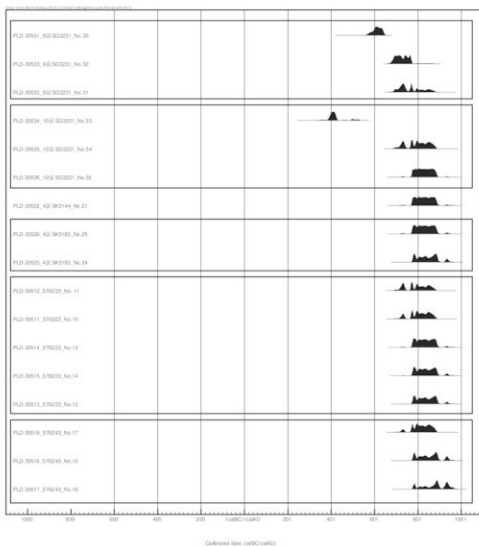
第19回 暦年較正結果(5)



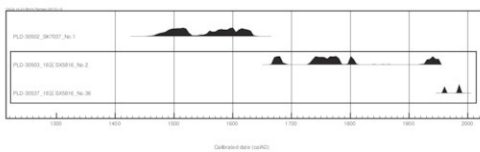
第20図 暦年較正結果 (6)



第21図 マルチプロット図 (1)



第 22 図 マルチプロット図 (2)



第 23 図 マルチプロット図 (3)

7 木材の樹種同定

株式会社バレオ・ラボ
小林克也

A はじめに

跡上遺跡第2・3次調査で出土した木材の樹種同定を行なった。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行なっている（本章6参照）。

B 試料と方法

試料は、土坑SK3145から2点、柱穴SP3178、SP3184、SP3644、SP3645から各1点、窪地SG5816から1点の出土生材計7点と、堅穴建物ST6223から5点、ST6243カマドから3点、ST3774カマドから1点の出土炭化材計9点の、合計16点の木材である。放射性炭素年代測定の結果、試料No.4は飛鳥時代、試料No.3は飛鳥時代～奈良時代、試料No.5、8、11は飛鳥時代～平安時代前期、試料No.6、7、9、10、13、14、17は奈良時代～平安時代前期、試料No.12、15、16

は奈良時代～平安時代中期、試料No.2は江戸時代前期～昭和時代の暦年代を示した。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行った。

生材の樹種同定では、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクローラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形してカーボンテープで試料台に固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子（株）製JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行なった。

C 結果

同定の結果、針葉樹ではマツ属複維管束亜属1分類群、広葉樹ではブナ属とコナラ属コナラ節（以下コナラ節と呼ぶ）、ムクノキ、サクラ属、トネリコ属シオジ節（以下シオジ節と呼ぶ）の5分類群の、計6分類群がみら

表9 跡上遺跡第2・3次調査出土木材の樹種同定結果

遺構	SK3145	SP3178	SP3184	SP3644	SP3645	ST3774 カマド	ST6223	ST6243 カマド	SG5816	合計
マツ属複維管束亜属	2									2
ブナ属									1	1
コナラ属コナラ節		1		1	1			3		6
ムクノキ			1							1
サクラ属						1				1
トネリコ属シオジ節							5			5
合計	2	1	1	1	1	1	5	3	1	16

表10 跡上遺跡第2・3次調査出土木材の樹種同定結果一覧

試料No.	出土遺構	種別	器種	樹種	木取り	年代定番号	備考
2	SG5816	生材	漆器輪	ブナ属	横木取り	PLD-30503	保存処理済
3	SP3644	生材	柱根	コナラ属コナラ節	芯持丸木	PLD-30504	
4	SP3645	生材	柱根	コナラ属コナラ節	芯持丸木	PLD-30505	
5	SP3178	生材	柱根	コナラ属コナラ節	割れ	PLD-30506	
6	SP3184	生材	柱根	ムクノキ	割れ	PLD-30507	
7	SK3145	生材	木片	マツ属複維管束亜属	割れ	PLD-30508	
8	SK3145	生材	木片	マツ属複維管束亜属	割れ	PLD-30509	
9	ST3774カマド	炭化材	燃料材	サクラ属	割れ	PLD-30510	
10	ST6223	炭化材	建築材	トネリコ属シオジ節	芯持丸木	PLD-30511	二股材
11	ST6223	炭化材	建築材	トネリコ属シオジ節	芯持丸木	PLD-30512	二股材
12	ST6223	炭化材	建築材	トネリコ属シオジ節	割れ	PLD-30513	
13	ST6223	炭化材	建築材	トネリコ属シオジ節	割れ	PLD-30514	
14	ST6223	炭化材	建築材	トネリコ属シオジ節	割れ	PLD-30515	
15	ST6243カマド	炭化材	燃料材	コナラ属コナラ節	割れ	PLD-30516	
16	ST6243カマド	炭化材	燃料材	コナラ属コナラ節	割れ	PLD-30517	
17	ST6243カマド	炭化材	燃料材	コナラ属コナラ節	割れ	PLD-30518	

れた。同定結果を表9に、一覧を表10に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、第24・25図に光学・走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) マツ属複維管束亜属 *Pinus subgen. Diploxylon*
マツ科 第24図 1a-1c (No.7)

仮道管と放射仮道管、放射組織、垂直および水平樹脂道で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列のもの、水平樹脂道を含む多列のものがみられる。分界壁孔は窓状で、放射仮道管の水平壁は内側に向かって顕菌状に肥厚する。マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育する。どちらも材質は重硬だが、切削等の加工は容易である。

(2) ブナ属 *Fagus* ブナ科 第24図 2a-2c (No.2)

小型の道管が単独ないし2〜3個複合して密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1〜4列のもの、広放射組織がみられる。ブナ属にはブナやイヌブナがあり、冷温帯の山林に分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なイヌブナの材は重硬で強度があるが、切削加工は困難ではない。

(3) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科第24図 3a-3c (No.17)

年輪のはじめに大型の道管が1〜2列並び、晩材部では急に径を減じた、薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のもの、広放射組織がみられる。コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重く強靱で、切削加工はやや難しい。

(4) ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch.
ニレ科 第25図 4a-4c (No.6)

中型の道管がほぼ単独でやや疎らに散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状、翼状、4列以上の帯状となる。放射組織は上下端1〜3列が直立する異性で、幅1〜4列となる。

ムクノキは温帯の日当たりのよい適潤地を好み、海に近い所に比較的多い落葉高木の広葉樹である。材の強さは中庸であるが、靱性があり、割裂しにくい。

(5) サクラ属 *Prunus s.l.* バラ科 第25図 5a-5c (No.9)

小型の道管が単独ないし数個、放射方向または斜め方向に複合してやや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が直立する異性で、1〜5列幅となる。広義のサクラ属には、モモ属とスモモ属、アンズ属、サクラ属、ウワミズザクラ属、バクチノキ属がある。樹種同定ではモモ属とバクチノキ属以外は他のサクラ属と識別できないため、広義のサクラ属とはモモ属とバクチノキ属を除くサクラ属を指す。

(6) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus sect. Fraxinuster*
モクセイ科 第25図 6a-6c (No.10)

年輪のはじめに大型の道管が1〜3列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が単独ないし2〜3個複合して散在する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1〜3列幅となる。

トネリコ属シオジ節にはシオジとヤチダモがあり、現在の植生ではシオジは関東以西の温帯に分布し、ヤチダモは中部以西の亜寒帯から温帯の河岸や湿地などの肥沃な潤潤地に分布する落葉高木の広葉樹である。材の性質はどちらも中庸ないしやや重硬で、乾燥は比較的容易、切削加工等は容易である。

D 考 察

掘立柱建物SB3647を構成する柱穴SP3644とSP3645の柱根は、共にコナラ節であった。コナラ節は堅硬な樹種であり(伊東ほか2011)、堅硬な木材を柱材として利用していたと考えられる。なお、礎上遺跡の過去の調査で出土した奈良・平安時代の柱材では、クリが6点と多くみられたが、コナラ節も2点ほど確認されており(ハリノ・サーヴェイ株式会社2002)、傾向は一致する。

掘立柱建物SB4334を構成する柱穴SP3178の柱根はコナラ節、SP3184の柱根はムクノキで、同一建物内で異なる樹種が利用されている。ムクノキを柱材として利用した例は山形県内では確認されていないが、材質としては堅硬で強靱な樹種なので、遺跡周辺に生育していれば利用しても違和感はない。なお、全国的にみると石

川原新庄遺跡や熊本県鞠智城跡 20 次で古墳時代末期～平安時代前期頃の柱材が報告されている（伊東・山田編 2012）。

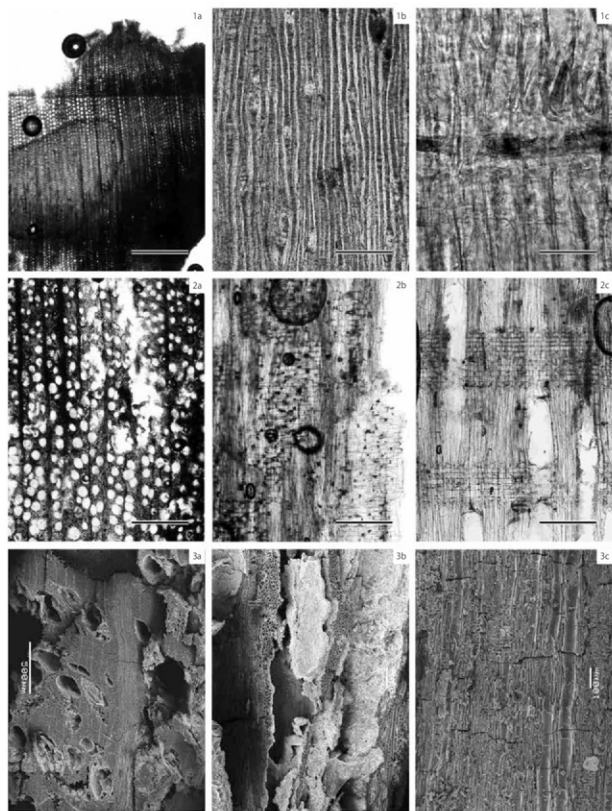
土坑 SK3145 の木片はいずれもマツ属複雑管束亜属であった。用途は不明であるが、遺跡周辺に生育していた可能性がある（伊東ほか 2011）。

竪穴建物 ST6223 から出土した建築材は、いずれもシオジ節であった。シオジ節はやや堅硬だが、加工性が比較的良好な樹種である（伊東ほか 2011）。ST3774 カマ

下の燃料材はサクラ属、ST6243 カマドの燃料材はいずれもコナラ節であった。コナラ節とサクラ属は共に薪炭材として普通に利用される樹種で、とくにコナラ節は火持ちが良く、長時間燃焼するという材質を持つ（伊東ほか 2011）。窪地 SG5816 から出土した漆器椀はブナ属で、時期は江戸時代前期～昭和時代であった。米沢市の米沢城跡から出土した近世の漆器 2 点もブナ属であり（株式会社吉田生物研究所 2004）、周辺の遺跡にみられる用材傾向と一致する。

引用文献

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 (2011) 日本有用樹木誌, 238p, 海青社。
 伊東隆夫・山田昌久編 (2012) 木の考古学・出土木製品用材データベース, 449p, 海青社。
 株式会社吉田生物研究所 (2004) 出土木製品の樹種調査結果, 山形県埋蔵文化財センター編「米沢城跡第 3 次発掘調査報告書」:49-50, 山形県埋蔵文化財センター。
 バリオ・サーヴェイ株式会社 (2002) 陸上遺跡から出土した柱材の樹種, 山形県埋蔵文化財センター編「陸上遺跡発掘調査報告書 付編」:1-3, 山形県埋蔵文化財センター。



1a ~ 1c マツ属被雜管束亜属 (No.7)

2a ~ 2c プナ属 (No.2)

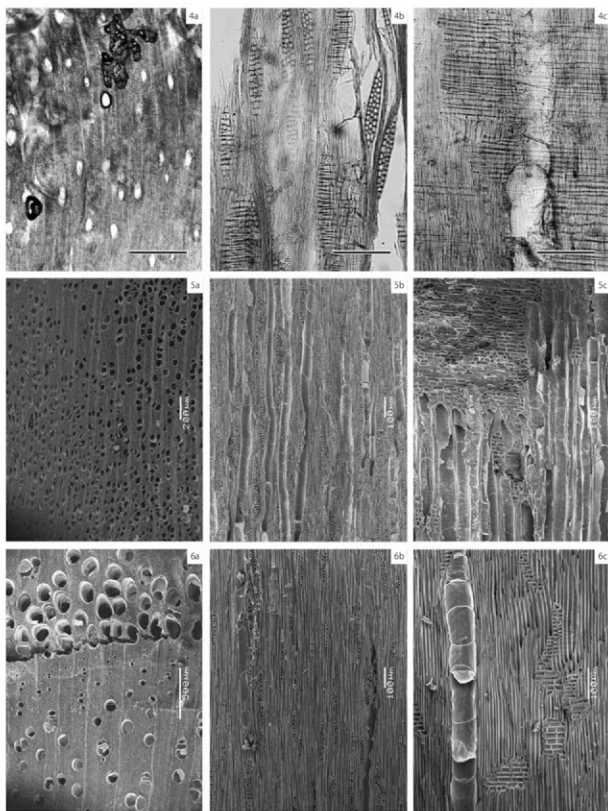
3a ~ 3c コナラ属コナラ節 (No.17)

a 横断面 (スケール =500 μ m)

b 接線断面 (スケール =200 μ m)

c 放射断面 (スケール =1.50 μ m \cdot 2.200 μ m)

第 24 図 馳上遺跡第 2・3 次調査出土木材の光学・走査型電子顕微鏡写真 (1)



4a ~ 4c ムクノキ (No.6)

5a ~ 5c サクラギ属 (No.9)

6a ~ 6c トネリコ属シオジ節 (No.10)

a 横断面 (スケール=500µm)

b 接線断面 (スケール=200µm)

c 放射断面 (スケール=200µm)

第 25 図 歴上遺跡第 2・3 次調査出土木材の光学・走査型電子顕微鏡写真 (2)

8 大型植物遺体同定

株式会社パレオ・ラボ
佐々木由香・バンダリ スダルシャン

A はじめに

馳上遺跡第2次の古墳時代から平安時代と推定されている遺構から出土した大型植物遺体18点の同定結果を報告し、当時の利用植物や栽培状況について検討した。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている(本章6参照)。

B 試料と方法

試料は、発掘調査時に肉眼で確認された種実が回収された。試料が回収された遺構は、土坑ではSK3141、SK3142、SK3144、SK3145、SK3183の5基、性格不明遺構SX3234、窪地SG3001、河川ではSG3681、SG3231の2条である。試料の時期は、試料自体の年代測定により、古墳時代前期から平安時代前期の年代が得られている(本章6参照)。

同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。また、デジタルノギスを用いて全点を

計測した。年代測定に供した後の試料の残りは、山形県埋蔵文化財センターに保管されている。

C 結果

同定の結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ核とクリ果実、モモ核、スモモ核、トチノキ未熟種子の5分類群が見いだされた(表11・12)。

以下、産出した種実について遺構別に記載する。

SK3141：オニグルミの完形が1点得られた。

SK3142：オニグルミの破片が1点とモモの完形が1点得られた。

SK3144：モモの破片が1点得られた。

SK3145：オニグルミの破片が1点とモモの完形が1点得られた。

SK3183：オニグルミの破片が1点とクリの破片が1点得られた。

SX3234：トチノキの完形が1点得られた。

SG3001：オニグルミの完形が1点得られた。

SG3681：オニグルミの完形が1点とモモの完形が1点得られた。

SG3231：オニグルミの完形が4点とモモの完形が1点、スモモの完形が1点得られた。

次に、大型植物遺体の記載を行い、第26図に写真を示して同定の根拠とする。

表11 馳上遺跡第2次調査で出土した大型植物遺体(1) (括弧内は破片数)

試料番号	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
調査年次	2009									
区	4				8					
出土地点	SK3141	SK3142	SK3144	SK3145	SK3183	SX3234				
時期	奈良～平安前期				養生後期～古墳中期					
分類群	重量(g)	20.88	2.05	1.50	1.31	1.04	0.95	1.59	2.07	0.21
オニグルミ	核	1	(1)		(1)		(1)	(1)		
クリ	果実									
モモ	核	1		(1)		1				
トチノキ	未熟種子									1

表12 馳上遺跡第2次調査で出土した大型植物遺体(2) (括弧内は破片数)

試料番号	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
調査年次	2009									
区	1	5			9		10			
出土地点	SG3001	SG3681			SG3231					
時期	飛鳥～平安前期		古墳後期～飛鳥		飛鳥～平安前期		飛鳥～奈良後期	古墳中期～平安前期	奈良～平安前期	
分類群	重量(g)	5.66	6.12	3.95	5.41	4.41	3.58	2.68	1.34	0.39
オニグルミ	核	1	1	1	1	1	1	1	1	
モモ	核	1								
スモモ	核									1

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis* (Komatsu) Kitam. 核 クルミ科

茶褐色～黄褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。溝や凹凸の間には微細な皺がある。内部は二室に分かれる。計測可能な10点の大きさは、高さ22.3～35.7(平均29.5±4.7)mm、幅21.0～28.9(平均25.8±2.7)mm、厚さ12.0～30.7(平均23.0±5.6)mm(表13)。

(2) クリ *Castanea crenata Siebold et Zucc.* 果実 ブナ科

黒褐色で、側面観は広卵形。表面全体に浅い縦筋が密にある。殻斗着痕は果実幅と同じ程度の幅広で、不規則で微細な丘状の突起が密にあるが、残存していない。残存高22.8mm、残存幅14.2mm。

(3) モモ *Amygdalus persica L.* 核 バラ科

褐色～黄褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。下端に大きな着点がある。表面に不規則な深い皺がある。片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。計測可能な5点の大きさは、高さ21.1～30.1(平均26.4±3.9)mm、幅17.1～22.0(平均18.7±1.9)mm、厚さ12.2～16.5(平均14.0±2.0)mm(表14)。

(4) スモモ *Prunus salicina Lindl.* 核 バラ科

淡褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は紡錘形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。下端はやや平坦。高さ15.0mm、幅12.1mm、厚さ8.5mm。

(5) トチノキ *Aesculus turbinata Blume* 未熟種子 ムクロジ科

黒褐色で楕円形。下半部は褐色で光沢がなく、上半部は黒褐色でやや光沢がある。上下の稜目の下に少し突出した着点がある。種皮は薄くやや硬い。種皮表面には指紋状の微細模様が密にある。高さ8.7mm、幅11.3mm、厚さ10.6mm。

D 考 察

古墳時代から平安時代前期の遺構から出土した種実を同定した結果、栽培植物で果樹のモモとスモモ、野生植物で食用可能なオニグルミとクリ、トチノキが得られた。

モモとスモモは、食用や祭祀用に用いられて遺構内に堆積した可能性や、遺構周辺にこれらの果樹が植栽されていたために遺構内に果実が自然落下した可能性などが考えられる。モモは、1点は半割であったが、人為的に割られたか自然の営力で半分になったかは判断できなかった。山梨県内の遺跡から出土したモモ核の事例を集めた新津(1999)によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代には比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。さらに、奈良・平安時代の核長は、2.36～2.66cmで、鎌倉期では大きさの変異幅が大きく、江戸時代後期になると大型になり、平均核長2.69cm、最大で3.8cm程度の核がみられるとしている。今回の難上遺跡の飛鳥時代～平安時代前期のモモの高さの平均値は2.64±0.39cmで、山梨県から出土した奈良・平安時代のモモと比較すると大きめの平均値を示した。

オニグルミは10点中7点が完形で、2点が半割であったが、1点にのみ上下方向の打撃痕が見られた。これは、オニグルミの内部の子葉を利用するために割った痕跡と考えられる。半割2点についても人為的に割られたか、あるいは燻されて半割の状態になった可能性もあるが、形状からは判断できなかった。出土したクリは果実の破片であり、食用部位である子葉を取り出すのに割った残滓の可能性はある。

遺構別にみると、奈良時代～平安時代前期の土坑5基からは、オニグルミとモモ、クリが得られた。オニグルミはSK3141に完形個体がみられたが、SK3145に打撃痕をもつ個体のみみられたため、利用前と利用後の両方の個体が確認できた。

弥生時代後期～古墳時代中期の性格不明遺構SX3234からはトチノキが得られた。トチノキは未熟種子のため、食用に採取されたが未熟であるために利用されなかった可能性や、SX3234の周囲にトチノキが生育し、自然に堆積した可能性などが考えられる。

飛鳥時代～平安時代前期の窪地SG3001からはオニグルミ、河川SG3681からはオニグルミとモモが各1点得られた。

河川SG3231から出土した大型植物遺体は、放射性炭素年代測定の結果、個体により異なる年代を示した。

時期別にみると、古墳時代中期～後期のオニグルミが1点、古墳時代後期～飛鳥時代のオニグルミが1点、飛鳥時代～奈良時代のオニグルミが1点、飛鳥時代～平安時代前期のオニグルミとモモが各1点、奈良時代～平安時代前期のスモモが1点であった。

今回検討した大型植物遺体の遺存状況は非常に良好であった。このため、今回は肉眼で回収された種実を検討したが、今後は堆積物中の大型植物遺体もあわせて解析すると、当時の利用植物や栽培状況がより明らかになると考えられる。

引用文献

新津 健 (1999) 遺跡から出土するモモ核について—山梨県内の事例から—, 山梨考古学論集 IV, 361-374, 山梨県考古学協会。

表 13 オニグルミ核の大きさ

※ 単位は mm である。括弧内は残存値、平均値と標準偏差は完形値のみが対象

試料番号	高さ	幅	厚さ	年代
18	32.6	21.6	22.7	奈良～平安前期
20	30.0	28.9	(14.3)	奈良～平安前期
23	(33.1)	27.9	12.0	奈良～平安前期
24	27.4	27.1	(14.0)	奈良～平安前期
27	33.8	28.9	30.7	飛鳥～平安前期
28	35.7	26.4	28.9	飛鳥～平安前期
30	33.4	25.4	23.2	古墳後期～飛鳥
31	25.9	24.8	22.8	飛鳥～平安前期
32	22.3	25.9	23.1	飛鳥～奈良
33	24.1	21.0	20.4	古墳中期～後期
最小値	22.3	21.0	12.0	
最大値	35.7	28.9	30.7	
平均値	29.5	25.8	23.0	
標準偏差	4.7	2.7	5.6	

表 14 モモ核の大きさ

※ 単位は mm である。括弧内は残存値、平均値と標準偏差は完形値のみが対象

試料番号	長さ	幅	厚さ	年代
19	24.2	17.7	14.8	奈良～平安前期
21	21.1	17.1	(7.9)	奈良～平安前期
22	26.5	18.4	12.2	奈良～平安前期
29	30.1	22.0	16.5	飛鳥～平安前期
34	30.0	18.1	12.5	飛鳥～平安前期
最小値	21.1	17.1	12.2	
最大値	30.1	22.0	16.5	
平均値	26.4	18.7	14.0	
標準偏差	3.9	1.9	2.0	



- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1 オニグルミ核 (SG3681, No.28, PLD-30529) | 10 オニグルミ核 (SG3231, No.33, PLD-30534) |
| 2 オニグルミ核 (SK3141, No.18, PLD-30519) | 11 クリ果実 (SK3183, No.25, PLD-30526) |
| 3 オニグルミ核 (SG3001, No.27, PLD-30528) | 12 モモ核 (SK3142, No.19, PLD-30520) |
| 4 オニグルミ核 (SK3142, No.20, PLD-30521) | 13 モモ核 (SG3681, No.29, PLD-30530) |
| 5 オニグルミ核 (SK3145, No.23, PLD-30524) | 14 モモ核 (SG3231, No.34, PLD-30535) |
| 6 オニグルミ核 (SK3183, No.24, PLD-30525) | 15 モモ核 (SK3145, No.22, PLD-30523) |
| 7 オニグルミ核 (SG3231, No.30, PLD-30531) | 16 モモ核 (SK3144, No.21, PLD-30522) |
| 8 オニグルミ核 (SG3231, No.31, PLD-30532) | 17 スモモ核 (SG3231, No.35, PLD-30536) |
| 9 オニグルミ核 (SG3231, No.32, PLD-30533) | 18 トチノキ未熟種子 (SX3234, No.26, PLD-30527) |

第 26 図 馳上遺跡第 2 次調査で出土した大型植物遺体

9 第3次調査の出土骨同定

株式会社パレオ・ラボ
中村 賢太郎

A はじめに

馳上遺跡第3次調査で出土した哺乳類遺体について報告する。なお、同じ試料について放射性炭素年代測定も行っている（本章6参照）。

B 試料と方法

試料は、2010年調査で、窪地 SG5816 より出土した哺乳類骨1点（試料番号36）と竪穴建物 ST6230 より出土した焼けた哺乳類骨1点（試料番号38）である。

観察は肉眼、実体顕微鏡、マイクロスコープ（株式会社キーンエンス製）で行い、標本と比較した。

C 結果

SG5816 より出土した哺乳類骨（試料番号36）は、ウマの右肩甲骨と同定された。関節部のみが残っていた。

なお、ウマ右肩甲骨の年代は、放射性炭素年代測定の結果、現代（1958～1960年あるいは1984～1986年）であった。

ST6230 より出土した哺乳類骨（試料番号38）は、ヒトの長骨（四肢骨）骨幹と同定された。小片ながらも、横断面に見られるハブス管が肉眼でも分かるほど太い特徴から、ヒトと同定した。真っ白くなるまでよく焼け、髓腔側には収縮によると思われる亀裂があった。なお、ヒト長骨の年代は、放射性炭素年代測定の結果、弥生時代中期であった。

D 考察

SG5816 のウマは、放射性炭素年代測定結果に基づくと、現代のウマである。肩甲骨の一部のみが検出されている状況から、埋葬されたとは考えにくい。

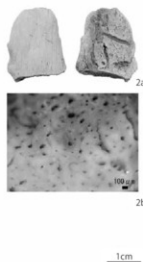
ST6230 のヒトは、放射性炭素年代測定結果に基づくと、弥生時代中期のヒトである。色調や収縮の状況から生の状態で、高温で焼かれたと考えられる。焼人骨については弥生時代の出土例も確認されており、東北地方でも事例が知られている（石川1988）。

引用文献

石川日出志(1988) 縄文・弥生時代の焼人骨, 畿台史学, 74, 84-110.

表 15 馳上遺跡第3次調査で出土した哺乳類遺体

試料番号	調査年	出土地点	時期	分類群	部位	左右	部分・状態	備考
36	2010	SG5816	現代	ウマ	肩甲骨	右	関節部	PLD 30537
38	2010	ST6230	弥生時代中期	ヒト	長骨	不明	骨片破片 焼, PLD 30538	



1 ウマ右肩甲骨 (SG5816)

2 ヒト長骨 (ST6230)

※2b は横断面のマイクロスコープ画像

第 27 図 馳上遺跡第3次調査で出土した哺乳類骨

10 石製模造品の石材同定

株式会社パレオ・ラボ
藤根 久

A はじめに

跡上遺跡第2次調査では、石製模造品が出土した。ここでは、この石製模造品の石材について肉眼および実体顕微鏡による石材同定を行った。

B 試料と方法

試料は、4区の土坑SK3145および4区Ⅲ層（遺物包含層）から出土した石製模造品4点である（第28図1a～4a）。これらの石製模造品は、古墳時代中期～後期の遺物と考えられている。石材同定は、肉眼および実体顕微鏡による観察を行った。

C 結果および考察

以下に、各石製模造品の肉眼および実体顕微鏡観察による特徴と岩石名について述べる。

分析No.1（遺物No.393）

石材は、明オリブ灰色を呈し、凝灰泥岩質と緑泥石と思われる淡緑または緑灰色鉱物が交互に層状に見られ、剥離性が顕著である（第28図1b）。石材は、凝灰

岩起源と考えられ、緑色片岩と考えられる。

分析No.2（遺物No.394）

石材は、明オリブ灰色を呈し、凝灰泥岩質を基質として、緑泥石と思われる淡緑色鉱物がやや放射状・斑晶質に分布し、剥離性が見られる（第28図2b）。石材は、凝灰岩起源と考えられ、緑色片岩と考えられる。

分析No.3（遺物No.1330）

石材は、明オリブ灰色を呈し、緑泥石と思われる淡緑色の雲母状鉱物が層状に配列し、剥離性が見られる（第28図3b）。石材は凝灰岩と考えられる。

分析No.4（遺物No.1331）

石材は、オリブ灰色を呈し、凝灰泥岩質と緑泥石と思われる淡緑色の雲母状鉱物が交互に層状に見られ、剥離性が顕著である（第28図4b）。石材は、凝灰岩起源と考えられ、緑色片岩と考えられる。分析No.1の石材に類似する。

D おわりに

石製模造品4点の石材同定を行った。いずれの石材も明オリブ灰色またはオリブ灰色を呈し、緑泥石と思われる淡緑色鉱物が見られた。これら石材は、凝灰岩起源と考えられ、剥離性のある緑色片岩または凝灰岩であった。

表16 石材同定を行った石製品

分析No.	種類	遺物No.	出土地点	時期	特徴	鉱物	岩石名
1	石製模造品	393	4区SK3145	古墳時代 中期～後期	明オリブ灰色、剥離性顕著	淡緑・緑灰色鉱物	緑色片岩
2	石製模造品	394	4区SK3145		明オリブ灰色、剥離性有り	淡緑色鉱物、放射状・斑晶質に分布	緑色片岩
3	石製模造品	1330	4区Ⅲ層		明オリブ灰色、剥離性有り	淡緑色雲母状鉱物	凝灰岩
4	石製模造品	1331	4区Ⅲ層		オリブ灰色、剥離性顕著	淡緑色雲母状鉱物	緑色片岩



1a-1b 分析 No.1 (遺物 No.393)
2a-2b 分析 No.2 (遺物 No.394)
3a-3b 分析 No.3 (遺物 No.1330)
4a-4b 分析 No.4 (遺物 No.1331)

第 28 図 石製模造品と実体顕微鏡写真

V 総括

はじめに

馳上遺跡は、古墳時代から中世・近世にわたり断続的に営まれた集落遺跡である。今回の調査で確認された遺構は8～9世紀の竪穴建物・掘立柱建物が中心で、古墳時代と中世・近世の様相はわずかに認められる程度である。本章では、古代を中心とする遺構の変遷と出土遺物の特色をまとめ、馳上遺跡の様相を総括する。

1 遺構の変遷

主要遺構の変遷を総括するうえで、本報告の調査範囲を北と南に分断するように広がる第1次調査区の状況をおさえることは不可欠である。また北側の西谷地b遺跡で検出された遺構・遺物の広がりとも連続的で、両遺跡の明瞭な境界がないため(第三章1参照)、西谷地b遺跡の状況も併せて検討する必要がある。そこで、今回の報告分にとどまらず、既報告の馳上遺跡第1・5次および西谷地b遺跡第1～3次調査成果(山形文2002・2014・2015)も加味して遺構の変遷をまとめてみたい。古墳時代(第29図)

馳上遺跡第1次調査区の中央付近を南北に流れる河川SG1155の東西に、5世紀後半～6世紀前半の竪穴建物5棟が散在し、また北側の西谷地b遺跡でも調査区西側を流れる河川SG2699の西方に同時代の集落域の存在が指摘されている。

今回報告分の調査区において、古墳時代に帰属する明確な遺構は確認されなかったが、第1次調査区周辺以南の河川・包含層からは4～5世紀の土器と石製模造品(有孔円板)がわずかながら出土した。古墳時代における馳上遺跡の様相は、第1次調査区B・C区周辺に竪穴建物が散在する小規模集落と捉えられる。

古 代 (第29～32図)

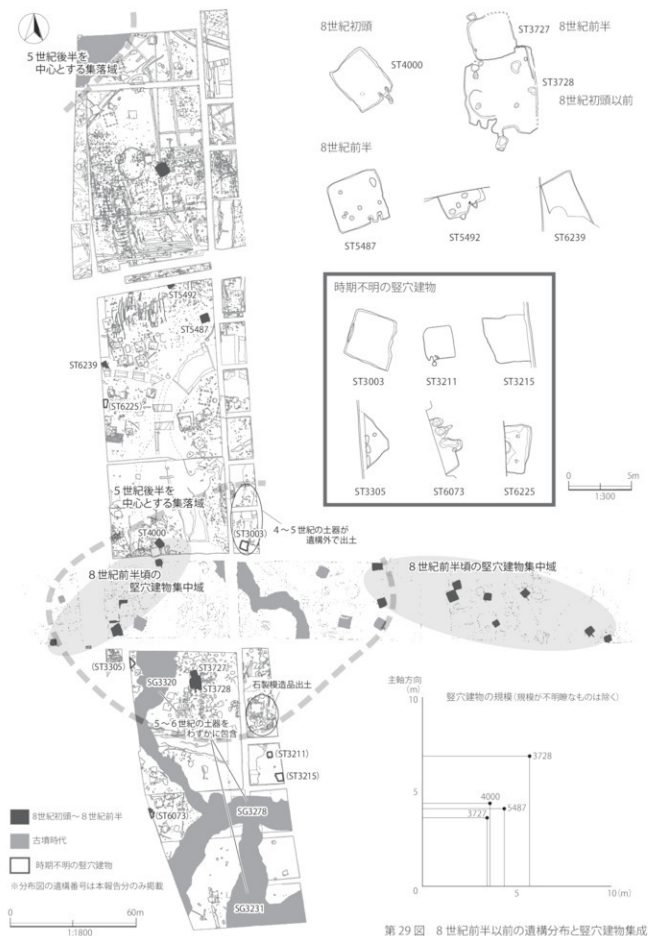
馳上遺跡において、6世紀後半～7世紀前半の遺構・遺物はほとんど確認されていない。この空白期を経て、8世紀初頭に比定される竪穴建物ST4000から古代集落の形成が開始する。8世紀前半頃の竪穴建物は、第1次調査区の西側と東側に比較的集中する傾向が認められ、

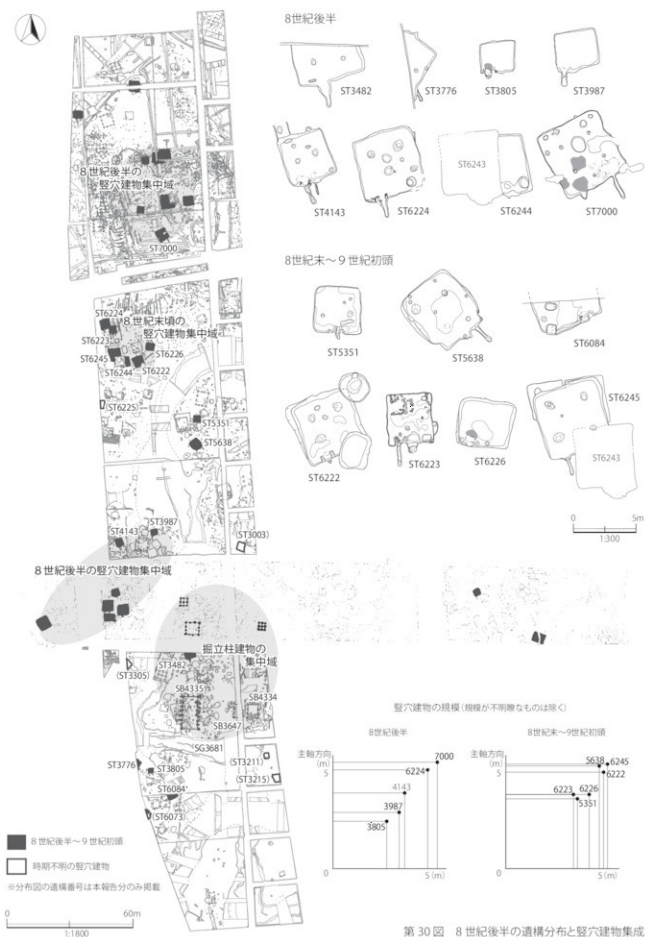
ST4000も西側の集中域に位置する(第29図)。

8世紀後半になると、第1次調査区東側ではあまり竪穴建物が営まれなくなるが、西側の集中域は継続し、また西谷地b遺跡南端にも竪穴建物の集中域が新たに成立する(第30図)。今回報告のST7000は、この西谷地b遺跡南端の集中域に含まれる。さらにこの時期には、第1次調査区の南側を東西方向に流れる河川SG3681の岸辺に、掘立柱建物SB3647・4334が並んで建てられる。SB3647の西側に位置するSB4335や第1次調査区中央付近(B区西端～C区東端)の掘立柱建物群も主軸方位・立地が共通することから、おおむね同時期の所産と推察される。すなわち竪穴建物の集中域とは別に、当時の河川に面した掘立柱建物の集中域が形成される。これらの掘立柱建物は、舟運による物資の保管や管理を行う施設の可能性が考えられる(山形文2002)。

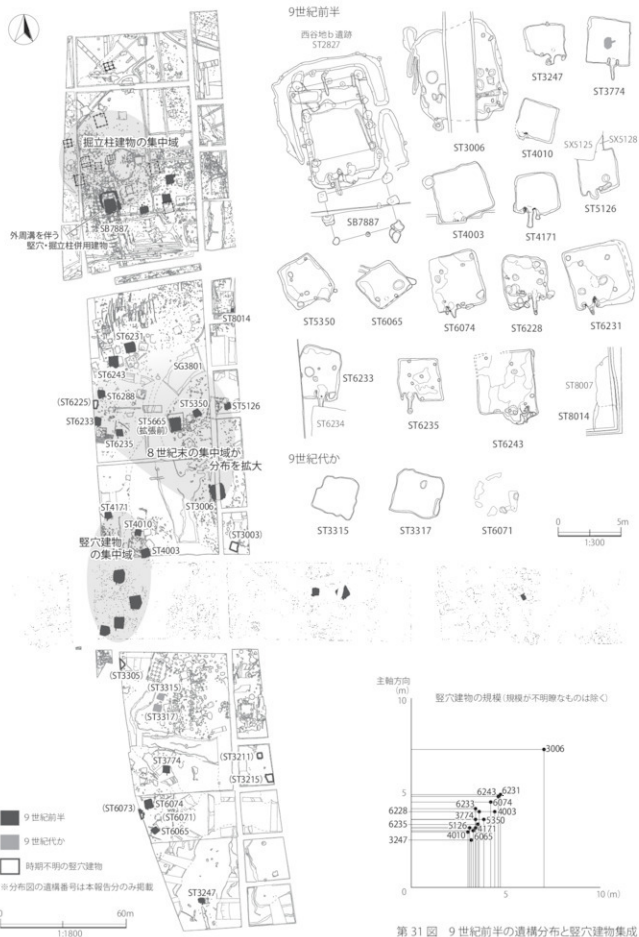
8世紀末頃には、西谷地b遺跡南端集中域の南西側にも竪穴建物の集中域がスポット的に成立し(第30図)、さらに9世紀前半になると、その南側や河川SG3801を挟んだ対岸まで分布が広がる(第31図)。一方、西谷地b遺跡南端では、外周溝を伴う竪穴・掘立柱併用建物など竪穴建物4棟の存在が認められるものの、むしろ掘立柱建物の集中が目立つようになり、馳上・西谷地b遺跡における居住域の中心は、8世紀前半以来の集中域である第1次調査区西側と河川SG3801周辺となる。なお、河川SG3681の南西側にも、8世紀後半から竪穴建物が集中するスポットが存在するが、ここに営まれる建物は第1次調査区以北のものとは比べて小規模である。

馳上遺跡における古代集落の盛期は8世紀後半～9世紀前半にあるようで、9世紀後半の竪穴建物数は少なく、分布も散在傾向を示す(第32図)。馳上・西谷地b遺跡で最大規模を誇る竪穴建物ST5665の拡張築造時期が9世紀中葉頃と考えられるので、集落全体の中核的な存在感を示す大型竪穴建物の成立をもって低調に転じるような様相を呈している。西谷地b遺跡南端における掘立柱建物の集中、および河川SG3801沿いに建物が広がる点は前代と同様だが、第1次調査区西

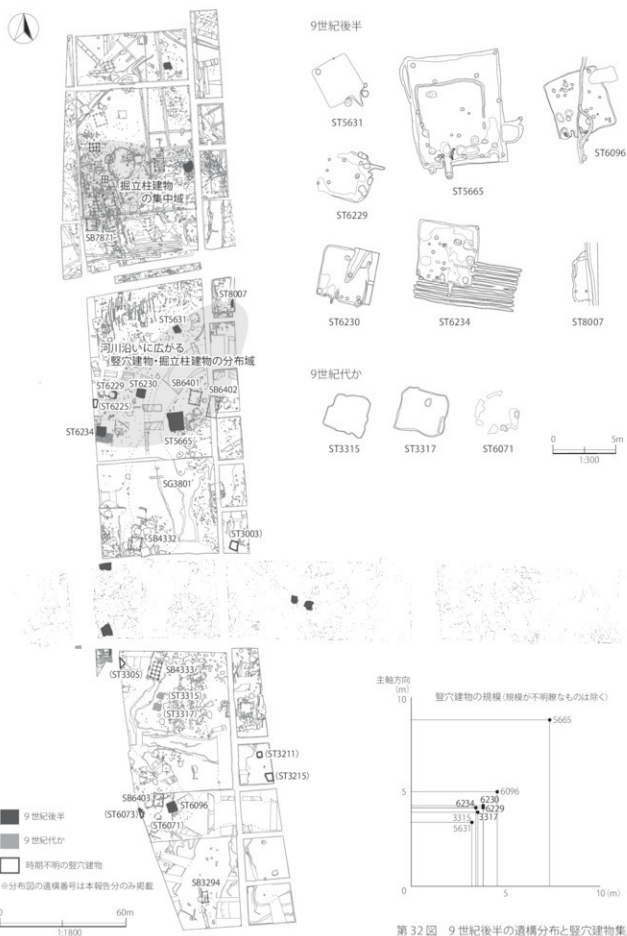




第30図 8世紀後半の遺構分布と竪穴建物集積



第 31 図 9 世紀前半の遺構分布と竪穴建物集成



側の竪穴建物集積域は解消する。また、ST5665 近くの SB6401・6402 から馳上遺跡南端の SB3294 まで、掘立柱建物が南北 50～60m ほどの間隔をあけながら河川沿いに点在するという新たな展開も認められる。これらの点在する掘立柱建物の性格として、8 世紀後半の掘立柱建物群に想定された舟運による物資の保管・管理のような集落全体にかかわる機能を想定することは難しい。そうした公的な機能は、9 世紀前半に成立した西谷地 b 遺跡南端の掘立柱建物群が担ったと捉えるのが適当であろう。当該範囲の竪穴建物（西谷地 b 遺跡 ST2827）覆土上層からは石製巡方が出土しており、何らかの公務を果たす施設が置かれた可能性が高い。馳上・西谷地 b 遺跡の公的エリアは、8 世紀後半における集落南側の掘立柱建物群から 9 世紀代における集落北側の掘立柱建物群へ移動していると考えられる。

中世・近世

9 世紀後半の集落低調期の後、10～12 世紀の遺構・遺物はほとんど確認できず、13～15 世紀についても陶器片などがわずかに出土する程度である。再び人々の営みが明確となるのは、西谷地 b 遺跡の北端および東側を中心に検出された、16 世紀後半以降の区画溝で囲まれた屋敷地である。今回報告分の調査範囲でも、当該期の遺構・遺物が認められたのは、西谷地 b 遺跡に隣接する北側の 19～22 区および 14 区が大半を占める。区画溝としては L 字形に曲がる 14 区の SD6240 や 20 区の SD7655、22 区の SD8002 が挙げられ、14 区北東側から 19 区東側にかけて集中する長方形ないし楕円形の小さな土坑（SK5144・7015・7037 など）も同時期の所産と見られる。また、19 区南側を東西方向に走る直線の溝 SD7002～7005・7200 や、馳上遺跡南側の 16 区で検出された SD6093 は近世に位置づけられる。

2 出土遺物の特色

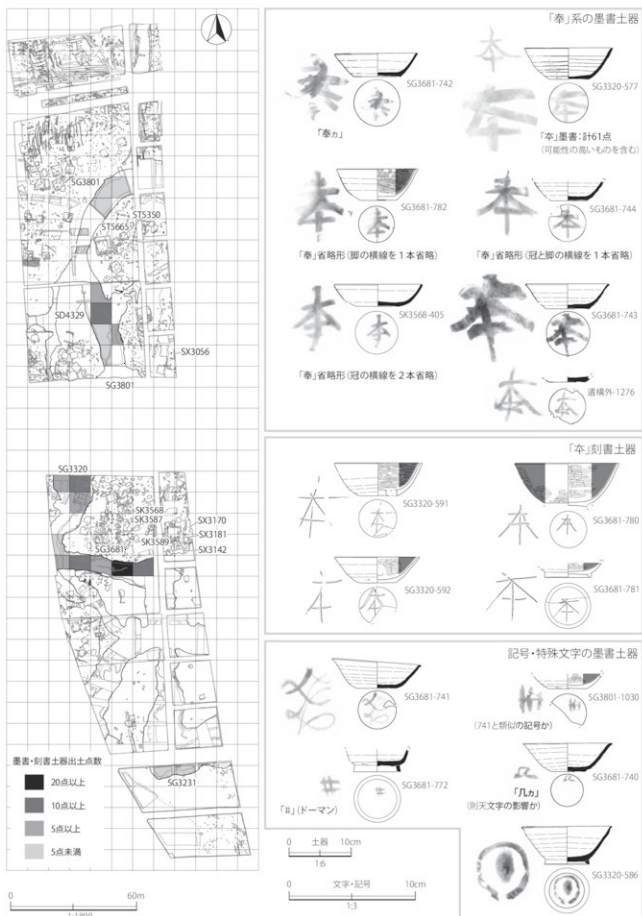
墨書土器・刻書土器（第 33・34 図）

馳上遺跡からは比較的多くの墨書土器・刻書土器が出土し、そのほとんどは 9 世紀前半頃に位置づけられる。本報告では小片や判読困難なものも極力図示しており、墨書土器は計 165 点、刻書土器は 6 点を数える（刻書土器は第 33 図の 4 点と ST5665 出土の 121、SG3681 出土の 823）。墨書土器 165 点の内訳は、須恵器 100 点、

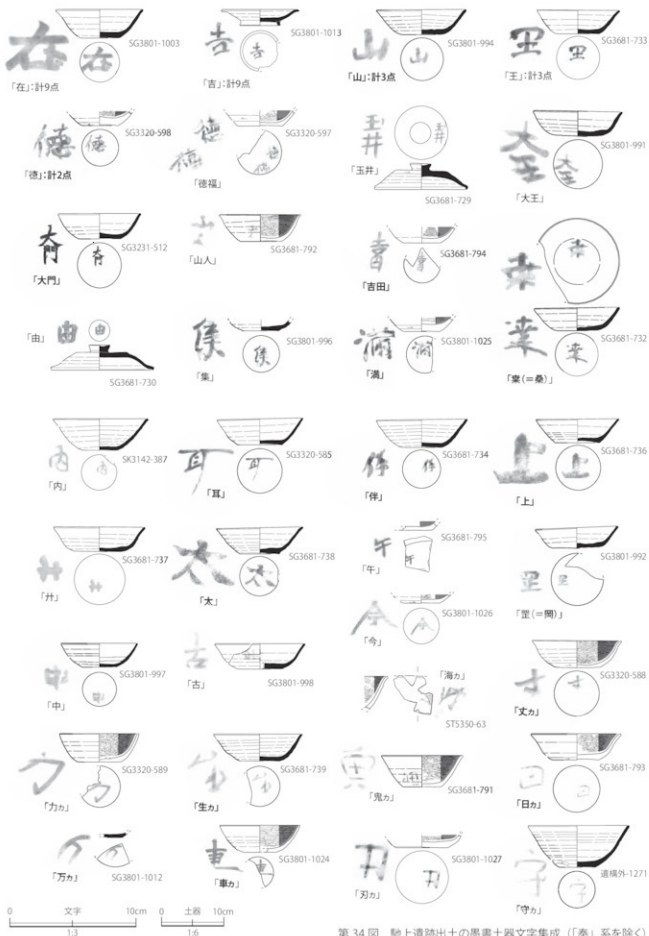
黒色土器 56 点、ロクロ土器 9 点、刻書土器の内訳は須恵器 1 点、黒色土器 5 点（うち 1 点は両黒）である。墨書土器について器種別にみると、無台坏が 138 点（須恵器 84・黒色土器 46・土師器 8）と圧倒的に多く、次いで 13 点の有台坏（須恵器 6・黒色土器 6・土師器 1）、5 点の有台皿（須恵器 3・黒色土器 2）、3 点の須恵器坏蓋と続き、例外的なものとして河川 SG3320 出土の須恵器壺（587）が挙げられる。また墨書が書かれた部位は、底面が 150 点（須恵器 92・黒色土器 49・土師器 9）と圧倒的に多く、体部側面に書かれた 13 点（須恵器 6・黒色土器 7）の文字の向きは正位 6 点、横位 3 点、倒位 1 点で、横位墨書は ST5350 出土黒色土器坏の「海カ」（63）・SG3681 出土黒色土器無台坏の「鬼カ」（791）・SG3801 出土須恵器無台坏の「古」（998）、倒位墨書は SG3801 出土黒色土器有台坏の「在」（1033）である。なお、2 箇所に墨書が書かれたものは、底部と側面に「奉」を書く SG3320 出土の須恵器無台坏（577）と、内外底面に「榮（＝榮）」を書く SG3681 出土の須恵器無台坏（732）の 2 点のみである。

出土地点は河川が大半を占め、農繁期の共同労働に伴う儀礼（三上 2002）等に用いられた器が廃棄されたと考えられる。SG3801 南側・SG3320 北側・SG3681 で多数出土し、とくに多い SG3681 東側の 520-360 グリッドで 29 点を数える（第 33 図左）。この北側に位置する土坑 SK3587・3589 は、祭祀前の破損品や墨書の書き損じ品等を廃棄した可能性が想定される。なお竪穴建物出土の墨書土器は、ST5350 の黒色土器坏（63）と ST5665 の土師器無台坏（126）の 2 点のみである。

次に墨書土器の文字に注目してみたい。圧倒的に多い文字は 61 点を数える「奉」である。いずれも「大」と「十」を組み合わせた筆順で、「本」とは明らかに異なる。同様の墨書は寒河江市三条遺跡などで出土しており、「奉」が「奉」→「奉」、あるいは「奉」→「奉」と字形変化し、さらに冠と脚を省略した「奉」、あるいは「奉」に変化を遂げたことが出土資料から確かめられている（山形理文 2001）。馳上遺跡においても、崩れた書体で書かれた「奉」（742）のほか、脚の横線を 1 本省略した「奉」（782）、冠と脚の横線を 1 本ずつ省略した「奉」（744）、冠の横線を 2 本省略した「奉」（405・743・1276）があり、「奉」はやはり「奉」の省略形であると考えられ



第33図 墨書・刻書土器出土分布と「奉」系の墨書・刻書および記号墨書



第 34 図 船上遺跡出土の墨書土器文字集成(「奉」系を除く)

る(第33図石上)。青森市野木遺跡出土黒書土器の「夬」を「奉」の記号化された字形と捉え、「土器に御馳走を盛り、神や仏にたてまつるという行為そのものの説明として記されたもの」とみる平川南(2001)の解釈が、「奉」黒書・刻書土器にも適合すると理解される。「奉」土器がとくに多く出土したのは、黒書38点・刻書2点を数えるSG3681で、「奉」以外の「奉」省略形も全5点のうち3点が出土している。

「奉」に次いで多いのが9点を数える「在」(須恵器4・黒色土器5)と「吉」(須恵器1・黒色土器8)で、3点の「山」と「王」がこれに続く(第34図上)。「在」の9点中8点、「吉」の9点中7点、「山」3点はSG3801から出土しており、「奉」の多いSG3681と対極的な様相を呈する。このほかは、「徳」2点、および「万カ」2点をのぞき、すべて1点のみである。また、大多数は1字黒書だが、2字黒書が11点あり、第34図に挙げた「徳福」・「玉井」・「大王」・「大門」・「山人」・「吉田」以外に、「山」(SG3231-511)・「王」(SG3231-513)・「山」(SG3320-587)・「木カ」あるいは「水カ」(SG3801-993)・「在舎カ」(SG3801-1035)がある。

非在地系土器と特徴的な成形・調整技法の土器(第35図)

本章第1節で指摘したように、馳上遺跡出土の古墳時代遺物は4～6世紀前半に位置づけられるものがほとんどで、6世紀後半～7世紀前半のものは極端に少ない。当該期の低調動向は馳上遺跡のみに限られたものではなく、山形県域全体に認められることが知られている。河川SG3320出土の須恵器壺(668)は、この低調期の只中にあたるTK209型式併行に位置づけられ、在地産とは考えにくく限外から搬入された可能性が高い。

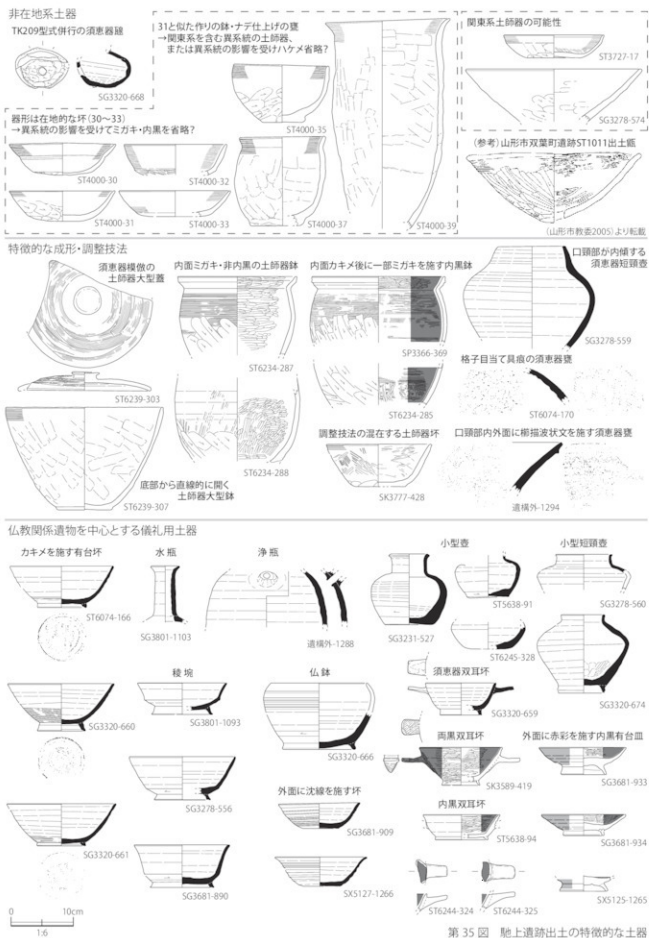
また古代の堅く建物のなかで最も多く占めるST4000出土土器のうち、内面ナデ仕上げで黒色処理を施さない環(30～34)や、外面ケズリ・内面ナデ仕上げの鉢(35)、内外面ナデ仕上げの甕(37・39)は、在地の「栗皿式」と異なる特徴をもっており、とくに31と35、37と39は厚手の作りや胎土・色調・器面調整などの諸点において共通性が高い。異系統土器の影響を受けて作られたものと考えられるが、環の器形等はいわゆる関東系土器と異なるようである。ST3727出土の環(17)も内面ナデ仕上げで黒色処理を施さない非在地系の土器である。口縁部の作りやにぶい橙色の色調を勘案すると、

関東系土器の可能性が高いと考えられる。ST4000出土環と比べると扁平化が進んで明瞭な平底を呈しており、8世紀前半に位置づけられる。さらに河川出土の破片資料ではあるが、山形市双葉町遺跡ST1011出土甕の類似品(574)にも注目したい。双葉町遺跡出土土器のなかに関東系土器環・甕が含まれるという村田晃一(2005)の指摘を受け、これに伴うST1011出土甕も関東系土器の可能性が示されている(阿部2010)。

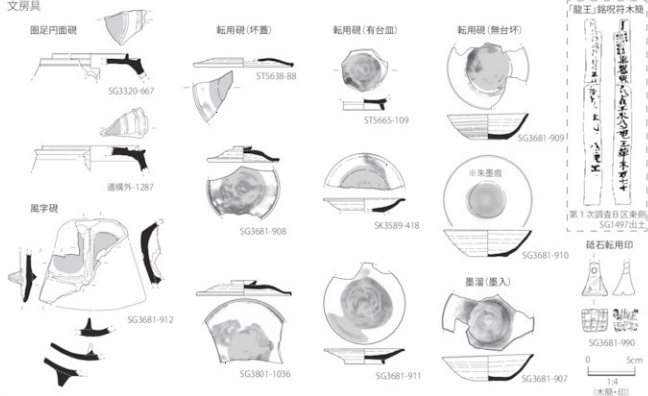
以上の関東系土器をはじめとする非在地系土器のほかにも、特徴的な成形・調整技法の土器が出土している(第35図中段)。ST6239出土の土器器蓋(303)は忠実に須恵器の形態を模倣しており、これと併せて出土した土器器大型鉢(307)とともに種類の少ないものである。内面にミガキを施す口縁成形の土器器鉢では、寒河江市三条遺跡出土例など内面黒色処理のものが目立ち、ST6234出土の287・288のような非内黒例はあまりない。またST6234出土の285やSP3366出土の369は内黒の鉢だが、ミガキは内面の一部に限られ、大部分にカキメを施す点が特徴的である。SK3777出土の土器器環(428)は、体部をタタキ整形した後、口縁部外面にヨコナデ、体部内外面にミガキ、底部外面にケズリを施すという調整技法の混在が認められる特異な例である。須恵器では、ST6074出土甕(170)やSG3278出土の短頸壺(559)、口頸部内外面に縞波状文を施す遺構外出土甕(1294)などが独特な器形・調整技法の遺物として注目される。

仏教関係遺物を中心とする儀礼用土器(第35図下段)

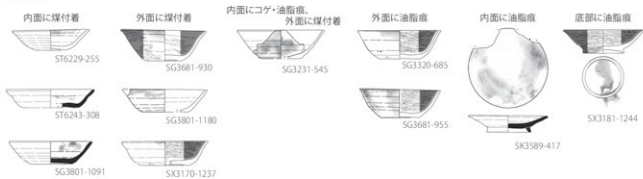
馳上遺跡からは古代集落における仏教・神祇信仰を示す遺物も比較的多く見つかった。具体的には須恵器仏鉢1点・稜塊3点・水瓶1点・浄瓶1点・小型壺3点・小型短頸壺2点が挙げられ、ST5638・6245出土の小型壺(91・328)および遺構外の浄瓶(1288)以外は河川から出土した。置賜地域の仏教関係遺物出土遺跡では、仏堂併設の宮前と目される川西町太夫小屋1遺跡が質・量ともに圧倒的で、次いで出土点数が多いのは米沢市大浦B遺跡、西町田下遺跡と続く(渋谷・高桑2004)。馳上遺跡の出土点数は第1次調査分とあわせて西町田下遺跡と同程度だが、大浦B遺跡・西町田下遺跡では稜塊が大半を占めており、バラエティ豊かな器種内容が馳上遺跡の特徴と言える。また、体部



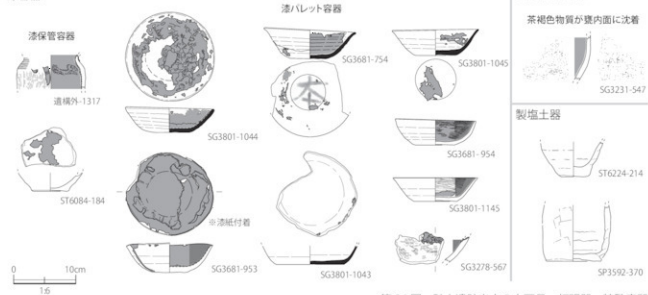
文房具



灯明器



漆容器



第36図 船上遺跡出土の文房具・灯明器・特殊容器

下半と底面にカキメを施す須恵器有台環 (166・660・661) や外面に沈線を施す須恵器無台環 (909・1266) は、口縁直下に沈線を施す仏鉢や体部下半の稜を強調する稜境と同様、金属器を模倣したものと捉えられ、ただちに仏具とは言えないもの、これに類する祭祀具と想定される。さらに双耳環 5 点と外面に赤彩を施す内黒有台皿 3 点も、装飾性の高い特殊な供献具として何らかの儀礼に使用されたものだろう。

文房具・灯明器・漆容器など (第 36 図)

最後に、使用痕などから特定の用途が推定できる遺物についてまとめておく。第一に、硯を中心とする文房具が挙げられる。圓足円面硯 2 点・風字硯 1 点・転用硯 8 点 (うち朱黒硯 1 点) が出土しており、墨痕を残すのみで墨磨り痕のない 907 は墨溜りに使用されたものだろう。これらのうち一般集落で認めがたい円面硯・風字硯は、律令制における文書行政の象徴という性格が強いものと推察され、墨書土器や第 1 次調査出土の呪符木簡等には転用硯が用いられたと考えられる。定型硯の象徴的機能と同じく、砥石転用印 (990) も文字の権威・呪術性を背景に有力者が私印として所持したものだろう。

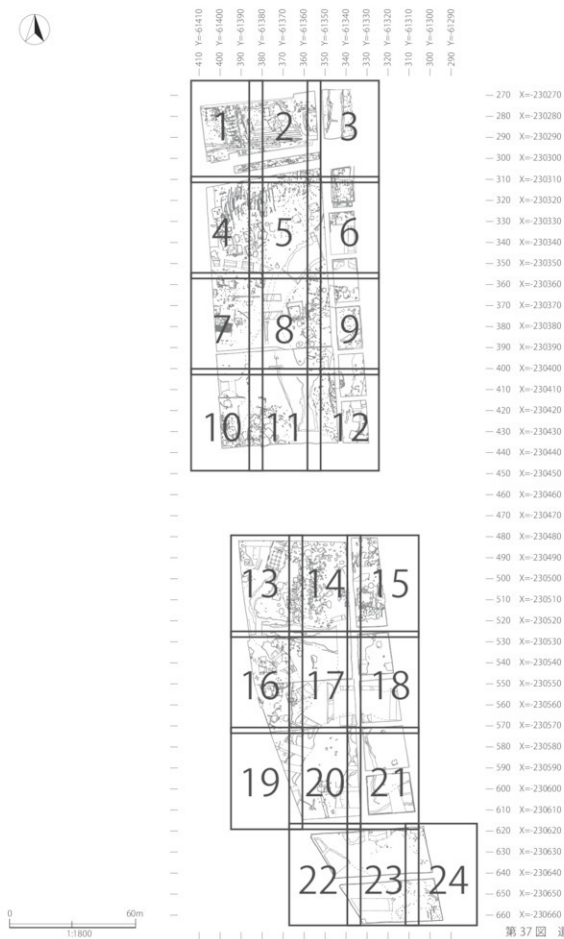
河川を中心に出土した灯明器は、灯明供養具として仏教儀式、あるいは墨書土器祭祀などで用いられたものと捉えられそうである。ただし、墨書土器にみられる漆容器、何らかの塗料保管容器の可能性が考えられる土師器裏片、製塩土器などがわずかながら出土している。

3 古代集落としての遺跡の評価

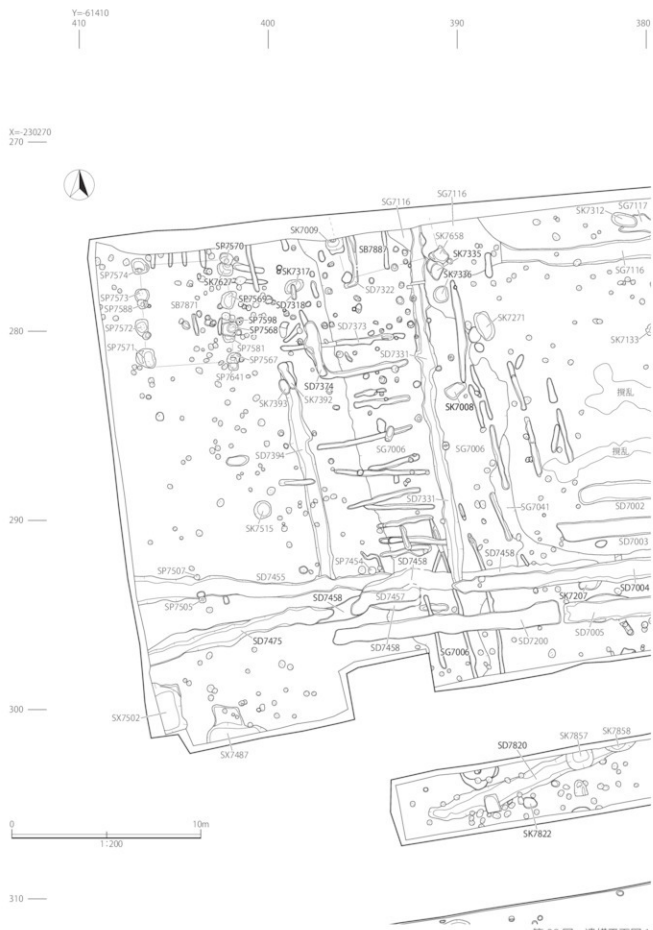
馳上遺跡は、木簡や定型硯、および西谷地 b 遺跡南端出土の石帯等から、一般集落と異なる公的な性格をもった遺跡と考えられる。ただし、墨書土器に官職名や部署名を記すものはなく、また竪穴建物群と掘立柱建物群は未分離で計画的な建物配置も見出しがたい。こうした諸特徴を総合すると、山中敏史 (2004) による「官衙補充施設」(官衙機能の一翼も担った民間施設) の一例と捉えておくのが妥当なように、栃木県多功南原遺跡で想定された「郷歌酒礼」遂行の責を負う「郷家」あるいは郡衙などの維持・運営に必要な物資調達・管理を補充した遺跡と考えられるのではないだろうか。馳上遺跡の全容はまだまだ明らかでなく、今後の調査・研究の進展を踏まえた、より具体的な性格の絞り込みが求められる。

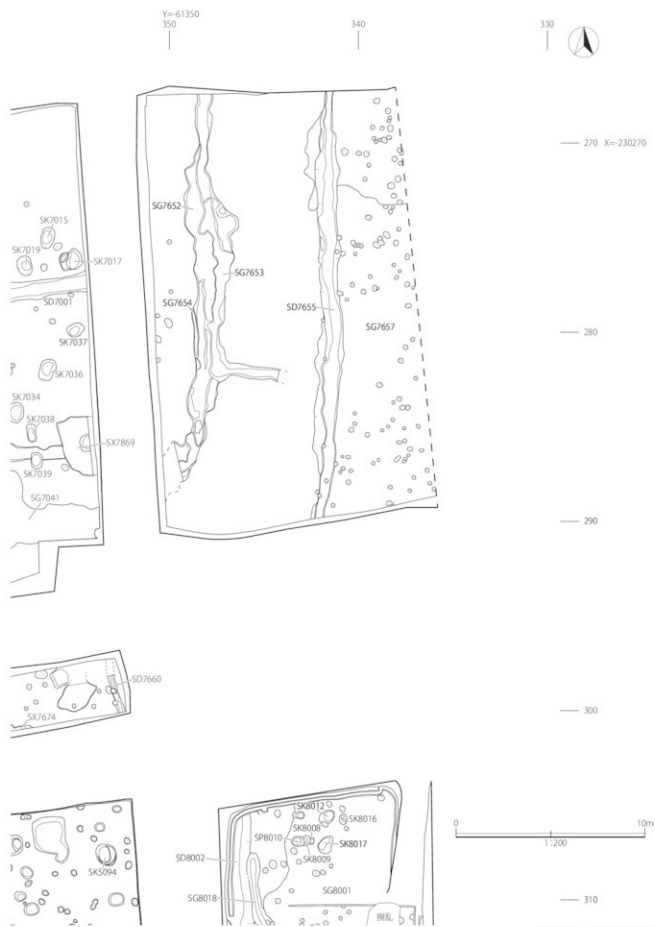
引用・参考文献

- 阿部明彦 2010 「南出羽における須恵器生産の展開」『平安初頭の南出羽考古学—官衙とその周辺—』p.157～162 山形県立きたむ風土記の丘考古資料館
- 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 2014 「馳上遺跡第 5 次・西谷地 b 遺跡第 3 次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 210 集
- 公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 2015 「西谷地 b 遺跡第 1・2 次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 215 集
- 佐藤祐輔 2015 「東北」佐藤山紀明 (編) 『弥生土器』p.397～446 考古調査ハンドブック 12 ニューサイエンス社
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2001 「三葉遺跡第 2・3 次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 93 集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2002 「馳上遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 101 集
- 財団法人山形県埋蔵文化財センター 2011 「川前 2 遺跡第 1・2 次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 193 集
- 篠崎謙治 2010 『馬小原の考古学』高志書院
- 渋谷純子・高松弘美 2004 「山形県の奈良・平安時代における信仰関連遺物集成—仏教関連遺物を中心に—」『研究紀要』第 2 号 p.81～104 財団法人山形県埋蔵文化財センター
- 高橋 学 2015 「竪穴・掘立柱併用建物」『季刊考古学』第 131 号 p.77～79 樋田閣
- 東北芸術工科大学考古学研究室 2003 「高宮堂跡群 B 地区第 1 次発掘調査報告書」東北芸術工科大学考古学研究室報告書第 2 冊
- 平川 南 1991 「墨書土器とその字形—古代村落における文字の実相—」『国史歴史民俗博物館研究報告』第 35 集 p.67～130
- 平川 南 2001 「青森市野木遺跡出土の「実」墨書土器」『野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』平安時代遺物・分析・総論編 p.617～629 青森市教育委員会 青森市埋蔵文化財調査報告書第 54 集
- 文化庁文化財部記憶遺産課 (監修) 2010 「発掘調査のてびき—集落遺跡発掘編—」
- 三上真孝 2002 「墨書土器研究の新視点—文献史学の立場から」『国文学 解釈と教材の研究』第 47 巻 4 号 p.40～47 学燈社
- 村田晃一 2005 「7 世紀における陸奥北辺の様相—宮城県域を中心として—」『日本考古学協会 2006 年度福島大会シンポジウム資料集』
- 村山市教育委員会 1996 「西原 C 遺跡発掘調査報告書」
- 山形県教育委員会 2000 「分布調査報告書 (26)」山形県埋蔵文化財調査報告書第 200 集
- 山形県教育委員会 2009 「分布調査報告書 (35)」山形県埋蔵文化財調査報告書第 210 集
- 山形県教育委員会 2005 「双葉町遺跡 (山形城三の丸跡) 発掘調査報告書」縄文時代～中世編 山形県埋蔵文化財調査報告書第 24 集
- 山中敏史 1983 「陶磁の分類」『埋蔵文化財ニュース』41 陶磁関係文献目録 p.4～9 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター
- 山中敏史 2004 「末端官衙と豪族居宅」『古代の官衙遺跡』Ⅱ 遺物・遺構編 p.213～246 奈良文化財研究所
- 米沢市教育委員会 1998 「米沢市遺跡地図」米沢市埋蔵文化財調査報告書第 60 集
- 米沢市教育委員会 2001 「古志田東遺跡」米沢市埋蔵文化財調査報告書第 73 集



第 37 図 遺構平面図の劃付







第 41 図 遺構平面図 4



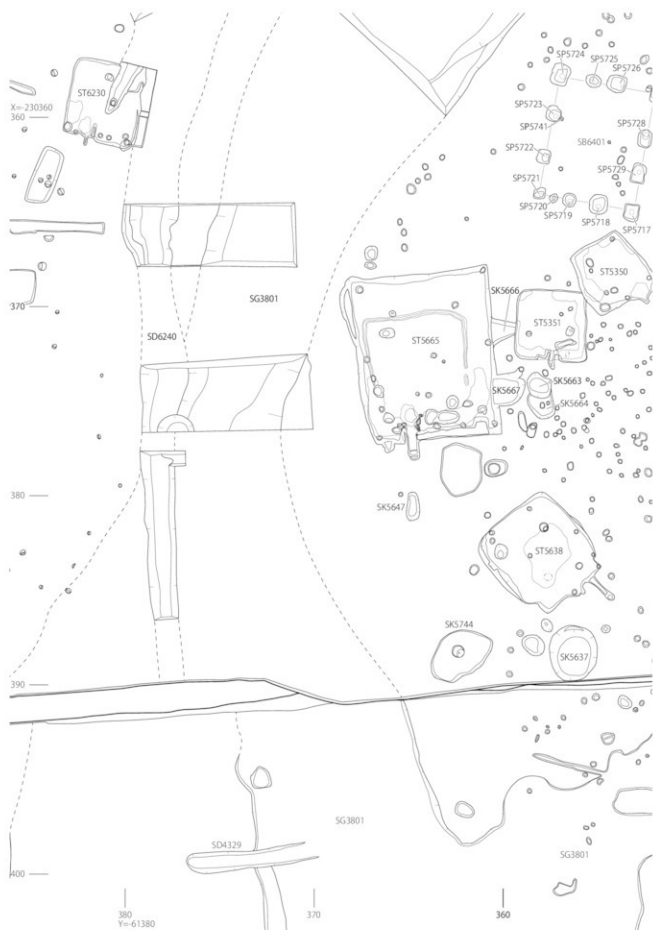
第42図 遺構平面図5



第 43 図 遺構平面図 6



第 44 図 遺構平面図 7



第45図 遺構平面図8



第46図 遺構平面図9



第 47 図 遺構平面図 10



— 440

380
Y=61380

370

360

第 48 図 遺構平面図 11



第49図 遺構平面図12



第50図 遺構平面図13



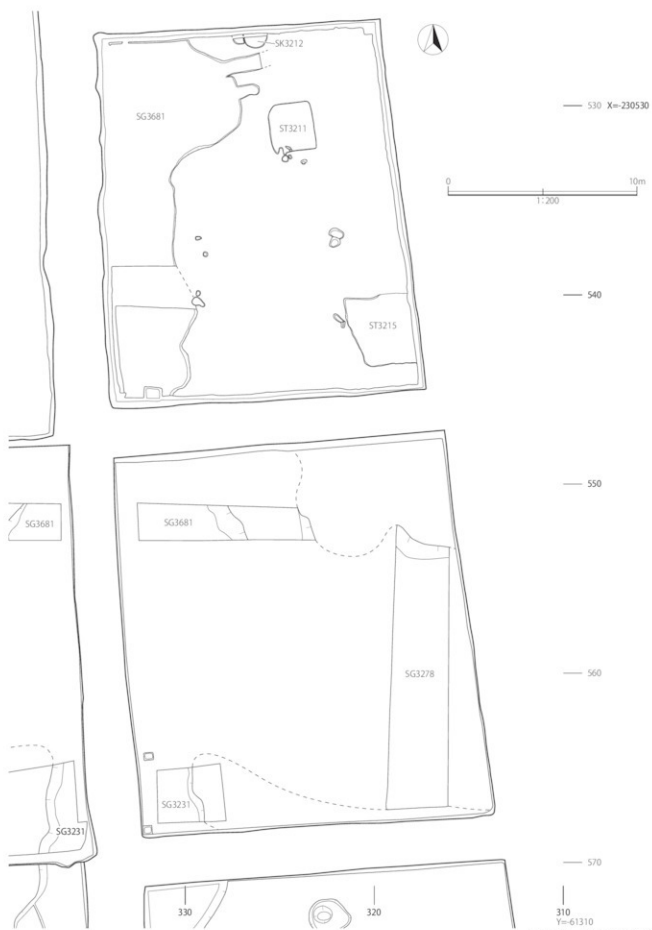




第 53 図 遺構平面図 16

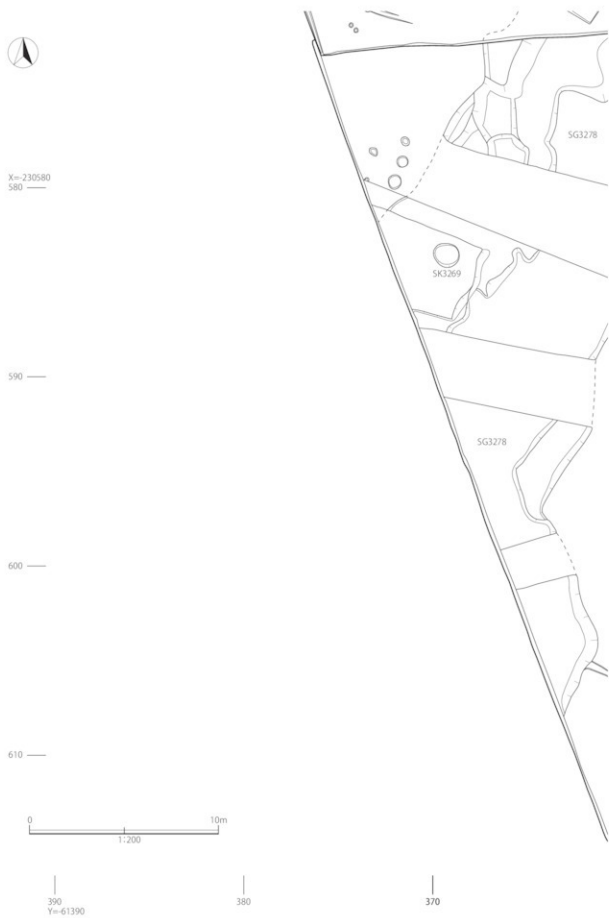


第 54 図 遺構平面図 17



第 55 図 遺構平面図 18

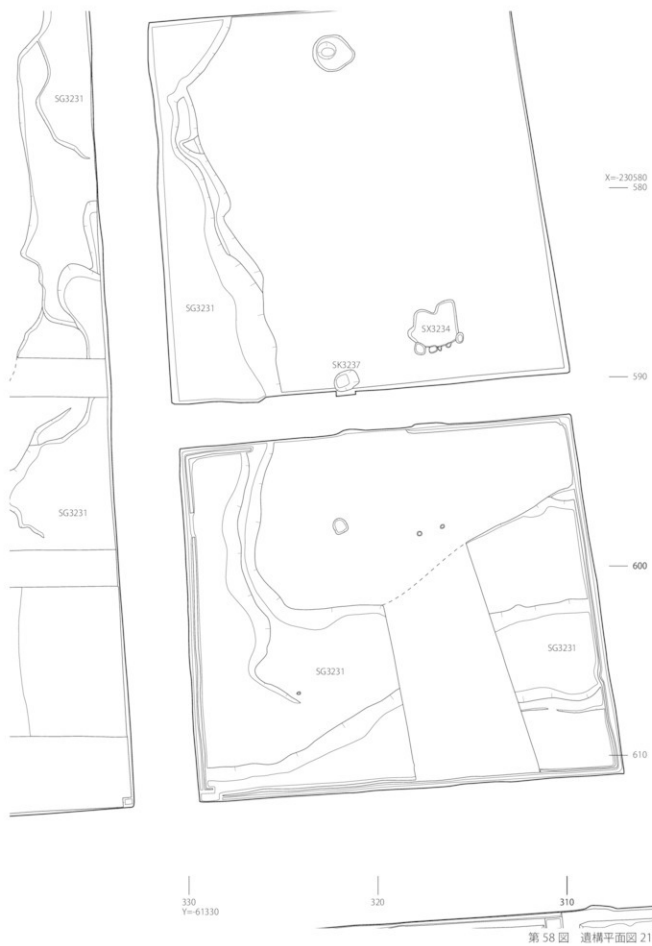
遺構平面図



第56図 遺構平面図19



第 57 図 遺構平面図 20





X=230620
620

630

640

650

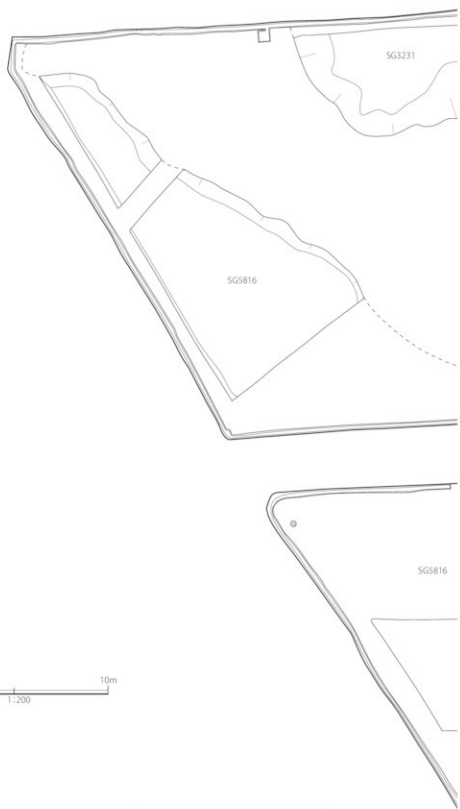
660



360
Y=61360

350

340



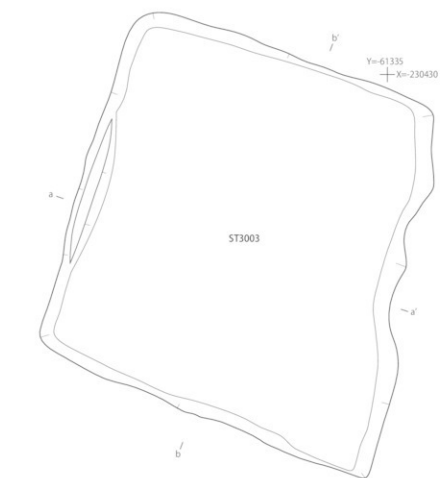
第 59 図 遺構平面図 22



第60図 遺構平面図23



第 61 図 遺構平面図 24



ST3003
a
h=238.1m



b
h=238.1m

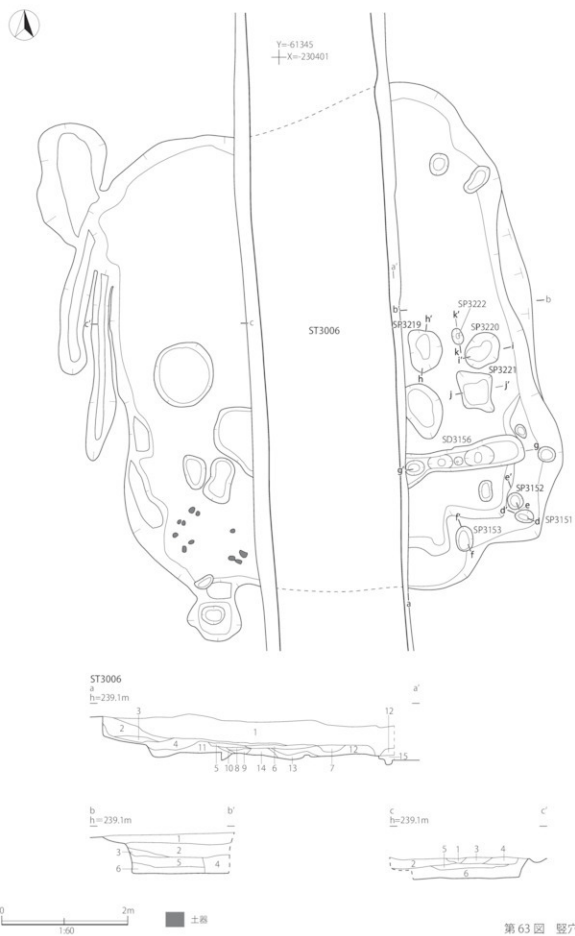


竪穴建物 ST3003 : a - a', b - b'

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の炭と 10YR5/2 灰黄褐色細砂ブロックを含む
- 2 10YR2/1 黒色シルト、粘性普通、しまり弱、2.5Y5/1 黄灰色細砂ブロックを含む
- 3 10YR2/1 黒色シルト、酸化鉄を含んだ褐色砂を含む
- 4 10YR3/4 暗褐色砂～粗砂、10YR2/1 黒色シルトブロックを含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色細砂、10YR2/1 黒色シルトブロックを少し含む



第 62 図 竪穴建物 ST3003



第 63 図 壁穴建物 ST3006

竪穴建物 ST3006 : a - a'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性弱、しまり強、5YR4/8 赤褐色シルトをまだら状に含む、3mm ~ 1cm 大の炭を少し含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性弱、しまり強、10YR5/6 黄褐色シルトブロックを含む、5mm 大の炭を少し含む
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、3mm 大の炭をごくわずかに含む
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性弱、しまり強、10YR4/4 褐色シルトを帯状に含む、3mm 大の炭を少し含む
- 5 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり強、5YR5/6 明赤褐色シルトブロックと炭粒を含む
- 6 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性弱、しまり強、炭粒を帯状に非常に多く含む、5YR7/8 褐色シルトブロックを含む
- 7 5YR3/2 暗赤褐色シルト、粘性弱、しまり強、5YR5/6 明赤褐色シルトブロックを非常に多く含む
- 8 10YR5/4 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり強、5YR6/8 褐色シルトを帯状に含む
- 9 5YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強
- 10 10YR2/3 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強
- 11 10YR3/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり強
- 12 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、5YR4/8 赤褐色シルトをまだら状にごくわずかに含む
- 13 10YR2/3 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強
- 14 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、5YR4/5 赤褐色シルトをまだら状にごくわずかに含む
- 15 10YR6/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり強

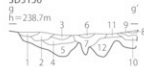
竪穴建物 ST3006 : b - b'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、炭を含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、炭を含む、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトをまだら状に含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、純層
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR2/2 黒褐色シルトブロックを少し含む
- 5 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色粘土、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む

竪穴建物 ST3006 : c - c'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、炭粒をごくわずかに含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトをまだら状に含む
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトをまだら状に含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトをまだら状に多く含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通

SD3156



溝 SD3156 : g - g'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR4/3 に近い黄褐色シルトブロックを含む
- 2 7.5YR3/3 暗褐色シルト、明褐色土をまだら状に多く含む、炭を多く含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR4/3 に近い黄褐色シルトブロックを非常に多く含む
- 4 7.5YR3/3 暗褐色シルト、炭を多く含む、明褐色土上ブロックを含む
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト、10YR4/3 に近い黄褐色シルトブロックを多く含む、炭を含む、土をまだら状にごくわずかに含む
- 6 7.5YR3/3 暗褐色シルト、土上ブロックを多く含む、炭を含む
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト、10YR4/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に含む、炭粒を含む、土をまだら状にごくわずかに含む
- 8 7.5YR3/3 暗褐色シルト、炭粒を含む、土をまだら状にごくわずかに含む
- 9 7.5YR4/6 明褐色シルト、土上と炭を含む
- 10 10YR3/3 暗褐色シルト、10YR4/3 に近い黄褐色シルトブロックを含む、炭粒を含む
- 11 10YR3/3 暗褐色シルト、10YR4/3 に近い黄褐色シルトブロックを多く含む、炭粒を含む
- 12 10YR3/3 暗褐色シルト、10YR4/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に含む、5mm 大の炭を含む

SP3151

ビット SP3151 : d - d'
d d'
h=238.7m
1 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR4/3 に近い黄褐色シルトブロックを多く含む、炭粒を含む



SP3152

ビット SP3152 : e - e'
e e'
h=238.7m
1 10YR3/2 黒褐色シルト、炭粒と 10YR4/3 に近い黄褐色シルトを少し含む



SP3153

ビット SP3153 : f - f'
f f'
h=238.7m
1 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR5/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に多く含む、帯状に炭を含む、土上ブロックを含む



SP3219

ビット SP3219 : h - h'
h h'
h=238.4m
1 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性弱、しまり強、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に少し含む、3mm 大の炭をごくわずかに含む



SP3220

ビット SP3220 : i - i'
i i'
h=238.1m
1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、シルトをまだら状に多く含む、3mm 大の炭をごくわずかに含む



SP3221

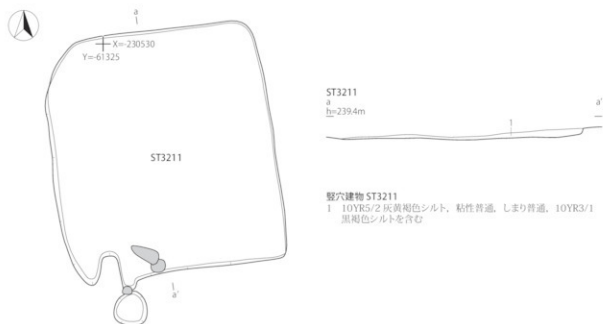
ビット SP3221 : j - j'
j j'
h=238.3m
1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、2.5YR4/4 赤褐色シルトと 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを含む、3 ~ 5mm 大の炭をごくわずかに含む



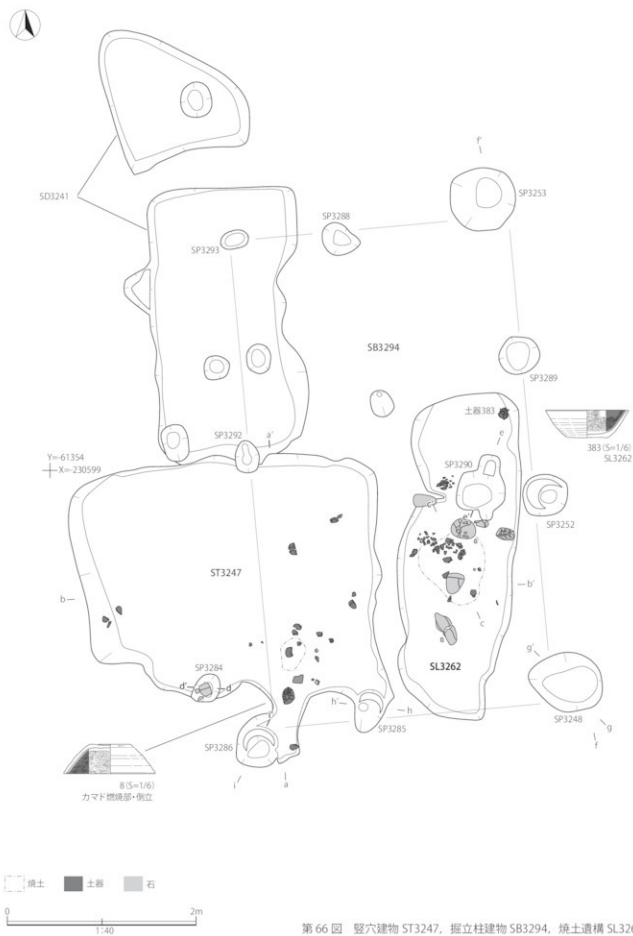
SP3222

ビット SP3222 : k - k'
k k'
h=238.4m
1 10YR2/3 暗褐色シルト、粘性弱、しまり強、3mm 大の炭をごくわずかに含む

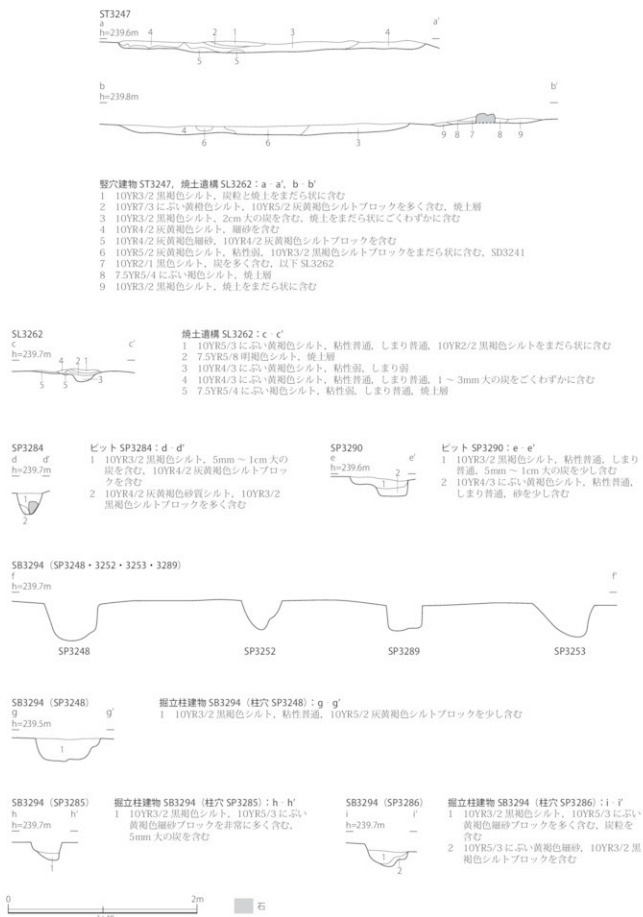




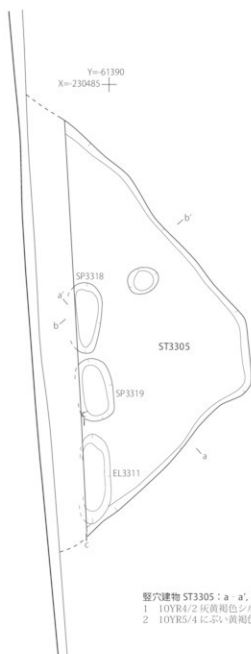
第 65 図 竪穴建物 ST3211・3215



第66図 竪穴建物ST3247、竪立柱建物SB3294、焼土遺構SL3262



第 67 図 竪穴建物 ST3247, 竪立柱建物 SB3294, 焼土遺構 SL3262 断面図



竪穴建物 ST3305 : a - a', b - b'

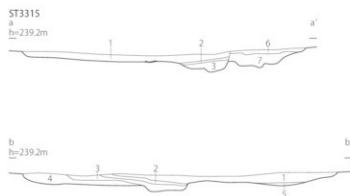
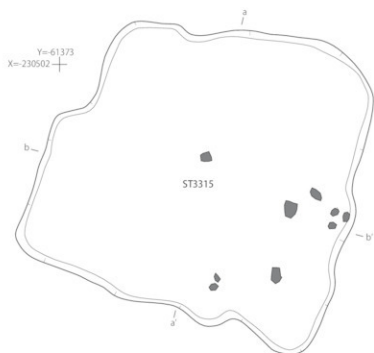
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の炭をごくわずかに含む、SP3318
- 2 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通

灰土溜り EL3311 : c - c'

- 1 10YR1.7/1 黒色シルト、粘性普通、しまり弱、10YR5/6 黄褐色シルト焼土ブロックを多く含む



第 68 図 竪穴建物 ST3305

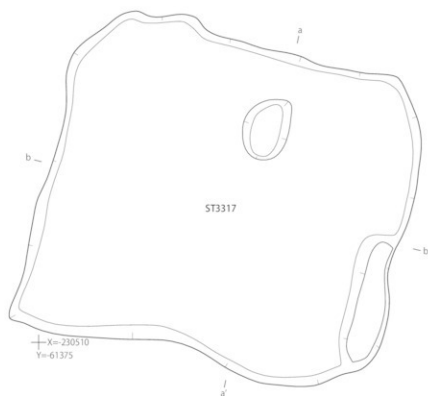


竪穴建物 ST3315 : a - a'、b - b'

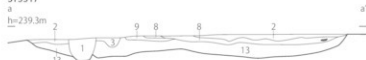
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり強、5mm 大の炭と 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルト、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、5mm ~ 1cm 大の炭を含む、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを少し含む
- 4 10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルト、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックをごくわずかに含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト、炭を帯状に含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色シルト、3 ~ 5mm 大の炭を多く含む
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを含む、炭を含む



第 69 図 竪穴建物 ST3315



ST3317

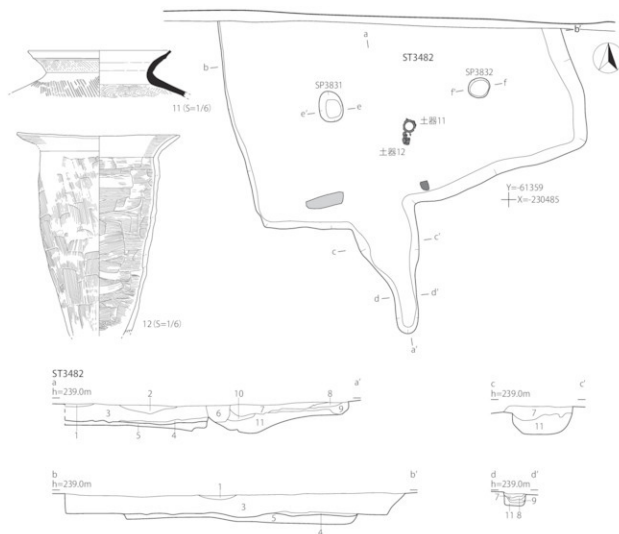


竪穴建物 ST3317 : a - a', b - b'

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性弱、しまり普通、5mm～1cm 大の炭を少し含む、砂をごくわずかに含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、3mm 大の炭をごくわずかに含む
- 3 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、3～5mm 大の炭を少し含む
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通
- 5 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、2mm 大の炭をごくわずかに含む
- 6 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり強
- 7 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、細砂を少し含む、2mm 大の炭をごくわずかに含む
- 8 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、細砂を少し含む、2mm 大の炭をごくわずかに含む
- 9 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3mm～1cm 大の炭を少し含む
- 10 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、3mm 大の炭をごくわずかに含む
- 11 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂をごくわずかに含む
- 12 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、3mm 大の炭と砂をごくわずかに含む
- 13 10YR4/1 暗灰色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、5mm～1cm 大の炭をごくわずかに含む
- 14 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂・礫を少し含む



第 70 図 竪穴建物 ST3317



竪穴建物 ST3482 : a - a', b - b', c - c', d - d'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、炭を帯状に多く含む、以下4層まで覆上
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR6/3 に近い黄褐色細砂ブロックを含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、炭を含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、炭を帯状に含む、7.5YR6/2 灰褐色焼土ブロックをまだら状に含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR6/3 に近い黄褐色細砂ブロックを多く含む、薄力
- 6 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR6/3 に近い黄褐色細砂と焼土をまだら状に含む、以下カマド覆上
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、炭と焼土をまだら状に含む、10YR6/3 に近い黄褐色細砂ブロックを少し含む
- 8 10YR7/3 に近い黄褐色シルト、炭を含む、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを少し含む
- 9 10YR3/2 黒褐色シルト、炭を含む、10YR2/1 黒色シルトブロックを少し含む
- 10 10YR5/3 に近い黄褐色細砂、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを多く含む、炭を含む
- 11 10YR5/3 に近い黄褐色細砂、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを多く含む

SP3831
e' e'
h=238.6m
1

柱穴 SP3831 : e - e'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色細砂ブロックを少し含む

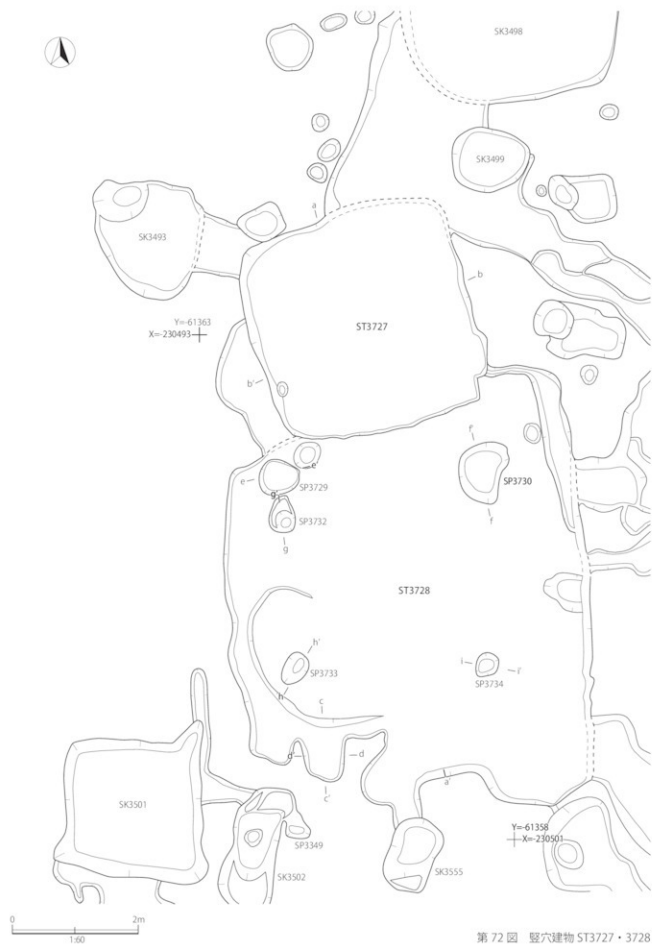
SP3832
f f
h=238.5m
3
1

柱穴 SP3832 : f - f'

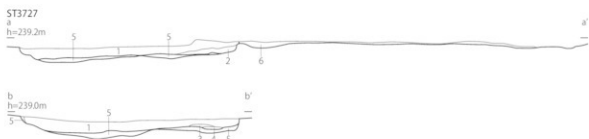
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、大粒の炭を含む、10YR6/3 に近い黄褐色細砂ブロックを少し含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR6/3 に近い黄褐色細砂を帯状に多く含む
- 3 10YR4/1 褐色細砂、粘性弱、しまり弱



第 71 図 竪穴建物 ST3482



第 72 図 竪穴建物 ST3727・3728



竪穴建物 ST3727・3728 : a - a', b - b'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR4/4 褐色シルトをまだら状に含む、以下4層までST3727層上
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 にぶい黄褐色シルトをまだら状に多く含む、炭粒厚さ2cmほど筋状に堆積
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト、粘性弱、しまり強
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性強、しまり普通、砂を少し含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む、ST3727層方
- 6 10YR4/4 褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に多く含む、3mm大の炭をごくわずかに含む、ST3728



竪穴建物 ST3728 カマド : c - c', d - d'

- 1 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、10YR3/1 黒褐色シルトを筋状に多く含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、粘性弱、しまり弱
- 3 7.5YR5/6 明褐色シルト、粘性弱、しまり強、砂を少し含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、砂を少し含む



柱穴 SP3729 : e - e'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通
- 2 10YR5/2 灰黄褐色細砂、粘性弱、しまり弱



柱穴 SP3730 : f - f'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む



柱穴 SP3732 : g - g'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 にぶい黄褐色シルトがまだら状に含む



柱穴 SP3733 : h - h'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂をごくわずかに含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 にぶい黄褐色シルトをまだら状に含む
- 3 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 4 10YR3/2 暗褐色シルト、粘性弱、しまり普通

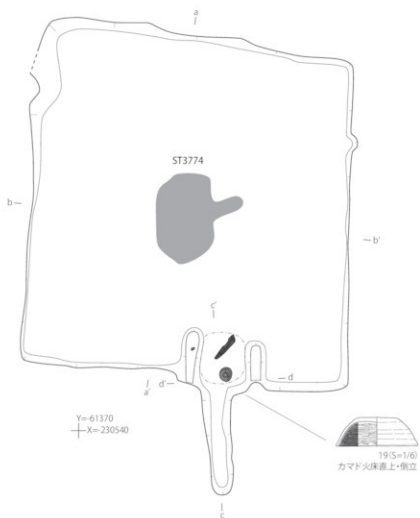


柱穴 SP3734 : i - i'

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に非常に多く含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む



第 73 図 竪穴建物 ST3727・3728 断面図



ST3774

a
h=239.3m



b
h=239.3m



ST3774 カマド

c
h=239.2m



d
h=239.3m



竪穴建物 ST3774 : a - a', b - b'

1 10YR3/2 黒褐色シルト，粘性普通，しまり普通，10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを多く含む，炭を含む

竪穴建物 ST3774 カマド : c - c', d - d'

1 10YR3/2 黒褐色シルト，粘性普通，しまり普通，10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを多く含む，炭を含む

2 7.5YR3/2 黒褐色シルト，7.5YR5/4 にふい暗褐色焼土ブロックを多く含む，炭を含む

3 10YR3/2 黒褐色シルト，10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトブロックを含む

4 10YR5/2 灰黄褐色シルト，粘性弱，しまり弱，地山削り出しカマド袖部

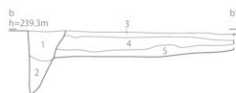
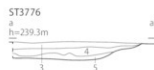
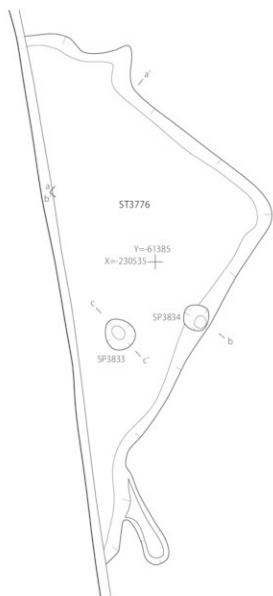
5 7.5YR2/2 黒褐色シルト，10YR5/2 灰黄褐色シルトをまだら状に多く含む

6 10YR5/2 灰黄褐色シルト，7.5YR2/2 黒褐色シルトをまだら状に含む

7 7.5YR2/2 黒褐色シルト，1cm 大の炭と焼土を含む

8 10YR5/2 灰黄褐色シルト，7.5YR2/2 黒褐色シルトブロックを多く含む





竪穴建物 ST3776 : a - a', b - b'

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト、しまり強、5mm 大の炭を含む、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを多く含む、以下 2 層まで SP3834
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを多く含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、3mm 大の炭をごくわずかに含む、以下 ST3776 覆土
- 4 10YR4/4 褐色シルト、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に多く含む、3 ~ 6mm 大の炭をごくわずかに含む
- 5 10YR4/4 褐色シルト、粘性普通、しまり弱

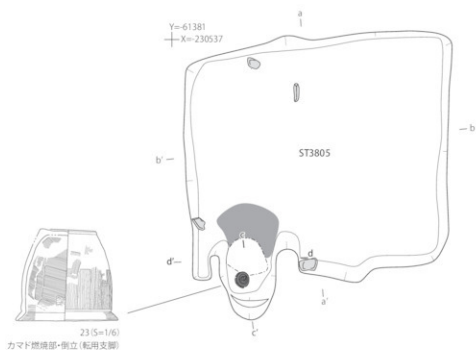


柱穴 SP3833 : c - c'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、固粒を含む、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを含む
- 2 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 3 10YR3/4 褐色シルト、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを多く含む



第 75 図 竪穴建物 ST3776



ST3805
a
h=239.4m



b
h=239.4m



竪穴建物 ST3805 : a - a', b - b'

1 10YR3/2 黒褐色シルト，粘性普通，しまり普通，5mm ~ 1cm 大の炭を含む

ST3805 カマド
c
h=239.3m

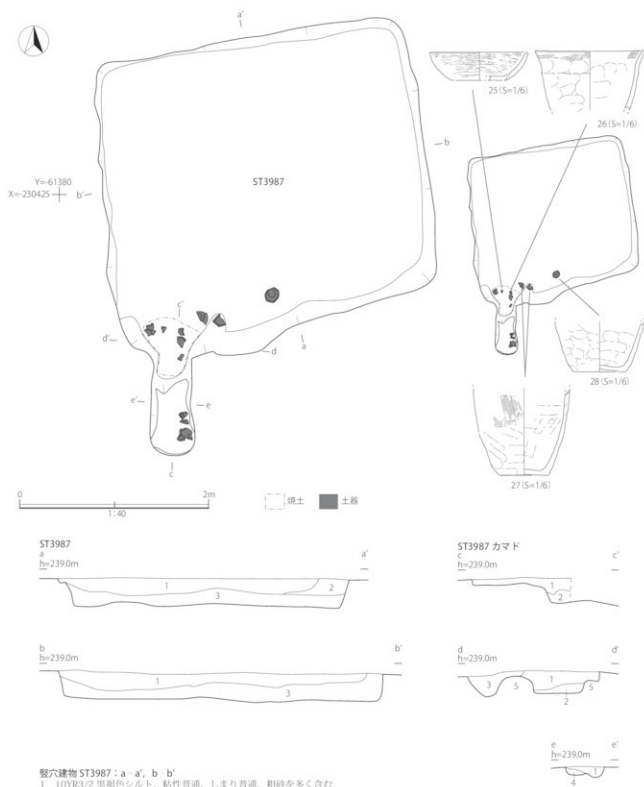


竪穴建物 ST3805 カマド : c - c', d - d'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト，10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを多く含む
- 2 7.5YR5/4 にふい褐色シルト，10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを含む，炭を含む，焼土
- 3 5YR3/1 黒褐色シルト，粘性普通，しまり普通
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト，粘性普通，しまり普通，5mm ~ 1cm 大の炭を含む



第 76 図 竪穴建物 ST3805



竪穴建物 ST3987 : a - a', b - b'

- 1 10YR3/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、粗砂を多く含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、粗砂を多く含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、粗砂を少し含む、1~5mm 大の炭をわずかに含む

竪穴建物 ST3987 カマド : c - c', d - d', e - e'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを多く含む、炭を多く含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、はげ鈍層
- 4 10YR6/2 灰黄褐色細砂、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを含む
- 5 10YR6/2 灰黄褐色細砂、地山削り出しカマド軸

第 77 図 竪穴建物 ST3987



第78図 竪穴建物ST4000、性格不明遺構SX4002

竪穴建物 ST4000・性格不明遺構 SX4002 : a-a', b-b'

1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、1mm～2cm

大の炭をこくわずかに含む、以下2層までST4000覆土

2 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に多く含む

3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、以下SX4002

4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり弱

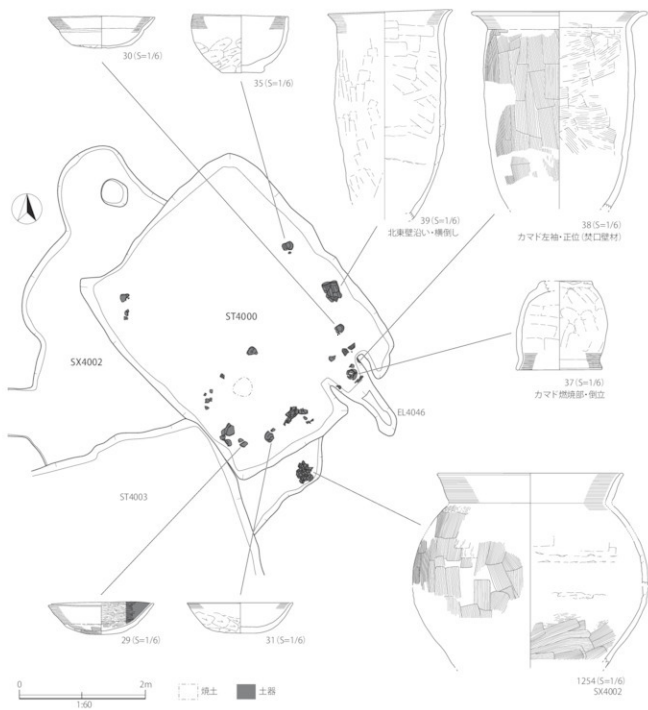
5 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む

6 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通

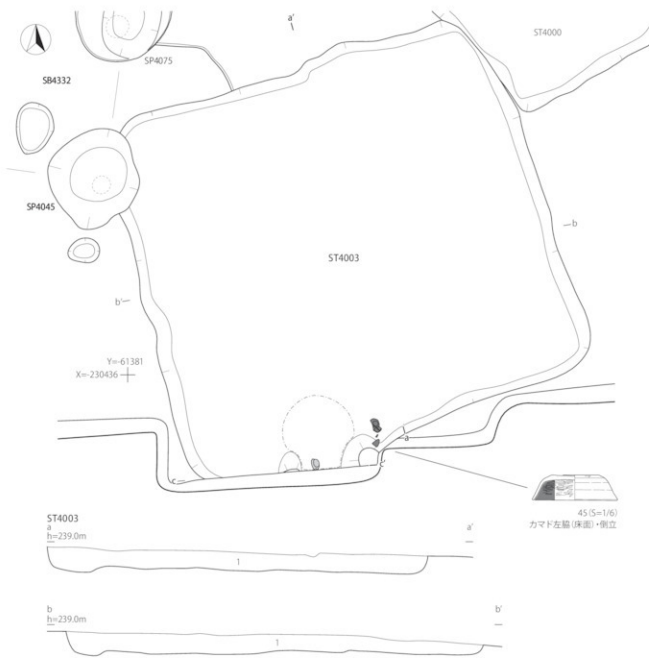
カマド EL4046 : c-c', d-d', e-e'

1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性強、しまり普通、粗砂を多く含む、5mm 大の炭をこくわずかに含む

2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む



第 79 図 竪穴建物 ST4000、性格不明遺構 SX4002 土層注記と遺物出土状況



竪穴建物 ST4003 : a - a', b - b'

1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む、5mm ~ 1cm の炭をごくわずかに含む

ST4003 カマド

c
h=239.3m



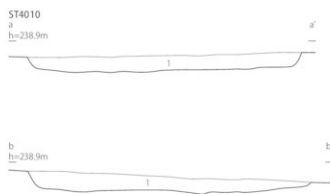
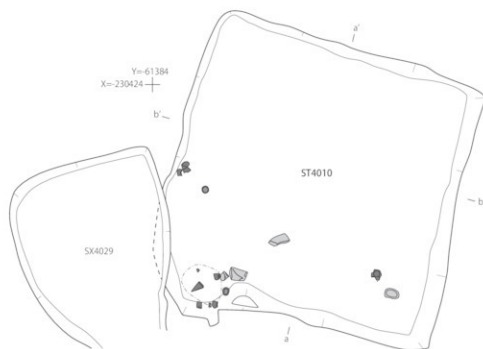
竪穴建物 ST4003 カマド : c - c'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、表土
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、遺物を含む
- 3 10YR3/3 暗褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通
- 4 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、炭と焼土をまだら状に多く含む
- 5 7.5YR3/1 黒褐色シルト、地山削り出しのカマド地、内面は 7.5YR4/4 褐色に赤化する
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂、地山削り出しのカマド地、部分的にやや赤化する
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む、5mm ~ 1cm 炭の炭をごくわずかに含む



□ 焼土 ■ 土器 ▨ 支脚石

第 80 図 竪穴建物 ST4003

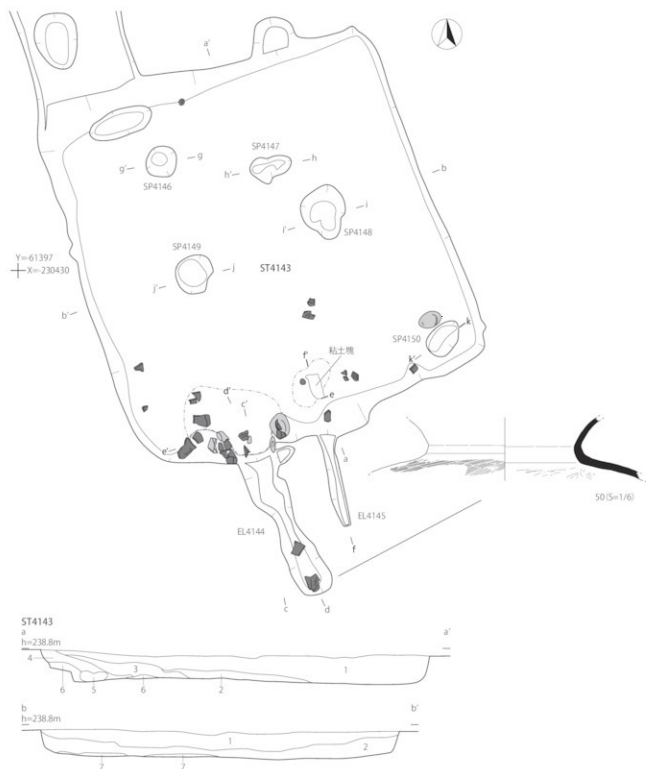


竪穴建物 ST4010 : a - a', b - b'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1 ~ 5mm 大の珪をごくわずかに含む、
10YR5/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に含む



第 81 図 竪穴建物 ST4010

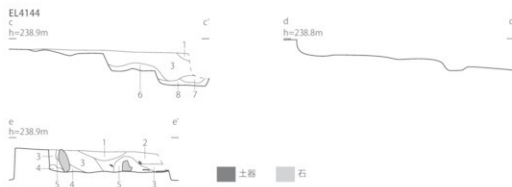


竪穴建物 ST4143 : a-a', b-b'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む、10YR6/2 灰黄褐色砂質シルトをまだら状に含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをブロック状または帯状に多く含む、10YR6/2 灰黄褐色砂質シルトブロックを含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを少し含む
- 4 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通
- 5 10YR7/2 にふい黄褐色粘土、しまり普通
- 6 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルト、10YR3/1 黒褐色シルトブロックを多く含む
- 7 10YR6/2 灰黄褐色細砂、粘性弱、しまり弱、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを多く含む



第 82 図 竪穴建物 ST4143



カマド EL4144 : c - c', d - d', e - e'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒を含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒を含む、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックをごくわずかに含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを少し含む
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR3/1 黒褐色シルトブロックを含む、炭を含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐色シルト、カマド軸の構築土
- 6 10YR4/2 灰黄褐色細砂、粘性弱、しまり弱
- 7 7.5YR4/2 灰褐色シルト、焼土
- 8 10YR4/2 灰黄褐色シルト、焼土ブロックと炭を含む



カマド EL4145 : f - f'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR5/3 にぶい黄褐色シルトブロックを多く含む
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土、10YR3/1 黒褐色粘土ブロックを多く含む



柱穴 SP4146 : g - g'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 にぶい黄褐色細砂ブロックを含む



柱穴 SP4147 : h - h'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭を含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルトを含む



柱穴 SP4148 : i - i'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルトを含む



柱穴 SP4149 : j - j'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、10YR6/3 にぶい黄褐色細砂ブロックを含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、10YR6/3 にぶい黄褐色細砂ブロックを多く含む

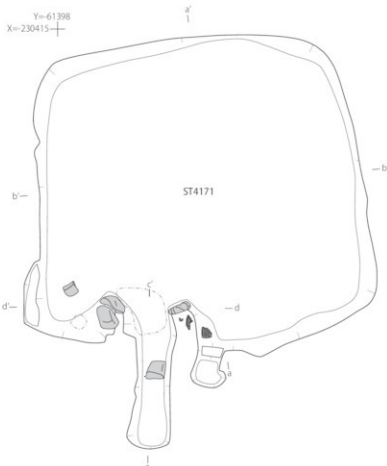


柱穴 SP4150 : k - k'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR6/2 にぶい黄褐色砂質シルトブロックを含む

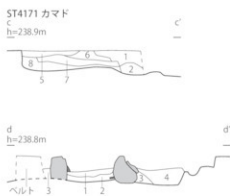


第 83 図 竪穴建物 ST4143 の付属遺構断面図



竪穴建物 ST4171 : a - a', b - b'

- 1 10YR3/1 黒褐色シルト、炭粒をごくわずかに含む、10YR5/4 に近い黄褐色シルトを含む
- 2 10YR5/4 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり強
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、炭粒をごくわずかに含む

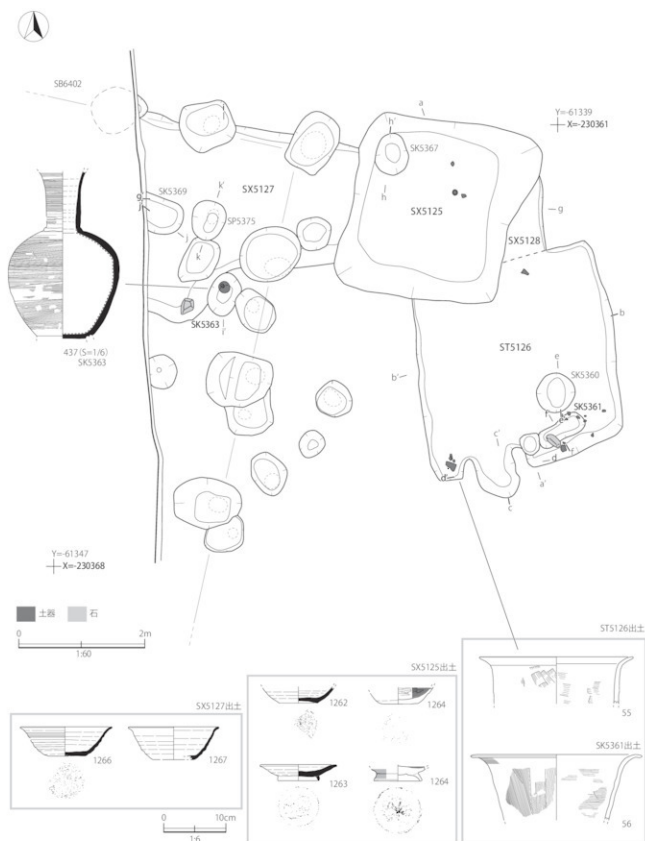


竪穴建物 ST4171 カマド : c - c', d - d'

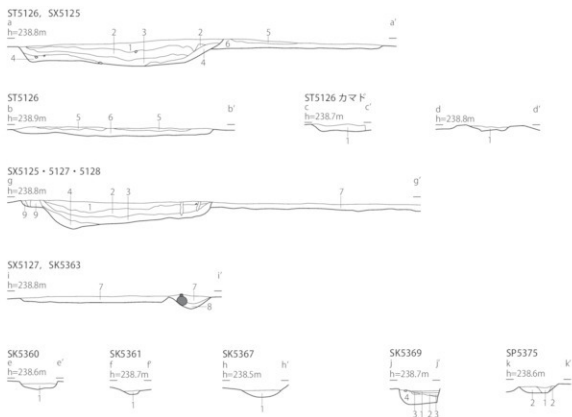
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを多く含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、焼上をまだら状に多く含む、炭を帯状に含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、カマド袖の構築上
- 4 10YR3/1 黒褐色シルト、炭粒をごくわずかに含む、10YR5/4 に近い黄褐色シルトを含む、ST4171 の1層と同じ
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを多く含む、炭を帯状に含む
- 6 10YR5/3 に近い黄褐色細砂、しまり弱、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを多く含む
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR5/3 に近い黄褐色細砂ブロックを含む、10YR3/1 黒褐色粘質シルトをまだら状に少し含む
- 8 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを含む



第 84 図 竪穴建物 ST4171



第85図 竪穴建物 ST5126、性格不明遺構 SX5125・5127・5128



竪穴建物 ST5126、性格不明遺構 SK5125・5127・5128、土坑 SK5363：a - a'、b - b'、g - g'、i - f'
 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm以下の炭粒を含む、以下4層までSK5125
 2 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト、粘性強、しまり普通、5mm以下の炭粒を少し含む
 3 10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm以下の炭粒を含む
 4 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト、粘性強、しまり普通、5mm以下の炭粒を含む
 5 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm以下の白色砂粒を含む、以下6層までST5126
 6 10YR3/2 黒褐色粘土質シルト、粘性強、しまり普通、5mm以下の炭粒を少し含む
 7 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、SK5127
 8 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm以下の焼土粒・炭粒を多く含む、SK5363
 9 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、SK5128

竪穴建物 ST5126 カマド：c - c'、d - d'
 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3cm以下の焼土粒・炭粒を非常に多く含む

土坑 SK5360：e - e'
 1 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト、粘性強、しまり普通

土坑 SK5361：f - f'
 1 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト、粘性強、しまり普通

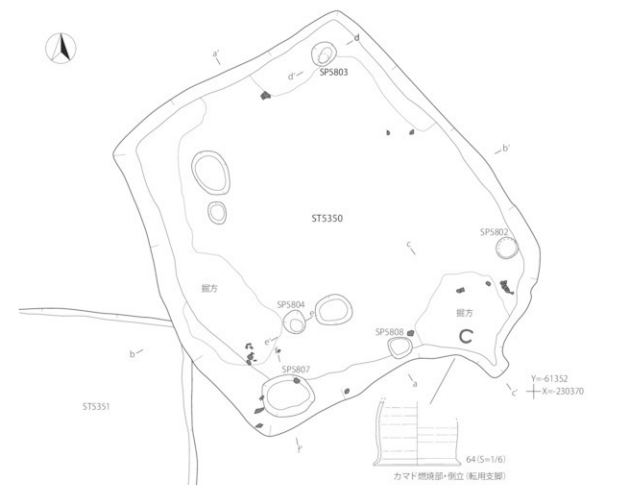
土坑 SK5367：h - h'
 1 2.5Y4/2 暗灰色粘土質シルト、粘性強、しまり強

土坑 SK5369：j - j'
 1 2.5Y3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm以下の炭粒を多く含む
 2 2.5Y3/2 暗灰色粘土質シルト、粘性強、しまり強、1cm以下の炭粒を少し含む
 3 2.5Y2/1 黒褐色粘土質シルト、粘性強、しまり強、1cm以下の炭粒を多く含む
 4 2.5Y4/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm以下の炭粒を少し含む

柱穴 SP5375：k - k'
 1 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト、粘性普通、しまり普通
 2 2.5Y4/2 暗灰色粘土質シルト、粘性普通、しまり普通



第 86 図 竪穴建物 ST5126、性格不明遺構 SK5125・5127・5128 断面図



ST5350



ST5350 カマド



SP5803



SP5804



SP5807



竈穴建物 ST5350 : a - a', b - b', c - c'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強。7.5YR7/6 褐色シルトをまだら状に含む、以下7層まで覆上
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通。3mm 大の炭をごくわずかに含む
- 3 2.5Y4/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり強
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強。3 ~ 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR7/4 に赤・褐色シルトブロックを少し含む
- 6 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強。1 ~ 2mm 大の炭をごくわずかに含む
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強。焼土ブロックを含む、カマド覆上
- 8 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通。1cm 以下の焼土粒を含む、カマド面方
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、粘性普通、しまり弱、面方

柱穴 SP5803 : d - d'

- 1 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、粘性普通、しまり普通

柱穴 SP5807 : f - f'

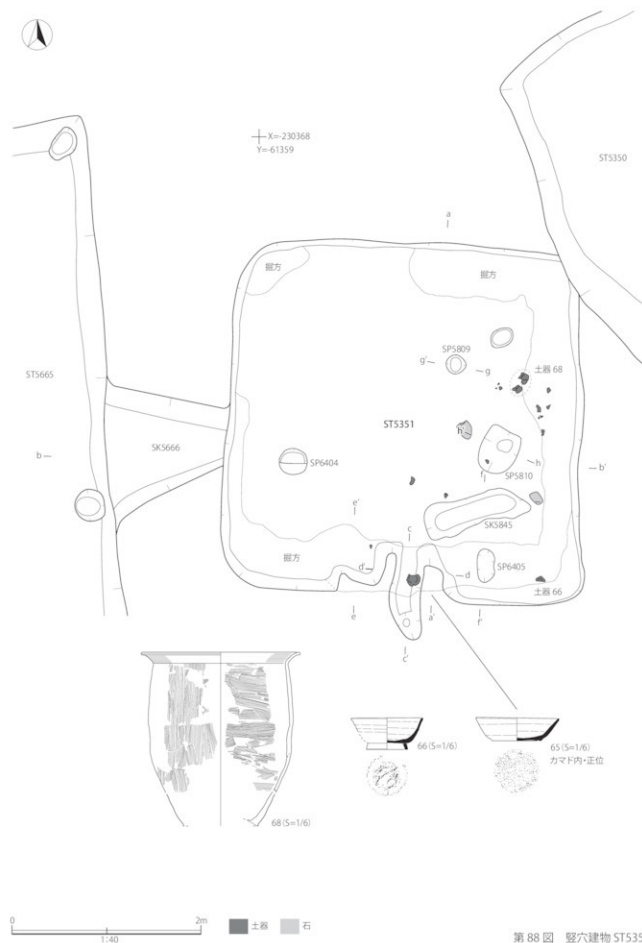
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通。炭粒を少し含む

柱穴 SP5804 : e - e'

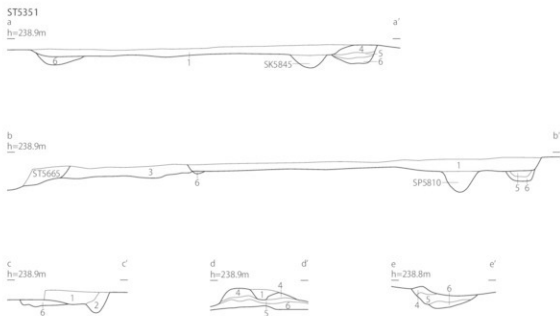
- 1 2.5Y4/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通



第 87 図 竈穴建物 ST5350



第 88 図 竪穴建物 ST5351



竪穴建物 ST5351 : a - a' ~ e - e'

- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の焼土粒・炭粒を含む、以下3層まで覆土
- 10YR2/3 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、1cm 以下の焼土粒・炭粒を含む
- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり強、1cm 以下の炭粒を少し含む、SK5666
- 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、3 ~ 5mm 大の炭をごくわずかに含む、カマド構築土
- 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、以下無方
- 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、2.5Y4/2 暗灰黄色細砂ブロックを多く含む



土坑 SK5845, ビット SP6405 : f - f'

- 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、焼土粒をごくわずかに含む、SK5845
- 7.5YR4/2 灰褐色シルト、粘性普通、しまり普通、焼土を含む、SP6405
- 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、2.5Y4/2 暗灰黄色細砂ブロックを多く含む、ST5351 掘方



柱穴 SP5809 : g - g'

- 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通

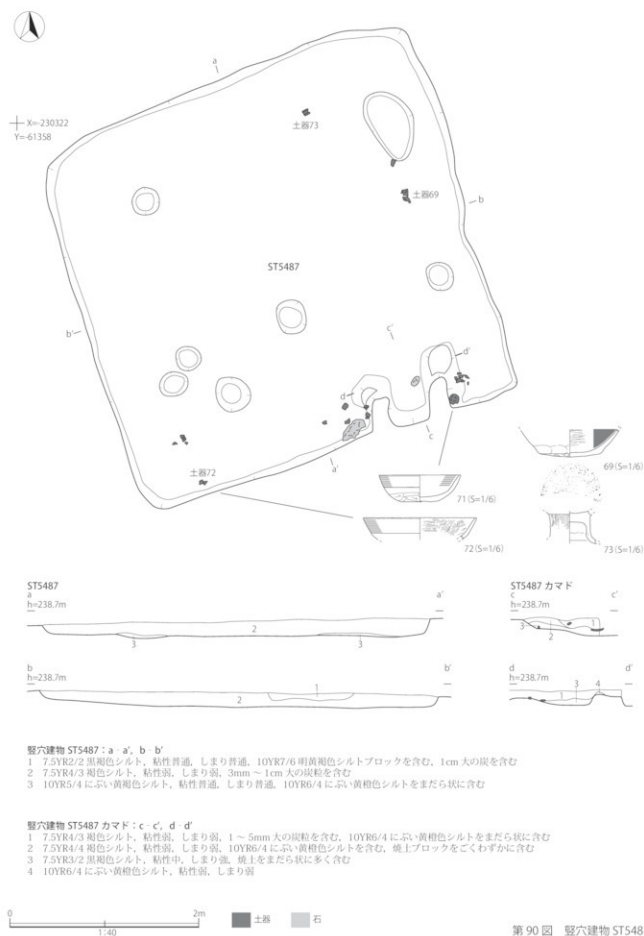


柱穴 SP5810 : h - h'

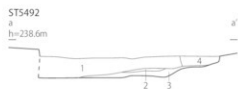
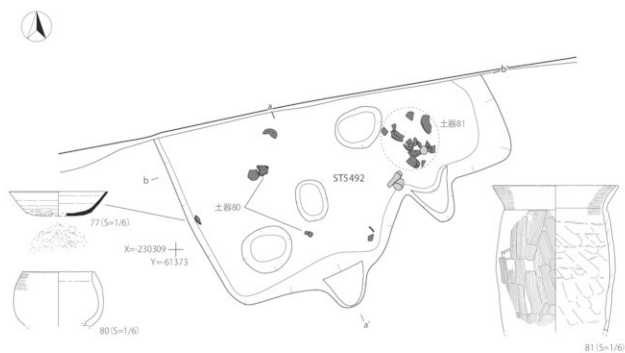
- 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり弱、2.5Y5/3 黄褐色砂質シルトを部分的に含む



第 89 図 竪穴建物 ST5351 断面図



第90図 竪穴建物 ST5487

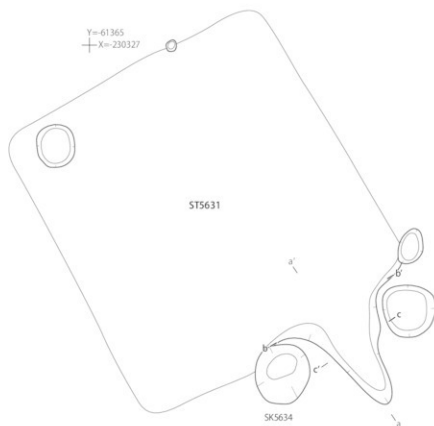


壁穴建物 ST5492 : a - a', b - b'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強。10YR4/1 褐灰色粘質シルトと 10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルトをブロックで含む
- 2 10YR1/2 黒色シルト、粘性普通、しまり普通、炭を含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを多く含む
- 4 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、5mm 大の炭を含む、10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルトをまだら状にし含む



第 91 回 壁穴建物 ST5492



ST5631 カマド

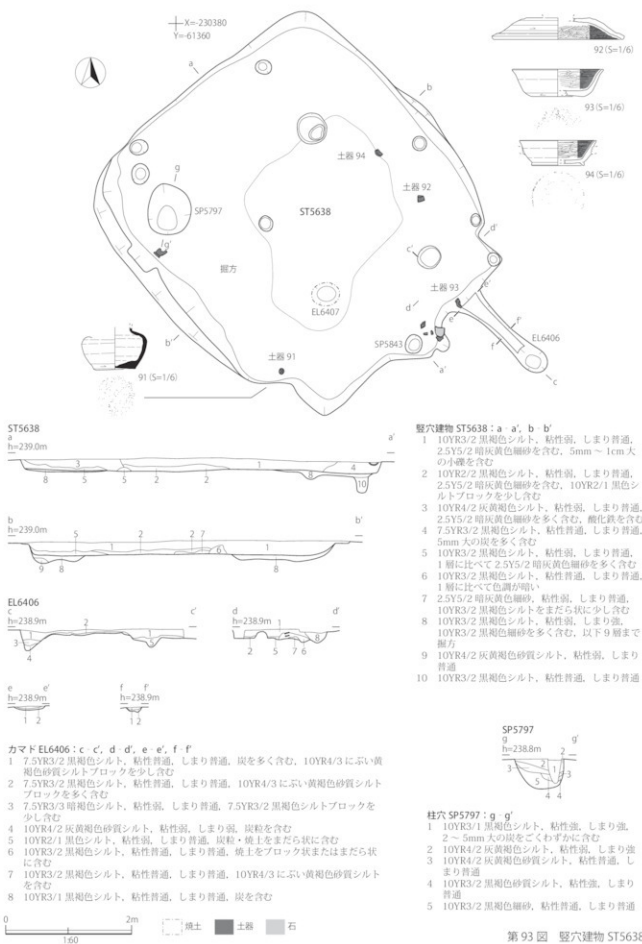


竪穴建物 ST5631 カマド

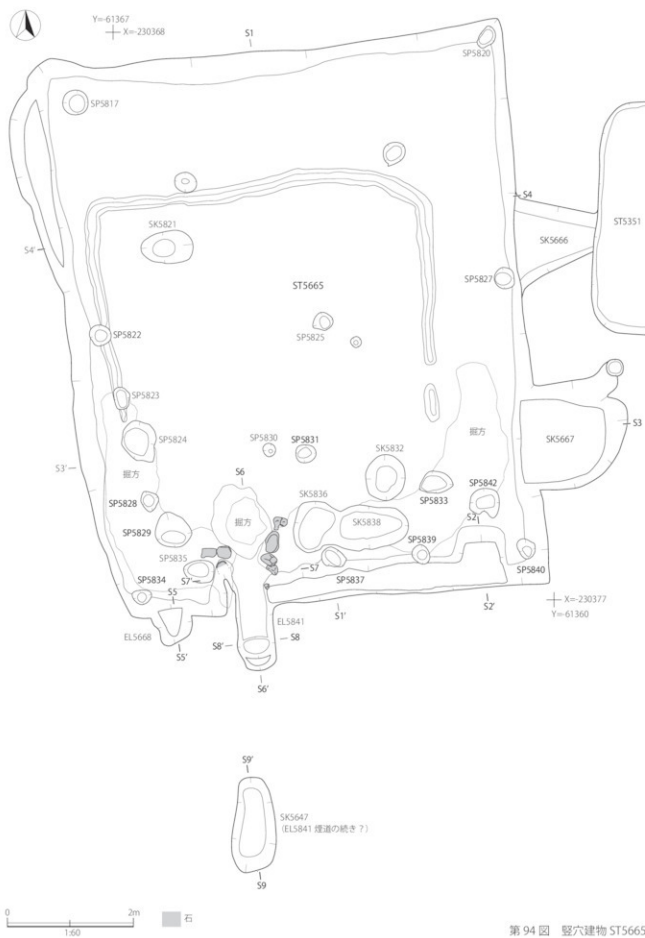
- 1 5YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR5/6 明褐色焼土をまだら状に多く含む、炭を含む
- 2 7.5YR3/1 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、炭を多く含む、焼土ブロックを含む
- 3 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、4層をブロック状に含む
- 4 10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、7.5YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に少し含む
- 5 5YR3/2 暗赤褐色シルト、粘性弱、しまり強、部分的に 5YR5/6 明赤褐色を呈する

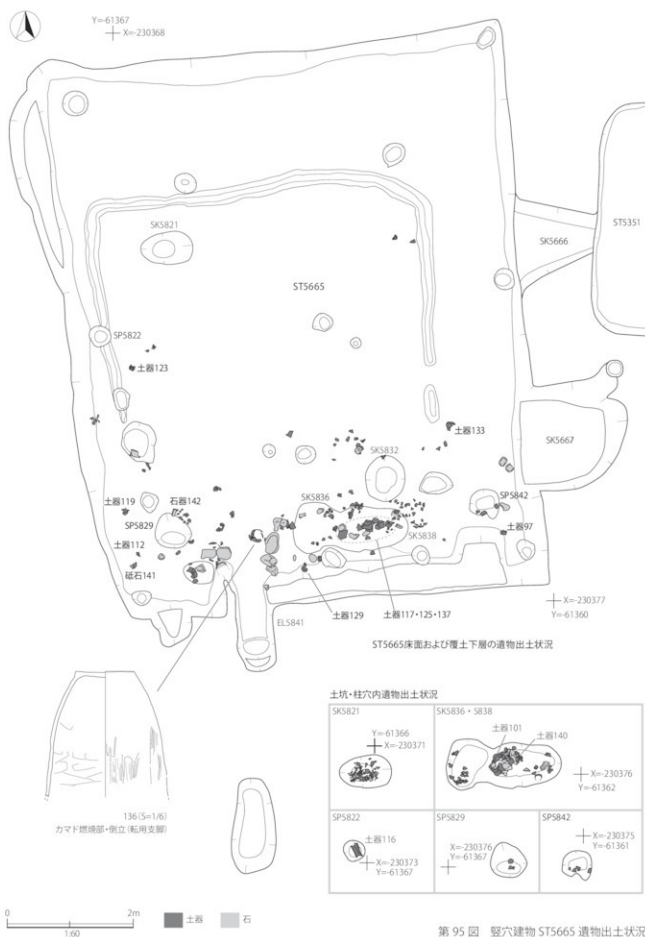


第 92 図 竪穴建物 ST5631

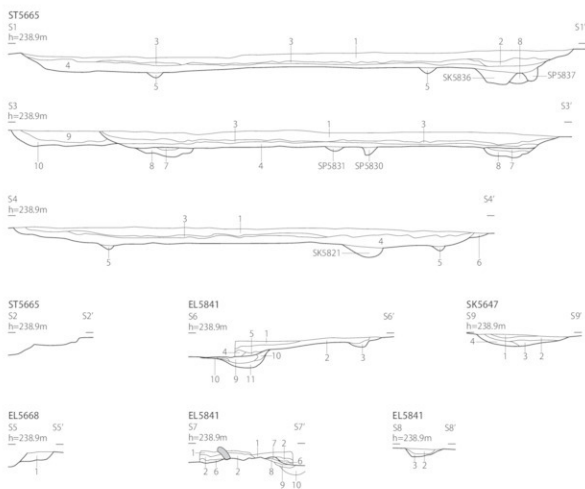


第 93 図 竪穴建物 ST5638





第 95 図 竪穴建物 ST5665 遺物出土状況



竪穴建物 ST5665 : S1 - S1', S2 - S2', S3 - S3', S4 - S4'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 2.5Y5/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 以下の炭粒を少し含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 以下の炭粒を含む
- 4 2.5Y5/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 以下の焼土粒と 1cm 以下の炭粒を含む
- 5 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、2.5Y4/1 黄灰色シルトを非常に多く含む、人為増積
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり強
- 7 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト、粘性強、しまり普通、以下 8 層まで掘方
- 8 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、粘性普通、しまり普通
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、以下 SK5667
- 10 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト、粘性強、しまり普通

カマド ELS668 : S5 - S5'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の焼土粒と 5mm 以下の炭粒を含む

カマド ELS841 : S6 - S6', S7 - S7', S8 - S8'

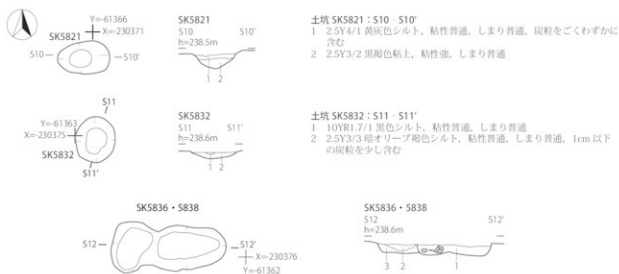
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3cm 以下の焼土粒と 1cm 以下の炭粒を多く含む
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 4 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト、粘性強、しまり弱、1cm 以下の焼土粒を含む
- 5 7.5YR4/6 褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 以下の焼土粒と炭粒を含む
- 6 2.5Y5/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 以下の焼土粒と 1cm 以下の炭粒を含む
- 7 2.5Y6/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり強、以下 8 層までカマド構築上
- 8 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり強
- 9 7.5YR5/6 明褐色シルト、粘性弱、しまり普通、以下掘方
- 10 7.5YR5/3 に近い褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通
- 11 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、粘性普通、しまり普通

土坑 SK5647 (ELS841 埋道の続き?) : S9 - S9'

- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト、粘性弱、しまり強
- 2 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト、粘性普通、しまり強、3mm 大の炭をごくわずかに含む
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、5YR5/8 明赤褐色シルトを帯状に含む
- 4 2.5Y2/1 黒色砂質シルト、粘性普通、しまり普通



第 96 図 竪穴建物 ST5665 断面図



土坑 SKS821 : S10 - S10'

- 2.5Y4/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む
- 2.5Y3/2 黒褐色粘土、粘性強、しまり普通

土坑 SKS832 : S11 - S11'

- 10YR1.7/1 黒色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm以下の炭粒を少し含む

土坑 SKS836・838 : S12 - S12'

- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm以下の焼土粒と炭粒を多く含む、SK5838
- 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、以下SK5836
- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP5817 : S13 - S13'

- 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通

柱穴 SP5820 : S14 - S14'

- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP5822 : S15 - S15'

- 2.5Y4/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通

柱穴 SP5823 : S16 - S16'

- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通

柱穴 SP5824 : S17 - S17'

- 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂、粘性弱、しまり弱

柱穴 SP5825 : S18 - S18'

- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP5827 : S19 - S19'

- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通



第 97 図 竪穴建物 ST5665 付属遺構断面図 (1)



柱穴 SP5828 : 520 - 520'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒と焼土粒を含む
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP5829 : 521 - 521'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒と焼土粒を含む
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通



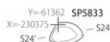
柱穴 SP5830 : 522 - 522'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm以下の炭粒をごくわずかに含む



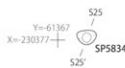
柱穴 SP5831 : 523 - 523'

- 1 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm以下の2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト粒を少し含む



柱穴 SP5833 : 524 - 524'

- 1 10YR4/2 灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm以下の焼土粒を含む



柱穴 SP5834 : 525 - 525'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通



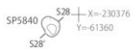
柱穴 SP5835 : 526 - 526'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP5839 : 527 - 527'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通



柱穴 SP5840 : 528 - 528'

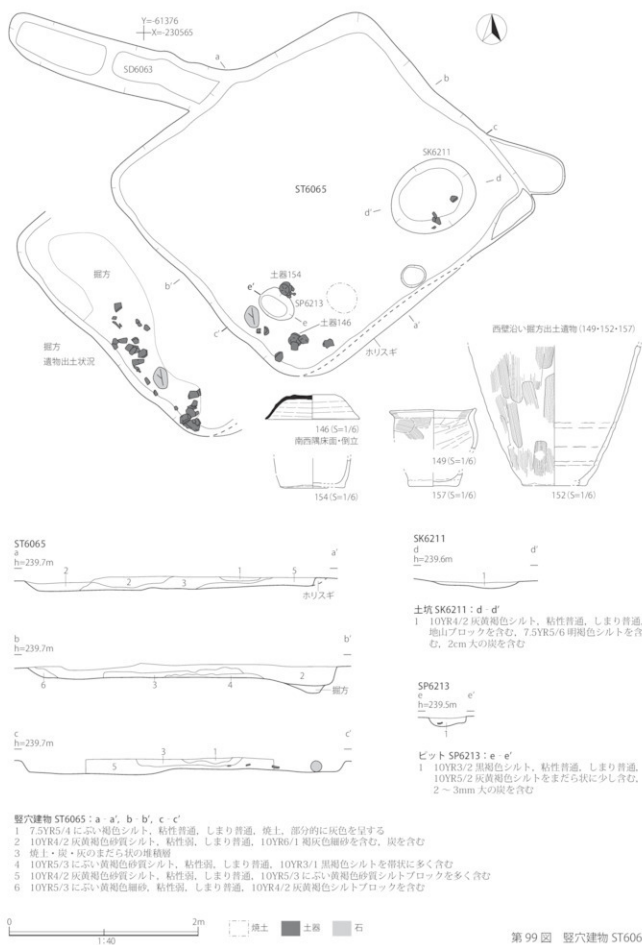
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通



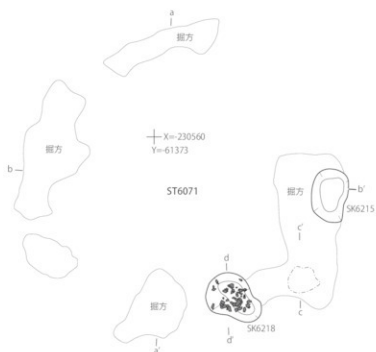
柱穴 SP5842 : 529 - 529'

- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、焼土粒を少し含む





第 99 図 壁穴建物 ST6065

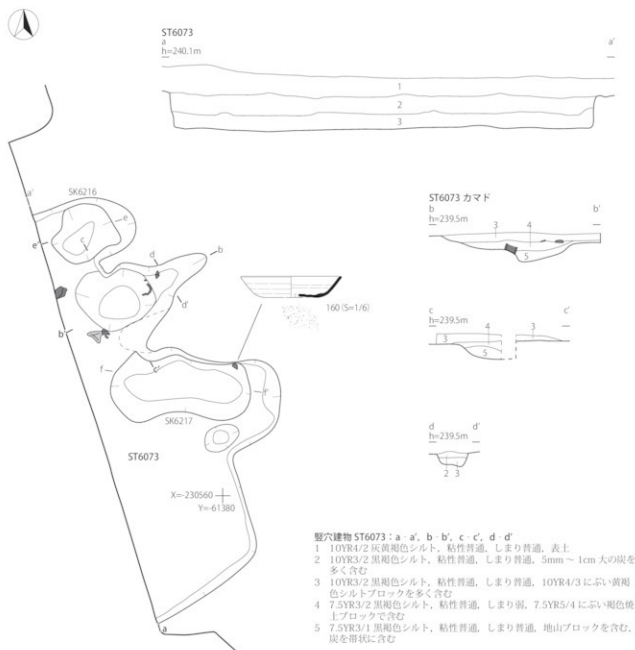


竪穴建物 ST6071 : a - a', b - b', c - c'

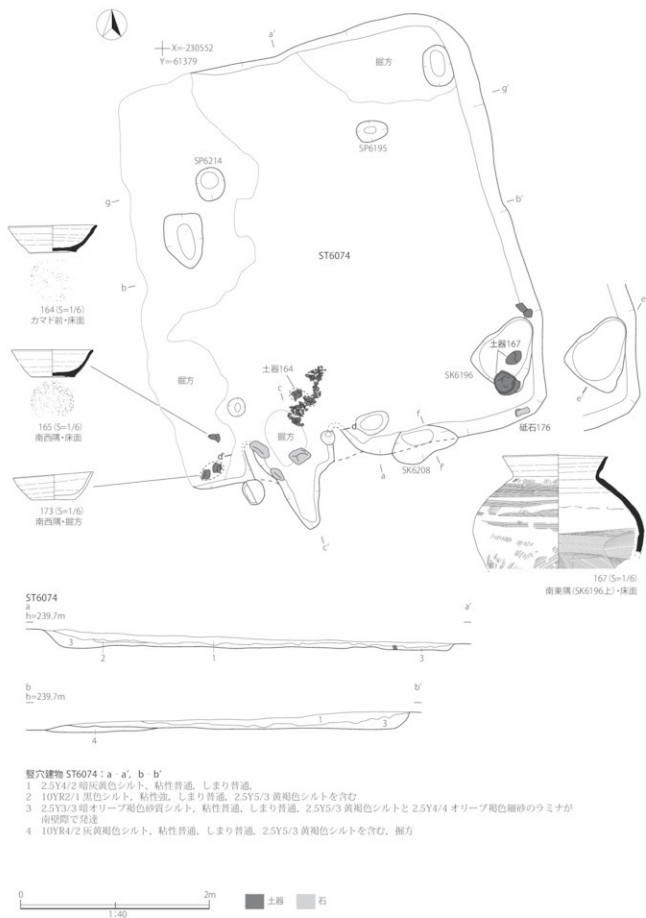
- 1 7.5YR4/4 褐色シルト、粘性普通、しまり強、2 層の粘土化
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトを含む、掘方
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、粘性普通、しまり強、SK6215



第 100 図 竪穴建物 ST6071

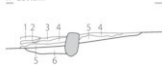


第101図 竪穴建物 ST6073

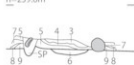


第 102 図 竪穴建物 ST6074

ST6074 カマド

c
h=239.6m

ST6074 カマド

d
h=239.6m

石

竪穴建物 ST6074 カマド：c-c, d-d

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト，粘性普通，しまり普通
- 2 2.5Y3/2 黒褐色シルト，粘性普通，しまり普通
- 3 2.5Y5/3 黄褐色シルト，粘性普通，しまり普通
- 4 7.5YR4/4 褐色シルト，粘性普通，しまり普通，2～5mm 大の焼土粒を含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト，粘性強，しまり普通，2～5mm 大の焼土粒を含む
- 6 7.5YR4/3 褐色砂質シルト，粘性普通，しまり普通，2～5mm 大の焼土粒・炭を少し含む
- 7 2.5Y6/3 に近い黄色シルト，粘性普通，しまり普通，以下9層までカマド焼燼土
- 8 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト，粘性強，しまり強
- 9 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト，粘性普通，しまり普通

SK6196

e
h=239.8m

土坑 SK6196：e-e'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト，粘性普通，しまり普通
- 2 7.5YR3/2 黒褐色シルト，粘性強，しまり普通，1mm～1cm 大の焼土ブロック・炭を多く含む

SK6208

f
h=239.7m

土坑 SK6208：f-f'

- 1 10YR4/3 に近い黄褐色シルト，粘性普通，しまり普通
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質シルト，粘性強，しまり普通

SP6195・6214

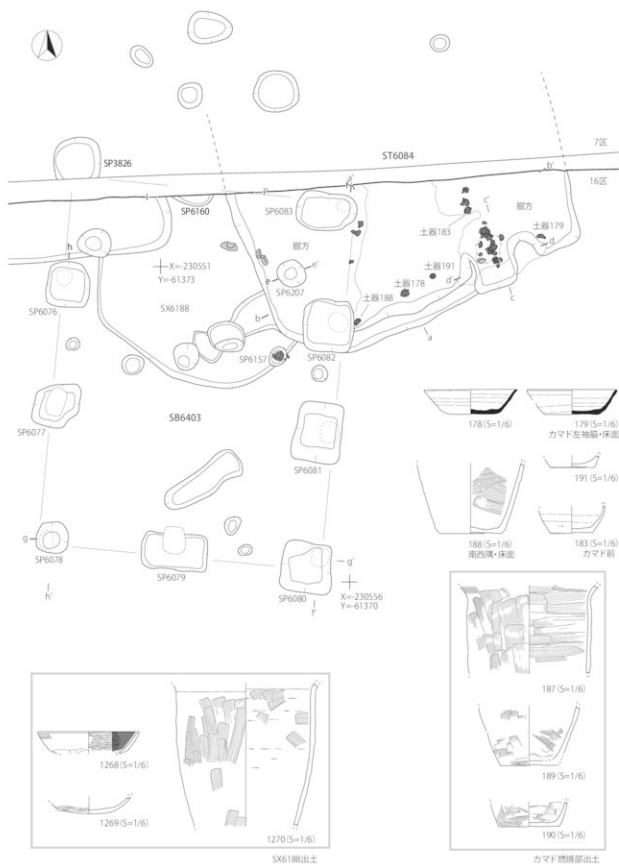
g
h=239.7m

柱穴 SP6195・6214：g-g'

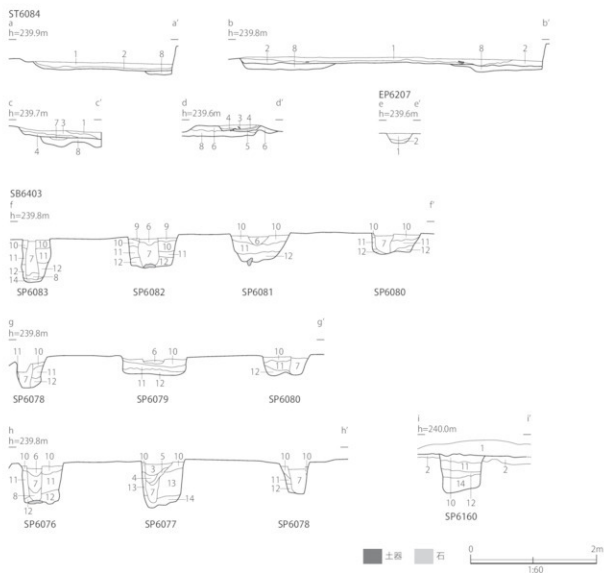
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト，粘性普通，しまり普通，10YR5/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に含む



第 103 図 竪穴建物 ST6074 付属遺構断面図



第 104 図 竪穴建物 ST6084, 掘立柱建物 SB6403, 性格不明遺構 SX6188



竪穴建物 ST6084 : a - a', b - b', c - c', d - d'

- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2～5mm 大の地山シルト粒・炭化物粒を含む
- 2.5Y3/1 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通
- 2.5Y5/3 黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1～2mm 大の焼土粒・炭化物粒を少し含む、カマド天井部崩落土
- 7.5YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり強、2mm～1cm 大の焼土粒・炭化物粒を多く含む
- 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2mm～1cm 大の焼土粒・炭化物粒を含む
- 2.5Y4/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通、カマド土層崩壊土
- 7.5YR4/4 褐色シルト、粘性普通、しまり普通、8 層の焼土化
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり強、地山を非常に多く含む、掘方

柱穴 EP6207 : e - e'

- 2.5Y4/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通、地山塊を含む
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、地山塊を非常に多く含む

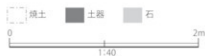
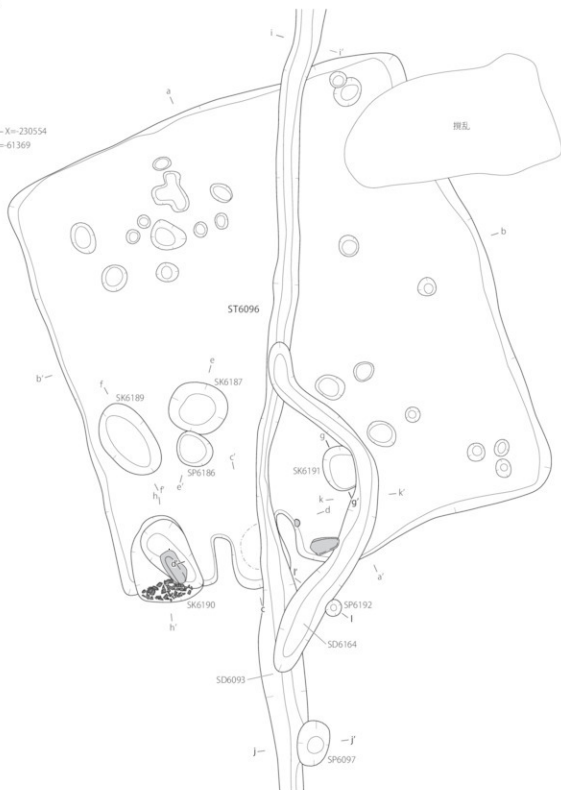
掘立柱建物 SB6403 : f - f', g - g', h - h', i - i'

- 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、表土
- 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、地山薄層積
- 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、以下 5 層まで柱抜き取り崩
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 10YR4/1 褐灰色粘土、粘性強、しまり強
- 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、以下 8 層まで柱痕
- 2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト、粘性強、しまり普通
- 10YR1.7/1 黒色粘土質シルト、粘性強、しまり強
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2.5Y5/3 黄褐色シルトブロックを少し含む
- 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり強、2.5Y5/3 黄褐色シルトブロックを含む
- 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、2.5Y5/3 黄褐色シルトブロックを多く含む
- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性強、しまり強、2.5Y5/3 黄褐色シルトブロックを含む
- 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、2.5Y5/3 黄褐色シルトブロックを含む
- 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト、粘性普通、しまり普通

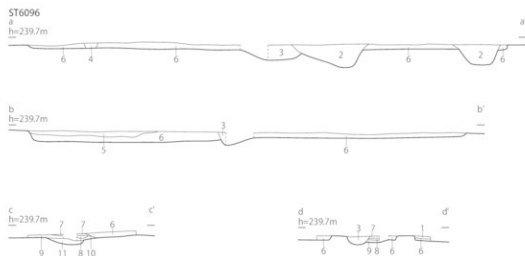
第 105 図 竪穴建物 ST6084、掘立柱建物 SB6403 断面図



\times X=230554
 Y=61369



第 106 图 竖穴建物 ST6096、溝 SD6093・6164、土坑 SK6190



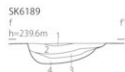
竪穴建物ST6096：a - a'、b - b'、c - c'、d - d'

- 1 2.5Y4/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり強
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、SD6164
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR4/6 褐色シルトをまだら状に含む、SD6093
- 4 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、7.5YR4/6 褐色シルトをまだら状に含む
- 6 2.5Y4/2 暗灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5層の土をまだら状に含む
- 7 7.5YR3/1 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、1cm 大の炭ブロックを含む
- 8 7.5YR5/6 明褐色シルト、粘性強、しまり普通
- 9 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通
- 10 7.5YR4/4 褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3mm 大の炭をごくわずかに含む
- 11 7.5YR3/4 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 に近い黄褐色シルトをまだら状に含む、3cm 大の炭を含む



柱穴 SP6186、土坑 SK6187：e - e'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色砂質シルトブロックを含む、7.5YR5/6 明褐色シルトを含む、1cm 大の炭を含む、SK6186
- 2 10YR5/8 明赤褐色シルト、粘性普通、しまり普通、以下 SK6187
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む



土坑 SK6189：f - f'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR5/6 明褐色シルトブロックを含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、5YR5/8 明赤褐色シルトを帯状に含む、2cm 大の炭を含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性強、しまり普通、2cm 大の炭を含む、2.5Y5/2 暗灰黄褐色シルトブロックを含む



土坑 SK6191：g - g'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、10YR4/2 灰黄褐色砂質シルトをまだら状に含む、7.5YR5/6 明褐色シルトをまだら状に含む、1 ~ 2cm 大の炭を含む





土坑 SK6190 : h - h'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、2.5Y5/3 黄褐色シルトをまだら状に含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR2/1 黒色シルトブロックを含む、1cm 大の炭を含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通



溝 SD6093, 柱穴 SP6097 : i - i', j - j'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR4/6 褐色シルトをまだら状に含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、地山ブロックを多く含む、SP6097



溝 SD6164 : k - k'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5 層の上をまだら状に含む、SP6096

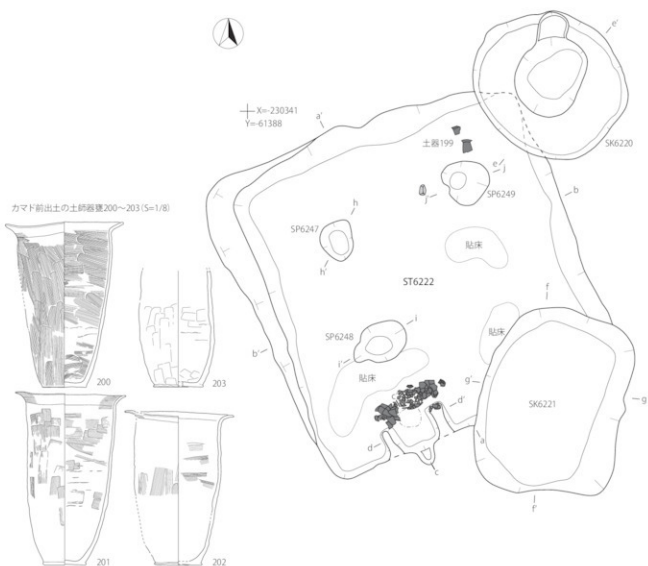


溝 SD6164, 柱穴 SP6192 : l - l'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、地山シルトをまだら状に含む、SP6192
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強



第 108 図 溝 SD6093・6164、土坑 SK6190 断面図



ST6222

a h=238.9m



c h=238.9m



b h=238.9m



d h=238.9m



竪穴建物 ST6222 : a - a', b - b', c - c', d - d'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm ~ 1cm 大の炭を含む、焼土をまだら状にごくわずかに含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭と 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックと 10YR2/2 黒褐色粘質シルトブロックを非常に多く含む
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを多く含む
- 5 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR5/6 明褐色焼土をまだら状に含む

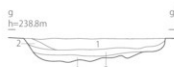


第 109 図 竪穴建物 ST6222, 土坑 SK6220・6221



土坑 SK6220 : e - e'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm ~ 1cm 大の炭を少し含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性強、しまり普通、5mm ~ 1cm 大の炭を少し含む、10YR4/3 にふい黄褐色シルトをまだら状に多く含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性強、しまり弱、5mm ~ 1cm 大の炭を少し含む



土坑 SK6221 : f - f', g - g'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭を含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭を含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、10YR2/1 黒色シルトと炭を帯状に含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり弱、10YR4/3 にふい黄褐色シルトブロックを多く含む、炭を含む



柱穴 SP6247 : h - h'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルトと 10YR5/3 にふい黄褐色シルトの粗乱層
- 2 10YR2/1 黒色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色シルトブロックを含む
- 3 10YR5/3 にふい黄褐色シルト、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む



柱穴 SP6248 : i - i'

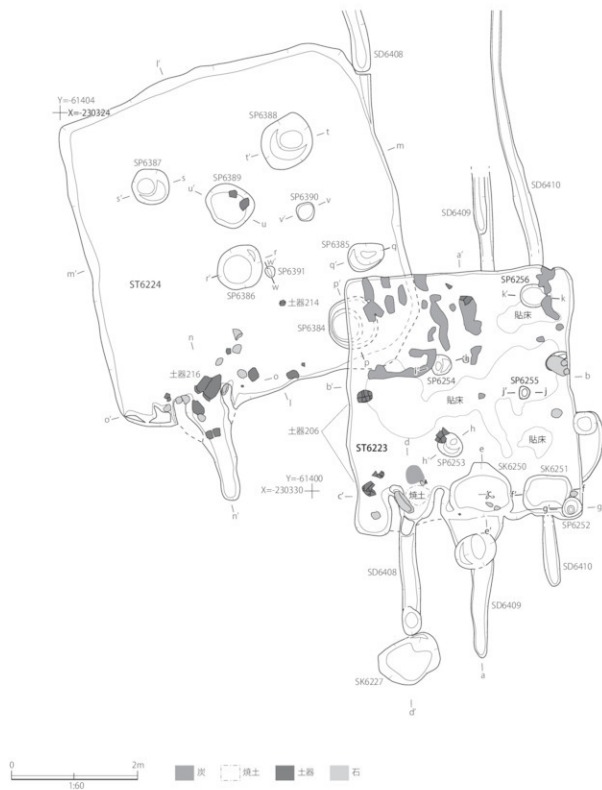
- 1 10YR4/3 にふい黄褐色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色シルトをまだら状に少し含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト、炭を含む
- 3 10YR5/3 にふい黄褐色シルト、10YR3/3 暗褐色シルトブロックを少し含む



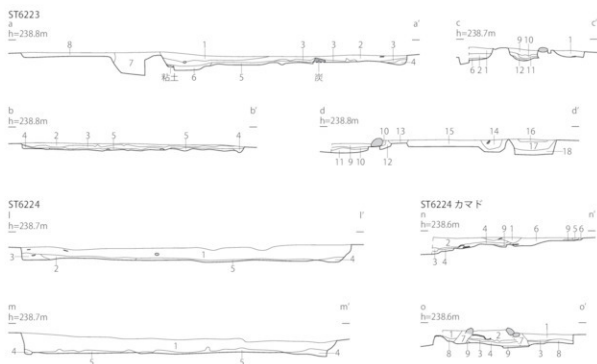
柱穴 SP6249 : j - j'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR3/2 黒褐色シルトと 10YR5/3 にふい黄褐色シルトのブロックを含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色シルトブロックを少し含む
- 3 10YR2/1 黒色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色シルトをまだら状に少し含む





第 111 図 竪穴建物 ST6223・6224



竪穴建物 ST6223 : a-a', b-b', c-c', d-d'

- 2.5Y5/3 黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1~3mm 大の炭を少し含む
- 2.5Y3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1~5mm 大の炭を含む、焼土粒を少し含む
- 2.5Y2/1 黒色シルト、しまり強、5mm~1cm 大の炭を含む、焼土ブロックを帯状に含む
- 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト、しまり強、1~3mm 大の地山ブロックをごくわずかに含む、1~2cm 大の礫を少し含む
- 2.5Y7/2 灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり強、粘土層
- 2.5Y3/3 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり強、1~5mm 大の炭を含む、SK6250
- 10YR3/3 暗褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、2~5mm 大の地山ブロックを少し含む
- 2.5Y3/3 黄褐色シルト、しまり普通、1~5mm 大の炭を少し含む、SD6409
- 10YR4/2 灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、炭を多く含む、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む、以下 15 層までカマド
- 10YR4/2 灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、ほぼ純層
- 10YR4/2 灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、炭を帯状に含む、焼土をまだら状にごくわずかに含む、地山ブロックを含む
- 7.5YR2/2 黒褐色粘土、粘性強、しまり普通、横壁で内側は赤化する
- 10YR4/2 灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR2/3 暗褐色シルトブロックを含む、炭を含む
- 10YR4/2 灰黄色粘質シルト、粘性強、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に含む、炭を含む
- 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状にごくわずかに含む、炭を含む
- 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR5/2 灰褐色土をまだら状にごくわずかに含む、以下 SK6227
- 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトブロックを少し含む
- 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを多く含む

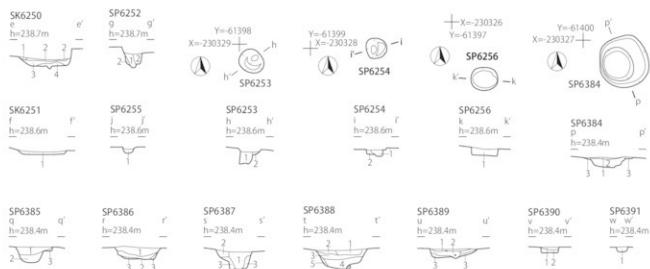
竪穴建物 ST6224 : l-l', m-m'

- 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm~1cm 大の地山ブロックと炭をまだら状にごくわずかに含む
- 10YR2/1 黒色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、2~5mm 大の炭を帯状にごくわずかに含む、2mm~1cm 大の焼土ブロックをごくわずかに含む
- 10YR3/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、2~5mm 大の黒褐色シルトブロックをごくわずかに含む
- 10YR4/2 灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり強、1cm 大の地山ブロックをごくわずかに含む、壁際に堆積する
- 10YR7/5 に近い黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり強、2~5mm 大の炭をごくわずかに含む、下層に灰白色粘土を帯状に少し含む、床面上層

竪穴建物 ST6224 カマド : n-n', o-o'

- 10YR3/2 灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の炭をごくわずかに含む、5mm 大の地山ブロックをまだら状にごくわずかに含む
- 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、炭と焼土ブロックの混合層
- 10YR2/1 黒色粘質シルト、粘性弱、しまり強、炭層、1cm 大の焼土ブロックを含む
- 7.5YR4/3 灰黄色粘質シルト、粘性弱、しまり強、1cm 大の炭と焼土ブロックの混合層、焼土直上層
- 7.5YR2/1 黒色粘質シルト、粘性弱、しまり中、5mm 大の炭を含む、焼土直上層
- 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、炭粒をまだら状に含む、煙道埋土
- 7.5YR3/2 灰褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、礫粒をごくわずかに含む、カマド床面
- 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、1cm 大の地山ブロックをまだら状に少し含む、焼土粒をごくわずかに含む
- 5YR5/3 に近い赤褐色シルト、粘性弱、しまり強、5mm 大の焼土ブロックをごくわずかに含む、横壁面





土坑 SK6250 : e - e'

- 1 10YR2/2 黒色シルト、粘性弱、しまり普通、2～5mm 大の炭を含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、白色粘土をまだら状に含む
- 3 10YR3/3 暗褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、1～2mm 大の炭を少し含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、1～2mm 大の炭をごくわずかに含む

土坑 SK6251 : f - f'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、1～2mm 大の地山ブロックを少し含む、柱痕

柱穴 SP6252 : g - g'

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、1～2mm 大の炭を少し含む、柱痕
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、2～5mm 大の地山ブロックを含む

柱穴 SP6253 : h - h'

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1～2mm 大の炭を少し含む、柱痕
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、2～5mm 大の地山ブロックをごくわずかに含む

柱穴 SP6254 : i - i'

- 1 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、1～5mm 大の炭を少し含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、2～5mm 大の地山ブロックをごくわずかに含む

柱穴 SP6255 : j - j'

- 1 10YR3/3 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、礫粒を少し含む

柱穴 SP6256 : k - k'

- 1 10YR2/1 黒色粘質シルト、粘性普通、しまり弱、2～5mm 大の炭をごくわずかに含む

柱穴 SP6384 : p - p'

- 1 10YR8/3 浅黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通、炭・焼土粒・白色粘土をごくわずかに含む
- 2 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト、粘性強、しまり強、炭・焼土ブロック・白色粘土を少し含む
- 3 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり強

柱穴 SP6385 : q - q'

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の炭をまだら状に少し含む
- 2 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、礫粒をまだら状に含む
- 3 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり強

柱穴 SP6386 : r - r'

- 1 10YR6/3 浅黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通、炭と焼土粒を少し含む
- 2 7.5YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり強、1cm 大の炭をごくわずかに含む、1cm 大の焼土ブロックを少し含む
- 3 10YR7/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり強

柱穴 SP6387 : s - s'

- 1 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通、5mm 大の炭を少し含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の地山ブロックをごくわずかに含む
- 3 10YR5/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり強、1cm 大の地山ブロックを含む

柱穴 SP6388 : t - t'

- 1 10YR7/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通、礫粒を少し含む
- 2 10YR3/3 暗褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通、1cm 大の地山ブロックを少し含む
- 3 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性強、しまり強、5mm 大の 10YR3/1 黒褐色粘土をごくわずかに含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり強、10YR4/1 褐色粘質シルトをまだら状に含む、3cm 大の礫を少し含む
- 5 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、地山層移行

柱穴 SP6389 : u - u'

- 1 10YR8/3 浅黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通、5mm 大の炭と焼土粒を少し含む、10YR8/2 灰白色粘土をごくわずかに含む
- 2 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト、粘性強、しまり強、1cm 大の焼土ブロックを含む、1cm 大の炭をごくわずかに含む
- 3 10YR7/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強

柱穴 SP6390 : v - v'

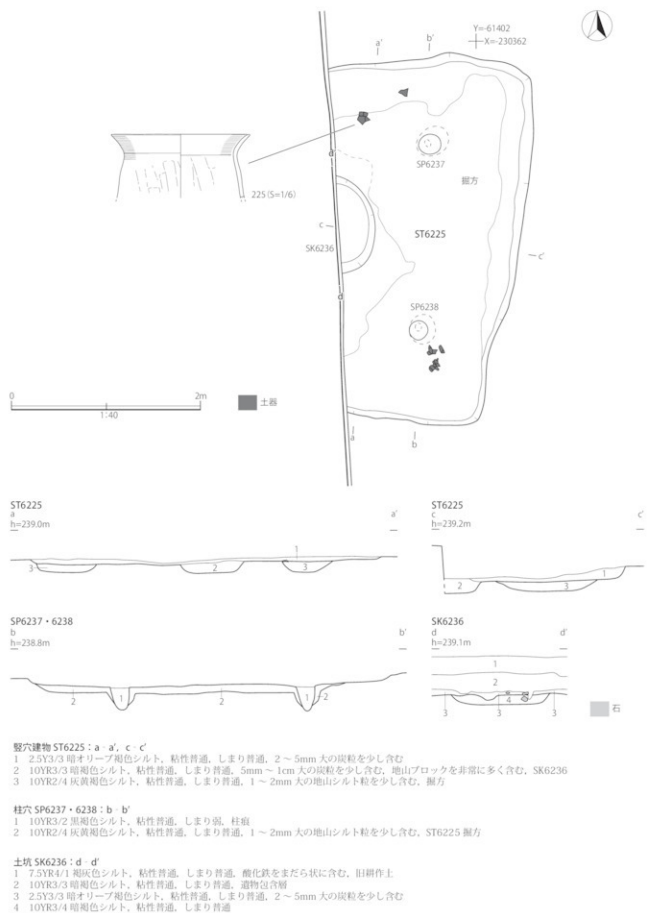
- 1 10YR6/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 2 10YR7/4 に近い黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、地山層移行

柱穴 SP6391 : w - w'

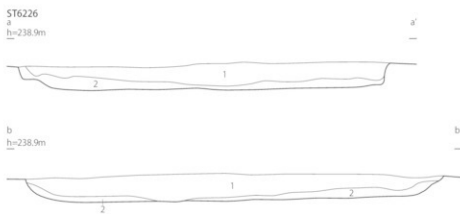
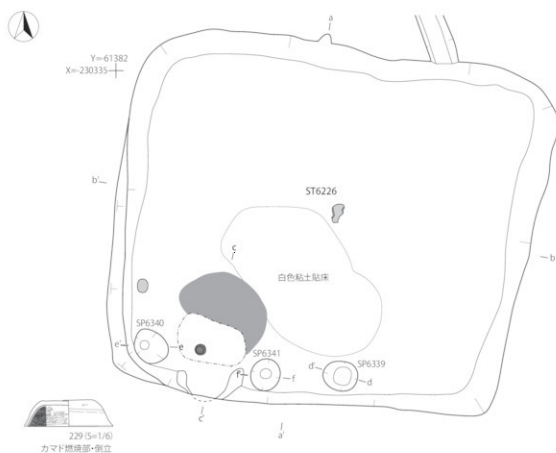
- 1 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト、粘性普通、しまり強、5mm 大の炭と焼土ブロックを含む



第 113 図 堅穴建物 ST6223・6224 付属遺構断面図



第 114 図 竪穴建物 ST6225

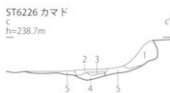


竪穴建物 ST6226 : a - a', b - b'

- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2～5mm 大の炭粒を少し含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 に近い黄褐色地山アロックを非常に多く含む、5mm～1cm 大の炭粒を少し含む



第 115 図 竪穴建物 ST6226



竪穴建物 ST6226 カマド : c - c'

- 1 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3mm 大の炭を多く含む
- 2 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5YR4/6 赤褐色焼土ブロックを含む
- 3 5YR5/6 明赤褐色シルト、粘性弱、しまり強
- 4 7.5YR4/4 褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通
- 5 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、焼土ブロックと炭を多く含む、10YR5/3 に近い黄褐色シルトブロックを含む

SP6339

d d'
h=238.5m



ビット SP6339 : d - d'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトブロックを多く含む、炭を多く含む

SP6340

e e'
h=238.7m



袖石採取穴 SP6340 : e - e'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭と焼土をまだら状に含む、10YR5/3 に近い黄褐色シルトブロックをごくわずかに含む

SP6341

f f'
h=238.5m

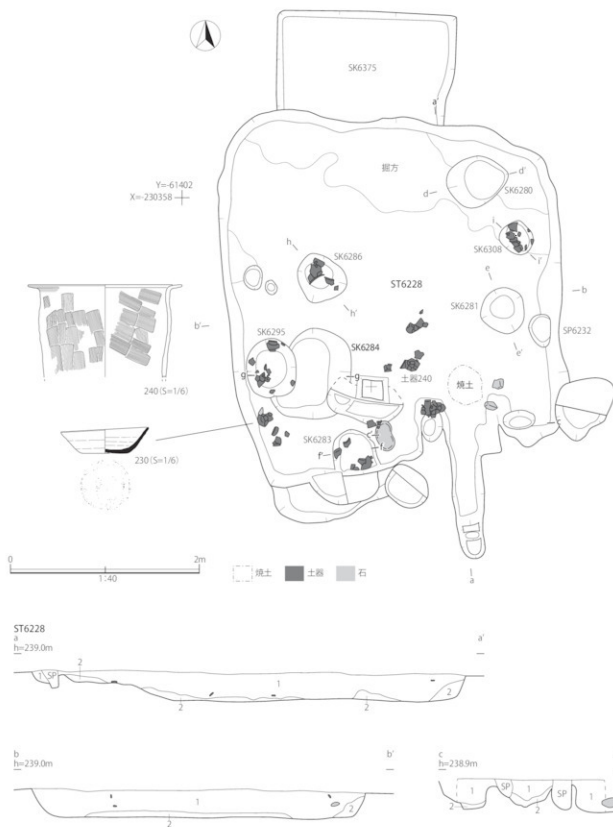


袖石採取穴 SP6341 : f - f'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトブロックを多く含む、炭を多く含む



第 116 図 竪穴建物 ST6226 付属遺構断面図



竪穴建物 ST6228 : a - a', b - b', c - c'

- 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、地山シルトと 10YR3/2 黒褐色シルトとの互層
- 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通、地山シルトをラミナ状に含む、カマド付近で 1mm ~ 1cm 大の焼土・炭粒を少し含む

第 117 図 竪穴建物 ST6228, 土坑 SK6375

遺構実測図



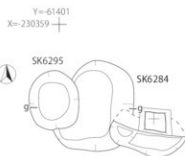
- 土坑 SK6280 : d - d'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 にふい黄褐色シルトブロックを多く含む、5mm 大の炭を含む。
 - 2 10YR4/3 にふい黄褐色シルト、粘性強、しまり普通



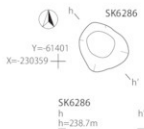
- 土坑 SK6281 : e - e'
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 にふい黄褐色シルトブロックを非常に多く含む、7.5YR4/6 褐色シルトと 5mm ~ 1cm 大の炭を含む



- 土坑 SK6283 : f - f'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 にふい黄褐色シルトブロックを少し含む、1cm 大の炭と 10YR4/6 褐色シルトを含む



- 土坑 SK6284・6295 : g - g'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 にふい黄褐色シルトをまだら状に含む、以下 2 層まで SK6295
 - 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 にふい黄褐色シルトをまだら状に少し含む、7.5YR4/6 褐色シルトを含む
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 にふい黄褐色シルトブロックを含む、1cm 大の炭を含む、SK6284



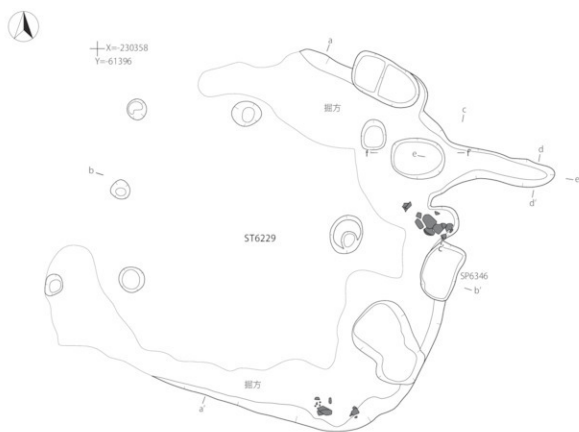
- 土坑 SK6286 : h - h'
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 にふい黄褐色シルトをまだら状に多く含む、5mm ~ 2cm 大の炭を含む



- 土坑 SK6308 : i - i'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 にふい黄褐色シルトブロックを少し含む、5mm ~ 1cm 大の炭粒を少し含む



第 118 図 竪穴建物 ST6228 付属遺構断面図



ST6229

a
h=238.9mb
h=238.9m

ST6229 カマド

c
h=238.9md
h=238.9me
h=238.9mf
h=238.8m

竪穴建物 ST6229 カマド：c c', d d', e e', f f'

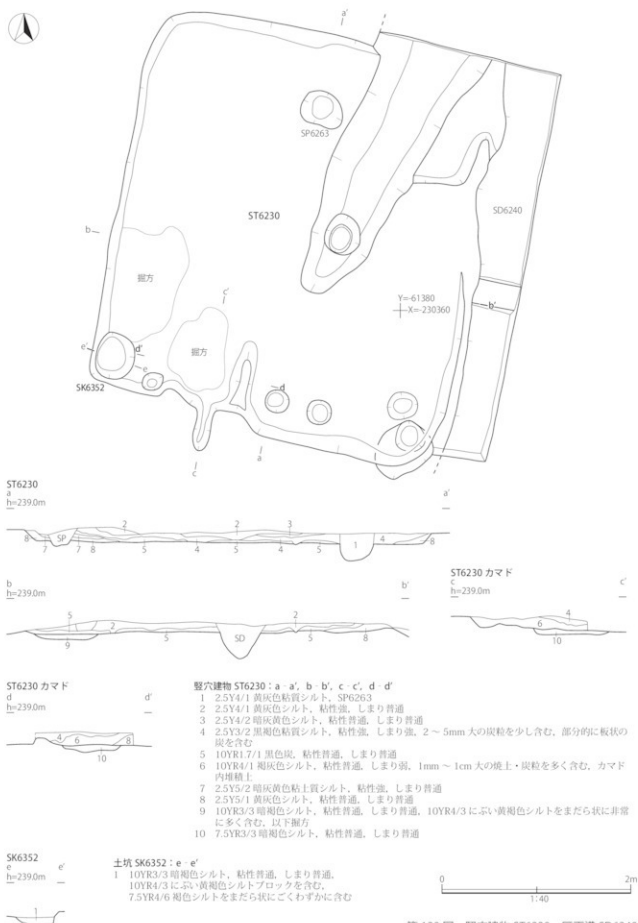
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5YR3/6 暗赤褐色シルトを含む、2層の上をまだら状に多く含む
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR2/3 黒褐色シルトをまだら状に非常に多く含む
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 に近い黄褐色シルトをまだら状に非常に多く含む、5mm 大の炭を含む
- 4 5YR5/8 明赤褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2.5Y5/4 黄褐色シルトを帯状に含む
- 5 5YR3/3 暗赤褐色シルト、粘性普通、しまり普通、地山ブロックを多く含む

竪穴建物 ST6229：a - a'

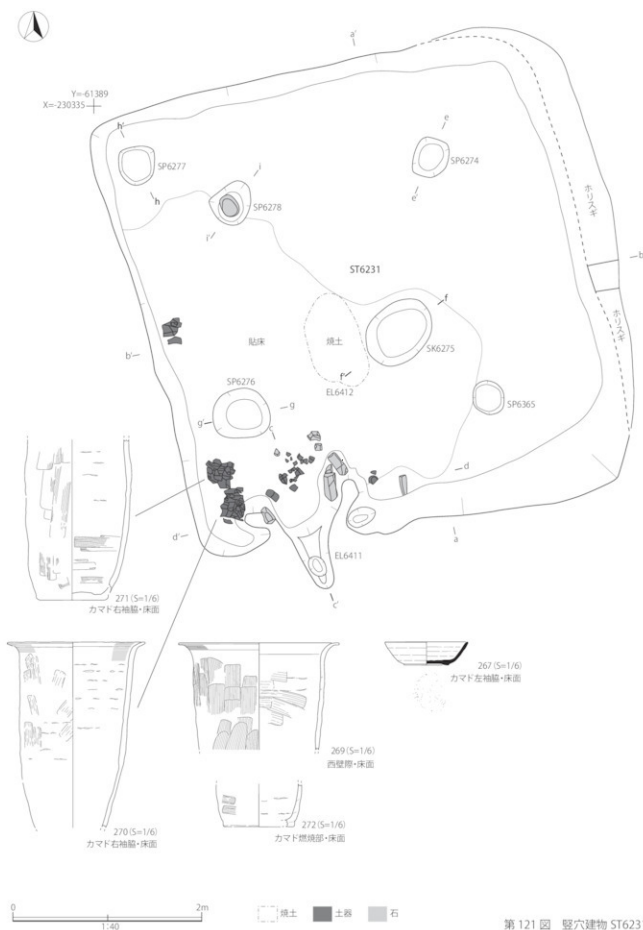
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 に近い黄褐色シルトをまだら状に非常に多く含む、5mm 大の炭を含む
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト、地山ブロックを非常に多く含む、SP6346
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、掘方

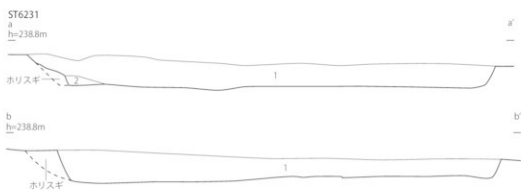


第119図 竪穴建物 ST6229



第 120 図 竪穴建物 ST6230、区画溝 SD6240





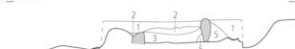
竪穴建物 ST6231 : a - a', b - b'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に多い黄褐色砂質シルトブロックを多く含む、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを少し含む
- 2 10YR5/3 に多い黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを多く含む

EL6411
c
h=238.8m



d
h=238.8m



■ 土 ■ 石

カマド EL6411 : c - c', d - d'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に多い黄褐色砂質シルトブロックを多く含む、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを少し含む
- 2 7.5YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5YR4/6 赤褐色焼土をまだら状に少し含む
- 3 7.5YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5YR4/6 赤褐色焼土ブロックを多く含む、炭を帯状に含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性強、しまり普通、10YR5/3 に多い黄褐色シルトブロックを少し含む
- 5 10YR4/3 に多い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、カマド跡の構成土
- 6 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に多い黄褐色シルトブロックを多く含む、2cm 大の炭を含む
- 7 7.5YR4/3 に多い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む
- 8 10YR5/3 に多い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む

SK6275
f
h=238.4m



土坑 SK6275 : f - f'

- 1 10YR3/3 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3 ~ 5mm 大の炭と 10YR4/3 に多い黄褐色シルトをまだら状に多く含む

SP6274
e
h=238.4m



柱穴 SP6274 : e - e'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の炭を含む

SP6276
g
h=238.5m



柱穴 SP6276 : g - g'

- 1 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR4/6 褐色シルトと 5mm ~ 2cm 大の炭を含む

SP6277
h
h=238.5m



柱穴 SP6277 : h - h'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭を含む

SP6278
i
h=238.5m

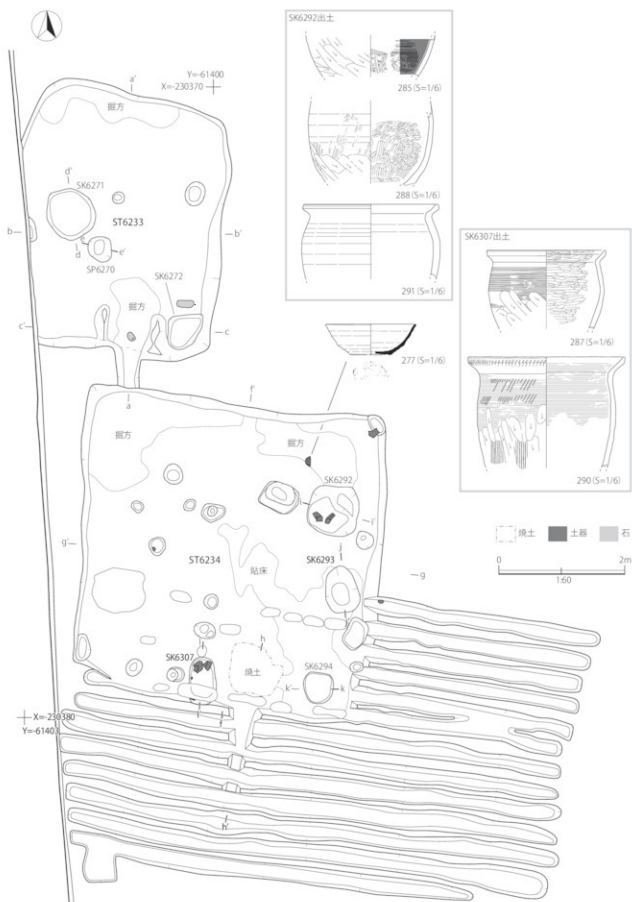


柱穴 SP6278 : i - i'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、10YR4/3 に多い黄褐色シルトをまだら状に含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり弱



第 122 図 竪穴建物 ST6231 断面図



第 123 図 竪穴建物 ST6233・6234



竪穴建物 ST6233 : a-a', b-b', c-c'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、1mm～1cm 大の地山シルト・炭を非常に多く含む、人為堆積
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、1mm～1cm 大の地山シルト・炭を非常に多く含む、1～5mm 大の焼土粒を少し含む、南西隅で炭が主体
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、1～2mm 大の地山シルト粒を含む
- 4 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭を含む、7.5YR4/6 褐色シルト（焼土粒）を少し含む、地山をまだら状に少し含む、以下 6 層まで離方
- 5 10YR2/1 黒色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に多く含む、1～2cm 大の炭粒を多く含む
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 に近い黄褐色シルトブロックを多く含む、離方
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1mm～1cm 大の炭を含む、SK6272



竪穴建物 ST6234 : f-f', g-g', h-h'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり強、1～5mm 大の焼土粒・炭粒を少し含む
- 2 7.5YR4/6 褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 3 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 4 10YR4/1 暗灰色シルト、粘性強、しまり普通、炭粒
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1mm～1cm 大の地山シルト粒を含む、1～5mm 大の焼土粒・炭粒をごくわずかに含む
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、地山シルトをラミナ状に含む
- 7 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2mm～1cm 大の焼土ブロックを含む、カマド内堆積土
- 8 7.5YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、2～5mm 大の炭粒を少し含む
- 9 7.5YR4/4 褐色砂質シルト、粘性弱、しまり強
- 10 5YR4/4 に近い赤褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 11 7.5YR3/4 暗褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通、カマド側方
- 12 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に含む、炭粒



土坑 SK6271 : d-d'
1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1mm～1cm 大の炭・地山シルトを多く含む



柱穴 SP6270 : e-e'
1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1～5mm 大の炭粒を含む



土坑 SK6292 : f-f'
1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、1～5mm 大の炭粒・焼土粒をごくわずかに含む



土坑 SK6293 : j-j'
1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1～5mm 大の炭粒・焼土粒を含む
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1～5mm 大の炭粒・焼土粒をごくわずかに含む



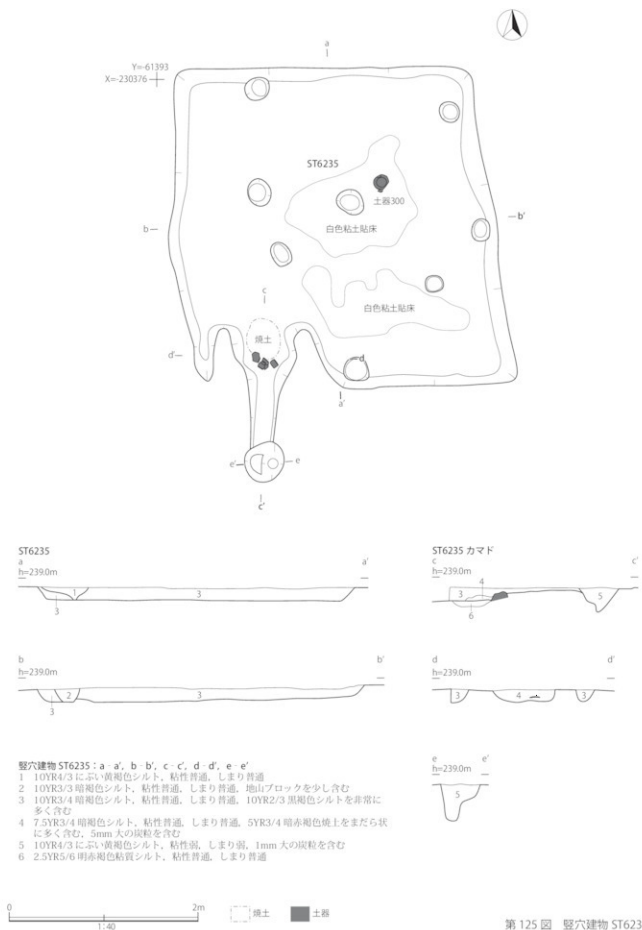
土坑 SK6294 : k-k'
1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、1mm～1cm 大の焼土粒・炭粒を含む



土坑 SK6307 : l-l'
1 10YR4/1 暗灰色シルト、粘性強、しまり普通、炭粒
2 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性強、しまり普通、1mm～1cm 大の焼土・炭・地山シルトを非常に多く含む

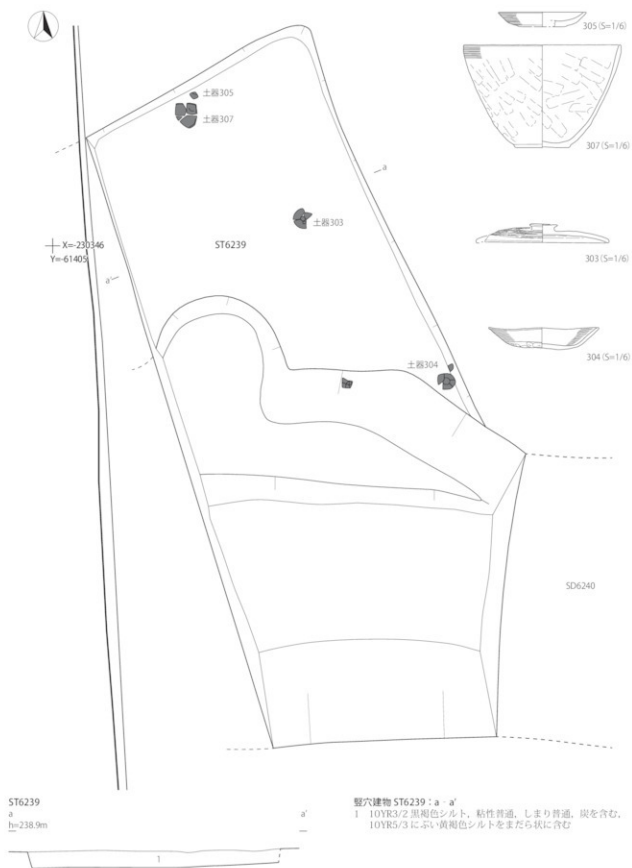


第 124 図 竪穴建物 ST6233・6234 断面図

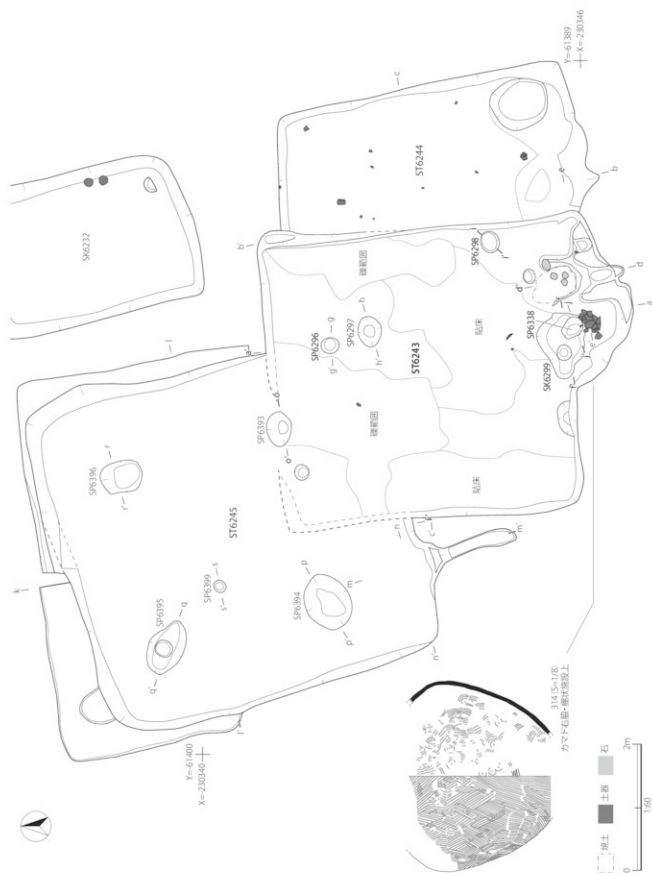


竪穴建物 ST6235 : a-a', b-b', c-c', d-d', e-e'

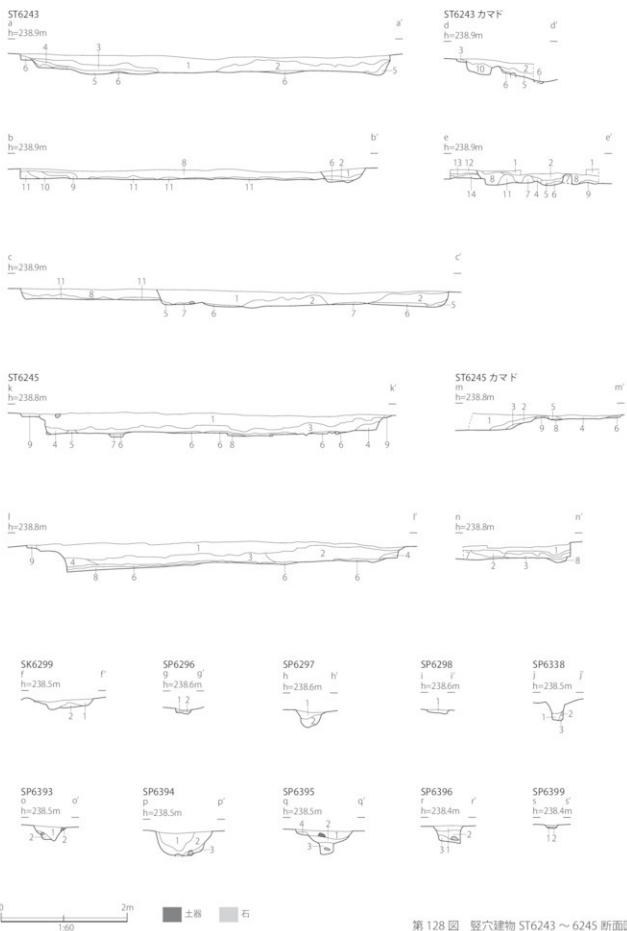
- 1 10YR4/3に赤い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 10YR3/3暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、地山ブロックを少し含む
- 3 10YR3/4暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR2/3黒褐色シルトを非常に多く含む
- 4 7.5YR3/4暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5YR3/4暗褐色焼土をまだら状に多く含む、5mm大の炭粒を含む
- 5 10YR4/3に赤い黄褐色シルト、粘性弱、しまり弱、1mm大の炭粒を含む
- 6 2.5YR5/6明赤褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通



第 126 図 竪穴建物 ST6239



第 127 図 竪穴建物 ST6243 ~ 6245



第128図 竪穴建物ST6243～6245断面図

型穴建物 ST6243・6244 : a・a', b・b', c・c'

- 1 10YR5/2 灰黒色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 2～5mm 大の炭を少し含む, 以下7層まで ST6243
- 2 2.5Y3/2 黒褐色シルト, しまり普通, 粘性強, 2～5mm 大の炭と1～2cm 大の地山ブロックを含む
- 3 10YR3/2 黒褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 1～2cm 大の2.5Y8/3 灰白色シルトをまだら状に少し含む
- 4 2.5Y1.7/1 黒色シルト, しまり強, 粘性弱, 炭屑
- 5 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 2～5mm 大の炭をごくわずかに含む, 床面直上層
- 6 2.5Y8/2 灰白色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 炭床面
- 7 10YR5/2 褐色細砂, しまり弱, 1～2cm 大の礫を多く含む
- 8 10YR3/2 黒褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 2～5mm 大の炭を少し含む, 以下 ST6244
- 9 10YR5/2 灰黄褐色シルト, しまり普通, 粘性弱, 1～2cm 大の2.5Y8/3 灰白色シルトをまだら状に少し含む
- 10 10Y4/2 灰黄褐色シルト, しまり強, 粘性弱, 2～5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 11 10YR1.7/1 黒色シルト, しまり強, 粘性弱, 炭屑

型穴建物 ST6243 カマド : d・d', e・e'

- 1 1 建物4/2 灰褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 1cm 大の炭をまだら状にごくわずかに含む
- 2 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 1cm 大の炭と焼土粒を少し含む
- 3 5YR3/3 暗褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 焼土粒をごくわずかに含む
- 4 5YR0/3 に近い褐色シルト, しまり強, 礫粒を少し含む, 天井部暖炉の崩落土
- 5 5YR5/2 灰褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 5mm 大の炭と焼土ブロックをまだら状に含む
- 6 10YR6/3 に近い黄褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 2cm 大の10YR7/4 に近い黄褐色シルトをまだら状に含む
- 7 10YR5/2 褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 2cm 大の10YR7/4 に近い黄褐色シルトを少し含む, 礫粒をごくわずかに含む, カマド基礎土
- 8 10YR4/2 灰褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性普通, 5mm 大の炭を少し含む
- 9 10YR2/1 黒色粘質シルト, しまり普通, 粘性強, 須器器片を多く含む, 炭屑
- 10 10YR4/1 灰褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 礫粒を少し含む
- 11 10YR7/4 に近い黄褐色シルト, しまり強, 礫粒をごくわずかに含む
- 12 10YR3/2 黒褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 2～5mm 大の炭を少し含む, 以下 ST6244
- 13 10YR5/2 灰黄褐色シルト, しまり普通, 粘性弱, 1～2cm 大の2.5Y8/3 灰白色シルトをまだら状に少し含む
- 14 10YR3/3 暗褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 5mm 大の炭をごくわずかに含む

型穴建物 ST6245 : k・k', l・l'

- 1 10YR4/2 灰褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 1cm 大の地山ブロックをまだら状に含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 1cm 大の地山ブロックをまだら状に含む
- 3 10YR3/2 黒褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 2mm 大の炭を少し含む, 床面直上層
- 4 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 3cm 大の10YR7/4 に近い黄褐色シルトをまだら状に少し含む, 壁際の崩落土
- 5 10YR0/3 に近い黄褐色粘質シルト, しまり強, 地山ブロックの崩落土
- 6 10YR8/2 灰白色粘質シルト, しまり強, 粘性普通, 2cm 大の10YR7/4 に近い黄褐色シルトをまだら状に含む, 粘床面
- 7 10YR6/3 に近い黄褐色粘質シルト, しまり強, 粘性普通, 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 8 10YR6/4 に近い黄褐色シルト, しまり強, 撚力
- 9 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱

型穴建物 ST6245 カマド : m・m', n・n'

- 1 10YR4/2 灰褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 1cm 大の地山ブロックをまだら状に含む
- 2 10YR2/1 黒色粘質シルト, しまり普通, 粘性強, 2～5mm 大の炭と1～2cm 大の地山ブロックをごくわずかに含む
- 3 10YR3/3 暗褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 1cm 大の焼土ブロックを含む, 1～2mm 大の炭をごくわずかに含む
- 4 7.5YR4/2 灰褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 焼土ブロックを少し含む, 1～2mm 大の炭をまだら状にごくわずかに含む
- 5 10YR3/2 黒褐色粘質シルト, しまり強, 2～5mm 大の炭をまだら状にごくわずかに含む
- 6 10YR2/1 黒色粘質シルト, しまり強, 7.5YR4/2 灰褐色シルトをまだら状にごくわずかに含む, 炭屑
- 7 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 1cm 大の10YR7/4 に近い褐色シルトをまだら状に含む
- 8 10YR0/3 に近い赤褐色シルト, しまり強
- 9 5YR5/3 に近い赤褐色シルト, しまり強, カマド底面

土坑 SK6299 : f・f'

- 1 10YR5/2 褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性普通, 5mm～1cm 大の炭をまだら状に含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色シルト, しまり強, 粘性弱, 1cm 大の地山ブロックをまだら状に含む, 酸化鉄を少し含む

柱穴 SP6296 : g・g'

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 礫粒と遺物を少し含む

柱穴 SP6297 : h・h'

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 5mm～1cm 大の炭をまだら状に含む
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 地山ブロックをまだら状に含む, 礫をごくわずかに含む

柱穴 SP6298 : i・i'

- 1 10YR3/3 暗褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 2～5mm 大の炭をまだら状にごくわずかに含む, 遺物をごくわずかに含む

柱穴 SP6338 : j・j'

- 1 10YR4/1 褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 遺物を少し含む, 2～5mm 大の炭をまだら状にごくわずかに含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 酸化鉄を多く含む
- 3 10YR5/1 褐色粘質シルト, しまり弱, 1～2mm 大の礫粒を含む

柱穴 SP6393 : O・O'

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 10YR4/1 褐色粘質シルトをまだら状にごくわずかに含む

柱穴 SP6394 : p・p'

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト, しまり強, 粘性強, 地山ブロックと礫を少し含む
- 3 10YR3/3 暗褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 礫粒をまだら状に含む

柱穴 SP6395 : q・q'

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性普通, 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト, しまり強, 粘性普通, 2cm 大の地山ブロックをまだら状に少し含む
- 3 10YR3/3 暗褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 10YR4/1 褐色粘質シルトをまだら状に少し含む, 礫を少し含む
- 4 10YR3/2 黒褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 礫を含む

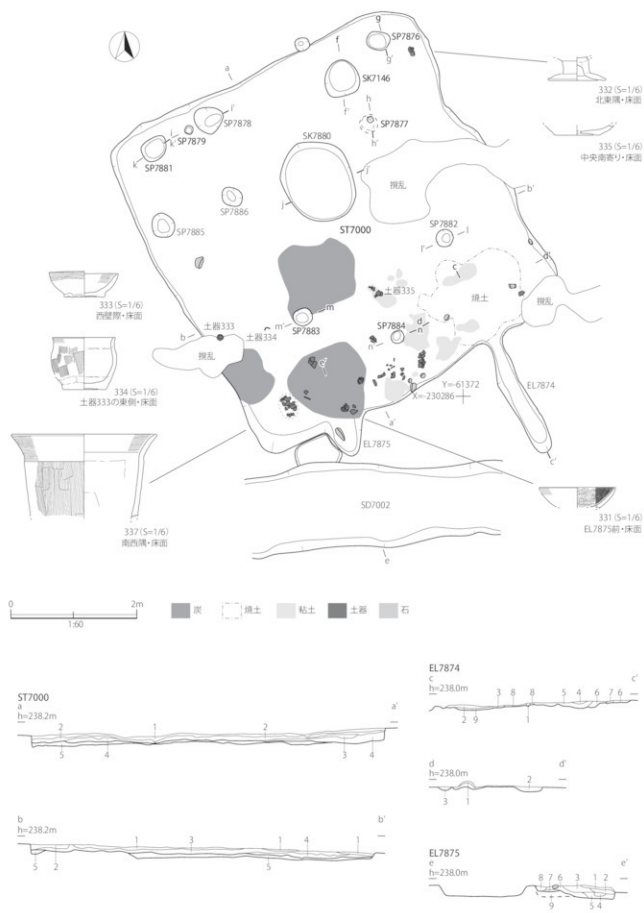
柱穴 SP6396 : r・r'

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性弱, 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性強, 5mm 大の地山ブロックと礫を少し含む
- 3 10YR4/1 褐色粘質シルト, しまり強, 礫粒を少し含む

柱穴 SP6399 : s・s'

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, しまり普通, 粘性普通, 1cm 大の炭を含む
- 2 10YR3/3 暗褐色粘質シルト, しまり強, 粘性弱, 礫粒をまだら状に含む

第 129 図 型穴建物 ST6243～6245 土層注記



第130図 竪穴建物ST7000

壁穴建物 ST7000 : a - a'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性弱、しまり強
- 2 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト、粘性弱、しまり普通
- 3 10YR2/1 黒色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトを帯状に含む
- 4 2.5Y5/4 オリーブ褐色シルト、粘性弱、しまり弱、1～5mm 大の粗砂を含む
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1～5mm 大の粗砂を含む、掘方

壁穴建物 ST7000 : b - b'

- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性弱、しまり強
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に多く含む
- 3 2.5Y4/6 オリーブ褐色シルト、粘性弱、しまり普通
- 4 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質シルト、粘性弱、しまり弱
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1～5mm 大の粗砂を含む、掘方

カマド EL7874 : c - c'

- 1 10YR4/1 暗灰色粘土、粘性普通、しまり普通、掘戻
- 2 10YR4/4 褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 3 2.5Y4/6 褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 4 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり弱
- 5 7.5YR4/2 灰褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/4 暗褐色シルトと1～5mm 大の炭をまだら状に多く含む、境上を多く含む
- 6 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の7.5YR5/6 明褐色粘質シルトブロックと10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルトをまだら状に含む、炭屑
- 7 10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり弱
- 8 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト、粘性弱、しまり普通
- 9 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR4/2 灰褐色シルトをまだら状に多く含む、境上を多く含む

カマド EL7874 : d - d'

- 1 10YR5/3 に近い黄褐色粘土、粘性普通、しまり強、焼熟した10YR3/3 暗褐色粘土をまだら状に含む
- 2 10YR5/6 黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、3～5mm 大の粗砂を含む
- 3 10YR5/6 黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、3～5mm 大の粗砂を含む

カマド EL7875 : e - e'

- 1 7.5YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、3mm 大の焼上ブロックを含む、5mm 大の炭を少し含む
- 2 7.5YR4/3 褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、3～5mm 大の5YR6/4 に近い褐色焼上ブロックを少し含む
- 3 7.5YR3/3 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、3～5mm 大の5YR4/6 赤褐色焼上ブロックを含む、5mm 大の炭を少し含む
- 4 5YR4/6 赤褐色粘質シルト、焼上層
- 5 7.5YR3/2 黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm～1cm 大の5YR4/6 赤褐色焼上ブロックを少し含む、1～1.5cm 大の礫をこくわずかに含む
- 6 7.5YR4/2 灰褐色シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の炭を少し含む
- 7 7.5YR4/4 褐色シルト、2cm 大の礫を少し含む、5mm 大の7.5YR6/4 に近い相色シルトをこくわずかに含む、カマド煙道部の被熱面
- 8 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、1mm 大の炭粒を含む、10YR4/1 暗褐色粘質シルトをこくわずかに含む、カマド煙道
- 9 10YR4/3 に近い黄褐色粗砂、粘性弱、しまり弱、2～5cm 大の礫を多く含む、地山

SK7146



土坑 SK7146 : f - f'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3～5mm 大の粗砂を少し含む
- 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト、粘性弱、しまり弱、3～5mm 大の粗砂を少し含む
- 4 10YR4/3 に近い黄褐色粗砂、粘性弱、しまり弱、地山遷移層

SK7880



土坑 SK7880 : j - j'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトをまだら状に含む
- 2 10YR2/1 黒色粘質シルト、境上をまだら状に含む、炭屑
- 3 10YR4/4 褐色砂質シルト、粘性弱、しまり弱、炭を帯状に含む、3cm 大の礫を多く含む
- 4 10YR3/4 暗褐色粗砂、粘性弱、しまり弱





柱穴 SP7876 : g - g'

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり弱
- 2 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/6 粘質シルトをまだら状に多く含む
- 3 10YR4/4 褐色シルト、粘性弱、しまり普通
- 4 2.5Y5/4 黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり弱
- 5 10YR4/3 オリーブ褐色粘質シルト、粘性弱、しまり弱、地山崩移層



柱穴 SP7877 : h - h'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP7878 - 7879 : i - i'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり弱、SP7879
- 2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、以下 SP7878
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土、粘性強、しまり強
- 4 10YR4/4 褐色粘質シルト、粘性弱、しまり弱
- 5 10YR4/6 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP7881 : k - k'

- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質シルト、粘性弱、しまり弱
- 2 10YR4/4 褐色粘質シルト、粘性弱、しまり弱
- 3 2.5Y4/6 粘質シルト、粘性弱、しまり弱



柱穴 SP7882 : l - l'

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり弱
- 2 10YR4/4 褐色シルト、粘性普通、しまり弱
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり弱



柱穴 SP7883 : m - m'

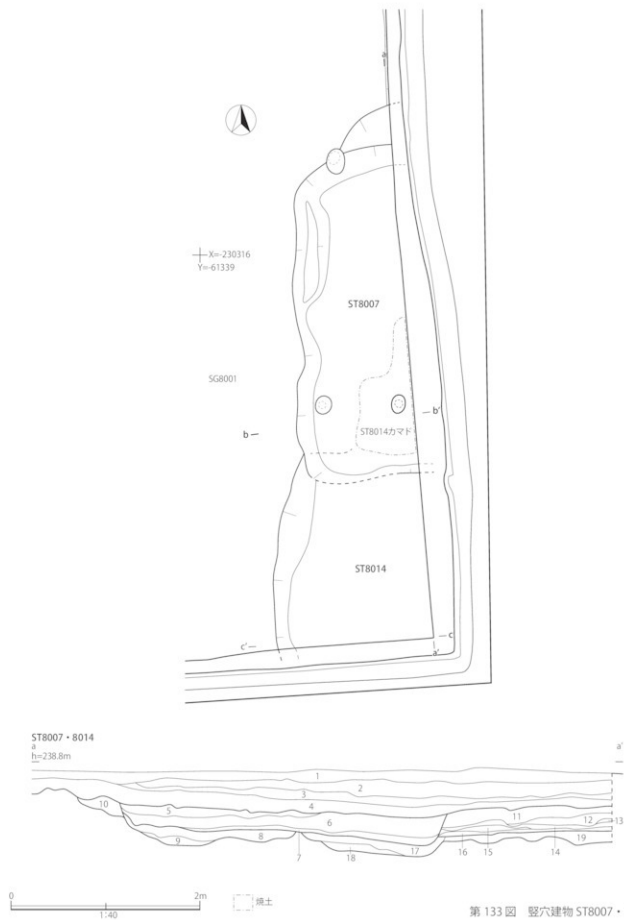
- 1 10YR4/4 褐色シルト、粘性弱、しまり弱
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト、粘性弱、しまり弱
- 3 2.5Y5/4 黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり弱
- 4 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質シルト、粘性弱、しまり弱



柱穴 SP7884 : n - n'

- 1 10YR3/3 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3 ~ 5mm 大の粗砂を含む
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通





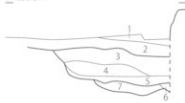
第 133 図 竪穴建物 ST8007・8014

竪穴建物 ST8007・8014 : a a'

- 1 10YR6/1 褐色色シルト、しまり普通、粘性普通。10YR4/1 褐色色粘質シルトを多く含む、10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下4層まで SG8001
- 2 10YR4/1 褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通。10YR5/2 灰黄褐色粘質シルトを少し含む
- 3 10YR6/1 褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通。10YR4/1 褐色色粘質シルトを少し含む
- 4 10YR5/1 褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通。10YR5/2 灰黄褐色粘質シルトをわずかに含む
- 5 10YR4/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/2 灰黄褐色シルトと 10YR3/1 黒褐色粘質シルトを少し含む、以下10層まで ST8007
- 6 10YR4/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR3/1 黒褐色粘質シルトを少し含む
- 7 10YR6/3 におい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/1 褐色色シルトを多く含む、炭をわずかに含む、床面構築土
- 8 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり弱。10YR5/1 褐色色シルトを多く含む、10YR3/1 黒褐色粘質シルトを少し含む、炭をわずかに含む、以下9層まで Ⅱ方
- 9 10YR5/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色シルトと 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 10 10YR6/1 褐色色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色シルトを少し含む、礫構築土
- 11 10YR5/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色シルトと 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、炭をわずかに含む、以下 ST8014
- 12 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色シルトを多く含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 13 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、炭を多く含む
- 14 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR3/1 黒褐色粘質シルトと 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、炭を層状に多く含む、炭を少し含む
- 15 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 灰黄褐色シルトを多く含む、炭をわずかに含む
- 16 10YR5/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。炭と 10YR6/2 灰黄褐色シルトを互層状に含む、床面構築土
- 17 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。炭上・炭を非常に多く含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下19層までⅡ方・Ⅱ部
- 18 10YR5/1 褐色色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 灰黄褐色シルトと 炭土を多く含む、炭を少し含む
- 19 10YR6/3 におい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 灰黄褐色シルトと 炭土を多く含む、炭を少し含む、Ⅱ方

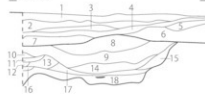
ST8007・8014

b
h=238.8m



ST8014

c
h=238.8m



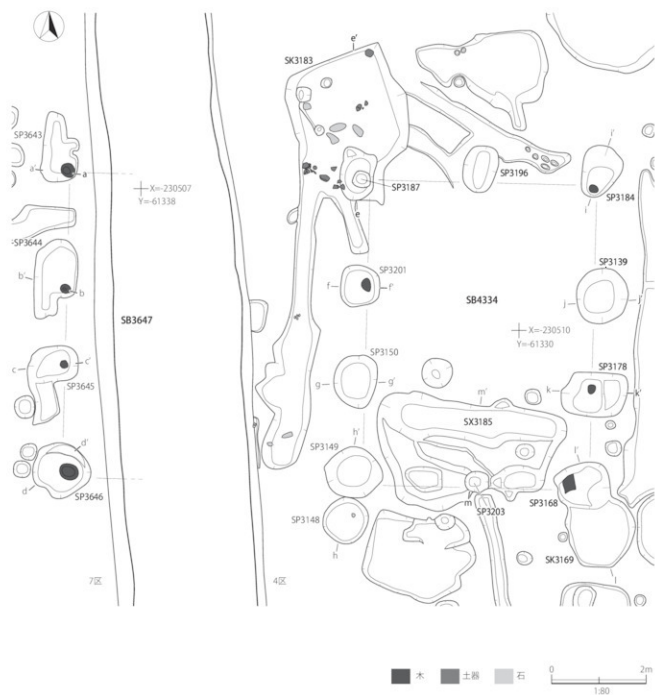
竪穴建物 ST8007・8014 : b b'

- 1 10YR6/1 褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通。10YR4/1 褐色色シルトを少し含む、以下2層まで SG8001
- 2 10YR5/1 褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通。10YR5/2 灰黄褐色粘質シルトをわずかに含む
- 3 10YR4/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR3/1 黒褐色粘質シルトを少し含む、以下5層まで ST8007
- 4 10YR5/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR3/1 黒褐色粘質シルトをまだら状に少し含む
- 5 10YR6/3 におい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/1 褐色色シルトを多く含む、炭をわずかに含む、床面構築土
- 6 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。炭上・炭を非常に多く含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下 ST8014 Ⅱ方下
- 7 10YR5/1 褐色色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 灰黄褐色シルトと 炭土を多く含む、炭を少し含む

竪穴建物 ST8014 : c c'

- 1 10YR6/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色粘質シルトを多く含む、10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下7層まで SG8001
- 2 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/2 灰黄褐色粘質シルトを少し含む
- 3 10YR5/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む
- 4 10YR6/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色粘質シルトを少し含む
- 5 10YR4/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/2 灰黄褐色シルトと 10YR3/1 黒褐色粘質シルトをわずかに含む
- 6 10YR5/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 7 10YR5/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/2 灰黄褐色粘質シルトをわずかに含む
- 8 10YR5/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色シルトを少し含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトをわずかに含む、以下18層まで ST8014
- 9 10YR5/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色シルトと 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、炭をわずかに含む
- 10 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色シルトを多く含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 11 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、炭を多く含む
- 12 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR3/1 黒褐色粘質シルトと 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、炭を層状に多く含む、炭を少し含む
- 13 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色シルトと 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 14 10YR5/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 15 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色色シルトを多く含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 16 10YR5/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。炭と 10YR6/2 灰黄褐色シルトを互層状に含む、床面構築土
- 17 10YR5/1 褐色色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、炭を層状に含む、床面直上層
- 18 10YR6/3 におい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 灰黄褐色シルトと 炭土を多く含む、炭を少し含む





第135図 掘立柱建物SB3647・4334、土坑SK3169・3183、性格不明遺構SX3185

SB3647

SP3643



SP3644



SP3645



SP3646



柱穴 SP3643 : a - a'

- 1 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に含む
- 2 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に多く含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐色シルトをまだら状に含む

柱穴 SP3644 : b - b'

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に含む
- 1 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり弱、10YR5/2 灰黄褐色シルトをまだら状に含む、炭粒をごくわずかに含む
- 2 2.5Y3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2.5Y5/1 黄灰色シルトをまだら状に含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む

柱穴 SP3645 : c - c'

- 1 10YR3/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトをまだら状に多く含む、炭粒をごくわずかに含む
- 2 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/1 黒褐色シルトをまだら状に含む、砂を少し含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む

柱穴 SP3646 : d - d'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の石と炭粒をごくわずかに含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に含む、砂をごくわずかに含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に非常に多く含む、炭粒をごくわずかに含む
- 4 2.5Y3/1 黒褐色シルト、粘性強、しまり弱、10YR3/2 黒褐色シルトをまだら状に含む
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり弱

SB4334

SP3187, SK3183



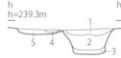
SP3201



SP3150



SP3148・3149



SP3184



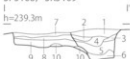
SP3139



SP3178



SP3168, SK3169



SP3203, SK3185



柱穴 SP3187, 土坑 SK3183 : e - e'

- 1 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、炭を含む、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを含む、以下 2 層まで SK3183
- 2 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを多く含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックと炭を含む、以下 SP3187
- 4 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性普通、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを非常に多く含む
- 5 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性普通、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトをまだら状に含む
- 6 2.5Y2/1 黒シルト、10YR5/1 褐色細砂ブロックを含む

柱穴 SP3201 : f - f'

- 1 10YR5/1 褐色砂質シルト、細砂含む、10YR3/1 黒褐色粘質シルトを編状に含む
- 2 10YR5/1 褐色砂質シルト、細砂含む、10YR3/1 黒褐色粘質シルトブロックを少し含む
- 3 10YR5/1 褐色砂質シルト、粘性普通、10YR3/1 黒褐色粘質シルトブロックを多く含む
- 4 10YR5/1 褐色砂質シルト、粘性普通、10YR3/1 黒褐色粘質シルトをまだら状に多く含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 6 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト

柱穴 SP3150 : g - g'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、炭粒を含む
- 2 10YR3/1 黒褐色シルト、炭を含む、10YR4/1 褐色砂質シルトを含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、10YR4/1 褐色細砂ブロックを多く含む



柱六 SP3148・3149：h・h'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、炭粒を含む、以下3層まで SP3149
- 2 10YR3/1 黒褐色シルト、10YR4/1 褐色砂質シルトとの層状層、炭を含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、10YR4/1 褐色細砂ブロックを多く含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを多く含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、炭粒を含む

柱六 SP3184：i・f

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、1cm 大の炭を含む、10YR5/3 にふい黄褐色細砂と 10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色シルトと 10YR2/2 黒褐色シルトブロックをまだら状に含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色シルトと 10YR2/2 黒褐色シルトブロックをまだら状に含む
- 4 10YR4/1 褐色シルト、10YR2/2 黒褐色粘土ブロックを多く含む
- 5 10YR4/1 褐色シルト

柱六 SP3139：j・j'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを少し含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを多く含む、炭を含む
- 3 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルト
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを多く含む、10YR2/2 黒褐色シルトを含む

柱六 SP3178：k・k'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、炭を含む、10YR5/3 にふい黄褐色細砂をまだら状に少し含む
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR3/2 黒褐色粘質シルトブロックを含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR3/2 黒褐色粘質シルトと 2.5Y5/1 黄灰色粘土を含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト、酸化した粗砂を含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐色シルト、10YR3/2 黒褐色粘質シルトブロックを少し含む

柱六 SP3168、土坑 SK3169：i・f

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、炭粒を含む、10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを多く含む、以下6層まで SP3168
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、5mm 大の炭を多く含む
- 3 10YR5/1 褐色砂質シルト、10YR3/2 黒褐色シルトブロックを少し含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、1cm 大の炭を含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト、1cm 大の炭を含む、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを少し含む
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルトブロックを多く含む
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、5mm ～ 5cm 大の炭を多く含む、以下 SK3169
- 8 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR5/1 褐色シルトブロックを非常に多く含む
- 9 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR5/1 褐色シルトブロックを含む
- 10 10YR3/1 黒褐色砂質シルト、粘性弱

柱六 SP3203、性格不明遺構 SX3185：m・m'

- 1 10YR4/1 褐色シルト、炭を帯状に含む、以下4層まで SX3185
- 2 10YR4/1 褐色シルト、5mm ～ 2cm 大の炭を含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを多く含む
- 4 10YR3/1 黒褐色粘土、10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを非常に多く含む
- 5 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、炭を含む、10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトブロックを多く含む、以下 SP3203
- 6 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、炭を含む、10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトブロックを含む



第 138 图 掘立柱建物 SB4332



柱穴 SP4034 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、2～3cm 大の炭を多く含む、柱痕
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/3 にふい黄褐色細砂ブロックを含む、以下断面
- 3 10YR4/1 期灰色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/3 にふい黄褐色細砂ブロックを多く含む



柱穴 SP4049 : e - e'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3～5mm 大の炭を多く含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 にふい黄褐色細砂をまだら状に少し含む



柱穴 SP4037 : b - b'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性やや強、しまり普通、1cm 大の炭を含む、柱痕
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性やや強、しまり普通、以下断面
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性やや強、しまり普通、10YR6/3 にふい黄褐色細砂をブロックまたは帯状に多く含む



柱穴 SP4058 : f - f'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、3mm 大の炭を含む、ほぼ純層



柱穴 SP4044 : c - c'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、1cm 大の炭を多く含む、柱痕取残
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR6/3 にふい黄褐色細砂と 10YR3/2 黒褐色シルトブロックを多く含む、以下断面
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR3/2 黒褐色シルトと 10YR6/3 にふい黄褐色細砂をまだら状に含む、粗見層
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、10YR6/3 にふい黄褐色細砂ブロックを多く含む



柱穴 SP4064 : g - g'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、3mm～1cm 大の炭を含む、10YR6/2 にふい黄褐色細砂ブロックを含む、柱痕
- 2 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、3mm 大の炭を含む、ほぼ純層、以下断面
- 3 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP4045 : d - d'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、5mm～1cm 大の炭を多く含む、柱痕
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、以下断面
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトをまだら状に少し含む、3mm 大の炭を多く含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトをまだら状にごくわずかに含む

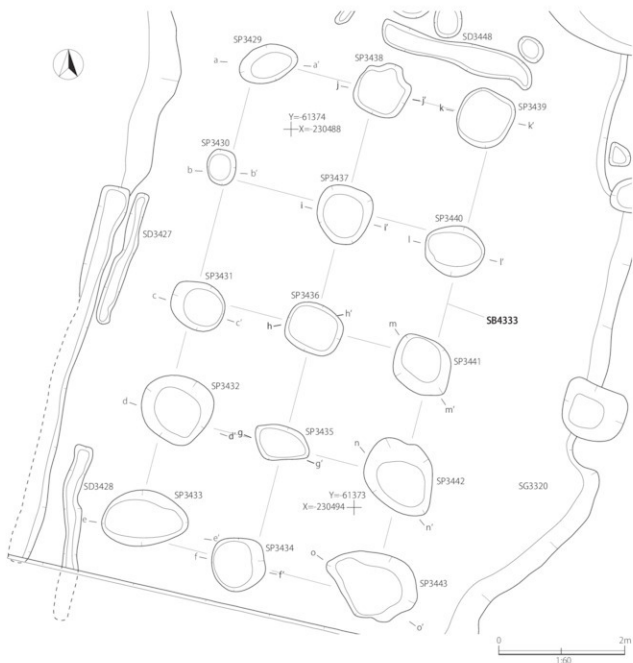


柱穴 SP4075 : h - h'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、3mm～1cm 大の炭を含む、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを含む、柱痕
- 2 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを帯状に多く含む、以下断面
- 3 10YR4/1 期灰色シルト、粘性普通、しまり普通、炭を含む
- 4 10YR4/1 期灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを多く含む



第 139 図 掘立柱建物 SB4332 断面図



柱穴 SP3429 : a - a'
 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、2～5mm 大の炭をこくわずかに含む



柱穴 SP3430 : b - b'
 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、2～5mm 大の炭をこくわずかに含む



柱穴 SP3431 : c - c'
 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性強、しまり普通、砂と1～3cm 大の礫を少し含む、2～5mm 大の炭をこくわずかに含む



柱穴 SP3432 : d - d'
 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、砂と1～3cm 大の礫を少し含む、2mm～1cm 大の炭をこくわずかに含む

第 140 図 掘立柱建物 SB4333



柱穴 SP3433 : e - e'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、5mm ~ 1cm 大の炭をごくわずかに含む



柱穴 SP3434 : f - f'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、5mm ~ 1cm 大の炭をごくわずかに含む



柱穴 SP3435 : g - g'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、3mm ~ 2cm 大の炭を少し含む



柱穴 SP3436 : h - h'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、5mm ~ 1cm 大の炭をごくわずかに含む
2 10YR4/4 褐色シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP3437 : i - i'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、2 ~ 5mm 大の炭をごくわずかに含む
2 10YR4/4 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の炭をごくわずかに含む
3 10YR5/4 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通



柱穴 SP3438 : j - j'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、2 ~ 5mm 大の炭をごくわずかに含む



柱穴 SP3439 : k - k'

1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、2mm ~ 1cm 大の炭をごくわずかに含む



柱穴 SP3440 : l - l'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、2 ~ 5mm 大の炭をごくわずかに含む



柱穴 SP3441 : m - m'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、5mm ~ 1cm 大の炭をごくわずかに含む
2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の炭をごくわずかに含む



柱穴 SP3442 : n - n'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂と3mm ~ 2cm 大の炭を少し含む
2 10YR4/4 褐色砂、粘性弱、しまり弱



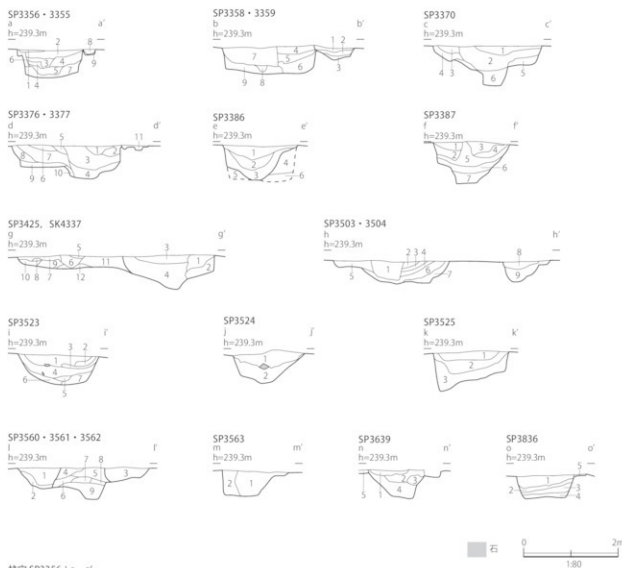
柱穴 SP3443 : o - o'

1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂と3mm ~ 2cm 大の炭を少し含む





第 142 図 掘立柱建物 SB4335



柱穴 SP3356 : a - a'

- 1 10YR5/3 に近い黄褐色細砂
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト, 5mm ~ 3cm 大の炭を多く含む, 右辺部にまだら状に焼土を含む, 10YR5/3 に近い黄褐色細砂ブロックを含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 5mm ~ 1cm 大の炭と 10YR5/3 に近い黄褐色細砂ブロックを含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 10YR5/3 に近い黄褐色細砂ブロックを多く含む, 5mm 大の炭を少し含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 10YR5/3 に近い黄褐色細砂ブロックを非常に多く含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 10YR5/3 に近い黄褐色細砂ブロックを多く含む
- 7 10YR5/3 に近い黄褐色粗砂, 10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを多く含む
- 8 10YR3/2 黒褐色シルト, 5mm 大の炭を含む, 以下 SP3355
- 9 10YR5/3 に近い黄褐色, 10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む

柱穴 SP3358・3359 : b - b'

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト, 炭と焼土ブロックをまだら状に多く含む, 以下 3 層まで SP3359
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色シルト, 10YR4/2 シルトブロックを多く含む
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色シルト, 10YR5/3 に近い黄褐色細砂ブロックを多く含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト, 炭と焼土ブロックをまだら状に非常に多く含む, 以下 SP3358
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト, 炭と焼土ブロックをまだら状に含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 5mm ~ 1cm 大の炭と 10YR5/3 に近い黄褐色細砂を含む
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 炭を多く含む, 焼土ブロックを含む
- 8 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 10YR5/3 に近い黄褐色細砂と炭を含む
- 9 10YR5/3 に近い黄褐色細砂, 10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを多く含む

柱穴 SP3370 : c - c'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 1 ~ 2cm 大の炭と焼土をまだら状に含む, 2.5Y5/1 黄灰色シルトをまだら状に少し含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト, 10YR4/2 灰黄褐色シルトブロック・炭・焼土ブロックを含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 焼土をまだら状に含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト, 炭を層状に含む, 焼土をまだら状に含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色細砂, 10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色細砂, 10YR3/2 黒褐色シルトブロックを多く含む

第 143 図 掘立柱建物 ST4335 断面図

柱穴SP3376、性格不明残橋SK3377：d・d'

- 1 10YR3/2黒褐色シルト、1cm大の炭を含む、以下1層までSP3376
- 2 10YR4/2灰黄色シルト、酸化した砂を含む
- 3 10YR4/2灰黄色シルト、1cm大の炭を多く含む
- 4 10YR3/2黒褐色シルト、粘性普通、1cm大の炭を多く含む、粗砂を含む
- 5 10YR4/2灰黄色シルト、10YR5/3にふい黄褐色細砂ブロックを非常に多く含む
- 6 10YR4/2灰黄色シルト、10YR5/3にふい黄褐色細砂ブロックを多く含む
- 7 10YR3/2黒褐色シルト、10YR5/3にふい黄褐色砂質シルトブロックを多く含む、炭を含む
- 8 10YR3/2黒褐色シルト、10YR5/3にふい黄褐色砂質シルトブロックを含む、炭を帯状に含む
- 9 10YR4/3にふい黄褐色砂、10YR3/2黒褐色シルトブロックを含む
- 10 10YR3/2黒褐色シルト、酸化した砂を含む
- 11 10YR4/2灰黄色シルト、SK3377

柱穴SP3386：e・e'

- 1 10YR4/2 灰黄色シルト、炭と10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを含む
- 2 10YR4/2 灰黄色シルト、炭と10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを酸化した砂を含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、炭を多く含む、酸化した砂を含む
- 4 10YR5/3 にふい黄褐色細砂、粗砂、以下地山
- 5 10YR5/2 灰黄色細砂
- 6 10YR5/3 にふい黄褐色細砂、粗砂、小礫

柱穴SP3387：f・f'

- 1 10YR4/2 灰黄色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色細砂を含む、5mm大の炭を含む
- 2 10YR4/2 灰黄色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを非常に多く含む、炭を含む
- 3 10YR4/2 灰黄色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックと炭を多く含む
- 4 10YR5/3 にふい黄褐色細砂、10YR4/2 灰黄色シルトブロックを少し含む
- 5 10YR4/2 灰黄色シルト、炭を多く含む、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを含む
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを含む
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、2.5Y5/2 灰黄色細砂ブロックを多く含む、炭を含む

柱穴SP3425、土坑SK4337：g・g'

- 1 10YR4/2 灰黄色シルト、2cm大の炭を多く含む、以下4層までSP3425
- 2 ほば炭化した木片を含む
- 3 10YR4/2 灰黄色シルト、5mm～2cm大の炭を含む
- 4 10YR4/2 灰黄色シルト、5mm～2cm大の炭を多く含む、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを少し含む
- 5 10YR4/2 灰黄色シルト、炭をブロックまたは帯状に含む、以下SK4337
- 6 10YR4/2 灰黄色シルト、5mm～1cm大の炭を含む、炭をまだら状に含む、10YR5/3 にふい黄褐色シルトブロックを含む
- 7 7.5YR3/2 黒褐色シルト、炭と炭上をまだら状に多く含む
- 8 10YR4/2 灰黄色シルト、炭をブロックまたは帯状に含む
- 9 10YR5/2 灰黄色細砂、10YR4/2 灰黄色シルトブロックを含む
- 10 10YR5/2 灰黄色細砂、10YR4/2 灰黄色シルトブロックを非常に多く含む
- 11 10YR4/2 灰黄色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックまたは帯状に多く含む、5mm～2cm大の炭を含む
- 12 10YR5/2 灰黄色細砂、10YR4/2 灰黄色シルトブロックを少し含む

柱穴SP3503・3504：h・h'

- 1 10YR4/2 灰黄色シルト、5mm～1cm大の炭を多く含む、以下7層までSP3504
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、炭を帯状に多く含む、炭上をまだら状に含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、炭を含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、炭を帯状に多く含む、炭上をまだら状に含む
- 5 10YR4/2 灰黄色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックと炭を含む
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックと炭を含む
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR4/3 にふい黄褐色砂を含む
- 8 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックと炭を含む、以下SP3503
- 9 10YR4/2 灰黄色シルト、10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックと炭を含む

柱穴SP3523：j・j'

- 1 10YR4/2 灰黄色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む、5mm～1cm大の炭と5mm～2cm大のバリスをごくわずかに含む
- 2 10YR6/3 にふい黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm大のバリスと3mm～1cm大の炭をごくわずかに含む
- 4 10YR4/2 灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少量含む、3mm～1cm大の炭と5mm大のバリスをごくわずかに含む
- 5 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、3cm大の炭を含む
- 6 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性弱、しまり普通、2～5cm大の自然石を多く含む
- 7 10YR4/1 暗灰色シルト、粘性普通、しまり普通、3mm～1cm大の炭をごくわずかに含む

柱穴SP3524：j・j'

- 1 10YR4/3 にふい黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む、3mm～1cm大の炭をごくわずかに含む
- 2 10YR5/2 灰黄色細砂、1cm大の礫を少し含む

柱穴SP3525：k・k'

- 1 10YR4/3 にふい黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、2～3cm大の礫を少し含む、2mm～1cm大の炭をごくわずかに含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、5mm～1cm大の炭をごくわずかに含む
- 3 10YR4/2 灰黄色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む、1cm大の炭をごくわずかに含む

柱穴SP3560・3561・3562：l・l'

- 1 10YR4/2 灰黄色シルト、粘性弱、しまり強、5mm～1cm大の炭と1cm大のバリスをごくわずかに含む、以下SP3560
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm大の炭と砂をごくわずかに含む
- 3 10YR5/4 にふい黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む、SP3561
- 4 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、5mm～1cm大の炭を少し含む、5mm～1cm大の7.5YR6/6 橙褐色シルトブロックをごくわずかに含む、以下SP3562
- 5 10YR4/3 にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm～1cm大の炭をごくわずかに含む
- 6 10YR4/1 暗灰色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm大の炭を含む、砂を少し含む
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm～1cm大の炭を含む
- 8 10YR5/3 にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 9 10YR4/2 灰黄色細砂、1～1cm大の石を多く含む

柱穴SP3563：m・m'

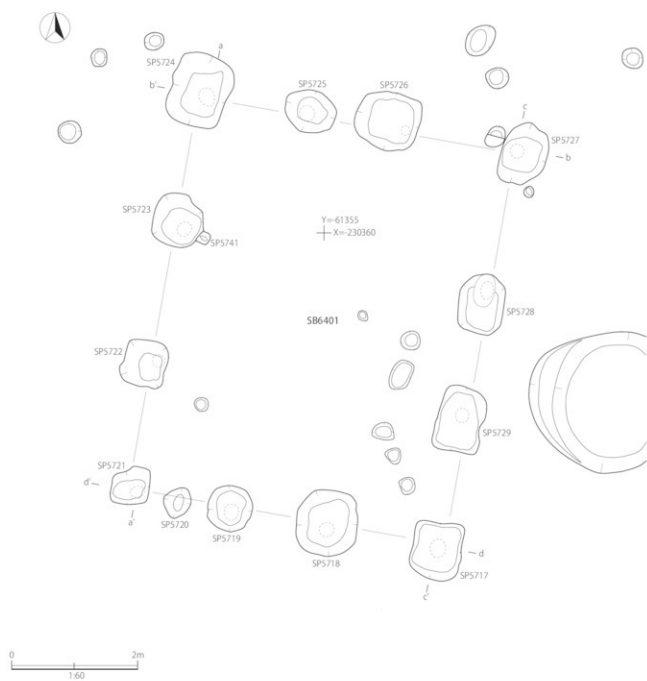
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、5mm～1cm大の炭と川原石と10YR5/6 黄褐色シルトブロックをごくわずかに含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/6 明黄色シルトブロックを含む、炭を少し含む、砂、石をごくわずかに含む

柱穴SP3639：n・n'

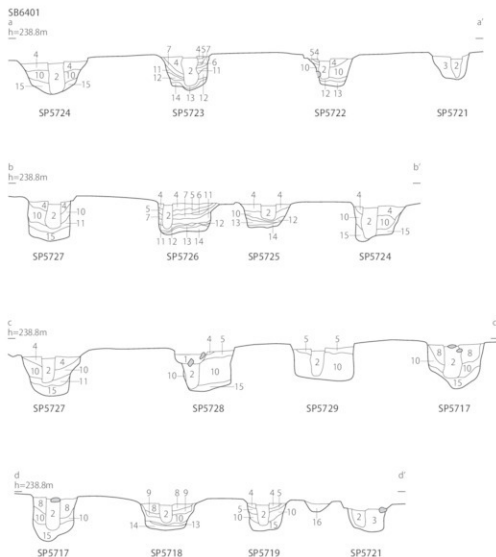
- 1 10YR5/3 にふい黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、1～3cm大の石を多く含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、10YR5/4 にふい黄褐色シルトがまだら状に非常に多く含む、砂を少し含む、5mm大の炭をごくわずかに含む
- 3 10YR4/2 灰黄色細砂、粘性弱、しまり弱
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、下部に3cm程度の石を多く含む、砂を少し含む、炭粒をごくわずかに含む
- 5 10YR4/3 にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒と砂をごくわずかに含む

柱穴SP3836：o・o'

- 1 10YR4/1 暗灰色シルト、粘性強、しまり普通、10YR6/3 にふい黄褐色粘土ブロックを非常に多く含む、5mm～1cm大の炭と砂をごくわずかに含む
- 2 7.5YR4/4 褐色シルト、粘性弱、しまり強、粗砂を多く含む
- 3 10YR5/4 にふい黄褐色シルト、粘性弱、しまり弱
- 4 10YR6/2 灰黄色細砂、粘性弱、しまり弱
- 5 10YR4/2 灰黄色シルト、粘性弱、しまり普通



第 145 図 掘立柱建物 SB6401

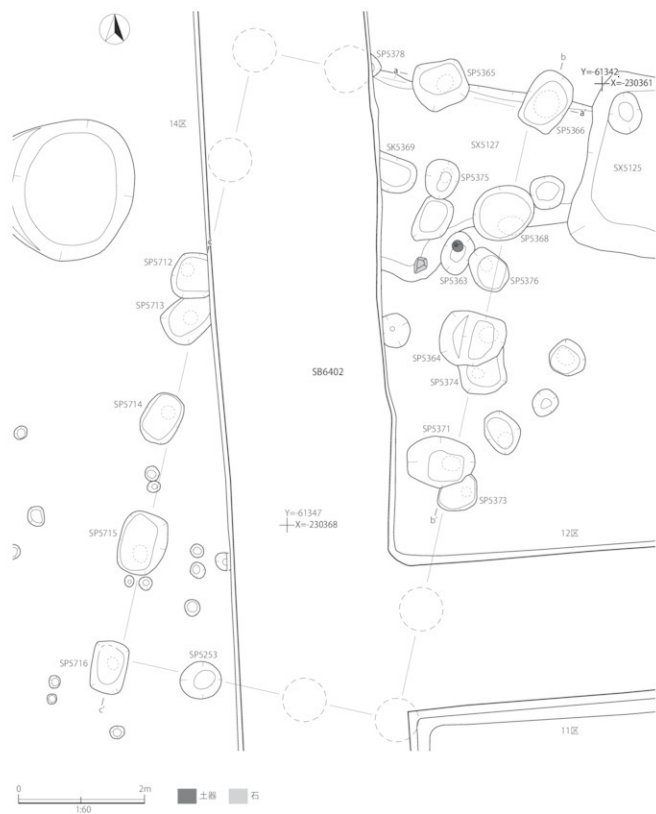


掘立柱建物 SB6401 : a, a', b, b', c, c', d, d'

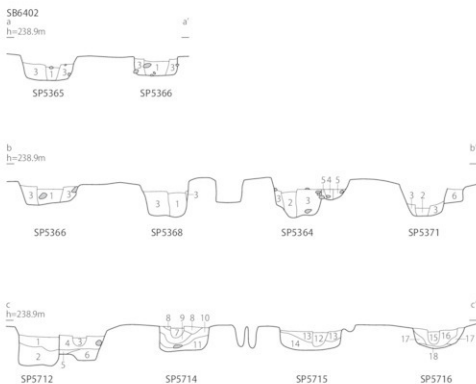
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む、柱抜き取り穴
- 2 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、粘性強、しまり普通、柱痕
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、小礫をごくわずかに含む、SP5721 側方
- 4 2.5Y5/3 黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2.5Y6/3 に赤い黄色シルトを多く含む
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり強、2.5Y7/3 浅黄色シルトを含む
- 6 2.5Y5/3 黄褐色シルト、粘性普通、しまり強
- 7 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト、粘性強、しまり強、2.5Y6/4 に赤い黄色砂質シルトを多く含む
- 8 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む
- 9 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 10 10YR4/2 黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり強、2.5Y7/3 浅黄色シルトを非常に多く含む
- 11 2.5Y5/3 黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり強、2.5Y3/2 黒褐色シルトを非常に多く含む
- 12 10YR4/1 黒灰色シルト、粘性普通、しまり普通
- 13 2.5Y5/3 黄褐色粘上、粘性強、しまり強、2.5Y4/1 黄灰色粘上を非常に多く含む
- 14 10YR3/1 黒褐色粘上、粘性強、しまり強、2.5Y4/1 黄灰色粘上を非常に多く含む
- 15 2.5Y3/2 黒褐色粘上、粘性強、しまり強
- 16 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、SP5720



第 146 図 掘立柱建物 SB6401 断面図



第 147 図 掘立柱建物 SB6402



掘立柱建物 SB6402 (柱穴 SP5364 ~ 5366・5368・5371) : a - a', b - b'

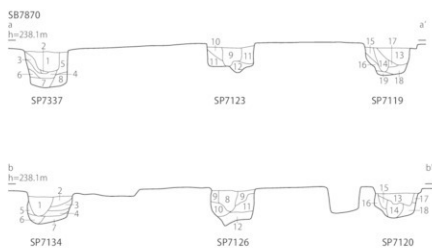
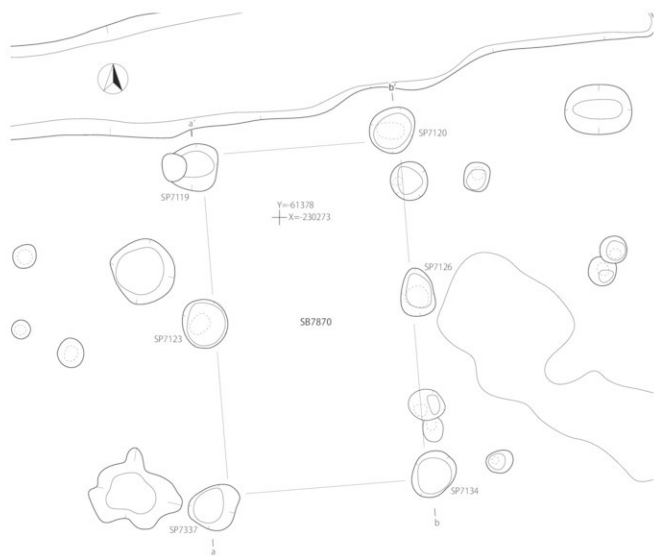
- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり弱、5 ~ 10cm 大の礫を少し含む
- 2 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり弱
- 3 2.5Y4/1 黄灰色シルト、粘性普通、しまり普通、5 ~ 10cm 大の礫を多く含む
- 4 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり普通、5 ~ 10cm 大の礫を少し含む、以下5層まで SP5374
- 5 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5 ~ 10cm 大の礫を多く含む、SP5373
- 6 2.5Y3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、5 ~ 10cm 大の礫を含む

掘立柱建物 SB6402 (柱穴 SP5712・5714 ~ 5716) : c - c'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、以下2層まで SP5712
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり強
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、以下6層まで SP5713
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性強、しまり強
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり強
- 6 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通
- 7 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性強、しまり普通、以下11層まで SP5714
- 8 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強
- 9 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり強
- 10 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通
- 11 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂、粘性普通、しまり普通
- 12 2.5Y3/1 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、以下14層まで SP5715
- 13 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 14 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通
- 15 2.5Y3/1 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、以下 SP5716
- 16 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 17 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通
- 18 10YR4/1 褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通



第148図 掘立柱建物 SB6402 断面図



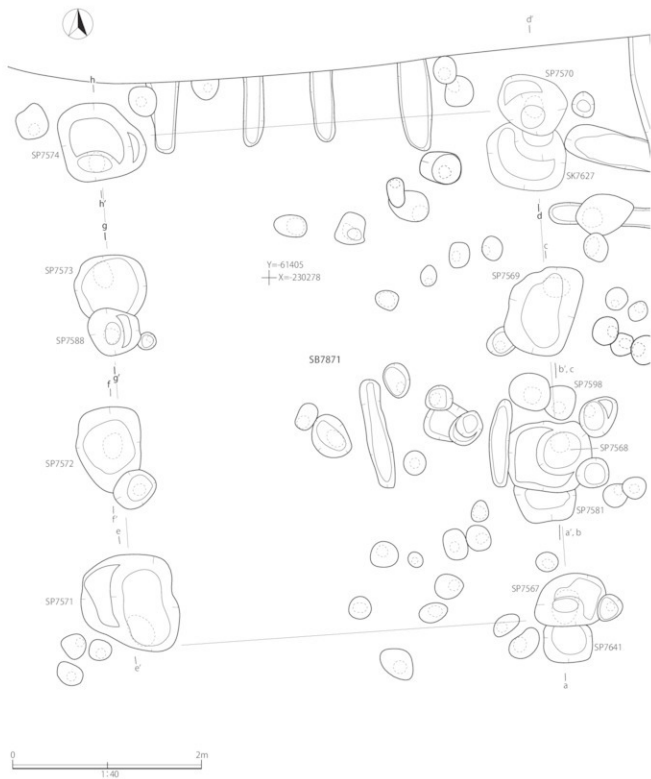
第 149 図 掘立柱建物 SB7870

掘立柱建物 S8780 (SP7119・7123・7337) : a・a'

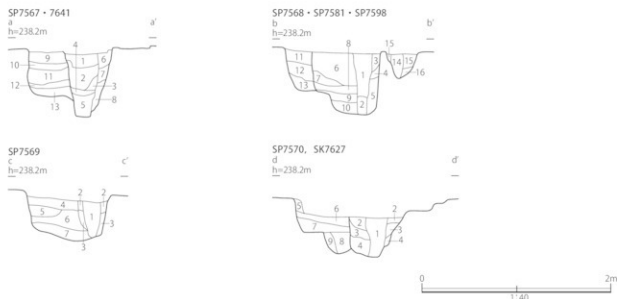
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む、柱抜き取り穴、以下 8 層まで SP7337
- 2 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、柱痕
- 3 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/2 灰黄褐色砂質シルトを多く含む、10YR5/1 褐色シルトを少し含む、以下 8 層まで SP7337 層方
- 4 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/1 褐色シルトと 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/3 に近い黄褐色シルトを多く含む、10YR4/1 褐色シルトを少し含む
- 7 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色シルトを少し含む
- 8 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色シルトを多く含む、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 9 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む、10YR5/1 褐色シルトを少し含む、柱痕、以下 12 層まで SP7123
- 10 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む、以下 12 層まで SP7123 層方
- 11 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/2 灰黄褐色シルトを多く含む
- 12 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色シルトと 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 13 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/4 に近い黄褐色シルトと 10YR5/1 褐色シルトと 10YR4/3 に近い黄褐色砂を少し含む、柱抜き取り穴、以下 SP7119
- 14 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色シルトと 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む、柱痕
- 15 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通。10YR4/1 褐色シルトを多く含む、以下 SP7119 層方
- 16 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通。10YR5/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 17 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 18 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/2 灰黄褐色砂を多く含む、10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 19 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/3 に近い黄褐色シルトを少し含む

掘立柱建物 S8780 (SP7120・7126・7134) : b・b'

- 1 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/2 灰黄褐色シルトを多く含む、柱抜き取り穴、以下 7 層まで SP7134
- 2 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下 7 層まで SP7134 層方
- 3 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/2 灰黄褐色シルトを多く含む
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色シルトと 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 5 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 6 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトを多く含む
- 7 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通。10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 8 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/4 に近い黄褐色シルトを多く含む、10YR4/1 褐色シルトを少し含む、柱痕、以下 12 層まで SP7126
- 9 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下 12 層まで SP7126 層方
- 10 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通。10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトを多く含む、10YR4/1 褐色シルトを少し含む
- 11 10YR5/2 灰黄褐色粗砂、粘性弱、しまり普通。10YR5/4 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 12 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/1 褐色シルトと 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 13 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/4 に近い黄褐色シルトを多く含む、10YR5/2 灰黄褐色シルトと 10YR3/1 黄褐色シルトを少し含む、柱抜き取り穴、以下 18 層まで SP7120
- 14 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR3/1 黄褐色シルトと 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む、柱痕、以下 SP7120
- 15 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む、以下 SP7120 層方
- 16 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/2 灰黄褐色シルトと 10YR5/2 灰黄褐色砂を少し含む
- 17 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR5/4 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 18 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR3/1 黄褐色シルトを多く含む、10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む



第 151 図 掘立柱建物 SB7871



柱穴 SP7567・7641 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、3mm 大の炭を少し含む、以下 5 層まで SP7567 柱廻
- 2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを含む、3mm 大の炭を少し含む
- 3 10YR6/2 灰黄褐色細砂、粘性弱、しまり普通、ブロック状の入り込み
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 5 10YR4/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、酸化鉄を含む、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を少し含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、酸化鉄を含む、以下 8 層まで SP7567 柱廻
- 7 10YR6/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、2mm 程度の炭を少し含む
- 8 10YR5/3 に近い黄褐色細砂、粘性弱、しまり普通、5mm ~ 1cm 大の礫を含む、5mm 大の 10YR5/2 灰黄褐色粘土を少し含む
- 9 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、酸化鉄を含む、2mm 大の炭を少し含む、以下 SP7641
- 10 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、酸化鉄を含む、5mm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を少し含む
- 11 10YR4/3 に近い黄褐色細砂、粘性弱、しまり普通、5mm ~ 1cm の礫を含む
- 12 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の 10YR3/1 黒褐色粘土を含む
- 13 10YR4/2 灰黄褐色細砂、粘性弱、しまり普通、5mm 大の 10YR5/2 灰黄褐色シルトと礫を含む

柱穴 SP7568・7581・7598 : b - b'

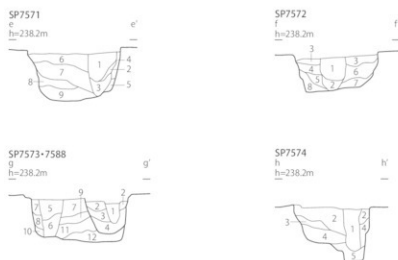
- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、3mm 大の炭を少し含む、以下 2 層まで SP7568 柱廻
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/1 黒褐色粘土を含む、3mm 大の炭を少し含む
- 3 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを含む、酸化鉄を少し含む、以下 6 層まで SP7568 抜き取り穴
- 4 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを含む
- 5 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを含む
- 6 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2 ~ 3cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む、5mm 大の炭を少し含む
- 7 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、酸化鉄を含む、2mm 大の炭を少し含む、以下 10 層まで SP7568 柱廻
- 8 10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを含む、酸化鉄を含む
- 9 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む
- 10 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2mm 大の炭をくわずかに含む
- 11 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を少し含む、以下 13 層まで SP7581
- 12 10YR6/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、1cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を少し含む
- 13 10YR5/2 灰黄褐色細砂、粘性弱、しまり普通、1cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土をくわずかに含む
- 14 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/1 黒褐色粘土を含む、以下 SP7598
- 15 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む
- 16 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む

柱穴 SP7569 : c - c'

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトと 1cm 大の炭を含む、柱廻
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、2mm 大の炭を少し含む
- 3 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを含む、5mm 大の炭を少し含む
- 4 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを含む、5mm 大の炭を少し含む
- 5 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを含む、5mm 大の炭を少し含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の炭を含む
- 7 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2mm 大の炭を少し含む

柱穴 SP7570、土坑 SK7627 : d - d'

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトと 1cm 大の炭を含む、以下 4 層まで SP7570
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、2mm 大の炭を少し含む
- 3 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを含む
- 4 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2 ~ 3cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む、5mm 大の炭を少し含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2mm 大の炭を少し含む、以下 SK7627
- 6 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトと酸化鉄を含む
- 7 10YR4/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトと酸化鉄を多く含む
- 8 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを含む
- 9 10YR3/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色細砂を含む、5mm ~ 1cm 大の礫を含む



柱穴 SP7571 : e - e'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、5mm 大の炭を少し含む
- 2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の炭を少し含む
- 3 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトと 5mm 大の炭を含む
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR4/2 灰黄褐色シルトを含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色シルトを含む
- 6 10YR4/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、3cm 大の 10YR3/2 黒褐色シルトを含む
- 7 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3cm 大の 10YR3/2 黒褐色シルトを含む
- 8 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/2 黒褐色シルトを少し含む
- 9 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色シルトを含む

柱穴 SP7572 : f - f'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、5mm 大の炭を少し含む
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色シルトを含む、2mm 大の炭を少し含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR4/2 灰黄褐色シルトを含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色シルトを含む
- 6 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3cm 大の 10YR3/2 黒褐色シルトを含む
- 7 10YR3/2 黒褐色粘土、粘性普通、しまり普通、酸化鉄を含む、5mm 大の炭を少し含む
- 8 10YR6/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/1 黒褐色シルトを含む

柱穴 SP7573 - 7588 : g - g'

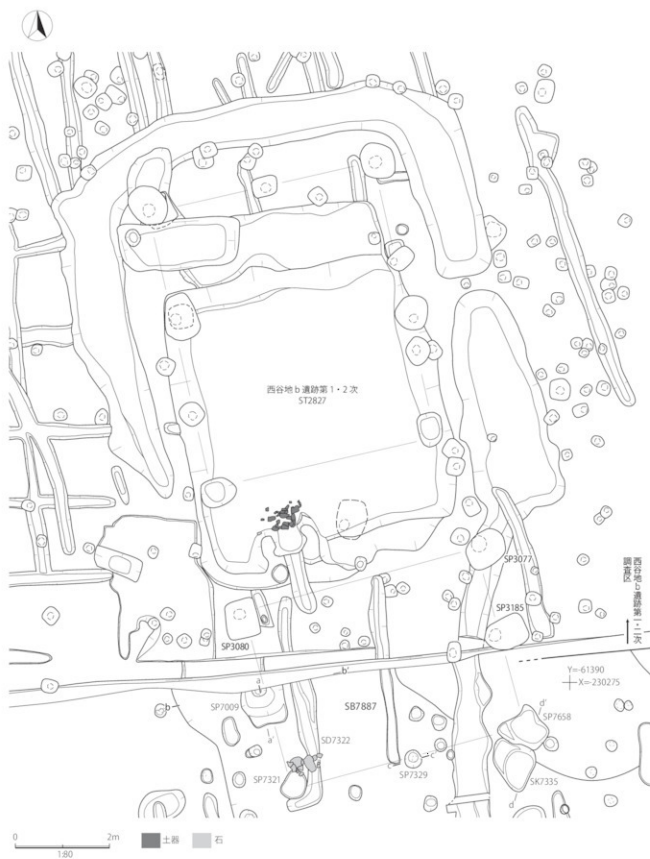
- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを含む、2mm 大の炭を少し含む、柱底、以下 4 層まで SP7588
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを含む、2mm 大の炭を少し含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の炭を含む
- 4 10YR3/3 暗褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の 10YR3/1 黒褐色粘土を含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、5mm 大の炭を少し含む、以下 6 層まで SP7573 柱底
- 6 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR4/2 灰黄褐色シルトを含む
- 7 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む、以下 SP7573 柱方
- 8 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/1 黒褐色シルトと 5mm 大の炭を少し含む
- 9 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/1 黒褐色シルトを含む
- 10 10YR4/3 に近い黄褐色細砂、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む
- 11 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを含む
- 12 10YR3/2 黒褐色粘土、粘性普通、しまり普通、3cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む

柱穴 SP7574 : h - h'

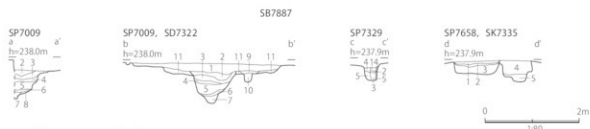
- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、2cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、5mm 大の炭を少し含む、柱底
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む
- 3 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR4/2 灰黄褐色シルトを含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/4 に近い黄褐色シルトと 5mm 大の炭を少し含む
- 5 10YR3/3 暗褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、1cm 大の 10YR6/4 に近い黄褐色シルトと 5mm 大の炭を少し含む



第 153 図 掘立柱建物 S87871 断面図 (2)



第 154 図 掘立柱建物 SB7887 と関連遺構



柱 SP7009, 溝 SD7322 : a - a', b - b'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 8cm 以下の礫を非常に多く含む, SG7006
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 5mm 大の 10YR4/3 にふい黄褐色シルトをごくわずかに含む, 以下 8 層まで SP7009
- 3 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 2cm 大の 10YR8/4 浅黄褐色粘土を含む, 5mm 大の炭を少し含む
- 4 10YR2/1 黒色粘土, 粘性普通, しまり普通, 1cm 大の炭を少し含む, 酸化鉄をごくわずかに含む
- 5 10YR1/7 黄色粘土, 粘性普通, しまり普通, 地山アロックスを含む
- 6 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 地山アロックスを含む
- 7 10YR4/1 褐色粘土, 粘性普通, しまり普通, 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 8 2.5Y6/2 灰黄色シルト, 粘性弱, しまり普通, 3mm 大の 10YR4/1 褐色粘土を少し含む
- 9 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 5mm 大の 10YR4/3 にふい黄褐色シルトを少し含む
- 10 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 5mm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む, SD7322
- 11 10YR3/2 黒褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 5mm 大の 10YR4/3 にふい黄褐色シルトを少し含む, 2mm 大の炭をごくわずかに含む

柱 SP7329 : c - c'

- 1 10YR2/1 黒色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む, 5mm 大の炭をごくわずかに含む, 以下 3 層まで柱頭
- 2 10YR3/1 黒褐色粘質シルト, 粘性弱, しまり普通, 1 ~ 2cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 3 10YR2/3 黒褐色粘質シルト, 粘性弱, しまり普通, 1cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトをごくわずかに含む
- 4 10YR5/2 灰黄色シルト, 粘性弱, しまり普通, 1cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトをごくわずかに含む, 以下 1 層まで
- 5 10YR6/3 にふい黄褐色細砂, しまり普通, 5mm 大の 10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む

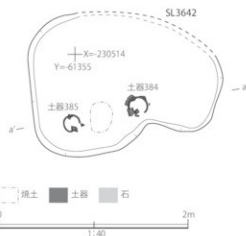
柱 SP7658, 土坑 SK7335 : d - d'

- 1 10YR4/1 褐色粘土, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/3 にふい黄褐色シルトを多く含む, 以下 3 層まで SK7335
- 2 10YR6/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/1 褐色シルトを少し含む
- 3 10YR2/3 黒褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/1 褐色シルトを少し含む
- 4 10YR5/1 褐色粘土, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む, 10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む, 以下 SP7658
- 5 10YR4/1 褐色粘土, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトと炭を少し含む



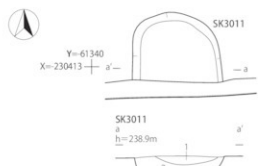
坑土遺構 SL3167 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, 炭を含む, 7.5YR7/4 にふい褐色焼土ブロックを少し含む
- 2 7.5YR7/4 にふい褐色シルト, 10YR3/1 黒褐色シルトブロックを少し含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 炭を帯状に多く含む
- 4 10YR7/3 にふい黄褐色シルト, 一部還元化
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト, 5mm 大の炭を含む



坑土遺構 SL3642 : a - a'

- 1 7.5YR5/6 暗褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/2 灰黄褐色シルトをまだらに含む, 焼土層
- 2 10YR3/3 暗褐色シルト, 粘性弱, しまり普通
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト, 粘性弱, しまり普通, 炭粒をごくわずかに含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 炭粒をごくわずかに含む, 砂を少し含む



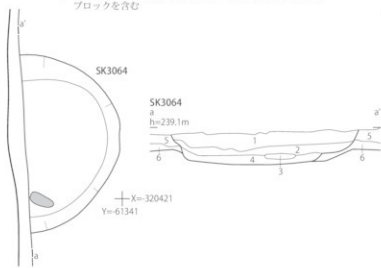
土坑 SK3011 : a - a'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性普通, 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトを帯状に含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト, 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを少し含む, 炭を含む



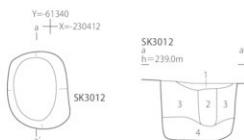
土坑 SK3025 : a - a'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトをまだら状に含む, 焼土を含む
- 2 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルト, 10YR3/2 黒褐色シルトブロックを含む



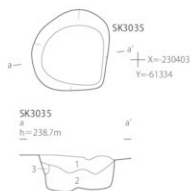
土坑 SK3064 : a - a'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 5mm ~ 1cm 大の炭化物を含む, 10YR2/1 黒色シルトブロックを中央部に含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト, 5mm ~ 1cm 大の炭を多く含む, 層下部に炭を帯状に含む
- 3 10YR5/4 にふい黄褐色シルト, 粘性普通, 層上部が赤化する焼土層
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性普通, 炭を少し含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト, ほぼ純粋
- 6 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトを含む



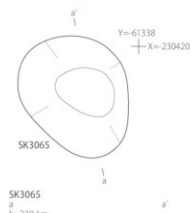
土坑 SK3012 : a - a'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性弱, しまり普通, 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを少し含む
- 2 7.5YR3/2 黒褐色シルト, 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトと 10YR2/2 黒褐色シルトをまだら状に含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト, 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを非常に多く含む
- 4 10YR2/2 黒褐色粘土, 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを多く含む



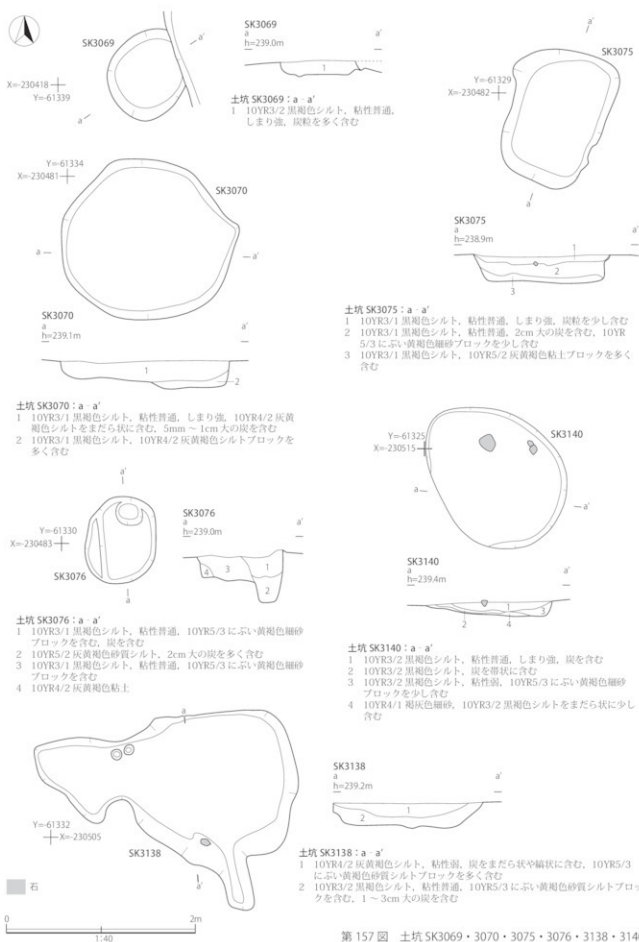
土坑 SK3035

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性普通, 10YR5/3 にふい黄褐色細砂ブロックを含む
- 2 10YR3/1 黒褐色粘土, 純粋
- 3 10YR5/3 にふい黄褐色細砂, ブロック状に入り込み

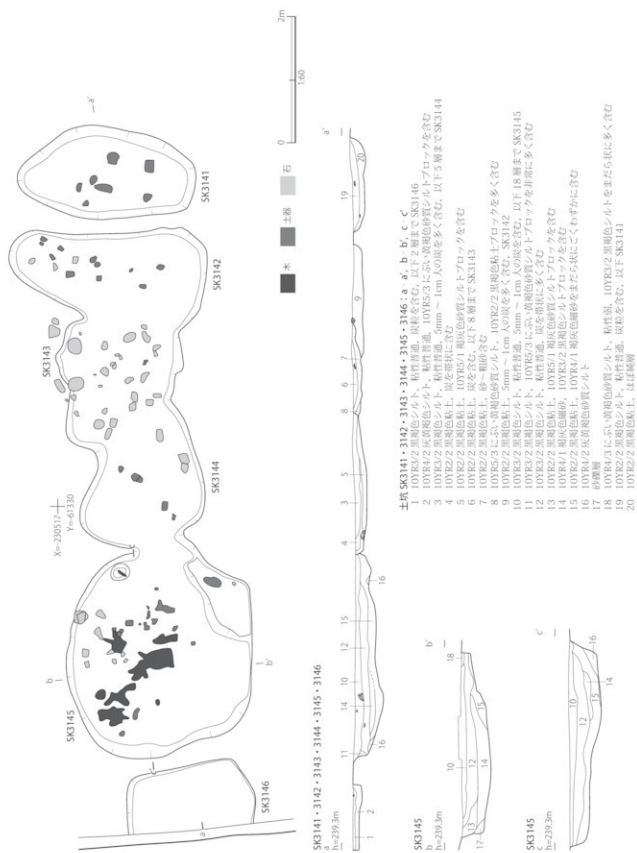


土坑 SK3065 : a - a'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性弱, しまり強, 5mm 大の炭を含む, 10YR5/3 にふい黄褐色砂質シルトブロックを含む

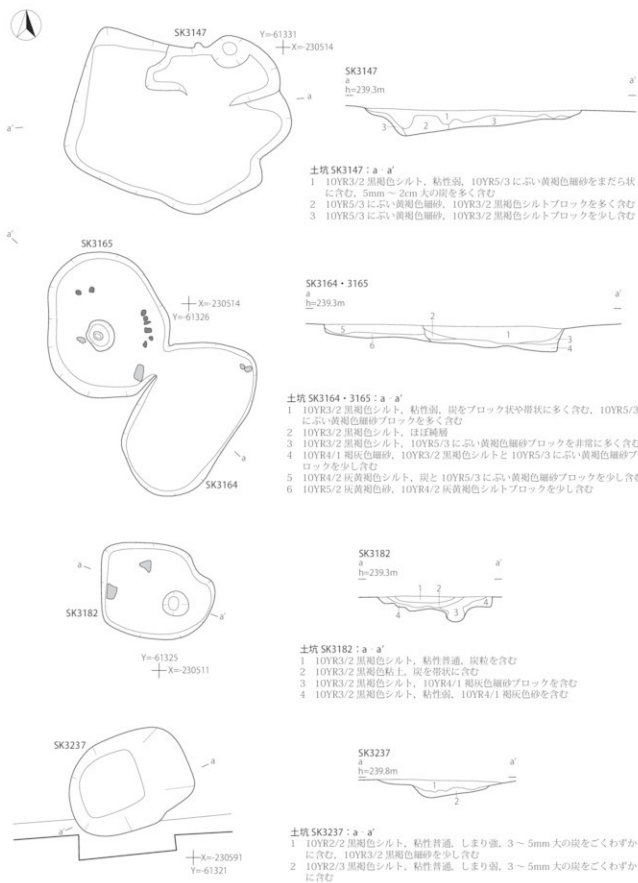


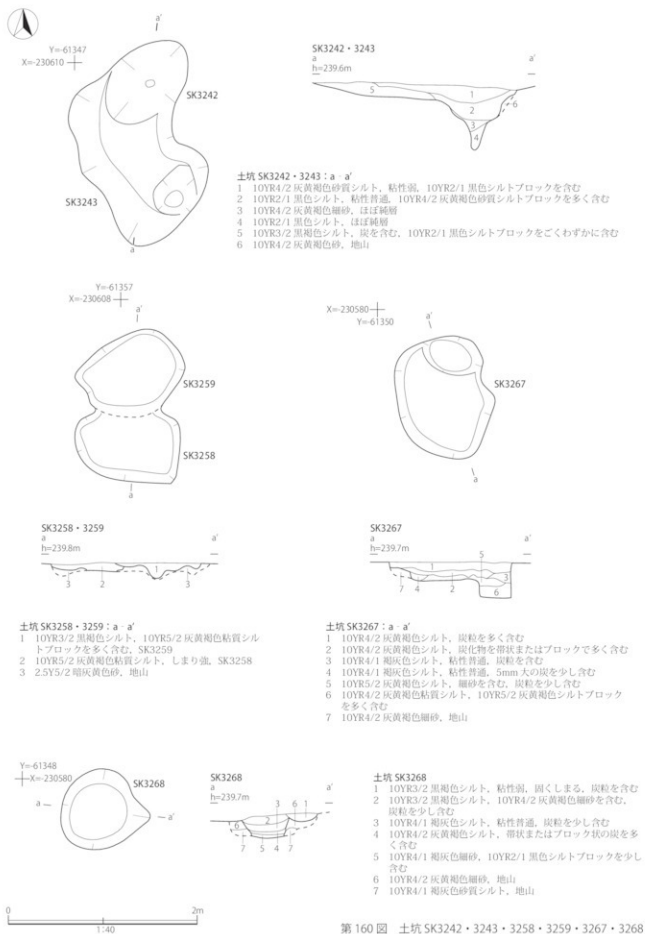
第 157 図 土坑SK3069・3070・3075・3076・3138・3140



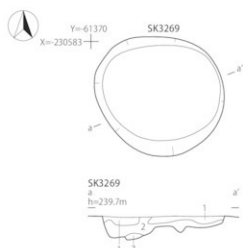
- 土坑SK3141・3142・3143・3144・3145・3146：a, b, b', c, c'
- 10YR5/2 黒褐色シルト、粘質普通、炭灰を含む、以下2層までSK3146
 - 10YR3/2 灰褐色シルト、粘質普通、10YR5/3 に近い黒褐色砂質シルトプロックを含む
 - 10YR5/2 黒褐色粘土、粘質普通、炭灰層状に含む
 - 10YR2/2 黒褐色粘土、炭灰層状に含む、5mm～1cm 入の炭を含む、以下9層までSK3144
 - 10YR5/1 黒褐色砂質シルトプロックを含む
 - 10YR2/2 黒褐色粘土、炭を含む、以下8層までSK3143
 - 10YR2/2 黒褐色粘土、砂-細砂を含む
 - 10YR2/2 黒褐色粘土、粘質普通、炭灰を含む
 - 10YR2/2 黒褐色粘土、粘質普通、炭灰を含む、以下8層までSK3142
 - 10YR5/2 黒褐色シルト、粘質普通、5mm～1cm 入の炭を含む、以下18層までSK3145
 - 10YR5/2 黒褐色シルト、粘質普通、炭を含む、以下18層までSK3145
 - 10YR2/2 黒褐色シルト、粘質普通、炭を含む、以下18層までSK3145
 - 10YR2/2 黒褐色シルト、粘質普通、炭を含む
 - 10YR5/2 黒褐色シルト、粘質普通、炭を含む
 - 10YR5/1 黒褐色砂質シルトプロックを含む
 - 10YR2/2 黒褐色粘土、粘質普通、炭を含む
 - 10YR4/1 黒褐色砂質シルト
 - 砂層
 - 10YR4/3 に近い黒褐色砂質シルト、粘質弱、10YR2/2 黒褐色シルトをまだら状に多く含む
 - 10YR5/2 黒褐色粘土、粘質普通、炭を含む、以下SK3141
 - 10YR2/2 黒褐色粘土、ほぼ粘質

第158図 土坑SK3141～3146





第 160 図 土坑 SK3242・3243・3258・3259・3267・3268



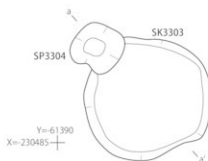
土坑 SK3269 : a - a'

- 1 10YR5/3 に近い褐色シルト、粘性弱、しまり強、やや弱
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR2/3 黒褐色シルトをまだら状に少し含む
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色粗砂、石を多く含む



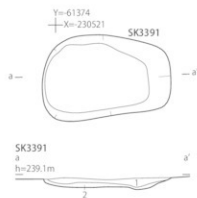
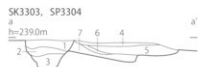
土坑 SK3324 : a - a'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、石を少し含む、2mm ~ 1cm 大の炭を少し含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり弱、10YR7/3 に近い黄褐色ブロックをわずかに含む
- 3 10YR1.7/1 黒色粘土、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、炭を含む



土坑 SK3303、柱穴 SP3304 : a - a'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、炭粒を含む、10YR5/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に少し含む、以下3層まで SP3304
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを非常に多く含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを非常に多く含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを多く含む、以下 SK3303
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、5mm 大の炭を含む
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト、炭を帯状に含む
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、炭粒を含む、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを少し含む



土坑 SK3391 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、2mm ~ 1cm 大の炭をわずかに含む
- 2 10YR1.7/1 黒色シルト、粘性弱、しまり弱、炭を含む

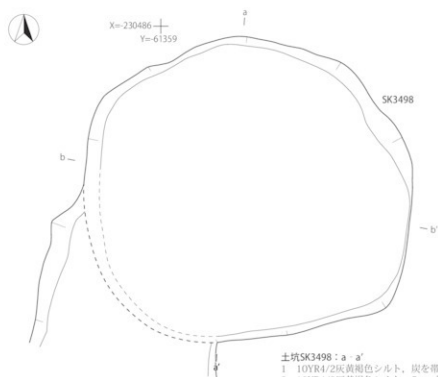


土坑 SK3357 : a - a'

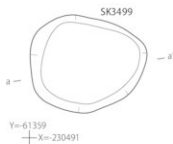
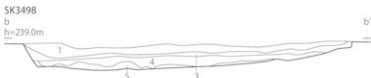
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、炭粒を含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、酸化した細砂を含む
- 3 10YR5/3 に近い黄褐色粗砂



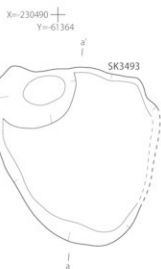
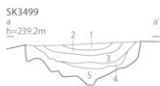
第 161 図 土坑 SK3269・3303・3324・3357・3391、柱穴 SP3304



- 土坑SK3498 : a - a'
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、炭を帯状に多く含む
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、5mm大の炭を含む
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト、5mm大の炭を含む
 - 4 10YR3/2 黒褐色シルト、10YR5/3に多い黄褐色細砂ブロックを非常に多く含む



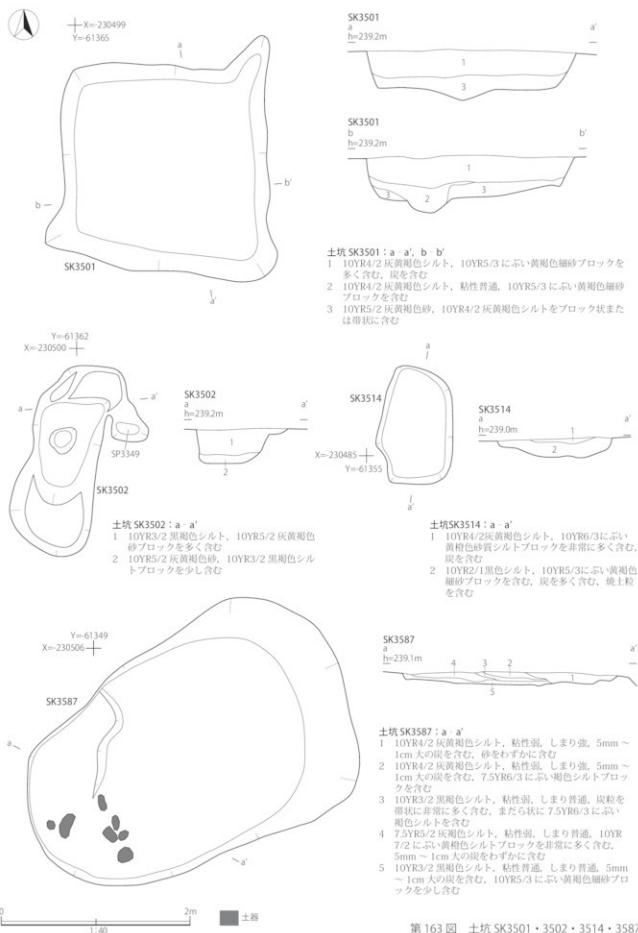
- 土坑 SK3499 : a - a'
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR5/3 に多い黄褐色細砂ブロックを多く含む
 - 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、炭を帯状に含む、炭を含む
 - 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、炭を帯状に含む
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、炭粒を含む
 - 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト、10YR5/3 に多い黄褐色細砂ブロックを多く含む、炭を含む

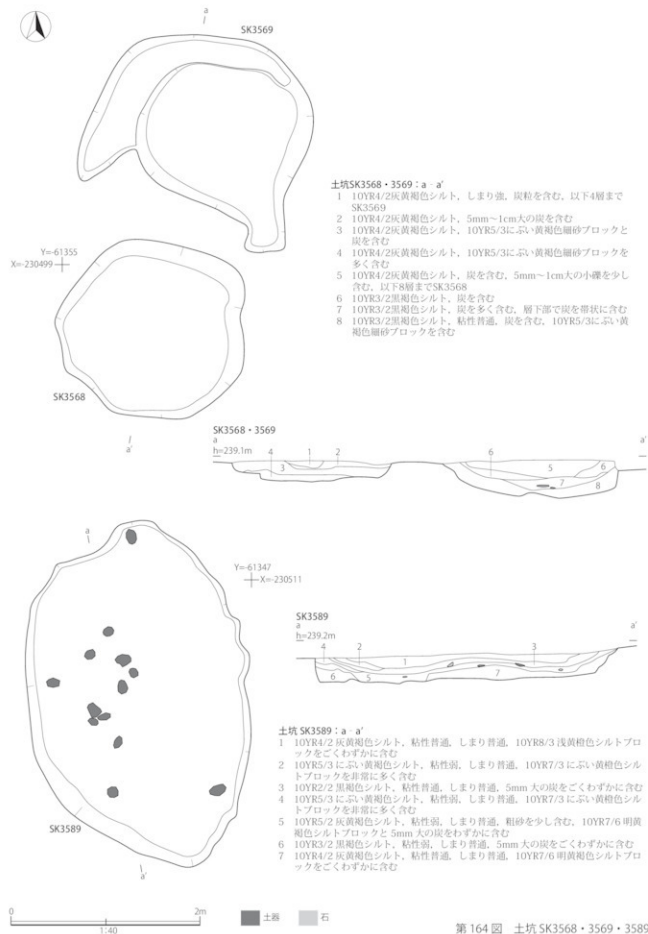


- 土坑 SK3493 : a - a'
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり泥、砂を含む
 - 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、炭を帯状に含む、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを含む
 - 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、部分的に粘土質、10YR5/3 に多い黄褐色シルト細砂ブロックを含む
 - 4 10YR5/2 灰黄褐色細砂、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを少し含む

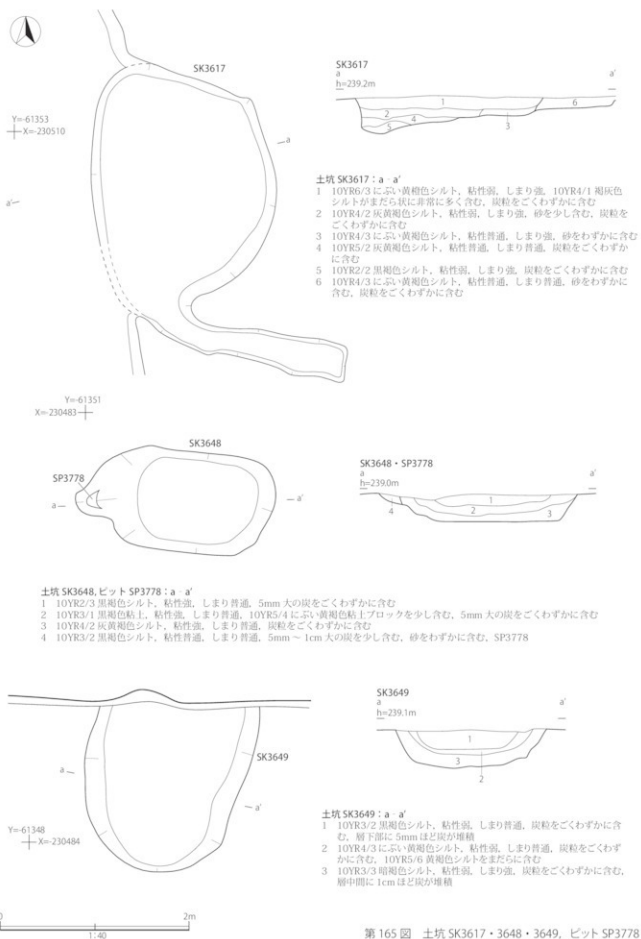


第 162 図 土坑 SK3493・3498・3499

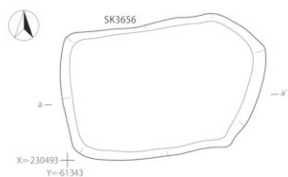




第164図 土坑SK3568・3569・3589

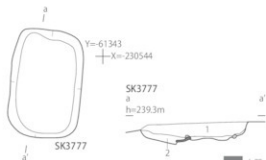


第 165 図 土坑 SK3617・3648・3649, ビット SP3778



土坑 SK3656 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、粗砂と炭粒をごくわずかに含む
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり強、炭粒をごくわずかに含む
- 3 10YR1.7/1 黒色粘土、粘性普通、しまり普通、炭を含む、層中間に 10YR 7/2 に近い黄褐色シルトを挟む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、砂をごくわずかに含む



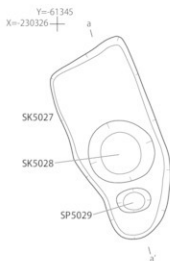
土坑 SK3777 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭を含む、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックを多く含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、下部に炭を含む

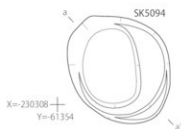
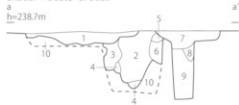


土坑 SK5021 : a - a'

- 1 7.5YR5/1 褐灰色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、7.5YR5/8 明褐色シルトを含む、10YR6/8 明黄褐色シルトをわずかに含む
- 2 7.5YR4/1 褐灰色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、7.5YR5/8 明褐色シルトを非常に多く含む
- 3 7.5YR4/2 灰褐色シルト質砂、粘性弱、しまり普通、7.5YR5/8 明褐色シルトを非常に多く含む



SK5027・5028, SP5029



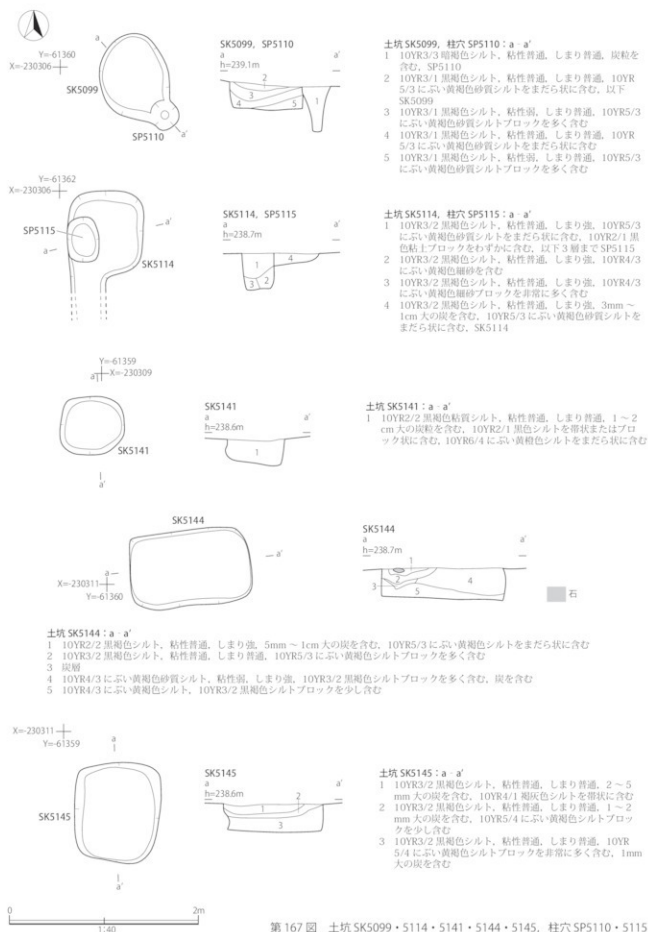
土坑 SK5094 : a - a'

- 1 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 に近い黄褐色シルトブロックを含む
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR3/1 黒褐色シルトを非常に多く含む、人為的堆積層

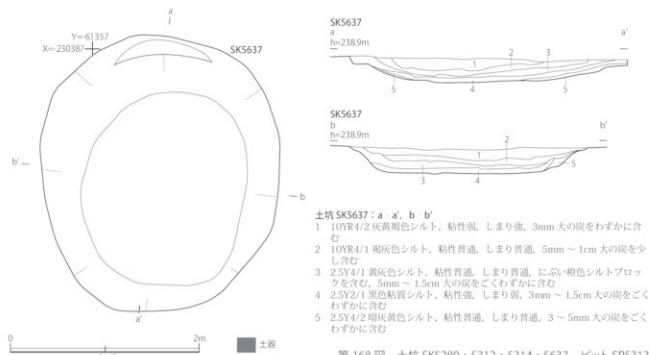
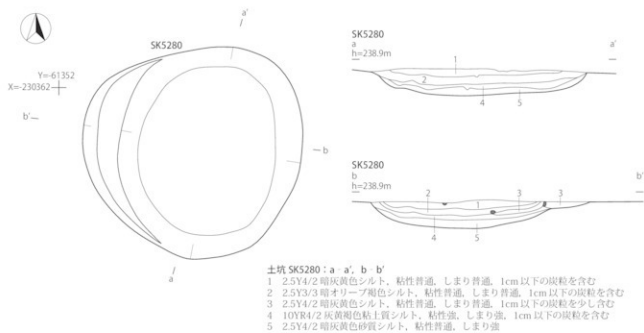
土坑 SK5027・5028, 柱穴 SP5029

- 1 5YR4/1 褐灰色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、5YR5/8 明赤褐色シルトを含む、3~5mm の炭を含む、SK5027
- 2 5YR5/2 灰褐色砂質シルト、粘性普通、しまり強、5YR5/8 明赤褐色シルトを含む、3~5mm の炭を含む、以下 6 層まで SK5028
- 3 5YR5/1 褐灰色砂質シルト、粘性普通、しまり強、5YR5/8 明赤褐色シルトを含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、5YR5/2 灰褐色シルトを帯状に含む
- 5 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり強、炭粒を含む
- 6 10YR5/2 灰褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトブロックを多く含む
- 7 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり強、10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトブロックを非常に多く含む、以下 9 層まで SP5029
- 8 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトブロックを少し含む
- 9 10YR5/3 に近い黄褐色細砂、粘性弱、しまり強、10YR4/1 褐灰色シルトブロックを少し含む
- 10 10YR5/3 に近い黄褐色細砂、粘性弱、しまり強、地山

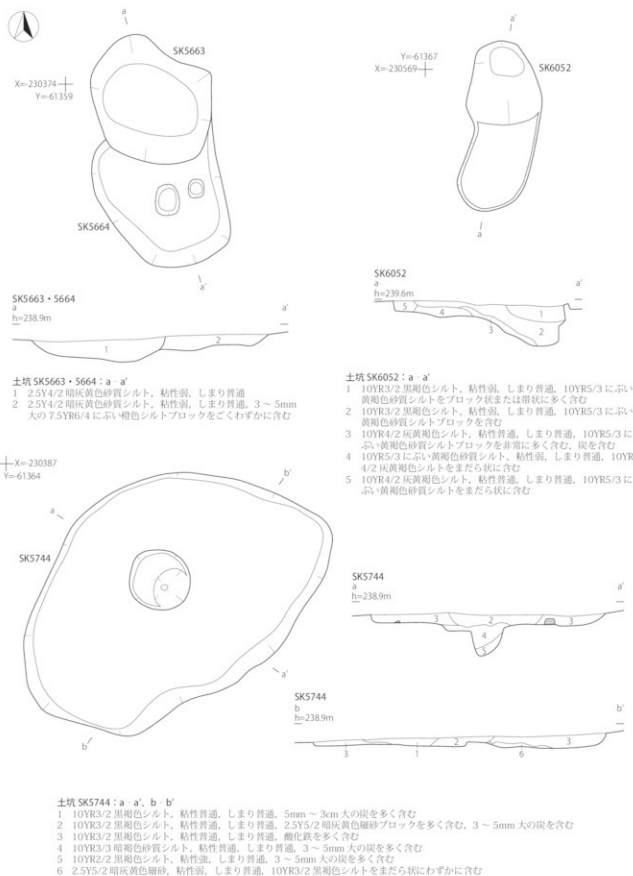
第 166 図 土坑 SK3656・3777・5021・5027・5028・5094, 柱穴 SP5029



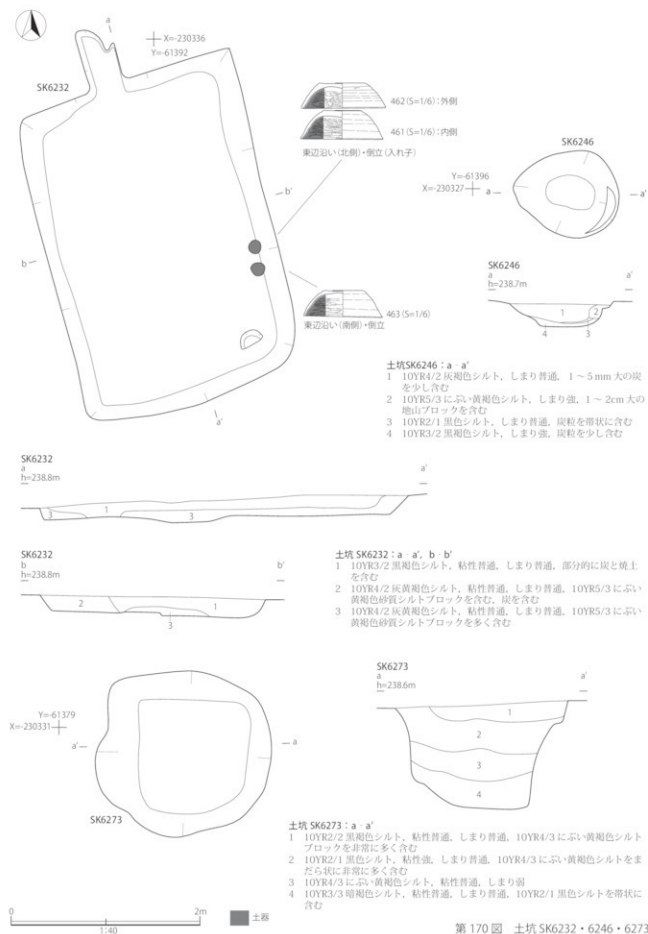
第 167 図 土坑 SK5099・5114・5141・5144・5145, 柱穴 SP5110・5115



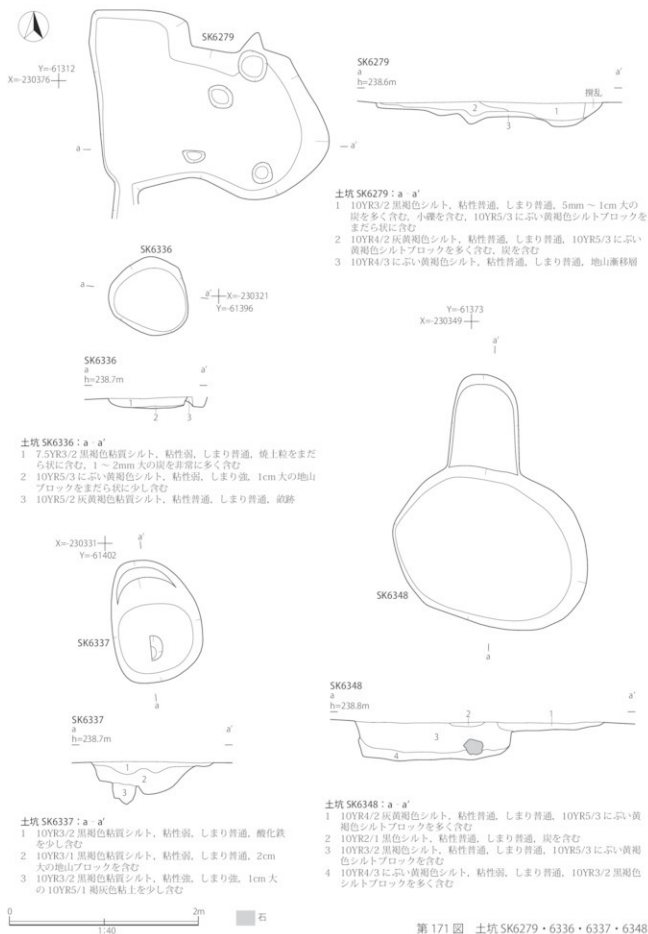
第168図 土坑SK5280・5312・5314・5637、ピットSP5313



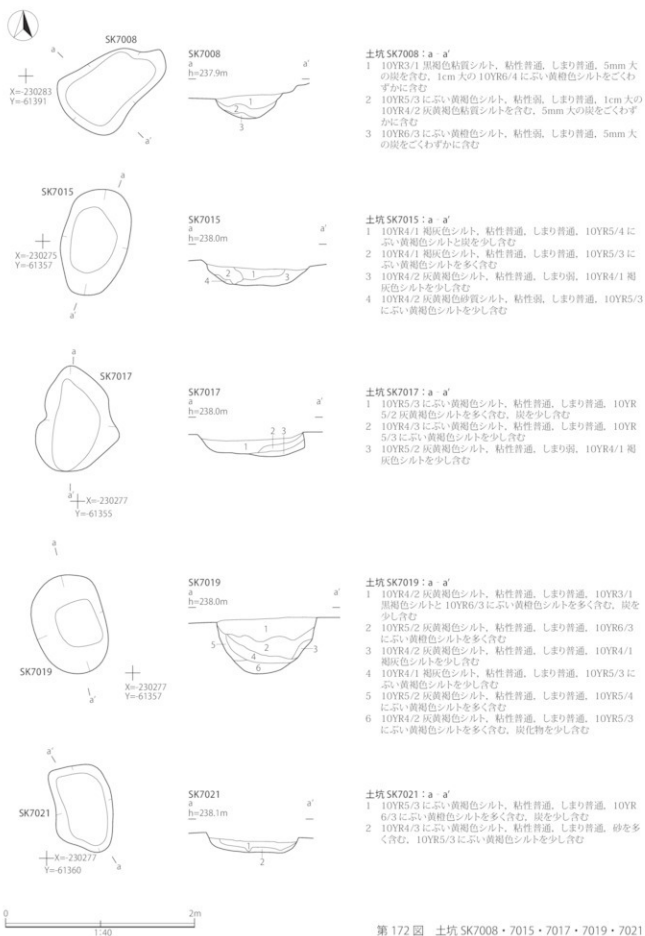
第 169 図 土坑SK5663・5664・5744・6052



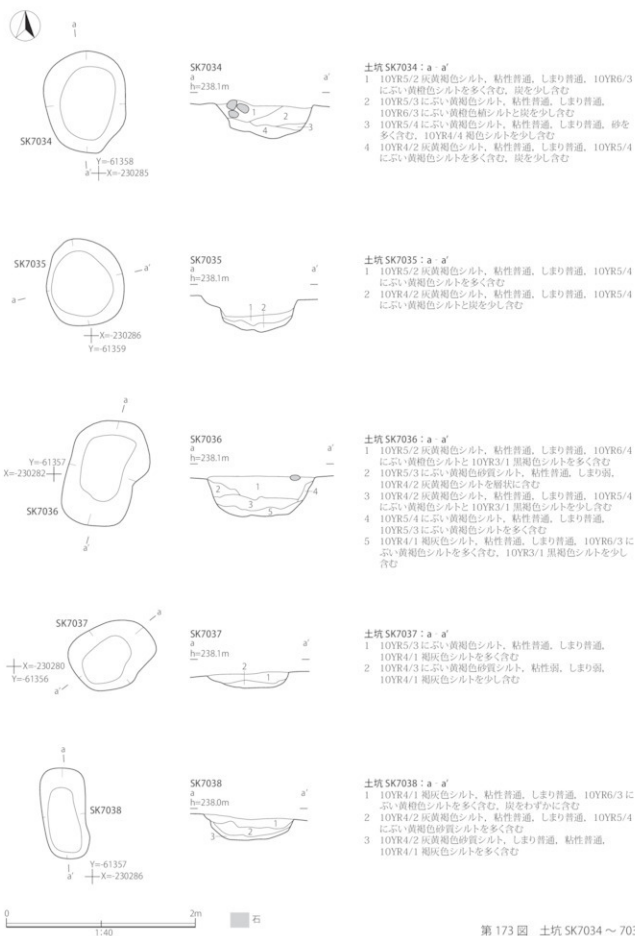
第170図 土坑SK6232・6246・6273



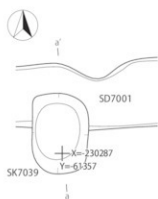
第 171 図 土坑 SK6279・6336・6337・6348



第 172 図 土坑 SK7008・7015・7017・7019・7021



第 173 図 土坑 SK7034 ~ 7038



土坑 SK7039, 溝 SD7001 : a - a'

- 1 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む、炭をわずかに含む、以下2層までSK7039
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 3 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 にふい黄褐色シルトを層状に含む、以下SD7001
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 にふい黄褐色シルトを多く含む



土坑 SK7058 : a - a'

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 にふい黄褐色シルトを多く含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 にふい黄褐色シルトと炭を少し含む
- 3 10YR5/4 にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 4 10YR4/3 にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 にふい黄褐色シルトを多く含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 にふい黄褐色シルトを少し含む



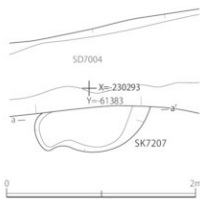
土坑 SK7121 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトと10YR5/4 にふい黄褐色シルトを少し含む
- 2 10YR5/3 にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 にふい黄褐色シルトを多く含む、10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR5/4 にふい黄褐色シルトを少し含む
- 4 10YR5/3 にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 にふい黄褐色シルトと10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトを多く含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトを多く含む、10YR5/4 にふい黄褐色シルトを少し含む



土坑 SK7133 : a - a'

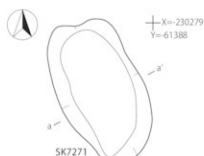
- 1 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトと酸化鉄を多く含む、炭を少し含む
- 2 10YR5/3 にふい黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを多く含む、10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む



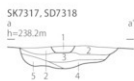
土坑 SK7207 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の10YR5/1 褐灰色粘土を少し含む
- 2 10YR4/3 にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の10YR4/2シルトをくわくわかに含む

第174図 土坑SK7039・7058・7121・7133・7207, 溝SD7001



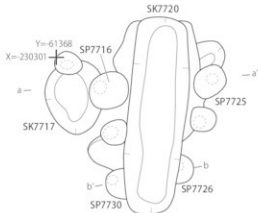
- 土坑 SK7271 : a - a'
- 1 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、しまり普通、上部に炭を多く含む、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
 - 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを多く含む、10YR4/1 褐色シルトを少し含む
 - 3 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと炭を多く含む、10YR4/1 褐色シルトと炭を少し含む
 - 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐色シルトと炭を多く含む、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
 - 5 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐色シルトを少し含む



- 土坑 SK7317, 溝 SD7318 : a - a'
- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2 ~ 3mm 大の炭を少し含む、SD7318
 - 2 10YR3/3 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1 ~ 5cm 大の地山ブロックを含む、2 ~ 3mm 大の炭を少し含む、以下 SK7317
 - 3 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2 ~ 5cm 大の地山ブロックを含む、2 ~ 3mm 大の炭を少し含む
 - 4 10YR2/1 黒色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2 ~ 3mm 大の炭を少し含む、1cm 大の地山ブロックをわずかに含む
 - 5 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1 ~ 5cm 大の地山ブロックを多く含む、2 ~ 3mm 大の炭と酸化鉄を少し含む



- 土坑 SK7336 : a - a'
- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを多く含む、10YR4/1 褐色シルトを少し含む
 - 2 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐色シルトを少し含む
 - 3 10YR5/1 褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む、10YR4/1 褐色シルトを少し含む

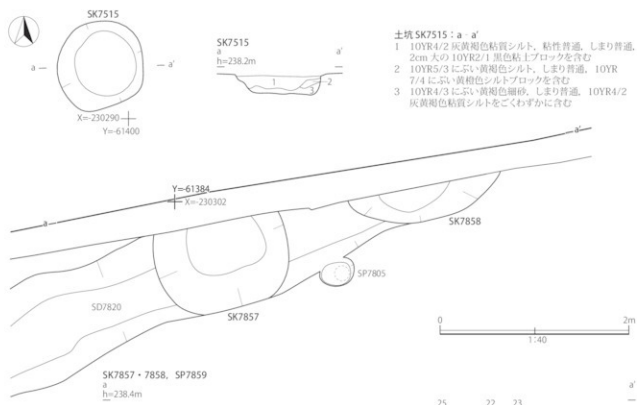


土坑 SK7717・7720, 柱穴 SP7716・7725・7726・7730 : a - a', b - b'

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと炭を少し含む、以下 5層まで SK7720
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む
- 3 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む、炭をわずかに含む
- 4 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む
- 6 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトをわずかに含む、以下 9層まで SK7717
- 7 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 8 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む
- 9 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 10 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトをわずかに含む、以下 11層まで SP7716
- 11 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトをわずかに含む
- 12 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトをわずかに含む、以下 14層まで SP7725
- 13 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトをわずかに含む
- 14 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 15 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む、SP7730
- 16 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを含む、SP7726



第 175 図 土坑 SK7271・7317・7336・7717・7720, 溝 SD7318, 柱穴 SP7716・7725・7726・7730



土坑 SK7515 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR2/1 黒色粘土ブロックを含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、しまり普通、10YR7/4 に近い黄褐色シルトブロックを含む
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色細砂、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色粘質シルトをごくわずかに含む

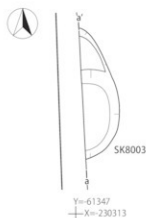
SK7857・7858, SP7859

a h=238.4m

土坑 SK7857・7858, 柱穴 SP7859 : a - a'

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下 20 層まで SK7857
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトをわずかに含む
- 3 10YR4/1 褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/1 褐色シルトを少し含む、2 ~ 5mm 大の礫をわずかに含む
- 4 10YR3/4 暗褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/3 褐色シルトを少し含む
- 5 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/1 褐色粘土と 5mm ~ 1cm 大の礫を多く含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトをわずかに含む
- 7 10YR4/1 褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 8 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、炭を少し含む
- 9 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 10 2.5Y3/3 暗オリーブ黒褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 11 10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/3 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 12 10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、2.5Y4/4 黄褐色砂質シルトと 2.5Y3/3 暗褐色砂質シルトを多く含む
- 13 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 14 10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと 10YR7/2 に近い黄褐色粘土を多く含む
- 15 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/2 灰黄褐色粘質シルトと炭を少し含む
- 16 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 17 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトと 10YR4/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 18 10YR3/3 暗褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/4 褐色シルトを少し含む
- 19 2.5Y4/2 暗灰黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 20 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトと 5mm ~ 1cm 大の礫を少し含む
- 21 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/1 褐色粘土を少し含む、以下 23 層まで SP7859
- 22 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 23 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトと酸化を少し含む
- 24 10YR4/2 灰黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む、地山層移層
- 25 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを多く含む、地山
- 26 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトと炭をわずかに含む、以下 28 層まで SK7858
- 27 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトと炭をわずかに含む
- 28 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトと炭をわずかに含む
- 29 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/2 灰黄褐色粘質シルトを少し含む、以下 33 層まで SD7820
- 30 2.5Y4/2 灰黄褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/2 灰黄褐色粘質シルトを多く含む
- 31 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質シルト、しまり普通、粘性弱、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 32 10YR4/1 褐色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと炭をわずかに含む
- 33 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 34 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、地山

第 176 図 土坑 SK7515・7857・7858, 柱穴 SP7859



土坑 SK8003 : a - a'

- 1 10YR4/1 褐灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR 6/2 灰黄褐色シルトをまだら状に多く含む、炭を少し含む
- 2 10YR3/1 黒褐色粘上、粘性強、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと炭を少し含む
- 3 10YR4/1 褐灰色粘上、粘性強、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと炭をわずかに含む
- 4 10YR3/1 黒褐色粘上、粘性強、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトをわずかに含む
- 5 10YR5/1 褐灰色粘上、粘性強、しまり普通、10YR3/1 黒褐色粘上と 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 6 10YR4/1 褐灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR 6/3 に近い黄褐色シルトをわずかに含む
- 7 10YR5/1 褐灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR 6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 8 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR 6/3 に近い黄褐色シルトと炭を少し含む
- 9 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR 5/1 褐灰色シルトを少し含む



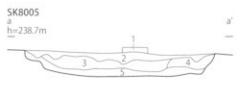
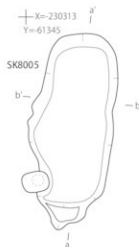
土坑 SK8004 : a - a'

- 1 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に多く含む、炭を少し含む
- 2 10YR3/1 黒褐色粘上、粘性強、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと炭を少し含む
- 3 10YR4/1 褐灰色粘上、粘性強、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色粘質シルトをわずかに含む
- 4 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを少し含む
- 5 10YR5/1 褐灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 6 10YR4/1 褐灰色粘上、粘性強、しまり普通、10YR3/1 黒褐色粘上を少し含む
- 7 10YR5/1 褐灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色粘上を多く含む
- 8 10YR3/1 黒褐色粘上、粘性強、しまり普通、上部に 10YR3/2 黒褐色粘上を層状に含む
- 9 10YR6/1 褐灰色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR5/1 褐灰色粘質シルトを少し含む



土坑 SK8004、河川 SG8002 : b - b'

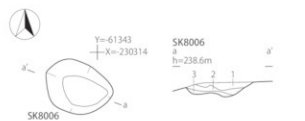
- 1 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、炭・砂粒を少し含む、以下3層まで SG8002
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂粒を多く含む、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと炭を少し含む
- 3 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 4 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に多く含む、炭を少し含む、a - a' 1層と同じ
- 5 10YR3/1 黒褐色粘上、粘性強、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと炭を少し含む、a - a' 2層と同じ
- 6 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを少し含む
- 7 10YR4/1 褐灰色粘上、粘性強、しまり普通、10YR3/1 黒褐色粘上を少し含む、a - a' 6層と同じ
- 8 10YR3/1 黒褐色粘上、粘性強、しまり普通、上部に 10YR3/2 黒褐色粘上を層状に含む、a - a' 8層と同じ
- 9 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む



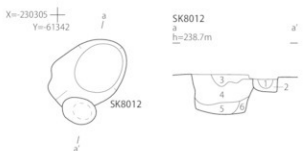
土坑 SK8005 : a - a', b - b'

- 1 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを多く含む、10YR4/2 灰黄褐色シルトを少し含む、SG8001
- 2 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを多く含む、10YR4/1 褐灰色粘質シルトを少し含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色粘質シルトと 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む

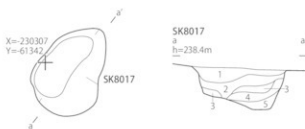




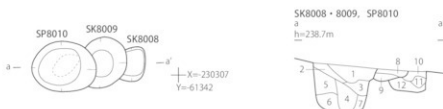
- 土坑 SK8006 : a - a'**
- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土, 粘性普通, しまり普通, 10YR3/1 黒褐色粘土と 10YR6/4 に多い黄褐色粘質シルトを少し含む
 - 2 10YR5/2 灰黄褐色粘土, 粘性強, しまり普通, 10YR3/1 黒褐色粘土を多く含む
 - 3 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐色粘質シルトを少し含む



- 土坑 SK8012 : a - a'**
- 1 10YR3/1 黒褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
 - 2 10YR6/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む
 - 3 10YR4/1 褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトをわずかに含む, 以下 SK8012
 - 4 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトと 10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む
 - 5 10YR5/1 褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む
 - 6 10YR5/1 褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/1 褐色粘質シルトを多く含む



- 土坑 SK8017 : a - a'**
- 1 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐色粘質シルトを多く含む
 - 2 10YR5/1 褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/1 褐色粘質シルトを少し含む
 - 3 10YR4/1 褐色粘質シルト, 粘性強, しまり普通, 10YR6/1 褐色粘質シルトを少し含む
 - 4 10YR6/1 褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/1 褐色粘質シルトを多く含む
 - 5 10YR4/1 褐色粘質シルト, 粘性強, しまり普通, 10YR6/1 褐色粘質シルトを少し含む

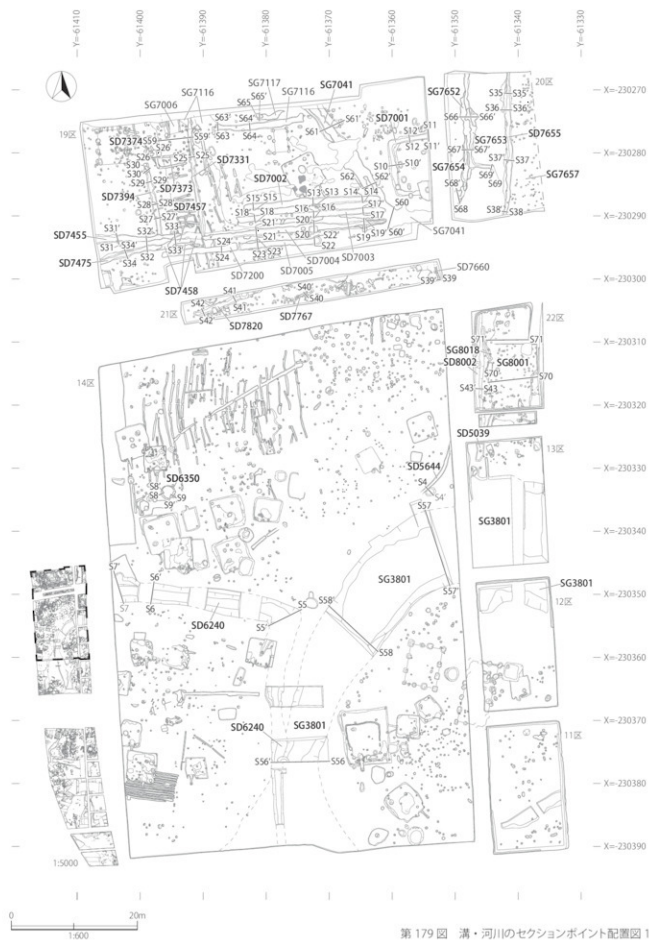


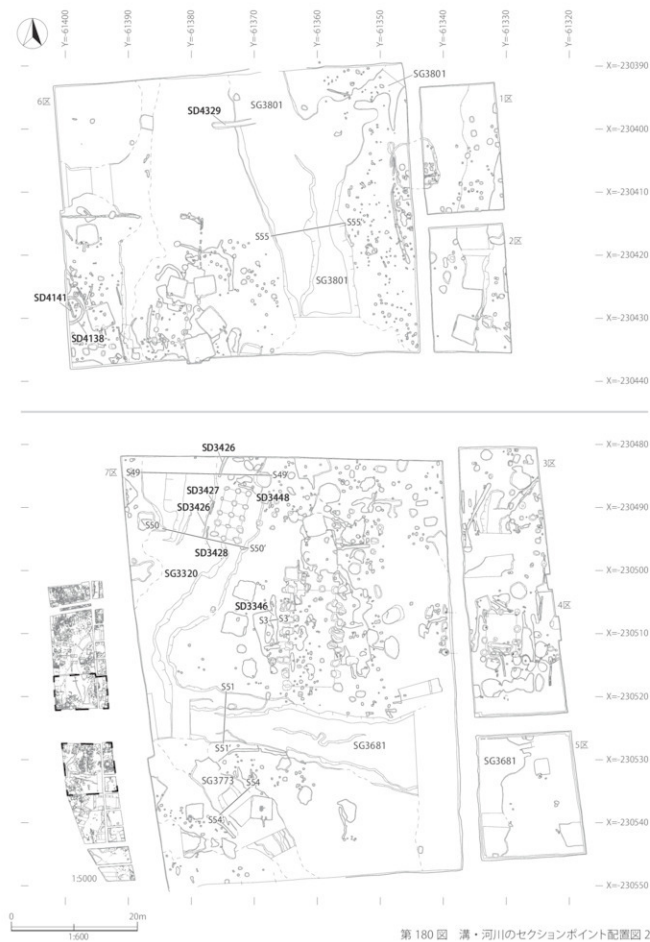
土坑 SK8008・8009, 柱穴 SP8010 : a - a'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/3 に多い黄褐色シルトと 10YR5/1 褐色粘質シルトを多く含む, 以下3層まで SP8010 柱穴を取り廻
- 2 10YR5/3 に多い黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐色粘質シルトを多く含む, 10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む
- 3 10YR4/1 褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐色粘質シルトを多く含む, 10YR5/3 に多い黄褐色シルトを少し含む
- 4 10YR4/1 褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐色粘質シルトと 10YR5/3 に多い黄褐色シルトを多く含む, 10YR4/4 褐色砂質シルトを少し含む, SP8010 柱穴
- 5 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/4 褐色砂質シルトを多く含む, 10YR5/1 褐色粘質シルトと 10YR5/3 に多い黄褐色シルトを少し含む, 以下7層まで SP8010 掘方
- 6 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/4 褐色砂質シルトと 10YR5/3 に多い黄褐色シルトを多く含む, 10YR5/1 褐色粘質シルトを少し含む
- 7 10YR5/3 に多い黄褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐色粘質シルトを多く含む, 10YR4/1 褐色粘質シルトを少し含む
- 8 10YR5/1 褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む, 10YR4/1 褐色粘質シルトをわずかに含む, 以下9層まで SK8009
- 9 10YR6/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐色粘質シルトを少し含む
- 10 10YR6/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐色粘質シルトを多く含む, 以下 SK8008
- 11 10YR5/1 褐色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 12 10YR6/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐色粘質シルトを少し含む



第 178 図 土坑 SK8006・8008・8009・8012・8017, 柱穴 SP8010





第180図 溝・河川のセクションポイント配置図2



第181図 溝・河川のセクションポイント配置図3



溝 SD3241 : S1 - S1' (X=230600)

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、10YR3/2 黒褐色シルトブロックをまだら状に非常に多く含む
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性弱
- 3 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、細砂を含む

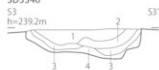
SD3244, SP3245



溝 SD3244, 柱穴 SP3245 : S2 - S2' (X=230600)

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、5mm ~ 2cm 大の炭を含む、10YR5/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に非常に多く含む、SP3245
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、10YR5/3 に近い黄褐色シルトブロックを含む、以下3層まで SD3244
- 3 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、10YR3/2 黒褐色シルトブロックをごくわずかに含む
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、10YR4/2 灰黄褐色細砂を含む、地山

SD3346



溝 SD3346 : S3 - S3' (X=230500)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、3cm 大の炭を多く含む、まだら状の塊上を含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、塊上・炭をまだら状に含む、白灰を含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、10YR5/3 に近い黄褐色細砂ブロックを少し含む
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色砂、10YR4/2 灰黄褐色シルトブロックを含む

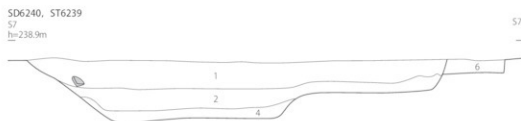
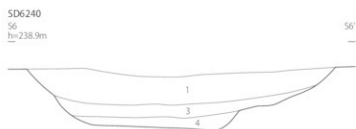
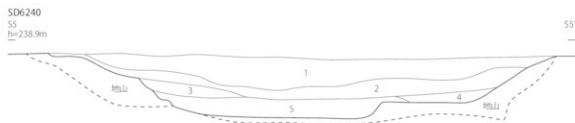
SD5644, SK5645



溝 SD5644・土坑 SK5645 : S4 - S4' (X=230330)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり強、SD5644
- 2 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり強、10YR6/2 灰黄褐色細砂ブロックと 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルトをまだら状に少し含む、以下 SK5645
- 3 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト、粘性強、しまり強、地山ブロックをごくわずかに含む



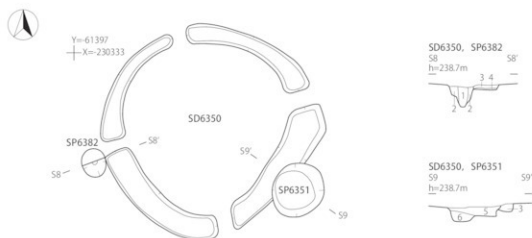
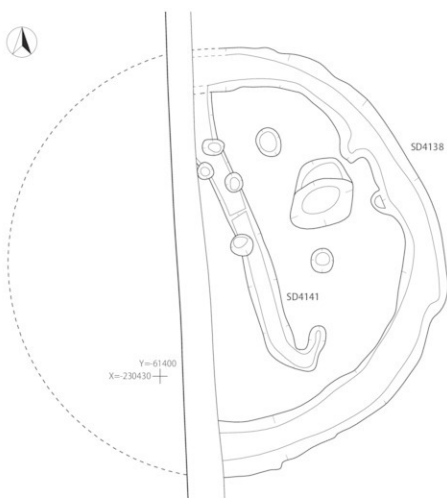


区画溝 SD6240、竪穴建物 ST6239 : S5 - S5', S6 - S6', S7 - S7' (X=230340, -230350)

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm ~ 15cm 大の礫・小礫を含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトブロックを多く含む
- 3 10YR4/1 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色砂と 2.5Y4/1 黄灰色粘土を含む
- 4 2.5Y4/1 黄灰色粘土、粘性強、しまり普通
- 5 10YR5/2 灰黄褐色砂、粘性弱、しまり普通、2.5Y4/1 黄灰色粘土を含む
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭を含む、10YR5/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に含む、ST6239



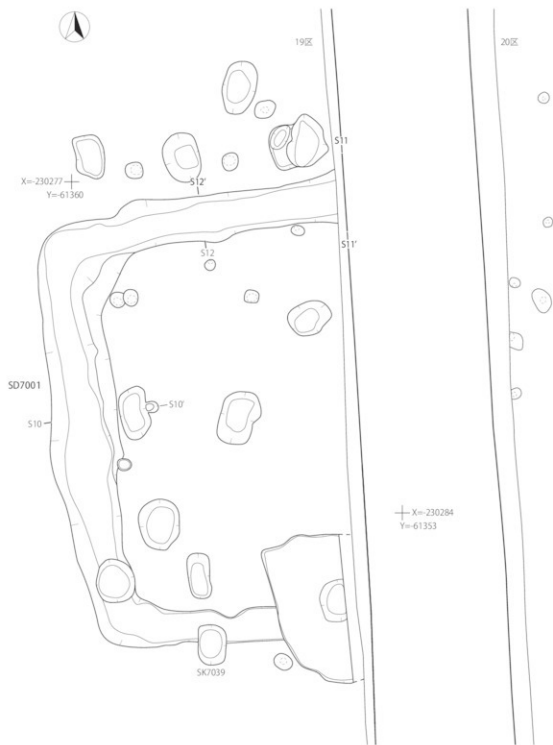
第 183 図 区画溝 SD6240



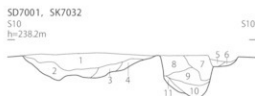
円形溝 SD6350、柱穴 SP6382、ピット SP6351 : S8, S9 - S9'

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の炭をまだら状に含む、柱痕、以下 2 層まで SP6382
- 2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、地山ブロックを含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通、5mm 大の地山ブロックをごくわずかに含む、以下 4 層まで SD6350
- 4 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性強、しまり普通
- 5 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、2mm 大の炭をまだら状に少し含む、以下 6 層まで SP6351
- 6 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、2cm 大の地山ブロックを非常に多く含む



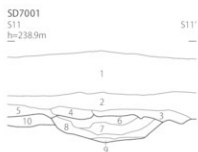


第185図 方形溝 SD7001



方形溝 SD7001, 土坑 SK7032 : S10 - S10' (X=230280)

- 1 10YR5/1 褐灰色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む, 以下 4 層まで SD7001
- 2 10YR5/4 に近い黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐灰色シルトを多く含む, 10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 3 10YR5/1 褐灰色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを多く含む, 10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む, 以下 SK7032
- 6 10YR5/3 に近い黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/1 褐灰色シルトと 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 8 10YR5/3 に近い黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/2 灰黄褐色シルトを多く含む, 10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 9 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む, 10YR4/1 褐灰色シルトをわずかに含む
- 10 10YR4/1 褐灰色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 11 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルト, 粘性弱, しまり弱 10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む



方形溝 SD7001 : S11 - S11' (X=230270)

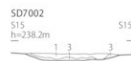
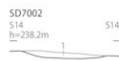
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 8cm 以下の礫を非常に多く含む, 表土
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐灰色シルトを多く含む, 以下 5 層まで造成土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐灰色シルトと炭化物を少し含む
- 4 10YR5/1 褐灰色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 5 10YR5/3 に近い黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/1 褐灰色シルトを少し含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/1 褐灰色シルトを多く含む, 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む, 以下 9 層まで SD7001
- 7 10YR5/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/4 に近い黄褐色シルトを非常に多く含む, 10YR5/1 褐灰色シルトを少し含む
- 8 10YR6/4 に近い黄褐色シルト, 粘性弱, しまり普通, 10YR7/3 に近い黄褐色シルトと 10YR4/4 褐色シルトを多く含む, 10YR6/1 褐灰色シルトを少し含む
- 9 10YR4/1 褐灰色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 10 10YR5/4 に近い黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐灰色シルトを多く含む



方形溝 SD7001 : S12 - S12' (X=230270)

- 1 10YR4/2 灰黄色粘質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/1 褐灰色シルトと 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 2 10YR6/3 に近い黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/1 褐灰色シルトを多く含む, 炭化物をわずかに含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む, 10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む





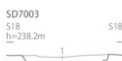
溝 SD7002：S13 - S13'、S14 - S14'、S15 - S15' (X=230280)

- 1 10YR6/6 明黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/1 褐灰色シルトを多く含む、10YR4/1 褐灰色シルトをわずかに含む
- 2 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR5/3 に多い黄褐色シルトを多く含む
- 3 10YR5/3 に多い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトと 10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む



溝 SD7003：S16 - S16' (X=230280)

- 1 10YR5/4 に多い黄褐色シルト、粘性普通、しまり弱、10YR5/2 灰黄褐色シルトと 10YR6/3 に多い黄褐色シルトを少し含む
- 2 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR5/3 に多い黄褐色シルトを少し含む、面をわずかに含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを少し含む



溝 SD7003：S17 - S17'、S18 - S18' (X=230280)

- 1 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に多い黄褐色シルトを少し含む

SD7004、SG7041、SK7048



溝 SD7004、小流路 SG7041、土坑 SK7048：S19 - S19' (X=230290)

- 1 10YR5/3 に多い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトと 10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む、SK7048
- 2 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 に多い黄褐色シルトを少し含む、以下 3 層まで SD7004
- 3 10YR6/3 に多い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む、酸化鉄を少し含む
- 4 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 シルトを少し含む、SG7041

SD7004、SG7041、SK7147



溝 SD7004、小流路 SG7041、土坑 SK7147：S20 - S20' (X=230290)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを非常に多く含む、10YR5/3 に多い黄褐色シルトを少し含む、以下 2 層まで SK7147
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 に多い黄褐色シルトを少し含む
- 3 10YR5/3 に多い黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む、以下 4 層まで SD7004
- 4 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR4/3 に多い黄褐色粘質シルトを多く含む、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 5 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む、SG7041

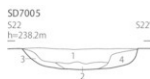


溝 SD7004、小流路 SG7041：S21 - S21' (X=230290)

- 1 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性弱、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下 2 層まで SD7004
- 2 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトと 10YR5/3 に多い黄褐色シルトを少し含む
- 3 10YR6/3 に多い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを少し含む、SG7041



第 187 図 溝 SD7002～7004、土坑 SK7048・7147、小流路 SG7041



溝 SD7005 : S22 - S27' (X=230290)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトと10YR6/3にふい黄褐色シルトを少し含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3にふい黄褐色シルトを多く含む
- 3 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR7/3にふい黄褐色シルトを非常に多く含む、炭をわずかに含む
- 4 10YR5/4にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む、底面近くに腐状の炭を含む

溝 SD7005 : S23 - S23' (X=230290)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトと10YR5/3にふい黄褐色シルトを少し含む
- 2 10YR6/3にふい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3にふい黄褐色シルトを多く含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4にふい黄褐色シルトを多く含む



溝 SD7200 : S24 - S24' (X=230290)

- 1 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4にふい黄褐色シルトと10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む



溝 SD7331 : S25 - S25' (X=230280)

- 1 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、酸化鉄を多く含む、10YR6/3にふい黄褐色シルトを少し含む
- 2 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む
- 3 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3にふい黄褐色シルトと酸化鉄を多く含む、10YR3/1 黒褐色シルトと炭を少し含む
- 4 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、酸化鉄を多く含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトと炭を少し含む
- 5 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/1 黒褐色シルトを少し含む



溝 SD7373・7374 : S26 - S26 (X=230280)

- 1 10YK3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の10YR6/3にふい黄褐色シルトと5mm 大の炭をわずかに含む、以下3層までSD7374
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm の10YR6/3にふい黄褐色シルトをわずかに含む
- 3 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の10YR6/3にふい黄褐色シルトを少し含む
- 4 10YK3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の10YR6/8 明黄褐色シルトを少し含む、5mm 大の炭をわずかに含む、以下SD7373
- 5 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の10YR6/8 明黄褐色シルトを少し含む



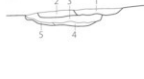
溝 SD7394 : S27 - S27', S28 - S28', S29 - S29' (X=230280)

- 1 10YR5/3にふい黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、1～2mm 大の10YR7/2にふい黄褐色粘質シルトをまだら状に含む
- 2 10YR4/3にふい黄褐色細砂、粘性弱、しまり普通、1cm 大の10YR7/2にふい黄褐色シルトをまだら状に少し含む



溝 SD7394, SK7392・7393

S30
h=238.2m

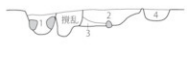


溝 SD7394, 土坑 SK7392・7393・S30・S30' (X=230280)

- 1 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性弱、しまり普通、1cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、5mm 大の炭をぐわすかに含む、SK7393
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを含む、SK7392
- 3 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の 10YR5/2 灰黄褐色シルトを含む、酸化鉄を少し含む、以下 SD7394
- 4 10YR5/1 褐灰色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の 10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む、酸化鉄を少し含む
- 5 10YR6/3 に近い黄褐色細砂、粘性弱、しまり普通、1cm 大の 10YR7/4 に近い黄褐色シルトをぐわすかに含む

溝 SD7455, SP7505・7507

S31
h=238.4m

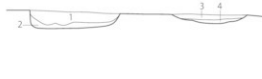


溝 SD7455, 柱穴 SP7505・7507・S31・S31' (X=230290)

- 1 10YR4/1 褐灰色粘質シルト、人頭大の礫を多く含む、SP7505
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、1～2cm 大の 10YR7/2 に近い黄褐色粘質シルトを頂状に含む、以下 3 層まで SD7455
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色細砂、粘性弱、しまり普通、1cm 大の 10YR7/2 に近い黄褐色シルトを並だら様に少し含む
- 4 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR7/4 に近い黄褐色シルトの地山ブロックを含む、SP7507

溝 SD7455・7475

S32
h=238.4m

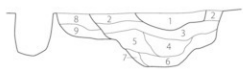


溝 SD7455・7475・S32・S32' (X=230290)

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを多く含む、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む、以下 2 層まで SD7475
- 2 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを少し含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘質シルトを含む、以下 SD7455
- 4 10YR4/3 に近い黄褐色細砂、粘性弱、しまり普通、酸化鉄を少し含む、2～4cm 大の礫を多く含む

溝 SD7455・7457・7458

S33
h=238.2m



溝 SD7455・7457・7458・S33・S33' (X=230290)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土を含む、SD7457
- 2 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1～2cm 大の 10YR7/4 に近い黄褐色シルトを含む、5mm 大の炭をわずかに含む、以下 7 層まで SD7458
- 3 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、1cm 大の 10YR3/2 黒褐色粘土と 5mm 大の炭をわずかに含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、酸化鉄を多く含む、2～3cm 大の炭をわずかに含む
- 5 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルトブロックをわずかに含む
- 6 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性弱、しまり普通、酸化鉄を多く含む、2～3cm 大の炭を少し含む
- 7 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、酸化鉄を少し含む、1cm 大の 10YR5/2 灰黄褐色シルトをわずかに含む
- 8 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の炭を少し含む、以下 SD7455
- 9 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、1～2cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む、5mm 大の炭をわずかに含む

溝 SD7475

S34
h=238.4m



溝 SD7475・S34・S34' (X=230290)

- 1 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR5/2 灰黄褐色シルトを含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、1～3cm 大の礫を多く含む、酸化鉄を少し含む



石

第 189 図 溝 SD7394・7455・7457・7458・7475, 土坑 SK7392・7393, 柱穴 SP7505・7507



区画溝 SD7655、河川 SG7657 : S35 - S35', S36 - S36', S37 - S37', S38 - S38' (X=230270, -230280)

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。5YR5/6 明赤褐色シルトを点状に含む。以下4層まで SD7655
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。5YR5/6 明赤褐色シルトをまだら状に多く含む。10YR4/2 灰黄褐色粘質シルトをまだら状に含む
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト、粘性普通、しまり弱。5YR5/6 明赤褐色シルトをまだら状に多く含む
- 4 10YR3/4 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり弱。5YR5/6 明赤褐色シルトと 10YR2/3 黒褐色シルトをまだら状に少し含む
- 5 5Y4/3 暗オリーブ色シルト、粘性普通、しまり普通、SG7657



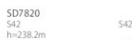
溝 SD7660 : S39 - S39' (X=230300)

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトと炭をわずかに含む
- 2 10YR4/2 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトを少し含む
- 3 10YR5/3 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトを少し含む
- 4 10YR6/3 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/4 灰黄褐色シルトを少し含む



溝 SD7767、土坑 SK7768、柱穴 SP7769 : S40 - S40' (X=230300)

- 1 10YR3/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトをわずかに含む。以下2層まで SP7769
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトを少し含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR7/2 灰黄褐色シルトを少し含む。以下4層まで SK7768
- 4 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトを少し含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトを少し含む。以下 SK7767
- 6 10YR5/3 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/4 灰黄褐色シルトを多く含む
- 7 10YR7/3 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトを少し含む
- 8 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトをわずかに含む



溝 SD7820 : S41 - S41', S42 - S42' (X=230300)

- 1 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。5mm 大の 10YR6/3 灰黄褐色シルトを少し含む。炭を含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。1cm 大の 10YR6/3 灰黄褐色シルトを多く含む。5mm 大の炭を少し含む
- 3 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。5mm 大の 10YR6/3 灰黄褐色シルトを少し含む。炭をわずかに含む
- 4 10YR5/3 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。1~2cm 大の 10YR6/3 灰黄褐色シルトを含む。炭をわずかに含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。1cm 大の 10YR6/3 灰黄褐色シルトを含む
- 6 10YR6/3 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。1cm 大の 10YR6/4 灰黄褐色シルトを含む。5mm 大の 10YR4/1 褐色シルトを少し含む

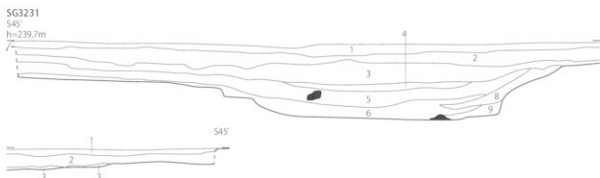
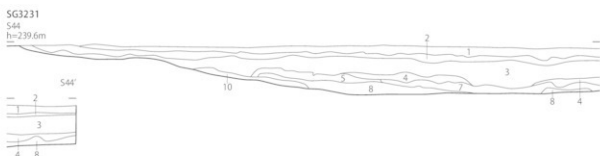


区画溝 SD8002 : S43 - S43' (X=230310)

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトと炭を少し含む
- 2 10YR5/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトを多く含む
- 3 10YR4/1 褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通。10YR6/3 灰黄褐色シルトをまだら状に少し含む
- 4 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通。10YR4/1 褐色粘質シルトを少し含む

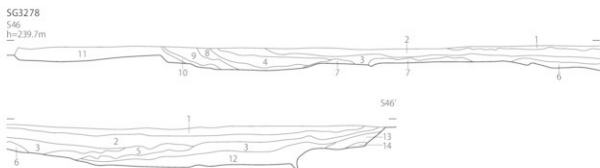


第 190 図 溝 SD7655・7660・7767・7820・8002、河川 SG7657、土坑 SK7768、柱穴 SP7769



河川 SG3231 : S44 - S44', S45 - S45' (X=230590, -230600)

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト, 粘性弱, しまり強, 炭ブロックをごくわずかに含む
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 粘性弱, しまり強, 10YR2/1 黒色シルトブロックを少し含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト, 粘性弱, しまり強, 2mm ~ 1cm 大の炭をごくわずかに含む
- 4 10YR3/1 黒褐色シルト, 粘性弱, しまり強, 10YR4/2 灰黄褐色細砂をまだら状に含む
- 5 10YR5/1 褐色シルト, 粘性弱, しまり強
- 6 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト, 粘性非常に強, しまり強, 一部に砂利を含む, N1.5/ 黒色粘土をごくわずかに含む,
- 7 2.5Y5/1 黄灰色細砂, 粘性強, しまり強, 10YR3/1 黒褐色シルト細砂を縮状に含む
- 8 10YR2/1 黒色粘土質シルト, 粘性強, しまり弱, N1.5/ 黒色砂質シルトを筋状に含む, 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 9 5Y2/1 黒色粘土質シルト, 粘性強, しまり弱
- 10 10YR4/1 褐色シルト, 粘性弱, しまり強, 10YR4/1 褐色細砂を含む

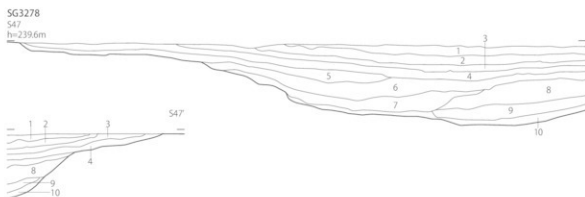


河川 SG3278 : S46 - S46' (X=230580)

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト, 粘性弱, しまり強, 1 ~ 3mm 大の炭を含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色シルト, 粘性弱, しまり強, 2mm 大の炭をごくわずかに含む
- 3 10YR3/2 黒褐色粘土, 粘性強, しまり強, 10YR4/2 灰黄褐色シルトを非常に多く含む, 2 ~ 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 4 10YR4/4 褐色砂質シルト, 粘性弱, しまり弱
- 5 粗砂, 10YR3/2 黒褐色粘土質シルトを少し含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐色シルト, 粘性弱, しまり強
- 7 10YR5/2 灰黄褐色シルト, 小石 + 粗砂を含む
- 8 10YR3/2 黒褐色シルト, 2 ~ 6mm 大の炭をごくわずかに含む
- 9 10YR4/4 褐色砂質シルト, 粘性弱, しまり弱
- 10 10YR3/2 黒褐色シルト, 2 ~ 6mm 大の炭をごくわずかに含む
- 11 10YR4/4 褐色砂質シルト, 粘性弱, しまり弱
- 12 10YR4/1 褐色粘土質, 2 ~ 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 13 10YR4/4 褐色砂質シルト, 粘性弱, しまり弱
- 14 10YR4/3 に近い黄褐色シルト, 粘性弱, しまり弱

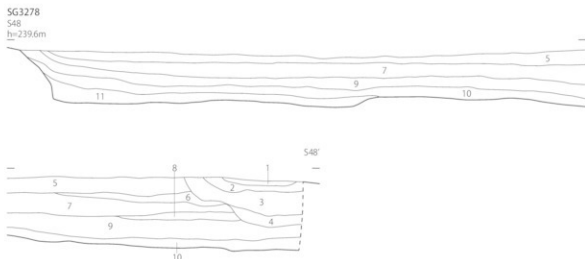


第 191 図 河川SG3231・3278



河川 SG3278 : S47 - S47 (X=230560)

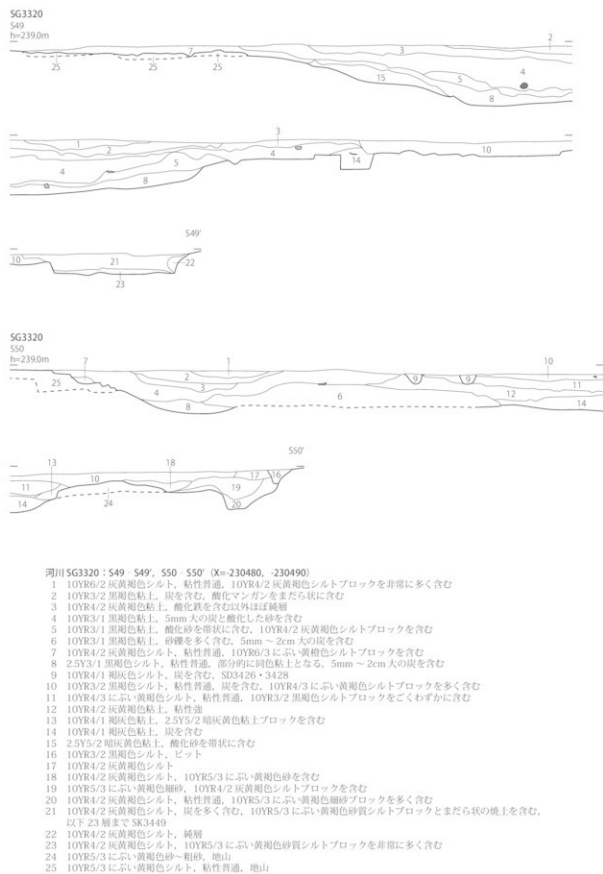
- 1 10YR4/1 相灰色シルト、粘性普通、しまり強、2.5Y6/2 灰黄色シルトをブロックまたは帯状に含む、炭を含む
- 2 2.5Y6/2 灰黄色シルト、粘性弱、しまり普通
- 3 10YR3/1 黒褐色粘土、粘性強、しまり普通、5mm 大の炭を多く含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト、粘性強、しまり普通、炭と 5mm 大の小礫をわずかに含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm ~ 1cm 大の炭を含む
- 7 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/1 相灰色細砂を含む
- 8 2.5Y5/2 暗灰黄色砂、粘性弱、しまり弱、10YR5/2 灰黄褐色シルトブロックを含む
- 9 2.5Y5/2 暗灰黄色砂と 10YR3/2 黒褐色シルトとの互層、木片を含む
- 10 7.5YR2/1 黒色シルト、粘性普通、しまり普通、腐植土、木片を多く含む



河川 SG3278 : S48 - S48 (X=230550)

- 1 10YR3/1 黒褐色粘土、粘性強、しまり普通、5mm 大の炭を多く含む
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト、粘性強、しまり普通、炭と 5mm 大の小礫をわずかに含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm ~ 1cm 大の炭を含む
- 4 10YR3/1 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5Y5/1 灰色細砂ブロックを多く含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 6 5Y4/1 灰色粘土、粘性強、しまり普通
- 7 5Y5/1 灰色細砂、粘性強、しまり普通、一部で 2.5GY6/1 オリーブ灰色を呈する
- 8 2.5Y5/2 暗灰黄色細砂、粘性弱、しまり普通、5Y5/1 灰色細砂を帯状に少し含む
- 9 10YR2/1 黒色粘土、粘性強、しまり普通、2.5Y4/1 黄灰色粘土を含む
- 10 10YR4/1 相灰色粘質シルト、粘性強、しまり普通
- 11 2.5Y4/1 黄灰色粘質シルト、粘性強、しまり普通



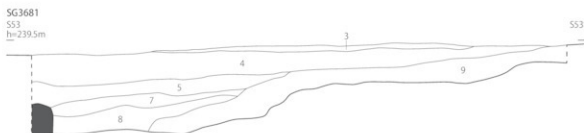
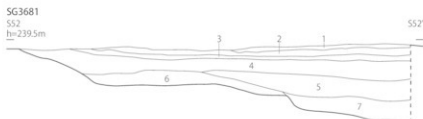


第 193 図 河川SG3320



河川 SG3681 : SS1 - SS1' (X=230520)

- 1 10YR3/2 黒褐色粘土、粘性普通、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む、10YR5/4 に近い黄褐色粘土をまだら状に多く含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色粘土、粘性普通、しまり普通、1cm 大の炭をごくわずかに含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、2cm 大の炭を少し含む、7.5YR5/6 明褐色シルトブロックをごくわずかに含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性強、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む
- 5 10YR5/3 に近い黄褐色粘土、粘性強、しまり普通、炭粒をごくわずかに含む
- 6 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、下部に砂を多く含む



河川 SG3681 : SS2 - SS2'、SS3 - SS3' (X=230550)

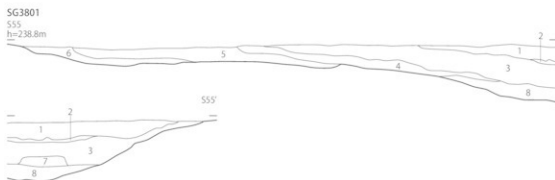
- 1 10YR4/1 暗灰色シルト、粘性普通、しまり強、2.5Y6/2 灰黄色シルトをブロック状または帯状に含む、炭を含む
- 2 2.5Y6/2 灰黄色シルト、粘性弱、しまり普通
- 3 10YR3/1 黒褐色粘土、粘性強、しまり普通、5mm 大の炭を多く含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、5mm ~ 1cm 大の炭を含む
- 5 10YR5/2 暗黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、10YR6/1 暗灰色細砂を含む
- 6 2.5Y5/2 暗灰黄色砂、粘性弱、しまり強、10YR5/2 灰黄褐色シルトブロックを含む
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通、木片を多く含む
- 8 5Y4/1 灰色細砂、粘性なし、しまり強、2.5GY5/1 オリーブ灰色砂ブロックを少し含む
- 9 5GY4/1 暗オリーブ灰色砂、粘性弱、しまり普通





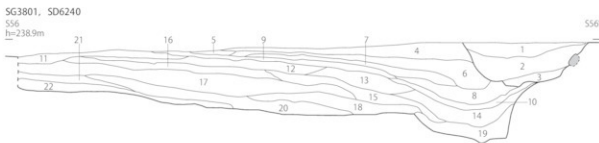
河川 SG3773 : S54 - S54' (X=230530)

- 1 10YR3/2 黒褐色粘土, 粘性普通, しまり強, 5mm 大の炭をごくわずかに含む
- 2 10YR2/2 黒褐色粘土, 粘性普通, しまり普通, 3mm 大の炭をごくわずかに含む



河川 SG3801 : S55 - S55' (X=230410)

- 1 10YR3/2 黒褐色粘土, 粘性強, しまり普通, 炭粒をごくわずかに含む, 砂を少し含む
- 2 2.5Y6/3 黄褐色シルトと 10YR4/6 褐色シルト, 粘性弱, しまり弱, 炭粒をごくわずかに含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘土, 粘性強, しまり普通, 1mm ~ 1cm 大の炭をごくわずかに含む
- 4 10YR5/2 灰黄褐色シルト, 粘性強, しまり普通, 炭粒をごくわずかに含む
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性普通, しまり強, 炭粒をごくわずかに含む, 砂を多く含む
- 6 10YR3/1 黒褐色シルト, 粘性強, しまり普通, 炭粒を多く含む
- 7 10YR4/1 褐色粘土, 粘性普通, しまり普通, 炭粒をごくわずかに含む
- 8 10YR4/1 褐色粘土, 粘性普通, しまり普通, 炭粒を多く含む, 炭粒をごくわずかに含む

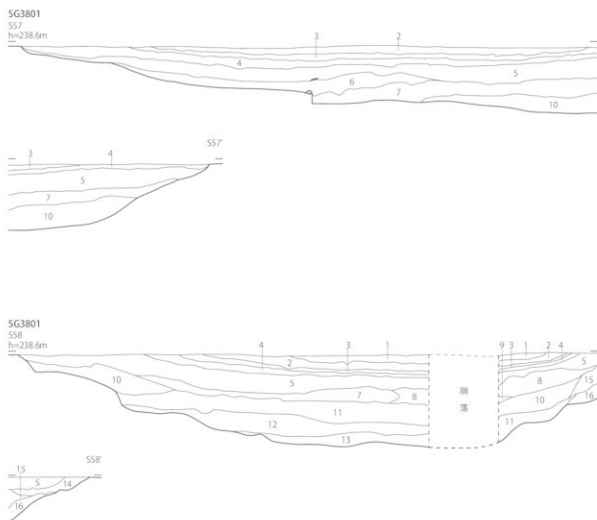


河川 SG3801, 区画溝 SD6240 : S56 - S56' (X=230370)

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 5mm ~ 15cm 大の礫・小礫を含む, 以下3層まで SD6240
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/2 灰黄褐色シルトブロックを多く含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 10YR5/2 灰黄褐色砂と 2.5Y4/1 黄灰色粘土を含む
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 以下 SG3801
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト, 粘性強, しまり普通
- 6 2.5Y7/2 灰黄色シルト, 粘性強, しまり普通, 10YR3/2 黒褐色シルトブロックを非常に多く含む
- 7 10YR3/1 黒褐色シルト, 粘性強, しまり普通
- 8 5Y4/1 灰色粘土, 粘性強, しまり普通, 5Y2/2 オリーブ黒色粘土を含む, 一部酸化鉄ブロックを含む
- 9 2.5Y6/3 にぶい黄色粘土, 粘性強, しまり普通, 10YR3/1 黒褐色シルトブロックを多く含む
- 10 5Y4/2 灰オリーブ色粘土, 粘性強, しまり普通
- 11 10YR3/1 黒褐色シルト, 粘性普通, しまり普通, 炭を帯状に含む
- 12 10YR4/2 灰黄褐色シルト, 粘性普通, しまり普通
- 13 10YR4/1 褐色粘土, 粘性強, しまり普通
- 14 10Y4/1 灰色粘土, 粘性強, しまり普通
- 15 10YR4/1 褐色粘土, 粘性強, しまり普通, 9層より色調が暗い
- 16 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト, 粘性普通, しまり普通
- 17 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト, 粘性強, しまり普通
- 18 2.5Y4/1 黄灰色粘土, 粘性強, しまり普通
- 19 2.5Y4/1 黄灰色粘土混じりの砂礫層
- 20 10YR5/1 灰色砂, 粘性弱, しまり弱
- 21 2.5Y5/1 黄灰色細砂, 粘性弱, しまり普通
- 22 酸化鉄を含む砂礫層



第 195 図 河川 SG3773・3801, 区画溝 SD6240



河川 SG3801 : S57 - S57', S58 - S58' (X=230330, -230350)

- 1 2SV6/3に赤い黄色シルト、粘性強、しまり普通、2層の上をまだら状に含む
- 2 1OYR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通
- 3 2SV6/2 灰黄色シルト、粘性強、しまり強、1OYR3/2 黒褐色粘土質シルトブロックを非常に多く含む、炭を含む
- 4 1OYR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性強、しまり強、炭粒を含む、1OYR4/3 に薄い黄褐色粘質シルトをまだら状に少し含む
- 5 1OYR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性強、しまり普通、層下部に5層の上を含む、5mm 大の炭を含む
- 6 1OYR4/1 褐灰色細砂、粘性弱、しまり弱、1OYR3/1 黒褐色粘土をブロックまたは帯状に含む、部分的に酸化した砂を含む
- 7 1OYR4/2 灰黄褐色粘土、粘性強、しまり普通、部分的に5層の上を含む、1OYR5/1 褐灰色粘土ブロックを少し含む
- 8 1OYR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1OYR6/2 灰黄褐色砂質シルトブロックを多く含む
- 9 1OYR4/1 褐灰色粘土、粘性強、しまり普通、5mm 大の炭を含む
- 10 1OYR4/2 灰黄褐色粘土、粘性強、しまり普通
- 11 7.5V4/1 灰色粘土、粘性強、しまり普通、弱グライ化
- 12 7.5V5/1 灰色粘土、粘性強、しまり普通
- 13 7.5V4/1 灰色細砂、粘性強、しまり普通、部分的に砂・細砂を含む
- 14 1OYR3/1 黒褐色粘土、粘性強、しまり強
- 15 1OYR4/2 灰黄褐色粘土質シルト、粘性強、しまり普通、酸化鉄を含む
- 16 1OYR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通



SG7006, SD7331

S59
h=238.1m

S59



窪地 SG7006, 溝 SD7331 : S59 - S59' (X=230270)

- 1 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、酸化鉄を多く含む、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む、以下4層までSD7331
- 2 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む、炭化物を少し含む
- 3 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む
- 4 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、酸化鉄を多く含む、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 5 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、2～5mm 大の炭をごくわずかに含む、以下SG7006
- 6 10YR2/1 黒色粘土、1～2cm 大の地山ブロックをまだら状に含む

SG7041

S60
h=238.1m

S60'



小流路 SG7041 : S60 - S60' (X=230280)

- 1 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトを多く含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粗砂、粘性弱、しまり普通、5mm～5cm 大の礫を非常に多く含む、擾乱

SG7041, SX7105・7107

S61
h=238.1m

S61'



小流路 SG7041, 性格不明遺構 SX7105・7107 : S61 - S61' (X=230270)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、3cm 以下の小礫を多く含む、以下3層までSX7105
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトと10YR6/4 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粗砂、粘性弱、しまり普通、5mm～5cm 大の礫を非常に多く含む、以下5層までSX7107
- 5 10YR3/1 黒褐色粗砂、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 6 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを少し含む、以下7層までSG7041
- 7 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルトを多く含む、酸化鉄を含む
- 8 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む
- 9 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトを多く含む

SG7041

S62
h=238.1m

S62'



小流路 SG7041 : S62 - S62' (X=230280)

- 1 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 2 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトを多く含む
- 3 10YR6/4 に近い黄褐色シルト、酸化鉄を多く含む、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを含む

SG7116

S63
h=238.2m

S63'



小流路 SG7116 : S63 - S63' (X=230270)

- 1 10YR6/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを少し含む
- 2 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色シルトを多く含む、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 3 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、炭と酸化鉄を多く含む

第197図 窪地 SG7006, 小流路 SG7041・7116, 溝 SD7331, 性格不明遺構 SX7105・7107

SG7116
564
h=238.2m



小流路 SG7116: 564・564' (X=230270)

- 1 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む、10YR5/1 褐色シルトを少し含む
- 2 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトと 10YR5/1 褐色シルトを少し含む

SG7117, SK7312
565
h=238.2m



小流路 SG7117, 土坑 7312: 565・565' (X=230270)

- 1 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 に近い黄褐色シルトを多く含む、以下 2 層まで SK7312
- 2 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐色シルトを少し含む
- 3 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下 SG7117
- 4 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを多く含む、10YR4/1 褐色シルトを少し含む



SG7652-7653
566
h=238.2m

566

小流路 SG7652・7653: 566・566' (X=230270)

- 1 2.5Y5/3 黄褐色粗砂、粘性弱、しまり弱、以下 3 層まで SG7652
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト、粘性弱、しまり弱、7.5YR3/4 暗褐色細砂と 7.5YR2/1 黒色細砂を帯状に含む
- 3 10YR5/6 黄褐色細砂、粘性弱、しまり弱
- 4 10YR4/3 に近い黄褐色細砂、粘性弱、しまり弱、以下 SG7653
- 5 10YR3/4 暗褐色砂質シルト、粘性弱、しまり弱
- 6 2.5Y4/3 オリーブ褐色粗砂、粘性弱、しまり弱
- 7 10YR3/3 暗褐色砂質シルト、粘性弱、しまり弱
- 8 10YR4/2 灰黄褐色細砂、粘性弱、しまり弱
- 9 10YR4/4 褐色砂質シルト、粘性弱、しまり弱
- 10 10YR4/2 灰黄褐色粗砂、粘性弱、しまり弱、7.5YR3/4 暗褐色細砂と 7.5YR2/1 黒色細砂をまだら状に多く含む

SG7652~7654

567
h=238.2m



小流路 SG7652 ~ 7654: 567・567' (X=230270)

- 1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト、粘性強、しまり強、以下 2 層まで SG7654
- 2 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質シルト、粘性強、しまり強
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルト、粘性強、しまり強、以下 5 層まで SG7652
- 4 7.5YR3/4 暗褐色細砂、粘性弱、しまり弱
- 5 10YR4/4 褐色砂質シルト、粘性強、しまり強
- 6 10YR3/4 暗褐色砂質シルト、粘性強、しまり強、以下 SG7653
- 7 10YR4/6 褐色細砂、粘性弱、しまり弱
- 8 2.5Y4/3 オリーブ褐色細砂、粘性弱、しまり弱

SG7652

568
h=238.2m



小流路 SG7652: 568・568' (X=230280)

- 1 2.5Y4/1 黄灰色粘土、粘性強、しまり強
- 2 2.5Y4/1 黄灰色粘土、粘性強、しまり強、7.5YR3/4 暗褐色粘質シルトをまだら状に含む
- 3 10YR3/4 暗褐色砂質シルト、粘性弱、しまり弱
- 4 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 5 2.5Y3/2 黒褐色シルト、粘性普通、しまり普通
- 6 5Y4/2 灰オリーブ色粘土、粘性強、しまり普通
- 7 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり普通

SG7653

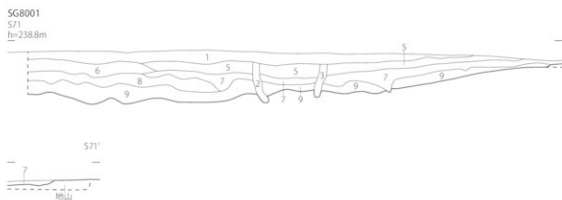
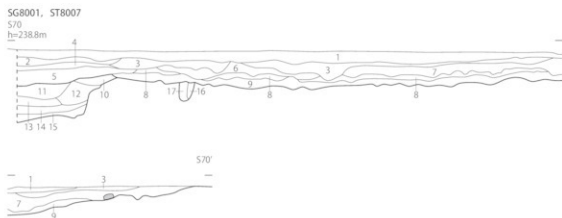
569
h=238.0m



小流路 SG7653: 569・569' (X=230280)

- 1 2.5Y5/3 黄褐色粗砂、粘性弱、しまり弱
- 2 2.5Y6/4 に近い黄褐色粗砂、粘性弱、しまり弱
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト、粘性強、しまり弱





河川 SG8001、竪穴建物 ST8007 : S70 S70', S71 S71' (X=-230300, -230310)

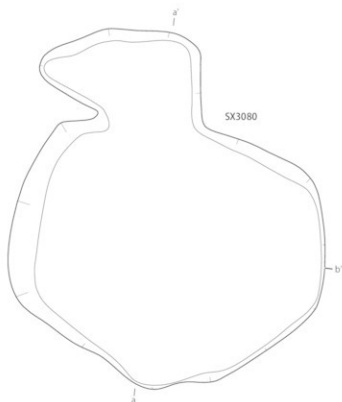
- 以下 9 層まで SG8001
- 1 10YR6/1 褐灰色シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/1 褐灰色粘質シルトを多く含む、10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む、
 - 2 10YR4/1 褐灰色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/2 灰黄褐色粘質シルトを少し含む
 - 3 10YR4/1 褐灰色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/2 灰黄褐色粘質シルトを少し含む、上部に 10YR3/1 黒褐色粘質シルトをわずかに含む
 - 4 10YR6/1 褐灰色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
 - 5 10YR5/1 褐灰色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/2 灰黄褐色粘質シルトをわずかに含む
 - 6 10YR4/1 褐灰色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトを多く含む
 - 7 10YR4/1 褐灰色粘質シルト、しまり普通、粘性普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトを少し含む
 - 8 5Y5/2 灰オリーブ色シルト、しまり普通、粘性普通、5Y4/1 灰色粘質シルトを多く含む
 - 9 5Y5/2 灰オリーブ色シルト、しまり普通、粘性普通、5Y4/1 灰色粘質シルトを少し含む
 - 10 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトと 10YR3/1 黒褐色粘質シルトを少し含む、以下 15 層まで ST8007
 - 11 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを多く含む、10YR3/1 黒褐色粘質シルトを少し含む
 - 12 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/1 黒褐色粘質シルトを限りに多く含む、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
 - 13 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/1 黒褐色粘質シルトを少し含む
 - 14 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり弱、10YR5/1 褐灰色粘質シルトを少し含む、炭をわずかに含む
 - 15 10YR5/1 褐灰色粘質シルト、粘性普通、しまり弱、10YR4/1 褐灰色シルトと 10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む
 - 16 10YR2/1 黒色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下 SP
 - 17 10YR5/1 褐灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを多く含む、10YR2/1 黒色粘質シルトを少し含む



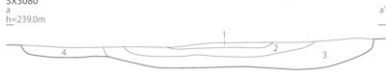
第 199 図 河川 SG8001、竪穴建物 ST8007



Y=61330
X=230485



SX3080
a
h=239.0m



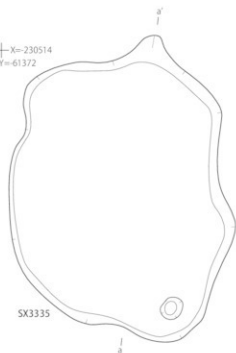
SX3080
b
h=239.0m



性格不明遺構 SX3080 : a - a'

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、炭粒を含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、10YR 5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを非常に多く含む
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、1 ~ 5 cm 大の炭を多く含む
- 4 10YR5/1 黒褐色シルト、10YR5/3 に近い黄褐色砂質シルトブロックを多く含む、10YR 2/2 黒褐色粘土ブロックを少し含む

X=230514
Y=61372



SX3335

a
h=239.1m



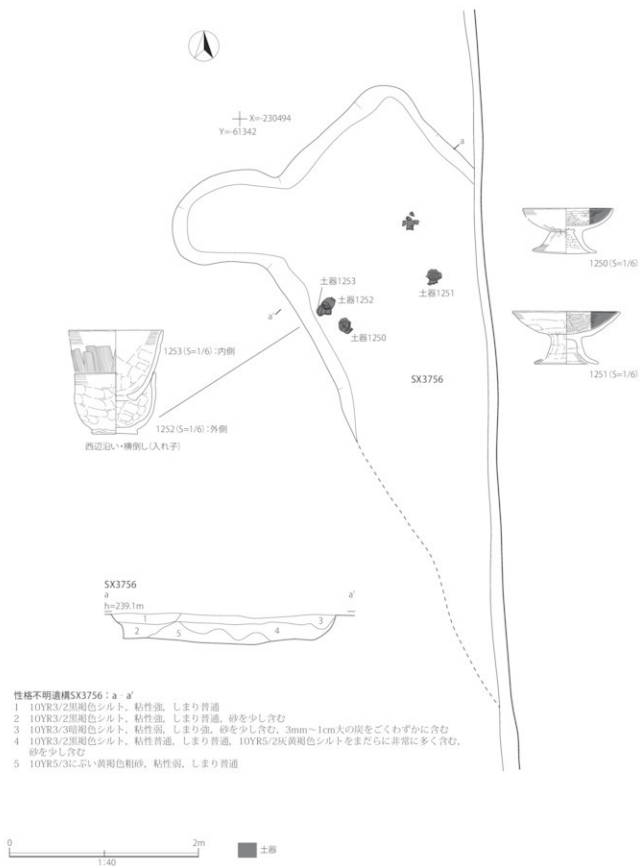
性格不明遺構 SX3335 : a - a'

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、5mm 大の炭をわずかに含む
- 2 10YR6/3 に近い黄褐色シルト、粘性弱、しまり強
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、砂を少し含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通

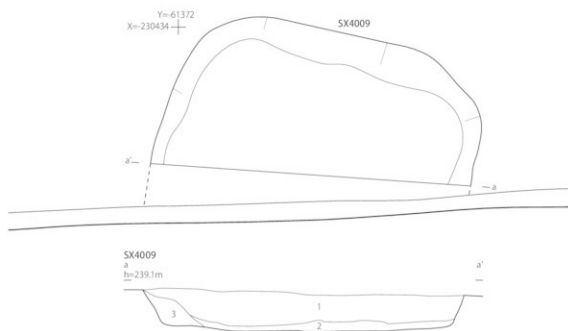
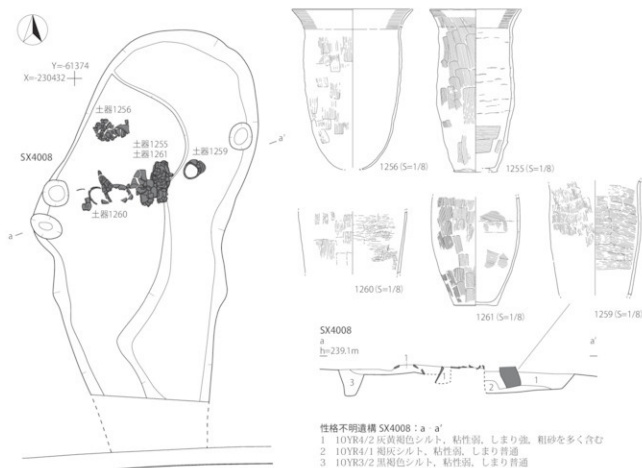


第 200 図 性格不明遺構 SX3080・3335





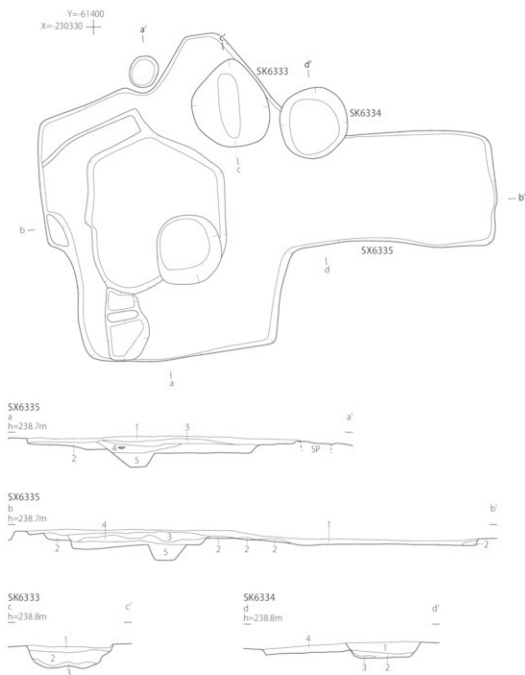
第202図 性格不明遺構 SX3756



- 性格不明遺構 SX4009 : a - a'
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性弱、しまり普通、粗砂を多く含む、5mm 大の炭をごくわずかに含む
 - 2 10YR4/1 褐色シルト、粘性普通、しまり普通、砂を少し含む、炭粒をごくわずかに含む
 - 3 10YR3/2 黒褐色シルト、粘性普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトをまだら状に非常に多く含む、3mm 大の炭をごくわずかに含む



第 203 図 性格不明遺構 SX4008・4009



性格不明遺構 SK6335 : a - a', b - b'

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通
- 2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性弱、しまり普通、5mm 大の地山ブロックをまだら状にわずかに含む
- 3 10YR2/1 黒色粘質シルト、粘性普通、しまり強、5mm 大の炭を少し含む
- 4 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり強、2cm 大の 10YR8/2 灰白粘土をまだら状に含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性弱、しまり強、1cm 大の地山ブロックをまだら状に含む

土坑 SK6333 : c - c'

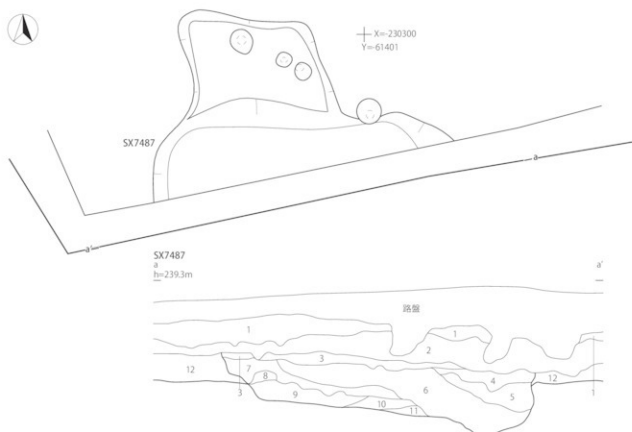
- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm ~ 1cm 大の炭をまだら状に含む
- 2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり強、1 ~ 2cm 大の地山ブロックをまだら状にわずかに含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり強、1cm 大の地山ブロックをまだら状に含む

土坑 SK6334、性格不明遺構 SK6335 : d - d'

- 1 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm ~ 1cm 大の炭をまだら状に含む
- 2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり強、1 ~ 2cm 大の地山ブロックをまだら状にわずかに含む
- 3 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり強、1cm 大の地山ブロックをまだら状に含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、SK6335

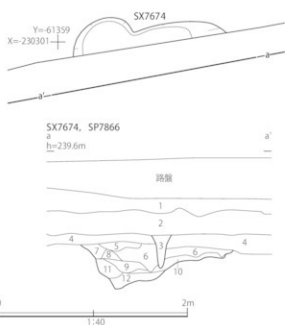


第 204 図 性格不明遺構 SK6335、土坑 SK6333・6334



性格不明遺構 SX7487 : a - a'

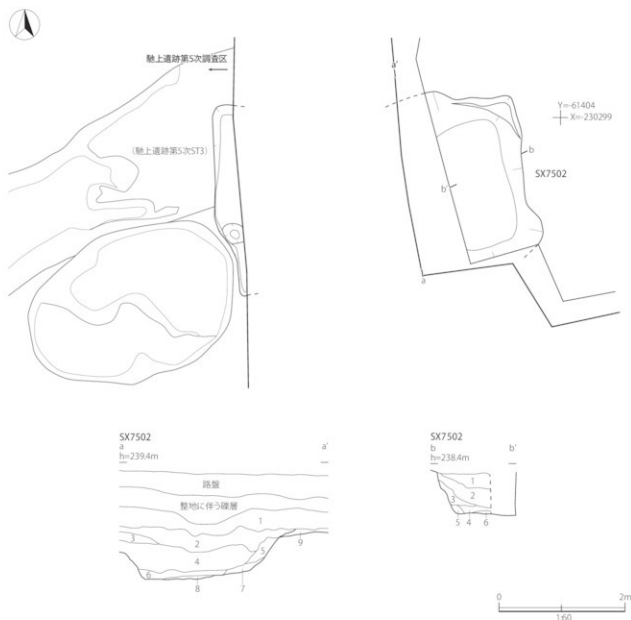
- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、炭と礫を少し含む、表土
- 2 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性弱、しまり強、10YR6/1 褐灰色シルトを少し含む、酸化鉄をわずかに含む、旧耕作土
- 3 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR5/2 灰黄褐色シルトを含む、酸化鉄を少し含む
- 4 10YR3/3 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/1 褐灰色粘土を含む
- 5 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR5/3 に近い黄褐色シルトと 5mm 大の炭を含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR5/3 に近い黄褐色シルトと 1 ~ 5cm 大の礫を多く含む
- 7 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、3cm 大の礫を多く含む、2cm 大の 10YR5/3 に近い黄褐色シルトを含む
- 8 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/2 灰黄褐色シルトを含む、2mm 大の炭を少し含む
- 9 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトと 5mm 大の炭を少し含む
- 10 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/3 に近い黄褐色シルトと 2cm 大の礫を含む
- 11 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、下層・底面に酸化鉄を多く含む、5mm 大の 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルトと 2cm 大の礫を含む
- 12 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/1 黒褐色シルトをわずかに含む、遺物包含層



性格不明遺構 SX7674、柱穴 SP7866 : a - a'

- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質シルトを少し含む、表土
- 2 10YR3/4 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色粘質シルトを少し含む、旧耕作土
- 3 10YR5/3 に近い黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと 1 ~ 2mm 大の礫をわずかに含む、SP7866
- 4 10YR4/1 褐灰色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/1 褐灰色粘土と酸化鉄を帯状に少し含む、遺物包含層
- 5 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトを少し含む、以下 SX7674
- 6 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 7 10YR4/1 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色シルトを少し含む
- 8 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 9 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトと 10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む
- 10 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/2 灰黄褐色砂質シルトを少し含む
- 11 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 12 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、3 ~ 5cm 大の礫を多く含む、10YR6/3 に近い黄褐色細砂を少し含む

第 205 図 性格不明遺構 SX7487・7674、柱穴 SP7866



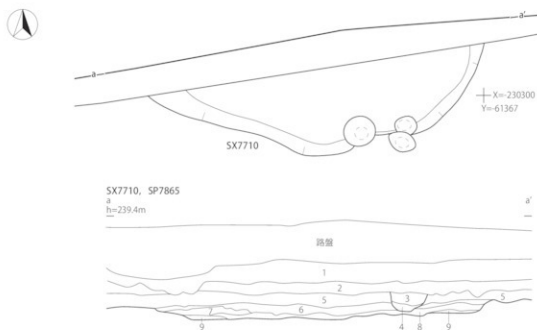
性格不明透構 SX7502 : a - a'

- 1 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性弱、しまり強、10YR6/1 褐灰色シルトを少し含む、酸化鉄をわずかに含む、旧耕作土
- 2 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、2cm 大の 10YR6/1 褐灰色シルトと 5mm 大の礫を含む
- 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性弱、しまり普通、1cm 大の 10YR6/3 にぶい黄褐色シルトを含む、2mm 大の炭を少し含む
- 4 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR5/1 褐灰色粘土を多く含む、2～5cm 大の礫を含む
- 5 10YR3/2 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、5mm 大の 10YR6/3 にぶい黄褐色シルトと 1～3cm 大の礫を含む
- 6 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、2～5cm 大の 10YR6/3 にぶい黄褐色シルトを多く含む
- 7 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR6/4 にぶい黄褐色シルトを含む
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、1cm 大の 10YR6/3 にぶい黄褐色シルトと 5mm 大の炭を少し含む
- 9 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR3/1 黒褐色シルトをわずかに含む、遺物包有層

性格不明透構 SX7502 : b - b'

- 1 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、2cm 大の 10YR6/1 褐灰色シルトと 5mm 大の礫を含む
- 2 10YR3/1 黒褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2cm 大の 10YR5/1 褐灰色粘土を多く含む、2～5cm 大の礫を含む
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、2～5cm 大の 10YR6/3 にぶい黄褐色シルトを多く含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、2～5cm 大の 10YR6/3 にぶい黄褐色シルトを多く含む
- 5 10YR4/1 褐灰色細砂、粘性弱、しまり普通、10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルトを含む
- 6 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト、粘性弱、しまり普通、2～3cm 大の礫を多く含む、10YR6/1 褐灰色細砂を含む

第206図 性格不明透構 SX7502



性格不明遺構 SX7710、柱穴 SP7865 : a - a'

- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、7.5YR4/4 褐色シルトを帯状に含む、表土
- 2 10YR3/4 暗褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通、田耕作土
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、以下4層まで SP7865
- 4 10YR3/3 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に少し含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、以下 SX7710
- 6 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/2 灰黄褐色シルトをまだら状に少し含む
- 7 10YR3/4 暗褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/3 に近い黄褐色シルトをまだら状に少し含む
- 8 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通
- 9 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質シルト、粘性普通、しまり普通

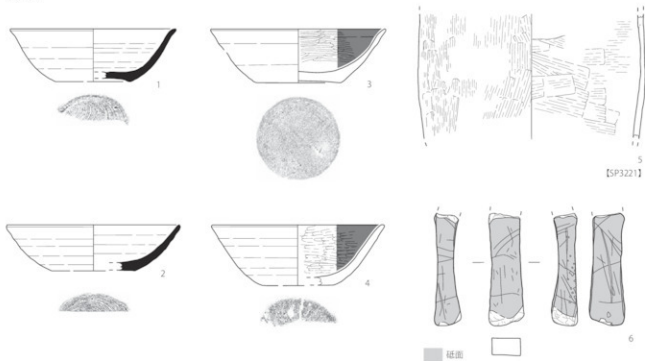


性格不明遺構 SX7869 : a - a', b - b'

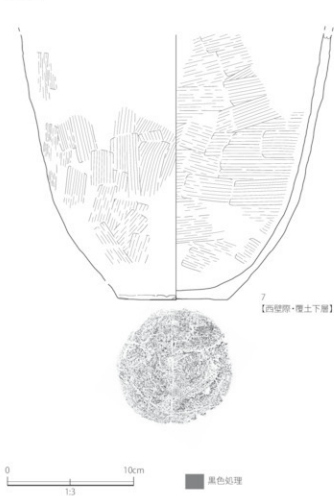
- 1 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/2 灰黄褐色シルトを少し含む、以下6層まで SX7869
- 2 10YR5/2 灰黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 3 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/3 に近い黄褐色シルトを少し含む
- 4 10YR4/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR5/4 に近い黄褐色粘質シルトを少し含む
- 5 10YR5/1 褐灰色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR6/4 に近い黄褐色シルトを多く含む
- 6 10YR5/4 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを多く含む
- 7 10YR5/3 に近い黄褐色シルト、粘性普通、しまり普通、10YR4/1 褐灰色シルトを少し含む、SD7001

第 207 図 性格不明遺構 SX7710・7869、柱穴 SP7865

ST3006



ST3215

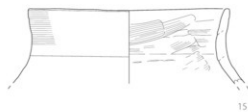
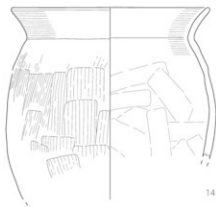
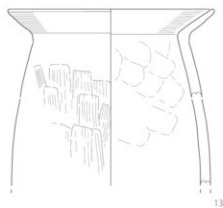
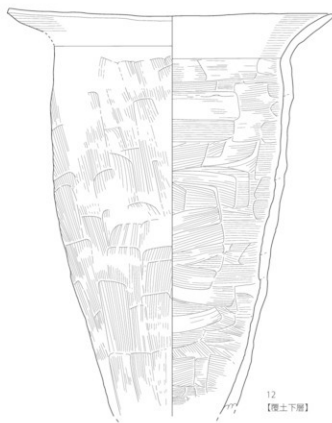
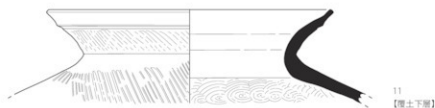


ST3247



第 208 図 竪穴建物 ST3006・3215・3247 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石製品

ST3482

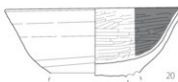
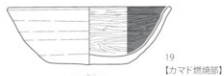


ST3727

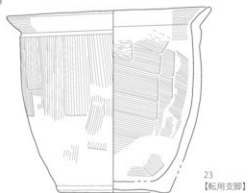


第209図 竪穴建物 ST3482・3727 出土の須恵器・土師器

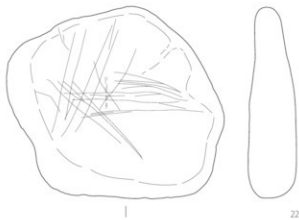
ST3774



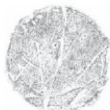
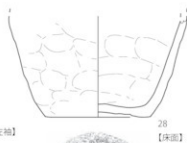
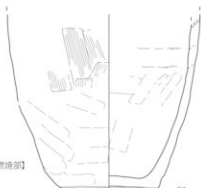
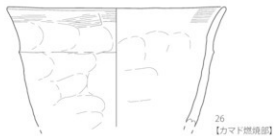
ST3805



ST3776



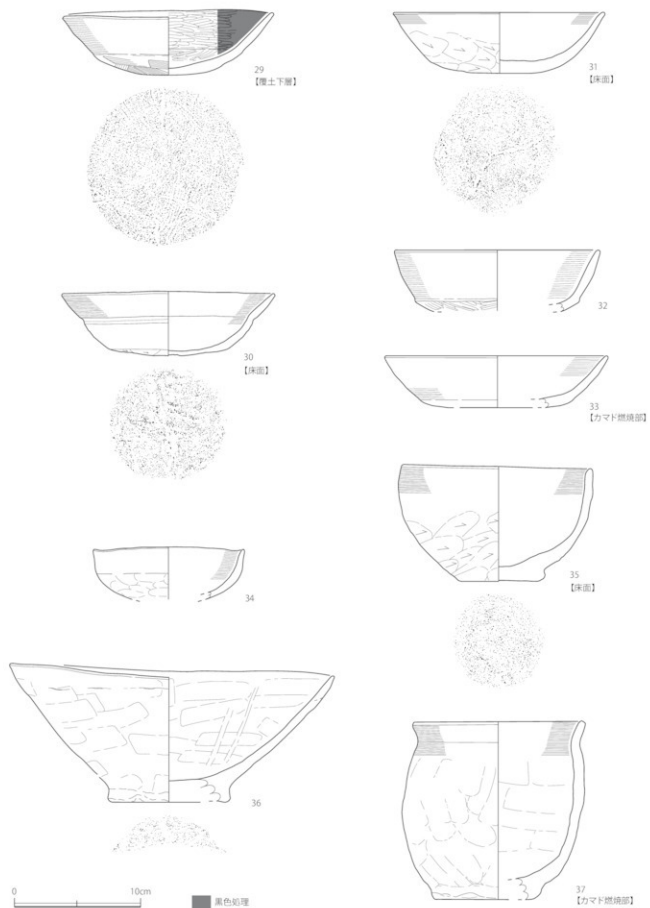
ST3987



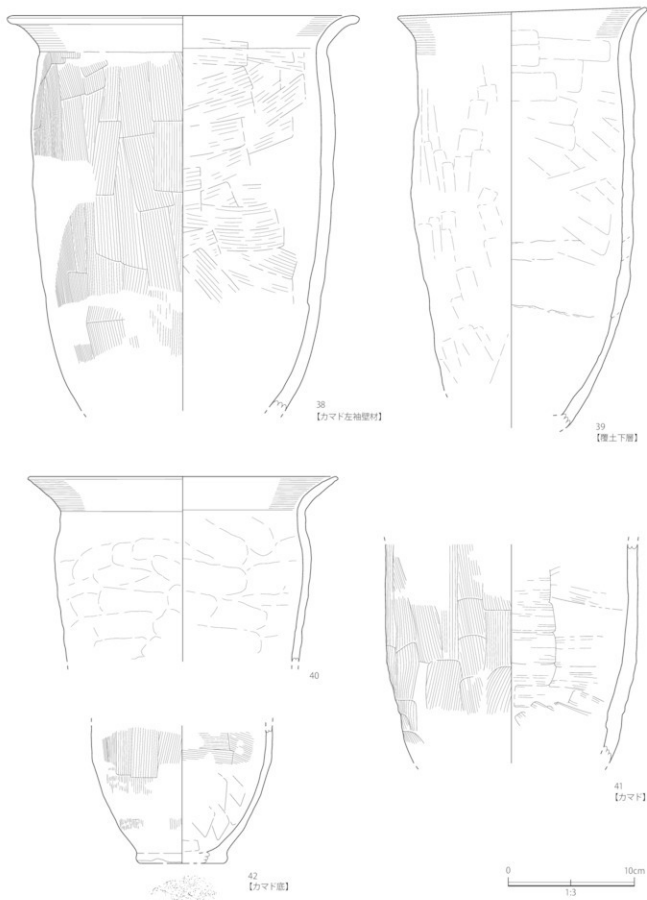
■ 黒色処理



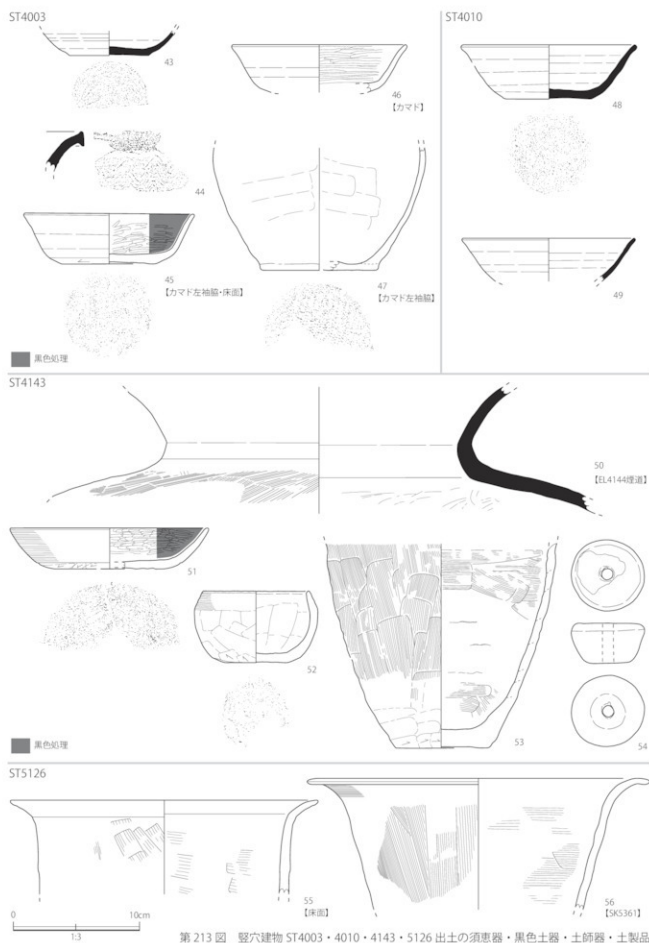
第 210 図 竪穴建物 ST3774・3776・3805・3987 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石器



第 211 図 竪穴建物 ST4000 出土の黒色土器・土師器

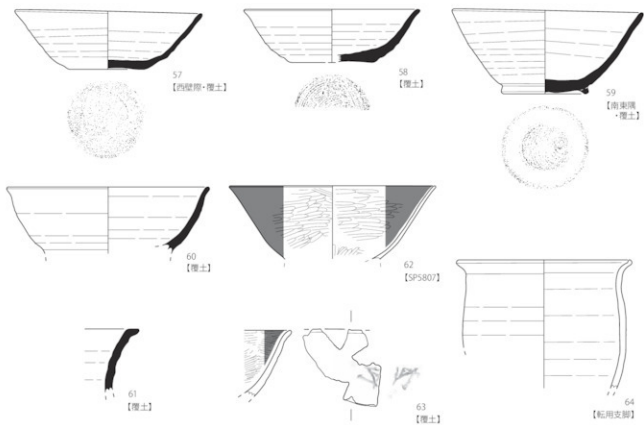


第 212 図 竪穴建物 ST4000 出土の土師器

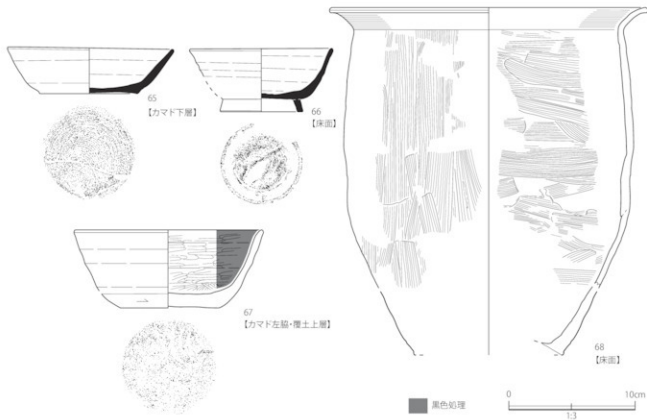


第 213 図 竪穴建物 ST4003・4010・4143・5126 出土の須恵器・黒色土器・土師器・土製品

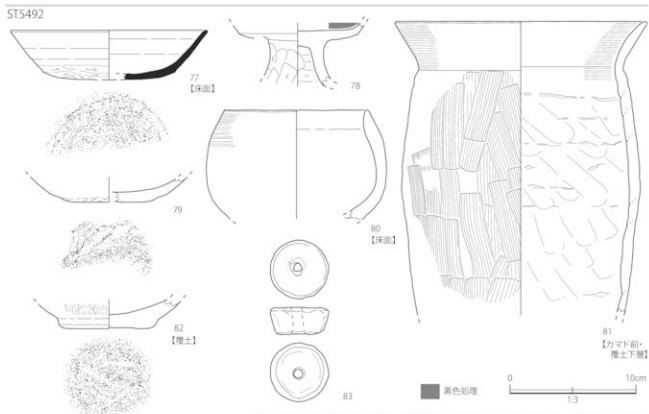
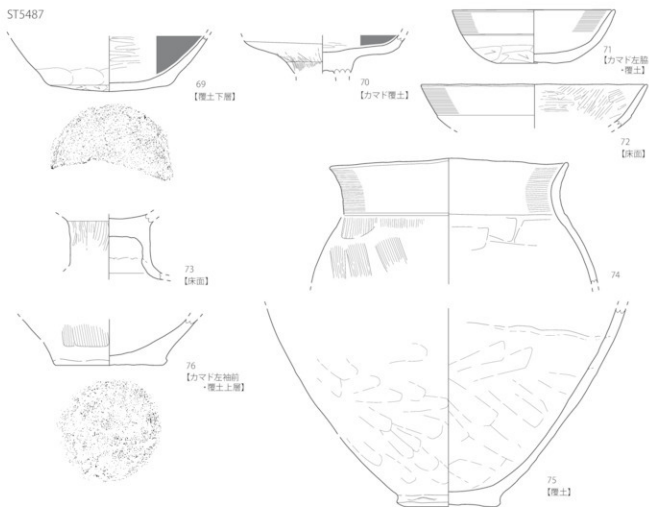
ST5350



ST5351

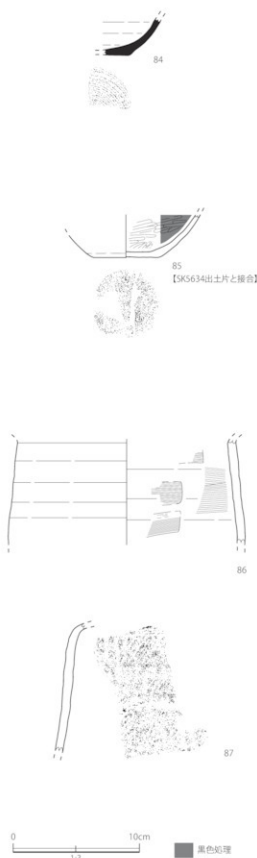


第 214 図 竪穴建物 ST5350・5351 出土の須恵器・黒色土器・土師器

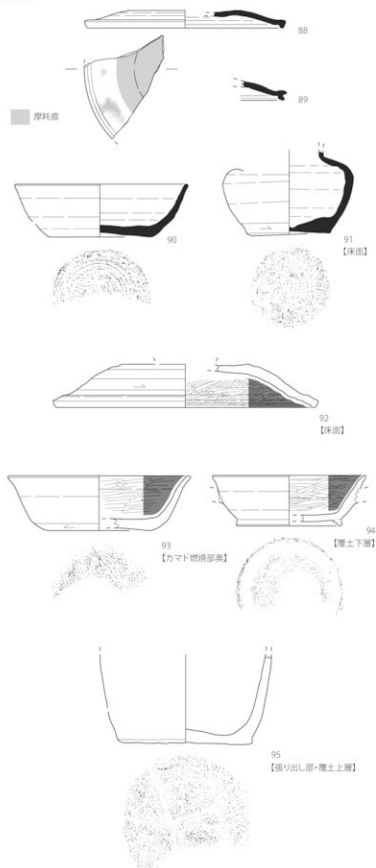


第 215 図 竪穴建物 ST5487・5492 出土の須恵器・黒色土器・土師器・土製品

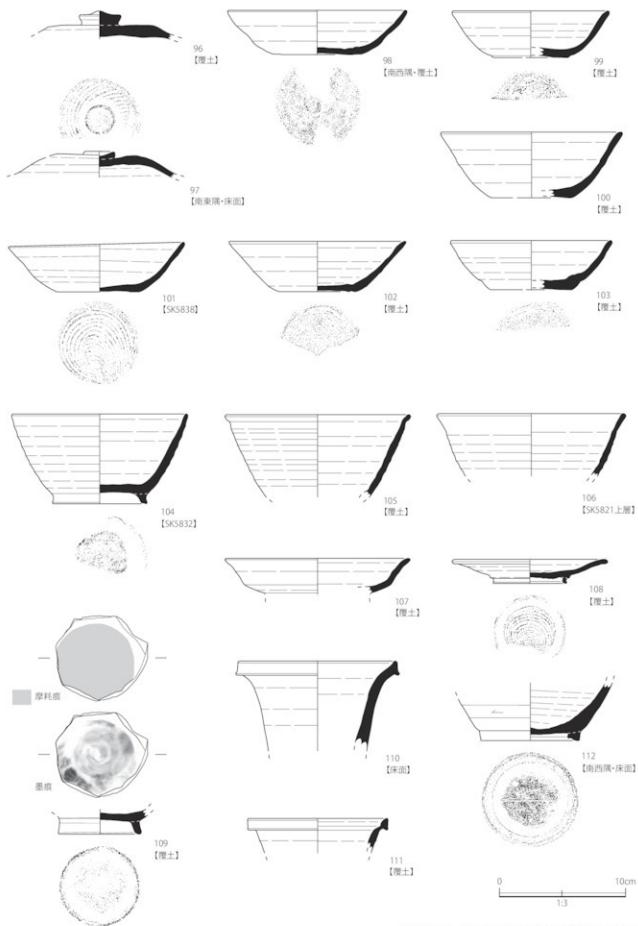
ST5631



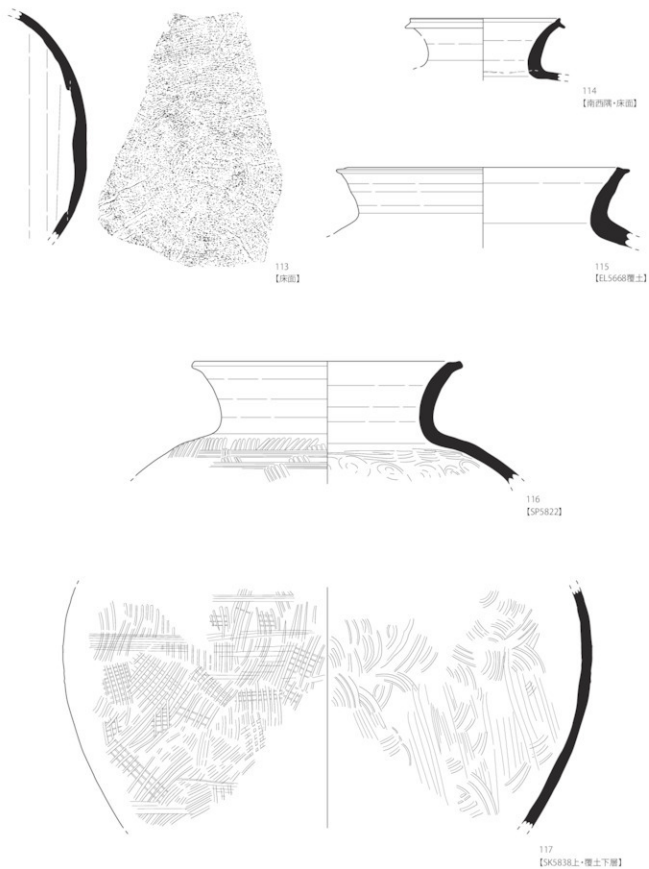
ST5638



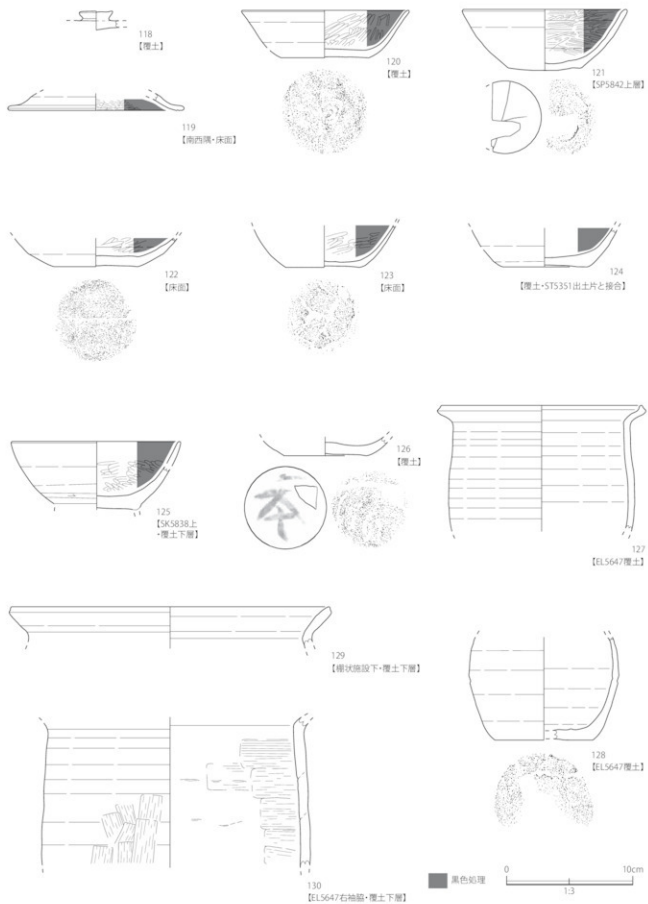
第 216 図 竪穴建物 ST5631・5638 出土の須恵器・黒色土器・土師器



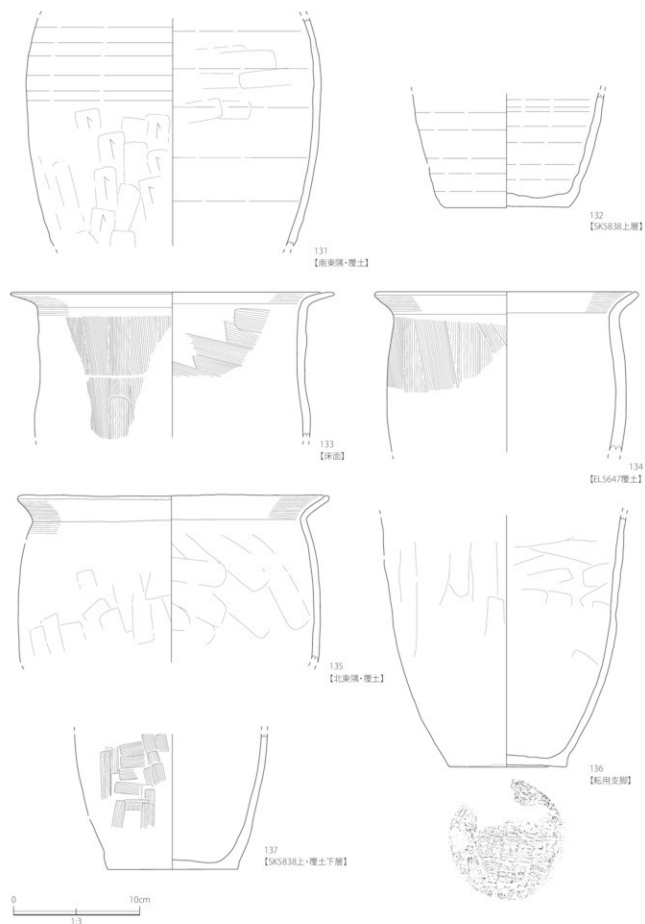
第 217 図 壁穴建物 ST5665 出土の須恵器 (1)



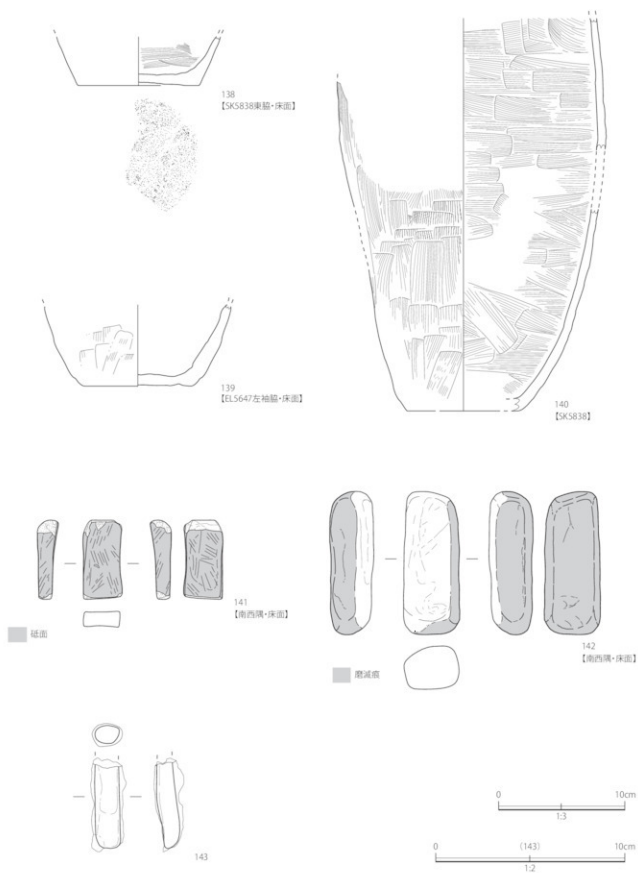
第218図 竪穴建物 ST5665 出土の須恵器 (2)



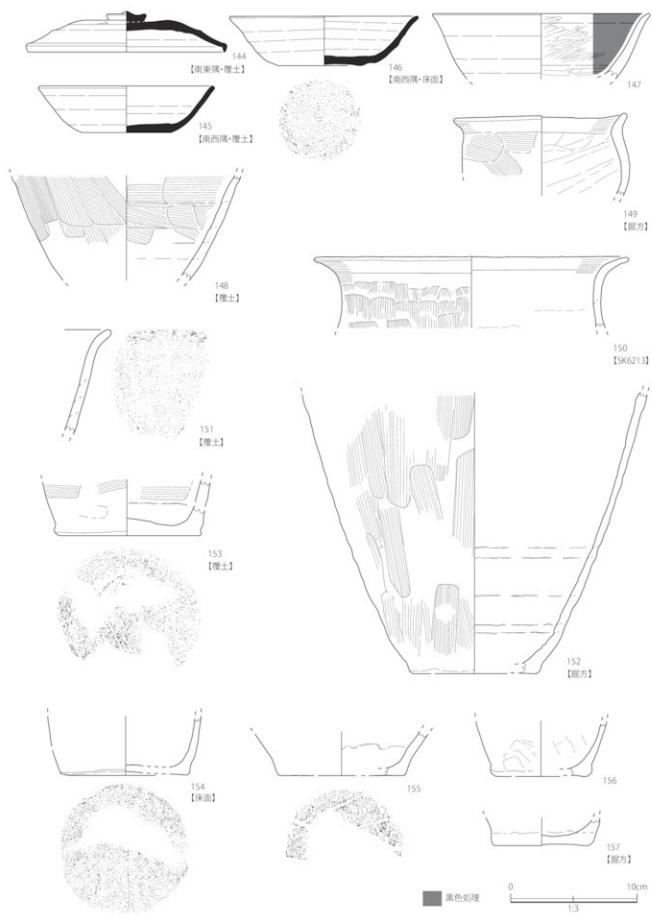
第 219 図 竪穴建物 ST5665 出土の黒色土器・土師器



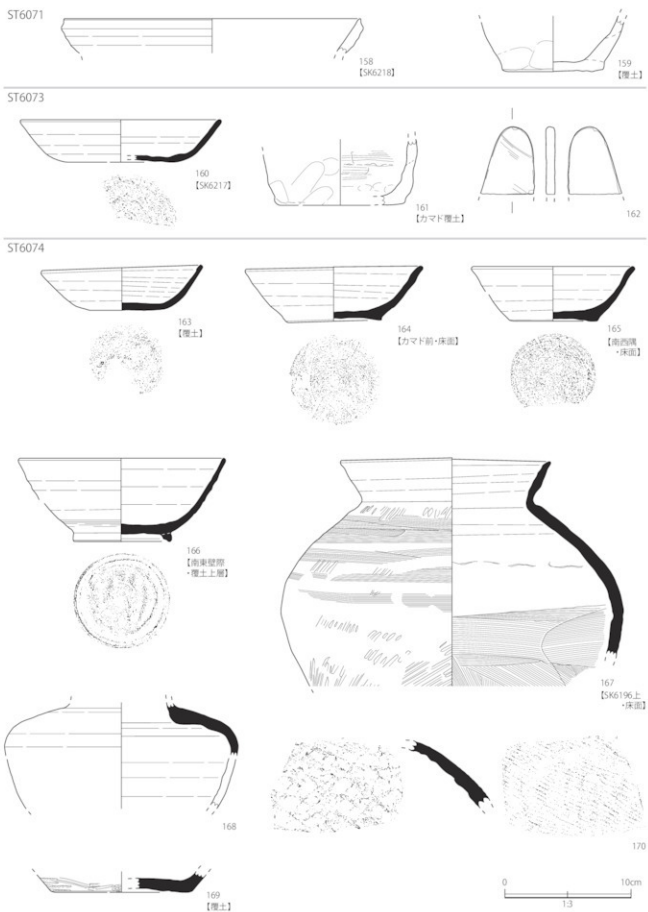
第 220 図 竪穴建物 ST5665 出土の土師器



第 221 図 竪穴建物 ST5665 出土の土師器・石製品・石器・鉄製品

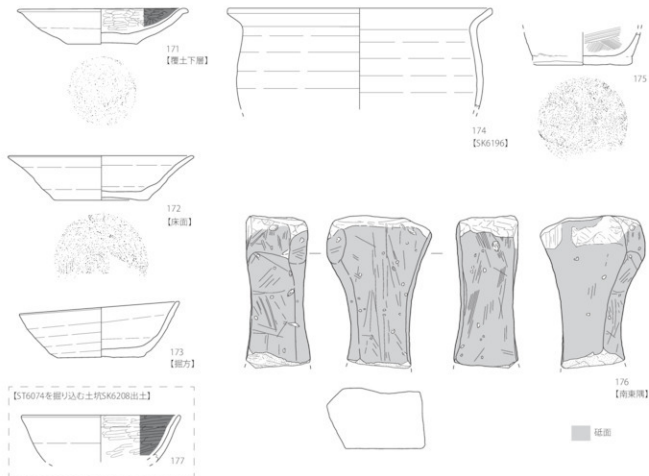


第 222 図 竪穴建物 ST6065 出土の須恵器・黒色土器・土師器

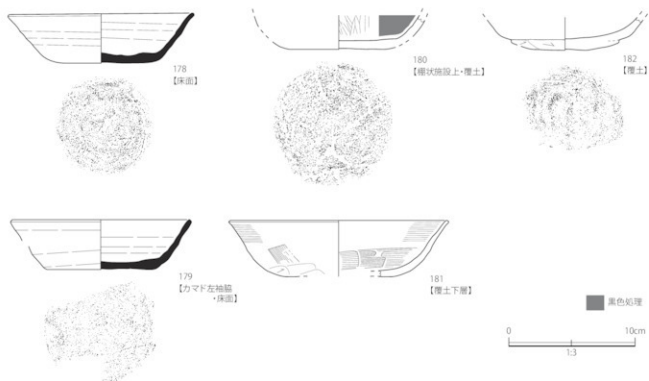


第 223 図 竪穴建物 ST6071・6073・6074 出土の須恵器・土師器・石製品

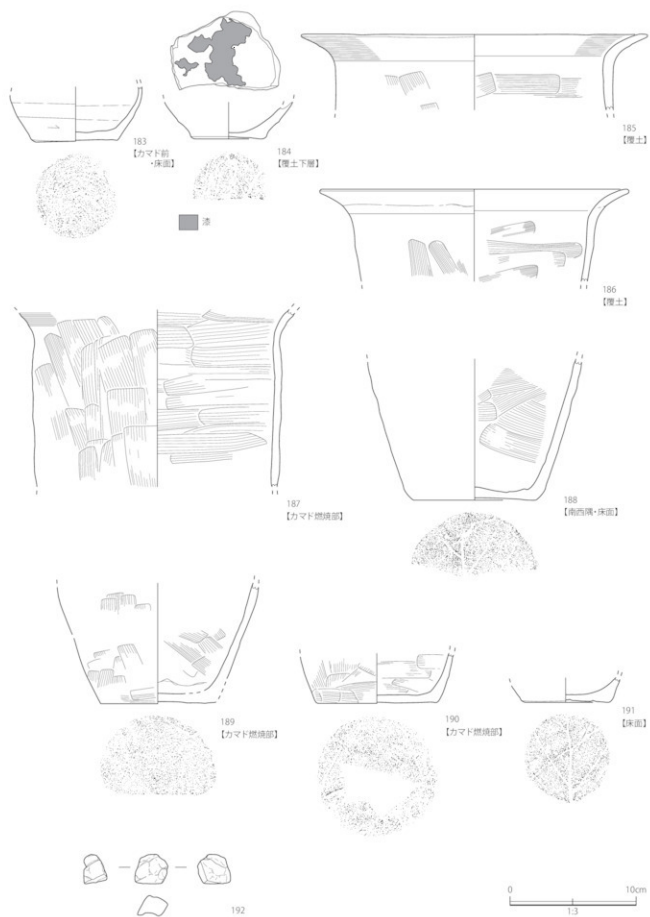
ST6074



ST6084

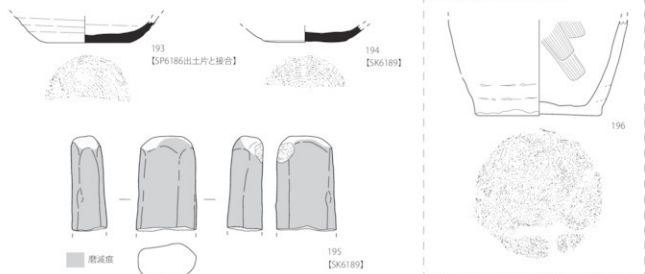


第 224 図 竪穴建物 ST6074・6084 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石製品

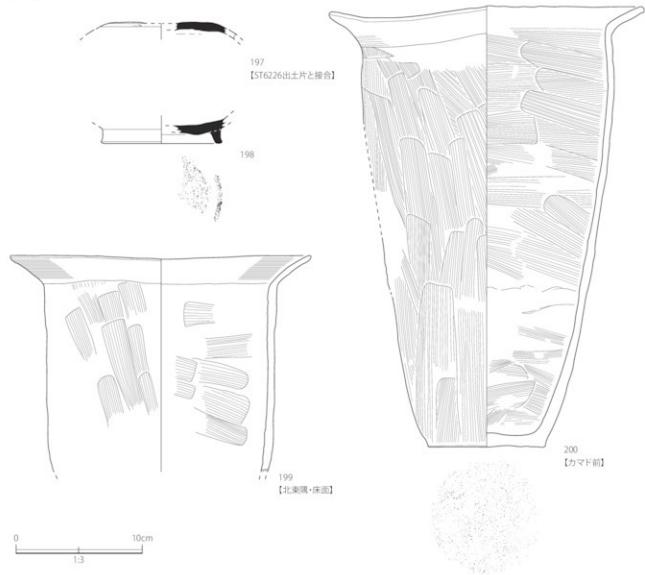


第 225 図 竪穴建物 ST6084 出土の土器・土製品

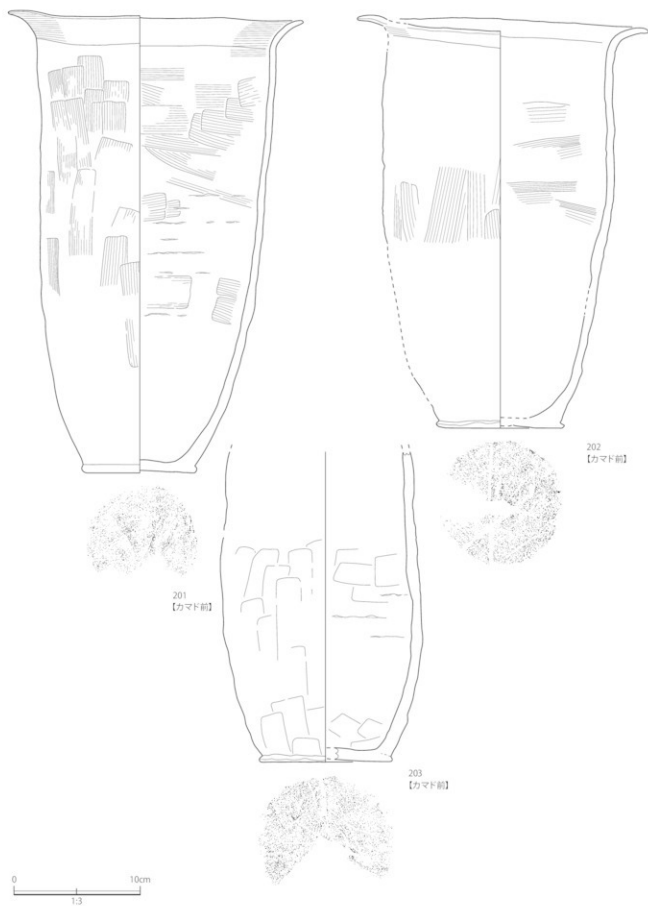
ST6096



ST6222

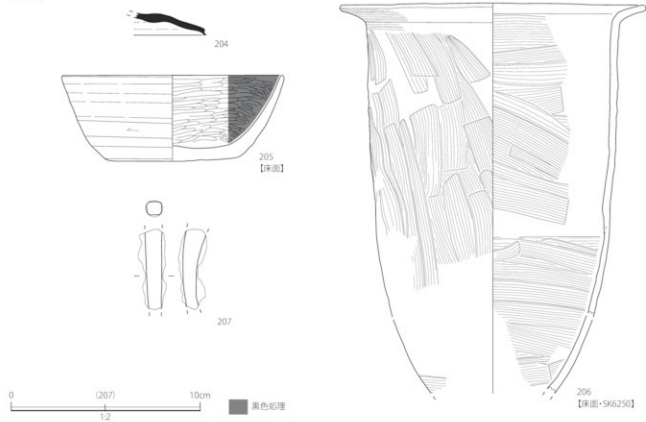


第 226 図 竪穴建物 ST6096・6222 出土の須恵器・土師器・石器

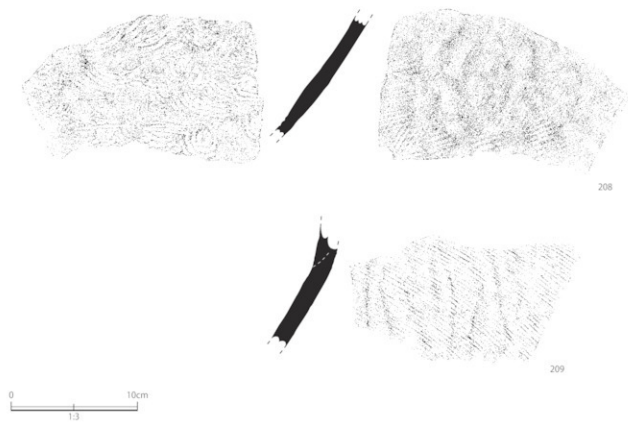


第 227 図 竪穴建物 ST6222 出土の土師器

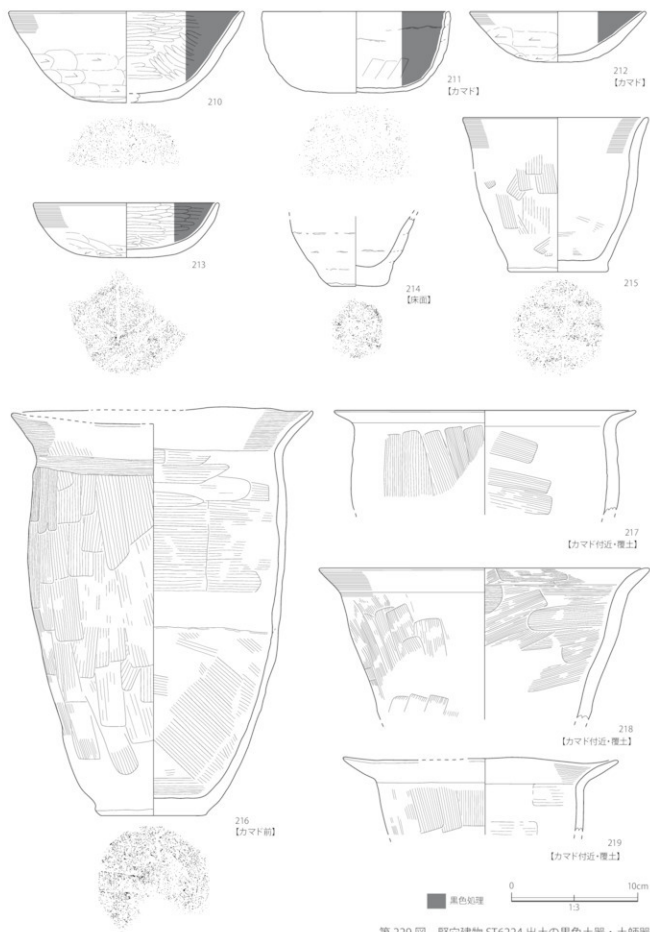
ST6223



ST6224

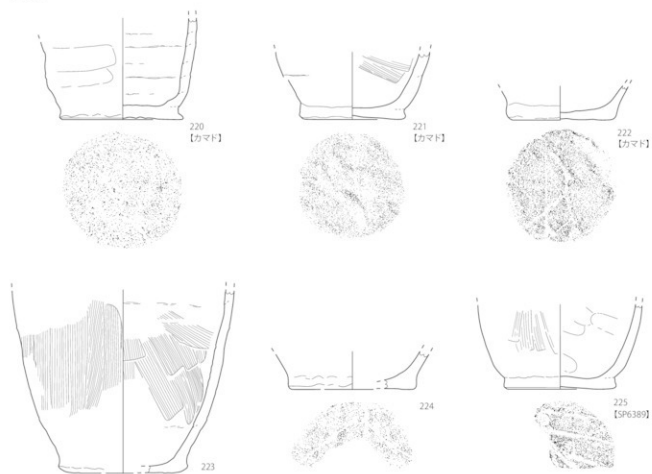


第 228 図 竪穴建物 ST6223・6224 出土の須恵器・黒色土器・土師器・鉄製品

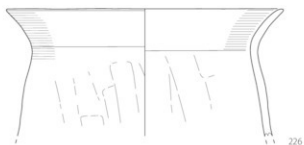


第 229 図 竪穴建物 ST6224 出土の黒色土器・土師器

ST6224



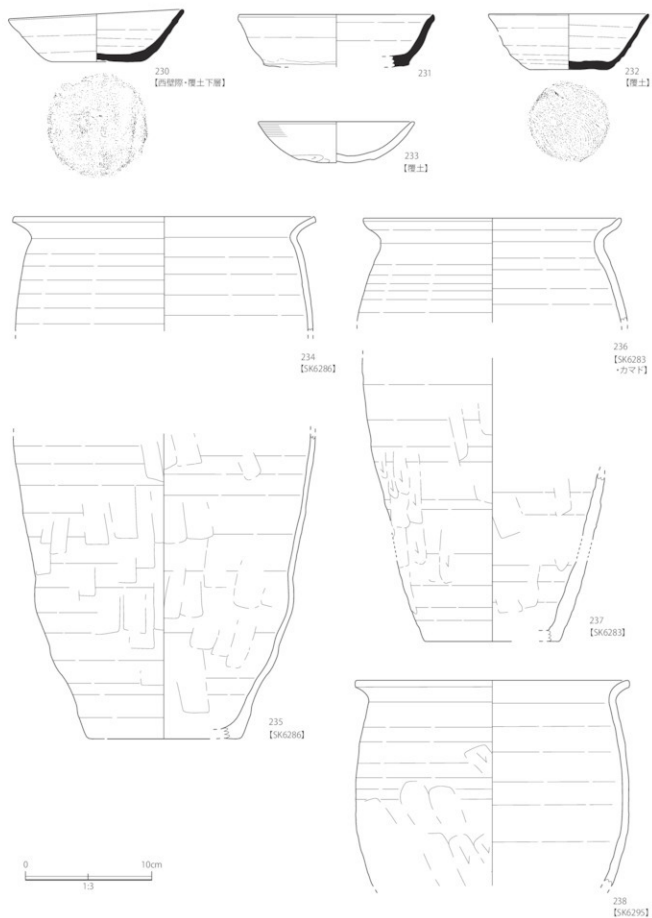
ST6225



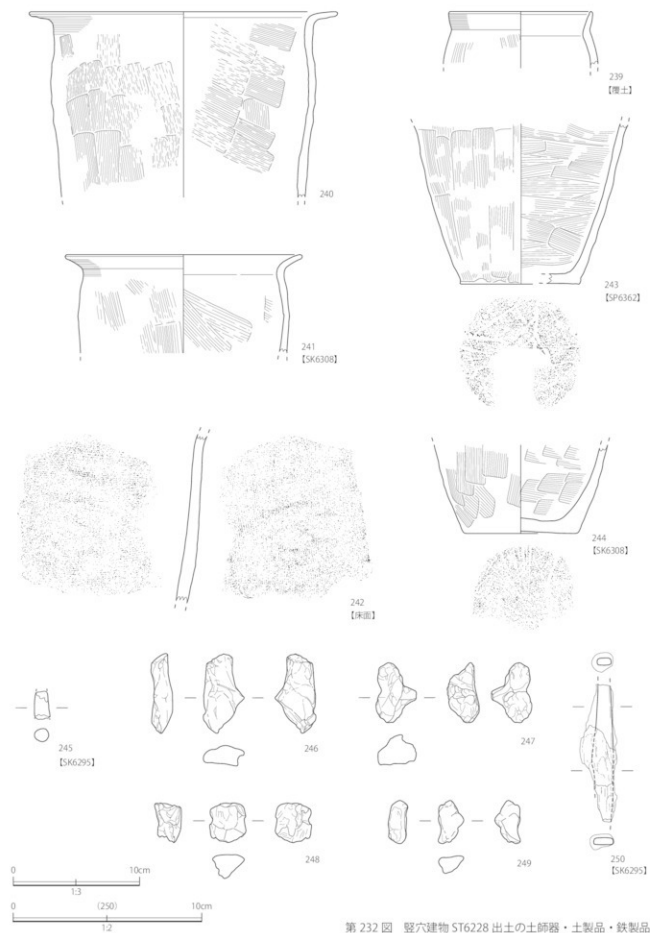
ST6226



第 230 図 竪穴建物 ST6224 ~ 6226 出土の須恵器・黒色土器・土師器

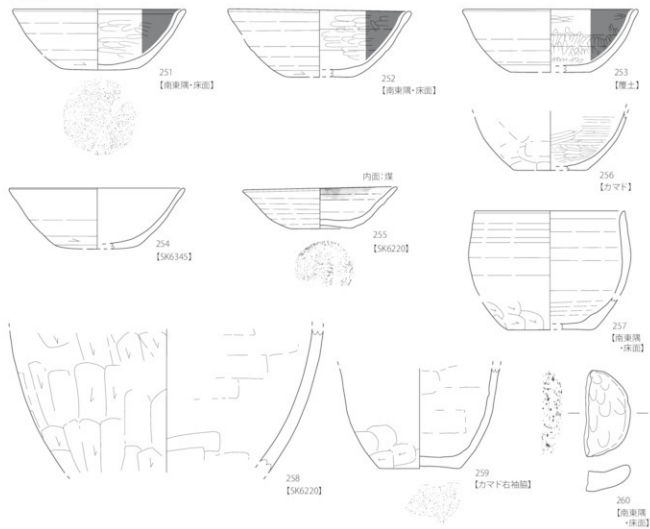


第 231 図 竪穴建物 ST6228 出土の須恵器・土師器

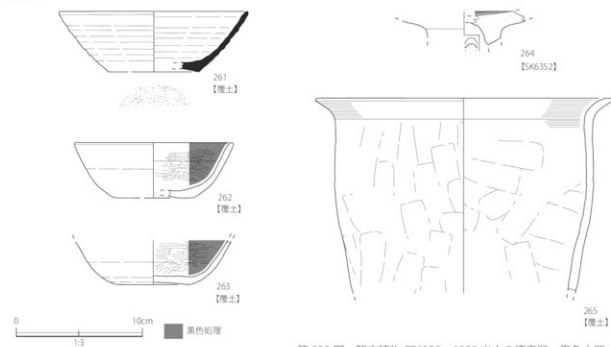


第 232 図 竪穴建物 ST6228 出土の土師器・土製品・鉄製品

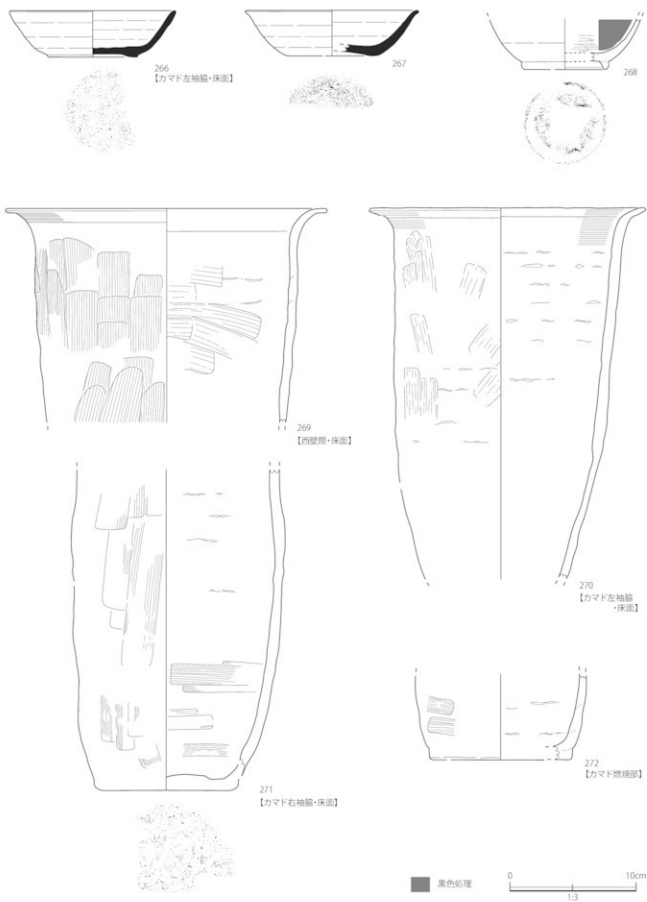
ST6229



ST6230

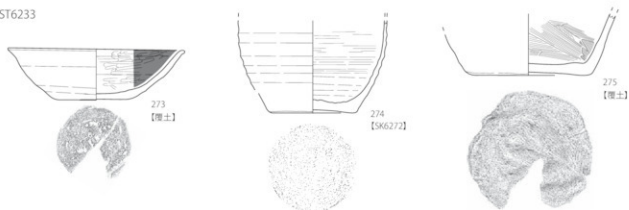


第 233 図 竪穴建物 ST6229・6230 出土の須恵器・黒色土器・土師器

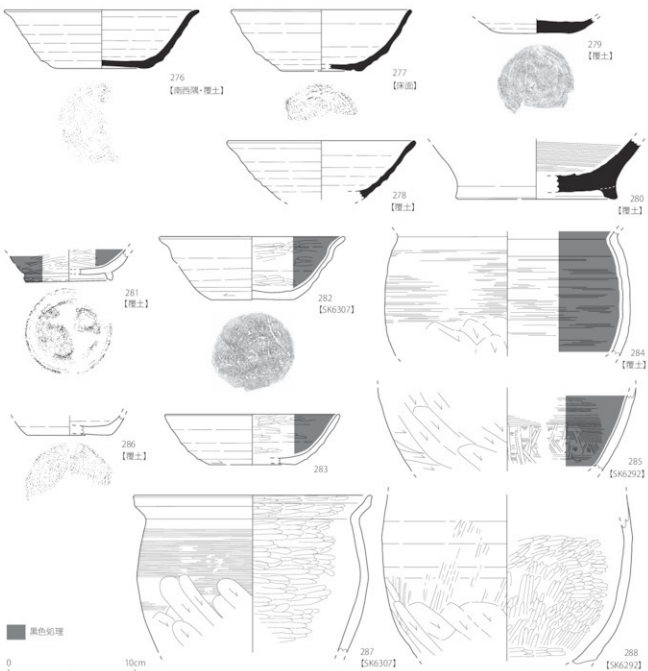


第 234 図 竪穴建物 ST6231 出土の須恵器・黒色土器・土師器

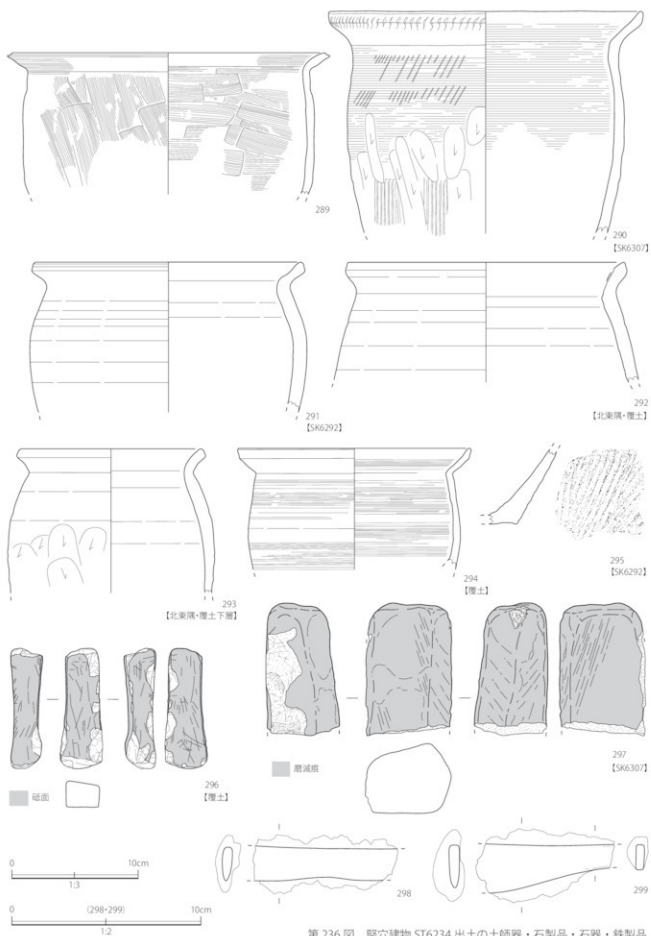
ST6233



ST6234



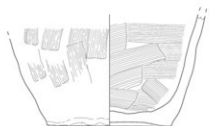
第 235 図 竪穴建物 ST6233・6234 出土の須恵器・黒色土器・土師器



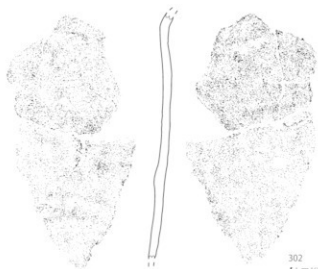
ST6235



300
【床面】



301
【カマド燃焼部】



302
【カマド燃焼部】



304
【北東壁層・床面】

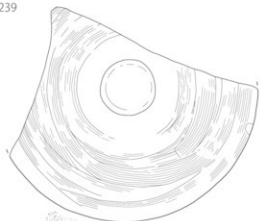


305
【北西壁層・床面】

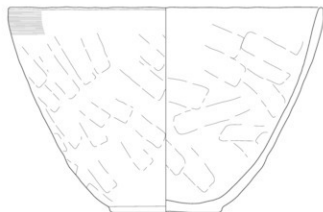
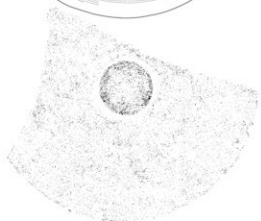


306

ST6239



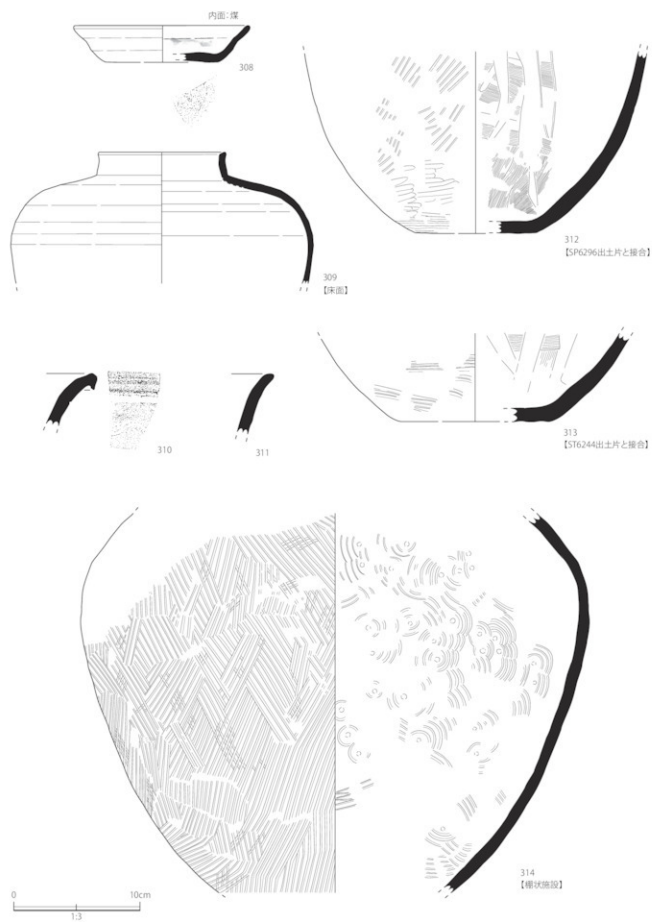
303【床面】



307
【北西壁層・床面】

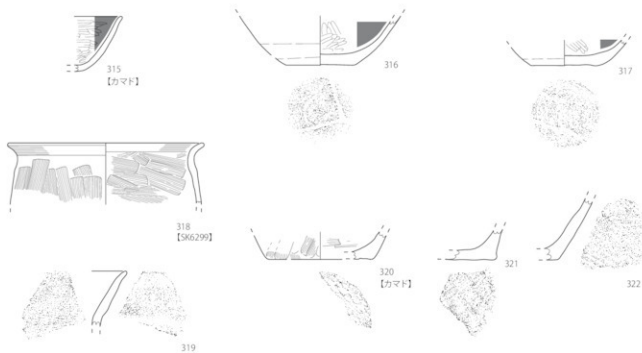


第 237 図 竪穴建物 ST6235・6239 出土の須恵器・土師器

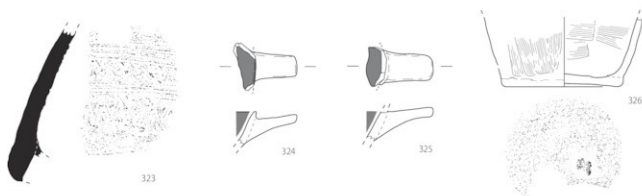


第 238 図 竪穴建物 ST6243 出土の須恵器

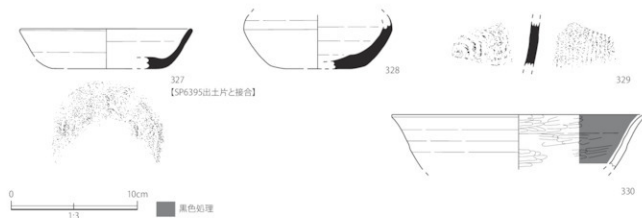
ST6243



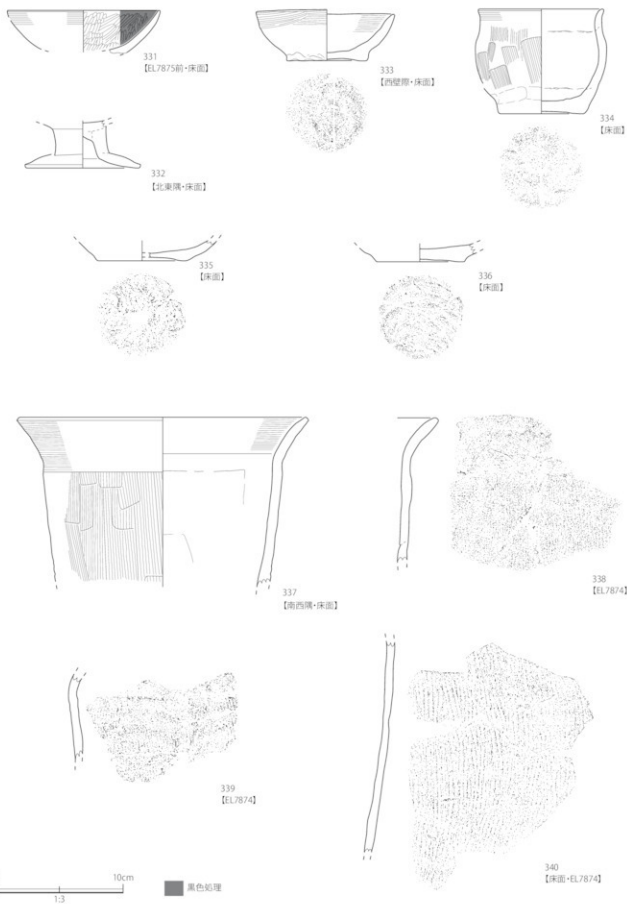
ST6244



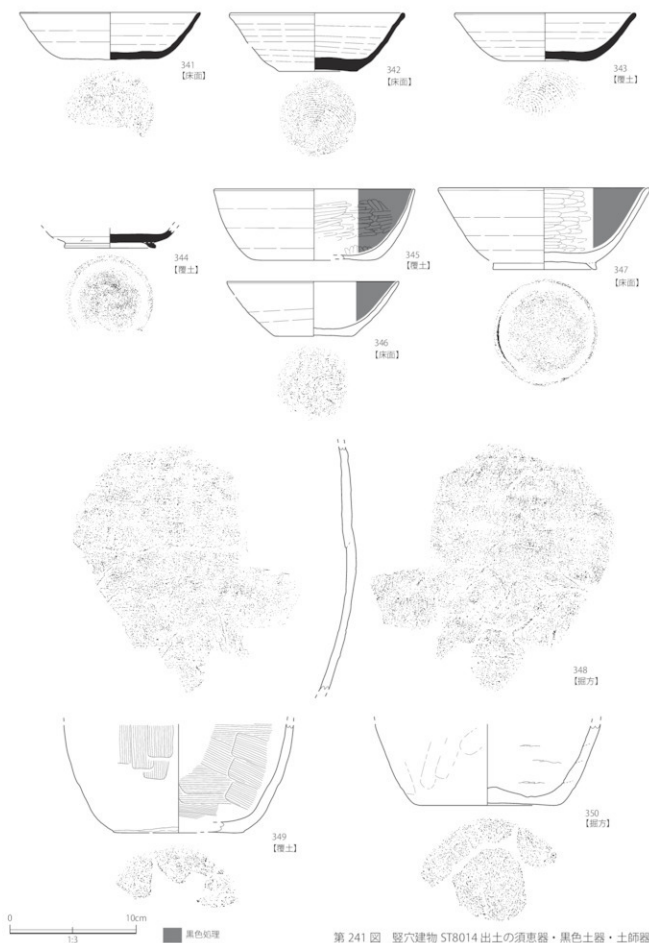
ST6245



第 239 図 竪穴建物 ST6243 ～ 6245 出土の須恵器・黒色土器・土師器

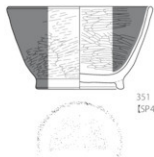


第240図 竪穴建物 ST7000 出土の黒色土器・土師器

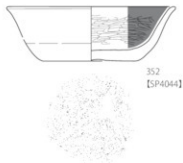


第 241 図 竪穴建物 ST8014 出土の須恵器・黒色土器・土師器

SB4332

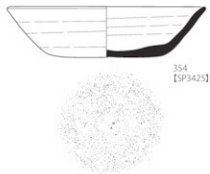


351
【SP4044】



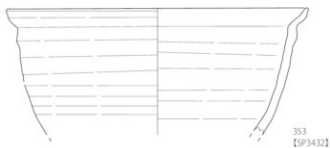
352
【SP4044】

SB4335

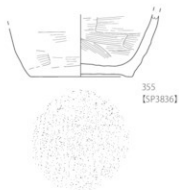


354
【SP3425】

SB4333



353
【SP3432】

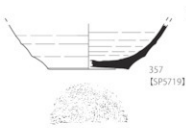


355
【SP3836】

SB6401



356
【SP5718】



357
【SP5719】

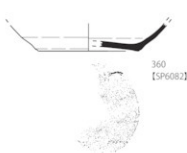


358
【SP5725】

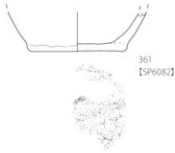


359
【SP5728】

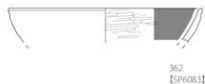
SB6403



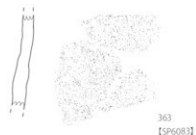
360
【SP6082】



361
【SP6082】



362
【SP6083】



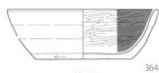
363
【SP6083】



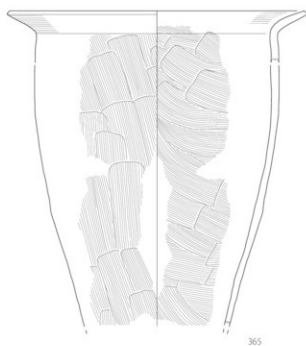
■ 黒色処理

第 242 図 掘立柱建物出土の須恵器・黒色土器・土師器

SP3347

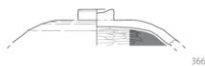


364



365

SP3349



366

SP6157



371

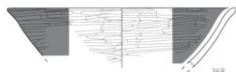


SP3350



367

SP3366

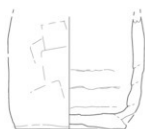


368



369

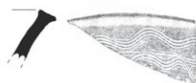
SP3592



370



SP6325



372

SP7050



373

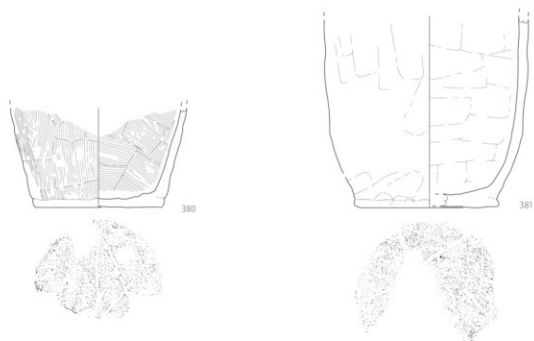
第 243 図 ビット出土の須恵器・黒色土器・土師器・土製品

SL3167



第 244 図 焼土遺構 SL3167 出土の須恵器・黒色土器・土師器

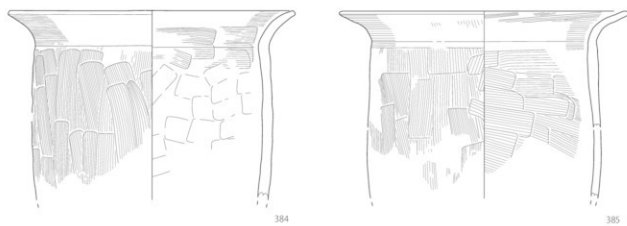
SL3167



SL3262



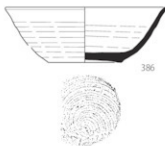
SL3642



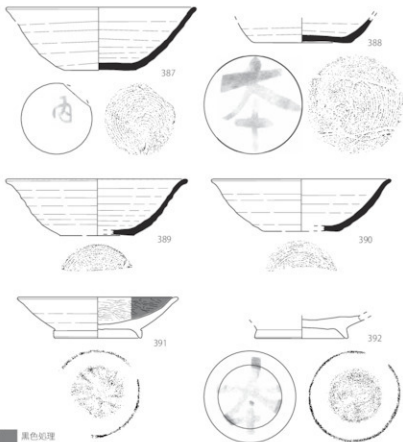
■ 黒色処理

第 245 図 埴土遺構 SL3167・3262・3642 出土の須恵器・黒色土器・土師器

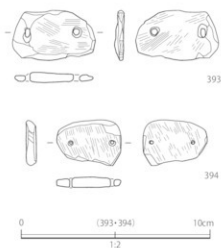
SK3065



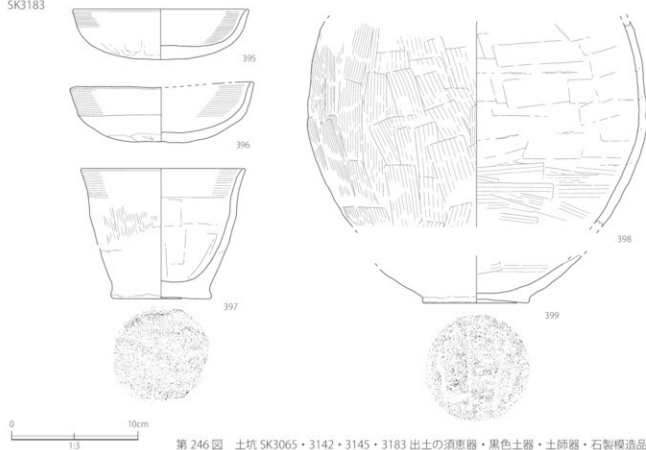
SK3142



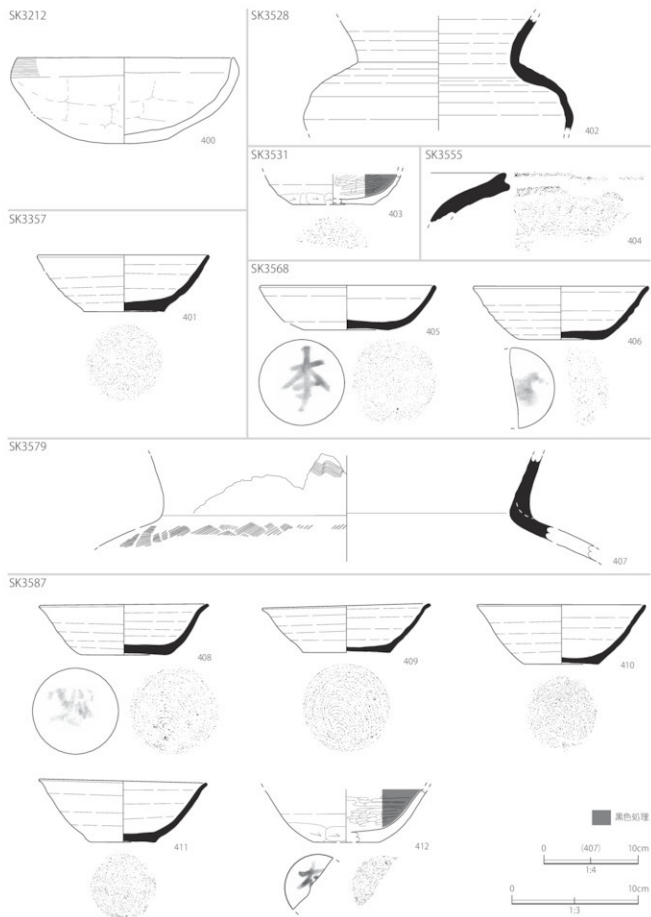
SK3145



SK3183

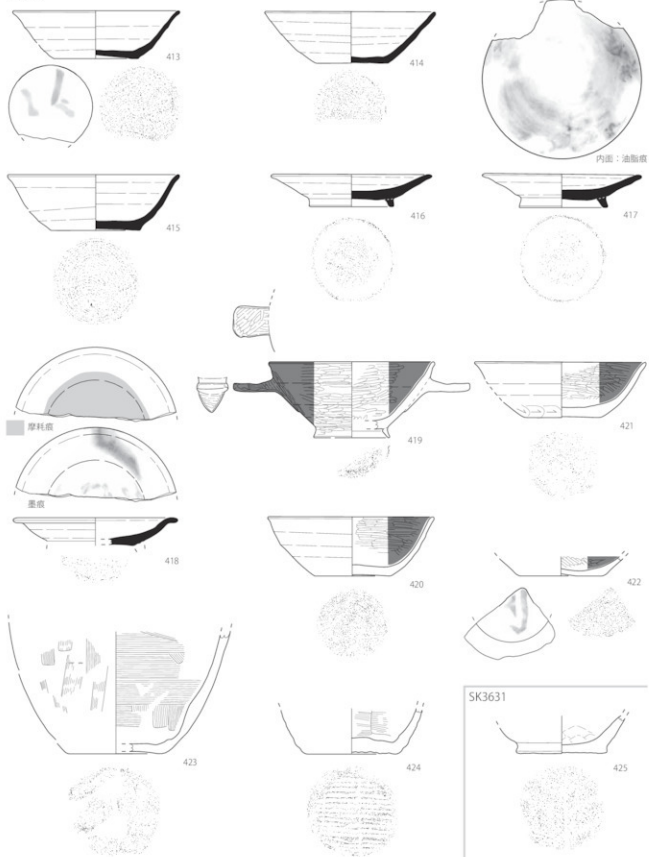


第246図 土坑 SK3065・3142・3145・3183 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石製模造品

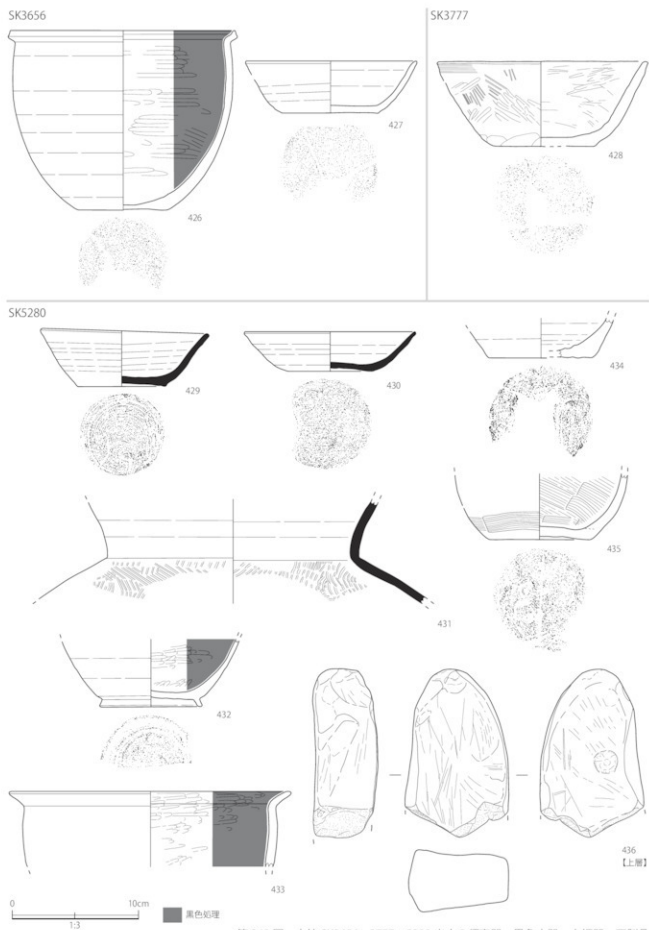


第247図 土坑 SK3212・3357・3528・3531・3555・3568・3579・3587 出土の須恵器・黒色土器・土師器

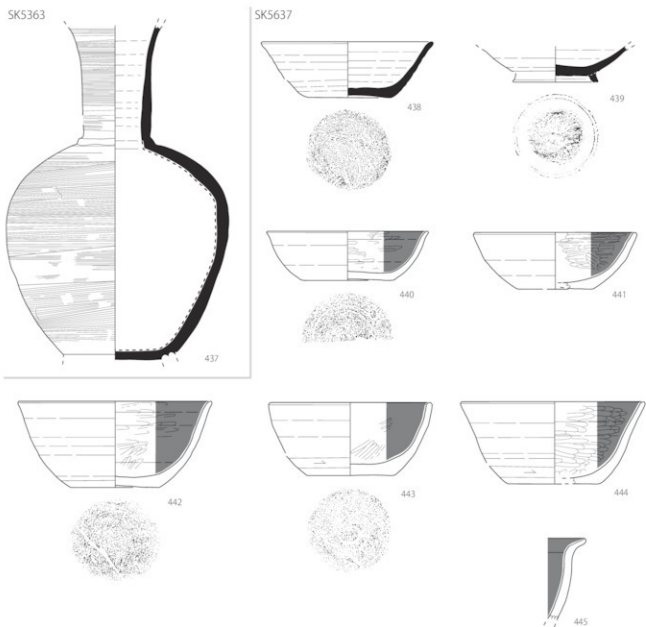
SK3589



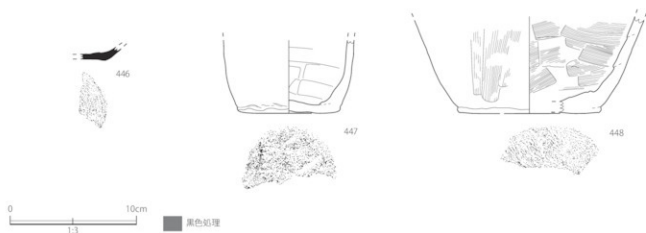
第 248 図 土坑 SK3589・3631 出土の須恵器・黒色土器・土師器



第 249 図 土坑 SK3656・3777・5280 出土の須恵器・黒色土器・土師器・石製品



SK5667



第 250 図 土坑 SK5363・5637・5667 出土の須恵器・黒色土器・土師器

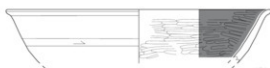
SK5744



449



450



451



452



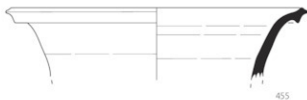
453



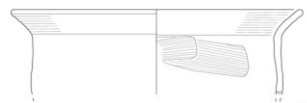
SK5805



454

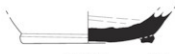


455



456

SK6221



457



458



SK6232



459



460



461



462



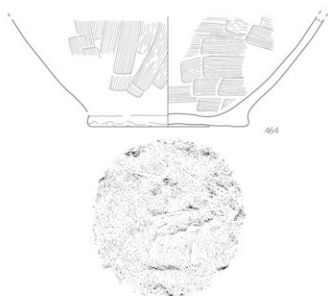
463

黒色彩壇

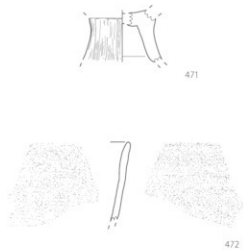


第 251 図 土坑 SK5744・5805・6221・6232 出土の須恵器・黒色土器・土師器

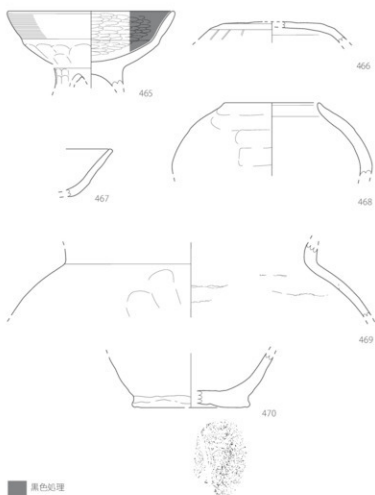
SK6241



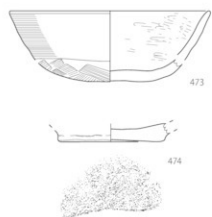
SK6333



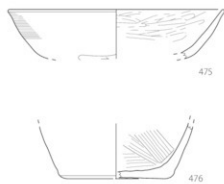
SK6279



SK6367

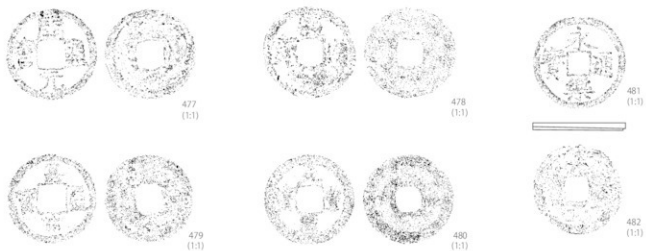


SK6375



第 252 図 土坑 SK6241・6279・6333・6367・6375 出土の黒色土器・土師器

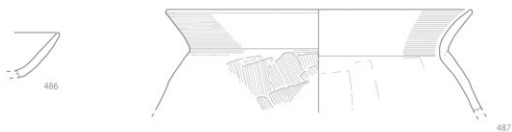
SK7037



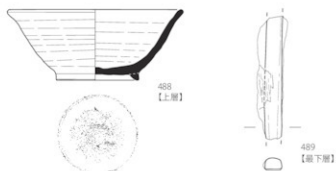
SK7039



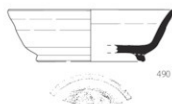
SK7857



SK8005

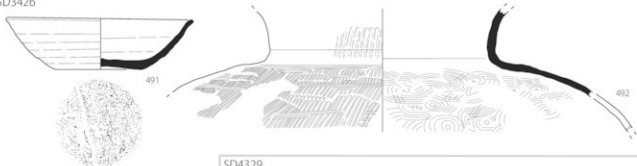


SK8016

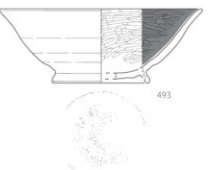


第 253 図 土坑 SK7037・7039・7857・8005・8016 出土の須恵器・土師器・銭貨・鉄製品

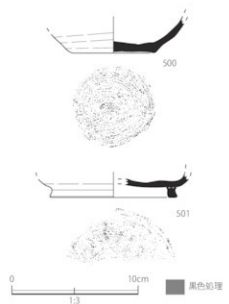
SD3426



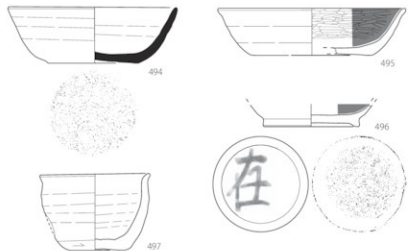
SD5039



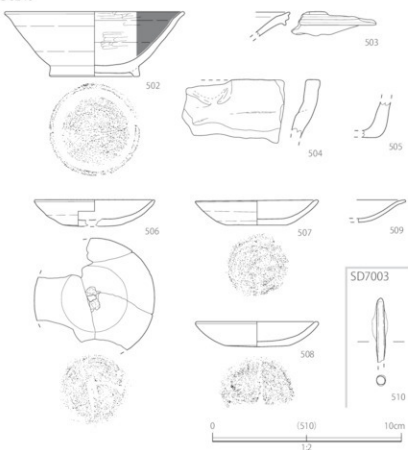
SD6093



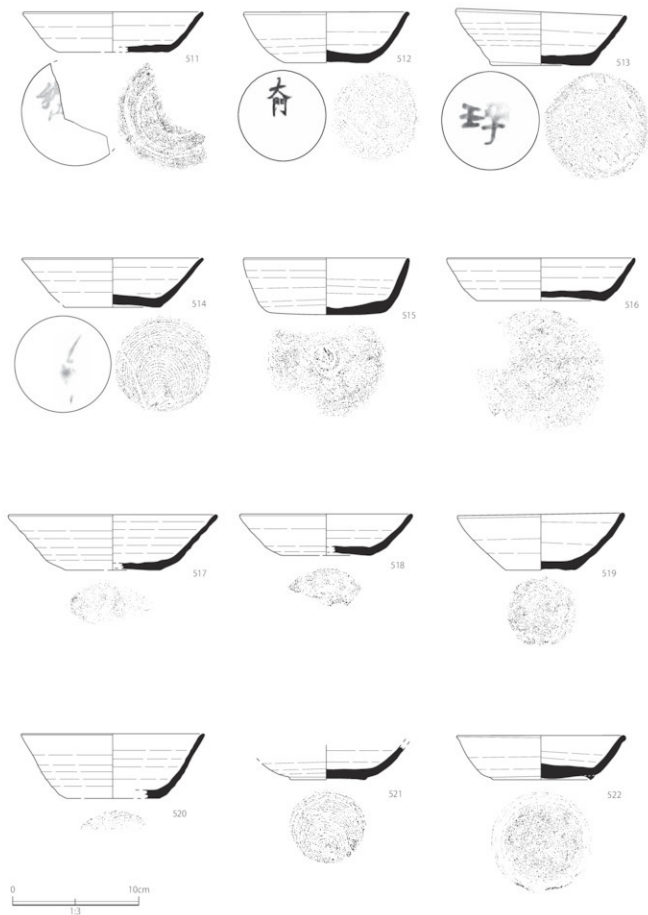
SD4329



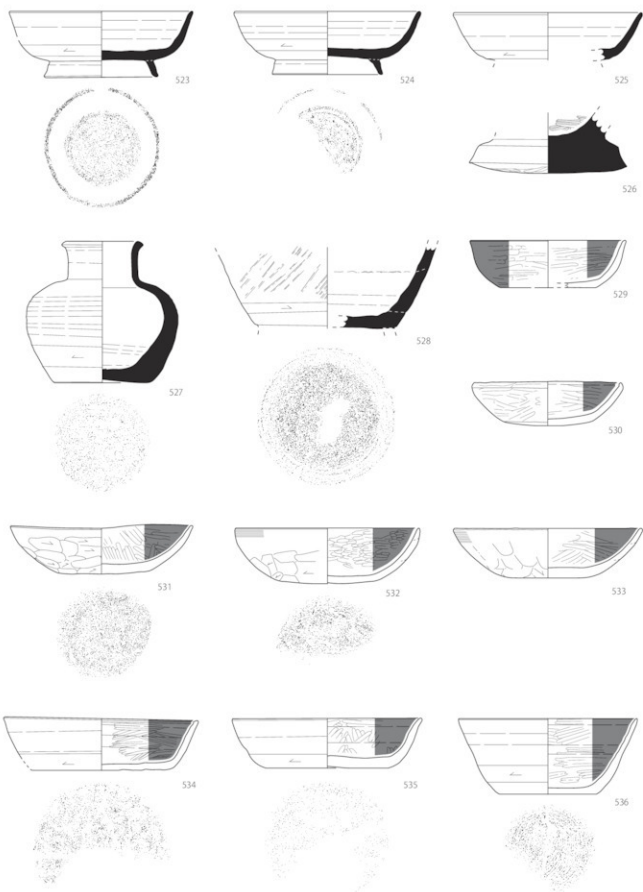
SD6240



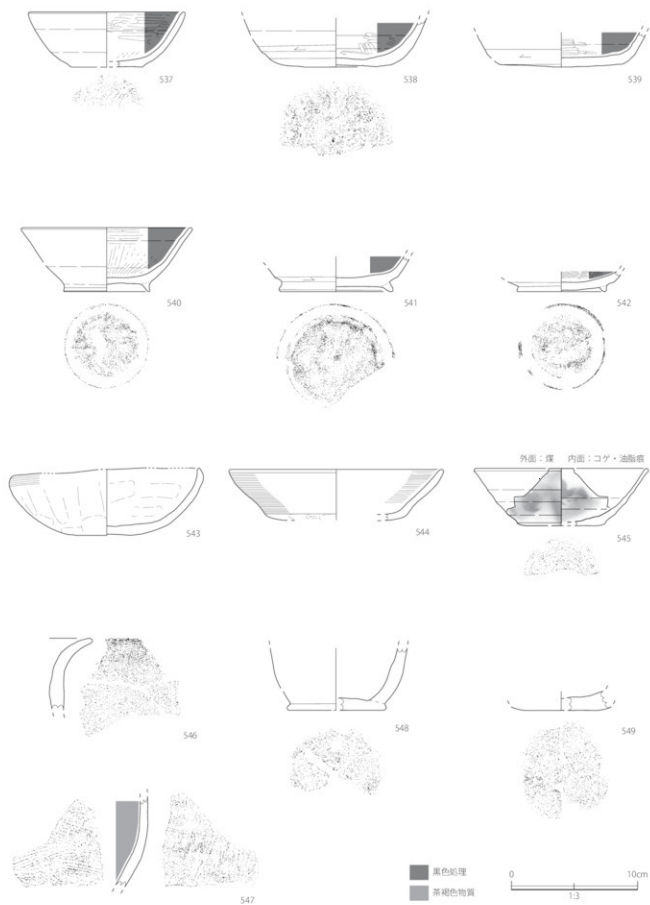
第254図 溝出土の土器・土製品・鉄製品



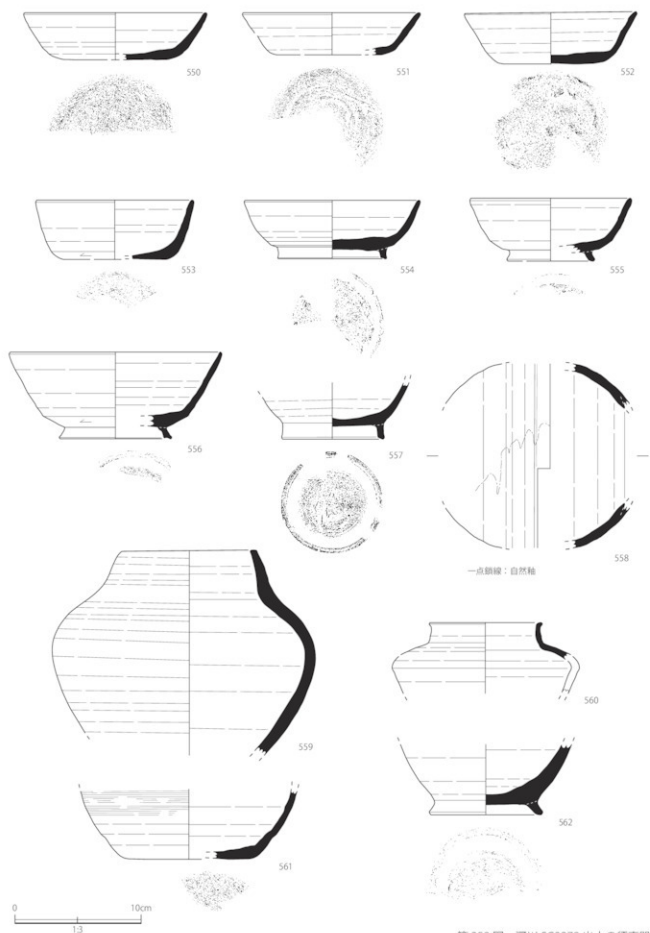
第 255 図 河川 SG3231 出土の須恵器



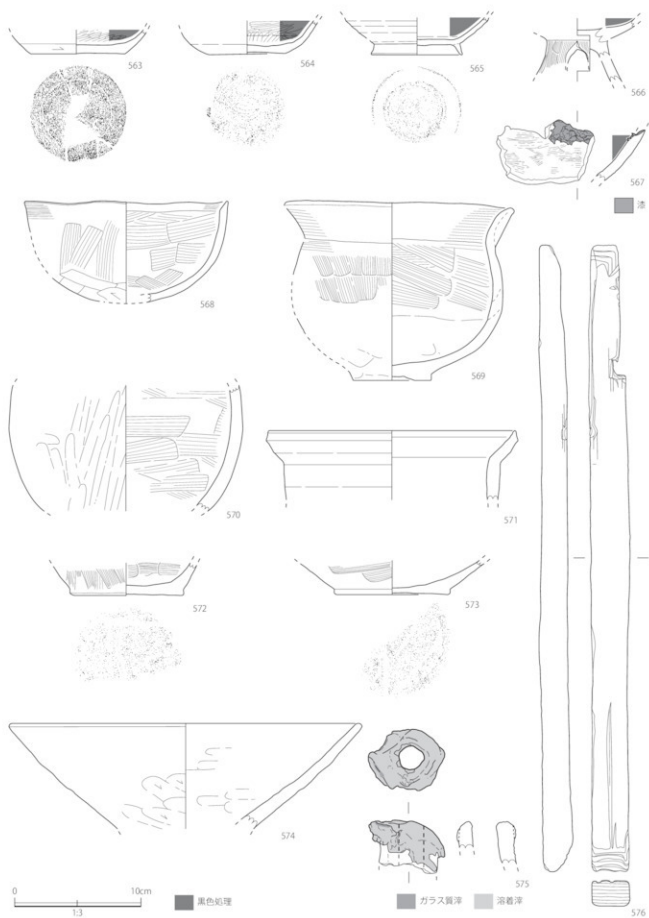
第256図 河川SG3231出土の須恵器・黒色土器



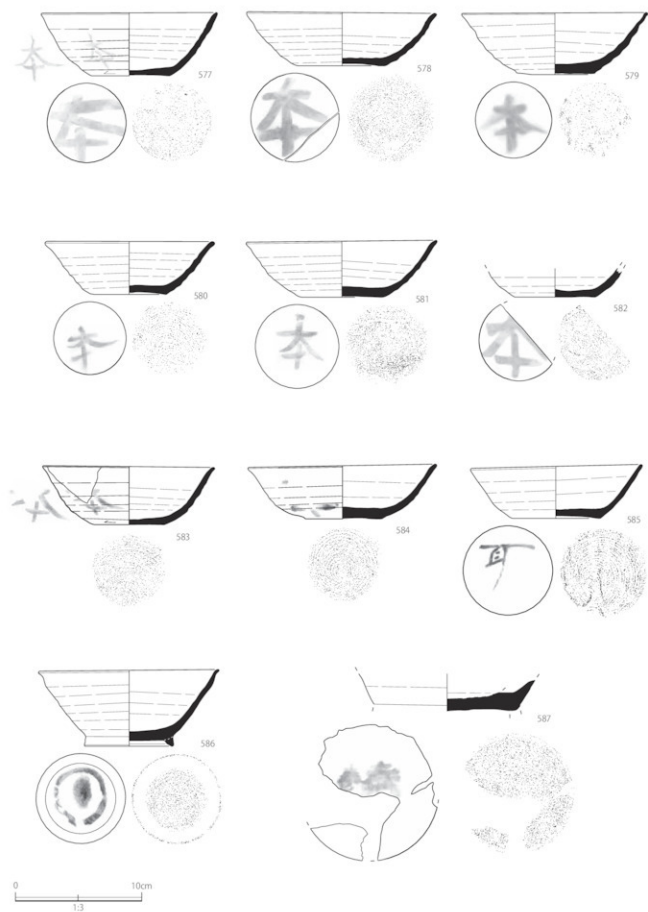
第 257 図 河川 SG3231 出土の黒色土器・土師器



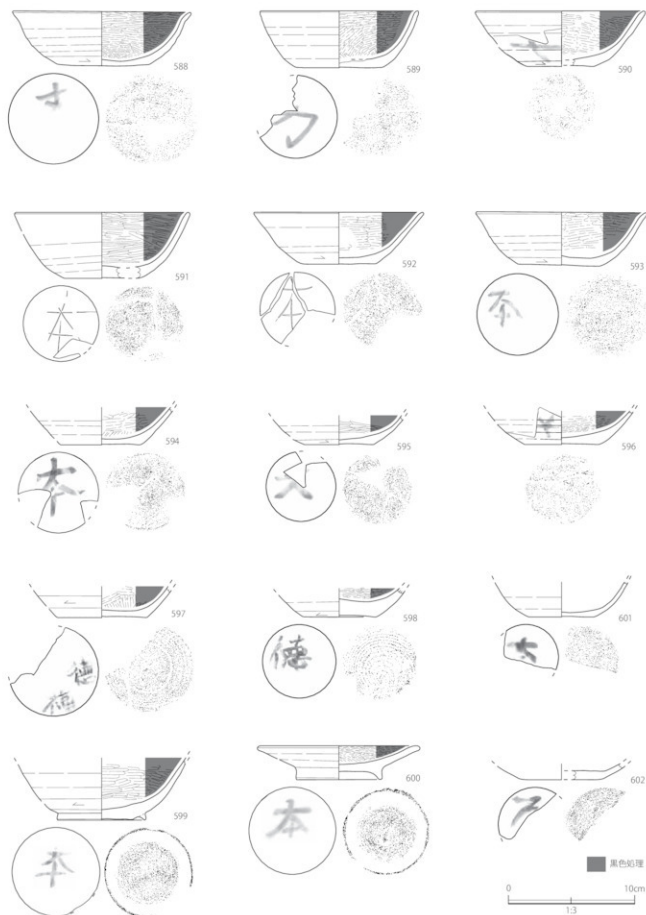
第 258 図 河川 SG3278 出土の須恵器



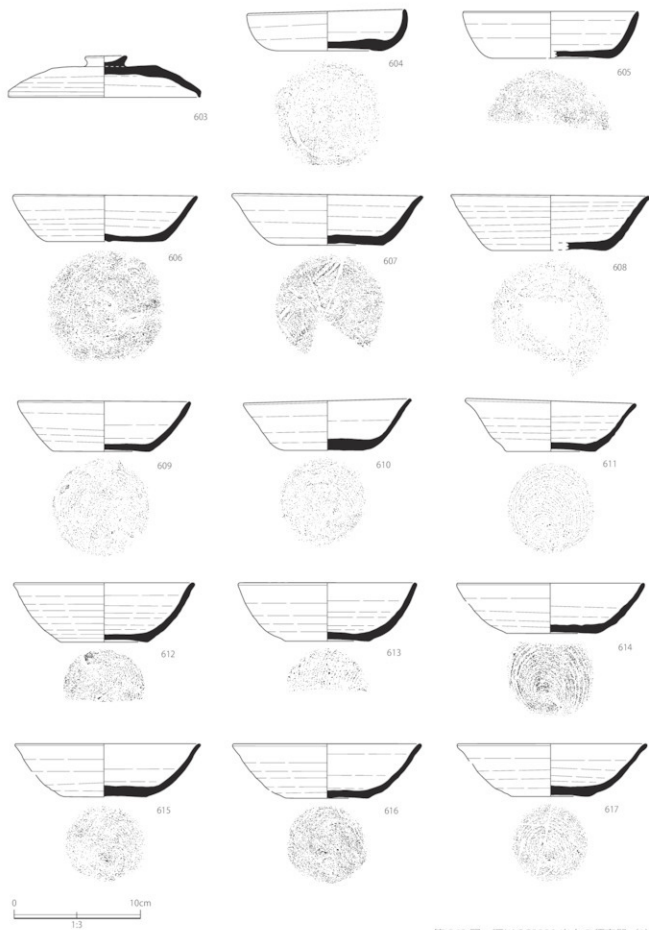
第259図 河川SG3278出土の黒色土器・土師器・土製品・木製品



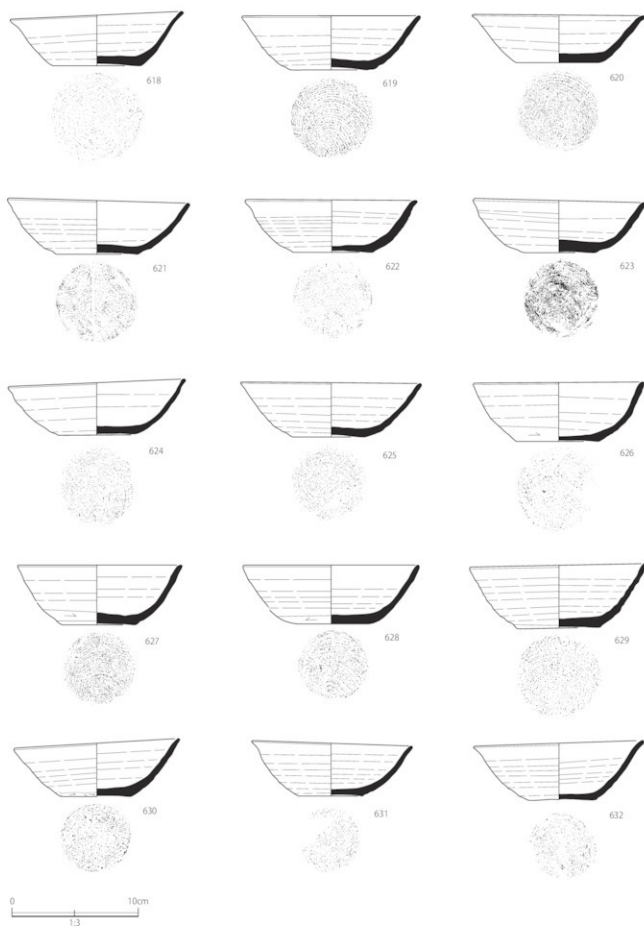
第 260 図 河川 SG3320 出土の墨書土器 (須恵器)



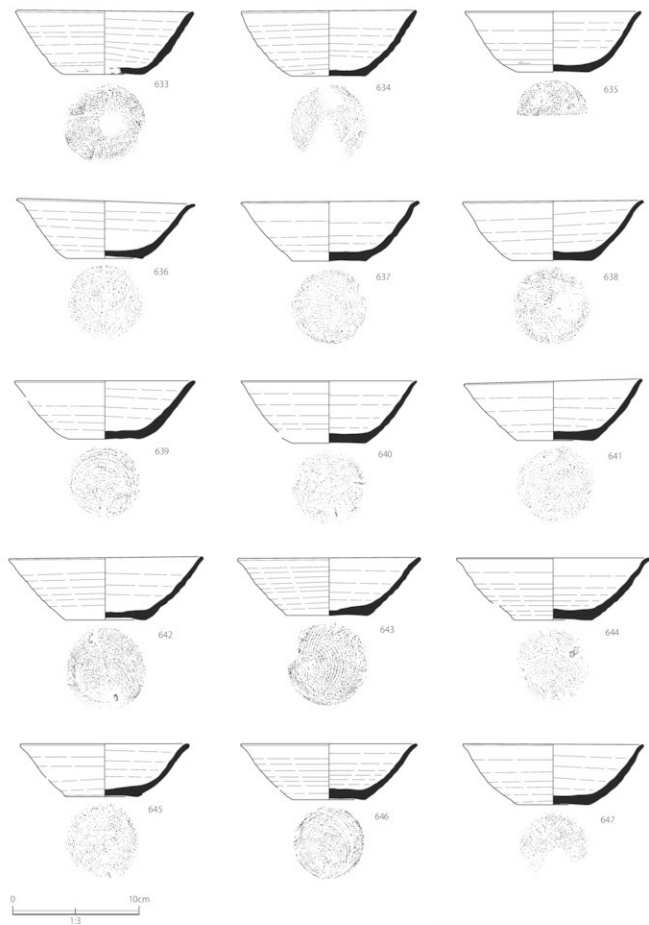
第 261 図 河川 SG3320 出土の刻書・墨書土器（黒色土器・土師器）



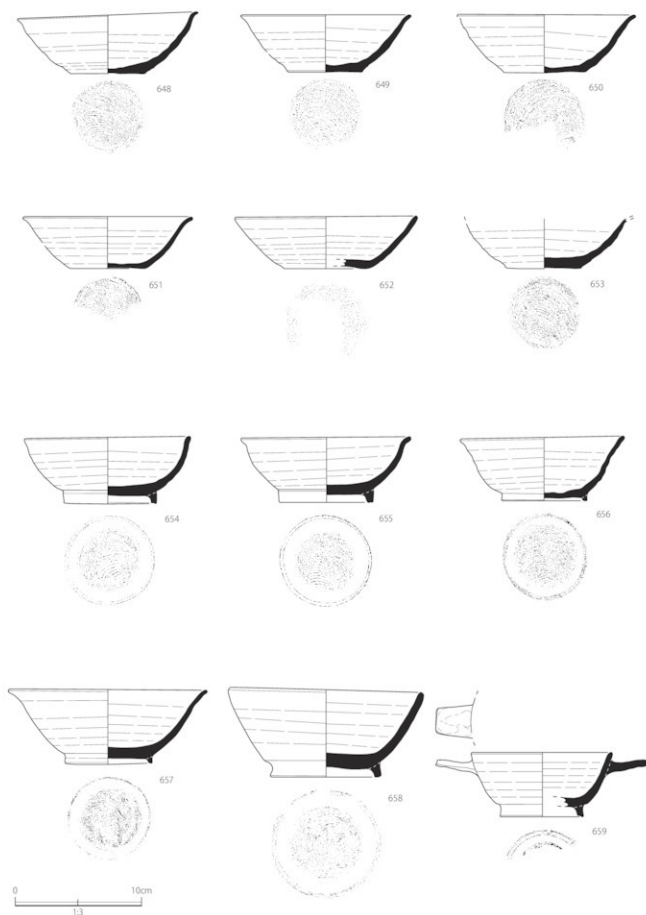
第 262 図 河川 SG3320 出土の須恵器 (1)



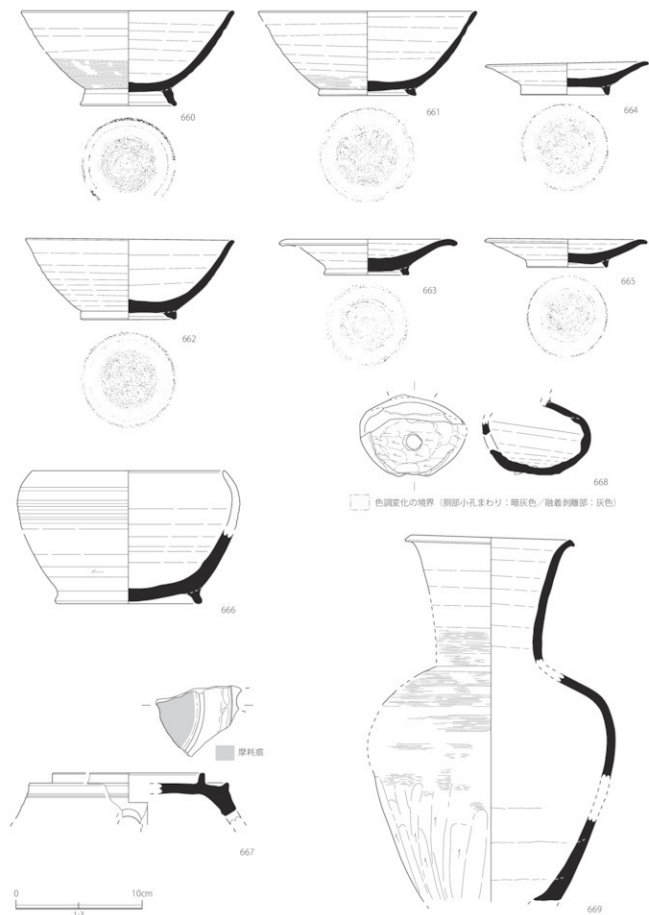
第 263 図 河川 SG3320 出土の須恵器 (2)



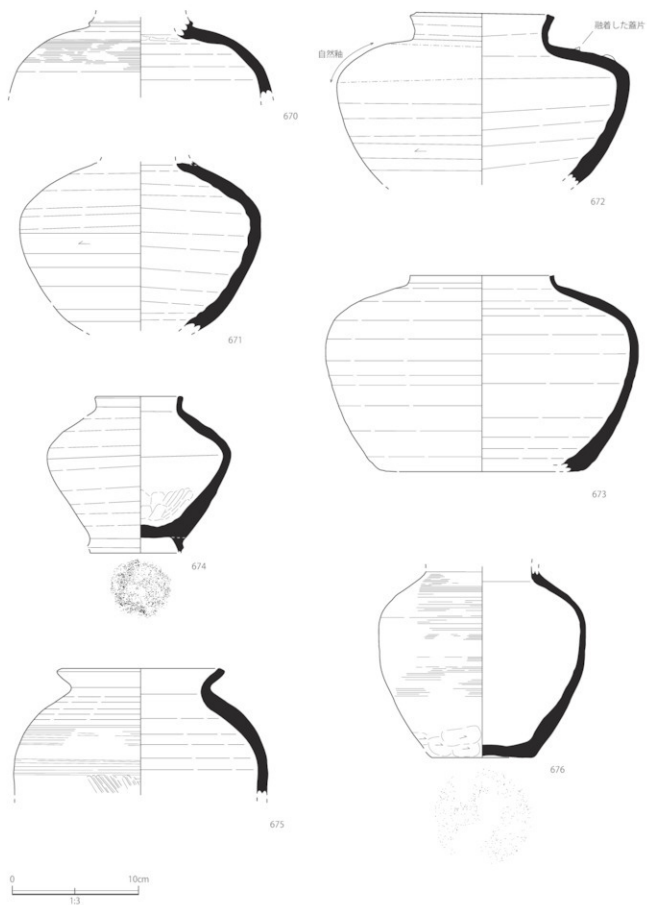
第 264 回 河川 SG3320 出土の須恵器 (3)



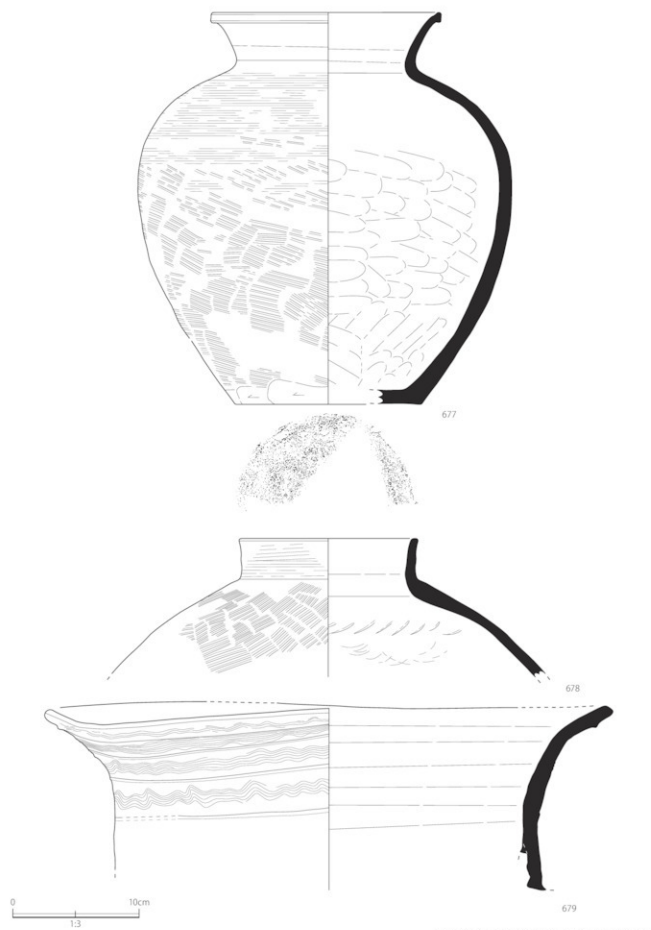
第 265 図 河川 SG3320 出土の須恵器 (4)



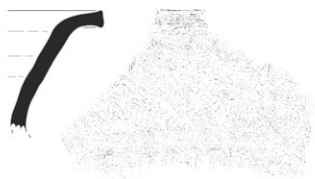
第266図 河川SG3320出土の須恵器(5)



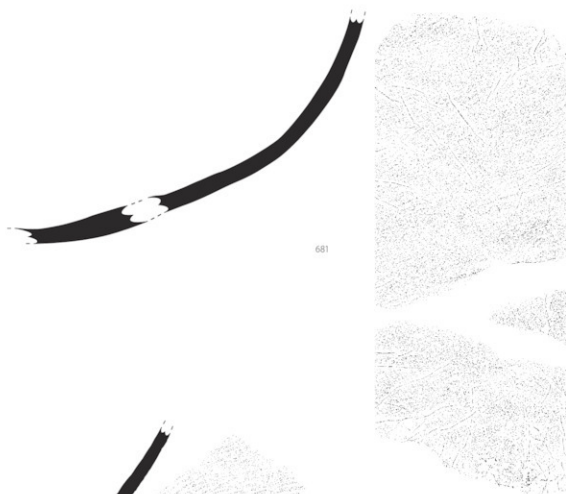
第 267 図 河川 5G3320 出土の須恵器 (6)



第268回 河川SG3320出土の須恵器(7)



680



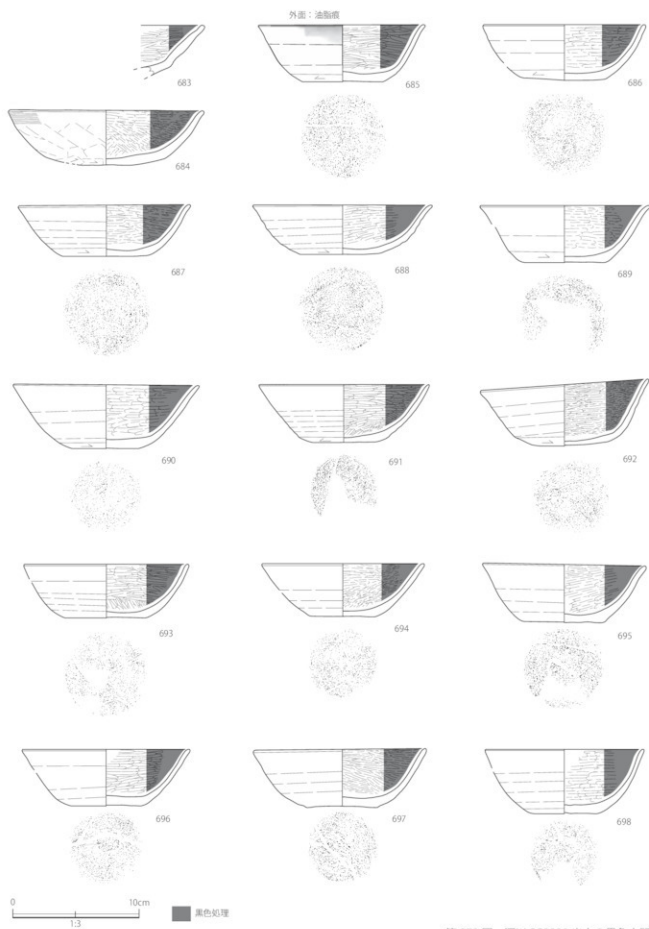
681



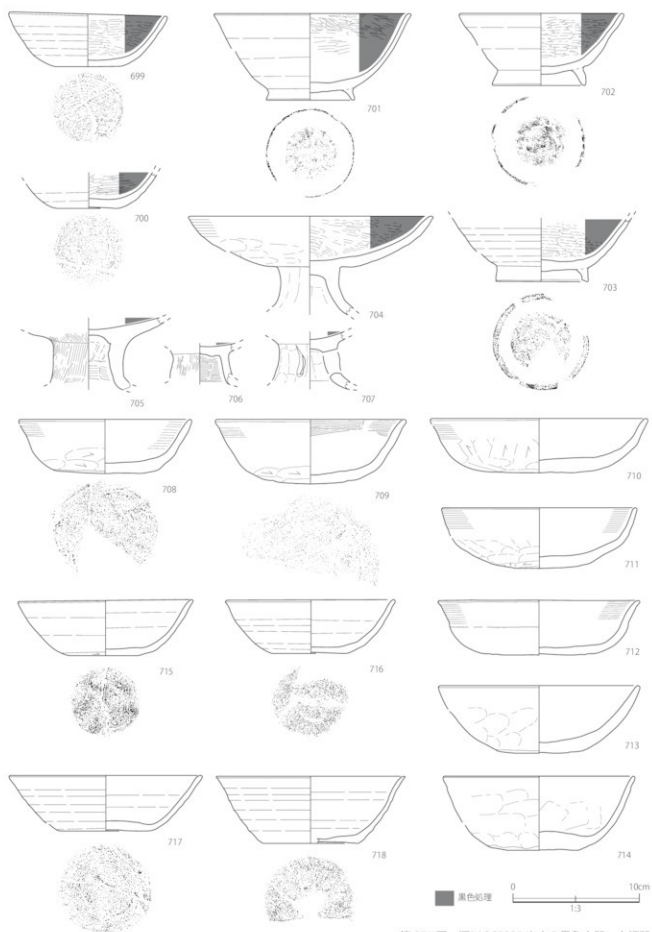
682



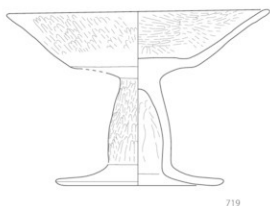
第 269 図 河川 SG3320 出土の須恵器 (8)



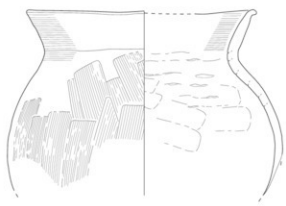
第 270 図 河川 SG3320 出土の黒色土器



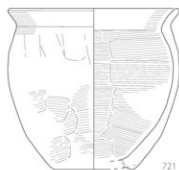
第 271 図 河川 SG3320 出土の黒色土器・土師器



719



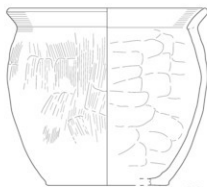
720



721



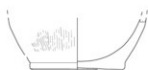
722



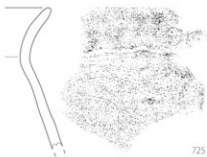
723



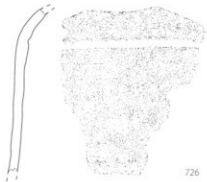
724



727



725



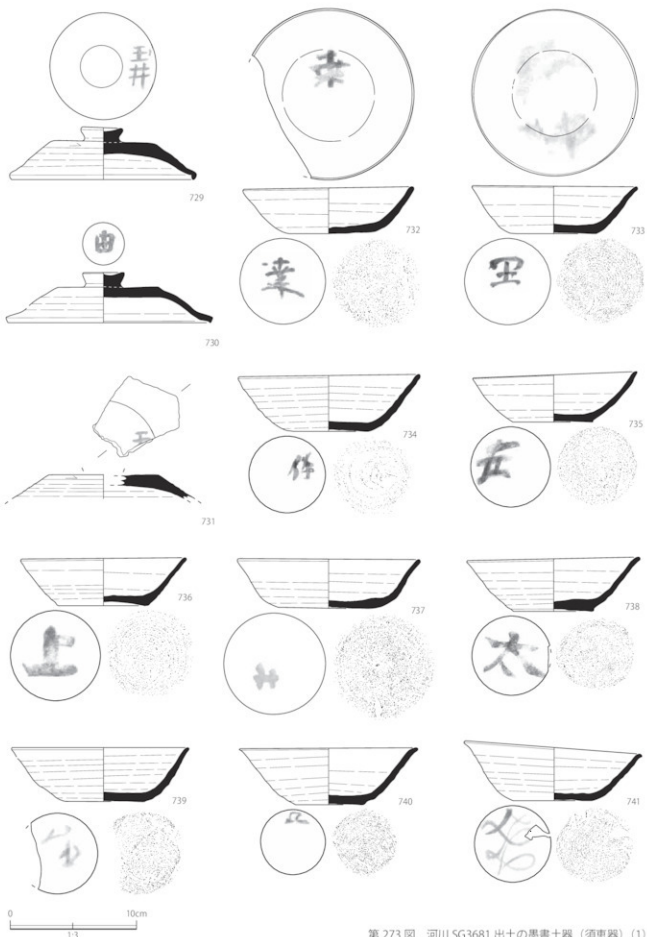
726



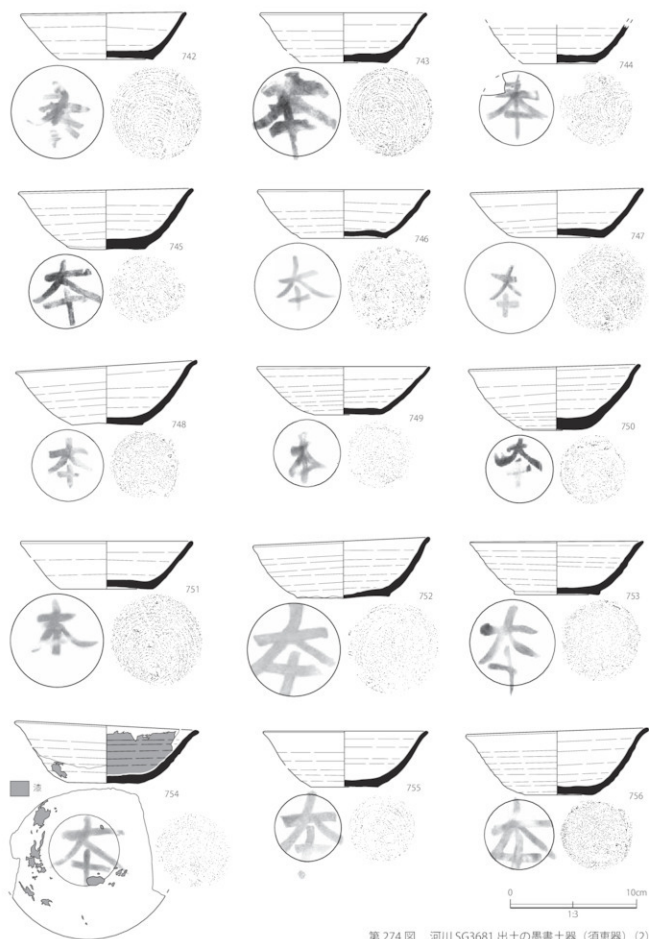
728



第 272 図 河川 SG3320 出土の土師器



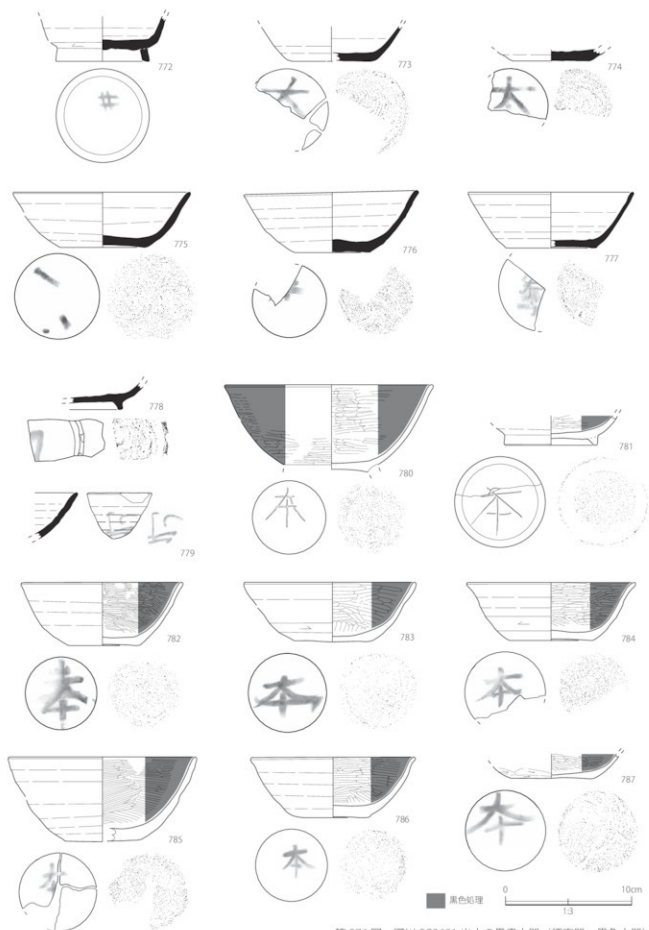
第 273 図 河川 SG3681 出土の墨書土器（須恵器）(1)



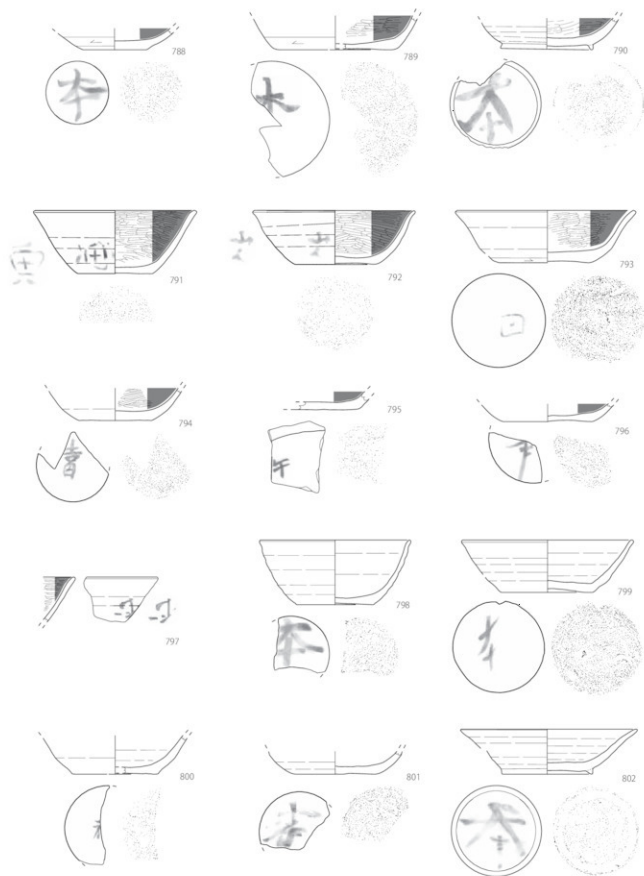
第 274 図 河川 SG3681 出土の墨書土器 (須恵器) (2)



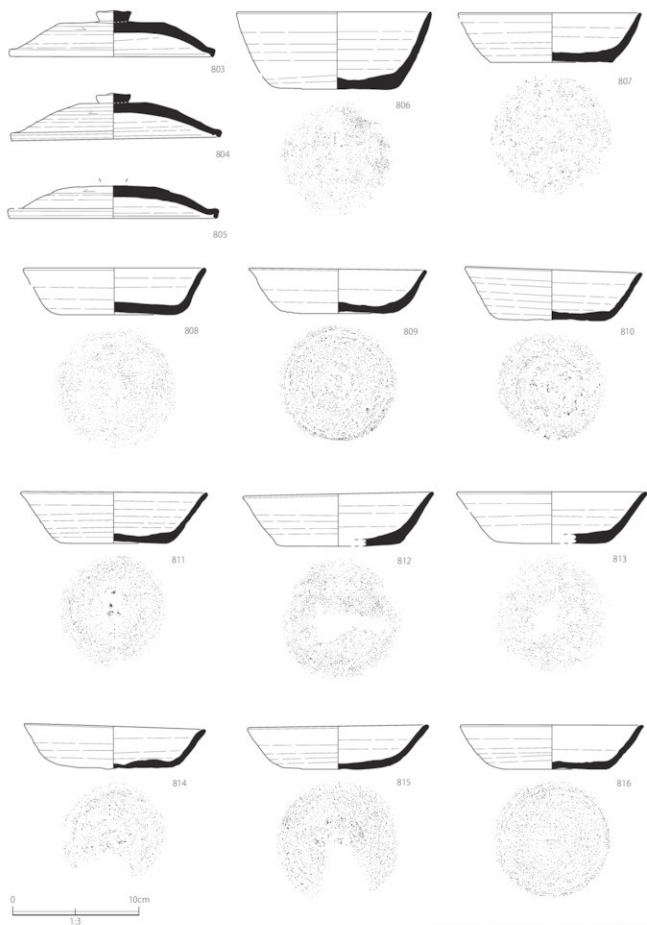
第 275 図 河川 SG3681 出土の墨書土器（須恵器）(3)



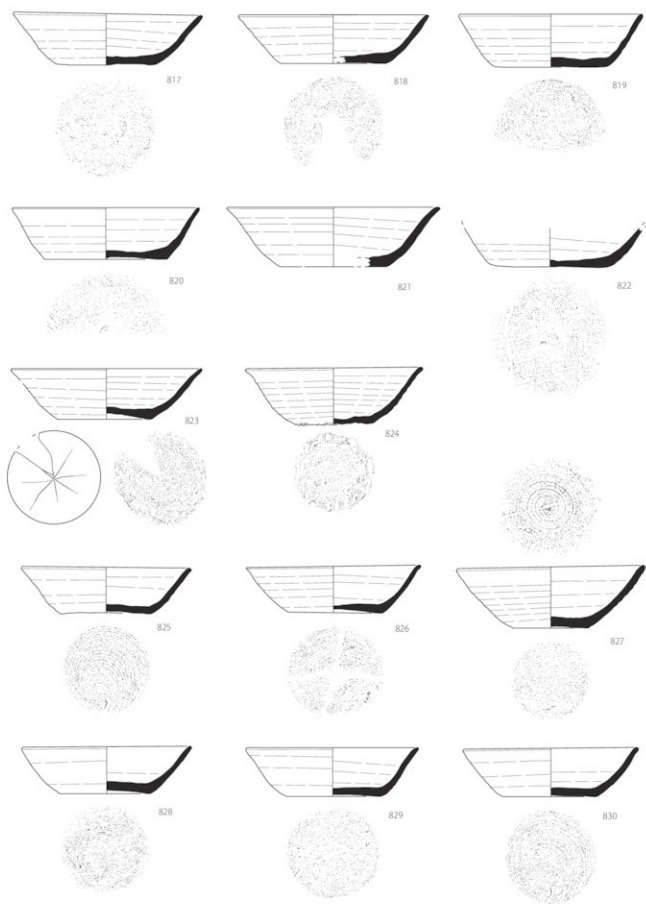
第 276 図 河川 SG3681 出土の黒書土器 (須恵器・黒色土器)



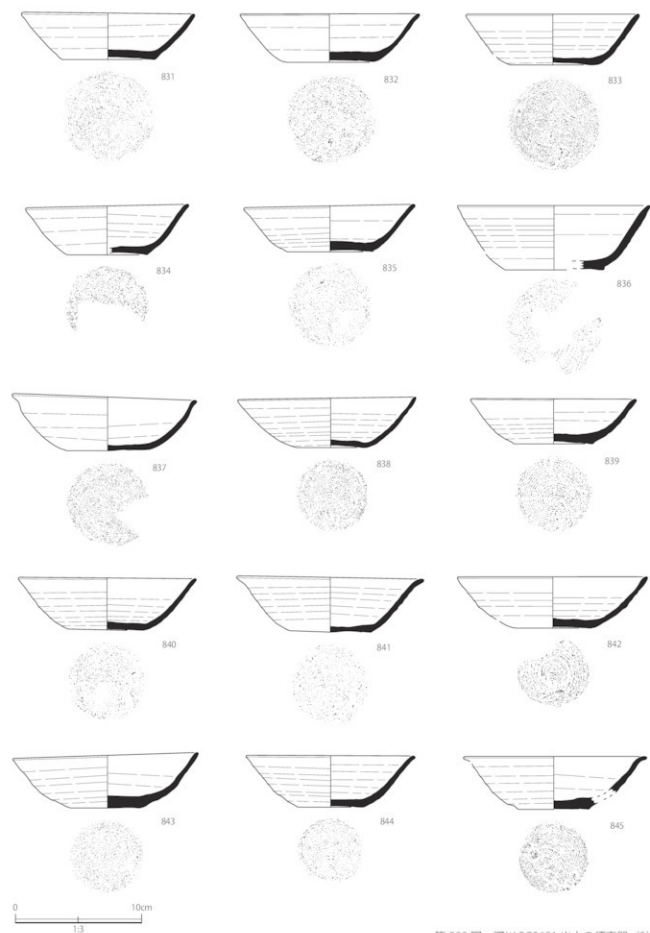
第277図 河川SG3681出土の黒書土器（黒色土器・土師器）



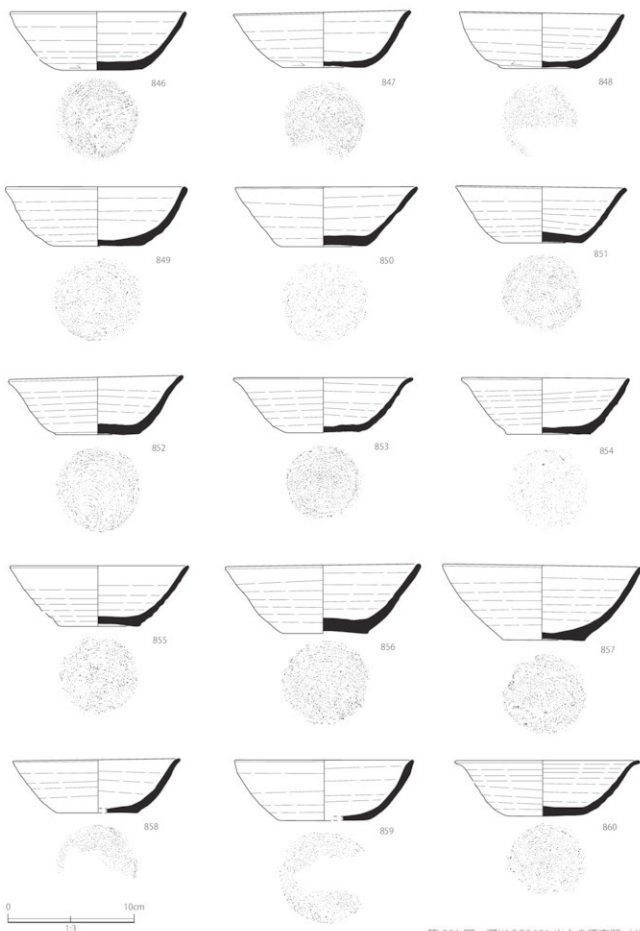
第 278 回 河川 SG3681 出土の須恵器 (1)



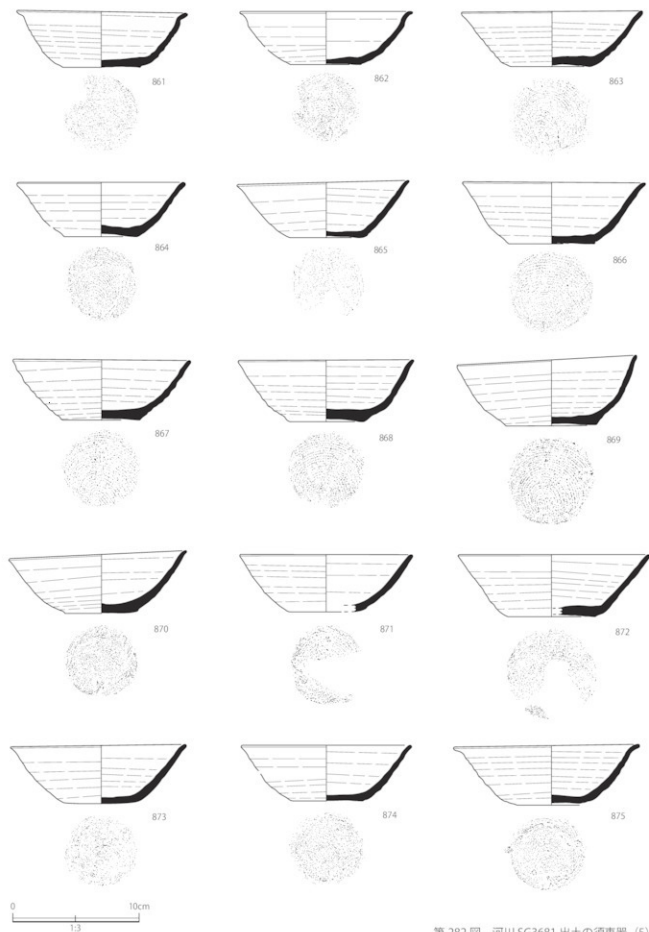
第 279 回 河川 SG3681 出土の須恵器 (2)



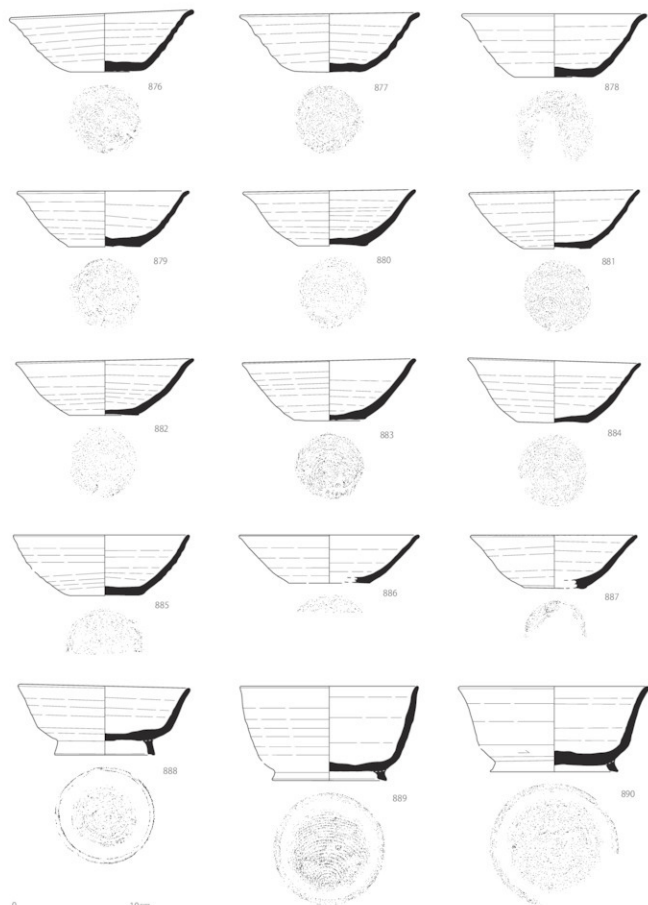
第280図 河川SG3681出土の須恵器(3)



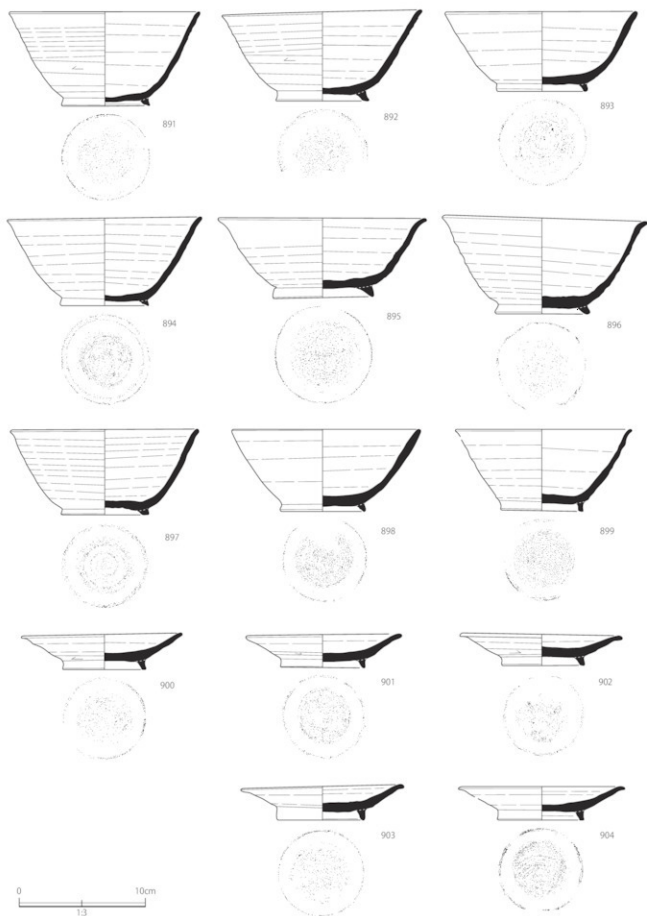
第 281 図 河川 SG3681 出土の須恵器 (4)



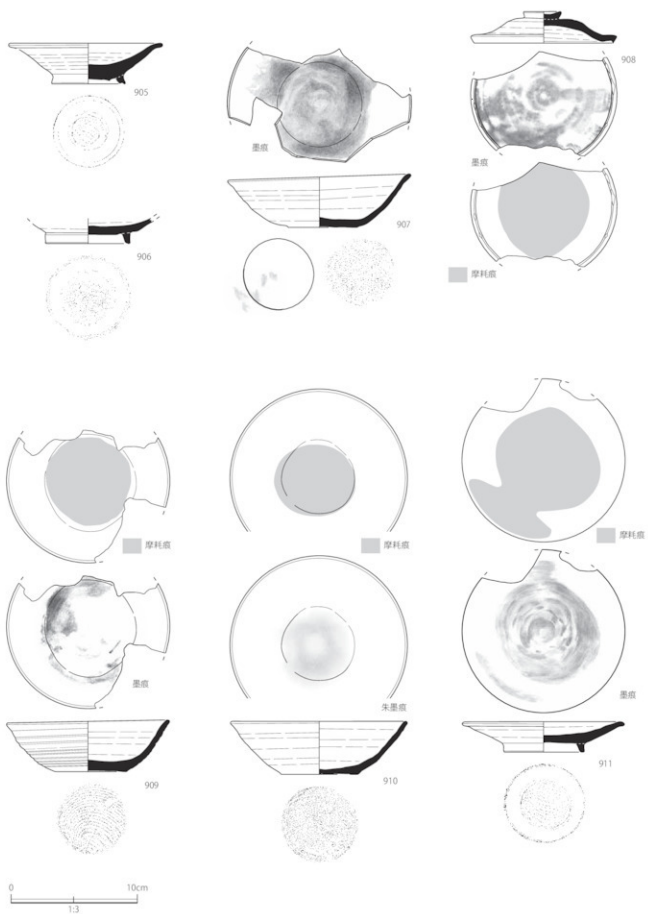
第282回 河川SG3681出土の須恵器(5)



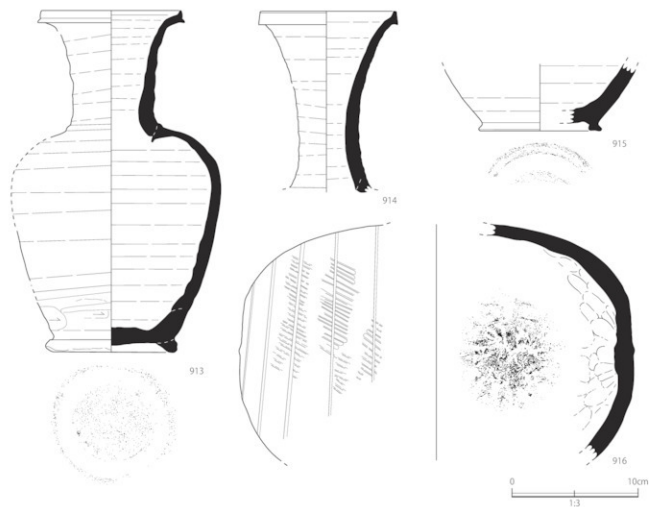
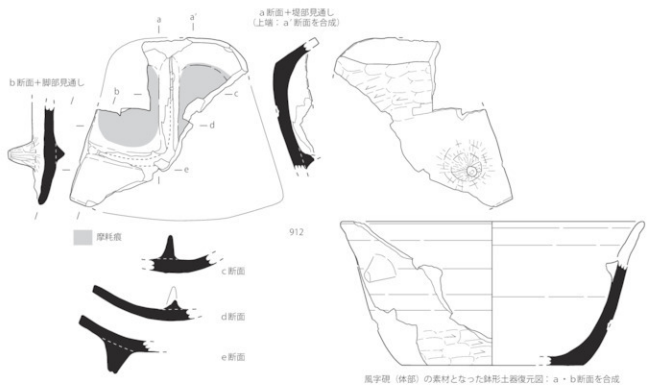
第 283 図 河川 SG3681 出土の須恵器 (6)



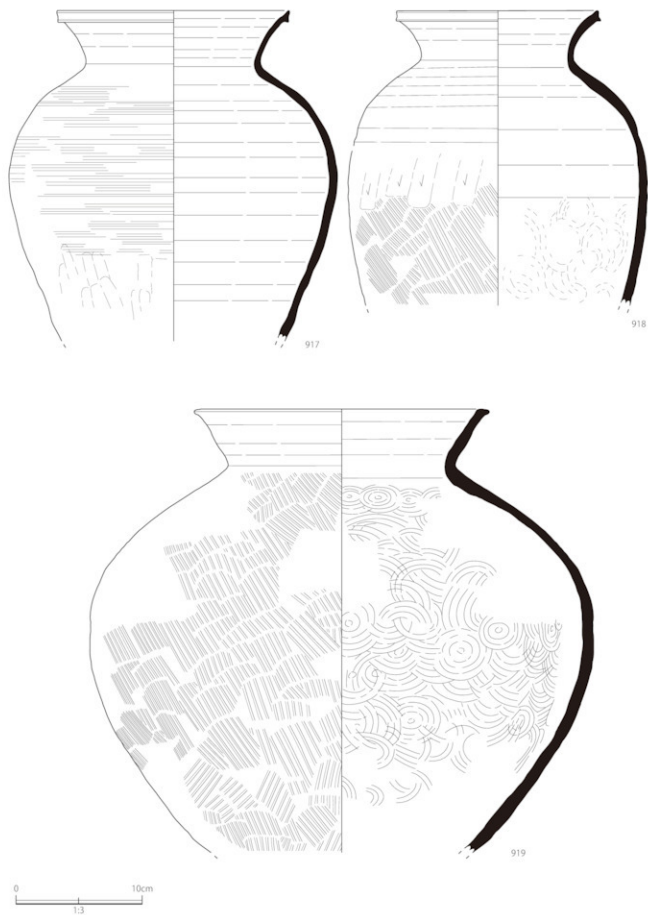
第284回 河川SG3681出土の須恵器(7)



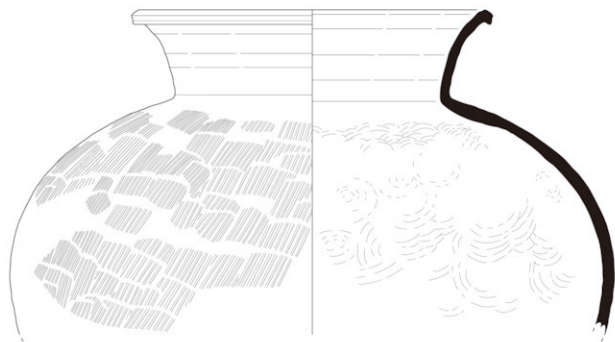
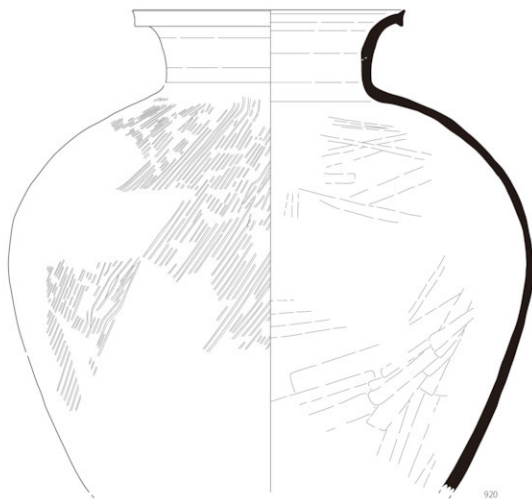
第 285 図 河川 SG3681 出土の須恵器 (8)



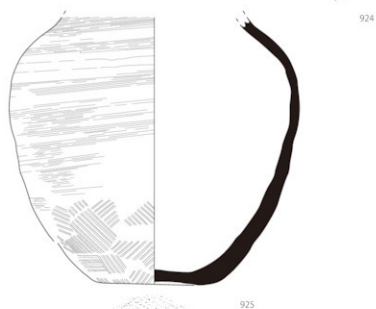
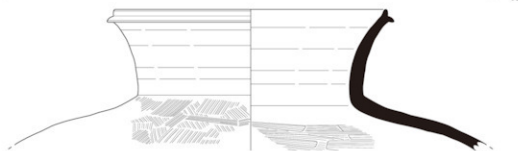
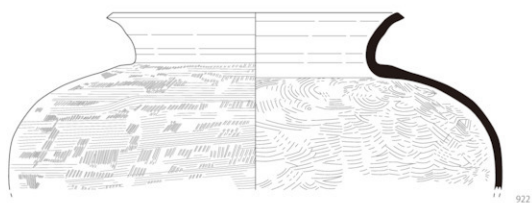
第286図 河川SG3681出土の須恵器(9)



第 287 図 河川 SG3681 出土の須恵器 (10)



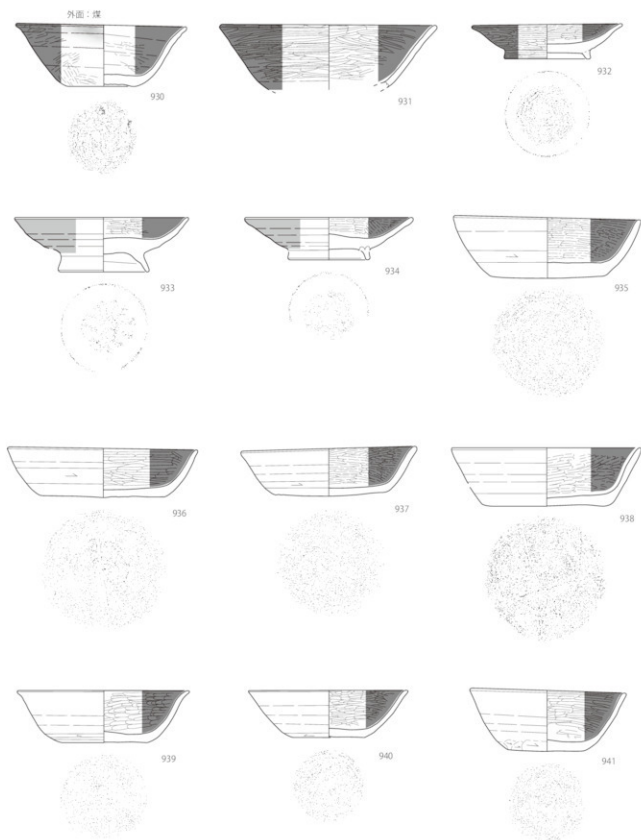
第288図 河川SG3681出土の須恵器(11)



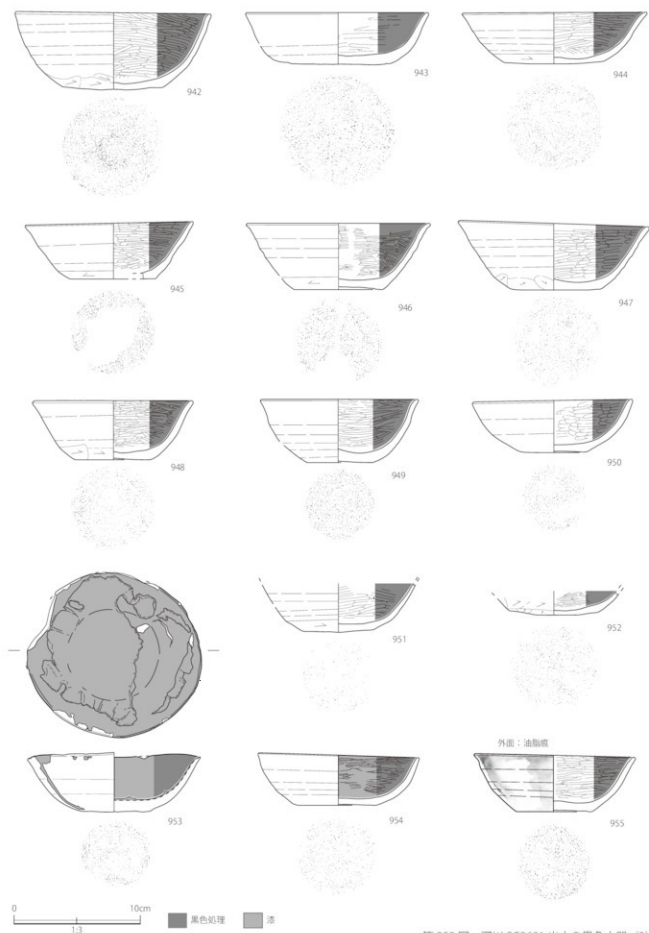
第 289 図 河川 SG3681 出土の須恵器 (12)



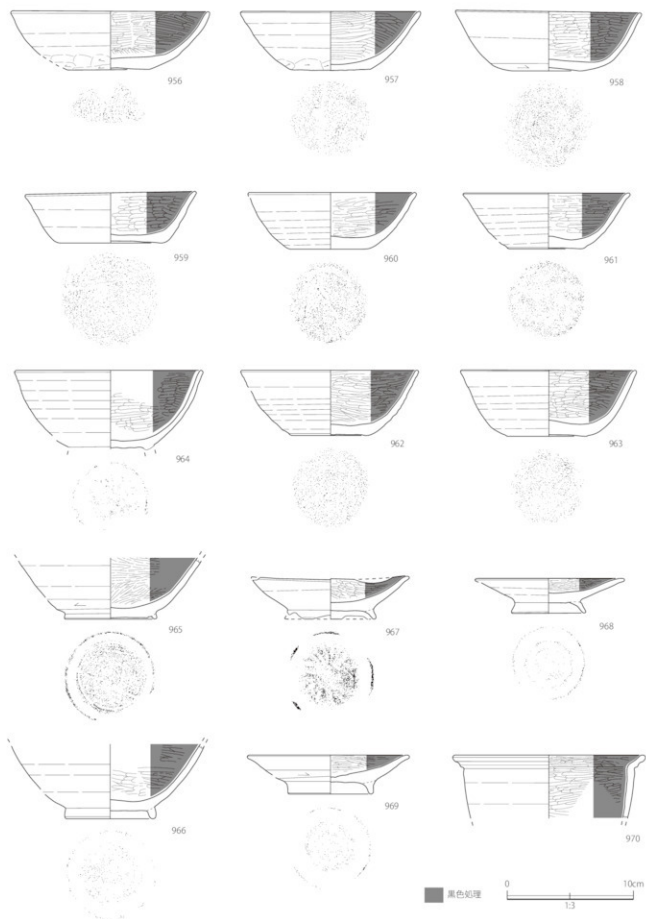
第290図 河川SG3681出土の須恵器(13)



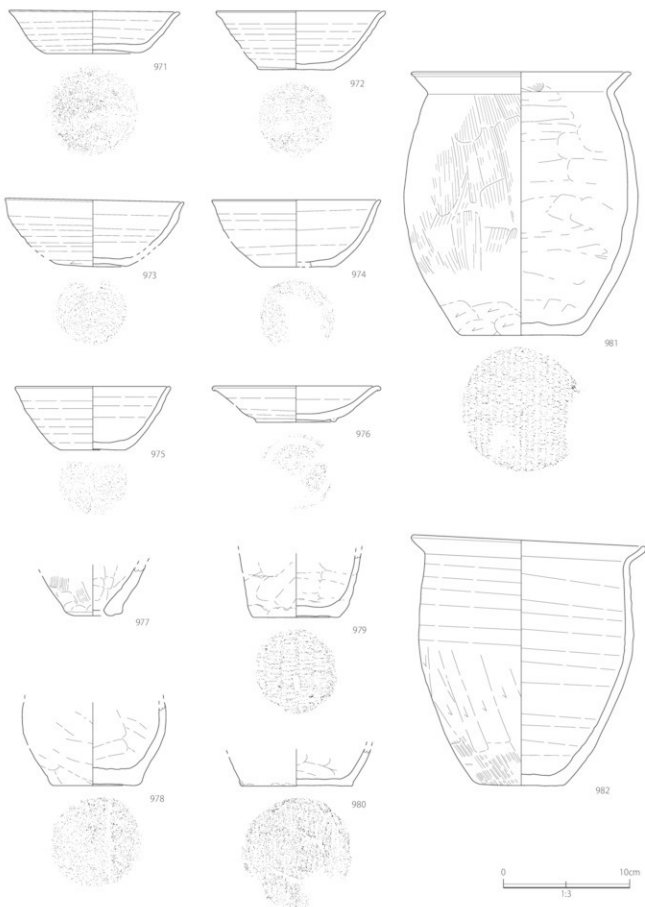
第291図 河川SG3681出土の黒色土器(1)



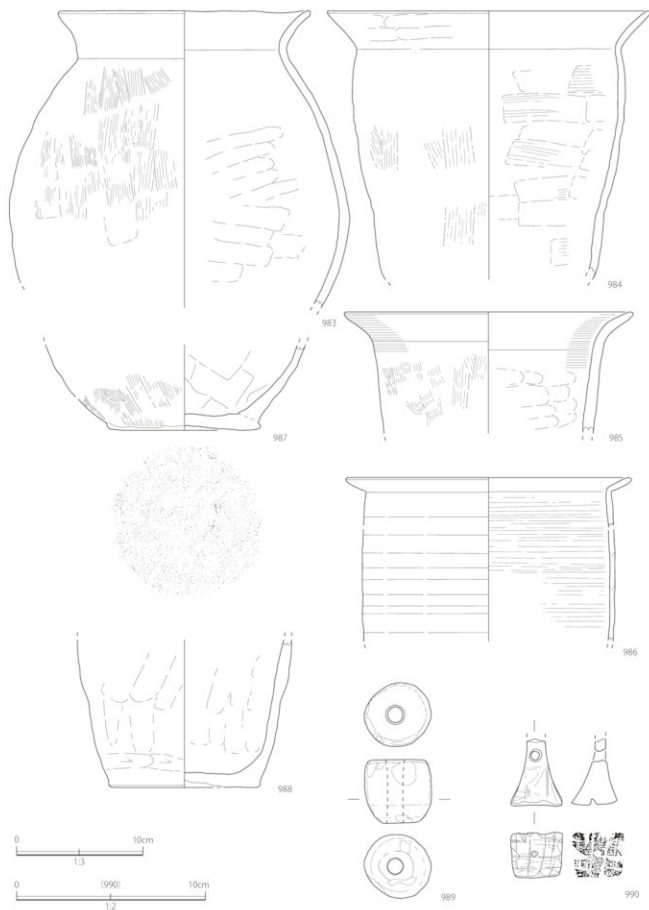
第 292 図 河川 SG3681 出土の黒色土器 (2)



第 293 図 河川 SG3681 出土の黒色土器 (3)



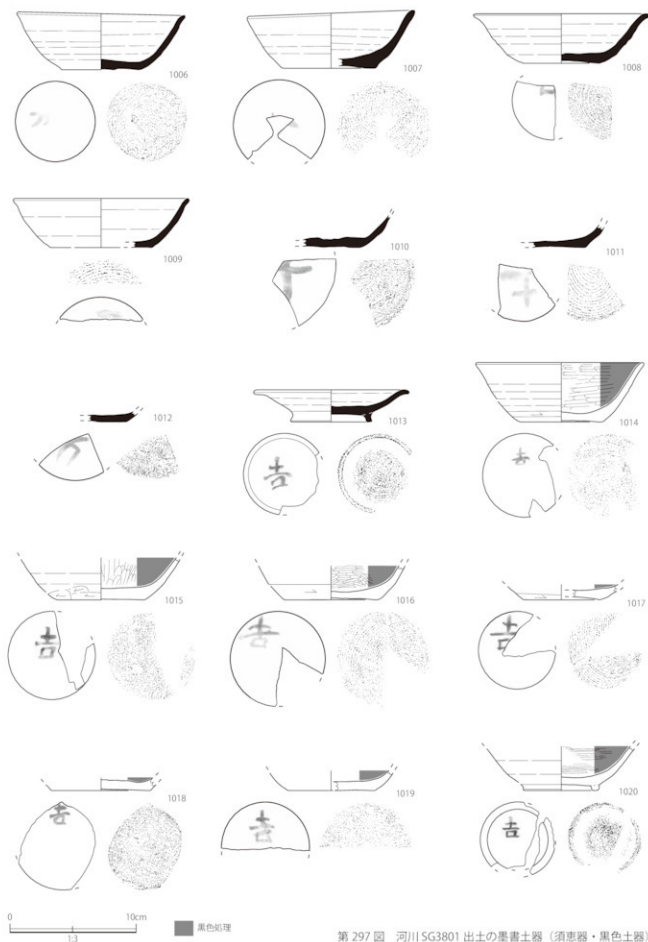
第 294 図 河川 SG3681 出土の土師器



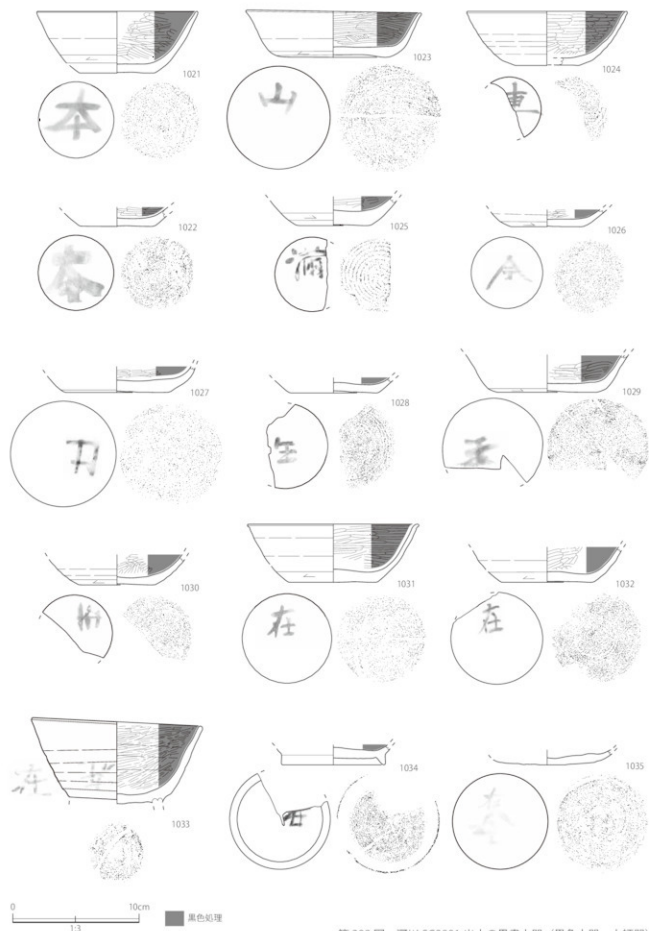
第 295 図 河川 SG3681 出土の土師器・土製品・石製品



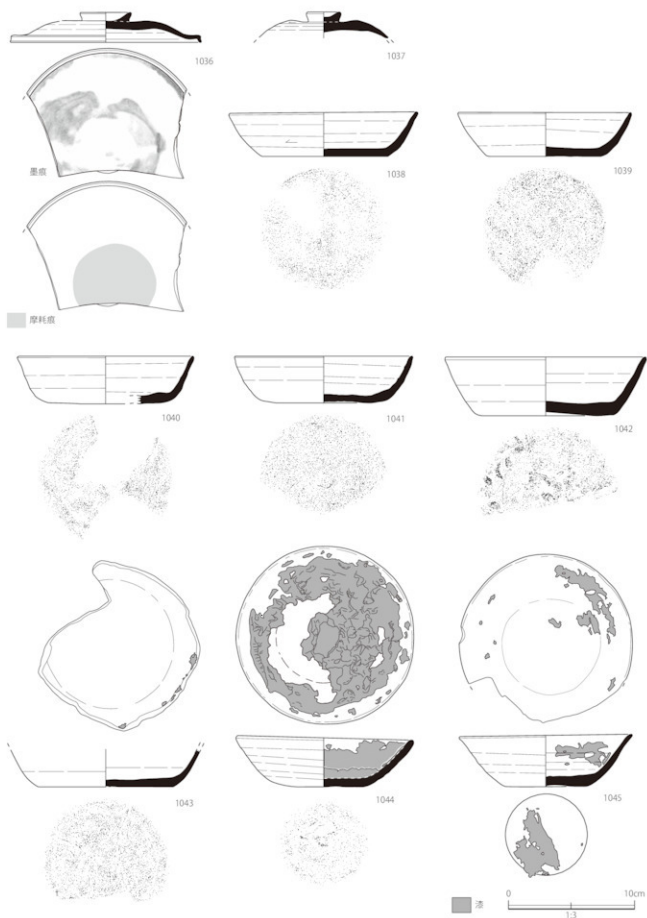
第 296 図 河川 SG3801 出土の墨書土器 (須恵器)



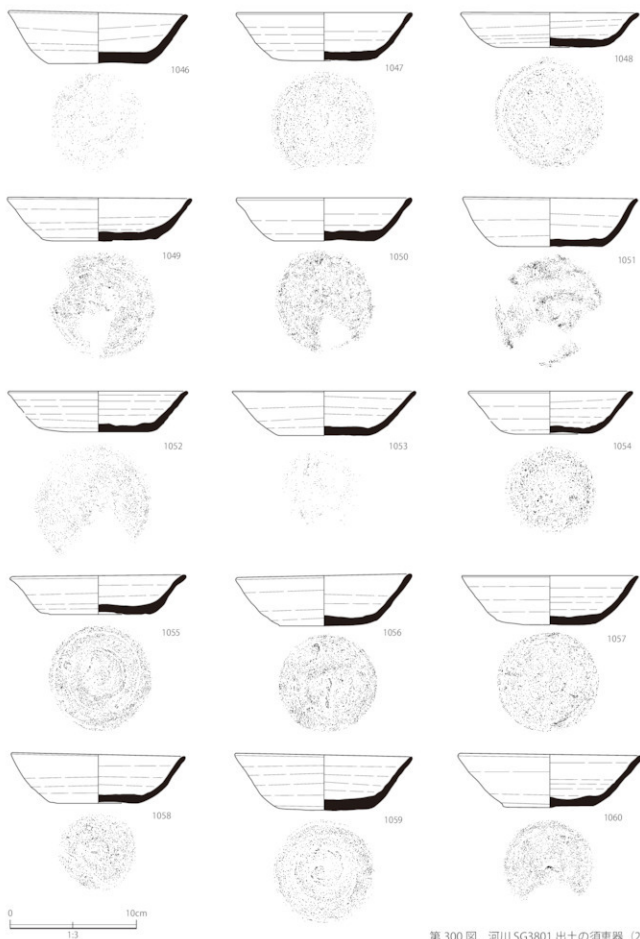
第297図 河川SG3801出土の黒書土器(須恵器・黒色土器)



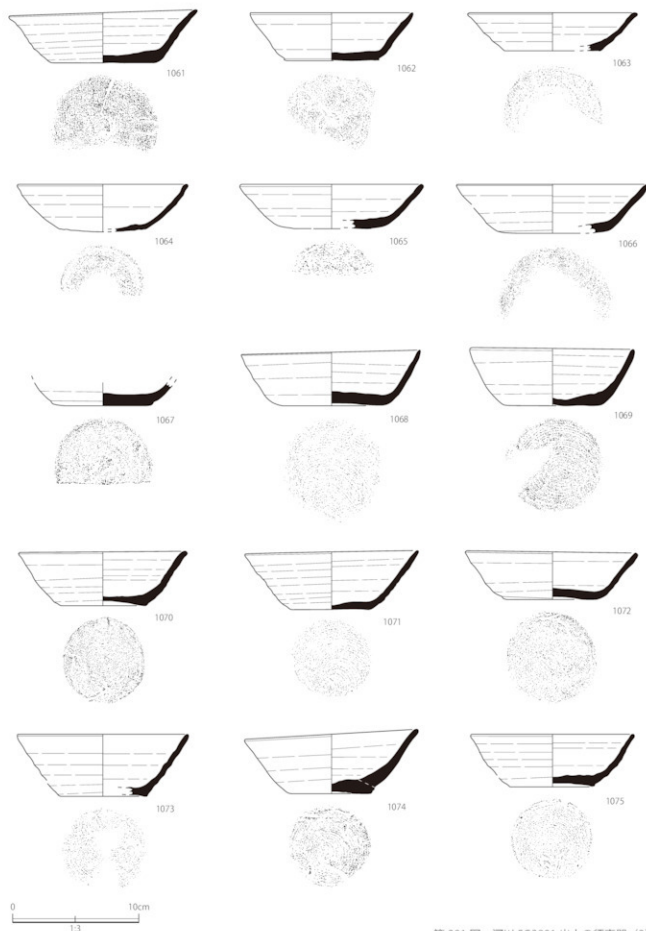
第 298 図 河川 SG3801 出土の黒書土器 (黒色土器・土師器)



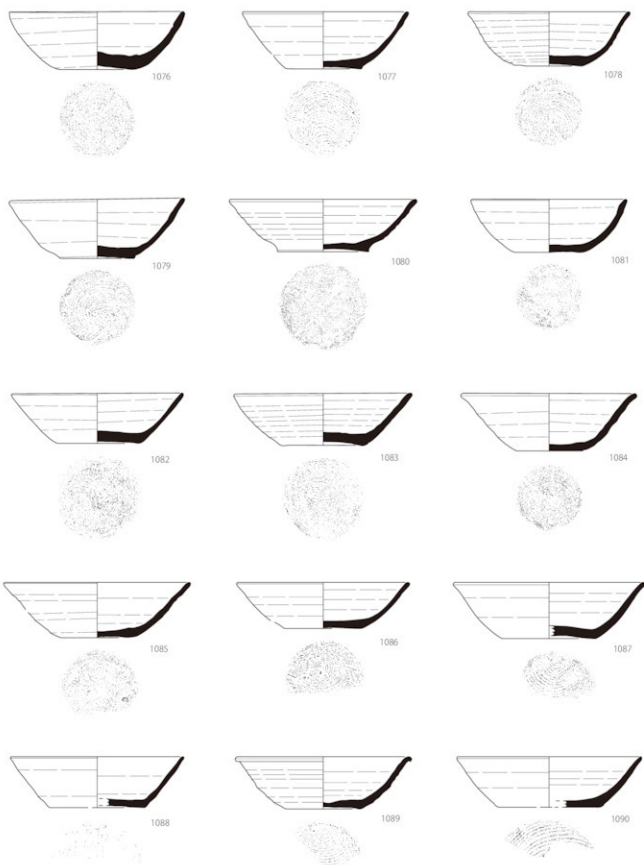
第 299 図 河川 SG3801 出土の須恵器 (1)



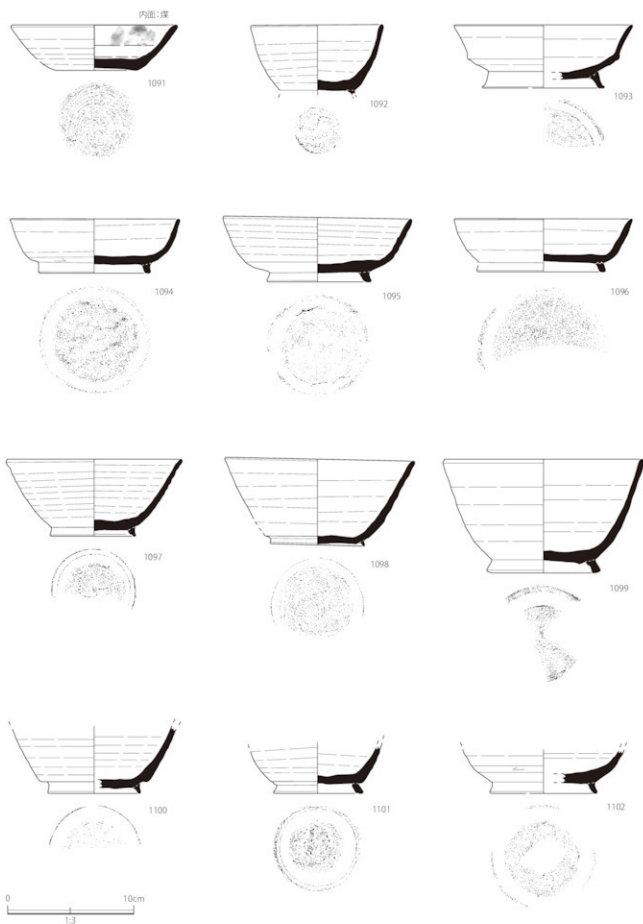
第300図 河川SG3801出土の須恵器(2)



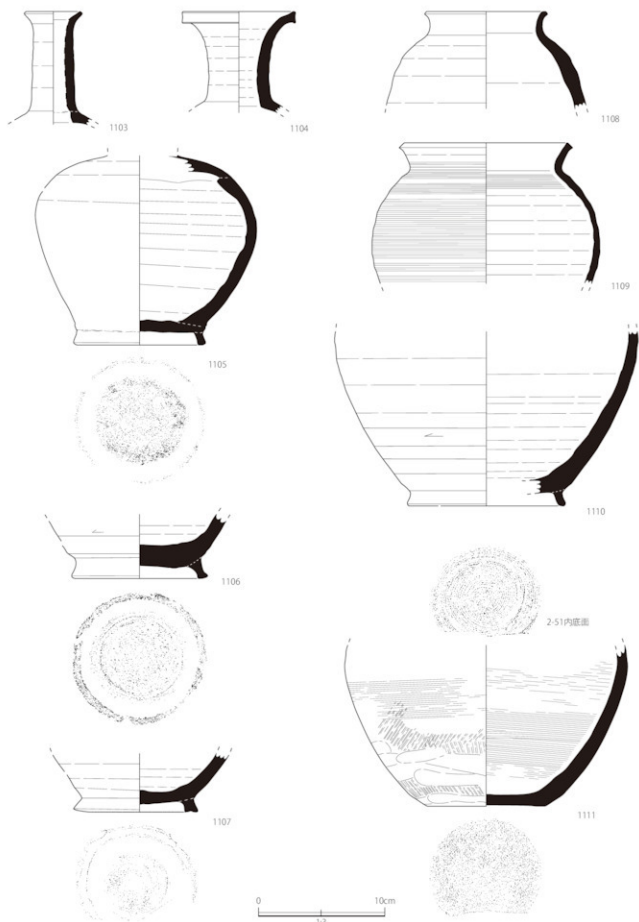
第 301 図 河川 SG3801 出土の須恵器 (3)



第 302 図 河川 SG3801 出土の須恵器 (4)



第 303 図 河川 5G3801 出土の須恵器 (5)



第304図 河川SG3801出土の須恵器(6)



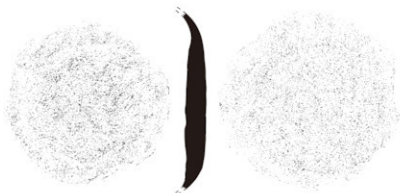
1112



1113



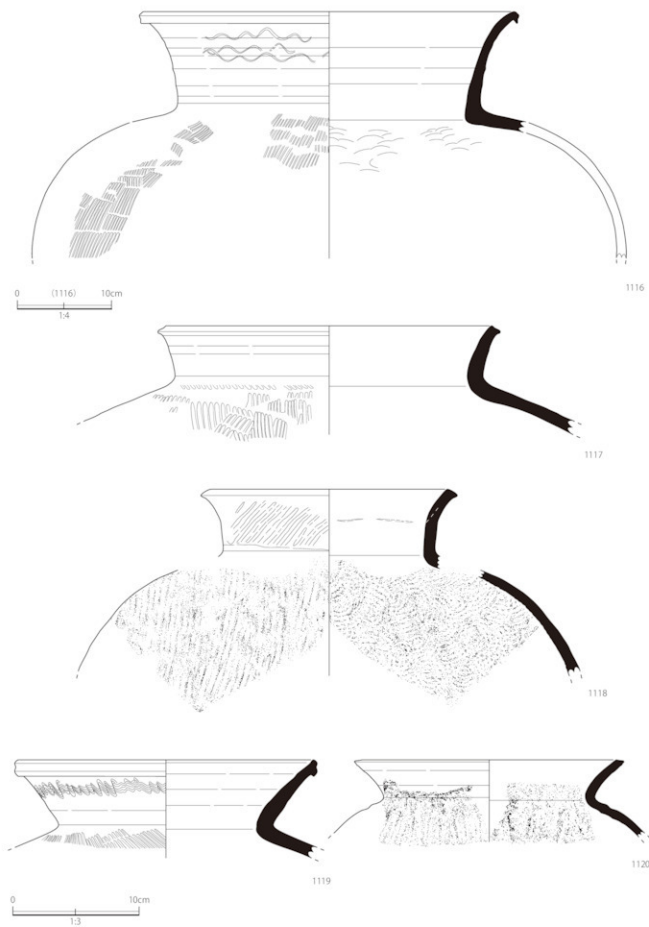
1114



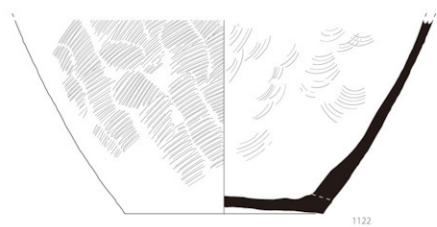
1115



第 305 図 河川 5G3801 出土の須恵器 (7)



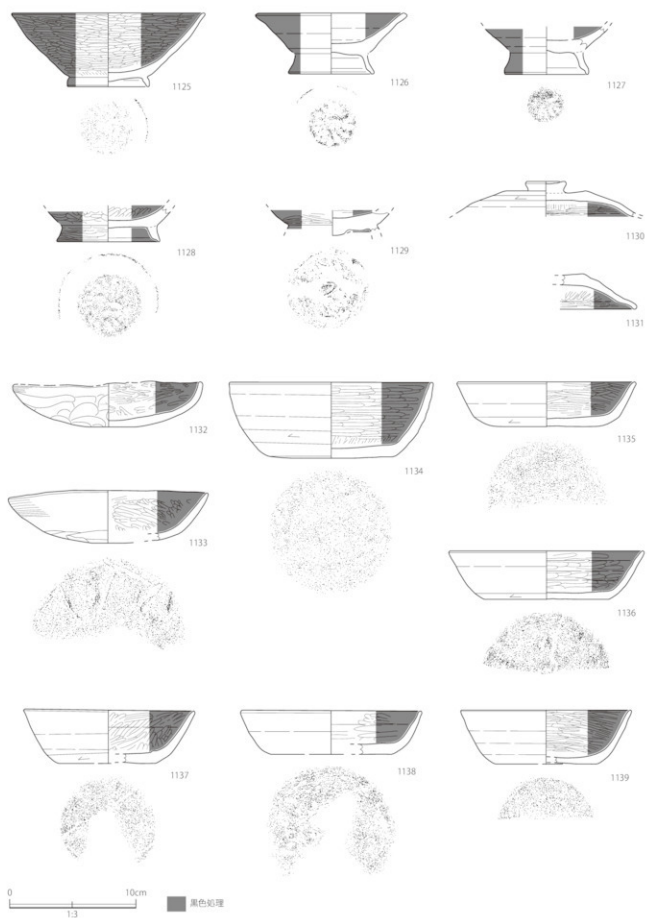
第306図 河川SG3801出土の須恵器(8)



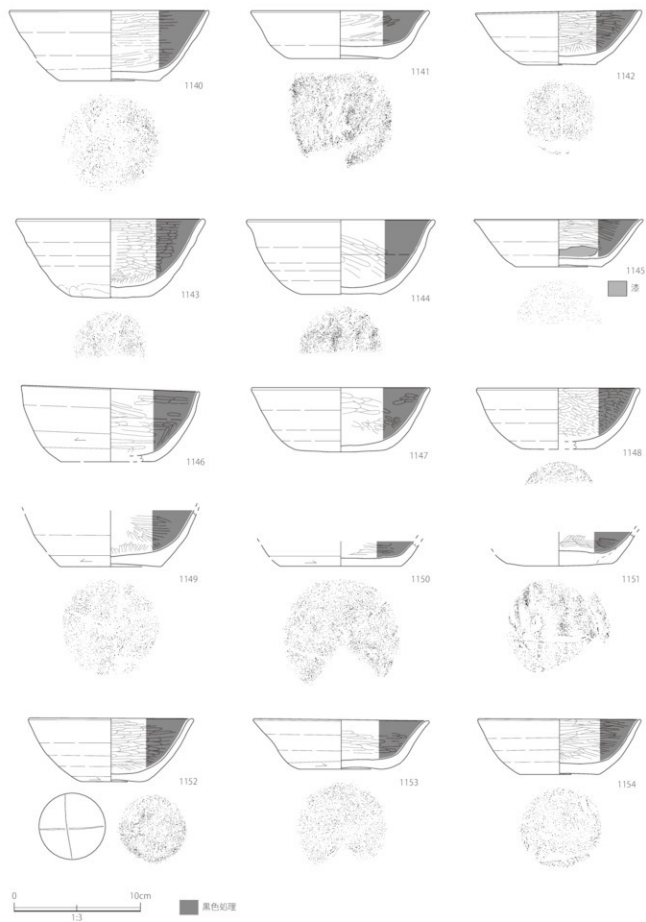
第 307 図 河川 5G3801 出土の須恵器 (9)



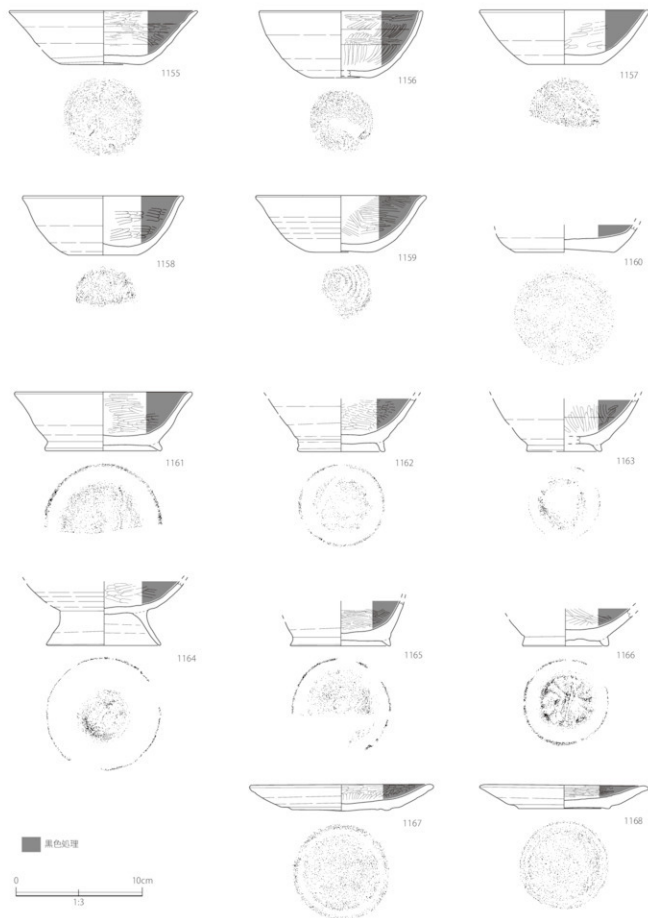
第308図 河川SG3801出土の須恵器(10)



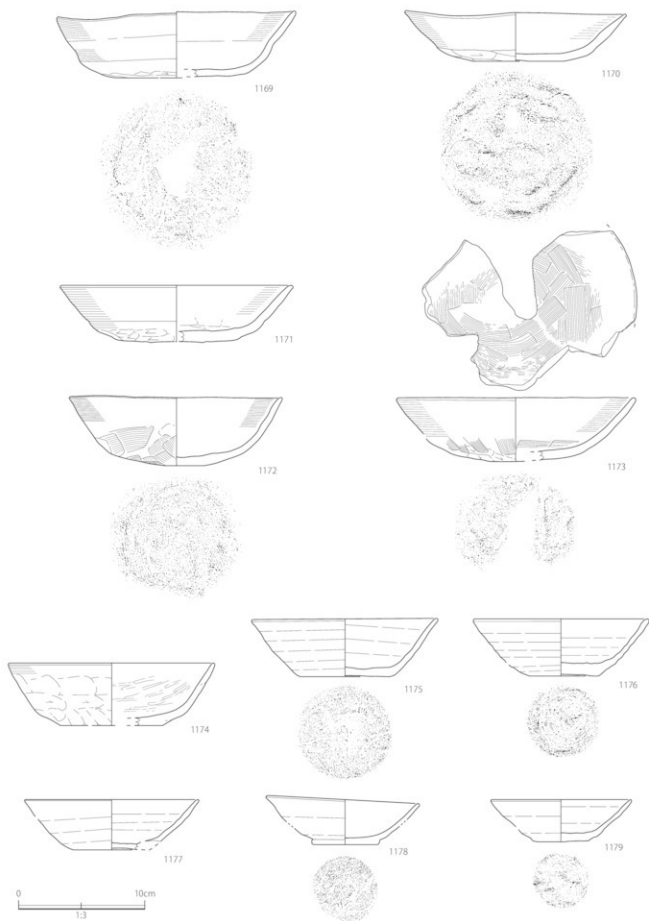
第 309 図 河川 SG3801 出土の黒色土器 (1)



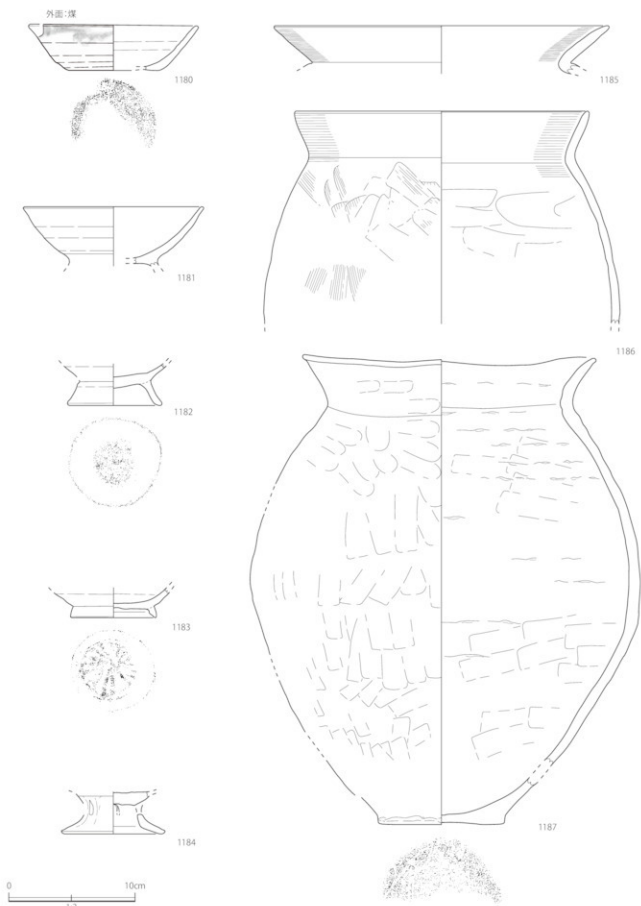
第 310 図 河川 SG3801 出土の黒色土器 (2)



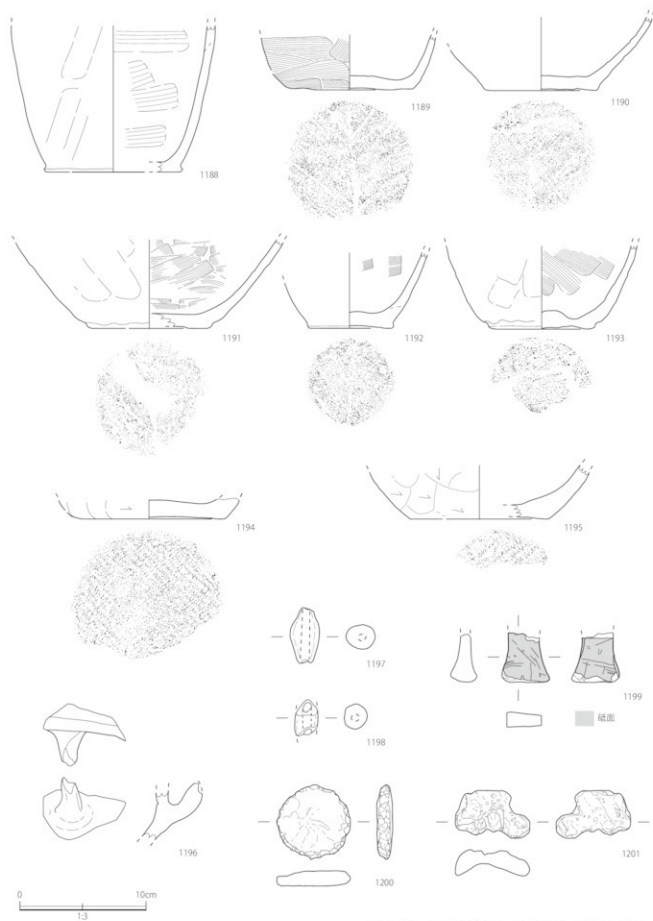
第 311 図 河川SG3801 出土の黒色土器 (3)



第312図 河川SG3801出土の土師器(1)



第 313 図 河川 SG3801 出土の土師器 (2)

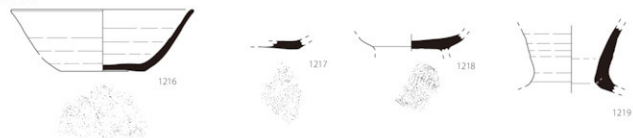


第 314 図 河川 SG3801 出土の土師器・土製品・石製品



第 315 図 窪地 SG5816 出土の須恵器・陶磁器・木製品・石製品・青銅製品

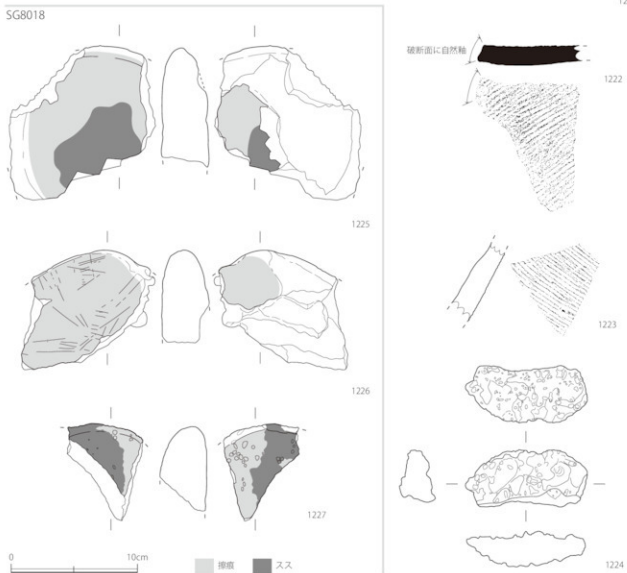
SG7006



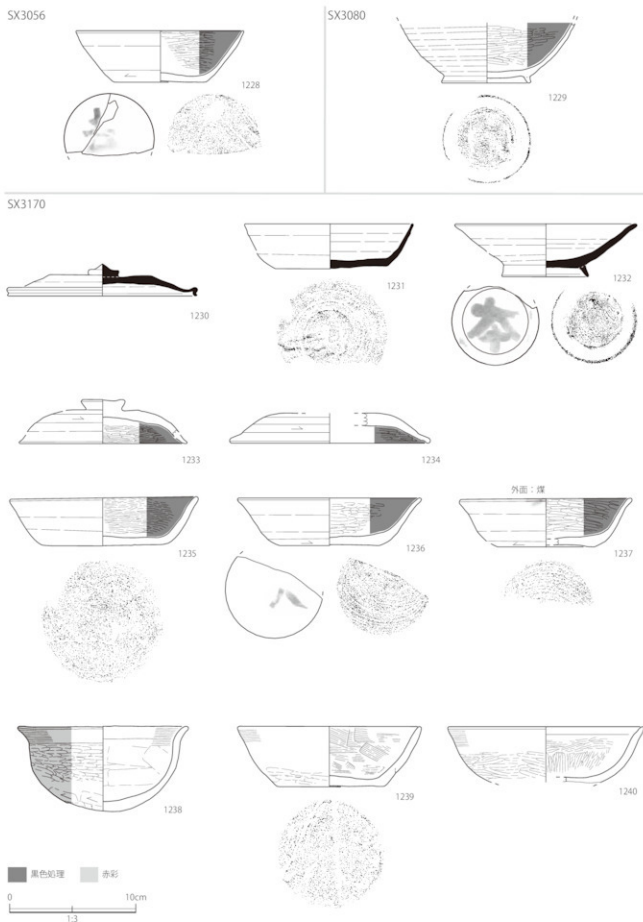
SG8001



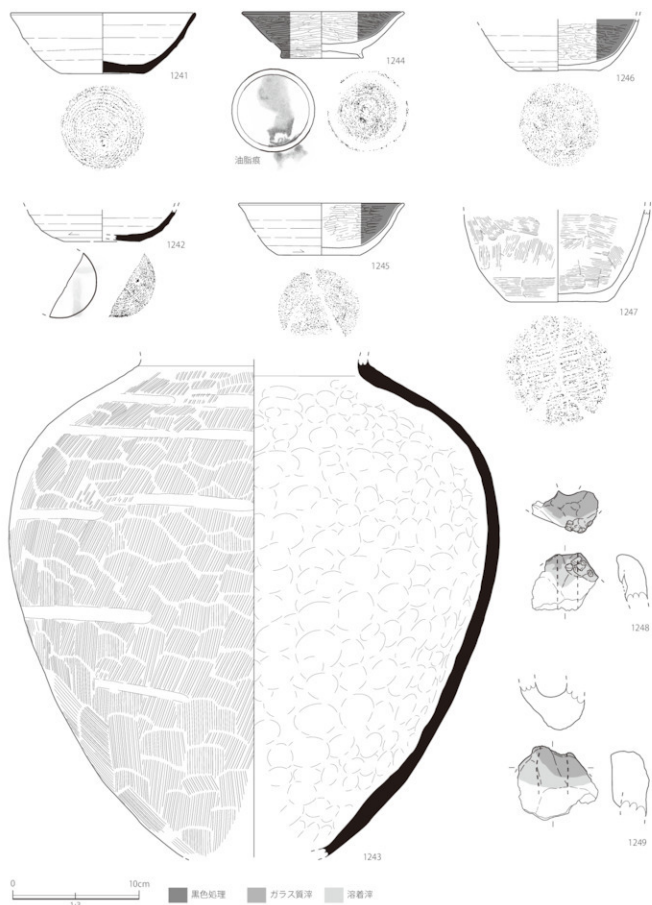
SG8018



第 316 図 窪地 SG7006, 河川 SG8001, 小流路 SG8018 出土の須恵器・土師器・陶器・石器・鉄滓

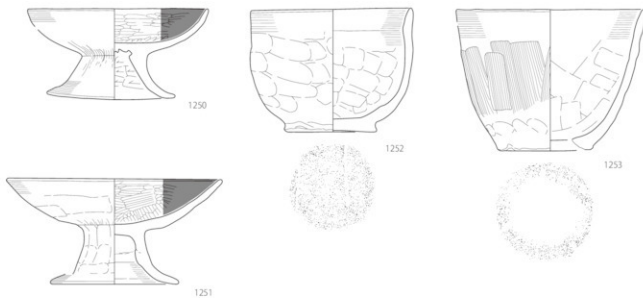


第 317 図 性格不明遺構 SX3056・3080・3170 出土の須恵器・黒色土器・土師器

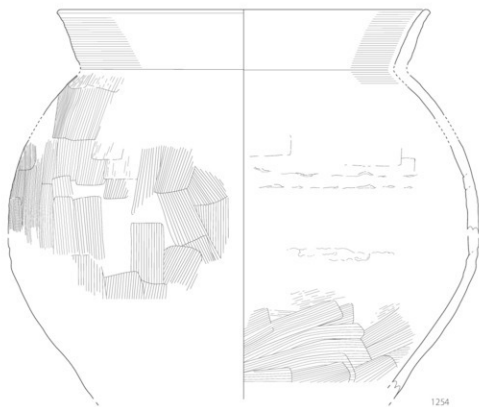


第 318 図 性格不明遺構 SX3181 出土の須恵器・黒色土器・土師器・土製品

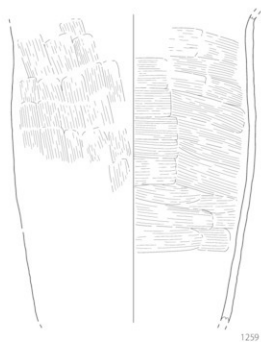
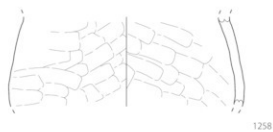
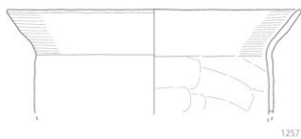
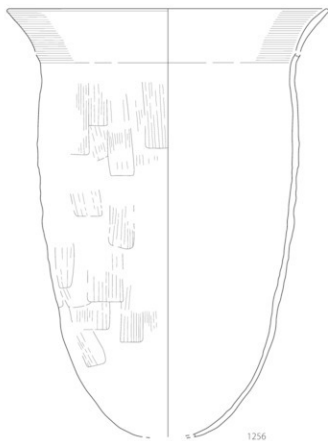
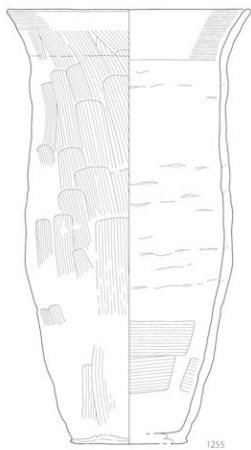
SX3756



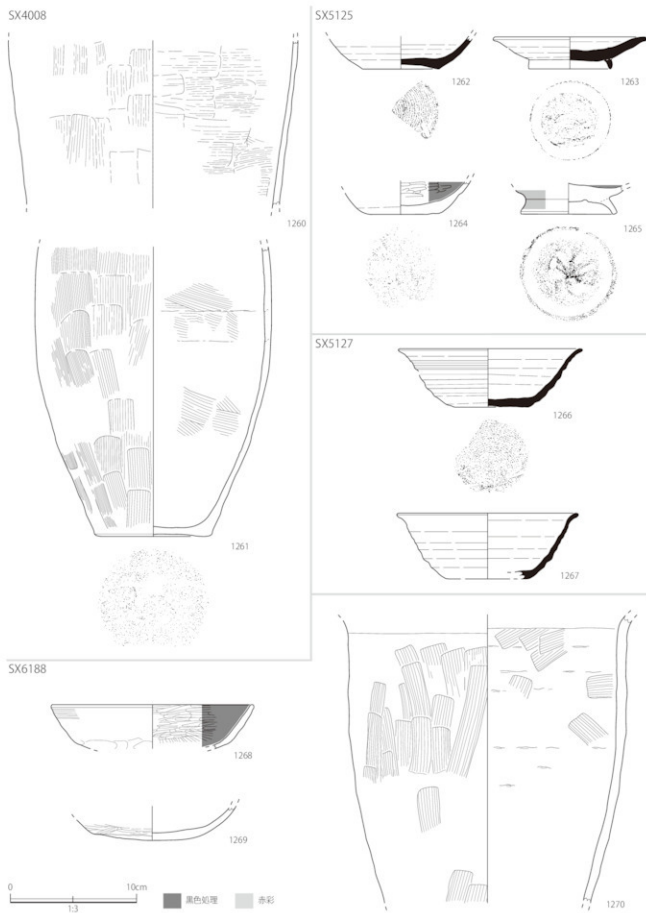
SX4002



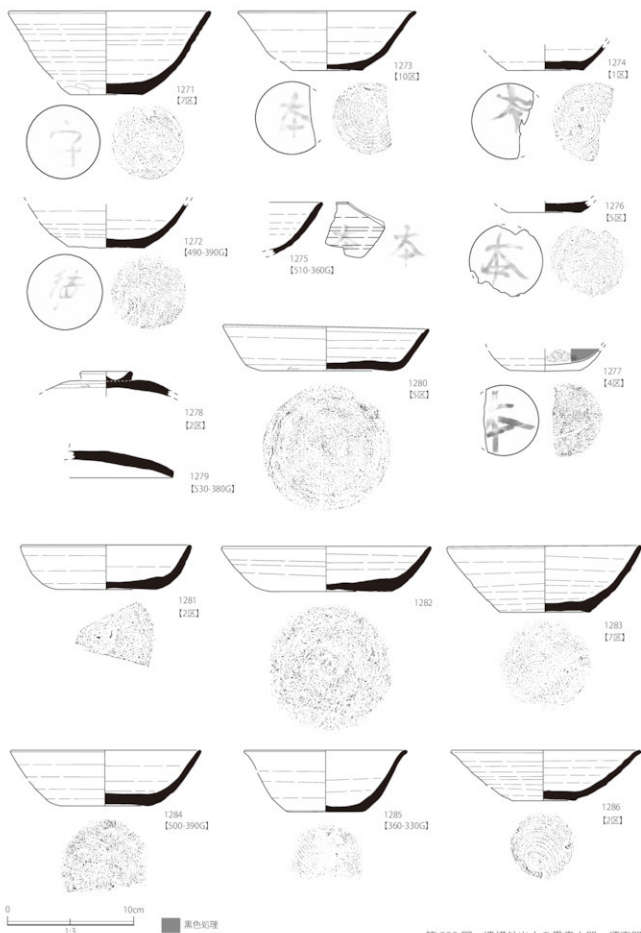
第 319 図 性格不明遺構 SX3756・4002 出土の黒色土器・土師器



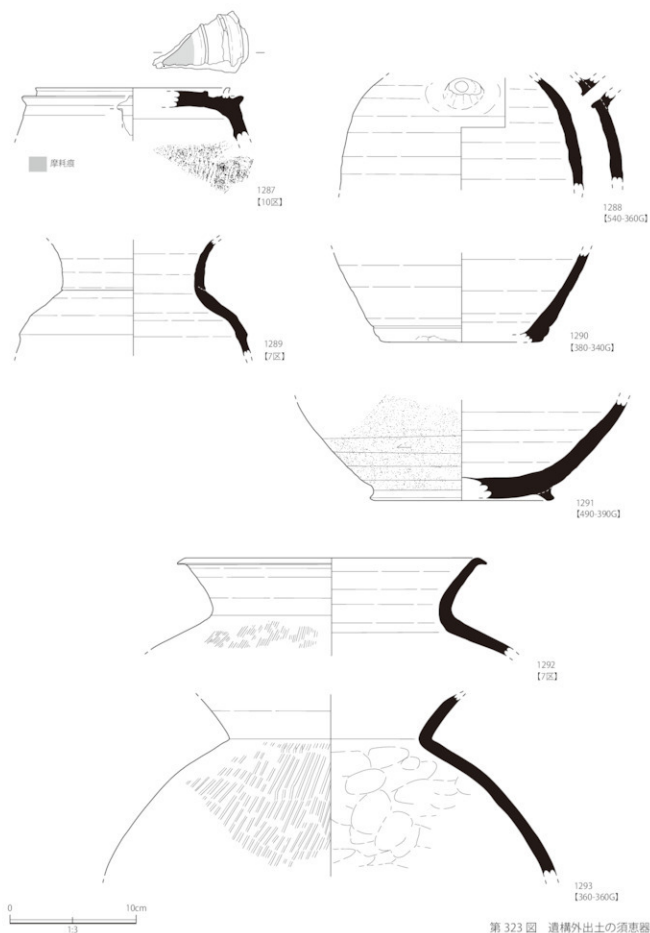
第 320 図 性格不明遺構 SX4008 出土の土師器

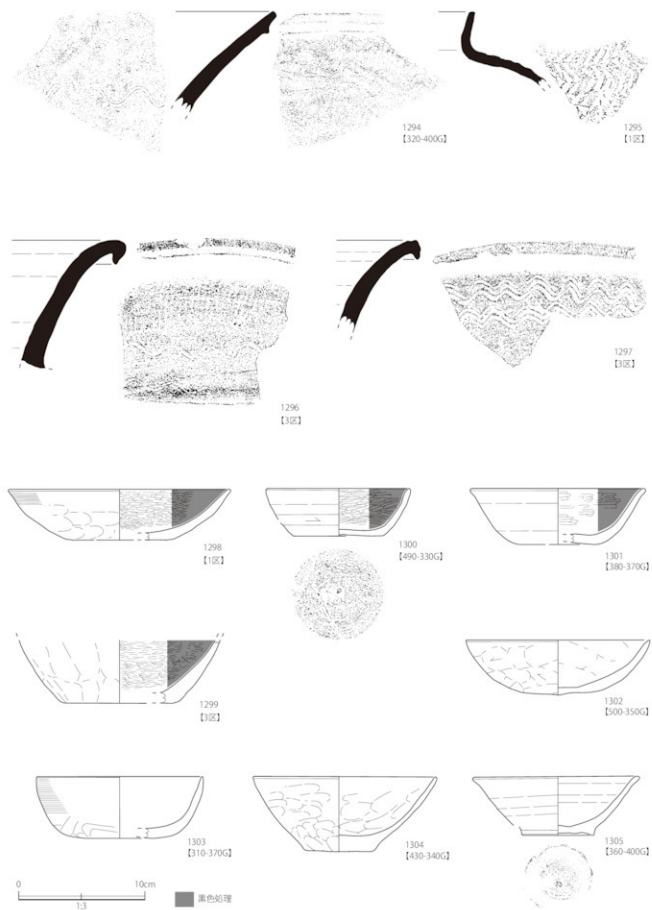


第 321 図 性格不明遺構 SX4008・5125・5127・6188 出土の須恵器・黒色土器・土師器

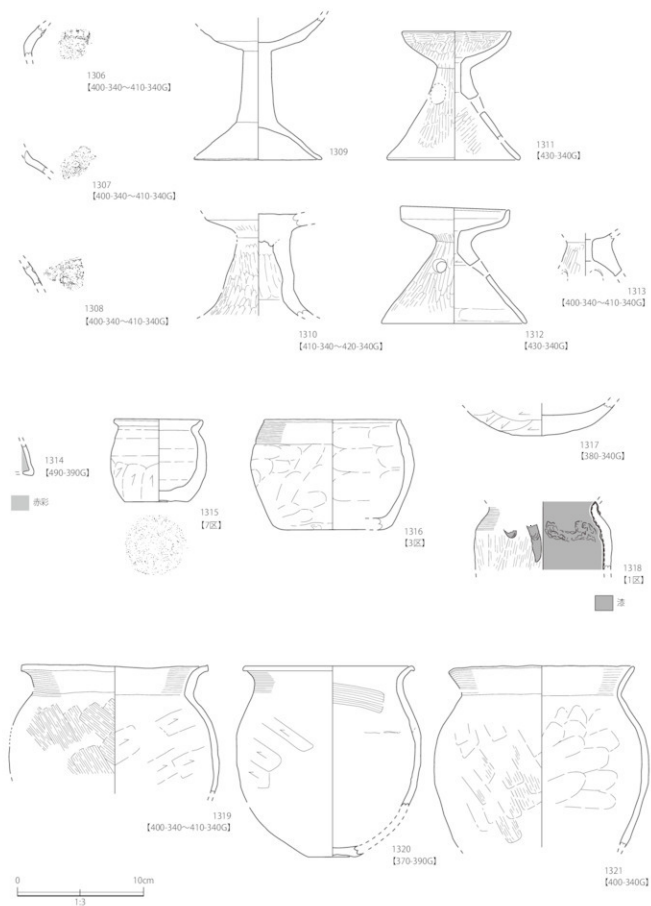


第 322 図 遺構外出土の墨書土器・須恵器

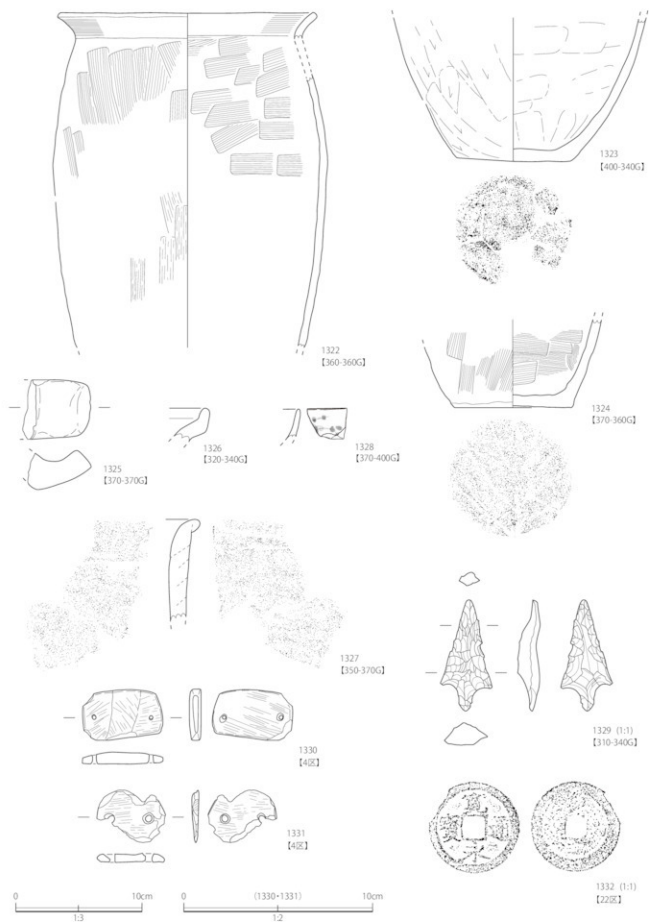




第 324 図 遺構外出土の須恵器・黒色土器・土師器



第 325 図 遺構外出土の土師器



第 326 図 遺構外出土の土師器・土師質土器・陶磁器・石器・石製模造品・銭貨

報告書抄録

ふりがな	はせがみいせきだい2～4・6じはくつちょうさほうこくしょ							
書名	馳上遺跡第2～4・6次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第225集							
編者名	草野潤平 五十嵐萌							
編集機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3246 山形県上市市中山字壁屋敷5608番地 TEL 023-672-5301							
発行年月日	2017年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因	
はせがみいせき 馳上遺跡	山形県 米沢市 大字川井子 元立・道下	6202	560	37° 55' 21"	140° 8' 7"	第2次調査 20090512 }	11,750	東北中央 自動車道 (米沢～米 沢北間) 改築事業
						20091120 }		
						第3次調査 20100514 }	8,800	
						20101130 }		
						第4次調査 20120530 }	2,150	
						20121116 }		
第6次調査 20131010 }	500							
20131129 }								
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
はせがみいせき 馳上遺跡	古墳時代	河川		土師器 黒色土器 須恵器 石製模造品(有孔門板)	官衙機能の一翼を担う 集落遺跡。河川沿いに 広がる古代の竪穴建物 53棟と掘立柱建物12 棟を検出。古い竪穴建 物から関東系を含む異 系統の要素をもつ土師 器、河川を中心に多様 な黒書土器や、定型硯、 砥石転用の私印が出土。 (文化財認定箱数:171)			
		竪穴建物 掘立柱建物	53 12	土師器 黒色土器 須恵器 黒書土器 刻書土器				
	奈良時代 平安時代	焼土遺構 土坑 溝 河川	3	円面硯 風字硯 転用硯 土製品(紡錘車・輪沓口) 石製品(砥石・石印)				
		中世	土坑 溝	土師質土器 陶器 銭貨				
要 約	<p>馳上遺跡は、古墳時代から中世・近世にわたり断続的に営まれた拠点的な集落遺跡である。今回の調査で確認された遺構は、河川沿いに広がる8～9世紀の竪穴建物・掘立柱建物が中心で、古墳時代と中世・近世の遺構・遺物はわずかに認められる程度である。8世紀初頭～前半の竪穴建物出土土器のなかには、関東系を含む異系統の要素が見られる土師器があり、また河川を中心に多様な黒書・刻書土器や仏教関係遺物などが出土した。さらに一般集落では見られない定型硯なども見つかり、公的性格をもった遺跡と考えられるが、竪穴建物群と掘立柱建物群が未分離で計画的な建物配置も見出しがたく、「郷飲酒礼」遂行の責を負う「郷家」、あるいは郡衙などの運営に必要な物資調達・管理の補完といった官衙機能の一翼を担う民間施設の置かれた可能性が想定される。</p>							

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第225集

馳上遺跡第2～4・6次発掘調査報告書

第一分冊 本文編

2017年3月31日発行

発行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246 山形県上山市中山字聖屋敷5608番地
電話 023-672-5301

印刷 株式会社 アサヒマーケティング
〒990-2251 山形県山形市立谷川二丁目486-14
電話 023-686-4331